みづし（名）　御厨子、鰹人の用具にして箸匙筒などを置く棚。

みづし（名）　御厨子、雑、かみだん。

みづし（名）　下婢、下女、はしため、いやしきをんな、みづしめ。

みづしどころ（名）　御厨子所、古昔禁中にて臚器、典籍などをさめられたるところ。

みづしどころ（名）　水仕所、禁中にて供御のものを調ふるところ、又貴人の家の雑所。

みつしよ　密書、ひそかなるかきつけ。

みつしつ　密室、手がたく造りて隙なき家。

みつしやう　密商、かくしあきなひ。

みつじゆ　密樹、こもりぎ、繁樹、しげき。

みつしゆにふ　密輸入、かくしにあげ、ばはん。

みつしゆりやうぶ　密宗用部、金剛界、胎蔵界をいふ。

みつしゆしゆつ　密輸出、かくしにづみ、かくしつみだし。

みづしめ（名）　水仕女、下女、下婢、厨女、雑妾、かしぎめ、めしたきをんな、おさん、おなべ。

みつしも（名）　破水、さんのとあひ。

みつじん（名）　密人、みいち、木乃伊（みいち）を見よ。

みづひき（名）　水引、進物等を縛る飾紐、進物に水引をかくるは水を以てきよめて贈るを表するものなりといふ。

みづひき（名）　鰻、まく、たれぬの、水引とも書く、劇場の無双などに張りたる幕をいふなり、紅白の水引をわたすなどいふ。

みづひきぐさ（名）　金線草、蔓老根植物。

みつひし（名）　密菓子、たうぐし。

みづびん（名）　水瓶、みづつぎびん。

みつもり（名）　概算、胸算、心算、目算、むなづもり、めんやう。

みづもり（名）　水積、水平、水準、水をもりて高下など、みづしめ。

みつもりくわ（名）　密業花、みつまた、水錦花植物。

みつもの（名）　水物、果物類をいふ。

みつせがは　三瀬川、三途川をいふ。

みつせつ〔する〕　密接、ひたとつづく、つらなる。密詔（密勅に同じ）、ひそかなるみことのり。

みづせき（名）　水堰、水堤（流水を留むる場）。

みづせめ（名）　水責、昔時の拷問法にて水を以て責むること。

みづすぢ（名）　水筋、水脈、みづのながるるすぢ、景脈。

みづすまし（名）　豉蟲、まひまひむし、子母蟲動物。

みね（名）　峯、岑、嶺、いただき（山の）。

みね（名）　背（刀の背を云ふ）、むね。

みねやまきち　峰山町丹後國中郡の町名、美濃郡長門國の郡の名）。

みねごほり　蜻、河貝子、にな、蝸蠃（動物）。

みな（副）　皆、食、咸、擧、盡、のこらず、すべて、ことごとく、凡一切、衆、諸、悉、悉皆。

みなふ（他）　見直、再閲、復看、再覧、ふたたび改視、みあらためる、よくみとる。

みなぶ（形）　未納、をさめぶそく、未進（租税の）。

みなごろし（名）　鏖、鏖殺、そうごろし、のこらずころすこと。

みなこもち（名）　皆子餅、婚儀に用ふる餅にて愛敬餅ともいふ。

みなすちやう　灘町、東京市芝区の町。

みなさがは　灘川、摂津の丹生谷より出づる川、また安房の平久里川の一称。

みなさがはじんじや　灘川神社、摂津國の神戸市に在る有名の別格官幣大社。

みなさまち　灘町、常陸國那珂郡及び上総國君津郡の町名、また大阪市西区に在る區。

みなり（俗）（名）　身衣、装束、きもの、著たる。

みなわ（名）　水泡、みづのあわ。

みなかから〔副〕　一切、すべて、のこらず。

みなかみ（名）　水上、水源をいふ、みづかみ、かはかみ。

みながす（他）　見流、みすておく、ころにとめぬ。

みながれる（自）　見慣、つねづねみる。

みながれざを（名）　水鼠棹、ふねこぎさを。

みなそこ（名）　水底、みづそこ。

みなづき　水無月（太陰暦六月の異名）。

みならふ（他）　見習、みてまねゆる、十又みまねする。

みなむすび（名）　蛸結（器物の紐のむすび形）。

みなのがは　美濃濃川（常陸國の川）。

みなくち（名）　水口、みづぐち、十また地名（近江國に在る有名の地）。

みなまた（名）　水派、えだながれ、枝流、わかれ。

みなげ（名）　投身、入水（溺死などに身を沈むること）。

みなぶ（形）　未納、をさめぶそく、未進（租税の）。

みなごろし（名）　鏖、鏖殺、そうごろし、のこらずころすこと。

みなこもち（名）　皆子餅、婚儀に用ふる餅にて愛敬餅ともいふ。

みなぎは　水際、みづぎは、みぎは、汀、汀際。

みなぎる（自）　漲、漫、暴漲、はげしくながるる流水がさかまく。

みなみ（名）　南、うまのかた、離。

みなみかぜ　南風、飢風、炎風、みなみよりふきくるかぜ。

みなみな（副）　皆皆、もろもろ、もろともに。

みなみなべちやう　南鍋町、東京市京橋區の町。

みなみのせきまち　南関町、肥後國玉名郡の町名。

みなみまち　美旗町、常陸國新治郡の町名、皇族方等の名を後世に傳ふる為めに設くる記念物。

みなしがひ（名）　雛心蠣（貝の名）動物。

みなしご（名）　孤、孤兒（幼けなくして父母なきもの）。

みなしごぐさ（名）　白薇（植物）。

みなもと（名）　源、泉源、みづのもと、十本源、根本、もと、もとり。

みなもせ　源蘇峻、清和、村上、字多四帝の後胤に屬するものの姓。

みなもとさう（名）　白薇の一種、やしやぜんまい（植物）。

みなせ　水無瀬氏。

みなす（他）　見做、みとる、なぞらへる。

みらい（形名）　未来、のち、このののち、將来、このののち。

みらいき（形名）　未来記、讖書、讖文（將来のことを記せる文）。

みらいえうごふ（副）　未来永劫、永久に。

みむろ（名）　御室、やしろ、はとら。

みむろど　三室戸（氏）。

みむね　三統氏。

みむらさき（名）　紫珠、やぶむらさき、むらさきしきぶ（植物）。

みむく（自）　見向、ふりむく、かはむける、かへりみる。

みうち（名）　周身、渾身、全身、からだぢう。

みうち（名）　親内、親類、親縁、みよりのもの、しんるゐ。

みうら　三浦氏。

みうらごほり　三浦郡、相模國の郡の名）。

みうらまやみなさ　三厩湊（陸奥國宇飛郡の邊に在る湊）。

みうらごほり　美馬郡（阿波國の郡の名、みまことも）。

みうけ（名）　頭身、みをあがふこと（媒妁などの）。

みうごき（名）　身動、からだうごき。

みうみうぜみ（名）　蜘蛛（動物）。

みの（名）　養、あまぎ（雨衣）。

みの（名）　美濃、東海道の國名）。

みのはぐさ（名）　羅范、あまぎやう（植物）。

みのり（名）　資、登、熟、みのいること、蕃殖などが、結實。

みのり（名）　御法、佛道、はとけのをしへ。

みのわ（名）　笠輪（氏、また上野國の地名、高崎を距ること三里許にある地、有名の薬師如来寺は此なる東明寺村に在り）。

みのむら　三野村氏。

みのむし（名）　木蠟、避債蟲、結草蟲、養蠶（動物）。

みのうへ　身上、身体、わがみのありさま、境遇、身持。

みのけよだつ　身毛竪、ぞくぞくする、ぞっとする、みぶるひする。

みのぶざん　身延山（甲斐國南巨摩郡に在る山）。

みのごほり　美濃郡（播磨國の郡の名）。

みのごほり　美濃郡（石見國の郡の名）。

みのこす（他）　見殘、みをとす。

みのさぎ（名）　毛鷺、けのながきさぎ（動物）。

みのしろごろも（名）　養代衣、みのかはりのころも。

みのひき（名）　長尾雞、をひきどり（尾の長き雞）（動物）。

みのすげ（名）　蓑衣草（植物）。

みくに（名）　皇國、大日本帝國、わがくに。

みくにたうげ　三國峠（上野越後信濃三國に跨る

高山。

みくにまち　三國町　越前國坂井郡の町名。

みくり（名）　黒三稜、刺三稜、うきやがら（植物）。

みくりや　御厨氏。

みぐるしき（形）　見苦敷、みにくき、醜、みるにたえしき、十環鋏、みだらなる、未完、いまだまったからぬ、未全。

みくわん（形）

みくだりはん（名）　三行半、きりじやう、離縁狀、離書、離婚書。

みくだしぶみ　御下文、御教書に同じ。

みくづ（名）　水屑、もくづ。

みくづしじま（名）　三崩縞（織物の縞柄の名）。

みくらちやう　美倉町、東京市神田區の町。

みくさ（名）　水草、うきくさ、みづくさ（植物）。

みくさのかんだから　三種神器（八坂瓊の曲玉、八咫鏡、草薙の寶劍の三品をいふ）。

みくじ（名）　御鬮、神籤、靈籤、うらなひするくじ。

みぐし　御髪、おぐし（婦人の語）、かみ。

みくしげどの（名）　御匣殿　天子の御装束を掛け賜ふ所。

みくしあげ　御櫛上、かみあげ。

みくしびる（俗）（他）　寢戯、なみする、みくだす、いやしめる。

みくも　三雲氏。

みや（名）　宮、かみのいへ、十又みかどのいへ、宮殿十また皇族の稱。

みや　宮尾張國愛知郡の地名。

みやうみやうとにち（名副）　明明後日、やのあさつて、翌翌日の翌日。

みやうじ（名）　名氏、うじな、苗字。

みやうじよ　冥助、てんのたすけ。

みやうじり（名）　命終、いのちのをはり、臨終、終焉、いまは。

みやうじやう（名）　明星、金星、ゆふづつ（宵に出づる長庚といひ曉に現るるを啓明といふ）。

みやうしやうてんわう　明正天皇　人皇第百九代の帝、紀元二千二百九十年（西洋紀元一千六百三十年）より二千三百〇三年に至る、在位十四年御譲七十四歳。

みやうしゆん　明春、あけのはる、来春、つぎのはる。

みやうじん　明神　神の名號。

みやうじんたき　明神湯（美濃國郡上郡に在る湯の名）。

みやうもく（名）　名目、とな〳〵な。

みやうもん（名）　名聞、ほまれ、名譽。

みやうせき（名）　名跡、あと（死者の家名をいふ、名跡斷絶相續などいふ、いへな、なまへ）。

みやうせき（名副）　明夕、あすのばん、明晩。

みやうせんじやう　名殘自性（名は自己の性質を顯はすとの意なり）。

みやのはらまち　宮原町（肥後國八代郡の町名）。

みやのめ（名）　巫、みこ、かんなぎ。

みやのした　宮下　相模國足柄下郡に在る温泉。

みやく（名）　脈、脈管中の血管。

みやくはく（名）　脈搏、みやくのうちかたの實に手に於ける動脈の鼓動をいふ。

みやくどころ　脈處、寸口（脈の打つ處）。

みやくをみる　診脈、候脈、やまひをみる、診斷、診察、醫師が、さつて、翌翌日の翌日。

みやくらく（名）　脈絡、みやくのすぢ、ものかよふみち、十又すぢだて文章の。

みやくくわん（名）　脈管、みやくのかよひみち。

みやま　深山、ふかきやま、おくやま。

みやまさべら（名）　山豆根、くさのな（植物）。

みやまぬなは（名）　杜衡、土葵、土細辛、つはぶき、馬蹄香（植物）。

みやまがらす（名）　深山鴉、白嘴鴉（動物）。

みやまうど（名）　土當歸（植物）。

みやまあちさゐ（名）　藍菜花、鴨脚草（植物）。

みやまさるを（名）　菌芋、かうのはな（植物）。

みやまし（名）　深山柴（植物）。

みやまますみれ（名）　址頭菜（植物）。

みやけ　屯倉、氏。

みやけ（名）　右其、おくりもの、儀物、しんもつ、それもの、贈物、外出さきより携へかへるものなどを然か呼ぶ、俗に土産と書く。

みやけじま　三宅島（伊豆七島の一つ）。

みやげもの（名）　儀物、贈物、おくりもの、つかひもの、人賄（みやげを見よ）。

みやこ（名）　京、都、洛陽、帝都、都會、大都、皷鼓の下（はなのみやこ、きやうと。

みやこ　宮古　陸中國下閉伊郡に在る町、宮古川の口にあり。

みやこどり（名）　都鳥（ちどりの類）（動物）。

みやこどころ（名）　百脈根、えぼしぐさ（莖長さ尺許山地に叢生し莖頭に金黄蝶形の七八花を攅蔟し後莢莢を結ぶ畜食に供すべし、こがねばな（植物）。

みやこふじ　都富士（比叡山を然かいふ。

（圖の根脈百）

みやことこほり　京都郡　豐前國の郡の名。

みやざき　宮崎氏。

みやざきまち　宮崎　紀伊國有田郡に在る鄉。

みやざきまち　宮崎町　日向國宮崎郡の町名、神武天皇の都したまひし地。

みやざきけんちやう　宮崎縣廳　日向國宮崎郡宮崎町に設置す。

みやざきごほり　宮崎郡（日向國の郡の名）。

みやざき（名）　宮材　宮殿を造る材木。

みやざき　宮城氏。

みやざきの　宮城野　陸前國宮城郡に在り、昔し一面に野原なりし故にいふ。

みやざけんちやう　宮城縣廳（陸前國仙臺市に設置す。

みやざごほり（名）　宮城郡　陸前國の郡の名。

みやざめぐり（名）　宮巡　諸國の神社を廻り拜するをいふ。

みやしろ（名）　神社、ほこら、祠宇、かみのみや。

みやしたちやう　宮下町　東京市小石川區及び麻布區の町。

みやじま　宮島氏。

みやしげだいこん　宮重大根（尾張より出づる有

みやる（名）　宮居、かみのみやしろ、神廟、神祠。

みやるごろ（名）　鄽時、まつりば、鄽廛。

みやるし（名）　宮主、みやつかさ、かんぬし。

みやるし（他）　見遣、ながめやる、ながめわたす。

みやるがたにまち　若狹谷町（東京市小石川區小日向の町）。

みやうがう（名）　名號、なとな〳〵。

みやうがし（名）　若狹兒　若狹兒、つめがひ（其體を下に垂るる貝）（動物）。

[圖の若狹兒]

みやうだい（名）　名代、かはりのひと、かはり。

みやうたん（名副）　明旦、あした、あくるあさ。

みやうつし（名）　遷宮、せんぐう（神を新宮に遷すこと。

みやねがちやう　宮永町（東京市本郷區根津の町）。

みやむらちやう　宮村町（東京市麻布區の町）。

みやう　見證、みるさま、みざま。

みやうばつ（名）　冥罰　神明の貴罰、天罰。

みやうばん（名副）　明晩、あすのよ、あすのばん。

みやうにち（名副）　明日、あすのひ、来日、来辰、翌日、翌辰、ふつか、三日、四日、五日、六日、七日、八日、九日、十日、十一日、十二日、十三日、十四日、十五日、十六日、十七日、十八日、十九日、二十日、二十一日、二十二日、二十三日、二十四日、二十五日、二十六日、二十七日、二十八日、二十九日、三十日、三十一日、晦日、みそか。

みやうねん（名詞）　明年、あけのとし、あくるとし、来年。

みやうくわん（名）　冥官　地獄の裁官をいふ。

みやうげつ（名副）　明月　来月に同じ。

みやうけん（名）　冥顯、かくれたるあらはなる、幽明。

みやうぶ（名）　命婦（禁中婦人の官名、また〳〵いふとも讀む。

みやうごにち（名詞）　明後日、再翌日、あさつて。

みやうてう　明朝、あすのあさ、あくるあさ。

みやうりう（名）　名西郡（阿波國の郡の名）。

みやうりよ　冥慮　神佛の意。

みやうりわう　明王　佛教の神の號。

みやうがたにまち　若狹谷町（東京市小石川區小日向の町）。

みやうがう（名）　冥加（天の助けをいふ、天賜。

みやうが（名）　若狹（若は普みやうなれども、此語はめかの他なればめうがを正しとす、俗に若狹と書けども正しくは蘘荷と書くべきなり、めうがを見よ）（植物）。

みやうがたにまち　若狹谷町（東京市小石川區小日向の町）。

みやうがう（名）　名號、なとな〳〵。

みやうがし（名）　若狹兒　若狹兒、つめがひ（其體を下に垂るる貝）（動物）。

みやうだい（名）　名代、かはりのひと、かはり。

みやうたん（名副）　明旦、あした、あくるあさ。

みやうつし（名）　遷宮、せんぐう（神を新宮に遷すこと。

みやねがちやう　宮永町（東京市本郷區根津の町）。

みやむらちやう　宮村町（東京市麻布區の町）。

みやう　見證、みるさま、みざま。

みやうばつ（名）　冥罰　神明の貴罰、天罰。

みやうばん（名副）　明晩、あすのよ、あすのばん。

みやうにち（名副）　明日、あすのひ、来日、来辰、翌日、翌辰、ふつか、三日、四日、五日、六日、七日、八日、九日、十日、十一日、十二日、十三日、十四日、十五日、十六日、十七日、十八日、十九日、二十日、二十一日、二十二日、二十三日、二十四日、二十五日、二十六日、二十七日、二十八日、二十九日、三十日、三十一日、晦日、みそか。

みやうねん（名詞）　明年、あけのとし、あくるとし、来年。

みやうくわん（名）　冥官　地獄の裁官をいふ。

みやうばつ（名副）　明月　来月に同じ。

みやうけん（名）　冥顯、かくれたるあらはなる、幽明。

みやうぶ（名）　命婦（禁中婦人の官名、また〳〵いふとも讀む。

みやうごにち（名詞）　明後日、再翌日、あさつて。

みやうてう　明朝、あすのあさ、あくるあさ。

みやうりう（名）　名西郡（阿波國の郡の名）。

みやうりよ　冥慮　神佛の意。

みやうりわう　明王　佛教の神の號。

みやうがう（名）　冥加（天の助けをいふ、天賜。

みやうが（名）　若狹（若は普みやうなれども、此語はめかの他なればめうがを正しとす、俗に若狹と書けども正しくは蘘荷と書くべきなり、めうがを見よ）（植物）。

みやうがたにまち　若狹谷町（東京市小石川區小日向の町）。

みやうがう（名）　名號、なとな〳〵。

みやうがし（名）　若狹兒　若狹兒、つめがひ（其體を下に垂るる貝）（動物）。

[圖の若狹兒]

みやうだい（名）　名代、かはりのひと、かはり。

みやうたん（名副）　明旦、あした、あくるあさ。

みやうつし（名）　遷宮、せんぐう（神を新宮に遷すこと。

みやうてう　明朝、あすのあさ、あくるあさ。

みやうりう（名）　名西郡（阿波國の郡の名）。

みやうりよ　冥慮　神佛の意。

みやうりわう　明王　佛教の神の號。

みやうりう　明治博士大學寮の屬官にて醫術を教明する官。

名の大根、世人これを尾張大根と呼ぶ。官置は其産する村の名なり。〔大裏記、植物〕。

みやび（名形）風流、雅致、風雅、風致、みやびやかなるおもむき、十みやびやかなる。

みやびさ（名）宮人ごてんびと。みやびごと。十みやこびと。

みやびを（名）雅男、風流士、あてやかなるひと、やさをとこ。

みやびやか（形）都閑、閑冶、閑雅、風雅、あてやかなるおもむきある、十ふうりうなる、いろにやさしき。

みやもぢちやう　宮本町、東京市神田區神田及び芝區芝の町。

みやもり（名）宮守、廟祝、はふり、かんぬし。

みやすどころ（名）御息所、東宮及び皇族の嬪妻をいふ。又柳子を生みまろちせたる女柳、また禁中の天皇の休息所。

みまはる（自）見回、巡察、巡見、みめぐる。

みまほしき（形）欲見、みたくまほる、みんとはつする。

みまかる（自）死、物故、逝、長逝、しぬる。

みまがふ（他）見紛、みちがへる、みたがふ。

みまかひ（名）園人、うまをかふひと、べつたう。

みまふ（自）見舞、伺候、とふ、たづぬる、訪問、訊問「十また甲、とむらふ。

みまごほり　美馬郡（阿波國の郡の名）。

みまさる（自）見勝、みばある（見ればみるほど善くなるをいふ）。

みまさか　美作山陽道の國名）。

みまき　御牧氏。

みまし（代名詞）汝、なんぢ、いまし。

みまし（形）見増、みまさる。

みまひかへす　回復、れいみまひする。

みまん　未滿、みたぬ、不足、たらぬ。

みけ（名）神食、御饌、そなへもの、御食（神へ獣や魚類を供する食物。

みけ（形名）三毛、駕、犬猫に云ふ語）。

みけのの　御饌殿、供御を置く所。

みけつ（形）未決、いまだきまらぬ事の有無などが。

みけつくに（名）御食國（にへを奉つる國。

みけねこ（名）三毛猫、三斑猫、琉球猫、みいろげのねこ（動物。

みけなす（他）翫覧、卑視、みてあしくいふ、いやしめみくさす。

みげうしよ（名）御教書（將軍家等より賜はる書状をいふ、くだしぶみ。

みけごほり　三池郡（筑後國の郡の名）。

みけし（名）御衣、衣の敬稱、みぞ。

みけん（名）眉間、まゆのあひだ、まゆのあひだ。

みぶ　壬生氏。

みぶち　三瀬氏。

みぶり（名）身振、身體、みのとりかた。

みぶりきやうげん（名）殺戮種種の猥褻すること、だんまりきやうげん。

みぶるひ（名）戰慄、をののき、振慄、栗戰、震慄、ぶるぶるふるひ。

みふれんげ（名）三數蓮花（植物。

みふねまち　御船町、肥後國上益城郡の町名。

みふねぶつ（名）壬生念佛（京都洛西にて三月十五日より廿四日まで執行する綫日。

みぶまち　壬生町、下野國下都賀郡の町名。

みぶん（名）身分、みのほど、族綫、みのくちゐ社會に占むる地位。

みこ　三腋、三綫、みすざあはせたるいと。

みこ（名）巫子、覡、かんなぎ、めかんなぎ、神子。

みこ（名）皇子、親王、わかみや。

みこ（名）三子、みつご。

みこごし（形名）見殺、みすみすころす（救助せざるに）、すてておきてしなしむること。

みこと　尊、命（上古の神或は帝王の尊號。

みこと（名）勅宣（天子のおことば）。

みこと（形）見事、美、美麗、壯麗、うつくしき、はでやか。

みことのり（名）詔、勅、勅令、詔勅、詔令、勅諚、聖勅、詔書、勅書、きみのおほせ、みかどのおほせ。

みこさもち（名）國司、くにのかみ、くにのつかさ。

みことがみ　御子神氏。

みことよせ（名）巫子寄、いちこよせ、くちよせ、憑鬼術。

みことなす（他）見込、みたてる。

みことむ（他）見破、みぬく、十達觀。

みとう（名）獼猴、さる（獼猴の雄名）動物。

みとうを（名）能登鳳山城嶽城の方言）、あかぎき（動物。

みどうしや（俗）（名）見功者（見巧者に同じ）、みがうしや。

みとのみや　春宮、はるのみや、東宮（皇太子を申す稱。

みどく（名）神祠供、饗筵、いけにへ、そなへもの。

みとみ（名）見込、かんがへ、十目的。

みこし（形）見越物の上より彼處の物を見るをいふ、十先見。

みこし（名）鳳輦、輦輿、ちんよ、神輿、御輿、玉輦、みくるま（天子の乘物。

みこしいし（名）見越石（月隈石の一名なり、蓋し庭園の後より見越すに取れるなり、庭造法にいふ）。

みこしのまつ（名）見越松（庭造法にて築山の後に植うるか又は道根の外に植うる松をいふ、又門内に植うる高き松の木をいふ）。

みこしぶり（名）御輿振（古昔山門強訴の時に日吉の神輿を大内に舁き入れしをいふ）。

みこひ（形）饑、白魚、うをのな（動物）。

みごもり（名）妊、みもち、妊娠、有身、みもも、こごもり。

みこす（他）見越、みすごす。

みてい（形）未定、まださだまらぬ、未決定。

みていかう　未定稿（まだ完全せざる草稿）。

みてぐら（名）御幣帛、幣帛、ぬさ、ごへい。

みてしろ（名）御手代、御名代、天子の代りに物事を務むること。

みあはせる（俗）（自）見合、やめる、のばす、中止する。

みあがりする（自）身上、たちあがる、のびあがる（經る時などに。

みあかし（名）御燈（神佛に捧げる燈。

みあらか（名）大殿、おほごてん、おはみや。

みあく（自）見倦、みあきがする、たくさんにていやになる。

みあやまる（他）謬見、誤認、みちがへる、とりちがふ。

みあげる（他）見上、仰視、瞻仰、あふぎみる、うへをみる。

みあげのいた　向上板、看上板（兜の名所）。

みあて（名）見當、めにをし、めあて、十望。

みあひ（名）見合、夫婦にならんとする男女が雙方にて擔め相見るを云ふ）。

みさい（俗）（形）　末濟、すみきらず、いまだすまぬ、未了。

みさい（形）微細、こまかき、十くはしき。

みさは（形）三澤氏。

みさを（名）水棹、ふれこぐさを。操、貞操、貞操、清操、ただしきこと貞に婦人にいふ。

みさか　三坂氏。

みさげる（他）輕蔑、輕視、蔑視、かろしめる、あなどる。

みさご（名）雎鳩、雌雄鳥、魚鷹（動物）。

みささき（名）山陵、御陵（天子の御墓）。

みささき（名）岬、海角、洲嘴、はな（洲に突き出でたる處。

みささき（名）汀、水邊、みづぎは、みぎは。

みささき（名）前駆、あさきばらひ、おさきども。

みささきちやう　三崎町、東京市下谷區谷中及び神田區の町。

みささきまち　三崎町、相模國三浦郡の町名。

みざめ（名）見冷且覚に從ひて次第に遐しく見ゆるもと。

みき（名形）右左に對す、みぎり、めて。

みきは（名）水際、水邊、渚、汀、みぎは。

みきはめる（他）見極、みぬく、十達觀。

みぎり（名）砌、階、いしだたみ又きざはし。

みぎり（名副）砌、をり、其節、そのをり。

みきる（俗）（他）見切、みはたす、ことごとくみる、十又みすてる。

みきのつかさ（名）御酒司（古への官名、さけのつかさ。

みきまち　三木町、播磨國美嚢郡の町名。

みきき　見聞、みるときくと、けんもん。

みゆき（名）大雪、深雪、もはゆき、ふかゆき。

みゆき（名）行幸、おでまし（天子の出御、十行啓（皇后皇子に用ふ）。

みめ（名）嬪帝王に侍する女御の類。

みめ（名）眉目、まゆめ、かほ、かほかたち。

みめい（名）未明、あかつき、あけがた、昧爽。

みめかたち（名）容顏、容色、かほかたち、すがた。

みめよき（形）美、妍、有容色、株所、うつくしき、うるはしき。

みめう（形）微妙、びめう、かすか、たへなる。

みめぐる（自）巡視、巡廻、巡見、巡覧、巡遊、みあるく、きはりみる。

みみ（名）耳、音聲等を聞く機關。

みみはらひ（名）耳掃、梢意子、稍意子、みみはちふはね、十みみかき。

みみざとき（形）耳聰、みみするどき、きくにはやき、十きびしく。

みみちく（俗）（副）　殷懃、こまかに、ことこまかに、十きびしく。

みみ（名）幹木の身、十ぼく。

みき（名）三木氏。

みき（名）造酒、さけのつかさ。

みき（名）神酒、御酒、そなへざけ、清酒（神にささげる酒。

みみわ(名)　耳環、耳圓耳に垂るる飾玉。
みみがね(名)　耳鐶、みみわ耳にかくる飾鐶。
みみがくもん　耳學問、きゝかくもん、あさきがくもん、耳食。
みみかき(名)　耳搔、刮耳、梢管子、笋子、笋耳子、稻穗子、みみはちひ。
みみかきびる(名)　土蔓植物。
みみだり(名)　聾耳、聆耳、みみだれ耳の病。
みみだれ(名)　聆耳耳より膿汁の出づる病。
みみだらひ(名)　耳盥、匜盥、みみあるたらひ。
みみだま(名)　耳環、耳壎、みみわ耳に垂るる珠。
みみたけ(名)　木耳、きくらげ植物。
みみたぶ(名)　耳朶、耳珠耳の下邊の軟かくして垂るる處。
みみたぴら(名)　耳珠、みみたぶ。
みみそぎ(他)　刑、みみきる支那古代の刑。
みみづか(名)　耳塚豊臣秀吉が征韓の役に敵の首級の代りに耳を截り取りて送らしめ實驗したる後ち其耳を埋めしめし塚、京都阿彌陀峯に在り。
みみづく(名)　木兎、つく〳〵づく、遠魂鳥、怪鴟、よたか、鵵鴟、角鴟、老鴟、猫頭鳥動物。

[木兎の圖]

みみつぶし(名)　馬勒、おにふすべ、牛蒡莢、ばばつこを見よ植物。
みみなり(名)　耳鳴、みみのなること。
みみなでさ(名)　聾耳、鼻耳、耳無草植物。
みみうち(名)　耳打、さゝやき、みみこすり。
みみの(名)　耳殼、みみたぶ。
みみのあか　耳垢、聹、みみくそ、耳糞、泥丸脂。
みみのあな　耳竅、耳門、耳孔。
みみくそ(名)　耳屎、耵聹、みみのあか。
みみこすり(名)　耳語、諷刺、あてこすり、それとなくそしること。
みみしひ(名)　聾、つんぼ、みみきこえぬひと。
みみずがき(名)　蚯蚓、蜿蜒、蠕蠕、歌女、曲蟮動物。
みみずがき(名)　蚯蚓書文字の書き樣の描きをいふ。
みじろぐ(自)　身退、みをのくる、しりぞく。
みじろぎ(名)　三代目、東京市日本橋區の町。
みじろぎ(名)　身動、みうごき身を動かすこと、狹くてみじろきもならぬなどいふ。
みしる(他)　見知、見識、識。
みじかよ　短夜、みじかきよる。
みじかうた(名)　短歌、うた通常三十一字の歌を長歌に對して然かいふ、みそひともじうた。
みじかやかに(副)　短、短簡、みじかく、つづめて。
みじかき(形)　短、なが、からぬ。
みしよく(名)　味食、あぢはひ、あぢ。
みしらず(形)　身支度、みのようじん、十又みごしらへ、十又みがまへ。
みしらず(形)　不知己、あのれをしらぬ、あときのかんがへなき。
みしらず(名)　貸生、みぼえ草木の實より生じたるいやしき生。
みしやう(形)　未生、まだうまれぬ。
みしやう(俗)(名)　身性、さが、うまれつき。
みしまおれこぜ(名)　三島縞魚、圓鎖魚動物。
みしまおまち　三島町伊豆國田方郡の町名。
みしまえ　三島江、攝津國に在りて和歌に名高し。
みしまびき(俗)(名)　身仕舞、みじたく、十扮粧、よそはひ、きかざり。
みしゆく　御宿氏。
みじゆく(形)　束縛、てなれぬ、よくできぬ、なまはんか。
みしめさう(名)　徐長卿、ふなばち、あしわひさう植物。
みしん(形)　未進、をさめのこり、怠納、殘額、年貢稅金などの。
みしんばり(名)　刺鍼針、きかいばり。
みしんおび(俗)(名)　遺欠人、官に納むべきものを納めをはらぬ人。
みえ(名)　外見、虚飾、かば、そとのみゆるところ、かざり。
みえい(名)　寫眞、えすがた。
みえいだう(名)　御影堂、たまや、ごはいだう、影殿。
みえいだう　御影堂西京五條の西に在り新善光寺と號す。
みえいく(名)　御影供、三月廿一日高野大師入定日の法會をいふ。
みえがくれ　見隱、みえたりかくれたり、しのびて。
みえかざり(名)　虚飾、おもてをかざること、外觀を粧ふこと。
みえすく(自)　見透、すきてみゆる、みえとほる、看破。
みびいき(名)　身贔屓、みをかばふこと、てほめ。

みびらく(他)　見開、めをあけるめをひらく。
みびらきやま　三開山(但馬國田方郡に在る山、郡に之を但馬富士と稱す。
みもざ(名)　身元、みがら、身分、地位、種姓、いへがら。
みもち(名)　身持、行狀、おこなひ。
みもち(形)　姓、姓、はちめる、有身、懷姓、懷孕、妊娠、腰胎、みだもる。
みもちわるき(形)　遊惰、放蕩、放埒、遊情、浮浪、遊治、懶惰、不品行、ふしだら、おこなひあしき。
みもちよき(形)　有善行、有德行、謹愼、篤實、ふるまひよき。
みもの(名)　見物、みごと、壯觀、みるべきもの。
みもすそがは　御笠灘河伊勢の五十鈴川をいふ、內宮北上に在り。
みもん(形)　未聞、いまだきかず、きゝもよばぬ。
みせ(名)　店、廛、肆、商店、ものうりへ。
みせばや(名)　馬齒莧、蔊菜天、たまのを植物。
みせばん(俗)(名)　見本、みはん。
みせかり(名)　見世貸、奉公人ならず別に居て勤にいづる「せきひこの類」。
みせかけ(名)　僞作、外見、假粧、みせかざり。
みせぐら(名)　店倉、店土藏、共に借字、くらづくりのみせ商家の店を真ちに土藏に作りたるものにて火災の豫防に供す。
みせあきうど(名)　舖商、みせうりあきびと、みせあきなひするひと。
みせしめ(名)　見懲、懲戒、懲役、警戒、警鋼、こらしめ、いましめ。
みせびらかす(他)　誇顯、みせちらす。
みせびらき(名)　開始、うりだし、開業。
みせものし(名)　觀物公衆に錢を取りて見するもの興行物。
みせん(名)　見物師、警物師。
みせん(形)　未然、おくさき。
みすぼらん　未淺記、しとげぬ事にいふ。
みすぼらしき(形)　貧賤、まづしげなる、びんぼうたらしき。
みすぢまち　三筋町東京市淺草區淺草の町。
みすかす(他)　看透、見透、みとほす。
みすまる(名)　御所古(首などにかけし玉飾のかざり)。
みすます　見澄、看得、みつめる。
みすごす(他)　見遁、みてすてゝおく、十みながらぎる、十あまりあはくみる。
みすてる(他)　見捨、遺棄、かぎる。
みすき(名)　插藥、よわたりわざ、なりはひ。
みすみさう(名)　猿耳細辛、ゆきわりさう植物。
みすみす(副)　看着、見在、着在、みながち、みるみる。
みすず(名)　篘竹、みすずだけ「信濃に皆し」植物。
みすずかる(信濃の枕詞「みすず」を見よ。
みんいう(形名)　民有、人民が所有あるいふ。
みんぼう(する)(自)　民亡、みだれほろぶる。
みんぼう(名)　民望、たみのぞみ民が目をつけて仰ぎ望むこと、人望。
みんばく(名)　民度、たみのいたみ、たみのなやみこちしめ、いましめ。
みんばふ(名)　民法、人民の權利義務を確定せる法律。
みんぺい(名)　民兵、民の中より急時に募れる兵。
みんりよく(名)　民力、人民の資力。
みんかん　民間、草莽、たみのなか、野朝廷に對していふ。
みんぞく(名)(する)(自)　民俗、たみのならはし。
みんらん(する)(自)　濫飢、ほろびみだる。
みんげふ　民業、たみのわざ、ひやくしやうわざ。
みんけん(名)　民權、たみのけんり。
みんぶしやう　民部省古の八省の一、庶の戶部に當る。
みんこう(名)　民口、たみのかず、人口。
みんてう　明朝支那の明國の朝廷。
みんさつ(する)(他)　警察、あはれみおしはかる、憐察。
みんめい　民命、たみのいのち。
みんめつ(する)(他)　滅亡、ほろぶる。
みんみんぜみ(名)　蟪蛄、みんみんとなくせみ動物。
みんじ　民事、人民の權理に關する訴訟。
みんじよ(名)　民庶、おほくのたみ、衆庶、そろもろ。
みんじやう　民情、たみのありさま。
みんじやう(名)　民床、ねどこ、ねだい。
みんじげんこくにん　民事原告人、民事上の原告人。
みんしふ　民習、たみのしきたり、たみのならはし。
みんじさいばんしよ　民事裁判所、民事訴訟をさばく裁判所。
みんじゆつ(する)(他)　警慎、あはれもいたはる。

みんしん　民心、たみのこころ、輿望。
みんぴ　民費、たみのつひえ。
みんもつ（する）（自）　濫設、はらぶる、はろびうせる。
みんせい（名）　民庶、民を治る政事。
みんせい（名）　民生、たみのなりはひ。
みんせき　民籍、たみのにんべつ。
みんせん　民選、人民が自ら選み出だすをいふ。

し

し（名）　史、しるしよみ、歴史（れきし）、記錄、十また官名、古の少官にして大史小史に分れ、専の大僧主簿に當る。
し（名）　子、こ、こども、十をとのこと、十又男子の美稱、十また五等爵の第四。
し（名）　師、先生、總て事を教ふる人。
し（名）　詩、かうした支那の録言。
し（名）　市、いち、いちまち（市町村制の發布せられてより國中の大なる町を凡て市と稱するに至れり、東京市、横濱市、名古屋市などいふが如し、市の下に位するものを町と名く）。
し（名）　糞、みそ、おきなひみそ、鮮、鮓。
し（名）、—する（自）　死、しぬること、しぬる。
し（名）　猜二十八宿の一にして西方に位す。
じ（名）　字、もじ（文字）、ことばのふてふ。

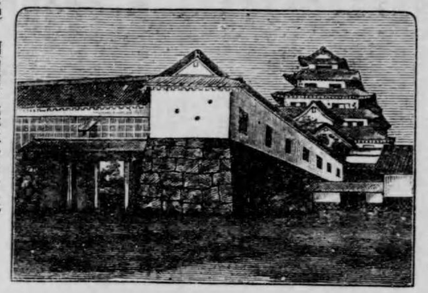
[圖の猜]

じ（名）　寺、てら、寺院、佛堂。
じ（名）　時、とき、時間。
じ（名形）　二、貳、ふたつ、此字を以て成り立つ熟語は多くこの下に出づ、故に彼此見合すべし。
じ（名）　辭、ことば、言辭、詞。
じ（する）（他）　辭、ことわる、いなむ、こばむ、固辭して受けずなど用ふ、十やめる、すてる、職を辭するなどいふ、十又さる、いでさる、國を辭するなど用ふ。
しい　私慝、わたくしごころ。
しい（名）　緇衣、くろごろも、僧尼のすみぞめのころも。
しい（名）　紫衣、むらさきのころも、僧服の第二等なるもの。
しい（する）（自）　徙倚、たちやすらふ、たちもとほる。
しい（する）（自）　徙移、うつる。
しい（名）　戸位、ろくぬすみ、其位にありて其職責を盡さざること。
しい　四維、艮巽（東北）、坤（西南）の四方隅をいふ。
しい（する）（自）　思惟、しゆゐ、おもんみる、もふ、思念。
しい（名）　雲蕨、のうぜんかづら、くまかづら、凌霄花、植物。
しい　毬頃、かはよろ、かはのふくろ。
しい（名）　侍醫、おそばいしや（天子の）、字典、じびき（字書をいふ）、字典。
しいろ（名）　鰓、うをのな（動物）。
しいか　詩歌、からうたやまとうた、しか、うた。
しいれ（名）　仕入、かひいれ、しこみ（物品の）仕入金、買入金、しこみのかね。
しいれもの（名）　仕入物、かひこみもの、しこみもの、客貨。
しいね（名）　糀、こぶ、醸、しこり。
しいう　市有、市といふ自治體の所有。
しいう（名）　詩友、詩を作るなかま。
しいう（する）（する）　雖有、ゆるす。
しいう（名）　死友、いたつてしたしきとも。
しいう（名）　私有、じぶんもち、おのれのもの。
じいう（名形）　事由、ことわけ。
じいう（名）　自由、おもひのままなること、自主自在、さまたげられぬ、かつてしだいできまま。
じいうぼうえき　自由貿易（無關稅を置くして自國の製産を賣すが如き事をせざる交易をいふ。
じいく（する）（他）　字有、やしなひそだてる。
じいぎやく（名）　叛逆、しぎやく（逆）を見よ。
じいし（名）　筵席、しんし、きぬばり（綿物屋にて衣を張る具。
しいじ（名）　四時、春夏秋冬の四季をいふ。
しいしば（名）　寥蓼、しもとしば（植物）。
しいしゆ（名）　旨趣、むね、おもむき。
しいする（他）　弒君父を弒するをいふ。
しいん（名）　私印、一私人の行使する印形。
しいん（する）（自）　賓陰、おかげ、たすけ（人の）。
しいん（名）　市尹、まちぶぎやう。
しおん（名）　四聲手聲、上聲、去聲、入聲の四聲をいふ。
じおん　次韻、他人の作れる詩の韻と同じ韻にて詩を作ること。

しいれきん　仕入金、買入金、しこみのかね。
しいれもの（名）　仕入物、かひこみもの、しこみもの、客貨。
しいね（名）　糀、こぶ、醸、しこり。
しいう　市有、市といふ自治體の所有。
しいう（名）　詩友、詩を作るなかま。
しいう（する）（する）　雖有、ゆるす。
しいう（名）　死友、いたつてしたしきとも。
しいう（名）　私有、じぶんもち、おのれのもの。
じいう（名形）　事由、ことわけ。
じいう（名）　自由、おもひのままなること、自主自在、さまたげられぬ、かつてしだいできまま。
じいうぼうえき　自由貿易（無關稅を置くして自國の製産を賣すが如き事をせざる交易をいふ。
じいく（する）（他）　字有、やしなひそだてる。
じいぎやく（名）　叛逆、しぎやく（逆）を見よ。
じいし（名）　筵席、しんし、きぬばり（綿物屋にて衣を張る具。
しいじ（名）　四時、春夏秋冬の四季をいふ。
しいしば（名）　寥蓼、しもとしば（植物）。
しいしゆ（名）　旨趣、むね、おもむき。
しいする（他）　弒君父を弒するをいふ。
しいん（名）　私印、一私人の行使する印形。
しいん（する）（自）　賓陰、おかげ、たすけ（人の）。
しおん（名）　市尹、まちぶぎやう。
しおん（名）　四聲手聲、上聲、去聲、入聲の四聲をいふ。
じおん　次韻、他人の作れる詩の韻と同じ韻にて詩を作ること。

じおん（名）　寺院、てら。
しろ（形）　白、素、五色の一、黒の對、縞。
しろ（名）　代、かはり、十あたひ、だい。
しろ（名）　仕臈、つかへるうちの主取、仕官。
しろ（名）　城、諸侯の居る堅固の處、此圖は會津若松城の寫眞を模寫したるものにて城壁の處處剝脱したるは戊辰の役官軍の發射したる砲彈の痕なり但し是はくろがね門内より寫したるものなり。

[城の圖]



しろ（名）　頃田畑の七坪二合をいふ。
しろいと　白絲、素絲、しろきいと。
しろいぬなづな（名）　甜菜屬植物。
しろいもの（名）　白物、あしろい、白粉。
しろにはそ（名）　蚩休、三層草（植物）。
しろぼり（名）　城堡、城砲、しろのまはりのほり。
しろへび（名）　白蛇、銀蛇（動物）。
しろざと（名）　素人（はくじんを見よ、又俗に不熟練なる人をいふ。
しろざり（名）　白鳥、はくてう、鴻（動物）。
しろちどり（名）　白千鳥、ちどりのたぐひ（動物）。
しろぬり（形）　白塗、しろくぬりたる。
しろかたびら（名）　白帷子、しろきかたびら。
しろがつたい（名）　白癩、しろきらいびやう、しらびと（病名）。
しろかね（名）　銀、ぎん（白金、白銀。
しろかねちやう　銀町、東京市京橋區鹽埠島の町。
しろがねまち（名）　白銀町、東京市牛込區の町。
しろかめめ（名）　白鷗（動物）。
しろたへ（名形）　白妙、しろくたへなること。
しろたへの　白衣（ころも）、「かれるくも」「ころも」、「我衣」、「そで」、「たすき」、「藤江の浦」等の枕詞。
しろね　白根、蕨等の白き根。
しろね（名）　白根、地瓜兒苗（植物）。
しろねり（名）　素錬、しろくねりたるきぬ。
しろねまち　白根町、越後國中蒲原郡の町の名。
しろねづみ（名）　白鼠、銀鼠（動物）。
しろなまづ（名）　白鯰、銀魚（動物）。
しろなすび（名）　白茄、銀茄（植物）。
しろむく（名）　白無垢、白小袖をいふ。
しろむくげ（名）　白木槿（植物）。
しろう（名）　市樓、まちや。
しろう（名）　矢籟、ゆぎ、やつぼ、えびら。
しろうざ（名）　素人、白人、白徒、ものなれぬひと。
しろうり（名）　越瓜、つけうり、あさうり、早瓜、稍瓜（植物）。
しろうま（名）　白馬、しろきうま、十又（俗）ぶよろく、醤油、醤。
しろくわる（名）　白慈姑、白地栗、えご、えひ、蕪屠草、茨萁（植物）。
しろやまちやう　城山町、東京市芝區西久保の町。
しろまないこ　白俎、しろきところあはきめ、十にちみまないこ。
しろまめ（名）　白豆、しろきいろのまめ（植物）。
しろこ（名）　白子、しらこ（魚の）、魚鰓、十また安房國の有名の地。
しろごま（名）　白胡麻、脂胡、しろきごま（植物）。
しろこまち　白子町、伊勢國河藝郡の町名。
しろこけ（名）　白齪、しろきこけ（植物）。
しろてふ（名）　白蝶、粉蝶（動物）。
しろあざ（名）　城趾、城蹟、城の崩れたる跡。
しろあかざ（名）　灰藜（くわいてきを見よ）（植物）。
しろあづき（名）　白小豆（植物）。
しろあめ　白飴、餳等製にて甘きもの。
しろざたう　白砂糖、製しあげたる白色純粋の砂糖。
しろざけ（名）　白酒、白醪酒の甘きもの。
しろさざげ（名）　白角豆（植物）。
しろさ（形）　白、素、皓、白雪、雪白、粉白、素白、皎白、皚白、皤白、雪の如き色なるをいふ。
しろきぬ（名）　俗人、ぞくじん、凡俗。

しろきねかつかみ（名）雛動物。
しろきじ（名）白鳥、しらきじ（動物。
しろきび（名）苣（植物。
しろめ（名）白鐵（しろみ）を見よ。
しろめ（名）魚目、うなのめ。
しろめだま　白睛、角膜（眼の中の白く堅き感。
しろみ（名）孵白卵の白き部分。
しろみ（名）白鐵、びやくちよ（銅鐵などの内部にひくものでしろめ。
しろみづ（名）潘、こめのしる、米汁（こめあらひみづ）。
しろしめす（他）知、しりたまふ、十をきわめる（國家を。
しろもの（名）代物、貨物、しなもの。
しろずみ（名）粉炭子、けしずみ、しろきすみ。
しろすもも（名）王黄李（植物。
しろん　私論、わたくしのあらそひ、十一已之論、私議。
しは（名）支派、はわけ、わかれ、えだわかれ。
しば（名）新波、志波（芝氏。
しば（名）柴、そだ、たきぎ。
しば（名）斜草（俗に芝と書く）、しばしき、緒譯草（植物。
しはい（名）飯牌、かるた、きつて。
しはい（名）—する（他）支配、管轄、統轄、統御、統治、關鄕、なきむることゝつかさどる。
しはい（俗二）（名）斉齋（しわいを見よ）。
しはる（名）芝居、劇場、戲場（狂言をする處、十また演戲、猿劇、狂言きようげん）。
しはいにん（名）支配人、つかさどるひと、十管家、繁管人、管理人、しまり。
しばぐち（名）柴井町（東京市芝區の町）。
しばいけつ（名）雲貝鰌、かひのみやこ、離宮。
しはいしよ　支配所、管内、所管、所轄。
しばるもの（名）戲子、やくしや。
しはら（形）修放、ほしいまゝ、放肆。
しはら　四方、よも（東西南北）、四極、十四邊、あたり。
しはう（名）飯袍、かみこ。
しばう（名）脆話、あぶら（動物の）。
しばう（名）姿貌、なりかたち、すがた。
しばう（名）資望、（人望をいふ。
しばう（する）（他）指嗾、ゆびさす。
しばう（名）矢房、えびら、やづつ。
しばう（名）—する　死亡、しぬること、しぬ、しにうせる。
じばう（する）自亡、みづからほろぶる、自滅。
しはうはい（名）四方拜、元日の朝天皇が天地四方山陵を拜せらるる儀式。
しばうりをんな（名）雷柴女、くろぎうり。
しばうら　芝區東京市芝區の東京灣に沿ふ所をいふ。
しばうじき（する）自暴自棄、みづからすてる（我身をかまはぬ、やけになる。
しはのばし（名）鑿伸、しはをのばすこと。
しばのざ　柴門、細木をあつめて作れる門。
しはのさぼそ（名）柴屨、しばのと上を見よ。
しはく（名）銚湾、いとすすき（植物。
しはく（名）死魄、太陰歴の月の一日、二日を云ふ（月影が見えぬ故なり）。
しばく　芝區東京十五區の一、北で東は芝浦、西は麻布區、北は京橋區、南は品川に接す。
じばく（する）自曝、みづからもろとして、自首。

しばらく（名）雷歌舞伎十八番の一。
しばらひにん（名）支搏人、かねをはらふひと（習手形の下を見よ）。
しばる（他）縛、絞、繋、束縛、縛束、固結、緊束、約束、結束、ゆはひつける。
しばかは（名）鰾膠、ちぢみがは。
しばがれごゑ　嗄聲、かれたるこゑ、喘嗽聲。
しばがき（名）柵垣（木の小枝柴などを以て作れる垣）。
しばがき　柴籬、反正天皇の都したまひし地にて河内國に在り。
しばた　柴田、芝田氏。
しばたたく（他）瞬目を、しばしばまたたきする。
しばたまち　新發田町、越後國北蒲原郡の町名）。
しばたけ（名）芝岸、芝區、きのこの一（植物。
しばたごほり　柴田郡、陸前國の郡の名。
じばつち（形）自縛、ひとりでにもとる。
しばつち（名）斜草地、夾草土、しばにてかたまれるつち、草皮。
しばつけ（名）褒、旌、ふしぐはへ（褒詞）。
しばつなく（自）歎鳴、たびたびなく（鳥が）。
しばらく（副）暫時、少時、須臾、食頃、少選、少頃、少刻、頃刻、霎時、移時、姑且、聊且、少選、頃刻、霎時、移時、姑且、聊且、しばし。

しばぐり（名）茅栗、ちひさきくり、椹栗、ささぐり（植物）。
しばくさ（名）柴薪、たきぎ、そだ。
しばやま　芝山氏。
しはふ　詩法（詩を作る法式）。
しはふ（俗二）（名）仕法、しかた、いたしかた。
しばふ（名）芝生（しばふの下を見よ）、しばち、園庭の。
しはふだいじん　司法大臣（司法省の長官。
しはふしやう　司法省（司法行政の事務を取扱ふ中央官廳。
しはふしやう　嗽病、たんせき、息嗽。
しばごほり　常陸郡、陸中國の郡の名。
しばさき　柴崎氏。
しばざきちやう　柴崎町（東京市淺草區の町）。
しばきり（名）斜草鍬、農具。
しばゆばり（名）癇病、りんびやう病の名。
しばし（副）名）淡辰、少頃、暫、しばらく。
しばしば（副）屢、亟、數、たびたび、數度、數回。
しばしき（名）芝敷、狀ルの足の地につく部分をいふ。
しばえび（名）芝蝦、青蝦、小蝦、鷹小蝦、東京芝浦の名産なり故に然か名づく）（動物。
しばせり（名）師走、季冬、臘月、としのくれ、除月、歳杪、極月、十二月をいふ。
しはん（名）師範、のり、十又をしゝひと。
しはん（名）紫癜、くろなまづ（皮膚病。
しはん（名）紫斑、むらさきのふ、むらさきのまだら（織物、陶器等の彩色にいふ。
しはん　四半（四分の一）、私販、ひそかにうること、密賣、
しはん（名）汗衫、かざみ、じゆばん。
しはんばう（俗）（名）客番者、守錢奴、守錢虜、けちんばう。
しはんがくかう　師範學校、教員を養成する目的の學校。
しはんぶん　四半分、しぶんのいち。
しに（名）死、死亡、しぬること、しには易くぞあるべかりけるなど見ゆ。
しにわかれる（自）　死別、しにてはなれる（夫婦親子などが死にて永く別るるをいふ、永訣。
しにがほ　死面（死人の面。
しにかかる　死期、將死、しなんとする。
しにたえる（自）　死絕、しぬこと、しにそこなふ（自）　死損（死なんとして死なざるをいふ。
しにん　止乳、ちちをはなすこと。
しにのこる（自）　死殘、いきのこる。
しにやまひ（自）　死病、しぬべきやまひ。
しにぎは（名）　臨終、いまは、しぬるきは、最期。
しにめ（名）　死際、しぬるきは。
しにみづ（名）　死水、死ぬる人に飲ませる末期の水。
しにものぐるひ（名）　死物狂、死闘、死戰、一生懸命の事。
しにせ（名）　仕慣、しかた。
しにせ（名）　老鋪、ふるきみせ。
しにん（名）　市人、いちびと、あきうど。
しにん（名）　死人、しびと、しねるひと。
じにん（名）（する）　自盡、みづからみとむる。

しほ（名）　飯、はりまち（動物。
しほ（名）　潮、うしほ、汐、海水。
しほ（名）　鹽、腐敗をとめ又は味をつくるもの。
しほ（名）　時機、をり、ときをり（之をしほに立ち去るなどいふ）。
しほ（する）（他）　愚蔑、こびたふ、欺蔑。
じほ（名）　餔餟、かちすみ。
じほ（名）　耳母、訓鏡、はにこくき（植物）。
じほ（名）　字母、いろは文字の本なる字。
じほ（名）　字模、いかた（文字の、字型、下のかた活字を鑄る模型をいふ）。
しほはゆき（名）　鹽漬、醃菜、醃田（醃を製する處。
しほはゆき（形）　鹹、鹹しはからき。
しほさめちやう　神留町（東京市芝區の町）。
しほち（名）　枝保椅、ふねばしとりこ（植物）。
しほぢ（名）　鹽路、海路、うみぢ。
しほぢう（名）　鼓母魚、まいまひむし、みづすまし（動物）。
しほちやう　鹽町（東京市日本橋區の町、また京橋區靈岸島、四谷區四谷に同名の町あり）。
しほり（名）　絞、絞纈衣服の。
しほりざる（他）　搾取、しめてとる。
しほりかす（名）　絞滓、しめかす。
しほる（他）　搾、壓、しめる、酒油等を。
しほれし（名）　鹽椎、しほづけ。
しほから（名）　醢魚、なしもの、魚醬、鹽辛、鹹魚、鮨鮓。
しほがま（名）　鹽竈神社の竈子、十また地名（陸前國宮城郡に在る町名及び陸奥國鹽竈郡に在る地名）。
しほがまざく（名）　馬先蒿（植物）。

しほがまじんじや　鹽竈神社（陸前國宮城郡に在る有名の國幣中社）。
しほかぜ（名）海風、うみかぜ。
しほたち［鹽竈］鹽にて味つけたる物を食はぬこと、物忌の一。
しほたれ（俗二形）鹽垂、ぶしやう、十きたない。
しほたれる（自）泣涙、なみだをたれる。
しほづ［する］（自）死沒、しぬる、しにうせる。
しほづけ（名）鹽漬、醃漬、鹹漬、醃鹽［鹽］に入れてたくはふること、また其物。
しほづけもの（名）醃物、つけもの、しほづけ。
しほなめいし（名）無機機關なき金石植物等に云ふ。
しほなめゆび（名）嗜鹽指、ひとさしゆび。
しほらしき（形）優艷、やさしき、殊勝、かんしん。
しほむ（自）萎凋、凋落、萎靡、しなびる（草木が）。
しほり（名）矢鋒、やじり、やのね。
しほり（名）四封、四境、境内、くにのうち。
しぼり（名）酷謀、はかりごと、さうだん。
しほうり（名）水鳴、しほからむし、水馬（動物）。
しほのにがり　鹽膽水、にがしほ、めだれ。
しぼく（名）梓木、きささげ、あづさ（植物）。
しほく（名）司牧、かしらやく、つかさ。
しほや（名）鹽屋、しほうり、鹽商。
しほやき（名）鹽燒、海水を煮て鹽を製さること、十また食物料理にて肉などに鹽を振り掛け燒きたるを然か呼ぶ。
しほぶろ（名）鹽風呂、しほゆ。
しほぶた（名）醃族、しほづけぶた。
しほふきがひ（名）鹽吹貝（動物）。
しほほて（名）萩、四方手（馬具）。
しほで（名）牛尾菜、天蓼（植物）。
しほでぎる（名）鹽爪、しほいれざる。
しほでざけ（名）醃醋、しほびき、あきあぢ。
しほでゆ（名）鹽湯、海水湯、しほぶろ。
しほでみづ（名）鹽水、海水、しほからきみづ。
しほでたま（名）潮滿珠（神代にありしといふ鹽玉。
しほでる（自）潮乾、潮干海の水の減りて地を現ずること。
しほひるたま（名）潮乾珠（神代にありしといふ鹽玉。
しほびがり（名）汐干狩（海潮の減ずる時に海に入りて貝類を拾ふ遊。
しほひがた（名）鹽干潟、鹹潟、斥鹵、ひかた、しほのひなるところ。
しほひき（名）潮乾、しほひ。
しほびき（名）鹽引、腊魚、醃乾、しはもの、しほづけ、十しほざけ、あきあぢ。
しほみづ（名）潮瀕、海中の潮の流るる所、うしほのながれ。
しほせん（名）子母錢、利息と元金、又あやこぜにゝ何處へ遣りても再び本主に還り來ると云ふ錢。
しほせんべい（名）鹽風餅、しほづけせんべい。
しほん（名）資本、もとで。
じぼん（名）磁盤、沙鉢をいふ。
しほんきん（名）資本金、もとでがね。
しほんしよだいぶ　四品賭大夫、四位にして宋朗殿を圍されざるものをいふ。
しべ（名）蕋、蓋花の中の部分。
しべ（名）蕊心、いねのはをきくさ。
しべ（名）鉄帽、きんまつ、楮帽。
しへい（名）稲垣、をんなぐるま。
しへい（名）辭柄、いひぐさ。
しへい（名）時弊、ときのあしきならはし。
しへいのれいざ　時平大臣、昭宣公基經の男。
しへちろごほり　蝦取郡、千島國の郡の名。
シベリヤ　西比利亞、西伯利亞。
しへたげる　或**あひたげる**（他）虐、賊、陵、苛虐、殘虐、虐待、虐使、酷虐、害虐、暴虐、くるしむる、なやます。
じべつ［する］（自）辭別、わかれる、訣別。
しべつごほり　標津郡、根室國の郡の名。
しへう（名）四表、よも、四方、天下。
じへう（名）辭表、いとまをこふみ。
しへき　四壁、あたりきんじよ、四隣、四邊。
しへん（名）詩篇、しのまき、特に舊約書中の詩集をいふ。
しべん［する］（他）支辨、しはらふ。
じべん（名）［する］　卑劣、かはりごと。
　自辨、みづからはらふ、自費、じばらをきる。
しべ（名）稲鋤、よすてびと、僧侶。
しべ（名）便徒、つかひ（主に耶蘇の十二弟子をいふ、アポスル。
しべ（名）稍肚、ゆびのはら。
しべ（名）屎、ゆばり、溲、せうべん。
じべ［する］（自）自屈、みづからはらをきる、自殺。
しへろ（形）四途路、擴え亂るる說、四途路になりて敗亂すなどいふ。

しほろに（副）曉瞼、朧曉、みだれて、よろめきて、十こんざつして。
しほろもどろ（名）取次筋守（いりみだれたる說。
シトロン（名）矢篇倫參檸の類にて常綠灌木なり其効用は粗ぼ「れもん」に同じ（植物）。
［矢篇倫の圖］
しまど（名）萬雀（動物）。
しまどめ（名）鏃、鏑目（刀劍の莖の栗形にありて紐を通す孔、ひもとはしあな。
しまり（名）委吏、米倉の役人。
しまり（名）倭文、あやぬの。
しまる（自）遡しめる、うるはふ。
しまね（名）座褥、方褥、褥。
しまむ（他）防禦、ふせぎさまふ、ことばわ。
しまら（名）雲膽、ふぢ、稻豆藤（植物）。
しまら（名）指頭、ゆびさき。
しまら（名）鉄熨、あんどん。
しまら（名）私闘、わたくしのたたかひ（決闘の類をいふ）。
しまら（名）剃刀、あひくち、匕首。
しまら（名）鴛鴦、かちかね。
しまら（名）兒童、わらべ、こども。
しまら（名）侍童、ちごこじう、つきそふわらべ。
しまら　自動、ひとりにてうごく、ものづからうごく又動詞の一體にいふ即ち行く廻る等の如く其動作の自身に止るものをいふ。
じまら（名）自動鐵道　軌道を波の如くに起伏して造り車に惰性を與ふる仕掛の鐵道をいふ。
しまり（名）［する］（自）至德、いたれるとく、最上の德。
しまり　四德貢獻令、德貢關、功（縣廳、穿鏡燈之を婦人の四德と云ふ、禮記に見ゆ、十また元（春仁に享夏嘉、利（秋義、貞（冬智）をいふ、天道流行の序也。
じまり（する）（自）自得、みづからところよしとする。
しまる（名）時機、ときのけ、時疫。
じまる（名）侍臣、王侯等の學問の師範役。
しまやか（形）閑雅、從容、もちつきたる。
しまげる（他）仕遂、なしとげる。
しまげなき（形）懶、しだらなき、しまりなき。
しまぎ（名）粢、餈、餅、もち（是れ神にささぐる餅は純白の糯米を以てつくが故なり、粢の字も亦此義を有せり）。
しまぎもち（名）粢餅　純白の糯米にて搗き成したる餅にて專に神に獻ぐるもの、「しどき」を見よ。
しまめる（他）剽留（借字）、くひとめる、さまへとめる、ふせぎとめる、十又ころす（人あるひは獸畜などを殺しあはするをいふ。
しまみ（名）蔀上下する戸、また一種の戸、十日
しまみ（名）蔀、ひがくし。
しまみ（名）植子、くさぼけ、こぼけ、木瓜、矢倉實、和圖子（植物）。
しまれくもの　典人、しちがりびと、被官者、しちいれにん。
しまよ（名）倍女、めもとびと、こしもと。
じまよ（名）兒女、こども、なのこのこ。
しまう（名）屋漏、こやしつぼ、こいつぼ。
しまう　四知（天知、地知、子知、我知、後漢書に見ゆる楊震が故事なり。
しまう（する）（他）支持、さまへる、さまへたもつ。
しまう（名）轅、陰、くるまのしまり車の長柄を支へ持たす臺、擱車。
しまう　志道氏。
しまう（名）自治、みづからをきむること、中央政府の力によらずして其地方獨立にて治むること。
しまいれ（名）買人、典當、しちにおくこと。
しまいつまみん（名）七逸民伯夷、叔齊、虞仲、夷逸、朱張、少連、柳下惠。
じまるき　日域（日本の古稱）。
しまいん　七菩宮、商、角、徵、羽、半徵、半商）。
しまはう　七寶（金、銀、琉璃、車渠、瑪瑙、琥珀、眞珠）。
しまほのし　七歩詩　魏の曹植が七足あゆむ間に作れる詩をいふ。
しまべん　七辨　古の官名に左右大辨二人、左右中辨二人、左右少辨二人あり、而して中少辨の間權官一人必ず之を任ず仍て之を七辨といふ。
しまりがはま　七里濱、相模國鎌倉郡の地名。
しまりのはら　七里野原、上總國長生郡に在り。
しまりん（名）逃臓、こんろ、石竜。
しまれくもの　典人、しちがりびと、被官者、しちいれにん。
じまよ（名）倍女、めもとびと、こしもと。
じまよ（名）兒女、こども、なのこのこ。
しまく（名）私屋、ひそかにするあしきこと。
しまく　至德、いたれるとく、最上の德。
しまく　四德貢獻令、德貢關、功（縣廳、穿鏡燈之を婦人の四德と云ふ、禮記に見ゆ、十また元（春仁に享夏嘉、利（秋義、貞（冬智）をいふ、天道流行の序也。
じまく（する）（自）自得、みづからところよしとする。
しまく（名）時機、ときのけ、時疫。
じまく（名）侍臣、王侯等の學問の師範役。
しまやか（形）閑雅、從容、もちつきたる。
しまげる（他）仕遂、なしとげる。
しまげなき（形）懶、しだらなき、しまりなき。
しまぎ（名）粢、餈、餅、もち（是れ神にささぐる餅は純白の糯米を以てつくが故なり、粢の字も亦此義を有せり）。
しまぎもち（名）粢餅　純白の糯米にて搗き成したる餅にて專に神に獻ぐるもの、「しどき」を見よ。
しまめる（他）剽留（借字）、くひとめる、さまへとめる、ふせぎとめる、十又ころす（人あるひは獸畜などを殺しあはするをいふ。
しまみ（名）蔀上下する戸、また一種の戸、十日
しまみ（名）蔀、ひがくし。
しまみ（名）植子、くさぼけ、こぼけ、木瓜、矢倉實、和圖子（植物）。
しまち（名）質、かた、かねのかた（物品土地などを抵當にして金を借ることにいふ、質にいれる、質をうけだす、質をながす、質にとるなどいふ、質におく、質にいれるなどいふ、十又しちざし、質物。
しまりん（名）質人、典當、しちにおくこと。
しまいつまみん（名）七逸民伯夷、叔齊、虞仲、夷逸、朱張、少連、柳下惠。
じまるき　日域（日本の古稱）。
しまいん　七菩宮、商、角、徵、羽、半徵、半商）。
しまはう　七寶（金、銀、琉璃、車渠、瑪瑙、琥珀、眞珠）。
しまほのし　七歩詩　魏の曹植が七足あゆむ間に作れる詩をいふ。
しまべん　七辨　古の官名に左右大辨二人、左右中辨二人、左右少辨二人あり、而して中少辨の間權官一人必ず之を任ず仍て之を七辨といふ。
しまりがはま　七里濱、相模國鎌倉郡の地名。
しまりのはら　七里野原、上總國長生郡に在り。
しまりん（名）逃臓、こんろ、石竜。
しまち（名）質、かた、かねのかた（物品土地などを抵當にして金を借ることにいふ、質にいれる、質をうけだす、質をながす、質にとるなどいふ、質におく、質にいれるなどいふ、十又しちざし、質物。

しちよう 至重、ごくおもき、十いたつてたいせつなる。
しちよう (名) 輜重、こにだ、兵隊の。
じちよう (名) 實用、りちき(古語)。
じちよう (名形) 自重、みづからおもんずること。
しちたう (名) 七島、みづくさの名(蓙を綴る材料のくさ)、しちたうゐ。
しちだう (名) 七道(東海、東山、北陸、山陰、山陽、南海、西海の七道をいふ)。
しちだうがらん 七堂伽藍(三門、佛殿、法堂、方丈、食堂、浴室、東司を七堂といふ、伽藍は寺といふ梵語)。
しぢつ [する](自) 私昵、なれしたしむ。
しちなん 七難(人衆の疾疫、他國の侵逼、自界の叛逆、星宿の變怪、日月の薄蝕、非時の風雨、過時の風雨)。
しちう 市中、まちなか、市街。
しちう 四仲(仲春、仲夏、仲秋、仲冬)。
しちう (名) 仔蟲、さなぎ(動物)。
しちう (名) 豉蟲、みづすまし(動物)。
じちう (名) 侍中、おそばやく、藏人。
しちく (名) 紫竹、斑竹、かんちく(植物)。
しちく 絲竹、いとたけ(箏笛の二類をいふ、ひくものふくもの)、音樂。
しちぐわつ (名) 七月、第七の月、舊暦にては今の八月に當りて初秋の月なりき、其異名は左の如し、開月、蘭月、蘭秋、親月、素秋、涼月、冷月、初秋、孟秋、肇秋、首秋、相月、夷則(以上支那)、文月(ふみづき)、女郎花月(をみなへしづき)、七夕月(たなばたづき)、文披月(ふみひろげづき)等)。
しちぐさ (名) 質種、しちいれもの(しちにいれるもの或しちにいれたるもの)、典物、典質、質物(しちもつを見よ)。
しちや (名) 質屋、當舖、典舖、典當舖、しちとるもの。
しちや (名) 七夜(嬰兒の誕生の日より七日目の祝)。
しちやう (名) 仕丁、しもべ、よほろ(人夫)。
しちやう (名) 使廳(檢非違使の役所)。
しちやう (名) 市廳、市役所。
しちやう (名) 支廳、ではりやくしよ。
しちやう (名) 紙帳、かみのかや。
しちやう (名) 市場、いちば。
しちやう (名) 圊場、てうづば、かはや。
じちやう (名) 寺長、てらをさ、てらのかしら。
しちやうねつ (名) 弛張熱、きしひきねつ、十おこり。
しちまん 七慢(慢過慢、慢、過慢、卑劣慢、我慢、增上慢、邪慢)。
しちけう 七教(君臣、父子、夫婦、兄弟、長幼、朋友、賓客)。
しちけんちやう 七軒町(東京市淺草區淺草の町、また下谷區池の端、四谷區四谷、芝區芝に同名の町あり)。
しちふくじん 七福神(惠比須、大黒、辨天、毘沙門、壽老人、布袋、福祿壽)。
[**しちごさん**](名) 七五三、しめ、しめなは、注連(神前等に張る繩)。
しちでう (名) 七條(僧の袈裟の名)。
しちざう 七賊(強盜、監守盜、常人盜、竊盜、枉法、不枉法、坐贓)。
しちきよ 七去(大戴禮に出づ、不順父母去、無子去、淫去、妒去、有惡疾去、多言去、竊盜去、以上を支那にて妻を去る七の理由とす)。
しちゆう (名) 支柱、ささへばしら、つつかひばしら、つつかひぼう。
しちゆうざく (名) 四柱屋、あづまや、阿屋。
しちめんてう (名) 七面鳥、吐綬雞、かうくんてう、吐綬雞(動物)。
しちめんざん 七面山(甲斐國南巨摩郡に在り、高約五千一百五十尺)。
しちしよ 七書(孫子、吳子、司馬法、尉繚子、三略、六韜、太宗問對を謂ふ、宋の元豐年間より此稱始まれり)。
しちしよく 七色(黄、緑、碧、青、紫、紺、紅)。
しちじやう 七情(喜、怒、哀、樂、愛、惡、欲、また喜、怒、憂、思、悲、恐、驚)。
しちしゆ 七衆(比丘、比丘尼、式叉摩那、沙彌、沙彌尼、優婆塞、優婆夷)。
しちじふ (名形) 七十、ななそ。
しちしゆのかゆ 七種粥、ななくさのかゆ(正、五行、粥、酒浸代、稗、黍、或は曰く白米、大豆、小豆、粟、稗、黍、柿)。
しちえう 七曜(日、月、火、水、木、金、土の七星)。
しちえふじゆ (名) 七葉樹、とちのき(植物)。
しちもつ (名) 質物、典物、典質、しちいれもの(しちぐさを見よ)。
しちせき (名) 七夕、たなばた(太陰暦七月七日の夜をいふ)。
じちん 慈鎭(吉水の和尚と號し天王寺の別當天台の座主なり)。
しり 至理(至極尤もなる道理)。
しり 私利、わたくしのり。

しり (名) 獄吏、したやく。
しり (形) 支離、そろはぬ、あはぬ、ばらばらになる。
しり (名) 臀、いさらひ、尻、臎、臗。
じり 事理、ことわけ。
しりゐ (名) 尻居、しりにてすわること、十しりもち(臀を地につくこと)。
しりばら (名) 後腹、あとばら(產後の)。
しりばす (名) 脊遲、わしきばず、髑遲、しりのぞきもの。
しりへ (名) 後、背後、うしろ、しりざま、後面。
しりへで (名) 後手、うしろで、うしろでつき。
しりべし 後志(北海道の國名)。
しりがひ (名) 尻鞦、鞦、尻帶、紂、しりもび(此圖なるは尾張國熱田社の御馬具)。

[尻掛の圖]

しりよ 緇侶(僧侶に同じ)。
しりよ (名) 思慮、かんがへ、おもんぱかり。
しりようする (名) 四輪鐵、よつめぎり。
しりよく (名) 視力、眼力、めのちから。
しりよく (名) 資力、ちから(財力などをいふ)、十もちがね、資產、資財、資本、資金、十かね。
しりよく 死力、しにものぐるひのちから。
しりぞく (自) 退、却步、却行、ひきしりぞく、あともどりする。
しりぞける (他) 擯斥、もどす、十うけつけぬ、黜斥、擯退、貶黜、おとす、ひくくする。
じりつ [する] 自立、ひとりたつ、獨立。
しりつぎ (名) 後戸、うらのと、うらのいりぐち。
しりつぎう (名) 刺毬殼、くりのいが。
しりう (名) 緇流、ぼうずなかま。
しりう (名) 支流、えだがは、えだながれ、十すゑ、えだわかれ。
しりうたげ (名) 踞、箕踞、うづみ(兩脚を投出して坐するをいふ)。
しりうま [俗](名) 尻馬、驥尾(人の乘れる馬の後の方)。
しりうごと (名) 後言、うしろごと、かげごと。
しりのあな 肛門、屎孔、尸口。
しりくべなは (名) 端出繩、しめなは、しめかざり、しりくめなは。
しりくめなは (名) 端出繩、しめなは、注連、しめかざり。
しりやう 私領(自分の領地)。
しりやう (名) 死靈(死者の靈魂)。
しりやう [する](他) 思量、おもひはかる。
じりやう (名) 寺領、てらもち(寺の領地)。
しりまひ (名) 後舞(人の後へにつきて事を爲すをいふ)。
しりとぶた (名) 臀、わしき、わきらひ。
しりごみ (名) 退步、あとしざり、逡巡。
しりあし (名) 後足、あとあし。
しりあひ (名) 知己、知音、しりびと。
しりざや (名) 尻鞘(刀の鞘の尖の方)。
じりき 自力、おのれのちから。
しりきりがうな (名) 神仙螺(動物)。
しりめ (名) 後眼、流盼、斜視、ながしめ。
しりび (名) 後火、あとび。
しりん 四隣、きんじよ、あたり、よものとなり。
じりん (名) 耳輪、みみのわ。
しりんしや (名) 四輪車、よつわぐるま。
しぬく (他) 爲貫、しはたす、しとほす。
しぬぶ (自) 忍、たへる、しのぶ、こらへる。
しる (名) 汁、(液物の中より出づる流動物)、十また液、漿液、あつもの、おつゆ。
しる (他) 知、識、知覺、こころえる。
しるゐ (名) 眵膠、まよひ、めやに。
しるべ (名) 導、指南、てびき(事のあんないになるもの)、十知邊、たより、ゆかり。
シルリング 志(英吉利通貨の銀錢にて約我が四拾八錢八厘にあたる)。
しるわん (名) 汁椀、あつものわん。
しるよし (名) 知行、しはい、管轄。
しるこ (名) 汁粉(餡をとかして作れる食物)。
しるあめ (名) 餳、蜜飴、みづあめ、糖餹、軟餳、飴餳、膠飴。
しるし (名) 印、標、驗、めじるし、十また證據、徵驗、驗證、證左、しようこ、あかし、十また瑞、效驗、ききめ。
しるしのおび (名) 著帶、はらおび、いはたおび。
しるしぎ (名) 標木、めじるしぎ。
しるす (他) 記、錄、書、誌、かきしるす、十記載、記錄、記誌、記註、筆記、書記、登記、登錄、勒記、筆記、書寫、かきうつす。
しれはせる (他) 仕果、爲果、しはたす。
しれち [俗](名) 失措、てもち、てぬけ、失策。
しをり (名) 栞、枝折、ほんばさみ、夾冊。
しをりど (名) 柴戶、枝折戸、しばのとぼそ。
しをる (他) 呵嘖、しかる、こらす。
しをれる (自) 萎、しほれる、しなへる(草木が)。

しをく（名）枝屋、ぶんけ、えだわかれのい〳〵。
しをく（する）（自）　思慮、もの、かんがふる。
しをき（名）　刑罰罪人を罪なふこと。刑戮、つみすること。
しをき（名）　先例、しきたり、せんれい。
しをきば（名）　仕置場、刑場、くびきりば、ころしどころ罪囚の、せいばい、ざんざいば。
しをん（名）　御屋御匠の恩。
しをん（名）　紫苑、おにのしこぐさ、鬼醜女草、反魂草植物。
じをん（名）　四恩、天地、國王、父母、衆生。
じをん（名）　慈恩、いつくしみ、めぐみ。
しわ（名）　皺、縐、かはのちぢみ、十ちぢみ、しぼり、しぼ。
しわ（する）（自）　私話、ささやく、私語。
しわい（俗）（形）　吝嗇、ものをしみする、けち、だしぎたない。
しわる（自）　撓、たわむ、まがる。
しがれごふ　頃壁、かれごえ、かれたるらえ用よ。
しわう（名）　雌黄赤黄色の植物被汁にて繪の具に
しわけ（俗）（名）　仕分、はふだて。
しわざ（名）　所業、所行、所爲、なすわざ、するわざ十しごと。
しわんぼう（俗）（名）　守錢奴、吝嗇家、ものをしみするひと。
しか（名）　鹿、かのしし動物。
しか（名）　市價、さうば、いちねだん。
しか（名）　矢符、やおち、矢筈、やだり。
しか（名）　紫茄、なすび植物。
しか　詩歌、しとうたと、しいか。

しか（名）　斑瑕、瑕瑾、きず。
しか（副）　然、かくのごとく。
しが　志賀、景行天皇及び天智天皇の都したまひし地にして近江國に在り、今は滋賀と書く。
しか（名）　歯牙、は、十くちは。
しか（名）　自家、みづから、おのれ。
しか（名）　時儀、さうば、前儀。わけする。
しかい（する）（他）　支解、てあしをきる、十又ふしだいにする。
しかい　四海、よものうみ、天下。
しかい　死海猶太國にある鹽こくして魚鼈の生ざる湖。
しかい（名）　使价、つかひ、使者。
しがい（名）　死骸、なきがら、死體。
じがい（名）（—する）　自害、じさつ（自殺）、みづからちころす。
しかいのうち　四海之内、天下中をいふ。
じがばち（名）　似我蜂、細腰蜂、ゆするばち、すがる、蜾蠃、蜾蠃蜂、土蜂、灌木動物。
しかばね（名）　屍、死人の體をいふ、死骸。
しかへる（他）　仕置しなほす。
しかと（副）　聽、緊、確然、かたく。
じかどちやく　自家撞著、文章または言語などの意味が前後相反すること。
しがり　然、さやう、そのとほり。
しかりざいへども（接續詞）　雖、かくはいへども。
しかる（他）　呵、叱、責、喝、叱咤、皆責いましめのしること。
しかるべき（形）　可然、ふさはしき、につかはしき。
しがよろん　齒牙緣論、とるにたらぬはなし。
しかた（俗）（名）　仕方、しやう、いたしかた。
しかたばなし（名）　物語、てまはなし。
しかたけ（名）　茅萠、茅蜩、かはたけ、きのこのたぐひ植物。
しかつ（名）　雷鳥、かれは植物。
しかつめらしき（俗）（形）　機格、かたくるしい。
しかなぐさ（名）　鹿鳴草、はぎ植物。
しからば　然者、さもば。
しがらき　信樂近江國甲賀郡の地名。
しがらみ（名）　柵、まがき、籬、前格、木鉾、楯機、木柵水中の。
しかう　至孝、至りて孝行なること。
しかう（する）（他）　施行、ほどこす。私交、うちうちのまじはり。
しかう　私行、しのびあるき、間行、微行。
しかう（する）（他）　愚考、かんがへる。
しかう（名）　嗜好、このみ、すき、たしみ。
しかう（名）　志向、こころざし。
しかう（名）　四更、夜のやつ、今の午前二時。
しかう（名）　支綱、ひかへづな。
しがう　至嘱、いたつてつよき。
しがう（名）　試毫、かきそめ、筆目の吉書始。
しがう（名）　號、あふりな。
しかう（名）　賦有、あぶら。
じかう（名）　侍講、天子又は東宮の御師匠、侍讀。
じかう（名）　時行、はやり。
じがう（名）　字號、あざなとがう、となへ。
じがう（名）　寺號、てらのな。
じがう　次號、つぎのがう、次回の新聞または雜誌。
しからさん（名）　紙腰等、紙に繪畫を刷みて手に

てまはして自在に褰せらるる琴。
しかうして（接續詞）　而、そして、さうして、しかして。
しかのみならず（接續詞）　加旃、加之、そのうへ、それのみでなく、かてくは〳〵て。
しかく（副）　然、かくのごとく。
しかく　武せきかく（名）　刺客、暗殺者、やみうちにん。
しかく（名）　詞客、文人などをいふ。
しかく　時格、詩の規則。
しかく（名）　資格、さだめのかく、せいしつ、十かくしき、みぶん。
しかく　四角、四の角ある形、四方。
しかく（名）　度關、ぜんだな。
しがく　志學、がくにこころざす孔子の語に本づきて十五歳を然かいふ。
しがく（名）　史學、れきしがく。
じがく（名）　耳學、ききなれしがく。きかがく。
しかくばる（俗）（自）　四角張、かどばる。
しがくかう　私學校、じぶんだてのがくもんじよ、私立學校。
しかくだけ（名）　方竹、琉球國に產する竹（植物）。
しがくのざし　志學之年、孔子の語に本づきて十五歳を然かいふ。
しかまちまち　飾磨、飾磨郡飾磨國の町名。
しかまごほり　飾磨郡、飾磨國の郡名。
しかけ（名）　桂、うちかけ、うちき、女服。
しかけ（名）　仕掛、借字、裝置、機關、からくり意匠を以て構造したる機械製作などをいふ、つくりこしらへ、十又俗しかけはなび（次の語を見よ）。
しかけはなび（名）　仕掛花火、種種の仕掛を以て製したる花火にして千變萬化の奇觀を呈するもの。
しがけんちやう　滋賀縣廳、近江國大津市に設置す。
しかふ（名）　紙匣、はりぶんど、かみばこ。
しかふ（名）　指甲、ゆびつめ。
しがごほり　滋賀郡、近江國の郡の名。
しかめる（他）・愛、嚬、顰、ちぢめる、眉面などを。
しかみ（名）　顰、ちぢみ、しわよせ（眉面の）、十無隘（著錯の立物）。
しかみづら　愛面、嚬面、しかめるかほ。
しかみつく（自）　緊噛著、つかみつく、しかとちう、むしやぶりつく。
しかみびばち（名）　蠻頭火鉢、獸鑪、獅子の頭を附けたる鑄鉢の火鉢。
しかし（副）　併然、されど。
しかじか　三云、これこれ、然然。
しかしながら（副）　乍然、さりながら、しかれども、さすがに。
しかしや（名）　紫河車、えな、胞衣、胎胞。
しかすがに（副）　雖然、さうはいふものの、しかれども、さすがに。
しかん　枝幹、えだみき。
じかん（名）　時間、とき。
じがん（名）　学眼、旬の中にて最も主要とする文学。
しよ（形名）　初、はじめ。
しよ（名）（—する）（他）　暑、あつさ、炎暑。
しよ（名）　書、かきもの、かく。
しよ（形）　諸、もろもろ、十いろいろ、すべての、十無。
しよ（する）（他）　施與、ほどこす、あたへる。
しよ（名）　蕾爨、あらた、あたらしきはた。
じよ（名）　序、緒、はしがき、書物の、十又ついで、順序。
じよ　自餘、このほか、そのほか。
しよい（名）　警衣、かたびら、なつぎ、夏服。
しよおる　警戒、あつさいきはひ、あつさ。
しよおる　初位、ういかむり（最初の位。
しよおる（名）　所爲、しわざ、なすわざ。
じよおる　敍位位を與へる。
しよいう（名）　所由、よるところ、もと、あこり。
しよいう（名）　所有、もちもの、所有物。
しよいう（する）（他）　都寓、ゆるす。
しよいうち　所有地、もちぢめん。
しよいうけん　所有權、たもつけんり。
しよいん（名）　書肆、ぶんつう、たより、おとづれ、書信。
しよおん（名）　書院、本は學問所の名、今は客間の義に用ふ、十正廳主候の客座敷をいふ。
じよろじよろ（副）　淋瀝、水の流るる貌。
しよはう（名）　處方、病症に應じて其藥品を定むること。
〔しよはう〕　曙方、あけがた。
しよはふ　處法、つかひかる藥因を。
しよはん　初犯、はじめてつみをおかすこと。
しよはん　諸般、百般、萬般、いろいろ、もろもろ。
しよにち　初日、はじめてのひ。
しよにん　諸人、もろびと、もろもろのひと。
じよにん（する）　敍任、官位につかしむる。

しよほ(名) 書鋪、はんや、書林。
しよほ(名) 初歩、はじめ、初學。
しよぼ(名) 書簿、ちやうめん。
しよぼ(名) 庶母(父の妾などをいふ)。
じよほ[する] 徐歩、ゆるゆるあるむ。
じよほ[する](他) 敍補(官位につかしむる)。
しよほつ 初發、はつおこり、十初起。
じよへい 助兵、かせい、たすけのつはもの。
しよへき 書癖、かきものずき、はんよみくせ。
しよべん(名) 書辨、かきやく。
しよべん[する](他) 處辨、しよちする、とりかたづける。
しよど 初度、はじめのとき、初回。
しよざう 初冬、はつふゆ(冬三ケ月の第一月即ち太陰暦十月の異名)。
しよどう(名) 書燈(夜學のともしび)。
しよざく(名) 所得、作得、收穫、まうけ。
しよどく(名) 書牘、てがみ、書札、書簡、ふみ。
しよざくぜい(名) 所得税(所得の金高に應じて納むる税)。
しよち(名)、—する(他) 處置、とりさばき、とりさばく、とりあつかふ。
しよぢよ(名) 處女、をとめ、きむすめ、へやずみむすめ。
しよちう 暑中(夏の暑さの間)。
しよちく(名) 書軸、まきものぢく、十かけもの。
じよちやう[する](自) 舒暢、のびる、のびのびする、十のびやかになる。
しよちゆう(名) 書厨、はんだんす。
しより[する](他) 處理、とりさばく。
しよりようれう(名) 諸陵寮、みささぎのつかさ(唐名廟陵署、諸の御陵のことを掌る)。

じよりよく[する](他) 助力、たすける、てつだひする。
じよりう 敍留(位は登り官は故の如きをいふ)。
しよりやう(名) 所領、りやうち、もちぢ。
しよりん(名) 書林、はんや、書肆。
じよりんもく(名) 如輪木理(樺の木の木理の輪の如くなりて美しきものをいふ)。
しよか 初夏、なつのはじめ。
しよか(名) 書架、しよだな、はんだな。
しよか(名) 書家、てかき(書を善くする人)。
しよかつとうめい 諸葛孔明(蜀の劉備に聘せられ劉氏を補佐して大に偉勳を顯はせし人)。
しよかう(名) 黍糕、きびだんご。
しよかう(名) 初更(今の午後八時)、初夜。
じよかう[する] 徐行、そろそろゆく、しづかにあるく。
じよかう(名) 助耕、こさく、客作。
しよがく(名) 初學、うひまなび、十はじめてまなぶもの。
しよかん(名) 書簡、てがみ、書翰、書柬。
しよかん(名) 書函、ふみばこ、ふばこ。
じよかん(形)。 徐閑、しづか。
しよかんぶくろ(名) 書翰袋、ふうじぶくろ。
しよかんし(名) 書簡紙、はんきれ、尺牘紙、てがみかくかみ。
しよかんひら(名) 暑寒平、はかまのおりぢ。
しよよ(名) 緒餘、あまり、すゑ、些末、はした、よけいもの。
しよよ(名) 薯蕷、やまのいも、つくいも、じねんじやう(植物)。

しよよかん(名) 薯蕷羹、いものやうかん(太き「じねんじよ」の皮をむきて擂り道明寺と上等の饂飩粉とを入れて蒸籠にてむしさめて後適宜にきり胡麻の油にて揚げつくる)。
しよよう[俗](名) 所用、ようむき、ようじ。
しよよまんぢう(名) 薯蕷饅頭(長芋を生にて擂り餡を包みて助炭にかけ蒸したるもの)。
しよたい[俗](名) 所帶、しんしやう。
しよたい[する](他) 處待、とりあつかふ。
じよだい(名) 敍題、まへがき。
しよたいめん 初對面、はじめてあふこと。
しよたう(名) 書刀、かみきりこがたな。
しよたん(名) 書單、かきつけ。
しよだん[する](他) 處斷、とりさばく、裁決。
じよたん(名) 助炭(火鉢の上にかぶせて火を節用する具)、はいろ。
しよれい(名) 諸禮(もろもろの儀式をいふ)。
しよれいのし 諸禮之師、威儀師(諸禮を敎ふるひと)。
しよれう 庶僚(もはくの官員をいふ)。
しよぞく(名) 所屬、つきしたがふもの、十つくもの。
しよそん[俗](名) 書損、かきそんじ、かきそこなひ。
しよぞん[俗](名) 所存、おもはく、かんがへ、ぞんじより。
しよつちう[俗](副) 二六時中、始終、つねに、たえず、いつでも(終日あるひは終夜をいふ)。
しよづくゑ(名) 書机(書籍を載する日本風の机)、書案。
しよねつ(名) 暑熱、あつさ、炎暑、炎蒸、炎熱(夏日の熱氣をいふ)。

しよねん[俗](名) 所念、おぼしめし、おもひ、かんがへ。
しようう[俗](名) 所勞、やまひ。
しよむ 庶務、もろもろのつとめ。
しよむ[俗](名) 所務、つとめむき。
しよう(名) 稱、となへ、な。
しよう 試用、わたくしのよう。
しよう(名)、—する(他) 證、あかし、あかしする。
しよう[する](他) 試用、つかひためす。
しよう[する](他) 使用、つかふ、もちひる。
じよう(名) 乘、かけざん、十又のり(馬、車などを數ふるに用ふ)。
じよう(名) 判官、祐、忠、進、令、丞、允、尉、掾(古昔の官制にて、「すけ」の下「さくわん」の上なりしもの)。
じよう[する](他) 乘、かける(算法)。
しよういん(名) 證印、しるしのはん。
しよういん[する](他) 承允、ゆるす。
しよういん[する] 承引、うけひく、承領、承諾、承知、うけがふ。
じようゐん 冗員、むだびと。
しようろ(名) 松露、麥蕈、麥菌(植物)。
しようろ(名) 衝路、かんじんのばしよ、要路。
じようろ(名) 噴壺、みづまき、みづふき。
しようろう(名) 鐘樓、かねつきだう。
じようろくわん(名) 蒸露罐、らんびき。
しようは(名) 衝波、おほなみ、あらなみ、怒濤。
しようは[する](他) 衝破、つきやぶる。
じようば(名) 乘馬、のりうま。
しようはい 勝敗、かちまけ。
じようはつ[する](自) 蒸發、むしあがる、ゆげだつ。

しようはう 承保(日本自一千七百三十四年至一千七百三十六年、西洋自一千七十四年至一千七十六年)(年號)。
じようはふ 乘法、かけざん(算法)。
しようはん 證判(證人の印)。
しようばん(名) 承盤、たかつき。
しようにゆうせき(名) 鍾乳石、いしのちち、つららいし、乳牀。
しようにん 證人、しようこにん。
しようにん[する](他) 承認、ひきうける、みとめる、うべなふ。
じようぼく(名) 繩墨、すみいと、すみなは。
しようへい 承平(日本自一千五百九十一年至一千五百九十七年、西洋自九百三十一年至九百三十七年)(年號)。
じようへい 冗兵、むだのへい。
じようべい(名) 蒸餅、まんぢう(食品)。
しようせつ[する](自) 衝突、つきあたる、つきかかる。
しようさう[する](他) 衝撞、つく。
しようさく 承德(日本自一千七百五十七年至一千七百五十八年、西洋自一千九十七年至一千九十八年)(年號)。
しようさくてんわう 稱德天皇(人皇第四十八代の女帝、紀元一千四百二十五年(西洋紀元七百六十五年)より一千四百二十九年迄、在位五年、孝謙帝の重祚なり高野天皇と號す、御壽五十三歳にして崩ず)。
しようち 勝地、けしきよきところ、勝區、名區。
しようち[する](他) 承知、うけひく、うけがふ。

じようぢよ 乘除、かけることとわることと、十さしひき。
じようちやう(形) 冗長、ながたらしき、むだにながき。
しようり(名) 勝利、かち、十かちいくさ、たたかひかつこと。
しようりう(名) 承霤、たてどい。
じようりう[する](他) 蒸溜、らんびきにかける。
じようりうき(名) 蒸溜器、らんびき、蒸溜罐。
じようりうする(名) 蒸溜水、らんびきにかけたるみづ。
しようりやう[する](他) 承領、うけとる、十うけたまはる。
しようりやう[する](他) 稱量、はかる。
しようりやく 承曆(日本自一千七百三十七年至一千七百四十年、西洋自一千七十七年至一千八十年)(年號)。
しようわう 承應(日本自二千三百十二年至二千三百十四年、西洋自一千六百五十二年至一千六百五十四年)(年號)。
しようわ 承和(日本自一千四百九十四年至一千五百七年、西洋自八百三十四年至八百四十七年)(年號)。
しようかう 昇降、のぼりくだり、登降。
しようかう(名) 松膏、まつやに。
しようかう(名) 鬆糕、かすていら(菓子の名)。
しようかう(名) 承行、かかりやく(官署の)。
しようがう(名) 稱號、となへ、な。
しようよ(名)、—する(他) 稱譽、ほまれ、ほむる。

じようよ（名）剰餘、あまり。よぶん。
じようよ（名）乘與、のるこし、みこし、天子の。
しようよう（副形）從容、あちつきて、十さわがず、平氣、自若。
しようよう〔する〕（他）鞭韃、すすめる。
しようたう（名）松濤、まつかぜ（松の枝を吹きて響を發する風をいふ、また鐵瓶湯釜などの沸きかゝる音をいふ、松籟。
しようだう〔する〕（他）稱道、となへる、いふ、いひはやす。
しようだく（名）—する（他）承諾、うけがひ、うけひき、十うけがふ、しようちうする。
〔しようれい〕（副）縱令、たとひ、假令。
しようれつ　勝劣、まさりをとり、優劣。
しようそく（名）承足、あしだい。
じようそん（名）仍孫來孫の孫、昆孫の子をいふ、ぞぞりこのこ「しもん」の下を見よ。
しようねん　稱念彌陀の名を稱へ心に念ずるを云ふ。
しようらう（名）松蘿、さかりごけ（植物）。
しようらい（名）松籟、まつかぜ（松の樹の枝に吹きわたる風、松韻。
しようらん（名）—〔する〕（他）縱覽、かつてにみること、自由自在に觀覽するをいふ、じゆうらん。
しようらん〔する〕（他）承攬、うけとる、うけおる（手にものを。
しようく（名）承句（漢詩の第二句）。
しようく　勝區、めいしよ、なだかきところ、勝地、名區。
しようく〔する〕（自）悚懼、おそれる。
しようぐ（形）參愚、おろか。

じようくわ　松花、まつのはな、松蘂。
しようくわう或じゆうわう　縱橫、たてとよこ、たてよこ。
しようくわうてんわう　稱光天皇（人皇第百一代の帝、紀元二千〇七十三年西祥紀元二千四百十三年）より二千〇八十八年迄、在位十六年、御諱二十八歳）。
しようくわん（名）〔する〕（他）慫慂、すすめる、はげます。
しようぐわん（形）奏頌、かたいなかたくな。
しようぐわんぼく（名）勝軍木、ぬるで、白膠木（植物）。
じようや　乘夜、よにまぎれる、十よるをつけこむ。
しようやう〔する〕（他）稱揚、ほめあげる、ほめそやす。
しようやう（名）松陽、もしやのき（植物）。
しようま（名）升麻、とりのあしぐさ、とりあしくさ（植物）。
しようまん（形）冗漫、ながたちしき、冗賓、くだくだしき。
しようまんあいぜんそ　勝鬘愛協會（昔し太陰曆六月朔日大坂島之内にて行ひし祭禮）。
しようまんけい　勝景、よきけしき、絶景、美景。
しようまんけい〔する〕（他）承繼、うけつぐ、繼承。
しようまんけん（名）證券、しようもん、てがた。
しようまんげん（名）證言、證人の言語。
しようまんじ　名區。
しようまんじ（名）證據、あかし、しるし。
しようまんしや（名）證人、あかしびと。
じようてき（名）繩工、なはなひもの。
じようてき〔する〕（自）悚惕、おそれる。
じようでん（名）昇殿（昔し四位以上及び藏人の六位のものゝお禁裡の御殿にのぼるをゆるされをいふ）。
しようとう（名）證憑、めいつくしもの、かはゆがる、贔屓。
しようとうあん（名）詔奏、うつたへがき。
しようとうあん（名）承安（日本自一千八百三十一年至一千八百三十四年、西祥自一千百七十一年至一千百七十四年三年號）。
しようとさ（名）證左、あかし、しようこ。
じようとさい（名）菘菜、たうな（植物）。
じようとさい〔する〕（他）乘載、のせる（物を車などに）。
しようとさう（名）剩鬼爪、はりえにしだ（植物）。
しようとさん（名）勝算、かつみつもり（戰爭に勝利を得る見積をいふ、勝算我に在りなど用ふ）。
しようとさん（名）〔する〕（他）稱讚、ほめたたへる。
じようとさん（名）乘算、かけざん。
じようとさん（名）鋪瘡瘍魚を鋪る神の名。
しようとさん（名）〔する〕（自）松悴、あわてもそゝる。
じようとさよ（名）蒸氣、ゆげ（湯の氣）。
しようとさよ（名）松魚、かつを（動物）。

しようとよう（副）雄雉、おごそかに、おそるおそる。
しようとよう（副形）蒸溽、むしあつき。
しようとう　承久（日本自一千八百七十九年至一千八百八十一年、西祥自一千二百十九年至一千二百二十一年二年號）。
じようとうきくわん　蒸氣鑵、じようきがま、ゆげがま。
じようとうきかい　蒸氣器機、じようきじかけ。
じようとうし（名）繩技師、かるわざし。
じようとうしや（名）蒸氣車、をかじようき、鐵道汽車。
じようとうせん（名）蒸氣船、火輪船、汽船。
しようとうせん（名）松蘿、まつたけ（植物）。
しようとうゆ〔する〕（他）悠遊、すすめたつる。
しようとうめい（名）乘馬、のりうま。
しようとうめい（名）松明、たいまつ、炬火。
しようとうみやう　稱名、なをとなへる、佛名を稱ふること。
じようみん（名）蒸民、おほくのたみ、萬民。
〔しようし〕（副）縱使、たとひ、縱令、假令。
しようし（名）將指、あしのおほゆび。
しようし（名）松脂、まつやに。
しようし〔する〕（自）承仕、つかへまつる。
しようじ（名）賞辭、はめことば。
しようしよ（名）證書、しようもん、しようこのかきつけ。
じようしよ（名）蒸熱、もろびと、庶民。
じようしよ（形）蒸暑、むしあつき。
しようしよう（副）慢慢、ためらふ、たゆたふ。

しようしよう（副）雄雉、おごそかに、おそるおそる。
じようじよう（副形）蒸溽、むしあつくなりて、十つぼつくり。
しようじよう　承久（日本自一千八百七十九年至一千八百八十一年、西祥自一千二百十九年至一千二百二十一年二年號）。
じようじようきくわん　蒸氣鑵、じようきがま、ゆげがま。
じようじようきかい　蒸氣器機、じようきじかけ。
じようじようし（名）繩技師、かるわざし。
じようじようしや（名）蒸氣車、をかじようき、鐵道汽車。
じようじようせん（名）蒸氣船、火輪船、汽船。
しようしようせん（名）松蘿、まつたけ（植物）。
しようしようゆ〔する〕（他）悠遊、すすめたつる。
しようしようめい（名）乘馬、のりうま。
しようしようみやう　稱名、なをとなへる、佛名を稱ふること。
じようしん（名）蒸民、おほくのたみ、萬民。
〔しようし〕（副）縱使、たとひ、縱令、假令。
しようし（名）將指、あしのおほゆび。
しようし（名）松脂、まつやに。
しようし〔する〕（自）承仕、つかへまつる。
しようじ（名）賞辭、はめことば。
しようしよ（名）證書、しようもん、しようこのかきつけ。
しようしよ（名）蒸熱、もろびと、庶民。
しようしよ（形）蒸暑、むしあつき。
しようしよう（副）慢慢、ためらふ、たゆたふ。

しようせん〔する〕（自）鬪戰、つきたたかふ、決戰。
〔しようせん〕（副）雄然、おそれて、みのけよだちて。
しようする（名）稱讚、はかりのおもり。
しようする（名）承水、みづとぼし、十ゆとぼし。
しようのじつたい　曾十體古文、大篆、籀文、小篆、八分、隸書、章草、行書、飛白、草書。
しようく（名）燭、あかり、ともしび。
しようく（名）燭、つとめ、役。
しようく（名）—する（他）食、くひもの、くちふり。
しようく（名）卓子、ていぶる、だい。
しようく（名）私欲己を利せんとするの心情。
しようく（名）嘈談、このみ、たしみ。
しようく（名）変礼、ひかへくひ、とめぐひ。
しようくゐ（名）即位、そくゐ、登位天子の御位に即きたまふをいふ。
しようくいう（名）蝕朧、いぼむしり（動物）。
しようくいふ（名）食色、しよくぢ、りやうち。
しようくえん（形）職場、しごとば。
しようくにん（名）職人、しよくかた、手民。
しようくほう（名）食封、俸祿、領地、もちぶち、徒貫。
しようくもん（名）埴土、ねばつち、はにつち。
じようくもん（名）辱知、ちかづき、知己、知音。
しようくちよ（名）縮女、はたおりをんな、十たなばた太陰曆七月七日の夜行ふ祭事。
しようくちう（名）植蟲、蟲下等動物にして植物に似たるもの。
しようくちうしようくぶつ　食蟲植物、猪籠草、うつぼかづらで毛蟲若などの如く來りとまる昆蟲を押

（食ふ草木の總稱。
しよくりやう（名）食糧。しよくもつ。
しよくれう（名）食料。くひもの。
じよくれい（名）初発、はつもの、十はつ。
しよくむ（名）職務、やくめ、つとめ。
しよくぐ　食具、めしくひうつは。
しよくぐわん（名）飾縁、かざり、粧飾。
しよくふ　試抹布、ふきん。
しよくけい　試抹布、ふきん。
じよくげつ（名）陬月、正月、睦月、むつき。
じよくげふ（名）職業、なりはひ、十しやうばい。
じよくげん　食言、ことばをはむ、うそつく。
じよくげん（名）職官職の起原。
しよくぐ　食具、めしくひうつは。
しよくぐわん（名）飾縁、かざり、粧飾。
しよくふつ（名）試抹布、ふきん。
しよくけい　試抹布、ふきん。
じよくげつ（名）陬月、正月、睦月、むつき。
じよくげふ（名）職業、なりはひ、十しやうばい。
じよくげん　食言、ことばをはむ、うそつく。
じよくげん（名）職官職の起原。
しよくふ（名）雑巾、ふきん。
しよくきん（名）賜金、つくのひきん。
しよくみん　植民、ひとをうゑること、殖民、開墾地無人の地などに、十又うえたるたみ。
しよくし（名）食思、食気に同じ。
しよくし　職司、つかさ、十やくしよ。
しよくし　食指、ひとさしゆび（第二の指。
しよくし　職死、しなあなふ、いのちをかひとる。
しよくし（名）食時（昔の時刻にて午前の辰の時を然かいふ、十二時の下を見よ。
しよくじ（名）職事、しごと、つとめ。
しよくじ（名）雑事（農耕をいふ。
しよくじ（名）植字、うゑじ活版の一。
しよくじばん（名）植字板、くわつばん。
しよくじよ（名）習書、たうさぢ、もろこし植物。
じよくしよく（名）習書、ならひまなぶ。
しよくたく（名）食卓、めしくふだい、ぜん。
しよくれう（名）食料、くひもの。
じよくれい（名）初発、はつもの、十はつ。
しよくむ（名）職務、やくめ、つとめ。
しよくぐ　食具、めしくひうつは。
しよくぐわん（名）飾縁、かざり、粧飾。
しよくふつ　試抹布、ふきん。
しよくけい　試抹布、ふきん。
じよくげつ（名）陬月、正月、睦月、むつき。
じよくげふ（名）職業、なりはひ、十しやうばい。
じよくげん　食言、ことばをはむ、うそつく。
じよくげん（名）職官職の起原。
しよくふ（名）雑巾、ふきん。
しよくきん（名）賜金、つくのひきん。
しよくみん　植民、ひとをうゑること、殖民、開墾地無人の地などに、十又うえたるたみ。
しよくし（名）食思、食気に同じ。
しよくし　職司、つかさ、十やくしよ。
しよくし　食指、ひとさしゆび（第二の指。
しよくし　職死、しなあなふ、いのちをかひとる。
しよくし（名）食時（昔の時刻にて午前の辰の時を然かいふ、十二時の下を見よ。
しよくじ（名）職事、しごと、つとめ。
しよくじ（名）雑事（農耕をいふ。
しよくじ（名）植字、うゑじ活版の一。
しよくじばん（名）植字板、くわつばん。
しよくじよ（名）習書、たうさぢ、もろこし植物。
じよくしよく（名）習書、ならひまなぶ。
しよくてん（名）食堂、めしくひどころ、くひもの。
しよくあたり（名）中食、くひものあたり。
しよくさい（名）食采、りやうぶん、領地。
しよくざい　殖財、かねをふやす、生財。
しよくざいきん　醵銭金、つみをあがなふかね。
しよくさ（名）食気、くひけ、食欲。
しよくさ（名）色気、いろけ、愛慾、豊慾。
しよくさ（名）蜀葵、あふひ、たちあふひ、はなあふひ植物。
しよくさよ（する）〈他〉扶持、ふきとる、ぬぐふ。
しよくきん（名）賜金、つくのひきん。
しよくみん　植民、ひとをうゑること、殖民、開墾地無人の地などに、十又うえたるたみ。
しよくし（名）食思、食気に同じ。
しよくし　職司、つかさ、十やくしよ。
しよくし　食指、ひとさしゆび（第二の指。
しよくし　職死、しなあなふ、いのちをかひとる。
しよくし（名）食時（昔の時刻にて午前の辰の時を然かいふ、十二時の下を見よ。
しよくじ（名）職事、しごと、つとめ。
しよくじ（名）雑事（農耕をいふ。
しよくじ（名）植字、うゑじ活版の一。
しよくじばん（名）植字板、くわつばん。
しよくじよ（名）習書、たうさぢ、もろこし植物。
じよくしよく（名）習書、ならひまなぶ。
しよくてん（名）食堂、めしくひどころ、くひもの。
しよくあたり（名）中食、くひものあたり。
しよくさい（名）食采、りやうぶん、領地。
しよくざい　殖財、かねをふやす、生財。
しよくざいきん　醵銭金、つみをあがなふかね。
しよくさ（名）食気、くひけ、食欲。
しよくさ（名）色気、いろけ、愛慾、豊慾。
しよくさ（名）蜀葵、あふひ、たちあふひ、はなあふひ植物。
しよくさよ（する）〈他〉扶持、ふきとる、ぬぐふ。
しよくきん（名）賜金、つくのひきん。
しよくみん　植民、ひとをうゑること、殖民、開墾地無人の地などに、十又うえたるたみ。
しよくし（名）食思、食気に同じ。
しよくし　職司、つかさ、十やくしよ。
しよくし　食指、ひとさしゆび（第二の指。
しよくし　職死、しなあなふ、いのちをかひとる。
しよくし（名）食時（昔の時刻にて午前の辰の時を然かいふ、十二時の下を見よ。
しよくじ（名）職事、しごと、つとめ。
しよくじ（名）雑事（農耕をいふ。
しよくじ（名）植字、うゑじ活版の一。
しよくじばん（名）植字板、くわつばん。
しよくじよ（名）習書、たうさぢ、もろこし植物。
じよくしよく（名）習書、ならひまなぶ。
しよくてん（名）食堂、めしくひどころ、くひもの。
しよくあたり（名）中食、くひものあたり。
しよくさい（名）食采、りやうぶん、領地。
しよくざい　殖財、かねをふやす、生財。
しよくざいきん　醵銭金、つみをあがなふかね。
しよくさ（名）食気、くひけ、食欲。
しよくさ（名）色気、いろけ、愛慾、豊慾。
しよくさ（名）蜀葵、あふひ、たちあふひ、はなあふひ植物。
しよくさよ（する）〈他〉扶持、ふきとる、ぬぐふ。
しよくきん（名）賜金、つくのひきん。
しよくみん　植民、ひとをうゑること、殖民、開墾地無人の地などに、十又うえたるたみ。
しよくし（名）食思、食気に同じ。
しよくし　職司、つかさ、十やくしよ。
しよくし　食指、ひとさしゆび（第二の指。
しよくし　職死、しなあなふ、いのちをかひとる。
しよくし（名）食時（昔の時刻にて午前の辰の時を然かいふ、十二時の下を見よ。
しよくじ（名）職事、しごと、つとめ。
しよくじ（名）雑事（農耕をいふ。
しよくじ（名）植字、うゑじ活版の一。
しよくじばん（名）植字板、くわつばん。
しよくじよ（名）習書、たうさぢ、もろこし植物。
じよくしよく（名）習書、ならひまなぶ。

しよくたく（名）食卓、めしくふだい、ぜん。
しよくれう（名）食料、くひもの。
じよくれい（名）初発、はつもの、十はつ。
しよくむ（名）職務、やくめ、つとめ。
しよくぐ　食具、めしくひうつは。
しよくぐわん（名）飾縁、かざり、粧飾。
しよくふつ　試抹布、ふきん。
しよくけい　試抹布、ふきん。
じよくげつ（名）陬月、正月、睦月、むつき。
じよくげふ（名）職業、なりはひ、十しやうばい。
じよくげん　食言、ことばをはむ、うそつく。
じよくげん（名）職官職の起原。
しよくふ（名）雑巾、ふきん。
しよくきん（名）賜金、つくのひきん。
しよくみん　植民、ひとをうゑること、殖民、開墾地無人の地などに、十又うえたるたみ。
しよくし（名）食思、食気に同じ。
しよくし　職司、つかさ、十やくしよ。
しよくし　食指、ひとさしゆび（第二の指。
しよくし　職死、しなあなふ、いのちをかひとる。
しよくし（名）食時（昔の時刻にて午前の辰の時を然かいふ、十二時の下を見よ。
しよくじ（名）職事、しごと、つとめ。
しよくじ（名）雑事（農耕をいふ。
しよくじ（名）植字、うゑじ活版の一。
しよくじばん（名）植字板、くわつばん。
しよくじよ（名）習書、たうさぢ、もろこし植物。
じよくしよく（名）習書、ならひまなぶ。
しよくてん（名）食堂、めしくひどころ、くひもの。
しよくあたり（名）中食、くひものあたり。
しよくさい（名）食采、りやうぶん、領地。
しよくざい　殖財、かねをふやす、生財。
しよくざいきん　醵銭金、つみをあがなふかね。
しよくさ（名）食気、くひけ、食欲。
しよくさ（名）色気、いろけ、愛慾、豊慾。
しよくさ（名）蜀葵、あふひ、たちあふひ、はなあふひ植物。
しよくさよ（する）〈他〉扶持、ふきとる、ぬぐふ。
しよくきん（名）賜金、つくのひきん。
しよくみん　植民、ひとをうゑること、殖民、開墾地無人の地などに、十又うえたるたみ。
しよくし（名）食思、食気に同じ。
しよくし　職司、つかさ、十やくしよ。
しよくし　食指、ひとさしゆび（第二の指。
しよくし　職死、しなあなふ、いのちをかひとる。
しよくし（名）食時（昔の時刻にて午前の辰の時を然かいふ、十二時の下を見よ。
しよくじ（名）職事、しごと、つとめ。
しよくじ（名）雑事（農耕をいふ。
しよくじ（名）植字、うゑじ活版の一。
しよくじばん（名）植字板、くわつばん。
しよくじよ（名）習書、たうさぢ、もろこし植物。
じよくしよく（名）習書、ならひまなぶ。

（食ふ草木の總稱。
しよくりやう（名）食糧。しよくもつ。
しよくれう（名）食料。くひもの。
じよくれい（名）初発、はつもの、十はつ。
しよくぐわ　雑菓、かきもの及ゑ。
しよくぐわい　初會、はつたいめん、はじめてあふこと。生面。
じよくぐわい　舒懐、おもひをのべる。
じよくぐわい（名）石灰、蛤灰、こくそ。
しよくぐわいきやく　初會客、はじめてきたれるきやく。生疎遊女の語。
しよくぐわつ（名）所轄、しはいした。
しよぐわくぐわい（名）雑芸賀宴茶、重臣が多人數相會して其技能を顕はすをいふ。
しよぐわてふ　雑蝶、ちやきものゝのはん。
しよくぐわん　初試、うひかわり。
しよくぐわん（名）署政、しよくわん、務職。
[しよくぐわん]（名）綜理、をだまき。
しよくぐわん（名）所管、しはいしよ。
しよぐわん　所願、ねがふところ、ねがひ。
しよくか（名）燭架、ちふそくだい。
しよくかく（名）燭角、燈扇などの一つの又はひげ、そくかく。
しよくかく（名）食客、いさうちよ、かかりうど。
しよくより　食用、くうふにもちふる。
しよくよく（ク）食欲、くひたきおもひ。
しよくたい（名）食滞、くひたれ、不消化。
しよくだい（名）燭臺、ちふそくだて。
しよくだたり（名）食祠、しよくたい。
しよくだう（名）食堂、めしくひど。
しよくだう（名）食道、くひものみち、喉の内にて食物のとほる孔。

しよくたく（名）食卓、めしくふだい、ぜん。
しよくれう（名）食料、くひもの。
じよくれい（名）初発、はつもの、十はつ。
しよくむ（名）職務、やくめ、つとめ。
しよくぐ　食具、めしくひうつは。
しよくぐわん（名）飾縁、かざり、粧飾。
しよくふつ　試抹布、ふきん。
しよくけい　試抹布、ふきん。
じよくげつ（名）陬月、正月、睦月、むつき。
じよくげふ（名）職業、なりはひ、十しやうばい。
じよくげん　食言、ことばをはむ、うそつく。
じよくげん（名）職官職の起原。
しよくふ（名）雑巾、ふきん。
しよくきん（名）賜金、つくのひきん。
しよくみん　植民、ひとをうゑること、殖民、開墾地無人の地などに、十又うえたるたみ。
しよくし（名）食思、食気に同じ。
しよくし　職司、つかさ、十やくしよ。
しよくし　食指、ひとさしゆび（第二の指。
しよくし　職死、しなあなふ、いのちをかひとる。
しよくし（名）食時（昔の時刻にて午前の辰の時を然かいふ、十二時の下を見よ。
しよくじ（名）職事、しごと、つとめ。
しよくじ（名）雑事（農耕をいふ。
しよくじ（名）植字、うゑじ活版の一。
しよくじばん（名）植字板、くわつばん。
しよくじよ（名）習書、たうさぢ、もろこし植物。
じよくしよく（名）習書、ならひまなぶ。
しよくてん（名）食堂、めしくひどころ、くひもの。
しよくあたり（名）中食、くひものあたり。
しよくさい（名）食采、りやうぶん、領地。
しよくざい　殖財、かねをふやす、生財。
しよくざいきん　醵銭金、つみをあがなふかね。
しよくさ（名）食気、くひけ、食欲。
しよくさ（名）色気、いろけ、愛慾、豊慾。
しよくさ（名）蜀葵、あふひ、たちあふひ、はなあふひ植物。
しよくさよ（する）〈他〉扶持、ふきとる、ぬぐふ。
しよくきん（名）賜金、つくのひきん。
しよくみん　植民、ひとをうゑること、殖民、開墾地無人の地などに、十又うえたるたみ。
しよくし（名）食思、食気に同じ。
しよくし　職司、つかさ、十やくしよ。
しよくし　食指、ひとさしゆび（第二の指。
しよくし　職死、しなあなふ、いのちをかひとる。
しよくし（名）食時（昔の時刻にて午前の辰の時を然かいふ、十二時の下を見よ。
しよくじ（名）職事、しごと、つとめ。
しよくじ（名）雑事（農耕をいふ。
しよくじ（名）植字、うゑじ活版の一。
しよくじばん（名）植字板、くわつばん。
しよくじよ（名）習書、たうさぢ、もろこし植物。
じよくしよく（名）習書、ならひまなぶ。

しよくりやう（名）職業、やくめ、つとめ。
しよくよくじやう（名）食傷、くひすぎ、くひすぎやまひ。
しよくしやう（名）織匠、おりものし。
しよくしゆ（する）〈他〉贖取、あがなひかへす、十うけもどす。
しよくしゆゆ（名）食米実、かちすざんせう（植物）。
しよくしん　賜身、みをおおなふ。
しよくもつ（名）食物、たべもの、くひもの。
しよくもく（する）屠目、ぞくもく、めをつける。
しよくせり（名）蜀椒、なつはじかみ、さんせう（植物）。
じよくせき（名）蓐席、ふとん、しとね。
しよくせん（名）卓餞、ていぼるかけ、ぜんかけ。
しよくすんのし　燭寸詩（蠟燭の一寸燃ゆる時間に詩を賦するをいふ。
しよや　初夜、今の夜の八時ごろ。
しよやく（名）諸役、いろいろの役前。
しよまい（名）精米、くましね、かしよね、洗米。
しよまう（名）（一する〈他〉）所望、のぞみ、十こひのぞむ。
じよまく（名）序幕、はじめのまく、くちあけのまく、劇に云ふ。
しよけ（名）所化、弟子の僧、いやしきばうず（能化を見よ。
しよけい（名）庶兄、めかけばらのあに。
しよけい（名）書契、文字にてかきしるしおくこと、十文字。

しよくりやう（名）職業、やくめ、つとめ。
しよくよくじやう（名）食傷、くひすぎ、くひすぎやまひ。
しよくしやう（名）織匠、おりものし。
しよくしゆ（する）〈他〉贖取、あがなひかへす、十うけもどす。
しよくしゆゆ（名）食米実、かちすざんせう（植物）。
しよくしん　賜身、みをおおなふ。
しよくもつ（名）食物、たべもの、くひもの。
しよくもく（する）屠目、ぞくもく、めをつける。
しよくせり（名）蜀椒、なつはじかみ、さんせう（植物）。
じよくせき（名）蓐席、ふとん、しとね。
しよくせん（名）卓餞、ていぼるかけ、ぜんかけ。
しよくすんのし　燭寸詩（蠟燭の一寸燃ゆる時間に詩を賦するをいふ。
しよや　初夜、今の夜の八時ごろ。
しよやく（名）諸役、いろいろの役前。
しよまい（名）精米、くましね、かしよね、洗米。
しよまう（名）（一する〈他〉）所望、のぞみ、十こひのぞむ。
じよまく（名）序幕、はじめのまく、くちあけのまく、劇に云ふ。
しよけ（名）所化、弟子の僧、いやしきばうず（能化を見よ。
しよけい（名）庶兄、めかけばらのあに。
しよけい（名）書契、文字にてかきしるしおくこと、十文字。

しよけい（名）書契、夜学するに用ふるあかり。
しよけつ（する）〈他〉虚決、とりさばく、十つみをゆるす。
しよげつ　陬月、睦月、むつき、正月。
しよげつ　初月、みかづき、新月、一始めて出づる月。
じよげつ　如月、きさらぎ、太陰暦二月の異名。
じよげう（名）助数、数授を補助する職、十また舊官名、すけはかせ、大學寮の官名、唐名國子助教。
しよげふ（名）序言、はしがき、書冊の一。
しよげん（名）所業、しわざ。
じよげん（名）緒言、序言、はしがき、書冊の一。
じよふく（名）書幅、もじのかけもの。
しよふく（する）〈他〉處分、とりあつかふ。
じよふん（名）書賁、はんや、書店。
しよこ（名）庶姑、しうとめ。
しよさ（名）繁語、こまやかなることば。
しよさ（する）〈他〉署記、かきしるす名などを。
しよさう（名）贈場、かきごと動物。
じよさつ（名）書札、てがみ。
じよさつ（する）〈他〉起案、おもひやる。
じよざう　所蔵、をさむるところ、書物珍器などにいふ、所有。
しよさぶたい（名）所作舞臺、おきぶたい、舞臺の一種。
しよさん（名）暑熱、かたびら、なつぎ。
しよさ（名）書記、かきやく、かくひと。
しよさ（名）暑気、あつさ、炎暑。
しよさ　庶幾、こひねがはくは、十ちかし。
しよさ（する）〈他〉署記、かきしるす名などを。
しよさう（名）贈場、かきごと動物。
しよさくわん（名）書記官、官名。
しよさやう（名）所行、ふるまひ、所爲、おこなふところ。
しよさせい（名）書記生、かきやく。
しよめい（する）署名、なまへをかく。
しよめい　助命、いのちをたすくる。
じよめいてんわう　舒明天皇、人皇第三十四代の帝、紀元一千二百八十九年（西洋紀元六百二十九年）より一千三百〇一年迄、在位十三年、陵墓四十九錐にして崩ず。
しよめん（名）書面、てがみのおもて、十書簡、てがみ。

しよけい（名）書契、夜学するに用ふるあかり。
しよけつ（する）〈他〉虚決、とりさばく、十つみをゆるす。
しよげつ　陬月、睦月、むつき、正月。
しよげつ　初月、みかづき、新月、一始めて出づる月。
じよげつ　如月、きさらぎ、太陰暦二月の異名。
じよげう（名）助数、数授を補助する職、十また舊官名、すけはかせ、大學寮の官名、唐名國子助教。
しよげふ（名）序言、はしがき、書冊の一。
しよげん（名）所業、しわざ。
じよげん（名）緒言、序言、はしがき、書冊の一。
じよふく（名）書幅、もじのかけもの。
しよふく（する）〈他〉處分、とりあつかふ。
じよふん（名）書賁、はんや、書店。
しよこ（名）庶姑、しうとめ。
しよさ（名）繁語、こまやかなることば。
しよさ（する）〈他〉署記、かきしるす名などを。
しよさう（名）贈場、かきごと動物。
しよさくわん（名）書記官、官名。
しよさやう（名）所行、ふるまひ、所爲、おこなふところ。
しよさせい（名）書記生、かきやく。
しよめい（する）署名、なまへをかく。
しよめい　助命、いのちをたすくる。
じよめいてんわう　舒明天皇、人皇第三十四代の帝、紀元一千二百八十九年（西洋紀元六百二十九年）より一千三百〇一年迄、在位十三年、陵墓四十九錐にして崩ず。
しよめん（名）書面、てがみのおもて、十書簡、てがみ。

しよさ（名）所作、しわざ。
しよさい（名）書賁、はんや、書肆、書院、がくもんじよ。
しよざい（名）所在、ありか、住所、居所、所住。
しよざいち　所在地、あるところのち。
じよさいなき（俗）（形）無如才、ぬけめなき、无如在。
じよさつ（名）書札、てがみ。
じよさつ（する）〈他〉起案、おもひやる。
じよざう　所蔵、をさむるところ、書物珍器などにいふ、所有。
しよさぶたい（名）所作舞臺、おきぶたい、舞臺の一種。
しよさん（名）暑熱、かたびら、なつぎ。
しよさ（名）書記、かきやく、かくひと。
しよさ（名）暑気、あつさ、炎暑。
しよさ　庶幾、こひねがはくは、十ちかし。
しよさ（する）〈他〉署記、かきしるす名などを。
しよさう（名）贈場、かきごと動物。
しよさくわん（名）書記官、官名。
しよさやう（名）所行、ふるまひ、所爲、おこなふところ。
しよさせい（名）書記生、かきやく。
しよめい（する）署名、なまへをかく。
しよめい　助命、いのちをたすくる。
じよめいてんわう　舒明天皇、人皇第三十四代の帝、紀元一千二百八十九年（西洋紀元六百二十九年）より一千三百〇一年迄、在位十三年、陵墓四十九錐にして崩ず。
しよめん（名）書面、てがみのおもて、十書簡、てがみ。

じよめん〔する〕(他) 赦免、ゆるす。
しよし(名) 書簡、てがみ、書柬。
しよし(名) 處士、居士、官に仕へぬ士。
しよし(名) 處子、をとめ、こむすめ、へやずみむすめ、處女。
しよし(名) 書牘、はんみせ、書林、はんや。
しよし(名) 書史、ふみまき、書物。
しよし 庶子、わきばらのこ、めかけのこ。
しよし 書靜、ふみのことば。
しよし 諸事、萬端、よろづのこと。
じよし(名) 序次、順序、段次、ついで。
じよし(名) 叙事、のべごと、いひつねごと、ことがらをえがくこと。
じよし(名) 助字、すけもじ、たすけじ。
しよしよ 處處、ところどころ。
しよしよ 處署二十四節の一。
じよじよ(形) 舒徐、ゆるやか、おもむろ。
じよじよ(副) 徐徐、そろそろ、しづしづ。
じよじよ〔する〕(他) 舒緩、のばる、いひのべる。
しよしよたい(名) 所司代、幕府の時代に帝都を守護せし役。
しよしよう 初秋、はつあき、孟秋、また太陰暦七月の異名。
しよしや〔する〕(他) 書寫、かきうつす。
じよしや〔する〕(他) 起牧、ゆるす。
しよじやく(名) 書籍(しよせき)、ふみ、はん、書物。
じよしやく 紋賢(爵位を授くる)。
しよしやざん 書寫山 播磨國西部にある山。
しよしき(名) 書式、かきかた、文例。
しよしき〔俗〕 諸色、諸貨物、もろもろのしなもの、諸品。
しよじゆ(名) 書師、ふみのはかせ。
じよじゆ〔する〕 紋授、官位を授くる。
しよじゆん(名) 庶出、めかけばらのこ、わきばらの。
じよじゆつ〔する〕(他) 紋述、のべる、いひのべる、叙述。
しよじゆく 舒縮、のびちぢみ。
じよしゆん(名) 初春、太陰暦正月の異名。
しよしゆん(名) 初旬、かみのとをか、月の一日より十日までをいふ。
しよしん〔俗〕(名) 初心、うひまなびのひと、十ものなれぬひと。
しよしん(名) 書信、てがみ。
しよしん(名) 初審、はつしらべ(裁判官の)。
しよしん(名) 警察、あせぼ。
しよしん(名) 處身、處女の身をいふ也、處女愛處。
じよじん 庶人、ただのひと、なみのひと、十又もろびと、衆庶。
しよしんもの 初心者、うひまなびもの、十なれぬもの。
じよせい(名) 所生、よしのこ、ゆかり。
じよせい(名) 助成、かきそへ、加筆。
しよせい(名) 負擔、輔人が帶の結びを高くするをいふ。
しよせい〔する〕(他) 助成、たすけなす、補成。
じよせつ(名) 絮話、やなぎのはな、やなぎわた、柳絮。
しよせつ(名) 書跡、かきあと、ふであと、筆蹟。
しよせん〔俗〕(副) 所詮、とても。
しよんぼり〔俗〕(副) 香然、ものさびしき體。
しよん(名副) 舌口の中に在りて言語を助けものを味ふもの。
しよん(名) 質、ふえのした。
しよん(名) 心、心眼、こころ又こころね。
しよん(名) 齒齦、はぐき、うちじ、きじのを、羊齒、鳳尾草、植物。
しよん 僧太氏。
じん 自儘、おのれとひとと、彼我。
じん(名) 耳殼、みみたぶ、十みみ。
じん 四體、肢體、四肢(頭身手足を云ふ、また兩手兩足をいふ。
しん(名) 紫苑、あまのり(植物)。
しん(名) 姿態、なりふり、すがた。
しん(名) 死體、なきがら、しかばね。
しん 至大、いたつてもはいなる。
しん 四大、地、水、火、風の四元素をいふ、佛教の語。
しん(名) 次第、順序、じゆん、ついで。
しん 私第、わたくしのすまひ、私邸、自邸官宅に對していふ。
じん(名) 事態、ありさま。
じん 自儘、みづからのからだ、自身、十みづから。
じん〔する〕(自) 辭退、いなむ、ことわる。
じん(名) 時代、ときよ、時世。

したいろ(名) 下色、したえの、染物の一。
したいん(名) 次第名、長男を太郎といひ二男を次郎といふが如き、また某王第一世第二世といふが如きは即ち次第名なり、排行、排輩、以上二つは支那にて用ふる稱。
しだいし 四大師(傳敎、弘法、慈覺、智證)。
しだいじ 四大寺(東大寺、興福寺、延曆寺、園城寺)。
じだいもの(名) 時代物、古物、わかしもの。
したば(名) 下葉、したのこのは。
したばそり(名) 下窄、したのかたのはそきこと。
したべ(名) 下方、しもべ、しものかた。
したまご(形) 舌長、はやことなる。
したまに(副) 舌利、くちばやく、はやくちに。
したち(名) 下地、したぬり、十ぢいろ。
したち〔俗〕(名) 謂語(しやうご)。
したちつこ(俗)(名) 下地子、雜銭、小銭、はんぎよく半錢を見よ。
したちやう(名) 草履、ひかへちやう。
したりがほ(名) 得意顏、はこりがほ、てかしがほ、じまんがほ。
しだりやなぎ(名) 垂枝、垂絲、櫻柳、猿背柳、いとやなぎ植物。
したを(名) 前夫、はじめのをつと。
したをまく 雀舌、驚きて默するをいふ。
したをふるふ 振舌、しやべる。
したれがき(名) 舌捏、ものいはず、もふし。
したれび(名) 褌、下帶、ふんどし、單に婦人のゆもじをいふ、したのをび。
したわれ(名) 杜仲、上總の方言、まさき、はいまゆみ、植物。
したがねや(名) 下金屋、ふるかねや、ふるかなものをかふひと。
したがまへ(名) 徘徊、ようい、したく、そなへ。
したがふ(自) 從、遵、隨、從順、隨從、十率由、循、還奉、よる、まもる、十尾從、追尾、あとをつける、十あらためぬ。
したがき(名) 下書、草稿、草案、案文、起草、檢子、評議、圖攝、あらかき。
したがひて(名) 內襯衣の下着をいふ。
したがひて(名) 服從者、したがふもの。
したたり(名) 滴、雫、滴、滴瀝、しづく。
したたか(副) 健、健、亙多、駿多、たくさん、あまた、いかめしく。
したたむ(自) 舌滑、くちにこる、くどもる。
したためる(他) 認、みとめる、十又「俗」かく、つくる手紙を。
したたみ(名) 小疊子、きさご、細螺、動物。
したたれる(自) 下垂、したたれる、草木にいふ。
したたれやなぎ(名) 垂柳「しだりやなぎ」に同じ(植物)。
したたれざくら(名) 垂櫻、植物。
したたづさ(名) 下司、したやくにん。
したたつくに(名) 黃泉、冥土、よみぢ。
したたき(名) 諫諍、どもり、したたらず、舌舌。
したたなめずり 舌舐、くちなめずり、犬猫等が食後口をなめること)。
したたら 設樂氏。
じたらく〔俗〕(形) 自墮落、しまりなき。
したたらごほり 設樂郡、參河國の郡の名、信北の二郡に分る。
したたむ(他) 漬水を、十覆酒を、しづくをたらしたび。
したたらず(名) 褌子、くつした、くつもらす。
したくら(名) 下鞍、鞦、きつつけ、此圖ごは裝飾國語田社儀鳥具。

[圖の鞍下]

したくみ（名）下組、したごしらへ、ようい、したく。
したやまち（名）下谷町、東京市下谷區の町名。
したまち（名）心待、こころまち。
したまち　志田町、東京市芝區白金の町名。
したふ（自）慕、戀慕、思慕、愛慕、こひしくおもふ、十飲慕、後慕、うらやむ。
したごろも（名）下衣、したぎ。
したごほり　志田郡、磐河國及び陸前國の郡の名。
したごころ（名）下心、そこい、心底。
したとき（名）舌扱、楊枝に附き居て舌を磨く具。
したて（名）下手、下風、かざし。
したてる（他）仕立、裁縫、ぬふ、衣服を。
したてかた　仕立方、したてやう、つくりかた。
したてや（名）仕立屋、表工、裁縫匠、ぬひもの し。
したあご（名）下顎、地顎、頷、したのかたのあご。
したき（名）薪、しばつけ、道具、ふしづけ。
したき（名）下著、内衫、襲衣、したにきるきもの。
しため（名）下目、ひくだすこと。
したみ（名）木壁、板壁、はめ、あまいた。
したみ（名）纏、したみざる。
したし（俗）（名）仕出、まかなひだし（料理の）。
したしさき（名）鶴口瓶、くちひび、舌胎。
したじた（副）淫淫、長雨などにて濕りたる貌。
したしむ（自）親、親睦、親近、親疎、和親、親睦、むつぶ。
したな（名）下菫、粉木、したがきえづ、したえづ。
したえだ　下枝、しづえ。
したひ（名）下稚、うめみぞ、陰溝、玉楨。
したび（名）下火、あとのくへたるひ、火事の火勢の衰へたるをいふ。
したびらめ（名）鰈鰨魚、下板魚（比目魚の一種にして其形狀薄圓體の一方に階眼あり常に海底に住む）動物。
したびげ（名）鬚、あごひげ。
したべつれ（名）舌縺、ことばどもること。
したもえ（名）下燃、火が上に燃ぜずして下にもりて燃るをいふ、また胴の焦るにたとへていふ。
したももひき（名）下穿、したにはくももひき。
したずり（名）試劑、ためしずり（印刷にいふ）。
したん（名）雲禮、かはりぎ、檀香、だんかう（植物）。
したん　四繩倶龍（仁之繩、善惡之繩、善惡之繩、辭讓（禮之端、辭讓之端、是非智之端）と孟子に見ゆ）。
したん（名）御國陸軍の軍團にて二旅團の稱。
じたん　寒暄、ことのはじめ。
じたん（俗）（名）示談、あひたいなかなはり。
じだんちやう　御國長一師團の長官をいふ。
じだんだ（俗）（名）領足、小兒の怒りて足ふみなちすること、地團。
しれい（名）（一）する（他）指令、ましづ、さしづし、十さしずする、しめす（政府が下吏に命を鄕ふるにいふ。
しれい（名）使令、めしつかひ。
しれい（名）孤獨、といし。
しれい（名）辭令、いひつけ、任免などの命令をいふ、辭令を受取るなど用ふ。
しれいくわん（名）司令官、さしづやく、指揮官。
じれる（俗）（自）憤悶、じれつたがる。

[鮭魚の圖]

しれわらひ（名）痴笑、あざかわらひ。
しれがましき（形）癡、おろかしき、ばからしき。
しれつ（する）（自）齒列、つらなる、よはひする。
しれり（名）資料、もとで、ざいれう。
しれう（する）（他）思料、思量、おもひはかる、思慮、思案。
しれき（名）齒歷、よはひ、とし。
しれもの（名）痴人、ばかもの、おろかもの。
しれもの（名）白癡、たはけ、愚人、白物、骨者、愚物、呆子。
しそ　繙素、くろごろもとしろごろも（僧俗をいふ）。
しそ（名）始祖、いやはじめのもの（始めて地上に出で來し人）、十また元祖。
しそ（名）私財、くにごと民事訴訟をいふ。
しそ（名）黨魁、のちえ植物。
しそ（名）戸素（戸位素餐の略、其位にありて其職責を盡さざること。
しそ（する）（自）踏跡、あとしざりする、逡巡、ためらふ。
じそ（名）辭書じしよ、いとまをかふみ、辭表。
じそ（する）（自）自訴、みづからうつたへでる。
じそり（自）自刎、じぶんぎり（腹などの）。
しそつ（名）士卒、いくさびと。
しそう（名）詞宗、文人學士を歌稱する詞なり、某詞宗などいふ、師は詞壇の下を參看せよ。
しそく（する）（自）止息、やむ。
しそく（自）四足、よつあし、十けもの。
しそく（名）子息、むすこ。
しそく（名）鉄燭鉄に硫油を塗りて作れる蠟燭の類、脂燭。
しぞく（する）（自）調練、つゞあとを。

[鮭魚の圖]

しぞく（名）士族、さぶらひ（華族の次に位する等級。
しぞく（名）支屬、えだわかれ。
しぞく（名）親族、みうち、しんぞく。
しぞく（名）支族、えだわかれ、ぶんけ。
しぞく（する）（他）指嗾、けしかくる。
じぞく（名）賦足、あぶらあし。
じぞく　時俗、ときのならはし。
じぞく（する）（自）次續、つちなる、つづく。
しそきき（名）紫蘇巻、紫蘇にて包みたるをいふ。
しそこなふ（他）仕損、しそんじ、しあやまる。
しそん（名）至尊、天子の稱。
しそん（名）子孫、まごこ、十すえ、兒孫、孚の子を孫、まごといひ、孫の子を曾孫、ひまごといひ、曾孫の子を玄孫、やしはごといひ、玄孫の子を來孫、らいそん）といひ、來孫の子を昆孫、こそん）といひ、仍孫の子を雲孫（つるのまご）といふ。
じそん（形）自尊、みづからたふとがる、みづからおごる、ようだいぶる。
じそん　結髪彌勒佛をいふ、慈氏。
しつ（名）室、二十八宿の一にして北方に在り、はつる ぼし。
しつ（名）漆、うるし。
しつ（名）室、いへ、十いへや（また妻の別稱。
しつ（名）蚕、かさ病名。
しつ（名）質、たち、かたち、うまれつき。
しつ（名）疾、やまひ、疾病。
しつ（名）疥癬、ひぜん。

[圖の室]

しつ（名）琴、大なる一種の琴にて、十九絃、二十五絃等あり。
しつ（名）倭文（布帛をいふ、しづはた。
しつ（形）賢、いやしき。
じつ（形）實、いつはりならぬ、十みちたる、むなしからぬ、十また實際、實行などの實。
じつ（名）實、まこと、眞實、ありのままなること、實を吐くなどいふ、十又すきまなきこと、ゆだんなきさま、敵の虚實をうかがふなどいふ、十また被謚數、おもなる衛の語なり、法を見よ。
しつい（名）失意、失望に同じ、得意の反對にして其志を得ざるをいふ。
しつい　遺衣、ぬれぎぬ、ぬれたるきもの。
しつる（名）疾威、ばうぎやく。
じつい（名）實意、まごころ、本心。
じつるき（名）日域、ひのもと、日本。
じついん（名）日陰、ひかげ、ひのくもり。
じついん（名）實印、はんとうのいん。
じつろく（名）失錄、みちをうしなふ。
じつろく（名）實錄、實說、まことのかきしるし（實際の出來事の記錄をいふ。
しつぱい（名）（一）する（自）失敗、しそこなひ、しくじり、やりそこなふ、失策。
しつぱい（名）疾病、やまひ。
しつぱた（名）賤機、おりもの。
しつぱたやま　賤機山（磐河郡安積郡に在る山）。
しつぱらひ（名）修殿、しんがり、殿、あとおさへ。
しつぱう（名）七寶金、銀、琉璃、車渠、瑪瑙、瑚珊、琥珀、十（名）（しつぱうやき、七寶燒。
しつぱう（名、—する（自）失望、のぞみをうしなふこと、十あてがはづれる。
しつぱう（する）（自）失意、おされる、失念。
じつぱうらく（名）室房、へや、ざしき、き。
じつぱうらくれ（名）十方暗（甲申より癸巳までの十日間の稱、此間は何事も相談きまらずといふ）。
しつぱうやき（名）七寶燒（陶器地に金銀貴を施したるもの。
しつぱく（する）（他）熱謂、しばる、くくる。
じつにふ　日入、昏しの時刻にて午後の酉の刻を然かいふ、十二時の下を見よ、ひのいり。
しつぱく（俗）（名）尻尾、しりを食獸の。
じつぱ　實母、うみのはは、まことのはは。
しつぽり（副）普然、しめやか、靜謐。
しつぽり（副形）沾涵、しつとりぬれたる、十靜然、しめやか。
じつぱつ（名）日役、ひのいり、日入。
しつぱく（名）卓子、食物を乘する臺。
しつぱく（形）質朴、すなほ、質素、質樸。
しつぱく（名）質木、あらき、ぬらぬき。
しつぺい（名）疲病、やまひ。
しつぺい（名）竹篦、小責を懲す具、たけのむち。
しつぺいか（名）執柄家、政權を握る人。
しつぺい（名）（一）する（他）獘却、ねたみ、ねたれ、十詬恩、それも。
じつざ（俗）（副）儼然、さわぬ顏、自若。
しつざら（名）膝頭、ひざがしら。
じつざら（名）日東、ひのもと、日本。

じつさうじん 十等人(王、公、大夫、士、皁、輿、隸、僚、僕、臺)。
しつさく(名) 失德、あやまち、あやまり、非。
じつとく(名) 十德(道士の服)。
じつとく 拾得(支那の奇士の名、豐干禪師道傍に拾ひ擧げたる故に拾得と云ふとぞ、常に寒山と交はれり、其終りを知る人なし)。
しつち(名) 濕地、ぬれつち、しめりつち。
しつち(する) 疾馳、はやくはしる、疾驅。
じつち(名副) 實地、實際(實地に行なふことをいふ)。
しつぢよ(名) 室女、へやずみむすめ、をとめ、閨女、小女。
しつちよく(形) 質直、きすぐ、まつすぐ。
しつちん(名) 繻珍(「しゆちん」の俗音)。
しつりやう(名) 質量、かさ。
しつを(する) 嫉惡、そねみにくむ。
しづを(名) 賤男、いやしきをのこ、しもべ。
しづおり(名) 倭文、あやぬの(織物の名)。
しづをか 靜岡(駿河國の都會にして昔は駿府といへり、徳川家康退隱の地)。
しづをかけんちやう 靜岡縣廳(駿河國靜岡市に設置す)。
しつか(名) 室家、いへ。
しつか 膝下、ひざもと。
しつか(名) 執柯、なかだち。
しつか(名) 膝窠、ひざがしら。
しづか(名) 寧靜、閑靜、安靜、澄靜、太平、平穩、靜謐、靜穆、安寧、おだやか、十寂寥、寂寞、幽靜、蕭索、蕭條、幽寂、ものさびしき。
じつか(名) 實家、さとかた、うまれたるいへ。

じつか 實價、はんねだん、まことのあたひ。
しつかい(副) 悉皆、のこらず、みな。
しつかい(名) 桎械、いましめ、なはめ。
じつかい 十戒(五戒、食、肉、邪見、鬪諍、欺誑にて佛教の說)。
じつかい 十界(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上、聲聞、綠覺、菩薩、佛)。
しづかにあゆむ 徐行、徐步、緩步、閑步、おもむろにあるく。
しつかにん(名) 執家人、しはいにん、家宰。
しつかり(俗)(副) 切實、かたく、固密。
しづがたけ 志津岳(近江國伊香郡に在る有名の山、賤ケ岳とも書く、賤ケ岳七本鎗などいふ)。
しづがたけしちほんやり 志津嶽七本鎗(福島正則、加藤清正、加藤嘉明、平野長泰、脇坂安治、糟屋內膳、片桐市正、秀吉が賤ケ岳にて柴田勝家を擊ちし時に先登したる七勇士)。
しつかう(する)(自) 膝行、ひざにてあるく、ゐざる。
しつかう(する)(他) 執行、とりおこなふ(裁判を實行するをいふ)、十名(職役の名)。
しつかう(する)(自) 疾行、はやくあるく。
じつかう(する)(他) 實行、おこなふ(實地にふみ行ふ)。
じつかう 實效、たしかなるききめ、しるし。
しつかういうよ 執行猶豫(刑罰の執行を猶豫して當分これが行狀に徵すること)。
じつかん 十幹(或は十干と書す、甲乙(木)、丙丁(火)、戊己(土)、庚辛(金)、壬癸(水)之を十干といふ、又甲を閼逢といひ、乙を旃蒙といひ、丙を柔兆といひ、丁を彊圉といひ、戊を著雍といひ、己を屠維といひ、庚を上章といひ、辛を重光といひ、壬を玄默といひ、癸を昭陽といふ)。

しつた(する)(他) 叱咤、しかる、ののしる。
しつた 悉陀、悉達(釋尊の幼名)。
しつたい(形) 失體、はぢになる、はづべき。
じつたい(名) 實體、正體、本體、まさみ、まことのかたち。
しつたつ(する)(他) 執達、とりつぎたてまつる(他の人の書あるひは報告などを長上に取次ぎて奉るをいふ)。
しつたつり(名) 執達吏(法廷に隸屬して財產差押などの法務を掌る吏人をいふ)。
しつたう(形) 失當、はふにかける、不都合。
しつたんしやう 悉曇章(梵字の學をいふ)。
しつれい(形) 失禮、ゐやをかく、失敬、ぶしつけ、ぶれい。
しつれい(名) 疾癘、あしきやまひ。
しつそ(形) 質素、すなほ、かざりなき。
じつそ(名) 實礎(植物學にて子房をいふ)。
しつそう(する)(自) 失蹤、かけおちする、よにげする。
しつそう(する)(他) 執奏、とりつぎてまうしあげる(天子に)。
しつそう(する)(自) 疾走、はやくはしる。
しつそく 失足、ふみはづす、失脚。
しつそく 疾足、いちあし、逸足、はやあし。
しつそく(形) 疾速、すみやか、はやき。
しつつゐ(する)(自) 失墜、おちこむ、おちる。
しつねん(する)(俗)(他) 失念、わすれる、失忘。
しづないとほり 靜內郡(日高國の郡の名)。
じつらい 日來、ひごろ。

しつらふ(他) 經營、いとなみつくる、建造。
しづむ(自) 沈、淪、沈入、沈淪、沈歿、沈溺、沈湛、沈澱、ふかくはいる(水底に)。
しつう(名) 私通、みつつう、和姦、姦婬、くつつきあひ。
しつう 疾雨、はやあめ、はげしきあめ。
しつう(名) 齒痛、はいたみ。
しづうた(名) 靜歌(古への歌のふしの名)。
しつうざい 止痛劑、いたみどめぐすり。
じつうん 日暈、ひのかさ(日のまはりに時ありて顯はるる丸き形の暈)。
しづのを 賤男、いやしきをとこ、匹夫、賤夫。
しづのめ 賤女、いやしきをんな、匹婦。
しつく(する)(自) 疾驅、はやくはする。
しつく(名) 疾苦、やまひのくるしみ、病苦。
しづく(名) 雫、滴、しただり。
しつくい(名) 漆灰、沙灰、漆膠、灰泥、油石灰、いしうるし(物を塗るに用ふるもの)。
しづくいしがは 雫石川(陸中國岩手郡の葛根田山より發す、「しづくしがは」とも呼ぶ)。
しつくりと(俗)(副) 緊密、ひつたりと。
しつくわ(名) 失火、くわじ、出火、ひをうしなふこと。
[**じつぐわい**](副) 日外、いつぞや。
しつぐう 室隅、いへのすみ。
しづやか(形) 靜肅、ひつそり、しづか。
しづやかに(副) 靜、ひつそりと、しづかに。
しづまる(自) 鎭靜、鎭定、平定、をさまる、おちつく、さわぎやむ。
しつけ(俗)(名) 躾(國字)、習氣、そだてかた(行儀作法を敎へならはすること)。

しつけい(名) 失計、しくじり、失策、やりそこなひ、あやまち。
しつけい(形) 失敬、ぶれい、ゐやなき、ぶしつけ。
[**じつけい**](名) 日詣、ひまうで、日參、ひまゐり。
じつけい 實景、まことのけしき、眞景、まことのさま。
しつけかた 仕付方、躾方、敎養法、そだてかた、をしへかた。
じつげつ 日月、ひつき、烏兎。
じつげつたう(名) 日月桃(源平桃に同じ)(植物)。
じつげふか(名) 實業家、かたきわざするひと(「やましなど」に反す)。
しづけき(形) 靜、しづかなる。
しつけん(名) 執權(政權を執る人)。
しつけん(する)(他) 嫉嫌、そねみきらふ。
しつげん(名) 失言、いひあやまり、過言、十いひそこなひ。
じつけん(する)(他) 實檢、あらためる(首級などを)。
じつけん(名)、—する(他) 實驗、ためし、こころみ、じつちにためす(實際に試驗して見るをいふ)。
じつけんだな 十軒店(東京市日本橋區內の地名)。
しつけんさう(名) 鼠麴草、はふとぎすさう、油點草(植物)。
じつぷ 實父、まことのちち。
じつぷ 實否、じつぴ、まことうそ。
しつぷう(名) 疾風、はやて、暴風、あらし。
しつぷうもくう 櫛風沐雨、かぜにくしけづりあめにかみをあらふ(風雨ををかして勤勞奔走するをいふ)。

しつこ(名) 小便(小兒の語)。
しつご(名) 失語、いひそんじ、失言。
しつご(名) 失誤、あやまり、あやまち。
じつご(名副) 日午、まひる、ひるなか、正午。
しつこい(俗)(形) 漆膠、どくどくしい。
しつこく(形) 漆黑、うるしのごとくくろき(火に黑きをいふ)。
しつこく(名) 桎梏、てかせあしかせ。
しづごころなく 無閑心、やさしきこころなく、みやびごころなく。
しつこさう(名) 漆姑草、つめくさ(植物)。
しつごしやう(名) 失語症(簡易なる言語までも時に或は忘るる病症)。
じつこん(俗)(形) 入魂、したしき、十なかよき。
じつて(名) 十手、鐵尺、鎖挺(罪人を執ふるに用ふる鐵の短き棒)。
じつてい(名) 實體、まめやかなること、まこと。
じつてつ 十哲(顏回、閔損、冉伯牛、仲弓、宰我、子貢、冉有、季路、子游、子夏にて孔子の弟子中にて最も優れたる人、また芭蕉の十人の高弟を蕉門の十哲といふ)。
しつてんばつたう 七顚八倒(くるしみもだへるかたち)。
しつでんき(名) 濕電氣、電池により引出したる電氣にて乾電氣に對す、ガルハニズム。
しつあう(形) 執拗、かたいぢ、頑固、がうじやう、かたくな。
じつさい(名副) 實際(實地に同じ)。
しつさく(名) 失錯、しくじり、あやまり、失誤。
しつさく(名) 失策、しそこなひ、あやまり、失計、
しつき(名) 濕氣、しめりけ、しつけ。

しつき（名）漆器、ぬりもの、うるしぬれるもの、うるしをぬりたるうつは。
しつぎ（名）質疑、うたがひをただすこと、質問。
じつき（名）日暑、ひのかげ。
じつき　質素、まことのこころ。
じつきよ　質朴、たしかなるよりどころ。
じつきやう　質況、まことのありさま。
じつきやく（名）日脚、ひあし、ひのすすみ。
しつきごほり　後月郡備中國の郡の名。
じつきん（する）〔自〕　親近、なれちかづく、ちかづく。
しつめい　失明、めいをうしなふ、めがつぶれる、盲目。
じつめい（名）實名、まことのな、十なのり。
じつめいし（名）實名調物の名の調、名詞、なことば。
じつみやう（名）實名、はんみやう、十なのり。
しつし　失志、失望、ききにならぬ、もものひがとどかぬ。
しつし〔する〕　疾視、にくみみる、にらむ（人を疾みて視るなり。
しつじ（名）　執事事務を執り行ふ人。
じつし　實子、うみのこ、まことのこ。
じつじ（名）　實事、はんまごと、まことのこと。
じつじつよう　實證、まことのあかし。
しつじつ（名）　蟋蟀、こうろぎ、きりぎりす（動物。
しつじつ（名）　質質、かざりなきまごころ、すなはなること、ありのままなること（虞飾華美を用ひぬをいふ。
しづしづ（副）　徐徐、そろそろ、段段。
しつしつさう（名）　蟋蟀草、ちからぐさ（植物）。

しつしやう（名）　漆匠、ぬしや、ぬりものや。
じつしやう（名）　實性、まことのさが。
じつしやう（形）　實正、たしか、まこと。
じつじやう　實狀、ありてい、まことのありさま。
じつじやう　實情、まごころ、十又まことのこと。
しつしやう（名）　十姉妹、はこねうつぎ（植物）。
じつしやく　十炷香香の名。
じつしゆつ　日出、ひのて。
じつしゆつさん　日出山、ひじや（氏。
じつしゆう　十宗三論、法相、華嚴、俱舍、成實、律、淨土。
しつしゆく　室宿、はつろぼし二十八宿の一なり、「しつ」を見よ。
しつじゆん〔する〕〔自〕　遁巡、しめる。
しつしん（名）　失寢、ねそびれる。
しつしん（名）　實審、しらべ裁判所の。
じつしん（名）　日影、ひかげ。
じつえき（名）　疾疫、はやりやまひ。
しつぶん〔する〕〔他〕　嫉憤、ねみうちひ。
しつぴつ　氣筆、たうぐし。
しつぴつ（名）　筆法、もじをかくみち筆を執るなること、ありのままなること（虞飾華美を用ひぬをいふ。
しつぴつ〔する〕〔自〕　總比、こみあひならぶ、そろひならぶ、くしのはのごとくならぶ家屋などが。
しつぴつ（名）　執筆史、ふでとり、ものかき、いうひつ。
しつびう（名）　失謬、あやまち、あやまり。
しつもん（名）〔—する〕〔他〕　質問、きただし、ひただす疑點を。
しつせい（名）　執政政務を執り行ふ長官、宰相、攝政、せつしやう。
しつせい　七政、七曜即ち日月五星をいふ。
じつせつ　實設、まことのせつ、まことのはなし。
しつせう〔する〕〔自〕　失笑、わらひだす、ふきだす人の擧動の奇なるなどを見てたまりかねて笑を發するをいふ。
しつせき〔する〕〔他〕　叱責、しかる、せめる。
じつせき（名）　實跡、實際にふるまふこと。
しつせん（名）　頼、いね。
しねいさ（名）　羅、はたのあまりいと。
しねう（名）　之通走をいふ、しんにう。
しねん〔する〕〔他〕　思念、おもふ。
じねん（形）〔副〕　自然、しぜん、ものづから。
じねんばえ　自然生、のばえ、野生、十ひとりばえ。
じねんじよ（名）　自然薯やまのいも、山藥、零餘、うどもり（植物。
しな（名）　品、しなもの、十差、科、品等、等級、階級、盛等、品科、科目、くらゐ、うへした。
しな　支那（亞細亞洲中の一大國、唐土、漢土、もろこし。
しなほす　仕直、再做、しかへる。
しなざ　際戸氏。
しなかい　支那海、日本海の西南の大洋。
しながは　品川氏。
しながはちやう　品川町、東京市日本橋區の町。

しながはまち　品川町、武藏國荏原郡の町名。
しなかたち（名）　品形、姿態、かたち、ふうつき。
しながき（名）　物品帖、物件目錄、しなものものもく。
しなだれる（自）　隨轉、柔軟、しなびかかる、十あまへ、もたれかかる。
しなだま（名）　品玉、弄丸、弄玉、てづま。
しなだまつかひ（名）　弄球者、てづまし。
しなだれゆふ　垂撓「ささなみぢ」の枕詞。
しなれる（自）　仕馴、習慣、しつける。
しなり（名）　詩　詩囊作詩を入るふくろ、此圖はふくろ、此圖は京都伏見寶藏、

しなの　信濃東山道の國名。
しなのがは　信濃川　信州筑摩川犀川を合して越後に出で長岡を經て新潟にて海に注ぐ日本の最大河なり其長さ凡そ八十里。
しなのがき（名）　牛乳柿、君遷子、よめがき（植物）。
しなのぶじ　信濃富士　信州阿曇郡に在る有明山をいふ。
しなのぎく（名）　金盞菜（植物。
しなやか（形）　柔軟、弱機、逶麗、やはらか。
しなふ（自）　撓、しなしなする、まがる。
しなぶれ（名）　品膩、脂物膏に記せる物品。
しなさだめ（名）　品評、よしあしをあげつらふ、ひやうばんする（雋に男又は女の美醜賢愚などを評し

あみをいふ。
しなぎれ（名）　品切、うりきれ。
しなしな（形）〔副〕　極撓、しなふ貌、やはらか。
しなひる（自）　乾委、萎微、萎靡、かわきしをれる。
しなひたけ（名）　蜷竹、しなひ。
しなひつる（名）　順弦　藤放の弓に初めて張る弦をいふ。
しなん（名）〔—する〕〔他〕　擊劍、けんじゅつ、しあひ。
しなんしや（名）　指南　敎授すること、をし（をしふる。
南車手を以て南を指す人物を載せたる車にて磁石の代用を爲す、黃帝の作なりと云ひ傳ふ。
しらべ（名）　調、てうし琴などの。
しらべ（名）　白檜（植物。
しらべる（他）　奏、かなづる樂器を。
しらべる（他）　點檢、調査、たづねきはめる。
しらべうし（名）　白柏子　古の妓女のなしし雅の名、又はいしや、まひこ。
しらべやく（名）　審問官、しらべるひと。
しらべしよ（名）　調書、とりしらべがき。
しらち（名）　白血、白漿、白涎、婦人の病。
しらぬかごほり　白鹽郡劍路國の郡名。
しらぬひ（名）　不知火、海火、うみのひ、海蟲、
しらたいごほり　白老郡膽振國の郡名。
しらが（名）　白髮、素髮、皤髮、華髮、鶴髮、しらげ、しらきかみのけ。
しらかはてんわう　白河町（磐城國西白河郡の町名。の帝、紀元一千七百三十三年（西洋紀元一千〇七十三年）より一千七百四十六年迄、在位十四年（續書七十七歳にして崩ず）。

しらは　白鹿、しろきは、（鹿黑く染めぬ皆）。
しらはかうじ（名）　白羽柑子、實橘、遠州產名。鄙白羽柑より產出する蜜柑。
しらはた　白旗、しろきはた。
しらはだ（名）　白膚、しろきはだ、白膚膚。
しらはぎ（名）　白萩、屋窗菜、ぬまとらのを（植物。
しらにぎて（名）　白和幣（木綿を以て造りたる幣東。
しらぼしりさ（名）　白乾魚、鹽魚をつけずして乾したる魚。
しらべ（名）　結車結、いとよりぐるまのつる、はやいと。
しらべ（名）　調、てうし琴などの。
しらべ（名）　白檜（植物。
しらべる（他）　奏、かなづる樂器を。
しらべる（他）　點檢、調査、たづねきはめる。
しらべうし（名）　白柏子　古の妓女のなしし雅の名、又はいしや、まひこ。
しらべやく（名）　審問官、しらべるひと。
しらべしよ（名）　調書、とりしらべがき。
しらち（名）　白血、白漿、白涎、婦人の病。
しらぬかごほり　白鹽郡劍路國の郡名。
しらぬひ（名）　不知火、海火、うみのひ、海蟲、
しらたいごほり　白老郡膽振國の郡名。
しらが（名）　白髮、素髮、皤髮、華髮、鶴髮、しらげ、しらきかみのけ。
しらかはてんわう　白河町（磐城國西白河郡の町名。の帝、紀元一千七百三十三年（西洋紀元一千〇七十三年）より一千七百四十六年迄、在位十四年（續書七十七歳にして崩ず）。
しらかはぎち　白絲瀧（紀河國富士郡に在る瀧
しらいさのたき　白絲瀧（陸前國玉造郡に在る瀧の名、十また北海道後志國の瀧の名。
しらいさ（名）　白絲、素絲、しろきいと。
しらいさ（副）　子來子の如く集り來る、諸民子來すなどいふ。
しらい（する）　子來、それよりこのかた、そののち。
しらは　白魚（名）　雅冢（植物）。

しらかべ（名）　白壁。粉壁。しろくぬりたるかべ。
しらがまつ（名）　白松（植物）。
しらがまじり（形）　壺髪・頽白・半黒・半白髪の毛の灰色なるをいふ。
しらかゆ（名）　白粥。強飯。ただのかゆ。
しらかみ　白紙。しろきかみ。
しらかし（名）　樫樹。うちじろがし（植物）。
しらたか（名）　白鳶。しろきたか（動物）。
しらたまつばき（名）　白玉椿。千葉白（植物）。
しらたまこ　白玉粉。かんざらし米粉の寒曝。
しらたまあぶら（名）　白玉油（白玉椿の油）。
しらつち（名）　白堊。しろきつち。十精米土。
しらつゆ（名）　白露。薬の上に置ける露。
しらなみ（名）　白浪。蒼波。白く立ちあがる波。十又ぬすびと・盗賊の異名。
しらなん（名）　常磐蕨。あちせいとう（植物）。
しらむ（自）　白。しろくなる。あかるくなる。東が。
しらうを（名）　白魚。鮆條魚。鱠殘魚（動物）。
しらうめ（名）　白梅（植物）。
しらく〔する〕　刺絡。ちをとる。ちをだす。身體の中より。
しらく（名）　錬磨。いときり。
しらぐみ（名）　猫猴銭。こぐみ（植物）。
しらくも（名）　白禿。頭瘡。白禿風。白頂瘡。小兒の頭上に生ずるできもの。
しらくもだき　白雲縣。常陸國筑波郡に在る有名の瀑布。
しらやまきく（名）　東風菜（植物）。
しらまゆみ（名）　白檀弓。しろきまゆみ。
しらげ（名）　精米。かしよれ。白米。つきごめ。糠米。
しらけ（自）　昼敗色。まけいろになる。十興うすらぐ。十きようさめる。おもしろくなくなる。
しらげる（他）　糠・精・しろくする。つく〔米を〕。十しあげる。
しらげかんな（名）　精銅。しあげがんな。
しらげ〔俗・形〕　素夫。頑愚。まじめ。よはぬ。
しらふ（名）　白膚（植物）。
しらふぢ（名）　白沙魚（動物）。
しらふか（名）　白鮫。白花鷹（動物）。
しらふのたか（名）　白生鷹。白花鷹（動物）。
しらごけ（名）　石苔（植物）。
しらあへ（名）　白膾。白胡麻にて味を付けたる食物。白膾。
しらあわ　白泡。しろきあわ。
しらきや　素鞘。しろきのさや。刀の。
しらさぎ（名）　白鷺（動物）。
しらさぎ傘（名）　常磐傘。いちはつ（植物）。
しらさん（名）　白太。けづりき。十精。ぬちぬき弓の。
しらき　白木。けづりき。十精。ぬちぬき弓の。
しらき（名）　碁羅特。こくどのかし（植物）。
しらきごと（名）　新羅琴。十二絃の琴。
しらきじ（名）　白雉。白鷓（動物）。
しらきゆき（名）　白雪。しろきゆき。
しらみ（名）　風蝨。半風子（動物）。
しらみひも（名）　風紐。しらみよけひも（身體にまとふ紐。
しらびと（名）　白人。しろがった い。十しろきひと。
しらひげのやしろ　白髭社（江州坂賀郡に在り）。
比良社ともいふ。
しらも（名）　白漬。醃製菜。かたのり（海草を以て製する糊なり食用に供す可かラヂ）（植物）。
しらもも（名）　白桃。碧桃（植物）。
しらせ（名）　通知。通報。通告。報道。報告。警報。つげしらせ。
しらせる（他）　糠・精・しろくする。つく〔米を〕。十しあげる。
しらせる（他）　質知。通報。報知。つげる〔しらせをみよ〕。
しらす（名）　白洲。法廷。罪人を訊問するところ）。
しらす（名）　春魚（動物）。
じらす（他）　令領職。じれさする。
しらすぼし　白洲干。小さき白き魚を日に干したるもの。
しらすみ（名）　白炭。河内國より出づる一種の炭。
しらすみ（名）　芝蘭。白及。雲蘭。馬蘭。連及草。白給。甘根。しゆい（植物）。
しらん（名）　茶纏。ぶたごや。
しむ（自）　染。入。しみる〔身に〕。しみたむ。
じむ（名）　事務。こと。つとめ。わざ。
じむ　寺務。てらのつとめ。
じむくわん　事務官。事務を取扱ふ官人。
しむけ〔俗〕（名）　仕向。あつかひ。
じむきよく（名）　事務局。事務を扱ふ役所。
しら（名）　秋。あき。十又とき。
しら〔する〕（他）　飲。取。うけとる。收受なり。領收なり。收贓など書く。十又あつむる。よせる。墨草を收むるなど用ふ〔收斂。十又しまふ。とづる錠を收むるは店を閉づるなり〕。十やむる。收管は官を止むるなりてをさむる。十又よびあつむる。をさむる。收兵は軍兵を收拾するなり〕。
しら（名）　糸雨。きりさめ。こまかきあめ。霧雨。

しら（名）　絲竽。たうのいも（植物）。
じら（名）　時雨。しぐれ。
しらい（名）　狩衣。かりぎぬ。
しらる（名）　周圍。まはり。ぐるり。
じらい（名）　殘衣。よろひ。鎧甲。
じらい（名）　戎夷。えびす。夷狄。
じらい（名）　獣醫。けもののいしや。
じらる（名）　芜蔚。めはじき（植物）。
しらいつ（形）　秀逸。ひいでたる。秀抜。俊秀。絶秀。傑出。すぐれたる。
しらいう（名）　舟遊。ふなあそび。
しらいう〔する〕（自）　周遊。めぐりあそぶ。
しらいん（名）　收陰。纖女。たなばたつめ。
じらろ（名）　獣檻。しかみひばち。
しらろう（形）　醜陋。いやしくみにくき。ふきりやう。醜怪。
しらろん　衆論。公衆の議論。
しらは（名）　秋波。あきのなみ。めつき。十いろめ。婦人の目の愛嬌を含めるにいふ。
しらばい〔する〕（他）　收買。かふ。かひいれる。かひとる物品を。十又かふ。をさめる。人心を收買するなどいふ。即ち金銀などを散じて人心を得るなり。
じらはい（名）　残廃。いくさばた。軍旗。
しらばつ〔する〕（自）　秀抜。ひいづる。ぬきんづる。
しらはら（名）　一する　酬報。むくい。十むくいる。
じらはら（名）　鉄砲。てつぱう。鉄礮。
しらばく〔する〕（他）　收縛。ひつくくる。しばる。からめる。
しらほ〔する〕（他）　修補。つくろふ。修理。
しらほたん（名）　秋牡丹。きぶれぎく。しうめい

ぎく（植物）。
しらほう（名）　州封。もちぐに。領内。
しらぼく（名）　州牧。國守。くにのかみ。知事。
じらへい（名）　残兵。もしや。つはもの。
しらへき（名）　秀麗。たかきみね。たかね山の高き處をいふ。
しらへん（名）　周遍。まはり。めぐり。ぐるり。
しらへん〔する〕（自）　周遍。まはねくゆきわたる。普偏。
しらへんち（名）　周遍地。きんじよ。きんぼう。
しらざ（名）　舅。阿翁。夫の父をいふ。十外舅。岳父（妻の父を指す）。
しらざ（名）　衆徒。もろびと。ひとびと。
しらざ（名）　囚徒。めしうど。つみんど。
しらざう（名）　臭樫。柚。ゆう。かぶす。ゆず。蜜柑（植物）。
しらざと　元樫。むれにみつる（甚だ多きをいふ）。
しらざと（名）　鉄頭。だいじり（鑓砲の）。
しらざく（名）　窟徳。十積善。つみたるよきおこなひ。
しらざめ（名）　姑。夫の母。十外姑。宅母（妻の母）。
しらち　四至内。志字知氏。
しらち　幾地。やせち。あしきざめん。
しらち〔する〕（他）　修治。つくろふ。修繕。
しらち〔俗〕（名）　仕打。しかた。あつかひぶり。
しらちよく（名）　佞直。やちん。
しらぢう　衆中。衆人を指す）。
しらちく〔する〕（他）　修築。つくろひきづく。
しらちやう　台長。一部落の長。族長。かしら。を

さ。えびすのをさ。
しらちやう　鑑裔。詩文の才に富めること。鋭心につづりて用ふ。
しらちやう　整頓。うれへのももひ。
しらちやう（名）　鑑候。ぬひあるとばり。
しらちやく（名）〔する〕（自）　執着。こりかたまること。十あもひとむ。はなれぬ。
しらちん（名）　州鎮。くにのしづめ。十くにのまもり。
しらちん（名）　袖珍。袖中に挿〔ちるるほどの小さき書物をしかいふ。
しらちんばん（名）　袖珍板。活字。植字板。一字板。くわっぱん。
しらり〔ずる〕（他）　修理。つくろひなほす。
しらりよ（名）　州閭。むらざと。
しらりよ（名）　囚獄。とりこ。とらはれ。
しらりう〔する〕（自）　周流。めぐる。十なが れめぐる。
しらりう〔する〕（他）　收留。ひきとめる。とどめる。
しらりやう（名）　秋涼。あきのすずしさ。また太陰暦八月の異名。
しらりやう（名）　囚獄。ろうぶち。牢扶持。
じらりん〔する〕（他）　琵瑟。ふみにじる。
しらを（名）　差額。にくむこと。にくみ。
しらを（形）　醜悪。けがれたる。けがらはしき。
しらたん　酬恩。ぬんをむくいる。十ぬんがへしする。
しらちやう　秀歌。よくできたるうた。
しらむんさい（名）　酬恩祭。猶太の祭の名。
しらわい　收賄。まひなひをとること。
しらか

しうかいたい（名）秋海棠、断腸花、燭臺草、植物。
しうかつ〔する〕〔他〕収割、かりいれる（稻麥などを刈いれるをいふ。
しうかう　醜行、みにくきおこなひ（淫行收賄などをいふ。
しうかう（名）醜交、みだらなるまじはり。
しうかう　修好、よしみをむすぶ、したしみをなす（國と國とが。
しうかう（名）收支、うけとりわたし、とるやる。
しうかう〔する〕〔他〕雠校他とてらしあはせて正すこと、かうせい。
しうかう〔する〕〔自〕周航、ぐるりをめぐる。
しうがう〔名〕苔蒙、かしら、をさ、酋長。
しうがう〔名〕秋毫、すこしのもの。
しうかう〔名〕獄行、みだらなるおこなひ。
しうかうでうやく　修行條約（國と國との間に結ぶ平和の條約）。
しうかうせん　聚交線、あつまるすぢ。
しうがく　就學、つきてまなぶ師に（從學。
しうがく〔名〕收納、ものなりだか、收穫、とりいれだか。
しうがふちごく〔名〕衆合地獄、よりあひぢごく。
しうがし〔名〕秋茗子、いとはぎ（植物。
しうかん　週間、一週の間即ち七日間。
しうかん　收監、ろうにいれる。
じうがん〔名〕鉄眼、やざま、はざま。
しうかんじやう〔名〕收監狀、ろうにいれしむるいひつけがき。
しうよ〔名〕囚興、ろうごし、めしうどやるき。

じうよう〔する〕〔他〕充用、あてもちふる。
しうた〔形〕衆多、あびただしき、おほき。
しうたい　醜態、みにくきすがた、はづべきさま。
じうたい〔名〕鉄隊、てっぱうぐみ。
しうたう〔する〕〔自〕周到、ゆきわたる。
しうだうるん〔名〕修道院、てら（天主教などの寺院をいふ。
しうたん〔名〕愁歎、なげき、かなしみ、うれへなげくこと。
しうたん〔する〔自〕蓋覆、ふたをする、おほひかぶす。
じうたん〔名〕錻筵、けおりもの、けおりのしきもの（柏莱品。
じうだん〔名〕鉄道、てつぱうだま、こだま。
しうれい〔形〕秀麗、ひいでる、ぬきんでたる。
しうれん〔する〕〔他〕聚斂、おほくとりこむ苛税を取立つる。
しうれん〔する〕收斂、ひきしめる、かためる藥などにいふ水の語を見よ、十又あつめる、よせあつめる、掠奪稻麥などを收穫するにいふ。
しうれんざい　收斂劑、ひきしめぐすり（腸内をひきしめ下痢などを止むる藥をいふ。
しうそ〔名〕愁訴、かけこみねがひ（政府などへの。
しうそ〔名〕臭素藥品の名、ブロミン。
しうぞく〔する〕〔他〕收束、ひつかちげる。
しうぞく〔名〕州俗、くにふう、國俗。
じうそく〔する〕〔自〕充塞、ふさがる、みつる。
しうそく〔する〕〔自〕充足、みちたる。
しうそく　周年、むかはりどし。
じうそく〔名〕〔他〕收納、うけをさめる。
じうなふ〔名〕收納、とりあつめる人心を收攬するなどいふ。
しうらん〔する〕〔他〕收攬、とりあつめる人心を收攬するなどいふ。
しうらん〔する〕周覽、あまねくみる。
じうらん〔名〕獣欄、けものご。
しうり　秋雨、あきさめ。
しうり　霖雨、にはかあめ、ゆふだち。
しうり〔名〕愁鬱、うれへきふさぎ。
しうり〔名〕秀句、よきく、よくできたるうた。
しうりくわ〔名〕錻花、ぬひはく、ぬひとりばな。
しうりくわい〔する〕〔自〕周回、めぐる、週廻、十（名まはり、めぐり、四圍。
しうりくわへいげつ　蓋花閉月（美人の容貌の形容して豐艶なるにいふ。
じうりくわつ〔形〕柔滑、なめらか。
しうりくわく〔名〕收穫、とりいれ（秋の穀物を取入るること。
じうりやん〔形〕秀拜、すぐれたる、ぬきんでたるなかまのものより。
しうや〔名〕終夜、よどほし、よもすがら、徹宵。
しうやう〔名〕醜容、みにくきかたち。
しうやう〔する〕〔他〕愁容、うれへるかたち。
しうやう〔する〕〔他〕收養、とりあげやしなふ、ひろひあげる人の子などを。
しうやく〔名〕收約、とりかはせ、やくそく。
じうやく〔名〕鉄藥、たまぐすり。
しうまつ〔名〕終末、をはり、すゑ。
じうまうふ　錻毛布、けもりぬの。

じうまん〔する〕〔自〕充滿、みちみつる。
しうりやう〔する〕〔他〕收斂、つなぐ（牢に）。
しうりやう〔名〕周經、まはり、わたり、めぐり（周圍、周壔。
しうりやう〔名〕修謙、みそぎ、はらひ。
しうりつ〔する〕〔自〕終結、をはる、しまひになる、終了。
じうりつ〔名〕充血、ちがみちる臨等に。
しうりふ　修業、學問藝術をきはめならふこと。
しうりふ〔名〕醜業、みにくきわざ。
しうりやう〔名〕酬醜、ぐわんほどき、還願。
しうりやう〔名〕敬言、いはひことば、十婚禮。
じうりやう〔名〕鉄劍、てつばうのけん。
しうりやう〔名〕獣醜、ひにくきやみ。
しうりやう〔する〕〔自〕臭腐、くさる。
しうりやく〔する〕〔他〕修復、つくろひなほす、つくらふ。
じうりやく〔名〕殘眼、いくさぎ、よろひ。
しうりやん〔名〕秋分甘四節の一、秋の始まる節。
しうりん〔名〕鏤文、ぬひとり、ぬひはく。
しうりん〔名〕醜聞、あしきうはさ。
じうりん〔副形〕充分、したたか、たくさん。
しうる〔する〕〔自〕痿枯、やせかれる。
しうるとう〔名〕臭梧桐、くさぎ（植物）。
しうるとう　衆口、おほくのひとのくち、十衆論、輿論、衆說。
じうろう〔名〕殘功、いくさのてがら、軍功。
しうろく〔名〕囚獄、ひとや、圄圉、ろう。
しうろくにん〔名〕囚獄人、めしうど。
しうろくくわ〔名〕囚獄課、ろうがかり。

しうろくし〔名〕囚獄司、ひとやづかさ（刑部に屬す、唐名斷獄署、獄舍のことを掌る。
しうろん〔する〕〔自〕秀徹、すきとほる。
しうろん　衆論公衆の說。
じうろん〔名〕殘英、殘葉、かちあふひ、ねはあふひ（植物。
しうろう　衆醜公衆の醜。
じうろう〔名〕殘英、殘葉、かちあふひ、ねはあふひ（植物。
じうろう〔名〕殘陋、いくさだうぐ。
しうろく〔名〕獄居、たてがり、しやくやどひ。
しうろく〔名〕管領、かしら、酋長。
しうろよく〔名〕鱠魚動物。
しうろう〔名〕終局、をはり、つまり、結局。
しうろうくわ〔名〕臭橘、かたたち、枸橘、リヂ（植物。
しうろく〔名〕囚獄花、てまりばな（植物。
しうろく〔名〕囚獄時古昔貴紳の間に行はれた鵜を繼ぐ遊戲。
しうろん　就職、とりこになる、とらはる、いけどらる。戰爭の際にいふ。
しうろん〔名〕鉄鎖、てつばうのけん。
しうろん〔名〕酬金、むくいのかね、報酬金。
しうろん〔する〕〔他〕收緊、ひきしめる、かたくしめる。
しうろん〔名〕酬銀、むくいのかね、十はうび、報酬銀。
しうめい　主命、主人の命令。
しうめい　蓋明、さとばかる、ひかりをみるをきふ（病眼にいふ。
しうめい　聚散、あつまるちる。
しうめいぎく〔名〕秋冥菊、秋牡丹、きぶねぎく（植物。
しうみ〔名〕臭味、にほひ、十くさみ。
しうみん　就眠、ねむりにつく。
しうし〔名〕獲死、うえじに、餓死。

しうし　修史、れきしをかく、編史。
しうし（名）　繍袴、はんはり、板彫、はんぎや。
しうし（名）　舟子、ふなこ、ふなのり。
しうし　秀士、すぐれびと。
しうし　終始、はじめをはり、しじう。
しうし　收支、いり及て、とるものだすもの收入と支出とをいふ。
しうし　醜姿、みにくきすがた。
しうし（名）　舟師、ふないくさ、水師。
しうし（名）　舟噺、やりだし（船首の）。
しうし（名）　秋思、秋日に於ける感起。
〔しうし〕（副）　就便、たとひ、假令。
しうじ（名）　修辭、ことばをうるはしくすること。
じうし（名）　蚤蝨、きりぎりす（動物）。
じうし（名）　獃子、あまる、あかは、あはつぼ（便器）。
しうじはふ（名）　殘事、いくさごと。
　修辭法（文辭を修飾する爲めに設けられたる法則）。
しうしよ（名）　衆庶、もろびと、あはくのたみ、衆人、品庶。
しうしよく　秋色、あきのけしき。
しうしよく　就職、つとめにつく、やくにつく。
しうしよく〔する〕〈他〉　修飾、つくろひかざる。
しうしよく〔する〕〈他〉　收贖、あがなふ（罪犯などを）、十又うけもどす、質物などを。
しうしよく（名）　蓋厚、はぐかしめ、十はぢ。
しうしよくしき　就職式、やくにつくぎしき。
しうじつ（名）　週日、七日をいふ。
しうじつ（副）　終日、ひめもす、ひねもす、いちにち、盡日。
じうじつ〔する〕〈自〉　充實、みつる、十よくみのれる。
しうしゅ（名）　終始、いまは、末期、最期。
しうしゅん（名）　周遭、まはせるかき。
しうしゅん〔する〕〈自〉　憂愁、うれへかなしむ。
しうしゅび　醜美、みにくきうつくしき。
しうしゅび　愁眉、顰眉、しかみまゆ、うれへがほ。
じうしゅび〔する〕〈自〉　充滿、みちそなはる。
しうしゅやう　衆目、もはくのひとのめ。
しうもく　衆評、よのうはさ、ひとびとのいふところ。
しうもん〔する〕〈自〉　愁聞、うれへもだへる。
しうもん（名）、—する〈他〉　修正、なほす、あらためる。
しうやく　衆說衆人の意見。
しうせい（名）　銹蝕、さび。
しうせい　醜聲、あしきうはさ、惡名、うきな
しうぜい　收稅、ぜいをとる。
じうせい（形）　柔脆、もろき、やはらかき。
しうせいくわん（名）　收稅官、ねんぐとりたてやく。
しうせつ　衆說、衆人の意見。
しうせつ（形）　秀絕、ひいでたる、十たぐひなき。
しうせう（副）　終宵、よもすがら、よどほし。
じうせき（名）　因積、ためつもる。
じうせき〔する〕　充積、みちつもる。
しうせん（名）　戰艦、ゆさはり、ふねんと。
しうせん〔する〕〈他自〉　周旋、とりもつ、たすくる、十せわする、かけまはる。
しうぜん（副形）　愁然、愁へて顏色のかはる貌。
しうせんか（名）　繍線菊、しもつけ（植物。
しうせんば（名）　修船場、ドック、船渠。
しうすゐ（形）　嶋卑、さかしき、けはしき。

しうする（名）　晉紳、かしち、大將。
じうぢん（名）　時運、ときのめぐりあはせ。
しの（名）　篠、ささ、細竹、めだけ、千里竹（植物）。
しの（名）　篠しのぶその略。
しのはち（名）　植盆、すりばち、潤鉢。
しのはら　篠原氏、また近江國栗太郡の地名、また加賀國江沼郡に同名の原あり。
しのばと（名）　清癸、おかは、おまる、厠の具。
しのばずのいけ　不忍池、東京市下谷區に在る上野岡下の大池、支那風に之を小西湖といふ、池中遂多く中央に辨才天女の祠を安置し風景絕佳なり）。
しのべだけ（名）　長間竹、しのだけ、百薬竹（植物。
しのぶ（他）　懷、想、おもふ、十こひる。
しのぶ（自）　潜、ひそむ。
しのぶ（自）　忍、耐忍、堪忍、耐堪、こらへる。
しのぶがをか　忍岡、武州東叡山の地、俗に呼んで上野といふ。
しのぶがき（名）　忍垣（小待垣（こまちがき）に同じ）。
しのぶぐさ（名）　忍草、しのぶ（植物）。
しのぶごぼり　信夫郡（岩代國の郡の名）。
しのぶえ（名）　篠笛、しの（細き竹の横笛。
しのぶもぢずり（名）　忍捩摺（陸奥の信夫より織り出せし織物にて種々の模様を亂れ摺りにしたるもの「しのぶ」を見よ）。
しのぶずり（名）　忍摺（忍草の形を印したる布帛及び其染機の名、偖は「しのぶ」の下を見よ）。
しのどさう　死五寸（天子を崩といひ、諸侯を薨といひ、大夫を卒といひ、士を不祿といひ、庶人を死といふ）。
しのとす（他）　仕殘、寫殘、しさす、しあます。
しのぎ（名）　鎬、刃稜、やいば。
しのびいでたち　微服、しのびすがた。
しのびどころ（名）　潛所、かくれが、ひそみば。
しのびがへし（名）　忍返、邊欄、敵を防ぐ爲めに設けたる機造。
しのびづま（名）　忍妻、かくしづま、いろなんな。
しのびね（名）　忍寢、こごえ、ちひさきこゑ。
しのびのき（名）　忍軒、かくしなき。
しのびのを（名）　忍緒、かぶとの緒を頤に結びつくる紐なり。
しのびやか（形）　密、隱密、ひそか、みそか。

しのびごと（名）　密事、みつじ、ひそかにすること、誄事。
しのびめ（名）　偸眼、盗眸、ぬすみめなること、ひそかにみること。
しのびもの（名）　諜者、さはしもの、邏候、探伺、間者、遊偵、細作、間諜。
しのすだれ（名）　篠簾、しのだけすだれ。
しく（他自）　敷、布、鋪、布置、敷鋪、布陳、布設、のばず、ひろげる、ひろがる。
しく（名）　市區、いちまち、まちのわかち。
しく（名）　死苦、しぬるくるしみ。
しく　親此假名の語はまた「しゆく」の下を見合はすべし。
しく（名）　窟、此假名の語はまた「しゆく」の下を見合はすべし。
しぐ（名）　至愚、いたつておろか。
じく　字句文字と文句。
しくいう（名）　觀瞳（火災の神の名、十火災くわじ。
しくはつ　髽髮、かみをそること、剃髮。
しくはつく　四苦八苦非常なるくるしみ。
しくはなし　無如、無若、およばなし。
しくはう（名）　覯逢、いはひつてばう。
しくはく（する）〔自〕　愛追、つまる、せまる。
しくち（名）　繁口、おかめ、動物。
しくわ（する）〔自〕　私和、あひたいにてなかなはりする。
〔しくわ〕（名）　絲瓜、へちま〔植物〕。
しくわ（名）　繁花、なすび〔植物〕。
しくわ（名）　剿花、ぬひはく。
しくわ（名）　貲貨、たから、資貨。
しくわい　死灰、火氣絕えたる灰、つめたきはひ。
しくわい（名）　齒科醫、はいしや。
しくわい（名）　市會（一市都會の立法會）。
しくわいぎろん（名）　市會議員、市會（選出せられたる代議士。
しくわつ　死活、しぬいく、しぬるいきる、死活問題とは最大緊要の事件をいふ。
しぐわつ　四月一年の第四の月なり、太陰暦即ち舊暦四月の異名は大凡五の如し、清至、朱明、槐夏、仲呂、爽鳳、純陽、夏半、長日、維夏、庚伏、關澤、伏暑、朱夏、獻報、六陽、季秋、清夏、酒和、正月、星火、首夏、正陽、卯花月、卯月、孟夏、鞠月）。
しぐわつ　自活、自力にて生活すること。
しぐわつ（名）　雞冥、ガンボジ（檜具の一）。
しぐわうじ（名）　慈光寺氏。
しぐわうじ（名）　市郭兒、いちびと、市人。
しぐわし（名）　私窩子、かくればいぢよ、密賣女、ぢごく。
じぐわじさん　自著自讀（自分の著に自分で讀すること、自著讀。
しくわん（名）　指環、ゆびわ。
しくわん（名）　史官、ふみかきやく。
しくわん（名）　史館、きろくじよ。
しくわん（名）　仕官（官途に出仕すること、つかへること、奉公。
しくわん（名）　士官（指揮をこととする武官、主に陸海軍の大中少の尉の總稱）。
しくわん（名）　祠官、かんぬし、神官。
しくわん（名）　四恩（佛、私、放、聲後漢書、叨、貪、狠、狗、莊子、生、老、病、死（法苑珠林））。
しぐわん（名）一する〔他〕　●志願、ねがひ、こころざし、ねがひのぞむ。
じくわん（名）　次官、つぎのやく（大臣の次の官）。
じくわん（名）　耳環、みみだま、みみわ（耳朶に貫き垂れて飾りとする。
しぐわんへい（名）　志願兵（自ら志願して兵役に服する兵士。
しくわんたふ（名）　指環鐙、ゆびぬき。
しぐわんじや（名）　志願者、のぞみびと、ねがひて、十候補者。
しぐれ（名）　時雨、液雨、滲雨、溫雨、じたじたあめ（十一月頃の、十また寒字の一種小豆餡を纏く聖めて製する溫菓子の類、しぐれまんぢう。
しぐれはまぐり（名）　時雨蛤（伊勢の桑名四日市等より出づる有名の蛤にて酒醬油などにて煮つめたもの。
しぐれづき（名）　陰天、あめふりつづく。
しぐれづき（名）　時雨月（太陰暦十月の異名。
しぐつ（する）〔他〕　試驗（藥物をためしにはる。
しぐそ　四隅、よすみ、四維（方角の一。
しぐや戎しゆくや（名副）　晨夜、あけくれ、あさゆふ（晨に興き夜に寢ぬなどいふ、また明かし暮らすをいふ。
しぐま（名）　羆、ひぐま（北海道十勝などに產する赤褐色の熊三動物。
しぐさ（名）　仕草、することわざ、しうち、しよさ（芝居などにいふ。
しくみ（名）　脚色、くみたて（狂言などの。
しくじり（名）一する〔自〕　失敗、しそこね、十しくじる、やりそこなふ。
しくしく（副）　續續、うちつづいて、しきりに。

しぐわん（名）一する〔他〕　●志願、ねがひ、こころざし、ねがひのぞむ。
じくわん（名）　次官、つぎのやく（大臣の次の官）。
じくわん（名）　耳環、みみだま、みみわ（耳朶に貫き垂れて飾りとする。
しぐわんへい（名）　志願兵（自ら志願して兵役に服する兵士。
しくわんたふ（名）　指環鐙、ゆびぬき。
しぐわんじや（名）　志願者、のぞみびと、ねがひて、十候補者。
しぐれ（名）　時雨、液雨、滲雨、溫雨、じたじたあめ（十一月頃の、十また寒字の一種小豆餡を纏く聖めて製する溫菓子の類、しぐれまんぢう。
しぐれはまぐり（名）　時雨蛤（伊勢の桑名四日市等より出づる有名の蛤にて酒醬油などにて煮つめたもの。
しぐれづき（名）　陰天、あめふりつづく。
しぐれづき（名）　時雨月（太陰暦十月の異名。
しぐつ（する）〔他〕　試驗（藥物をためしにはる。
しぐそ　四隅、よすみ、四維（方角の一。
しぐやぢゆくや（名副）　晨夜、あけくれ、あさゆふ（晨に興き夜に寢ぬなどいふ、また明かし暮らすをいふ。
しぐま（名）　羆、ひぐま（北海道十勝などに產する赤褐色の熊三動物。
しぐさ（名）　仕草、することわざ、しうち、しよさ（芝居などにいふ。
しくみ（名）　脚色、くみたて（狂言などの。
しくじり（名）一する〔自〕　失敗、しそこね、十しくじる、やりそこなふ。
しくしく（副）　續續、うちつづいて、しきりに。

しくすつみさき　釈津岬（後志國高島郡に在り、屋氣樽のあらはるる處。
しくん（名）　此君、このきみ竹の異名。
じくん　二君、ふたりのきみ。
しくんし（名）　便君子、からくちなし、留求子植物。
しくんし（名）　四君子、蘭、竹、梅、菊。
しや（名）　紗綾布の名。
じや（名形）　邪、上こしま。
じや（名）　麝香　麝を出だす獣。
じや（名）　蛇、へび、もろもろくちなは動物。

しやい　差異、さい、ちがひ。
じやい　邪蔫、よこしまごころ。
しやいう（名）　社友（社の友たるもの。
しやいう〔する〕〔他〕　赦宥、ゆるす、赦免。
しやゐん　社員、くみあひと（同社の人。
じやいん　邪婬、みだらごと、邪淫、よこしまのいろ（不正の淫事。
じやいんさう（名）　蛇苺草、いぬいたどり、おほいたどり植物。
しやろう（名）　沙漏、すなどけい。
しやろく〔する〕〔他〕　寫錄、かきうつす。
じやろん　邪論、邪說、異端の說。
しやば（名）　娑婆、忍土三千大千世界の總名。
しやば（名）　車馬、くるまうま車と馬。
じやば（名）　蛇婆（へびのどく。
じやはい〔する〕〔他〕　舍罷、すてる、はいする。
しやはい　賠賈、かけがひ、おぎのり。
しやはら（名）　蛇腹（綱絲の太く編みたるもの。
しやはく（副）　遮莫、さもあらばあれ。
しやはく或さばく（名）　沙漠、すなはち。
しやはく　赫白馬（つきげうま動物。
しやはふ（名）　射法、ゆみいるみち。
じやはふ（名）　邪法、よこしまのみち、邪道。
しやはん（副）　這般、このたび、今般。
しやにち　社日（暦日の名。
しやにん（名）　社人、しやけ、かんぬし。
しやほう（名）　射場、あづちまと。
じやほう（名）　邪謀、わるだくみ。
しやほん（名）　寫本、うつしぶみ、かきほん。
しやぼん（名）　石鹸油をもとするもの。
じやぼん（名）　朱欒（植物。
しやへい〔する〕〔他〕　遮蔽、さへぎる。
しやべり〔俗〕〔名〕　弄嘴者、多言者、おしやべり。
しやべる〔俗〕〔自〕　饒舌、くちたたく、囁嘩。
しやべつ（名）　差別、けじめ、區別。
じやべつ（名）　謝豹（ほとぎす動物）。
しやへき〔形〕　邪僻、よこしま、ひがむ。
しやぞ（名）　緒士、あかつち赤土。
しやさう〔する〕〔他〕　社頭、みやのまへ（社殿の上。
しやさく〔する〕〔他〕　蛇蠆、へびのどく。
しやぢ（名）　社地（神社の領地）。
しやぢ（名）　沙地、すなぢ、すなち。
しやぢ（名）　邪智、わるぢえ。
しやぢほこ（名）　鯱（國字、鵄尾、土双魚鰭を取る魚（鯛ほどでんしゆの處に尾州名古屋城に装置せる鯱の圖を出だせり、參看せよ）動物。
しやちがはら（名）　鵄尾屋根の瓦の名。
しやちちく（名）　社中、なかま。
しやちちく（名）　車軸、くるまのしんぼう。
しやちくさう（名）　流車軸（大雨の降るをいふ。

水雨雖苗留根草にして高燥の原野に生ず花は淡紅黃色及び白色のものあり養食に供して害なし植物。

しやちやう（名）　社長（會社の長。
しやちやう　牒帳、かけちやう、かよひちやう、通帳。
しやぢやう（名）　射場、やば、ゆみいるところ。
しやぢやう（名）　舍利（梵語にて焚戸中より得る骨をいふ。
しやり〔する〕〔他〕　捨離、すてはなれる。
しやり（名）　瀉瓶（はちくだり。
じやり（名）　砂利、礫、こいし、硬礫、沙礫。
しやりほつ　舍利弗（釋迦の十大弟子の一にして智慧第一なるもの。
しやりべつ（名）　舍利別（藥品。
しやりかうべ（名）　觸髏（されかうべ、天靈蓋、人骨をいふ。
しやりたふ　舍利塔（骨を納めし塔。
しやりう　者流（たぐひ、ものども（諸家者流法家者流などいふ。
しやりう〔する〕〔他〕　遮蔽、さへぎりとむる。
しやりやう（名）　社領（神社の領地をいふ。

しやりこほり　斜里郡北見國の郡の名。
しやりき（名）　車力、くるまひき。
しやりえん（名）　舍利鹽藥品。
しやりん（名）　車輪、くるまのわ。
しやりん（名）　（名）　沙痲、石痲病名。
しやりんばい（名）　車前梅、はまもくこく、指甲花の一種植物。
じやわ　爪哇東印度の島名。
じやわう（形）　邪枉、よこしま、まがれる。
しやか（名）　釋迦、佛最尊佛の名。
しやか〔する〕（自）　瀉下、くだる、腹などが。
しやが（名）　車駕、くるま、うまでるま。
しやが（名）　香莢蒾蟻花、蔦尾植物。
しやかい（名）　車覺、くいけが記動物。
しやかい〔する〕（他）　卸解、ほどく、十おろす。
しやがい（名）　車蓋、くるまのやかた、くるまのおほひ。
しやかがたけ　釋迦岳、近江國神崎郡、大和國吉野郡、加賀國石川郡、筑後國八女郡等に在る山の名。
じやがたらいも（名）　馬鈴薯、じやがいも（植物）。
じやがたらみかん（名）　大柚、海紅柑（植物）。
しやがむ（俗）（自）　蹲、うづくまる。
じやかう　邪行、よこしまわざ。
じやかう（名）　麝香、麝香獸より取る香氣あるもの。
じやかうねこ（名）　（圖の猫香麝）
貓香猫、かをりねこ、麝猫麝香の類を有する猫ニ動物。
じやかうねずみ（名）　麝香鼠、香鼠、動物。
じやかうじか（名）　麝香獸、かをりしか（動物）。
じやかうさう（名）　麝香草、鈴子香、えらちぎ、かをりぐさ（植物）。
じやかうゆ（名）　麝香油、にはひあぶら。
しやかのじふだいでし　釋迦十大弟子、阿難尊者（多聞第一）、舍利弗尊者（智慧第二）、須菩提解空第一、富樓那尊者（說法第一）、日連尊者（神通第一）、迦旃延尊者（論義第二）、阿那律尊者（天眼第一）、可離尊者（密行第二）、右九尊に三加へて十大弟子といふ。
しやかく　社格神社の格式。
じやかご（名）　蛇籠、臥牛、石籠、石蛇、水を堰く爲に砂石を充したるものをいふ。
じやかし（名）　蛇工、かへぬり。
しやかん（名）　沙痲、あらすな。
しやかん或しやくわん（名）　沙漠、まさご、あらすな。
しやがん（名）　斜眼、やぶにらみ、十よこめ。
じやがん（形）　邪姦、よこしま。
じやがん（名）　蛇含、おはへびいん。
じやがんさう（名）　遠眼燈、がんどう。
じやがんせき（名）　舍蘇二三男をいふ。
じやよく（名）　邪慾、よこしまのこころ。
じやた（名）　射場、あづちっつきまと矢を射る。
じやたい　蛇體、へびのからだ、蛇形。
じやたし（名）　砂接子、ありのすごく、あとびつさり動物。
しやだん〔する〕（他）　遮斷、さへぎる、たちきる。
しやだん　社壇、やしろのだん、十やしろ。
しやだん〔する〕（他）　謝斷、ことわる、いなむ。
しやたんだ　緞丹蛸、さにぬり、あかぬり。
しやれ（俗）（名）　戲言、たはれごと、わらはせごと、おどけ。
しやれ（名）　洒落、しやらくなること、十又たはむれごとば。
しやれい（名）　謝禮、むくいれい。
しやれぼん（名）　洒落本、滑稽を主とする本をいふ。
しやれる（俗）（自）　洒落、わらはせごとをいふ、十奇飾、きかざる、よそはひをこらす。
しやれたる（形）　灑灑、さつぱりした、ふうりうなる。
しやれつ〔する〕（他）　車裂、くるまざきにする（支那の刑の一）。
しやれもの（俗）（名）　洒落者、じやうだんもの。
しやれもの（俗）（名）　美服者、きかざるひと。
しやそう（名）　社僧、神宮に屬する僧。
しやそく〔する〕（他）　舍息、やめる、やすむ。
しやそく　社則、きそくがき會社などの。
じやそく　蛇足、へびのあし、無用の蠻。
しやつ（代名詞）　汝、かのやつ、人を賤めて呼ぶ詞。
シヤツ（名）　繃衣、襯衣英語。
しやつぽ（名）　帽子、かぶりもの（俗語）。
じやねん　邪念、よこしまのもひ。
しやら（名）　車輛、くるまがひ動物。
しやらざけ（俗）（名）　緩解、弛解、そらどけ、繃帶などの、十服數喜、あびのしやらどけ。

しやらく（形名）　洒落、灑脫、しやれ、ものにかまはぬ。
しやらさうじゆ（名）　沙羅雙樹（沙羅は梵語なり、堅固樹と譯す）植物。
じやらす（俗）（他）　戲、じやれさする。
しやらん（名）　遮欄、てすり。
しやむ　社務、みやのつとめ。
しやむろ　遮羅東印度の一國。
しやむしよ（名）　社務所、神社の事務所。
しやう（形）　生、なま、十いき、いける。
しやう（名）　笙、簧、ふえ、ふきもの（音樂の具）。
しやう（名）　章、書の一段落、また文章。
しやう（名）　莊、莊園に同じ。
しやう（名）　省、やくし上官なる官署。
しやう（名）　箏、さう、樂器。
しやう（名形）　商、あきなひ、うりかひ、十又あきうど、十あきなひの、うりかひの。
しやう（名）　商、得數、わりてえたるかず（算術の語なり、三を以て十二をわれば四を得べし、其四は即ち商なり、商には二法[1]とじつ[2]實とを參看せよ。
しやう（名）　牀、床、とこ、十又ゆか。
しやう（俗）　仕樣、しかた、寸法、せんかた。
しやう〔する〕他）　飼養、かひやしなふ。
しやう〔ずる〕　聽、まねく、よびいれる、客人を一間處（聽ずるなど用ふ、聽待するなり）。
じやう（名）　滋養、からだのやしなひ、からだのくすり、營養。
じやう（名）　鎖（物の開閉する箇所のしまりに用ふる金具、俗に錠の字を用ひ、ぢやうこの假名を用ふ、又ぢやうに出だせり）。
じやう（名）　狀、ふみ、てがみ、十たてまつりぶみ、

十又かたち、すがた狀するは形容するなり）。
じやう（名）　情、なさけ、こころ、人情をいふ）。
じやう（名）　城、しろ、王侯の居城、または石壇をめぐらせる總會。
じやう（名形）　上、かみ、うへ、十あがれる、わかしの、十又よき、うるはしき。
じやう〔する〕他）　飼養、やしなふ、かふ。
じやうい（名）　傷痍、きず。
じやうい　上意、かみのみこころ、天子などの意。
じやうい　擾囘、えびすをはらひしづむること。
じやうい（名）　淨衣、きよききぬ、明衣、祭服。
じやうえ　讓位、くらゐをゆづる（國王が）。
じやうえん〔自〕　練遊、かけりのがる。
じやうえん〔する〕（他）　獎誘、はげます。
じやうえん（名）　豆を和して醱したるもの。
じやうえん（名）　醬油、しやうゆ（調味に用たる大豆醬の一種）。
じやうえん〔する〕　相伴、あひともなふ、十あづかる、十陪膳、陪食。
じやうおん（名）　城壘、しろあづかり。
じやうかん（名）　上人、僧侶の尊稱。
じやうかん（名）　商人、あきうど。
じやうかん（名）　情人、こひびと、いろをとこ。
じやうぎ（名）　淨域、淨土をいふ。
じやうぎ（名）　正員、せいゐん、社などの。
じやうぎん　上院、國會の貴族院或は元老院。
じやうぎん　正路、正道、ただしきみち。
じやうご（名）　上滬、喰藥、みづぶき。
じやうご（名）　繩縷、ざふきん、ぞうきん。
じやうご（名）　賞祿、はうびかた、賞與祿。
じやうごく（名）　賞勝、有功を賞する記章）。
じやうこく〔する〕他）　掌把、てににぎる。
じやうこく（名）　商賈、あきなひ、賣買、貿易、取引。
じやうはい　上棟、むねぶきあげ。
じやうはり（俗）（形）　慷張、がうじやう。
じやうはりのかがみ　淨玻璃鏡、きよきガラスのかがみ（地獄にて善人を照す鏡）。
しやうばつ　賞罰、功を賞し罪を罰すること。
しやうはなまち　城鄕町、越中國礪波郡の町名。
しやうはう　正保、日本自二千三百四年至二千三百七年、西洋自一千六百四十四年至一千六百四十七年）年號。
じやうばう（名）　淨房、かはや、厠。
じやうばう（名）　狀袋、ふくろ、てがみいれ。
じやうはく（名）　商舶、あきなひぶね、商船。
しやうはふ　正法、ただしきのり。
じやうばこ（名）　狀箱、ふばこ、てがみいれ。
じやうばん〔する〕　相伴、あひともなふ、十あづかる、十陪膳、陪食。
じやうばん（名）　情由、わけがら、わけ。
しやうにん（名）　上有官、かうぶち氏。
しやうにん（名）　讀揖、立禮する（ゐ）をいふ）。
しやうにん（名）　商人、あきうど。
しやうにん（名）　情人、こひびと、いろをとこ。
じやうぼ（名）　掌墓、はかもり。
じやうぼく〔する〕　上木、ほんにほる、上梓。
しやうほんじたて　正本仕立、演劇脚本をいふ。
しやうほんじたて　正本仕立、演劇脚本を草雙紙體に綴入に綴れるものにて德川時代に行はれしもの）。
しやうろん〔する〕　詳論、くはしくろんずる。
しやうろん（名）　議論、ろんぎ。
しやうろく（名）　賞祿、はうびかた、賞與祿。
しやうろく　正祿、正しき祿。
しやうろん〔する〕　詳論、くはしくろんずる。
しやうろん（名）　議論、ろんぎ。
しやうろく（名）　賞祿、はうびかた、賞與祿。
しやうろく　正祿、正しき祿。
しやうろん〔する〕　詳論、くはしくろんずる。
しやうろん（名）　議論、ろんぎ。
しやうはい（名）　商賈、あきなひ、賣買、貿易、取引。
しやうへい（形名）　昌平、あだやか、繁華。
しやうへい　正平、日本自二千六年至一千二十九年、西洋自一千三百四十六年至一千三百六十九年）年號。

じやうへいさう（名）常平倉。もみぐち（官設の）。
しやうへう（名）商標。あきなひじるし。商品に附する自己の記號。
じやうへう　上表。たてまつりぶみ。上書。上疏。
しやうへき（名）鷓鴣。かこひ。障壁。いしがき。
じやうへん　上邊。うはべ。
しやうべんさう（名）醫療草。すべりひゆ（植物）。
じやうど（名）淨土。極樂即ち佛土。
しやうとう　正成。ただしきすぢ。ほんすぢ。
しやうとう（名）檣頭。ほばしらのさき。
じやうとう（名）上棟。むねあげ。
じやうとう〔する〕〔自〕上騰。あがる。のぼる。
じやうとう　上等。うへの。十第一の。
じやうとう（名）常燈。つねにともすあかり。
じやうとうしき（名）上棟式。むねあげいはひ。
しやうとく（形）生得。うまれつき。
しやうとく　正徳（日本自二千三百七十一年至二千三百七十五年、西洋自一千七百十一年至一千七百十五年）年號。
しやうとくたいし　聖徳太子。用明帝の皇子厩戸太子と號し世に聰明の名高し。
じやうどしう　淨土宗。源空上人の開ける宗門。
しやうとち〔する〕〔他〕掌知。つかさどる。司。
しやうとち　正治（日本自一千八百五十九年至一千八百六十年、西洋自一千百九十九年至一千二百〇〇年）年號。
じやうとち　上棟、さとき㊀、下愚に對す。
じやうとち　淨地。きよきところ。聖地。
じやうとち　城地。城下の地。
じやうとうぢよ〔する〕〔他〕攘除。はらひのぞく。

しやうとり　掌中。てのうち。
しやうとり　正中（日本自一千九百八十四年至一千九百八十五年、西洋自一千三百二十四年至一千三百二十五年）年號。
しやうとり（名）經蟲動物。
しやうとり　上鳥天子の卿ぎき。
しやうとん（名）正直。すなほ。たなほき。
しやうとんちゆう（名）檣柱。つつばり。つかひぼう。
しやうとんちゆう〔する〕常住。つねにある。かはらぬ。不變不易。
じやうとんちん〔する〕〔他〕商旅。たびあきうど。
じやうとんりよ（名）上陳。まうしあぐる。
じやうとんりく〔する〕上陸。くがにのぼる。をかへあがる。
しやうとんや〔する〕〔他〕商量。かんがへはかる。斟酌。十みつもる。十はかる。
しやうとんや　聖廟會。みたままつり。ぼんまつり。
しやうとんや〔する〕〔他〕省略。はぶく。けづり。りやくする。
しやうとんりやく　正暦（日本自一千六百五十年至一千六百五十四年、西洋自九百九十年至九百九十四年）年號。
しやうとんりやく〔する〕〔他〕省略。はぶく。けづり。りやくする。
しやうとんりやく　上略。かみをはぶく。
しやうとんりやく（名）上利劍。劍に乘じて大海の波を飛行する術を得たる人。
じやうどんりやく　城壁。しろのどて。
じやうとんりやう　料理頭。永錄年間小野道が淨瑠璃物語と題し三河國矢矧の宿の饗高長者の娘、淨瑠璃姫の事實を十二段の曲に作り、慶長年間に岩船像校これを謀甚に合せて語りはじめ、其後淨野檢校、角澤檢校などかこれを三味線に合せて語り傳へしに本づく、また義太夫節の特稱。
じやうるりげいこ（名）淨瑠璃藝妓。義太夫宮。
しやうれい　儀節を嚴く嚴の藝子をいふ。
しやうれい　正暦（日本自一千九百四十八年至一千九百五十二年、西洋自一千二百八十八年至一千百九十二年）年號。
しやうれをん（名）莊園（しやうゑんに同じ、中古功臣權門其他開發者等の私領したる地をいふ、此等皇族の勢盛にして殆ど國司の權外に獨立しこれを司るものを莊司と云へり。
じやうれをん（名）常盛。通常の盛度。
しやうわ　正和（日本自一千九百七十二年至一千九百七十六年、西洋自一千三百十二年至一千三百十六年）年號。
じやうわ（名）情話。いろばなし。相思ふ男女の閨の談話をいふ。
しやうわ（名）唱歌。うたふうた。數節を合せて歌ふうた。
しやうわ（名）莊家。庄家。ひやくしやうや。農家。
しやうわ（名）掌家。いへつかさ。しはいにん。家の支配人をいふ。
しやうわ（名）娼家。ぢようや。妓樓。遊樓。
しやうわ（名）商家。あきんどや。あきなひやうばい。
しやうわ　上下。のぼりくだり。十うへした。
しやうわ　正嘉（日本自一千九百十七年至一千九百十八年、西洋自一千二百五十七年至一千二百五十

八年）年號。
しやうわ或せいわ　請暇。いとまをこふ。
しやうわか（名）床下。ゆかした。
しやうわか（名）生妻。生妻。はじかみ（植物）。
じやうわか　城下。しろした（諸侯の城のある所の邑をいふ。
じやうわか（名）鷹飼。ゑうかひ（植物）。
じやうわが（名）解解。つきばち。月輪をいふ（恒線）。
しやうわかい　詳細。つまびらかにときあかす。
しやうわがい（名副）生涯。いつしやう。畢生。終身。
しやうわがい〔する〕〔他〕傷害。そこなふ。ころす。
しやうわがい〔俗〕〔名〕生害。じがい。自殺。
しやうわがい（名）障碍。さしさはり。障礙。さまたげ。しやうげ。
じやうわかい（名）上界。天上界をいふ。
しやうわがいし（名）寫石。石の類にて形狀を以て名づく。
しやうわがづけ（名）醫藏寫。つけしやうが。
しやうわかう（名）昇降。のぼりおり。上下。
じやうわかう（名）悄突。なかよきまじはり。
じやうわかうばん　常香壇。不斷香を焚く具。
しやうわかく　上格。高貴の格式。
じやうわかく　常額。きまりだか（金子の）。
しやうわがくゑん　醫學院。陽成天皇の御てたまひし學校。さうがくゑん。
しやうわがくぼう（名）正覺坊。蟾蜍。あをうみがめ（海龜）動物。
しやうわがさけ（名）生姜酒。醫家にて神仙粥といふ。
しやうわがゆ（名）生薑湯。生薑と砂糖とを混ぜ之に湯をつぎてつくる。
しやうわか或せいか　傷寒。ねつびやう。熱病。
しやうわか（名）床下。ゆかした。
しやうわか（名）生妻。生妻。はじかみ（植物）。
じやうわか　城下。しろした（諸侯の城のある所の邑をいふ。
じやうわか（名）鷹飼。ゑうかひ（植物）。
じやうわが（名）解解。つきばち。月輪をいふ（恒線）。
しやうわかい　詳細。つまびらかにときあかす。
しやうわがい（名副）生涯。いつしやう。畢生。終身。
しやうわがい〔する〕〔他〕傷害。そこなふ。ころす。
しやうわがい〔俗〕〔名〕生害。じがい。自殺。
しやうわがい（名）障碍。さしさはり。障礙。さまたげ。しやうげ。
じやうわかい（名）上界。天上界をいふ。
しやうわがいし（名）寫石。石の類にて形狀を以て名づく。
しやうわがづけ（名）醫藏寫。つけしやうが。
しやうわかう（名）昇降。のぼりおり。上下。
じやうわかう（名）悄突。なかよきまじはり。
じやうわかうばん　常香壇。不斷香を焚く具。
しやうわかく　上格。高貴の格式。
じやうわかく　常額。きまりだか（金子の）。
しやうわがくゑん　醫學院。陽成天皇の御てたまひし學校。さうがくゑん。
しやうわがくぼう（名）正覺坊。蟾蜍。あをうみがめ（海龜）動物。
しやうわがさけ（名）生姜酒。醫家にて神仙粥といふ。
しやうわがゆ（名）生薑湯。生薑と砂糖とを混ぜ之に湯をつぎてつくる。
しやうわかん　傷寒。ねつびやう。熱病。
しやうわかん　上澣。一月のかみの十日間。上旬。
じやうわがん　上陸。くがにのぼる。をかへあがる。
じやうわかんど（名）上等奴。くもまひ等の上に參る人。
しやうわかんか（名）貫識家。すきもの。
しやうわかんか〔する〕〔他〕獎勵。はめやす。稱譽。
しやうわがんじ〔する〕〔他〕讀與。ゆづりあたふ。ゆづる。
しやうわかんじ（名）上等。さときもえ。下愚に對す。
しやうわかんじ　淨地。きよきち。聖地。
しやうわかんじ　城地。城下の地。
じやうわかんじよ〔する〕〔他〕攘除。はらひのぞく。

しやうわたう〔する〕〔他〕唱導。となへみちびく。
しやうわたう（名）常套。ありふれごと。旬。
じやうわたう　成道。さとりをひらく。釋迦にいふ。
じやうわだう　常道。つねのみち。
じやうわだうごほり　上道郡（備前國の郡の名）。
しやうわたく〔する〕〔自〕請託。たのむ。たのみいる。
しやうわたん〔する〕〔自〕憎嗔。いたみなげく。
しやうわたん（名）情嗔。いろけ。
じやうわだん　上段。うはだん。うへのなちび。
しやうわれい〔する〕〔他〕飯勵。すすめはげます。
しやうわれい（名）寵臟。はやりやまひ。
じやうわれい（名）省令。官省の命令。
じやうわれい（名）常例。つねのならまり。
しやうわれいぞく（名）寵寵愛。惡氣病氣の本。
しやうわれん（名）湘簾。みすだれ。たけすだれ。
しやうわそ（名）障礙。さまたげ。
じやうわそ　上訴。さきだつぶみ。ふみをたてまつる。天子に。
じやうわそう〔する〕〔他〕上奏。まうしあぐる。天子に。
じやうわそう　上覆。うはかは。
しやうわぞく（名）裝束。よそほひ。さうぞく。
じやうわそく（名）上足。いちでし。高足第一の門弟。高弟。
じやうわたい（名）上端。うはかは。
じやうわたい（名）情態。ありさま。
じやうわたい　上代。もはむかし。上世。あがれるよ。
じやうわたい（名）城代。しろのるすゐ。城の代番。
じやうわたいぼ（俗）上端。うはかは。
じやうわたつ〔する〕上達。すすみのぼる。學藝などに。たくみになる。
しやうわたつ〔する〕〔自〕傷悼。いたわり。なげく。
しやうわたう（名）聖道。天台。眞言の開宗を指していふ。
しやうわたう〔名〕〔自〕性根。心底。ころね。こんじやう。
しやうわねん（俗）〔名〕正念。ただしきおもひ。十一心。

しやうない 莊內（羽前國西田川町に在る町、今は鶴岡といふ）。
しやうない 庄內、りやうぶん、莊內（莊園の內といふ義なり）。
しやうなう（名） 樟腦（樟木より製する藥品）、韶腦。
じやうなふ（する）（他） 上納、をさめる（年貢などを）。
しやうらい（名副） 生來、うまれつき（生れえたる性質をいふ）。
しやうらい（名形） 將來、ゆくさき、のち、未來（將に來らんとする時をいふ）、後來。
じやうらく 上洛、みやこいり、上京（京師に朝するをいふ）。
じやうらふ（名） 上臈（二位三位の內侍の助典侍等の貴女をいふ）。
じやうらん 上覽、天覽（天子の御覽）。
しやうむ 祥夢、めでたきゆめ、よきゆめ、吉夢。
しやうむてんわう 聖武天皇（人皇第四十五代の帝、紀元一千三百八十四年（西洋紀元七百二十四年）より一千四百〇八年迄、在位廿五年御壽五十六歲にして崩ず）。
しやううん 祥雲、めでたきくも、瑞雲。
しやううん 昌運、めでたきじせつ、さかりのうん。
しやうのふえ 笙（樂器にして此圖なるは小櫻と號するものにて安藝國嚴島神社所藏）。

［笙の圖］

しやうのこと（名） 箏、やまとごと（樂器）、さうのこと。

しやうくわ（名） 紫陽花、あぢさゐ（植物）。
しやうくわい（名） 商會、あきなひぐみ。
しやうぐわつ 正月（第一月をいふ、正月に關係することは凡て一月の下に詳なり）。
じやうくわう 上皇、おほみかど（今上皇帝の先の皇帝）。
じやうくわう（名） 城隍、しろのほり。
じやうくわく（名） 城郭、しろくるわ、十しろ。
しやうくわん（名） 將官（兵士を指揮する武官）。
しやうくわん（名） 商館、おほあきんどや。
しやうくわん（名） 娼館、あげや、ぢようろや、妓樓、青樓。
しやうくわん（する）（他） 償還、つぐのひかへす。
しやうくわん（する） 掌管、つかさどる。
しやうくわん（名） 莊官、しやうや（庄屋即ち百姓の頭）。
しやうぐわん（する）（他） 賞玩、賞翫、もてあそぶ、ちんちようする。
じやうくわん 上官、うはやく。
じやうくわん 上浣（月のかみの十日間）、上旬、上澣。
じやうぐわん（名） 情願、ねがひ、こころざし。
しやうぐん（名） 將軍、いくさぎみ、大將（軍隊を督する高武官）。
しやうぐんづか（名） 將軍塚（延曆十三年勅して土人形長八尺に造り甲冑兵器を帶ばしめ京都東山の絶頂にうづめて以て王都長久の鎭護と爲さしむ之を將軍塚といふ）。
しやうくんきよく 賞勳局（人を賞し勳章を與ふるなどの事を主る官署）。

しやうぐんじゆ（名） 將軍樹、茘枝樹（植物）。
しやうや（名） 庄屋、なぬし、戸長、里正、庄主。
しやうやう（する）（自） 徜徉、そこらあるく、徘徊、たちもとほる。
しやうまい（名） 正米（定期米に非ず、現在實地に賣買する米をいふ）。
しやうげ（名） 障礙、さはり、さまたげ、障碍。
しやうげ（正たうげ）（名） 撩牙、ひぢがね。
じやうげ 上下、かみしも、十うへした。
じやうげい（名） 上卿、くらゐたかきひと、公卿。
じやうけい（名） 情景、ありさま、さま、光景。
しやうけいもんじ 象形文字（物の形を以て言語を表出せるもの）。
しやうけつ（形） 猖獗、いきほひつよき、てづよき。
しやうけう 聖教、きよきをしへ（佛教を稱かいへり）。
しやうげふ 商業、あきなひわざ。
しやうげさい（名） 樫庇菜、はたるぐさ、よしのしづか、あけぼのさう（植物）。
しやうげん（名） 昌言、よきことば、たふときことば。
しやうげん 正元（日本一千九百十九年、西洋一千二百五十九年、一年にて移る）（年號）。
しやうげん 將監（官名）。
じやうけん（名） 讓券、ゆづりてがた。
じやうけん（する）（他） 讓譴、せむる、十とがめる。
じやうけん 上件、まへのくだり、まへのことがら。
じやうげん 上元（太陰曆正月十五日をいふ）。

じやうげん（名） 上弦（太陰曆の月の十五日以前の月をいふ）。
じやうげんこう（名） 上元紅、くさぼけ（植物）。
しやうふ（名） 娼婦、あそびめ、ぢようろ。
しやうふ（名） 生麩、小麥粉、むぎのこな、のりのこ、糗粉（糊にする）。
しやうぶ（名） 菖蒲、あやめ、水劍草（植物）。
しやうぶ 尚武、ぶをたふとぶ（武事を重んずる也、尚武の氣象を養成するなどいふ）。
じやうふ（名） 上布（上等の細布）。
じやうぶ 上部、かみのぶ。
しやうぶがは（名） 菖蒲革、つよきかは（勝武革ともいふ）。
しやうぶがたな（名） 菖蒲刀（端午に男兒の弄ぶもの）。
しやうぶかたびら（名） 菖蒲帷子（五月五日に著る衣裳をいふ、京都祇園町などの遊女の風俗なり）。
しやうぶつ 正物、ほんもの。
じやうぶつ 成佛（佛果を得る）、ほとけになる。
じやうぶつ（名） 滋養物（身體の營養になるもの）。
しやうふう 商風、あきのかぜ。
しやうぶのこし（名） 菖蒲輿（往古五月五日に節句の祝として六衞の官吏より乘輿に菖蒲を積みのせて獻呈せしものをいふ）。
しやうふく（名） 祥福、さいはひ、福祿。
じやうふく 常服、ふだんぎ、つねぎ。
じやうぶくろ（名） 狀袋、信囊、ふうじぶくろ、てがみづつ、封筒。
しやうぶまち 菖蒲町（武藏國南埼玉郡の町名）。

しやうぶざけ 菖蒲酒（酒中に菖蒲を入れて五月節句に飲む酒）。
しやうぶせつ（名） 菖蒲節、あやめのせつ（太陰曆五月五日の祝）。
しやうぶん（名） 性分、うまれつき、たち、きまへ。
じやうぶん（名） 上聞（天子の聞くことをいふ）。
しやうこ（名） 鉦鼓（樂器の名、此圖なるは大和國東大寺の所藏）。

［鉦鼓の圖］

しやうこ（名） 商賈、あきびと、あきんど。
しやうご 正午、まひる、ひるなか。
じやうこ 上古、おほむかし、上世。
じやうご（俗）（形名） 上戶、さけずき、十さけのみ。
じやうご（名） 漏斗、噴筒（流動物を移す時などに用ふる器）。
じやうこは（俗）（形） 情強、がうじやう。
しやうこう（名） 相公（君王或は貴人を尊稱する詞また唐の官名にて諫議大夫即ち八座をいふ、我朝の參議に當る）、との、とのさま。
しやうこうねつ（名） 猩紅熱（體の各所に赤き發疹を生ずる熱病）。
しやうこく（名） 相國（宰相をいふ）。
しやうこく（名） 生國、うまれぐに。
じやうこく（名） 上國（己の屬する國を尊びていふもの）。
じやうこく（する）（他） 上刻、きざむ、ほる（板木に）。
じやうこく（名）、—する（自） 上告（大審院に再訴することをいふ）。

しやうこん（する）（自） 愴恨、かなしむ、なげく。
しやうこん（名） 傷痕、きずあと。
しやうごん（形名） 莊嚴、いかめしくきかんなる、十かざりつけ。
じやうこん 上根（根氣の尊きこと）。
しやうてい（名） 章程、さだめ、きまり、規則。
しやうでい（名） 障泥、あふり（馬の脇に垂るるもの）。
じやうてき（形） 婷的、いさぎよき。
しやうてん（名） 昇天、てんにのぼる。
しやうてん（名） 賞典、はうび。
しやうてん（名） 商店、あきなひみせ。
しやうでん 詳傳、（くはしき傳記）。
じやうてん 常典、きまりたるのり。
じやうてん（名） 上天、あめ、そら、十又（四天の一にして冬の天をいふ）。
じやうでん 上田、よきた、沃田。
しやうでんちやう 聖天町（東京市淺草區淺草の町名）。
しやうでんよこちやう 聖天横町（東京市淺草區淺草の町名）。
しやうでんじん 聖天神、歡喜天（佛教の神の名）。
じやうあい（名） 情愛、なさけ、なさけごころ。
しやうあく（する）（他） 掌握、てににぎる。
しやうあひ（俗）（名） 性合、きしつ、きあひ。
しやうあん 正安（日本自一千九百五十九年至一千九百六十一年、西洋自一千二百九十九年至一千三百一年）（年號）。
じやうあん（名） 上餡（料理にて久助葛を水に冷し其上水を取去り「にだし」と「たまり」とを加へて煮

たる汁。又菓子の餡をいふ。

しやうぎ　上座、かみくら、かみざ。

しやうさい（形）　詳細、くはしき、委細、こまかき、つまびらか。

じやうさい　上裁、天子の裁許なり、上裁を受くるなどいふ。

じやうざい（名）　淨財、佛教信徒が寺院に寄附する金錢をいふ。

しやうさき（名）　鐮劍、きづ、けが。

じやうさき〔する〕〈他〉　薙鎗、さらふ、うばふ。

じやうさき（名）　掃檜、ながし臺所の。

じやうさく（名）　缺實、すのこ。

じやうさく　上作、よくできたること。

じやうざこぼり　上座部（孔前團の郷の名。

じやうさし（名）　揮狀頭、てがみばさみ。

じやうざせき（名）　上座石、庭造法にて築山の上に置く平たく厚き大石をいふ、庭中上座に位するの義なり、くわんおんせき。

しやうさん〔する〕〈他〉　賞讃、ほめる。

しやうざん　象山（信州松代近傍の一山、佐久間修理が象山と號せしは此山に取りしものなりといふ。

じやうざん（名）　常山（播州常山、くさぎ、こくさぎ（植物）。

しやうさん　祥氣、めでたき。

しやうさん　正息（祥月命日。

しやうさん　正氣、たしかなるこころ。

しやうさん（名）　掌記、いうひつ、かきやく、ものかき。

しやうさん〔する〕〈他〉　商議、さうだんする、協賛、あひはかる。

しやうさん（名）　床机、將几、こしかけ、たたみいす、初床、昔時大將の陣中にて腰掛けるに用ひしもの。

しやうさん（名）　象棋、將碁盤の上にて爲る戲。

しやうさん（名）　綱紐、うかれめ、あそびめ、ぢようろ、娼婦。

じやうさん（名）　上氣、のぼせる、きのぼせ、のぼせ、逆上。

じやうさん〔する〕〈俗〉　上棟、のぼせる。

じやうさん　常規、つねのきまり。

じやうさん（名）　情詐、じやうあひ、好誼。

しやうさんぎょく（名）　象棋盤、しやうぎさすばん。

しやうさんきょく（名）　將碁倒、つづきたふる。

しやうさんぎょくふし（名）　將碁倒、つづきたふる。

しやうさんやう（形）　猖狂、きちがひじみたる、狂態なり、くわんおんせき。

しやうさんやう〔する〕　憧悅、きぬけする、のぞみあひはかる。

しやうさんゆ（名）　醬油、あぜつけにる、食物に味をつくるもの。

しやうめい〔俗〕〈形〉　正銘、ほんもの、まことなる。

しやうめい　將命、めいをもこなふ、とりつぎする。

しやうめん　正面、まむき、まをもて、まへ。

しやうめん〔俗〕〈名〉　正味、なかみのめかた、風袋なしの。

じやうみ（名）　上巳、やよひのせつく（舊三月三日の節句。

じやうみゃくせいみゃく（名）　動脈、心臟（もどり來る血液の脈。

しやうやく（名）　賞讃、ほめことば。

しやうやく（名）　賞賜、ほうびのたまもの。

しやうやく（名）　生死、いきしに。

しやうやく（名）　殤死、わかじに。

しやうやく（名）　將棊、なかゆび、まんなかのゆび。

しやうやく〔する〕〈他〉　嘗試、あぢはふ、ところむる、試驗。

しやうやく（名）　傷痕、きず、けが。

しやうやく（名）　樟子、疵隕、たてもの紙をはりて日光を引く所の戸、かみど。

しやうやく（名）　莊司、りやうしゅ、をさむるもの（莊園を司るものをいふ、しやうえんを見よ）。

しやうやく　庄司氏。

しやうやく（名）　侍從、宮中の女官。

しやうやく（名）　贈典、にんじやうぼん、草双紙、人情小說。

じやうやく　上棟、はんにはる、上木、十しゅつぱんする。

しやうやくきょく　上京、みやこいり、出京。

じやうやくきょく（名）　情況、ありさま、狀況、景況。

しやうやくきょく〔する〕〈他〉　賞却、つくのひかへ。

しやうやくきん（名）　賞金、はうびがね。

しやうやくきん（名）　賞金、つくのひきん。

しやうやくぎん（名）　常銀、かんぎやうかた。

じやうやし（名）　城址、しろあと、しろのくづれあと。

じやうやし（名）　上使、かみのつかひ（公方家の使者を卿上使樣と呼べり）。

じやうやし（名）　情思、男が女を戀ひ女が男を思ふ情をいふ。

じやうやし（名）　情死、しんぢう、あひじに（男女の相思ふことの切にして共に死するをいふ）。

じやうやじぼね（名）　情事、いろごと。

しやうやしよ（名）　象嘗通辯觀譯者をいふ。

しやうやしよ〔する〕〈自〉　顚蹶、まひあがる、鳥おつ、とびかける。

じやうやしよ　上書、ふみたてまつる、君王に書をたてまつるなり、上疏、十又たてまつりぶみ。

じやうやしよ（名）　淨書、せいしよ、きよがき、きれいにうつすこと。

じやうやしよ（名）　情緒、なさけのこころ、物に感動せられて悲喜愛憎する情をいふ。

じやうやしより〔する〕〈自〉　上衝、のぼせる、ずきあがる。

じやうやしよく〔する〕〈他〉　淨拭、きよくのごふ、ふきき上める。

しやうやしつ〔する〕〈他〉　詳悉、くはしくする、つまびらかにする。

じやうやじつ（名）　情實、まこと、わけがら、ことがら。

じやうやじつ　上日、ついたち、一日。

じやうやじつ　常日、つねのひ、いつぜい。

しやうやしくわい（名）　尚齒會、老人の壽集りて組み立つる會。

しやうやしや（名）　商社、（商業のために數人相合して立てたる社をいふ、商會、組くみ）。

しやうやじや（名）　精舍、てら、佛寺。

しやうやじゃ〈形〉　清淨者、いけるもの。

しやうやじゃう（名）　蘸雜、酒醬にあつまる小羽蟲（動物。

しやうやじゃう（名）　猩猩（猿の類にして大に人に似、物を持ち且つ能く歩む、ウランダータン 動 圖）。

じやうやじゃう（名）　情狀、ありさま、わけがら。

しやうやじゃういし（名）　淨石、手水鉢の傍に置く堅石をいふ、のぞきいし。

じやうやじゃうじん　常精進、恒に肉食せぬこと。

じやうやじゃうひ（名）　猩猩綠、ちかいろ。

しやうやじゃうせせ　生生世世、うまれかはりしにかはり、十よ。

しやうやじざいしん（名）　猫耳細辛、みすみさう、ゆきわりさう（植物。

しやうやじゅ（名）　聖衆佛法護持の聖徒。

じやうやしゅ（名）　城主、しろのぬし。

じやうやしゅ（名）　城守、しろまもり、城代。

じやうやしゅ〔する〕〈自他〉　成就、務成、成功、なる、できる、できかす、とげる、しとげる。

じやうやじゅん　上旬、月のかみの十日間、上浣、上澣。

しやうやしゅんさう（名）　常春藤、長春藤、きづた、ふゆづた、おにまさき（植物。

じやうやしゅんくわ（名）　常春花、きんせんくわ（植物。

しやうやしん　正身、まさみ、ほんもの。

しやうやしん〈形〉　正實、ほんまこと。

しやうやじん（名）　精進、はげみすすむこと、專に佛道に、十また（俗）ものいみ肉を食はぬこと。

じやうやしん（名）　上申、まうしあぐる。

じやうやじん〔する〕〈他〉　情人、いろをとこ、情夫、こひをとこ。

しやうやじんれうり（名）　精進料理、腥料理に反對す、魚鳥及び魚肉肉類を用ひぬ料理、但し卵は例外として採用す。

しやうやしんぎ（名）　正實木、庭園にて龍腦の顯れる山などに植うる最然たる大樹を俗かに呼ぶ、蓋し屋中の第一の實木なり。

しやうやじんもの　精進物、淨饌、しやうじんれうり、なまぐさからぬくひもの。

じやうやしゃ（名）　淨衣、きよきころも。

しやうやじゃうい（名）—する（他）　陣營（爵の類、十又さはり、くもり、かかりもの（眼の）、十おほふ、かげらす。

しやうやじゅ（名）　晶胺膜、あまかは。

しやうやじゅえんじ（名）　生胭脂、煎を赤・色どるに用ふる綿の具。

しやうやぶん（名）　莊園、もぢやうし上、中古朝廷より皇子功臣などに賜はりたる田園、され之後には私に開墾し或は他を兼幷し強奪せるもの多し、さうぶん、しやう。

しやうやひ（形）　昌披、あひときひろげ。

しやうび（名）薔薇、ばら（植物）。
しやうび（する）（他）賞美、稱美、ほむる。
じやうび　常貨、つねのいりめ、經貨。
じやうびへい　常備兵、つねにそなへもくつはもの、常備軍。
しやうびする（名）薔薇水、ばらのみづ、かうすゐ、香水。
しやうひん（名）商品、あきなひもの。
じやうひん　上品、よきしな、十又ひだかき。
じやうひん（する）（他）上聞、まうしあぐる長上に。
しやうもじ（名）唱門師（人の門戸に立ちて說經するもの）。
しやうもん（名）將門、將軍の家。
しやうもん（名）掌門、もんばん、門候、監門、かどもり。
しやうもん（名）聖聞（佛弟子の最下級）。
しやうせい（形）昌盛、さかんなる、まさかり、さかゆる。
しやうせい　昌世、をさまれる世、十さかゆるよのなか。
しやうせい（名）正税、ねんぐ。
じやうせい　上世、あがれる世、いにしへ、あはむかし、かみつよ。
じやうせい（名）情勢、やうす、いきほひ、ありさま、態勢。
しやうせいだうし（名）上清童子（錢をいふ）。
しやうせつ（する）詳說、くはしくとく。
じやうせつ（する）（他）攝騙、ぬすむ、十かすめとる。
しやうせき（名）尿廁、ゆか。
じやうせき　上廁、かみのせき、かみざ、上座。
じやうせき（する）（他）賞美、稱美、ほむる。
じやうせき　（激などを）攘斥、はらひしりぞくる。
じやうせき（する）（他）讀賣、せむる、とがむる。
しやうせん（名）商船、あきなひぶね、商船。
しやうせん　生前せいぜん、いけるとき、生時。
しやうせん　上船、ふねにのる、乘船。
しやうせん（する）（他）讀譱、ゆづる位を。
しやうせんげん　將然言未來を表はす語法。
じやうず（形）上手、てきはよき、たくみなる。
じやうずる（名）上聞、みぶんよきひと。
しやうずる　祥瑞、よきしるし、めでたきしるし。
じやうずる（名）掃水、てうづみづ、てあらひみづ、てみづ。
じやうずる（名）上水、河水を市府などに引くをいふ。
しやうずる（他）聽、招待、よびまねく、しやうだいする。
しやうずる（自）生、はゆる、もふる、うまる。
じやうずる　常數、さだめ、きまり、天命などにいふ。
じやのめ（名）蛇眼、太き圓き輪をいふ。
じやのひげ（名）爵、くらゐ、爵位、くらゐ。
しやく（名）勻、一合の十分一。
しやく（名）尺、一寸の十倍。
しやく（名）鐲、しやくぢやう鍋を飛ばすとは僧が行脚するをいふ。

[圖の杓]

しやく（名）匏、ていた公卿の手に持ちし物（此の圖なるは大和國東大寺八幡宮新倉藏）。
しやく（名）酌、さけをつぐこと、行酒（あるじとは俗に雜錢をいふ。
しやく（名）癩病の名、惡人の疫に感染ものにて肉下に非常の痛苦を感じ其だしきは腦絕するに至る、十又かんしやく病（ばの類にさはるなどいふがごとし）。
じやく（形）弱、よわき、つよからぬ、かよわき、臆。
じやく（する）（自）寂、しめる、僧侶の死をいふ。
しやくる（名）爵位、くらゐ。
じやくろ　借廬、かりや、かりいへ。
じやくろ（名）石榴（ざくろ）、若榴、丹若（植物）。
じやくろぐち（名）爵祿、爵位と俸祿。
しやくろぐち（名）石榴口、ふろのいりくち。
しやくろば（名）借馬、かりうま。
じやくろばい（名）若梅、としわかもの。
じやくろばい（名）雀梅、きすもも（植物）。
じやくろはち（名）尺八、竪笛、たて笛に似て竪にふえ、洞簫かたぶえ、洞簫かたち笛に似て竪に吹くもの。

[圖の尺八]

しやくろはちがめ（名）玳瑁（動物）。
しやくろはう（する）（他）釋放、ゆるしやる、はなちやる。
じやくろばく（名）雀麥、ちやひきぐさ、かちすむぎ、すずめのちやひき（植物）。

しやくわんがく（名）社會學、社會の發達變遷等を研究する學。
しやくわいしゆぎ（名）社會主義、個人主義に反對して社會一般の幸福を進むるを目的とす、財産共有の如きもの之を實めたるより出で來れるものなりとす、ソーシヤリズム。
しやくわん（名）社官、神職、かんぬし。
しやくわん（名）舍館、やどや、はたごや。
しやくわん（名）借奚、かりいへ、借屋。
しやくわん　雜褐、褐服を雜きて官につき官服を服ふをいふ。
しやくかう（名）借耕、こさく。
しやくがう（名）綽號、あだな、綽名、渾名。
しやくがう（名）爵號、くらゐのな。
じやくかん　若干、そこばく、いくばか。
じやくかん（する）（他）借用、かりもちひる。
しやくかん　綿袍、ゆるやかなるふり。
しやくかん（名）酌奪、推斷、裁奪。
いふ、推斷、裁奪。
しやくがん（する）（他）尺斷、きれぎれにきる。
しやくがん（する）（他）斫斷、きる、きりたつ。
じやくがん　雀眼、あはれずみ。
しやくがん　釋尊、釋迦如來をいふ。
じやくがん（名）若年、としわか、わかきとし。
じやくがん（名）石南花、鳳棲、しやくなぎ（植物）。
しやくかつ　雜褐、褐服を雜きて官につき官服をふをいふ。
しやくかう（名）綽號、あだな、綽名、渾名。
しやくがう（名）爵號、くらゐのな。
じやくかん　若干、そこばく、いくばか。
しやくかん（する）（他）借用、かりもちひる。
しやくかん　綿袍、ゆるやかなるふり。
しやくかん（名）酌奪、推斷、裁奪。
しやくがん（する）（他）尺斷、きれぎれにきる。
しやくがん（する）（他）斫斷、きる、きりたつ。
じやくがん　雀眼、あはれずみ。
しやくがん　釋尊、釋迦如來をいふ。
じやくがん（名）若年、としわか、わかきとし。
じやくがん（名）石南花、鳳棲、しやくなぎ（植物）。
しやくがんぎ（名）海馬、あざのむし動物。
しやくがんぎ（名）雀纓、とりあみ、とりをとるあみ。
しやくがん（する）（自）拘攣、かがやく、ひかる。
しやくがんぎ（名）寂光土極樂をいふ。
しやくくわん（名）爵官、くらゐ。
しやくくわん（形）綽寬、ゆるやか、綽綽。
しやくくわん（名）綽寬曲禮に八生二十を綽と云ひて猶りすとあるに出づ、二十歲ぐらゐの少年をいふ、わかきとき。
しやくくやく（形）綽約、ゆたか、やさしき。
しやくくやく（名）芍藥、えびすぐさ、かはよぐさ（植物）。
じやくくやく（する）（自）雀躍、こをどりする。
しやくくやくむし（名）芍藥鼠（動物）。
しやくぐま（名）赭熊、赤熊、赤羆、紅羆、あかきかちのかしら頭にかぶる長き毛の名なりからかしらの下を見よ。

[圖の蠹蝶芍藥]

じやくくまう（名）雀買、とりめ。
じやくくまく（形）寂寞、せきばく、ものさびしき、ものしづか。
しやくぐまさいと（名）白頭翁（植物）。
じやくげつ（名）若月、陬三日月、故生明、みかづき。
しやくけう（名）釋教、ほとけのをしへ、佛教。
じやくげう（名）雀蟢、うなぎづる、うなぎつかみ（植物）。
しやくふく（名）釋服、いみあけ。
しやくらん（名）借店、かりだな。
しやくてん（名）釋奠、昔時、太陰曆二月及び八月の上の丁ひのとの日に大學寮にて行はれし孔子の祭、せきてん。
しやくざい（名）借財、かりがね。

しやくさ（名）癪氣病の名。
しやくさき（名）狩籠、ときあかし、解釋、註釋、註解、註疏、註脚。
しやくさまよ（名）借居、かりずまひ、賃居。
じやくさまよ（形）若許、そばく、若干。
しやくさゆ（形）綽裕、ゆたか、あまりある。
じやくめつ（名）（する）（自）寂滅萬勢盡く滅して空寂なるをいふ、十また死僧侶のてほろぶ、しぬる。
しやくみ（名）曲、まがり。
しやくし　狩氏狩氏をいふ。
しやくし（名）杓子、いひがひ、匙子、飯杓子、はんがひ。
じやくしるがは　石神井川 武州石神井村なる三寶寺池に發し練馬川、豊島、王子の諸村を過ぎ荒川に注ぐ、王子村にては之を王子川といふ。
じやくしはん（名）雀子斑、そばかす、雀斑。
しやくしちやうき（名）杓子定規 一つのつまもぬ定規を以て萬事を推し正さんとするを嘲つていふ詞。
しやくしよ（する）（他）酌處、くみはからふ。
じやくじやく（名）雀顱、えつさい動物。
しやくしやく（副形）杓鉢、かがやく。
しやくしやく（副形）杓杓、あきらか。
しやくしやく（副形）綽綽、ゆったりしたる、こころひろき。
しやくしゆ（名）借主、かりぬし、かりて。
しやくしゆ（する）（自）積聚、つもりあつまる。
じやくえふきよ（名）弱葉魚、このはがれひ動物。
しやくえん（名）杓炎、はげしきあつさ。

しやくもち（名）筋手殿上人をいふ。
しやくもつ　借物、かりもの。
じやくもく（名）雀目、とりめ。
しやくもん（名）釋門 佛教をいふ。
しやくせつ（する）（他）折截、きる、きりたつ。
じやくせつさう（名）雀舌草、のしのつづり、の植物。
しやくぜん（副形）杓然、いちぢるしく、いやちこ、きらきら。
しやくぜん（形副）綽然、ゆるやか、ゆつたり。
しやくぜんだん（名）赤栴檀、牛頭栴檀、檀香、だんかう（植物）。
しやくん（名）社君、家鹿、穴鹿、ねずみ、鼠の異名。
しやけい（名）射鮭、ゆがけ。
しやけん（名）邪見、よこしまのみこみ、十又（俗）（形）なさけしらず、わびざま。
しやふ（名）車夫、くるまひき、車子。
しやぶる（俗）（他）喋、ねぶる、十すみ。
しやふきらん（名）石蘚の一種（植物）。
しやへ（名）鰒蛞、しやくなぎ（動物）。
しやへ（名）車轅、かひの如き動物。
しやご（する）遣謂、とりさる、十かはよ、侵庭、庭謂。
じやこ（名）蛇籠（じやかごを見よ）。
しやこたんちく（名）虎斑竹 北海道後志に產する竹の一種。
しやこう（名）射侯、まとのほし。
しやこく（名）皇鯨、こしき。
しやてい（名）舍兄、あとうと、家弟（己れの弟）。
しやてつ（名）車轍、くるまのわだち。
しやてき（名）射的、まとをいること。
しやあつく（俗）（形）洒蛙突、はずしるぬ、めづちなる、蛙面。
じやあく（形）邪惡、よこしまあしき。
しやざ（名）車座、まどゐ、くるざ。
しやざい　謝罪、つみをわびる。
しやざい（名）放罪、つみをゆるす。
しやざい（名）瀉劑、くだしぐすり。
しやさん（名）社參、みやまうで、みやまゐり。
しやざん　結山、おかはげやま。
しやさん（名）砂蠶、こがひ動物。
しやさき（名）謝儀、れい、わくい。

じやさ（名）邪鬼、まがつみ、邪神、惡鬼。
じやさ（する）（他）憲起、ひきおこす。
しやさり（名）商宮律樂器の名、また一種の奏樂。
しやさよ（名）炙魚、やきもの、あぶりさかな、やきさかな、炙の正音は「せきなり」。
[しやさよ]（名）沙魚、はぜ、鯊魚動物。
じやさよく（形）邪曲、よこしま。
じやさう（名）麝牛、かもりうし動物。
しやさん（名）謝金、れいきん。
しやさん（名）沙金砂を混じたる金即ち未だふきわけぬ金。
しやさんぶくろ（名）沙金袋 沙金をいるる袋。
しやさんせき（名）沙金石、すなごいし。
しやみ（名）沙彌 僧行の未だ熟せざるもの、初心僧の所作。
しやみせん（名）三味線 三絃の樂器。
しやし（名）社司、やしろ、ほこら。
しやし（名）社司、かんづかさ、社職、かんぬし。
しやし（名）斜視、よこめ、十やぶにらみ。
しやし（名）齋侯、まごり、謀著、だいたく。
しやし（名）（する）（自）舍止、やどる、とまる。
しやじ　社寺、みやでら。
しやじ（名）謝辭、わびことば、十又れいことば。また國家、くに。
しやしよ（名）社壇 土神穀神をいふ、后土、十沙汰、ふすべ、どくだちみ（動物）。
しやじつ（名）社日 后土を祭る日。
しやじつ（名）斜日、いりひ、ゆふひ。

しやしう　沙洲、かはのす、すなす。
しやじうきく（名）水菊薑苗（植物）。
しやじやう（名）結繩、あかつち。
しやじやうま（俗）（名）跳跳馬、つきわるきうま、はねうま、あばれうま。
しやじきかい　寫字器械、もじかきかい（文字を寫すに用ふる器械。
しやじきよく　社寺局（神社と佛寺との事を主管する局）。
しやじゆつ（名）射術、ゆみいるわざ、しやげい、射法。
じやしゆうもん　邪宗門、よこしまのをしへ。
しやじやう（名）寫字生、かきうつして、かきやく、謄寫生。
しやしん（名）寫眞、うつさう、うつすがた、寫影、肖像、影相、ごえい。
しやしん（名）寫眞 寫影相ごえい。つせる影畫を然か呼ぶ、複影、撮影、フオトグラフ。
しやじん（名）社人、かんぬし。
しやじん（名）舍人、とねり。
しやじん（名）沙蚕、やまだいこん、白蚕、知母、羊乳植物。
じやしん　蛇身、へびのごときからだ。
じやしん　邪神、あしきかみ。
しやしんか（名）寫眞家、ごえいかき人の肖像を寫す人。
しやしんだいがみ　寫眞臺紙、寫眞を取る紙。
しやしんや（名）寫眞屋、しやしん。
しやしんでふ（名）寫眞帖、しやしんばさみ。
しやしんきやう（名）寫眞鏡、しやしんめがね。

しやしんし（名）寫眞師、しやしんや、撮影師寫眞をとる人。
しやえい（する）斜映、ななめにうつる（日光が）。
しやえい（する）（自）瀉瀉、もれる水などが。
じやび　蛇皮、へびのかは。
しやも（名）罪疑、ゆはにはとり、反毛雞（動物）。
じやもも（名）蛇莓、くちなはいちご、へびいちご、地蓮（植物）。
しやもつ（名）謝物、れいもつ。
しやもん（名）沙門、上すてびと、桑門。
しやもん（する）借問、ちよつととふ、とひたづぬる。
じやもんせき（名）蛇紋石、蛇石、うろこがたのいし。
じやせい　邪正、よきあしき、よこしまただしき。
しやせつ（する）（他）謝絕、ことわる、十ことばむ。
じやせつ　邪說、よこしまのせつ、異端。
しやせき（名）結石、にいし。
しやせき（名）沙石、すな、いさご。
しやせき（名）沙磧、かはら。
しやせん（名）斜線、ななめのすぢ。
しやせん（名）印船、ふなあそび。
しやせんさう（名）車前草、おほばこ（植物）。
しやせんえふ（名）車前葉、かたくり、山慈姑、かたくりり（植物）。
しやす（他）謝、わびる、ことわる。
しやすゐ（名）沙水、しるみづ。
じやすゐ　邪祟、わるさをするやう、讐疑。
しやんはい（名）三盃酒 洋酒中の第一等美なるもの。

じゃんこ（俗）（名）　盲度、あばた、いもはうきうのあと。

しま（名）　縞、柳條、線條、いろすぢ、綾織布帛の一。

しま　志摩東海道に屬する一國。

しま（名）　洲、島嶼、四方を海にて圍める地。

しま（名）　總喪讀土五服の第五にして三從伯叔父母姑兄姉のために服する三ケ月の喪にして稍細かなる麻布を用ふ。

しま（名）　臭腐、からわし植物。

しま（名）（する）（他）　搦摑、はかる。

しまい（名）　姉妹、あねいもと、女兄弟。

しまばち（名）　蟋蟀、はちの一種の動物。

しまばら（名）　島原京都洛西に在る有名の遊里及び肥前國の地名、十又しばら德川年間に投者が女髪をつけて島原傾城實の體を仕組みて演ぜしより轉じて演劇をしまばらと呼びなせり。

しまばらまち　島原町（肥前國南高來郡の町名）。

しまべ　島邊、しまのほとり。

じまへ（名）　自前、女郎藝子などにして奉公人ならず自己の家に在りてかせぐものをいふ。

しまちどり（名）　島千鳥、動物。

しまりなき（形）　放曠、とりとめなき、十ほしいまま。

しまりのそなへ　殿備、しんがり、うしろそなへ。

しまる（自）　締、緊、緊縮、緊嚴、かたくなる。

しまわりごん（名）　島廻黄金の美なるものにて開港場の祥瑞金をいふ。

しまがに（名）　島蟹、たかあしがに、雄蜘蛛動物。

[圖の蟹]

しまがくれ（名）　島陰、舟などの島陸に隱るるをいふ。

しまだ　島田氏。

しまだい（名）　島盆、婚禮に用ふる島臺の臺。

しまだちやう　島田町（東京市深川區の町）。

しまだわげ（名）　島田髷、年若き婦人の結髪の名、しまだ。

しまだまち　島田町（駿河國志太郡の町名）。

しまつ　始末、もとすゑ、十ことがら。

しまづ　島津氏。

しまづさり（名）　島津鳥、うを、鵜鷺、鳥魚、海河鳥、まとり動物。

しまづつり（名）　紫茉莉、あしろいばな植物。

しまづたふ（自）　島傳、しまにそうてはしる船が。

しまづのしちたち　島津七黨、新納、北鄕、伊集院、町田、川上、阿多、樋木。

しまつり（名）　島祭、島田町に屬する一國。

しまねごほり　島根郡（出雲國の郡の名）。

しまねずみ（名）　花鼠、北海道釧路に産す（動物）。

しまねむがし（名）　流罪、流刑、貶謫刑名。

しまねむらがに（名）　島村蟹、鳥蟹（いけがに、佛州甲州に多く產す、動物）。

しまのうち（名）　島之内、德川時代に大阪に在りし遊里の名。

しまのこ（名）　島子、れふし。

しまのさきちやう　島崎町（東京市深川區の町）。

しまのぎり（名）　桐屏、きりのたぐひ植物。

しまのきぬ（名）　棉絲絹、しまおりのきぬ、しまを見よ。

しまのじ（名）　錦鷄、きんけいてう動物。

しまのし（副）　少時、しばし。

しまのび（俗）（名）　仕舞、をはり、完了、畢終。

しまのび（俗）（名）　粉絮、よそはひ、かつくり（婦人の）。

しまひさき（名）　梓木、あづさ植物。

しまもり（名）　島守、島司（島を守る官人）。

しまん（他）（俗）（名）　慢心、うぬぼれる、あなどる、はこり。

じまん（する）（自）　慢心、うぬぼれ、はこり。

しまんろくせんにち　四萬六千日（佛菩薩の緣日にして此日に參詣するものは四萬六千日だけ參詣したるの功德に當るといふ、但し佛菩薩に依りて其日を異にす）。

しみ（名）　速陰、ふりつづき雨の長く降り續くをいふ、ながあめ。

しめ（名）　始計、くはだて、もくろみ。

しめい（名）　詞奏、文人學士を敬稱する詞なり、名宛の下に某詞奏などと書く。

しめい（名）　司計、かんざやうやく。

しめい　四計、一日の計は晨に在り一年の計は春に在り、一生の計は動に在り、一家の計は身に在り、また曰く一年の計は春に在り、日の計は寅に在り、一家の計は和に在り、一身の計は動に在り、支那にて之を四計といふなり。

しけい　鉄製活版の組字面（紙の滑したるものを叩き込みて乾かして版となす、これをしけいといふ、鉛版を參照せよ。

しけい（名）　雌雞、めにはとり、めんどり（動物）。

しけい　師兄、あにでし。

しけい（名）　繁刑、はなすわう植物。

しけい（名）　死刑、死罪の刑罰。

じけい（名）　慈惠、めぐみ、なさけ、ほどこし。

じけい（する）　自刎、みづからくびをきる、自剄。

しけいさ（名）　結綵、あしきいと、くくいと。

しけいさねり　桂袴、くくいとをもつて、ふとあり。

しげざうのゆみ（名）　繁藤弓、重籐弓（五分づつ隔てて一寸許づつ細き籐を巻きたる弓。

[重籐弓の圖]

しげる（自）　稠、繁、滋、茂、蕃、繁盛、繁茂、繁殖、榮華、さかんなる（樹木等が）。

しげれまつやま（名）　繁松山（音樂の名にして男が女を戀ふる意をよせたるもの、一節毎を終りて繁松山を聞ふなどいふ。

しけつ（名）　死結、こまむすび、まむすび、かたわすび、わすびき。

じけつ（する）（自）　辭決、いとまごひする。

しけつき（名）　止血器、ちどめうつは。

しけり（名）　司敎、天主敎等の高等なる僧の稱。

じけり（名）　耳敎、みみのあな。

しげの　重野氏。

しげのの　滋野井氏。

しげふ　始業、しごとをはじめる（しごとはじめをする式を始業式といふ。

しげる（自）　稠、繁、滋、茂、蕃、繁盛、繁茂、繁殖、榮華、さかんなる（樹木等が）。

しげれまつやま（名）　繁松山（音樂の名にして男が女を戀ふる意をよせたるもの、一節毎を終りて繁松山を聞ふなどいふ。

しけつ（名）　死結、こまむすび、まむすび、かたわすび、わすびき。

じけつ（する）（自）　辭決、いとまごひする。

しけつき（名）　止血器、ちどめうつは。

しけり（名）　司敎、天主敎等の高等なる僧の稱。

しげの　重野氏。

しげのの　滋野井氏。

しげふ　始業、しごとをはじめる（しごとはじめをする式を始業式といふ。

じげふ（名）　事業、わざしごと。

しげふ（名）　史劇、史實に關するしばゐ。

しげき（名）　—する（他）　刺戟、はげまし、十はげます、つきおこすなどの意に同じ。

しげき（する）（他）　刺撃、きしつつく。

しげき（する）（他）　倒撃、ねちひうつ。

しげきぬ（名）　絣絹、くびぎぬ、くびついとをりぎものにて磐城國刈田郡白石等などより產す。

しげみ　聲音樹木或は草叢の大いに茂りこもれるをいふ、松のしげみより山賊あらはれ出るなど用ふ。

しげし（名）　字消、けしごむ、白墨、しろぢみ。

しげもりちやう　茂森町（東京市深川區の町）。

しげん（名）　—する（他）　試驗、ためし、こころみ、ためす。

しけん　私見、あの私見のみこみ、臆見。

しけん　市廛、まちのみせ。

しげん（名）　至言、至極の語、いたれることば。

しげん（名）　事件、できごと、とがち。

じげん（名）　—する（他）　示現、あらはし、默示、天啓、しめす。

じげん（名）　時限、ときのきまり。

しげん（名）　辭言、ことば。

しけんくわん（名）　試驗管、化學實驗用のガラスくだ。

しげんきん（名）　四絃琴、樂器。

しけんし（名）　試驗紙、化學實驗用の紙。

[圖]

じげんしつ（名）　試驗室、學術の實驗室、ラボラトリ。

しこ（名）　御傅、かしづき。

しこ（名）　子癇、このよめ、よめ。

しこ（名）　私天、かくしごと、まをとこ。

しこ（名）　詩賦、支那の歌の類の名。

しこ（名）　紙布、かみこ（紙を細く切り紡ぎて織るもの）。

しこ（形）　止風、くされどめ、くされをとめる。

しこ（名）　集歌集をいふ、集を撰ぶなどいふ。

しこ（名）　使部、こづかひ、官舎の。

しこ（名）　椎茸、いちこ。

しこ（名）　疆、柿澁、しぶかきのしる。

じこ（名）　十、とを、拾、什、五と五とを合せたる數。

じこ（名）　什襲、什に同じ、詩句。

じこ（名）　綴網、あはよめ。

じこ（名）　慈父、ちち、ちちをや。

じこ（する）（自）　自負、うぬぼれする、みづからほこる。

じこう（名）　拾遺、もれたるをひろふこと。

しこいろ（名）　鼠色、うすあかいろ。

しこいち　四分一、よつわりひとつ、十また念の名。

しこいちにわつ　十一月、一年の第十一の月なり、太陰曆即ち舊曆十一月の異名は大見左の如し、霰見月、ゆきみづき、霜髭月、かぐらづき、霜降月、しもふりづき、雪月、もづき、千月、星紀、子月、陽復、黃鐘、芸生、一陽、日南、霜嗣、霜天、復月、朔風、窮月、風寒、雲年、冰壯、暢月、仲冬などなり。

しこいた　四分板（四分の厚さの板。

しこいつ（名）　什一、とをにひとつ十分の一。

じころ（名）　什漬、にがしば。

じふろくさう　十六藤後藤、加藤、須藤、伊藤、工藤、佐藤、齋藤、遠藤、近藤、武藤、尾藤、安藤、内藤、進藤、神藤、齋藤。

じふろくらかん　十六羅漢、賓度羅跋羅墮闍、迦諦迦伐闍、迦諦跋蘖墮闍、磨頻陀、諾矩羅、跋陀羅、迦里迦、伐闍羅弗多羅、戍博迦、半託迦、羅佉羅、那迦犀那、因揭陀、伐那婆斯、阿只多、注:家半托迦。

じふろくや　十六夜、いざよひ、太陰暦十六日の夜をいふ。

じふろくさげ（名）　十六貶、まめのたぐひ植物。

じふはち（名形）　十八、十に八を加へたるもの。

じふはちい（名）　十八魏、かぜのかみ、風神を支那にて然か呼ぶ、猛雨。

じふはちばん　十八番、得意の藝を俗に然か云ふ、歌舞伎十八番を見よ。

じふはちんのぶげい　十八般武藝、支那十八種の武藝にて即ち矛、鎚、弓、弩、鉾、鞭、簡、鎖、鏈、斧、鉞、戈、戟、牌、槊、鎗、扒り、和語にていへば一てぼこ、二つち、三ゆみ、四おほゆみ、五てをの、六てつつ、七たて、八つるぎ、九かま、十なげぼう、十一をの、十二まさかり、十三かぎぼこ、十四ほこ、十五たて、十六ぼう、十七やり、十八くまで也、十または一說に云く、十八般とは一は弓、二は弩、三は鉾、四は刀、五は劍、六は矛、七は盾、八は笞、九は鉞、十は戟、十一は鞭、十二は簡、十三は戟、十四は投、十五は把頭くまで、十六は叉さすまた、十七は縄鏢、十八は白打、くみうち、となりと、以上水滸傳及び五雜俎の說に依る。

じふはちこう（名）　十八公、松の異名。

じふはちきやうがい　十八境、六根、六識、六塵をいふ。

しふばつ（する）〔他〕　懲役、もそひう、敵軍などを。

じふはう（名）　什寶、いへのたから、什器、いへのうつは。

じふにいんねん　十二因縁、佛教の說にして生生相續の因由を十二段に分てるもの、十二懸造。

じふにちよく　十二直、太陰暦中段の尊たつ、滿（みつ）、平（たひら）、取（とる）、危（あやふ）、成（なる）、開（ひらく）、閉（とづ）の十二をいふ。

じふにつき　十二様大祓、正月、夾鐘二月、姑洗三月、仲呂四月、蕤賓五月、林鐘六月、夷則七月、南呂八月、無射九月、應鐘十月、黄鐘十一月、大呂十二月、正、二、三、五、七、九、十一陽月に在るものを律となし、二、四、六、八、十、十二陰月に在るものを呂となす而して六律六呂を十二律といふ、即ち支那音樂に於る陰陽の調子にして律を陽と爲し呂を陰と爲す。

じふにけんれん　十二懸連、十二因縁に同じ。

じふにぶん　十二分、十分に過ぎたるをいふ。

じふにてうし　十二調子、豊越、斷金、平調、黄鐘、雙調、神仙、上無、双調、鳧鐘、黄鐘、雙調、神仙、上無なり、音樂の調子にいふ。

じふにてん　十二天、八天、日天、月天、梵王天、地天。

じふにし　十二支、或は枝に作る、子（水）、丑（土）、寅（木）、卯（木）、辰（土）、巳（火）、午（火）、未（土）、申（金）、酉（金）、戌（土）、亥（水）之を十二枝と云ふ而して子を困敦といひ丑を赤奮若といひ寅を攝提格といひ卯を單閼といひ辰を執徐といひ巳を大荒落といひ午を敦祥といひ未を協洽といひ申を涒灘といひ酉を作噩といひ戌を閹茂といひ亥を大淵獻といふ是等は其異名なり。

じふにし　十二時、暁前にて半夜よなかを子とし雞鳴、とりなきどきを丑とし平旦、よあけを寅とし日出、ひのでを卯とし食時、あさめしどきを辰とし禺中を巳とし日中、ひなかを午とし日昳、ひのいりどきを未とし晡時、ゆふめしどきを申とし日入、ひのいりを酉とし黄昏、たそがれを戌とし人定、さだまりどきを亥とす之を十二時と稱す、此中にて卯、辰、巳、午、未、申を晝の六時とす。

じふにしよのいけ　十二所池、武州豊多摩郡角筈村にある角筈池を俗に然か稱す。

じふにしよまち　十二所町、羽後國北秋田郡の町名。

じふにしやう（名）　十二章、日、月、星、山、龍、華蟲、宗彝、藻、火、粉米、黼、黻なり、これは天子の服の總模樣、禮書に見ゆ。

しふがふ（名）　習合、神佛兩部に關道を加味したるもの。

しふがふ（する）〔自〕　集合、つどふ、よりあふ、あつまる。

しふがき（名）　繖柿、しぶきあぢのかき、植物。

しふかみ（名）　繖紙、しぶひきがみ。

しふたい（する）〔自〕　繖繞、とどこほる、はこばぬ、とどまる。

しふたう（名）　機織、ふねのかい。

しふれん（する）〔他〕　習練、けいこする、ならふ。

しふぞく（名）　習俗、ならはし、習慣。

しふつ　四勿、論語に曰く、非禮勿視、非禮勿聽、非禮勿言、非禮勿動と勿れ、非禮動く勿れと、之を四勿といふ。

じふてりあ（名）　實扶的里頭痛の名。

じふでふ（する）〔自〕　調鳥、かささぎ、をりかささぎ。

じふでん（する）〔他〕　懸傳、つたへつぐ、相傳。

じふあく　十惡、殺生、偸盗、邪婬、妄語、綺語、惡口、雨舌、貪、瞋、癡。

しふさい（名）　繖菜、ちどくそ、植物。

しふさつ（する）　雖殺、もそひころす。

しふざつ（名）　四不象、鹿の類にして支那に産するもの、動物。

じふさんだいしふ　十三代集、二十一代集の下を見よ。

じふさんだいしやう（名）　十三經、易經、書經、詩經、禮記、孝經、論語、孟子、周禮、左傳、公羊傳、穀梁傳、爾雅、數梁傳。

しふさき（名）　蕺、どくだみ、植物。

しふさき（名）　習氣、ならはしくせ。

じふにひとへ（名）　筒骨草、あちちぎ、植物。

じふにひとへ（名）　十二單、昔し宮女の装束、白小袖を最も下に着し其上にひとへ、五衣及び表衣を重ねて打掛にし其上に唐衣を着す。

しふほ（する）〔他〕　繕補、おぎなふ、つきたす。

しふほ（する）〔他〕　執捕、收捕、めしとる、かりめとる。

じふほ（名）　拾武、ひろひあるくこと、脚にて。

じふぼく（する）　鴨嘘、やはらぐ。

じふぼくさい（形）　硬頸、がうじやうなる。

じふぼくさばね（名）　石蕊花、蟇珠沙花、植物。

しふぼう　四不關、智者不與合關、不與法關、不與勢關、不與理關。

しふちかん（名）　集治監、罪囚をおしこむ所。

しふちう（する）〔他自〕　集中、まんなかにあつめる、ひとつところにあつまる、四方よりして一中點に集るなり。

しふちや（名）　苦茶、にがきばんちや。

しふぢやく（する）〔自〕　執着、こる、おぼれる。

しふりはら（名）　痢病、赭痢、膿病。

しふりかう（名）　十里香、げつきつ、植物。

しふる（他）　強しひるを見よ。

しふる（自）　縲、繩、しばしばする、きしむ、どとどとはる。

しふるす（他）　舊古、久しき前より既に舊し來りて珍しかちぬをいふなり、古人のしみるしたるとさだいふ。

しふかは（名）　渥河氏。

しふかは（名）　繖皮、蕨、しぶきうすかは、菓物の。

しふかはまち　繖川町、上野國群馬郡の町名。

しふがく（する）〔他〕　習學、ならふ、まなぶ。

しふがふ（名）　習合、神佛兩部に關道を加味したるもの。

しふがふ（する）〔自〕　集合、つどふ、よりあふ、あつまる。

しふがき（名）　繖柿、しぶきあぢのかき、植物。

しふかみ（名）　繖紙、しぶひきがみ。

しふたい（する）〔自〕　繖繞、とどこほる、はこばぬ、とどまる。

しふたう（名）　機織、ふねのかい。

しふれん（する）〔他〕　習練、けいこする、ならふ。

しふぞく（名）　習俗、ならはし、習慣。

しふつ　四勿、論語に曰く、非禮勿視、非禮勿聽、非禮勿言、非禮動く勿れと、之を四勿といふ。

しふてりあ（名）　實扶的里頭痛の名。

しふでふ（する）〔自〕　調鳥、かささぎ、をりかささぎ。

しふでん（する）〔他〕　懸傳、つたへつぐ、相傳。

しふあく　十惡、殺生、偸盗、邪婬、妄語、綺語、惡口、雨舌、貪、瞋、癡。

しふさい（名）　繖菜、ちどくそ、植物。

しふさつ（する）　雖殺、もそひころす。

しふざつ（名）　四不象、鹿の類にして支那に産するもの、動物。

じふさんだいしふ　十三代集、二十一代集の下を見よ。

じふさんだいしやう（名）　十三經、易經、書經、詩經、禮記、孝經、論語、孟子、周禮、左傳、公羊傳、穀梁傳、爾雅、數梁傳。

しふさき（名）　蕺、どくだみ、植物。

しふさき（名）　習氣、ならはしくせ。

しふくわん（名）　習慣、ならはし、しきたり、風習。

しふや　繖谷氏。

しふやがは　繖谷川、武州玉川上水の支流にて四谷大木戸に至り上水と分れ繖谷豐嶋の諸村を過ぎ芝金杉に於て東京灣に注で下流を古川又は赤羽川といふ。

じふやりきん（名）　十機錦、唐來紅、はげいとう、（植物）。

（じふませい）　什麼生、そもさん、如何の意にて支那の俗語なるを禪家にて用ふ。

じふまんおくど（名）　十萬億土、佛の住みたまふといふ國。

しふげき（する）〔他〕　襲撃、おそひうつ。

じふぶん（形）　十分、もも五ほど、十したたか、充分、たくさん。

しふとう（する）〔他〕　雖攻、おそひせむる、せめうつ。

しふき〔する〕集散、よりあひてはかる。
しぶき〔形〕澁柿の如き收斂する味あるをいふ、又俗に衣服の色相又は服裝などが華美ならずして奥ゆかしきを然かいふ。
じふき〔名〕什器、うつはもの。
しぶきあめ〔名〕糠雨、こさめ。
しぶし〔名〕斜雨、よこあめ。
〔じふしちやげつ〕十七夜月、かなふ氏）
じふしちし　十七史史記、前後漢書、三國志、晉書、宋書、南齊書、梁書、陳書、後魏書、北齊書、周書、隋書、南史、北史、唐書、五代史。
じふしちもじ　十七文字俳句をふ。
じふじか〔名〕十字架、はりつけばしら（耶蘇教徒が樂土所のものにて基督の磔死を表す。
じふじがい〔名〕鍵貫、あそびがき、しきうつし。
じふじよ〔名〕十字街、よつつぢ。
じふじたい〔名〕十字碑、づぼんつり。
じふしう　四都衆、比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷の總稱なり、佛教にいふ。
じふしふ〔する〕〔他〕集戰、蒐集、かりあつむる。
しふしふ〔する〕〔他〕拾集、ひろひあつむる。
しふしふ〔副形〕習熟風のそよそよ吹くさま。
しふじさつ〔名〕習字册、てならひざうし。
しふじゆく〔する〕〔自〕習熟、なれる。
しふしん〔する〕〔他〕〔名〕執心、ふかくこころをとむること、あもひこみ。
しぶえ　遲江氏。
しふもつ〔名〕什物、たからもの、つたはれるうつは家に。
じふもんじ〔名〕十文字十の字の形で、十ぶつちがへ（十文字に屬とはるなど云ふ。
しふせい〔する〕集成、あつめてつくる、あつめて大成するをいふ。
しふせう〔する〕〔他〕熱照、とりてちす、くらべあはせる。
しふせん〔する〕〔自〕習熟、しみこむ、十そまる。
じふする〔名〕拾遺、つみくさ、つみくさあそび。
しふぶん　私憤、私慾、わたくしごとのいかり、私疵。
しふぶん〔名〕詩文詩と文をいふ。
しふぶん〔名〕制文、ほりもの、いれずみ。
しふぶん　四分長官、次官、判官、主典を然か呼ぶ、また位名、庶頭の位階にいふ。
じふぶん〔する〕自制、みづからくびはねる。
じふぶん〔名〕時分、ときころあひ、十期劫波を然か稱す。
じふぶん〔代名詞〕自分、おのれ、わがみ。
しふぶんとれつ　四分五裂、ちりぢりばらばら。
しふぶんし〔名〕脂粉資、けしやうれう、おしろいだま。
しこ〔形〕醜、みにくき。
しこ〔する〕四顧、あたりをみむく、みまはす。
しこ〔名〕市虎、いさみ、うてこき。
しこ〔名〕指鼓通常の鼓をいふ。
しこ〔名〕市戸、まちや。
しこ〔名〕矢壺、矢籠、尻靫、しつこ、やつぼ、えびら（矢を盛る器にして其製は籠より出づ。

［圖］

しこ　死後、しぬるのち。
しこ〔する〕〔自〕私語、ささやく、こそこそばなしする。
しこ〔する〕〔自〕交朋、くひちがふ。
しこ〔名〕死期、しぬるとき、しにぎは、いきは。
しこ〔名〕事故、わけがら、わけ、こと。
しこ〔代名詞〕自己、おのれ。
しこ〔名〕似虎、ねこ、家貴動物。
しこ〔名〕〔する〕〔自〕耳語、ささやき、ささめごと、ささやきごと、ささやく、みみこすり、みみうち。
じご　獄後、そのち、自後、而後。
しころ〔名〕鎧、鞆、鞆、錣、領項、承巾、盔屋、頸鎧（兜の後に垂れたるものをいふ、此圖なるは桑の名家所藏にて吉野山中より出でしものなりといふ。

［圖］

しござ〔名〕工作、業ざ、しわざ、行爲。
しござば〔名〕工作場、しごとするところ。
しござばこ〔名〕針工箱、はりばこ。
しござし〔名〕雜作人、かしら（即ち大工を助けて足場を掛け穴を堀るなどのことをする人。
しこり〔名〕痼疾、こぶ、しこり。
じこりう　自己流、じぶんりうぎ、がりう、我流。
しこつ〔名〕齒骨、はぐきのほね、十牙床骨、十はこつ（火葬人の一。
しこつざう　醜神通、醜報國に在る淵水、「とう」を見よ。

しこづる〔他〕讒毀、譖譏、譖言、讒言、ざんげんする。
しこなし〔名〕周旋、とりまはし。
しこむ〔他〕仕込、買陶、しつける、をしへこむ、十買入かひこむ貨物を。
しこう〔形〕至公、いたつてもはやけなる、ただしきのいたり。
しこう〔する〕〔他〕伺候、うかがふ、たづぬる人を、又傍にをること。
じこう〔名〕時候、きこう、とき。
じこう〔名〕事項、ことがら。
しこのみたて〔名〕鵰鞘、くにのまもり、干城。
しこく　四國阿波、讃岐、伊豫、土佐。
しごく〔他〕扱、こく、手の中を通して引くをいふ。
しごく〔副〕至極、いたりきはまりて、いたつて。
じこく〔名〕時刻、とき、十ときのきざみ。
じこく　自國、わがくに、おのれのくに。
しごくくわん　司獄官、ろうやがかり。
しこくさぶらう　四國三郎、阿波國の吉野川の一名を然かいふ。
しごふ　四劫成住壞空の四時にて天地萬物の變化をいふ、佛教の語。
じごふじとく　自業自得、みづからなしてみづからうる。
しごき〔名〕細帶、婦女子が廣帶の上に結ぶ編き帶にて直に縫はざる絡緬などを用ふ。
しこめ〔名〕醜女、みにくきをんな。
しこめゆみ〔名〕醜弓、かざりゆみ。
しこみづゑ〔名〕莖刀杖、棰頭鎗、杖頭鎗、刀劍をいれたる杖。
しこん〔名〕齒根、はぐき。
しこん〔名〕紫根、むらさきのね、染料の名。
じこん　自今、これより、いまより。
してい〔名〕師手、能藥などの置なる役者。
してい〔名〕子弟、父兄に對す、常に之を唯人といふ、戰に用ふ、例へば梨園子弟の如し、而して是は又唯一人をいふにも用ふ、例へば水滸傳に一個浮浪破落戸子弟などゝ云ふが如し。
してい　師弟、ししやうとでしと、敎師と門人。
してい〔名〕仕丁、つかはれよぼろ、こづかひ。
してい〔名〕便丁、しもべ。
してい〔名〕賜與、はいれうやしきにいふ。
してい〔する〕〔他〕暫眠、そしる、あしきいふ。
してい　視聽、みきき。
してい〔名〕泣汀、みぎは、みづぎは。
してう〔名〕鷲鳥、あちきとり、肉食鳥動物。
してう〔名〕市朝、いちまち人の群居する市街をいふ。
してう〔名〕〔自〕自轉、みづからまはる、ひとりでにまはる。
してう〔名〕〔自〕自轉、みづからまはる、ひとりでにまはる。
してう〔名〕紙燭、こより、かんぜんより、かみよりし紙燭。
してう〔名〕四條氏。
じてう〔名〕慈鳥、かちす動物。
じてう〔名〕時鳥、ほととぎす動物。
してうつ　警捶砧衣にいふ所、しげくうつ。
してうてんわう　四條天皇、人皇第八十七代の帝、紀元一千八百九十三年（西洋紀元一千二百三十三年）より一千九百〇二年迄、在位十年御譲十二歳にして崩ず。
してんわう　四天王、東方持國天、南方增長天、西方廣目天、北方多聞天の四をいふ、佛法の守護神と崇めらる、又人間にもいふ、賴光の四天王などいふが如し。
してんわうじ　四天王寺、攝津國東成郡天王寺村に在る官名の古寺。
じてんしや〔名〕自轉車、みづからはしるくるま、撥く人なしに乘手が獨力にて走らする車。

しあい（形）遅鈍、おろかなばか。
しあい（名）蘇鉄俗人の音。
じあい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
じあい（名）慈愛、いつくしみ、慈善。
しあわせ（俗）（名）仕合、境遇、めぐりあはせ、十また幸福、さいはひ。
しあはせもの　幸福人、うんまきひと。
しあがる（俗）（自）仕上、できあがる、落成。
しあく（名）四悪敬、ずして殺すこと、戒めずして成るを視ること、令を慢にして期を致すこと、人に與ふるに出納の吝なること。
しあくしゅ（名）四悪趣地獄、餓鬼、畜生、修羅。
しあやまつ（他）仕損、しそこなふ、しそんじる。
じあまり（名）字餘詩歌などの上にて文字の多すぎること。
しあさって（名副）大後日、明明後日明後日の翌日。
しあひ（名）試合、較藝、比武、試藝、較量、ころみのたたかひ（武藝を比ぶる爲めに戰ふこと）。
しあひにん（俗）（名）—する　試合人、しあひするひと。
しあん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しあんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。
じさく（形）自作、てづくり、じぶんづくり（自分にて作れる）。
じさく（名）字相、丁馬、じつき（圍碁の時に字を指す具）。
しざい（名）罪科、つみとが。
しざい（する）（自）自首、自訴、みづからはちをきる、じがい（自害）。
じざい（形）自在、きまま、わがまま。
しざいに（副）こまかに、くはしく。
じざいかぎ（名）自在鉤、火爐鉤上げ下げ自在なる鉤。
しざる（自）諂諛、逸遁、あともどりする。
しさつ（する）（他）觀察、みとどける。
しさつ（する）（他）剖殺、さしころす。
しさつ（する）（他）誡殺、對父を殺すをいふ。
しさつ（する）（他）自殺、みづからころす、自害。
しさつ（名）思想、おもはく、おもひ、かんがへ。
しざつ（名）刺草、あざみ（植物）。
しざつ（名）死相、しにがほ、しぬべきみえ。
しざつ（名）四藩、水澤、火賛、土埋、施林の四をいふ。
しざつ（名）四藏（經、律、論、藏）。
しざつ（名）靜謐文章をいふ。
しざつ（名）靜謐、ことばづかひ、ことばつき。
しざく（名）史冊、史册、記錄、かきもの。
しさく（名）愚案、かんがへ、くわだて、こころがけること。
じさく（形）自作、てづくり、じぶんづくり（自分にて作れる）。
じさし（名）字指、丁馬、じつき（圍碁の時に字を指す具）。
しさん（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもにちりぢばる。
じさん（名）自讃、自賛、てほめ、てまへほめ。
しさん　四気四季の第にて春を青陽と寫し、夏を朱明と寫し、秋を白藏と寫し、冬を玄英と寫す、十また（生蓂酒、昼夏願、收秋涼、藏冬寒）。
しさん（名）私記、おのれのおぼえがき。
しさん（名）—する（他）指揮、さしづ、さしづする。
しさん　四善規圖を寫すもの即ちぶんまはし、規方を寫すもの即ちかね、準平を寫すもの即ちみづもり、縄直を寫すもの即ちすみなは）。
しさん（する）（他）指麾、さしまねく。
しさん（名）表發、せともの。
しさん（名）子規、ほととぎす、郭公、杜鵑、時鳥、蜀魂、動物。
しさん（名）式、さだめ、のり。
しさん（名）底、しきもの（物の下の）。
しさん（名）仕儀、ことのありさま、しだい。
しさん（名）鳴、田鳥（動物）。
しさん（名）繁儀、そなへもの、にへ。
しさん（する）（他）刺譏、そしる。
じさん（名）時機、をり、きくわい、とき、しほ。
じさん（名）辭氣、ことばづかひ、ことばつき。
じさん（名）次期、つぎのをり、のちのとき。
じさん（する）自薦、自擧、みづからすすめる自身を自ら薦める。

しさん（名）—する（他）思案、かんがへ、十かんがへる。
しさんぶ（名）愚案狀、食品の名、生麩と豆腐と山芋とをおろしよく擂り混ぜ丸めて湯でたるもの。
しさ（する）（自）吝嗇、なげく。
じざ（する）（名）待坐、はべる、かしはらにする。
しさい　四聖善を約といひ、夏を結といひ、秋を管といひ、冬を蒸といふ。
しさい（名）子細、仔細、いさい、わけがら（しさいにを見よ。
しさい（名）葉菜、やつしろのり植物。
しさい　四才言、身、費、例。
しさい（名）—する　自愛、おのれをあいすること、十みををしむ。
しさい（する）（他）司宰、つかさどる。
しさゐ（名）資産、しんだい、十もちもの。
しさん（名）蠶算、よはひ、としかず馬の。
しさん（する）四数、ちりぢりになる、よもに

しきぶさん（名）敷衾團、したにしくふとん、十しきたへ。
しきぶれり　式部寮、式部省朝廷の禮式を司る官衙。
しきぶまゆはけ（名）式部髭剃毛（化粧に用ふる具なり）。
しきびさ（名）式事（しきじ）を見よ。
しきびさざ（名）敷筵、したにしくござ、十又ねござ、いなむしろ。
しきびら（名）式鏡、しきもく、かぐら。
しきまい（名）色彩、いろつや、十又いろどり、いろあひ。
しきまきは　式三番三人にて舞ふ三番叟。
しきまきん（名）敷金家を借る保證として預け置く金。
しきみ（名）樒、はなし、はなしば、多香木、蜜香植物。
しきみ（名）色紙、彩牋和歌などを書くに用ふる紙、たんざく。
しきじ（名）式事、しきごと儀式を行ふことをいふなり、追儺菊酒の宴など皆式事の類なり。
しきしや（名）式紙、延喜式の神名帳に掲載せられたる神社。
しきじつ（名）式日、ぎしきのひ儀式を行ふ日。
しきじや（名）關者、ものしり、學者。
しきじやう（名）色情、いろごころ。
しきしま　敷島、磯城島和州山邊郡の地にて欽明帝の都したまひし地、また之を日本の稱に用ふ。
しきしまの　磯城島之（やまとの國の枕詞）。
しきしまのみち　敷島道和歌の道をいふ。

用ひし印をいふ、あかきはん。
しゅいん（名）主因、おもなるげんいん。
じゅいん（名）擂陳、とげ、きのかげ。
しゅう（名）栄螺、つぶ、とき動物。
しゅう（名）手盥、てあぶり小さき盥。
しゅう（名）榎機、桝目、きのな植物。
しゅうはき（名）榎機等、榎等榎機の皮にて作れる箒。
しゅうちく（名）榎竹、銀竹、寶竹植物。
しゅうろう（名）酒槽、さかみせ、さけのわいへ。
しゅうろう（名）髪鬢、ひげこ、ひげかご。
しゅうろう（名）鬢髭、かねつきだう。
しゅうろさう（名）栗蓼（これいろこを見よ）植物。
しゅうはう（名）殊邦、とつくに、殊方、異域、外國。
しゅうばう（名）守房、ばんや、ばんごや。
しゅうはく（名）酒粕、さけのかす。
じゅばん（名）繻袢、はだぎ、襦衫。
しゅうにく　朱肉印判に用ふる赤き印肉。
しゅうにく　酒肉、さけさかな、酒饌。
しゅうにふ（名）（一する）他）輸入外國の貨物の入藩するをいふ、ゆにふ。
しゅうにん（名）主任（主としてうけもつかさどること。
しゅうは（名）酒母、もと、醪。
しゅうは（名）主鷹、ちやうつけ、ちやうめんがかり。
しゅうは（名）珠母、あこやがひ動物。
しゅうはう（名）首蹊、ほったうにん、主謀、首謀者、ちやうはんにん。
しゅうはく　主僕、主從、あるじとしもべ。
しゅうへい（名）守兵、ばんぺい、戍兵、まもるつはもの。

しゅうしん（名）色身、肉身をいふ。
しゅうび（形）式微、もと〳〵たる、衰微王權などの。
しゅもく（名）樹木、き。
しゅもの（名）敷物、地布、地氈、藉床或は地に敷くもの。
しゅもく（名）式目、法式の箇條。
しゅもく（名）仕者、四季施年に幾度か奴婢に衣服を與ふること。
しゅりん（名）齒列、はぐき。
しゅりん（名）子金、利子、利金、利息の金。
しゅりん（名）資金、もとで、資本金。
しゅりん（名）紫金、しやくどう赤銅。
しゅりんせき（名）試金石、かねつけいし。
しゅりん（名）朱、銀朱、銀紅、水銀を鹽化して製する紅きもの。
じゅ（する）他）示讀、いひきかす、さとす。
しゅい（名）主意、おもなるところ、目的とするところ。
しゅい（形）殊異、ことなる、ちがふ。
しゅる（する）自）思惟、おもふ、かんがへる。
しゅる　首位、かしらのくらゐ第一の位。
しゅい（名）喪衣、きやうかたびら。
じゅい（名）楯衣、ぬれぎぬ、十ぬれごろも。
じゅい（名）從一位正一位の次の位。
じゅいちる　懿旨費、うちぎき、わけぎき。
しゅいがき（名）懿旨、もつぱらなる心を專らにするをいふ。
しゅいつ（形）主一、

しゅべつ（名）種別、しなわけ、類別。
しゅへき（名）酒癖、さかぐせ。
しゅざ（名）酒徒、さけずき。
しゅざ（名）首座、たびだち、かどで。
しゅざう　殊等、ことなるしなぐらゐ、特等。
しゅざう（名）種痘、うゑばうさう、牛痘。
しゅざく（名）酒毒、さけのどく。
しゅぢ（名）主治、きくところ、効能、きゝめ。
じゅぢ（する）他）受持、うけたもつ、まもる、眞言などを。
しゅぢい（名）主治醫（主として其者の病氣の治療に當る醫者。
しゅぢらくわ（名）酒中花杯の中に浮べて開かしむる花樣のもの。
しゅぢやう（する）他）主張、いひはる、つよくいふ、十名主義として唱ふる所のこと。
しゅぢやう（名）狩場、かりば。
しゅぢん（する）他）首陳、まうしのべる。
しゅぢん（名）繻珍、七彩繻子の類にして上に緞子の紋ある織物にて女の帶地に用ふ、繻珍の丸帶などいふ。
しゅり（する）他）修理、つくろふ、修禮。
しゅり（名）主吏、かしらやく。
しゅり（名）修理古への官名、唐の匠作に當る。
しゅり　首里、琉球國沖繩島の都會。
じゅり（名）竪吏、こやくにん、從吏。
しゅりよ　首魔、かしらだてるとりこ。
じゅりつ（する）自）竪立、たつ。
しゅりやう（名）首領、かしら、をさ。
しゅりやう（名）銖兩、はかりめ。
じゅりやう（する）他）受領、うけをさむる、十また（名）一國の守たるものをいふ。
しゅりけん（名）手程鏡、つるぎうち、鐵鏡。
しゅりしき　修理職、禁裏に在りて殿舍の營繕を掌る官職、唐名匠作といふ、つくりをさむるつかさ。
しゅりん（形）殊倫、すぐれたる。
しゅりん（名）儒林、儒者の群をいふ。
しゅりん（名）朱漆、あかぬり。
しゅるゐ（名）殊類、ことなるたぐひ。
しゅるゐ（名）種類、たぐひ、物類、品類。
しゅをく　朱屋、りつばなるいへ、やかた。
しゅれん（名）主恩、きみのめぐみ。
しゅか（名）主家、主人の家。
しゅか（名）手下、てひした、てした。
しゅか（名）酒價、さけのあたひ。
しゅか（名）酒家、さかや。
しゅか　首夏、はつなつ。
しゅか（名）儒家、儒者に同じ。
しゅかい（名）手槍、てかせ。
しゅかい（名）首鎖、かぶと。
しゅかい（名）受戒僧が寺になはる時に佛法を誦持するといふの證として行ふ式。
しゅかう（する）自）首肯、うなづく、がへんずる。
しゅかう（名）趣向、おもむき。
じゅかう（名）參考、ながきいのち。
しゅかく（名）主格文法の語にて一文章の中の主位を占むる語。
しゅかく（名）酒客、さけのみ。
じゅかく（名）蔘客、きく蒭の異名、植物。
じゅがく（名）儒學、支那聖人の道の學問。

しゅがくるんのはつけい　修學院八景修學曉鐘、村落晴嵐、遠岫歸橋、松崎夕照、洋灘秋月、平田落雁、關雲夜雨、叡峯暮雪。
しゅかふ（名）酒槽、さかだる。
しゅかふ（名）首甲、かしら。
しゅかん（名）手簡、てがみ、手翰。
しゅかん（名）主幹、もとじめ、主任者。
しゅがん（名）主眼、めぬき、かなめ、要所。
しゅよ（名）手輿、たごし手にて舁く乘物。
じゅよ（名）入輿、こしいれ、よめいり。
じゅよ（する）他）擡輿、さげくる。
しゅよう　主用、あるじのようむき、又もちなるようむき。
しゅよう（名）取容、きにいるやうにする。
じゅよう（名）需用、もとめ、いりよう。
じゅよう（する）自）酒價、さけのあたひ。
しゅたい（名）手套、てぶくろ。
しゅたう　儒道、支那聖人の教をいふ。
じゅたくぶつ（名）受託物、あづかりもの。
じゅたくしや（名）受託者、ひきうけにん、十あづかりて。
しゅたん（名）手談、事をうつこと。
しゅたん（名）手段、てだて、方法、方便。
しゅたんじま　鵯丹島北海道根室の島。
しゅれい（名）壽齡、ながきいのち。
しゅれふきよく（名）主殿局宮内省に設けありて殿のことを主どる官署。
しゅれん（名）手練、てなみ、てぎは。
しゅれん（名）珠簾、たますだれ簾を美する詞。
しゅれん（形）悽戀、みめよき。
しゅれん（する）他）呪唱、まじなひ、のろひ、

いのり、いのるの、のろふ。

しゆそ（名）首座（神家の長老の類。

しゆそりやうたん　首鼠兩端（心を決せずしてことを兩方にすること。

じゆそつ（名）戍卒、ばんてい（番兵）。

しゆそう〔する〕（自）輸送、つみおくる（荷物などを）、ゆそう。

じゆそう　入營（兄の妻を我妻と爲すを繼かいふ）。手足（てあし。

しゆぞく（名）種屬、たぐひ。

しゆぞん（名）酒樽、酒罇、さかだる。

じゆつ（名）術、しわざ、みち。

しゆついう〔する〕（自）出遊（であるく、いであそぶ。

しゆつえい〔する〕（自）率由、したがひよる、もとづく。

しゆつえん〔する〕（自）出鹿、うまをのりだす。

しゆつえん〔する〕（自）出發、いでたつ。

しゆつえん（名）〔する〕（自）出帆（でふね、出船、ふなでする。

しゆつえん〔する〕（他）出版（書物を板行するをいふ）、梓行。

しゆつにふ　出入（でいり、十（ではいり。

しゆつぼ（名）出母（いだされたるはは離別されたる母）。

しゆつぼつ〔する〕（自）出沒（でたりかくれたりする。

しゆつぼん〔する〕（自）出奔（かけおちする、出走、逃走、逃遁、脫走（にげはしる。

しゆつぽん（名）出蕃（たびだち、かどで。

しゆつよ（名）出輿（老人、貴人、ふくろくじゆ、南極老人、壽星の化せるものといふ）。

じゆらく　入浴、みやこにいる。

じゆらくだい（名）聚樂第（豐臣秀吉が天正十三年京都に建築したる邸宅の名。

しゆらん（形）酒飽、酒失、酩酊（さかくせあしき、さかおり）。

しゆらん（名）朱蘭（ときさう、さはらん、やまときさう）植物。

〔しゆらん〕（名）朱欒、柚、ゆう、ざぼん（植物。

しゆり（名）主、きみ、しゆじん。

しゆり　雌雄（めを、めすを鳥の一十又まけかち。

しゆうは（名）宗派（宗教の分派）。

じゆうはん（名）從犯、どうるゐ、なかま（犯罪の。

じゆうはんじや（名）從犯者（じゆうはん）に同じ）。

じゆうにん（名）從人、つきびと、したがふひと。

じゆうぼい（名）從母姨（はゝかたのをば。

じゆうぼく（名）從僕、しもべ、けらい。

じゆうへい（名）從兵、てのつはもの、したがつはもの。

しゆつせい　出精、せいだす。

しゆつせけん　出世間（世間を離れたるをいふ）。

じゆつすう（名）術數、てだて、はかりごと。

じゆつなふ〔する〕（他）受納、うけとる、收納、をさむる。

しゆら（名）修羅、戰鬪を事とする一種の鬼の如きもの。

じゆらい〔俗〕（名）入來（客のきたること）。

しゆらだう　修羅道（佛敎六道の一にて戰鬪の界。

じゆらう　入牢（ひとやにいる、ろうにはいる。

じゆらうじん（名）壽老人、ふくろくじゆ、南極老人、壽星の化せるものといふ）。

じゆらく　入洛、みやこにいる。

じゆらくだい（名）聚樂第（豐臣秀吉が天正十三年京都に建築したる邸宅の名。

しゆらん（形）酒飽、酒失、酩酊（さかくせあしき、さかおり）。

しゆらん（名）朱蘭（ときさう、さはらん、やまときさう）植物。

〔しゆらん〕（名）朱欒、柚、ゆう、ざぼん（植物。

しゆり（名）主、きみ、しゆじん。

しゆり　雌雄（めを、めすを鳥の一十又まけかち。

しゆうは（名）宗派（宗教の分派）。

じゆうはん（名）從犯、どうるゐ、なかま（犯罪の。

じゆうはんじや（名）從犯者（じゆうはん）に同じ）。

じゆうにん（名）從人、つきびと、したがふひと。

じゆうぼい（名）從母姨（はゝかたのをば。

じゆうぼく（名）從僕、しもべ、けらい。

じゆうへい（名）從兵、てのつはもの、したがつはもの。

じゆうりやう　從良、ひつこむ、十かたづく（藝妓などが、落籍。

じゆうわう　縱橫、たてよこ。

じゆうそ（名）從祖（おはおぢ。

じゆうそつ（名）從卒、したがふへい（將校に）。

じゆうそう（名）從父、おはおぢ。

じゆうそふ（名）從祖父、おはおぢ。

じゆうそん（名）從孫、またご。

じゆうたい（副形）從來、もとより、はじめより。

じゆうだう〔する〕（他）縱寬（かつてにみる。

じゆうたん　縱火、ひをつくる、放火、ひをはなつ。

じゆうたん（名）縱覽、思ふままにみる。

じゆうてい（名）從弟（從兄弟、いとこ。

じゆうてい（名）從弟、としたのいとこ。

じゆうてき（名）從敵、うまのりのともびと。

じゆうてき（名）讐僞、いはひ、よろこびごと。

じゆうてん（名）宗旨（宗門の主義。

じゆうし（名）從子、をひ、甥。

じゆうし〔する〕（自）從事、みをゆだねる、十かつはる。

じゆうじつ（名）終日、いちにち、あさよりばんまで、盡日。

じゆうじや（名）從者、つきしたがふもの、とも、ずさ。

しゆうじゆう（名）主從、しゆうとけらい。

じゆうじゆん（形名）從順、すなほ、したがふ、十したがふこと。

じゆうせん　縱橫（しようせん、たてすぢ。

じゆうぜん（副）從前、これまで、いままで。

しゆうそ（名）叔、をぢ（父の弟をいふ、又支那にてはこれを長者あるひは他人を尊び呼ぶに用ふ、十又乙にうと、小叔、をつとのおとうと。

じゆく（形副）熟、くはしき、十よくよく。

じゆく（名）塾（學生の居る所、學校。

しゆくい（名）宿衣（ねまき、十かひまき。

しゆくい（名）宿意（もとよりのおもひ、十うらみ。

しゆくいん（名）宿因（前世よりの因緣。

じゆくろ（名）熟路（なれたるみち、くはしきみち。

じゆくば（名）宿場（宿驛、たびのやどのあるところ。

じゆくばいう（名）熟梅雨（さみだれ。

しゆくはつ〔する〕（名）縮髮（ちぢれ。

しゆくはつ（名）宿坊（やどりでら。

しゆくばう（名）宿望（宿願、宿志、宿意、もとよりのねがひ、ふるきのぞみ。

しゆくにう（名）叔乳（をばご、とうふ（豆腐）。

しゆくにんそく　宿人足（驛夫、驛夫、つぎたてばにんそく。

しゆくぼ（名）叔母（をば（父の妹）。

しゆくへい（名）宿弊（むかきしくせ、ふるきあしきつかはれ。

しきならはし。

しゅくさく　淑媛、よしあし。

じゅくさく〔する〕(他)　熟謀、とくとよむ。

じゅくち〔する〕　熟知、よくしる、明知。

しゅくぢょ〔名〕　淑女、よきをんな、徳行ある女。

しゅくちょく〔名〕　宿直、とまりばん。

しゅくちん〔名〕　宿賃、はたごちん、宿料。

じゅくりょ〔する〕　熟慮、よくかんがへる、熟考。

しゅくりゃう〔形〕　淑良、よろしき。

しゅくわ〔名〕　首蓿、かしらやく、かしらぶん。

じゅくわ〔名〕　守瓜、うりばひ動物。

しゅくわ〔名〕　樹果、このみ、きのみ。

しゅくわい〔名〕　首魁、かしら、張本人。

しゅくわうもち〔名〕　珠光餅、茶會に用ふるものにて珠光といふ僧の始めし食物。

しゅくわん〔名〕　首巻、第一の巻。

しゅくわん〔名〕　首環、かしらばんとう、十支配人。

しゅくわん〔名〕　首環、くびまき、くびたまき。

しゅくが〔名〕　祝賀、よろこび、いはひ。

じゅくから〔する〕　熟考、よくかんがふる、熟按。

しゅくがく〔名〕　宿額、前世よりの福徳。

じゅくかく〔名〕　熟客、なじみきゃく。

じゅくたつ〔する〕(自)　熟達、こうしゃになる、たくみになる。

しゅくたう〔する〕(他)　蹶倒、けたふす、けてころばす。

しゅくたふ〔する〕(自)　鬆香、蹶躓、ふみはづす。

じゅくだん〔する〕　熟鍛、とくとはなしあふ。

しゅくれう〔名〕　宿料、やどちん、はたごだい。

じゅくれん〔名〕—〔する〕(自)　熟練、てなみ、なれてくる、たくみになる。

しゅくつぎ〔名〕　蹶次、ふくりもくり、十傳馬てんま。

しゅくらう〔名〕　宿老、耆宿、耆老、土地の年老いたる長老の稱。

じゅくらん〔する〕(他)　熟覧、とくとみる。

しゅぐら　殊遇、てあつきもてなし、ことさらのあしらひ。

しゅくりょく〔名〕　宿緑、ふるきかたき、宿仇。

しゅくでん〔名〕　宿田、いぬびえ植物。

しゅくあ〔名〕　宿痾、ながやまひ、ふるきやまひ、痼疾。

じゅくあく〔名〕　宿惡、ふるきあくじ、舊惡。

じゅくあん〔する〕　熟按、とくとかんがへる。

しゅくさい〔名〕　宿債、ふるきかり。

しゅくさつ〔形名〕　肅殺、ひやひやしき秋の氣にいふ、ひやしころす秋風が草木を。

じゅくさつ〔する〕　熟察、とくとしらべみる。

しゅくさう〔形〕　肅莊、嚴蕭、つつしむ、うやうやしき。

しゅくさう　宿醒、ふつかよひ。

しゅくさき　宿昌、たいや、遠夜、死者の命日をいふ。

しゅくき　夙起、はやくおきる。

しゅくめん　愛面、しかみづら、かほをしかめる。

しゅくみゃう〔名〕　宿命、前世よりの命數。

しゅくみん〔する〕　熟眠、熟睡、よくねむる。

しゅくし〔名〕　宿志、かねてののぞみ、もとよりのこころざし。

じゅくご〔名〕　熟語、二三語相連なりて一つの意義を爲す語。

しゅくこつ〔副〕　倏忽、たちまち。

しゅくし　夙志、はじめのこころざし。

しゅくし〔名〕　祀詞、祝辭、いはひことば、十文のりと、神前にとなふる文詞。

しゅくし〔形〕　肅然、水雲氣、かうやがみ、公家の

しゅくとん〔名〕　宿根、ふるね草木の。

じゅくとん〔俗〕〔形〕　熟鈍、したしき、入魂。

じゅくてつ　熟鐵、きたひたるくろがね、鍛鐵、兎鐵、光鐵。

しゅくてう〔名〕　宿鳥、ねとり、ねれるとり。

しゅくてき〔名〕　宿敵、ふるきかたき、宿仇。

しゅくでんねう〔名〕　宿田畠、いぬびえ植物。

しゅくあ〔名〕　宿痾、ながやまひ、ふるきやまひ、痼疾。

じゅくあく〔名〕　宿惡、ふるきあくじ、舊惡。

じゅくあん〔する〕　熟按、とくとかんがへる。

しゅくさい〔名〕　宿債、ふるきかり。

しゅくさつ〔形名〕　肅殺、ひやひやしき秋の氣にいふ、ひやしころす秋風が草木を。

じゅくさつ〔する〕　熟察、とくとしらべみる。

しゅくさう〔形〕　肅莊、嚴蕭、つつしむ、うやうやしき。

しゅくさう　宿醒、ふつかよひ。

しゅくき　夙起、はやくおきる。

しゅくめん　愛面、しかみづら、かほをしかめる。

しゅくみゃう〔名〕　宿命、前世よりの命數。

しゅくみん〔する〕　熟眠、熟睡、よくねむる。

しゅくし〔名〕　宿志、かねてののぞみ、もとよりのこころざし。

しゅくし　夙志、はじめのこころざし。

しゅくし〔名〕　祀詞、祝辭、いはひことば、十文のりと、神前にとなふる文詞。

しゅくし〔形〕　肅然、水雲氣、かうやがみ、公家の

裝紙。

じゅくし〔する〕　熟思、つくづくもふ。

じゅくし〔する〕(他)　熟視、みつめる、とくとみる。熟覧。

しゅくし〔名〕　宿所、すまひ、十やどや。

しゅくしよ〔名〕　宿世、すでせ、前世。

しゅくしょう〔する〕(自)　宿望、もとのぞみ。

しゅくしょく〔名〕　宿色、さびいろ。

しゅくしつ〔名〕　宿疾、持病をいふ、宿病。

しゅくじつ〔名〕　宿日、いはひび。

しゅくしゃ〔名〕　宿舎、やど、やどや、とまりやど。

しゅくしゃう〔名〕　宿將、ふるきいくさぎみ、老將をいふ、久しく將軍たりし人。

しゅくしゃう〔名〕　叔嬸、こじうと、夫の弟なり、「こじうと」の下を見るべし。

しゅくしふ　宿習、ふるきならはし。

じゅくしき〔名〕　熟識、ちかづき、したしきとも。

しゅくしゅ〔名〕　宿儒、博學の老儒を云ふ。

しゅくしゅく〔形〕　謖謖、松風などの音をいふ。

しゅくじん〔名〕　淑人、よきひと。

しゅくぶい〔名〕　宿衛、とのゐ、とまりばん、とのもり、「禁殿の」。

じゅくえつ〔する〕　熟閲、よくみる、つくづくとみる。

しゅくえんし〔名〕　宿曜師、二十八宿九曜星などを見て占考をなす人、すくえうし。

しゅくえき〔名〕　宿疫、時疫、ぎびやう、宿病。

じゅくえき〔名〕　熟役、うまやどり、しゅく。

しゅくえん〔名〕　親縁、いはひのさかもり。

しゅくえん〔名〕　宿縁、前の世よりの因縁。

しゅくふん〔名〕　宿憤、ふるきうらみ、舊怨。

しゅけい〔名〕　珠鬠、はるはるてう、ギニー（ンぼう）。

じゅけい〔名〕　齠齔、きれかみ、動物。

しゅけい〔名〕　樹藝、うふる樹木などを。

じゅけいいざう　修藝、けいこ、ならひまなぶこと。

しゅけいざう〔する〕(自)　受藝、をしへをうける弟子が、また名。

じゅげふ　弟子、門人。

しゅけん〔名〕　守犬、ばんいぬ、まもりいぬ。

しゅけん　族管、ことなるめぐみ、ことなるいつくしみ。

しゅげんじゃ〔名〕　修驗者、やまぶし。

じゅけんしゃ〔名〕　受驗者、試驗を受くる人。

じゅふ〔名〕　主府、つかさ、をさ。

しゅふ〔名〕　首府、みやこ、京師。

しゅふうかん〔名〕　酒風漢、なまえひ。

しゅふく〔する〕(他)　修復、つくろふ、なほす。

しゅふく〔する〕(自)　首伏、つみにふくする。

しゅぶんいん〔名〕　朱文印、ほりあげいん。

しゅぶん〔名〕　主尸、ほんけ。

しゅぶん〔名〕　酒瓶、さかびん。

しゅぶん〔名〕　主顕、とくい、商家の買ひつけたる客をいふ、花客。

しゅぶ〔名〕—〔する〕(他)　守護、まもり、まもる、十又武家時代の職名。

しゅぶいし〔名〕　守護石、庭園中最大主眼の石にて全庭の鎮石となる、何へば繩の設あれば其繩の傍に乾立する石を然かいふ、尤も然る時は之を福圓石と呼ぶなり、此石は是非とも置くを要す、又これに

しゅけい〔名〕　珠鬠、はるはるてう、ギニー（ンぼう）。

じゅけい〔名〕　齠齔、きれかみ、動物。

しゅけい〔名〕　樹藝、うふる樹木などを。

じゅけいいざう　修藝、けいこ、ならひまなぶこと。

しゅけいざう〔する〕(自)　受藝、をしへをうける弟子が、また名。

じゅげふ　弟子、門人。

しゅけん〔名〕　守犬、ばんいぬ、まもりいぬ。

しゅけん　族管、ことなるめぐみ、ことなるいつくしみ。

しゅげんじゃ〔名〕　修驗者、やまぶし。

じゅけんしゃ〔名〕　受驗者、試驗を受くる人。

じゅふ〔名〕　主府、つかさ、をさ。

しゅふ〔名〕　首府、みやこ、京師。

しゅふうかん〔名〕　酒風漢、なまえひ。

しゅふく〔する〕(他)　修復、つくろふ、なほす。

しゅふく〔する〕(自)　首伏、つみにふくする。

しゅぶんいん〔名〕　朱文印、ほりあげいん。

しゅぶん〔名〕　主尸、ほんけ。

しゅぶん〔名〕　酒瓶、さかびん。

しゅぶ〔名〕　主顕、とくい、商家の買ひつけたる客をいふ、花客。

しゅぶ〔名〕—〔する〕(他)　守護、まもり、まもる、十又武家時代の職名。

しゅぶいし〔名〕　守護石、庭園中最大主眼の石にて全庭の鎮石となる、何へば繩の設あれば其繩の傍に乾立する石を然かいふ、尤も然る時は之を福圓石と呼ぶなり、此石は是非とも置くを要す、又これに

不動方、立方などの名を附す。

しゆとう（名）　勲功、すぐれたいさを。

しゆこう（名）　守候、ばんにん、十ものみ。

しゆこう（名）　手工、てのわざ、てのさきのさいく、十手藝。

しゆごしよく（名）　守護職、往古鎌倉の時代に國主の外に、諸國に置かれたる職名。

しゆてつ　鎗鐵、いがね、いたるくろがね。

しゆてう　朱鳥、日本自一千三百四十六年至一千三百四十九年西洋自六百八十六年至六百八十九年（年號）。

しゆてん（名）　主典、監物の下司。

しゆあう（名）　珠櫻、ゆすらうめ（植物）。

しゆあく（名）　首惡、惡行の張本をいふ、元惡。

しゆあふ（名）　手押、てがた、印の代りに捺す、十つかいん。

しゆぎ　首鹿、かみくら、かみざ。

しゆさい（名）、—する（他）　主宰、かしら、をさ、つかさ、十つかさどる。

しゆさい（名）　主殺、かしちやく。

しゆさい（名）　酒債、さけのかり。

しゆさつ（名）　手札、てがみ、ふみ。

しゆさつ（名）　手刺、てもやう、もぼえちやう、小稱、字譏、てびかへ。

じゆさつ（する）（他）　呪殺、いのりころす、のろひころす。

しゆさう（名）　酒糟、さけのかす。

しゆさう（名）　酒槽、さかぶね。

しゆさう（名）　酒倉、さかぐら。

しゆさく（する）（他）　關窓、もとむる、こと。

しゆさび（名）　酒渣鼻、さくろばな、あかばな。

しゆし（名）　主旨、かきぐく。

しゆし（名）　手記、もぼえちやう、もぼえがき。

しゆし（名）　酒肆、さけのきみ、十ほろよひ。

しゆし（名）　酒旗、さかばた酒屋の看板旗。

しゆし（名）　主義、本旨として守る鉄理。

しゆし（名）　守禦、まもりふせぐこと。

じゆしよ或**にふしよ**　入輿、もいり（天子の）。

しゆし（名）　酒興、さけのあもしろさ、さかきげん。

しゆしやう（形）　守舊、ふるきをまもる、保守。

しゆしう（名）　守官、やもり、動物。

しゆしう（名）　種牛、たねうし。

じゆしう（する）（他）　關衆、もとむる。

しゆしうたり　守舊黨、保守黨、舊來のことを守るを務むる黨人。

しゆしやう（名形）　酒狂、さけきちがひ。

しゆしやう（名）　修行、けいこ、修練。

しゆしやうじや（名）　修行者、つとめもとなふもの、十つとめまなぶひと。

しゆしふ（名）　首級、くび、しるし、頸。

しゆしん（名）　手巾、てふさ、てぬぐひ、あせふき、てふきん、ハンケチ。

しゆしん（名）　朱愼、ふさうけ植物。

しゆしん（副）　須臾、しばらく。

しゆしゆ（名）　茶臾、ごく植物。

しゆしゆせつ　茶臾節、九月九日の節句。

しゆめ（名）　主馬、うまのかみ、厩牧、典厩。

しゆめい　姓とせしに因りてなり。

しゆめれう（名）　主馬寮、馬を主る官署、うまや。

しゆめう（形）　殊妙、ことにすぐれたる。

しゆめん　首鼻、自首して放免になること。

しゆみ（名）　趣味、おもしろみ、おもむき、あぢはひ。

しゆみだん（名）　須彌壇、佛像を安置する臺。

しゆみやう（名）　壽命、いのち。

しゆみざ（名）　須彌座、しゆみだんに同じ、十又かぶとのはちまんざ。

しゆみせん（名）　須彌山、そめいのやま。

しゆし（名）　主司、つかさ、つかさどるやくにん。

しゆし（名）　酋官、ことわけ。

しゆし（名）　種子、たね、み。

しゆし（名）　種菌、いれば、植菌。

しゆし（名）　酒肆、さけづき、酒杯。

しゆし（名）　酒賃、さかせ、さかや。

しゆし（名）　酒賃、さかて。

しゆし（名）　朱柿、にたり、きざはしがき植物。

しゆし（名）　鼓死、必死になるをいふ、てしをきはむる。

じゆし（名）　舊士、じゆしや、十學者。

じゆし（名）　舊子、わらんべ、豎子。

じゆし（名）　樹脂、やに。

じゆしよ（名）　手簡、てがみ、てづからかけるてがみ、自筆の書翰をいふ。

しゆしよう（形）　殊勝、殊妙、神妙、すぐれたる、かんしんすべき。

しゆしよう（名）　酒醬、さかづき、酒盃。

しゆしよく　酒色、さけいろ、さけ及をんな。

しゆしよく（名）　首飾、くびかざり、婦人などの、殊色、すぐれたるいろか、婦人にいふ。

しゆじつ　首實、みづからはくじやうする犯罪人

しゆじ（名）　手錢、てづつ、ピストル。

しゆしゆ（名）　守舍、ばんや、ばんごや。

しゆしや（名）　廨舍、おもむきむかふとすつると。

しゆしや（名）　守者、ばんにん、まもるもの。

しゆしや（する）　手寫、てづからうつしとる。

じゆしや（する）　取捨、とるすつる。

しゆしや（名）　儒者、儒學即ち孔子の學を修めたる人、十がくしや。

しゆしや（名）　首相、總理大臣、宰相。

しゆしや（する）（他）　首唱、いひだす、とな（だ）す、さきだちとなふる。

しゆしや（名）　主將、そうたいしやう。

しゆしや（名）　手寫、てのひら、たなごころ。

しゆじや（名）　主上、みかど、今上皇帝。

しゆじや（名）　衆生、もろもろのいけるもの、一切人をいふ。

しゆじやく　朱雀、すじやく（日本一千三百三十二年、西洋六百七十二年、一年にて終る）年號。

しゆじやくてんわう　朱雀天皇（すじやく）（人皇第六十一代の帝、紀元一千五百九十一年（西洋紀元九百三十一年）より一千六百〇六年迄、在位十六年間、齢三十歳にして崩ず。

しゆしゆぶん（名）　手指文、ゆびのはらのあや。

しゆしゆじゆ（名）　侏儒、せごまち、ひきひと、ちさご、一寸法師。

しゆじゆ（名）　種種、いろいろ、さまざま。

しゆじゆ（名）　戍守、守衛、まもり、かため、けいご。

しゆじゆ（名）　授受、うけわたし、やりとり。

じゆじゆ（名）　呪術、まじなひ。

しゆじゆう（名）　主從、主人と從僕。

しゆじゆさつた（俗）（形）　種種雜多、いろいろさまざま。

じゆじゆん（する）（自）　遵循、うるはふ、ぬれる、ねこれに柄をつけて作る。

じゆじゆん（名）　主人、あるじ、十ていしゆ。

じゆじん（名）　樹神、こだま、十きのかみ、木靈。

じゆじん（名）　驛人、支那にて大夫の妻を然かいふ。

しゆえい（する）　修養、いとなむ、しつちふ。

しゆえい（名）　守衛、まもり、ばんがため。

じゆえい（名）　驛遞、みぢかく、いとけなきこと。

じゆえい　壽永、日本自一千八百四十二年至一千百四十九年、西洋自一千百八十二年至一千百八十五年（年號）。

じゆえう（名）　樹蕊、きのはな。

じゆえふ　樹瘤、きのこ。

じゆえん（名）　酒宴、さかもり、宴會。

じゆえん（名）　壽宴、ねんがのさかもり。

しゆび　首尾、はじめをはり、十また（俗）できうす。

しゆび（名）　蔓尾、しゆみ、ほつすはうき（ほつすはうきの毛を束ねこれに柄をつけて作る。

じゆひ（名）　樹皮、きのかは。

しゆびん（名）　瓶瓶、ゆはりつぼ、尿器、溜器。

しゆもつ（名）　所物、はれもの、できもの。

しゆもく（名）　撞木、丁鐘を打つ具。

しゆもく（名）　樹木、きぎ。

しゆもくづゑ（名）　撞木の形の杖。

しゆもくなり　撞木形、丁字形、しゆもくのかたち。

しゆもくざめ（名）　撞木鮫、雙髻鯊（動物）。

しゆめう（形）　殊妙、ことにすぐれたる。

しゆめん　首鼻、自首して放免になること。

しゆみ（名）　趣味、おもしろみ、おもむき、あぢはひ。

しゆみだん（名）　須彌壇、佛像を安置する臺。

しゆみやう（名）　壽命、いのち。

しゆみざ（名）　須彌座、しゆみだんに同じ、十又かぶとのはちまんざ。

しゆみせん（名）　須彌山、そめいのやま。

しゆし（名）　主司、つかさ、つかさどるやくにん。

しゆし（名）　酋官、ことわけ。

しゆし（名）　種子、たね、み。

しゆし（名）　種菌、いれば、植菌。

しゆし（名）　酒肆、さけづき、酒杯。

しゆし（名）　酒賃、さかせ、さかや。

しゆし（名）　酒賃、さかて。

しゆし（名）　朱柿、にたり、きざはしがき植物。

しゆし（名）　鼓死、必死になるをいふ、てしをきはむる。

じゆし（名）　舊士、じゆしや、十學者。

じゆし（名）　舊子、わらんべ、豎子。

じゆし（名）　樹脂、やに。

じゆしよ（名）　手簡、てがみ、てづからかけるてがみ、自筆の書翰をいふ。

しゆしよう（形）　殊勝、殊妙、神妙、すぐれたる、かんしんすべき。

しゆしよう（名）　酒醬、さかづき、酒盃。

しゆしよく　酒色、さけいろ、さけ及をんな。

しゆしよく（名）　首飾、くびかざり、婦人などの、殊色、すぐれたるいろか、婦人にいふ。

しゆじつ　首實、みづからはくじやうする犯罪人

しゆもん（名）　守門、もばん、守衛、かどもり。

しゆもん（名）　朱門、とめるいへ、かねもち、富家、富豪之家。

しゆもん（名）　手紋、てすぢ。

じゆもん（名）　願文、はめたてよみ佛語。

じゆもん（名）　呪文、まじなひことば。

しゆもんとう（名）　守門侯、いぬ、番犬（動物）。

しゆせい（名）　守成、創業の後を承けて其基礎を固め守るをいふ。

しゆせい（名）　酒精、アルコール。

しゆせい（名）　酒税、さけのうんじやう。

じゆせい（名）　醫生、じゆしや、醫學士。

じゆせい（名）　書屋、ふうじんせい、十また月名（太陰暦八月の異名。

じゆせいたう（名）　書屋桃、かちもも（植物）。

しゆせいれう（名）　主税寮、正税を掌りし處、唐名倉部といふ、ちからのつかさ。

しゆせつ（形）　殊絶、すぐれてならなき。

しゆせう（名）　朱蕉、せんねんぼく、せんねんさう（植物）。

しゆせき（名）　手迹、墨蹟、筆跡、ふでのあと、かきあと。

しゆせきさん（名）　酒石酸（藥品）。

しゆせん（名）　主戰、戰爭を主張する。

しゆせん（名）　酒仙、おほざけのみ、大酒家。

しゆせん（名）　手劍、たくしろ、うでわ。

しゆせん（名）　髑髏、ひげ（七下の）。

しゆせん（名）　主膳、かしはで（唐名典膳といひて帝王の食膳を掌るもの）。

しゆせん（名、—する）（他）　修繕、つくろひ、修覆、つくろふ。

じゆせん　受洗、せんれいをうける耶蘇教の。
じゆせん　受禅、ゆづりをうける先帝の位を受け嗣ぐ。
しゆせんど（名）守銭奴、しわんぼう、けちん坊、吝嗇家。
しゆせんくわ（名）繖花、あざさ科の植物。
しゆせんし（名）繕銭司、ぜにをとゝのへ、造幣廠。
しゆせんじ　修禅寺、伊豆國田方郡なる有名の地にて温泉あり又同名の大寺あり修禅寺氏は此地より出づ。
しゆず（名）数珠、念珠、ずず、つまぐるたま、佛者の用具。
しゆする（名）主水、もひとり官名、もんど。
じゆする〔する〕入水、みづにいる、みなげする、投身。
じゆずかけばと（名）斑鳩、いかるが、動物。
じゆずだま（名）野蓖麻、川薮、ずずだま、植物。
じゆずねのき（名）巴戟天、植物。
しゆずみ（名）朱墨、朱錠子、あかきすみ。
しゆすずり（名）朱硯、朱を磨る硯。
しゆん（形）俊、すぐれたる、まされる。
じゆん（形）純、もっぱら、まじりなき。
しゆんい（名）春衣、はるぎ、はるごろも。
しゆんい（形）俏美、すぐれたる、まされる。
しゆんる（名）春鶯、太子のみや、はるのみや。
じゆんい（名）親衣、やぶれごろも、麁服。
〔じゆんい〕（名）親衣、なれぎぬ、ふだんぎ。
じゆんいつ（形）純一、もっぱら、まじりなき。
じゆんいう〔する〕（自）遵遊、みめぐる。

しゆんかん　春寒、はるのさむさ。
しゆんかん（名）瞬間、またたくひま。
じゆんかんいじん　准大臣（昔時大臣の闕なき時大納言中の故参者を選び大臣の職を奪へて内大臣の次ぎに列せしめたる官）。
じゆんたつ〔する〕順逆、ものゝふれをさばす。
じゆんたう（形）順當、あたりまへつひでよき。
じゆんたく（名）潤澤、いろつや、十又うるほひめぐみ。
しゆんだん　春殿、はるのあたたかさ。
じゆんれい〔する〕（他）諄勧、すすめはげます。
じゆんれい（名）巡礼、順礼佛寺を巡拝すること、また其こと。
しゆんそく（形名）駿足、はやあし。
しゆんそく（名）瞬息、またたき。
じゆんそく（名）準則、のつとるべきのり、ては（人民のために示すものなどをいふ。
じゆんぞく　醇俗、すなはちふうぞく。
じゆんねん（名）閏年、うるどし。
じゆんなん　鯪字、たかきいへ。
しゆんう　鯪字、たかきいへ。
じゆんぐり〔俗〕（形）順繰、順當、だんだん。
しゆんくわ（名）蕣花、あさがほ、植物。
じゆんぐわ（名）春萼、わらびばん、まくらえ。
じゆんくわい〔する〕（自）巡廻、みめぐる、みまはる。
しゆんくわん　俊賀法勝寺の執行にして清盛の篇めに島流にせらる。
じゆんくわん（名）—する（自）循環、めぐり、めぐる、巡環。

しゆんぐう（名）春宮「とうぐう」と讀む、みこのみや、東宮、太子をいふ。
しゆんぐうぼう（名）春宮坊、みこのみやのつかさ春宮の事を凡て掌る處、唐名春坊といふ。
じゆんや（名）巡夜、よまはり。
じゆんやうかん（名）巡洋艦、海洋をあちこち乗りまはりて敵の動静を窺ふ船にして軽快を尚ぶ。
じゆんやうし（名）順養子、弟が兄の子となれるもの。
しゆんけい（名）春桂、いぬかし、植物。
しゆんげい（名）狡猾、からしし、動物。
しゆんけいぬり　春慶塗、和泉の人春慶宇は藤四郎の建仁年中に創始せる木地を露す塗方をいふ此時代に多く製造せらる、朱、黒、重箱、菓子盆等其種類少からず。
しゆんけつ（名）俊傑、すぐれびと、俊才。
じゆんげつ（名）旬月、十ケ月をいふ。
しゆんけう（名）春鴫、はるのあかつき。
じゆんけん〔する〕（自）巡見、みめぐる、巡視、巡察、巡目。
しゆんげん　純銀、ぎんむく、まじりけなきしろかね。
じゆんげん（名）春季祭（三月廿一日の祭。
しゆんこ（名）春風、はるのあかつき。
じゆんこ（名）春思、いろごころ、よごころ、春情。
しゆんし（名）狗死、主君の死になる後を慕うて自殺すること、あひばら。
じゆんし〔する〕（自）詢諏、とひはかる、諮問。
しゆんじ（副）順次、じゅんに、次第、十遂次。
じゆんじょ（名）順序、順緒、ついで、じゅん。
じゆんじょう（名）準縄、みづもりとすみなはゝ。

しゆんこく（形）純黒、まっくろ。
しゆんあらてん（名）春霊嚮（雅樂にて豊穣讃の曲名）。
じゆんさ（名）巡査警察の下吏。
しゆんさい　俊才、すぐれたるえ。
じゆんさい（名）筍菜、めだは植物。
じゆんさつ〔する〕（他）巡察、みまはる。
しゆんさん（名）春蚕、はるこかひこの一種。
じゆんさ（名）順養蚕氣候の順なるをいふ、好順氣なども用ふ。
じゆんさ〔する〕（自）譖媚、なぞらへる。
じゆんさよ〔する〕（他）准許、ゆるす。
しゆんさく（名）春菊、かうらいぎく、きくな、ろくぢわづぎく、植物。
じゆんさやく　順逆、ただしきとただしからぬと、正邪、曲直。
しゆんさんさい　春季祭（三月廿一日の祭。
じゆんさんさい（名）純金、きんむく、まじりなきこがね、源金。
じゆんさん　純銀、ぎんむく、まじりけなきしろかね。
しゆんめ　駿馬、はやうま、ときうま動物。
しゆんし（名）俊士、すぐれびと。
しゆんし（名）春思、いろごころ、よごころ、春情。
しゆんし（名）狗死、主君の死になる後を慕うて自殺すること、あひばら。
しゆんし〔する〕（自）順回、順廻、めぐる。
しゆんじ（名）瞬時、またたくひま。
しゆんじゅく（名副）瞬刻、またたくひま。

しゆんろ　峻路、けはしきみち。
じゆんろ　順路、順道、はんすぢみち、みちじゅん。
じゆんろく（名）麟麋、なれしか、となかい（北地に産する鹿にて其肉は食と爲す可く其皮は衣服と爲すべし殊に能く霊貨を負ひ又雪中に在りて一日に百英里以上を疾くこと一日に百英里以上に至る、北海道千島樺太邊にも産す、北鹿、北地鹿（動物）。

しゆんぱう（名）俊髪、すぐれたるわかもの。
じゆんぱく（形）純白、まっしろ、醇白。
しゆんばん　春晩、はるのくれ、はるのよ。
じゆんばん（名）順番、しだい、じゅんじよ、だんだん、つぎつぎ。
じゆんにんてんわう　淳仁天皇、人皇第四十七代の帝にて世に淡路廃帝と稱す、紀元一千四百二十九年（西洋紀元六百五十九年）より一千四百二十四年迄、在位六年御諡三十二歳。
しゆんぽう〔する〕（他）遵奉、まもる、したがふ。
じゆんぼく（形）淳朴、すなほ、もとなしき。
じゆんべん（形）順便、つがよふよき。
しゆんぢう　春藤氏。
しゆんぢう〔する〕（自）春動、うごめく。
じゆんぢう（名）順痘性質の善き天然痘をいふ。
しゆんさく　峻徳、たかきとく、大徳。
じゆんさく（形）淳篤、あつき、十ねんごろ。

じゆんさく（名）駿徳、すぐれ、利潤。
じゆんさくてんわう　順徳天皇、人皇第八十四代の帝、紀元一千八百七十一年（西洋紀元一千二百十一年）より一千八百八十一年迄、在位十一年御諡四十六歳。
じゆんち〔する〕（他）馴致、なじませる、なつける。
じゆんちよ（名）准除、ひきもとし、さしひき。
じゆんちう（形）純忠、忠義の厚きをいふ。
しゆんちく（名）筍竹、たかんな、たけのこ。
じゆんり（名）循吏、よくしたがひつとむるやくにん。
じゆんり（名）醇醪、こきさけ。
じゆんりやう（形）循良、すなほ、もとなしき。
じゆんわるん　淳和院古昔源氏の人の修學せし大學校。
じゆんわてんわう　淳和天皇、人皇第五十三代の帝、紀元一千四百八十四年（西洋紀元八百二十四年）より一千四百九十三年迄、在位十年御諡五十五歳にして崩ず。
しゆんかい（名）俊乂、すぐれびと。
しゆんかい〔する〕（他）俊改、あらたむる。
じゆんがいり　遵術吏、まもまはりやく。
じゆんかう　純孝、至孝、孝の大なるをいふ。
じゆんかう（名）順講、輪講に同じ。
じゆんかう（名）巡幸、みゆき、天子の御巡歴。
じゆんかう〔する〕（自）巡行、みまはる、巡邏、巡覧、めぐりあるく。
しゆんかく〔する〕（他）俊革、あらためる。
しゆんがくごと　春訣公越前の太守にして柳一新の際にかけて頭角を顕はしたる人。

十のり、きそく。

しゅんしょく〔名〕春色、はるげしき。

じゅんしょく〔する〕〔他〕順色、かざる、十つやをだす。

しゅんじつ　春日、はるのひ、はるび。

じゅんじつ　旬日、とをか(十日をいふ。

しゅんしう〔形〕俊秀、俊秀、駿秀、すぐれたる、ぬきんでたる人の卓絶したるをいふ。

しゅんじう　春秋、はるあき、十よはひ、とし年齢。

じゅんしう〔する〕〔自〕巡狩、みゆき天子の。

じゅんしう〔する〕〔自〕順従、つきしたがふ。

しゅんじうたかし　春秋高、としがよる。

しゅんじゅやう〔名〕春情、いろけ、春愁、よごころ。

じゅんじゅやう　殉城、しろをまもりにしぬる。

じゅんしゅ〔名〕醇酒、こきさけ、みづわちぬきけ、醇酒。

じゅんしゅつ〔する〕〔自〕循環、したがふ、しかばひとる。

しゅんじゅん〔する〕〔自〕逡巡、趦趄、ためらふ、十しりごみする。

じゅんじゅん〔副形〕諄諄、くりかへして、ねんごろに。

じゅんじゅんせん〔副〕循循然、ねんごろに、しんせつに。

しゅんしん〔名〕春心、はるごころ、よごころ、いろごころ、いろけ。

しゅんえい〔形〕俊英、すぐれたる、かしこき。

じゅんえき〔名〕純益、まったくのまうけ。

じゅんび〔形〕準備、よういしたく、そなへ。

じゅんぴつ　潤筆、ふでをそめる、ものかく、染筆。

しゅんも〔形〕峻茂、たかくしげき。

しゅんもく〔名〕瞬目、まばたき。

じゅんもん〔する〕〔他〕諄問、たづねとふ。

しゅんせい〔名〕春望、春望、たこ、飯焚、いかのぼり。

しゅんせい〔する〕〔他〕巡省、みまはる。

しゅんせつ〔する〕〔他〕浚渫、ふかざらひする、さらふ河などを。

しゅんせん　潜川、浚河、かはをさらふ、清水。

しゅんぜん〔自〕蠢蠢、うごめく、蠢が。

じゅんする〔形〕純粋、まもものなき、浮粋、まったきさま。

しゅんぢ〔名〕春、しゅんくり、縄、ふうじ、十又よせだか、共計、總高。

しゅん〔名〕論、議噪、蠢噪、蠢噪鳥、動物。

しゅん　駿馬、しひきのうまの如く油を搾りとりたる粕をいふ、俗にメ粕と書けり、あぶらかす。

しゅん〔名〕七五三、しめなは、しめかざり、藁を七五三になひて正月の始に家の門口戸口などに張り或は掛くるものなり之を七五三になはるは天神七代地神五代父母已に形るるなりなどいふ、また神の宮鳥居などにもこれを張る、是れ天照大神天之岩戸隠の故事より出でたる例なりといふ、しりくめなは、注連、尻目繩。

しめ　七五三氏。

しめい〔名、—する〕〔他〕司命、生命を司る神。

しめい〔名〕使命、つかひのつとめ、いひつけ。

しめい〔名〕賞罰、ほめもの、賞誉。

しめい〔名〕死命、其死ぬる運命。

じめい〔名〕耳鳴、みみなり。

じめい〔形〕自明、あのづからあきらか。

じめいしよう〔名〕自鳴鐘、りんうちどけい、ひとりでになるとけい。

しめぢたけ〔名〕掌帽、頭巾、下冶児、きのこのたぐひ、植物。

しめり〔名〕湿機、うるほひ、湿機、雨湿、車湿、雨湿、ぬれ。

しめりけ〔名〕湿気、しめりたるきみ、うるほひ。

しめる〔他〕占有、占得、占断、占領、占奪、しめとる、たもつ、うばふ。

しめる〔他〕潤、湿、うるほふ、ぬれる。

しめかね〔名〕扣金、ひかへがね、七五三掛、注連掛、しめなは「しめ」の下を見よ。

しめかす〔名〕搾滓、しぼりかす、菜種麩などの粕の如く油を搾りとりたる粕をいふ、俗にメ粕と書けり、あぶらかす。

しめたか〔名〕總計、くくりだか。

じめつ　自滅、みづからほろぶる。

しめなは〔名〕注連、七五三、しめかざり、しめを見よ。

しめのせきつる〔名〕占之岡弦、細糸を以て巻き漆にて塗りたる弦。

しめやか〔形〕悠揚、緊縝、ひとつによせる。云ふ、十重絃、ものしづか。

しめころす〔他〕絞殺、勒死、絞死、くびりころす。

しめさ〔名〕搾、醗、しめだうじ、油などの。

しめきり〔形〕閉切、とざしきり、ひちかぬこと。

しめきりぬま　占切沼、陸前国本吉郡に在る沼。

しめし〔名〕湿布、わつき、おしめ赤子の。

しめしめ〔副〕潮潮、しめやかに、しづかに。

しめす〔他〕示、みせる、露呈、場示、告示、指示、視示、暴顕、顕示。

しめす〔他〕遷、ぬらす。

しめん　四面、あたり、よも。

しめん〔名〕紙面、かみのおもて、十又てがみ。

しめ〔名〕鮫魚、衣鳥、裏魚、白魚、鰐魚、すわし、鱶、鱘太鼓動物。

しめ〔名〕汚點、染汚衣服の「よごれ、十きず。

じめ〔名〕渋味、うまきもの、うまみ。

じめ〔形〕不潔美、かざりなき、はぞならぬ。

しめわたる〔自〕浸透、滲漫、ぬれとほる、浸潤。

しめたれ〔俗、形〕煩騒、しだらなき、十また音、しわい、ばちくさい。

しめたれをんな〔名〕煩悩婦、繰糸女、しだらなきなん、十しわいをんな

しみづ〔名〕清水、きよきみづ、十泉、いづみ。

しみづ　清水、志水、清泉、妙美井氏。

しみづちやう　清水町、東京市本所區本所、本郷區根津、及び下谷區谷中の町名。

しみづだに　清水谷氏。

しみづだにまち　清水谷町、東京市小石川區小日向の町。

しみつく〔自〕染付、そまりつく。

しみづまち　清水町、駿河國安倍郡の港、また尾張國西春日井郡にも同名の町あり。

しみづみなと　清水湊、駿河國安倍郡の港にして清水町此に在り。

しみこむ〔自〕染込、汚染、感染、浸潤、浸入、染入、そまる、十とほる。

しみみに〔副〕繁、しげしげ、せはしく。

しみみじみ〔副〕染染、滲滲、よくよく、つくづく。

しみん　四民、士、農、工、商、古來之を四民として此順に上下を分つ。

しみん　愚民、おろかもの、あのれのもの。

しみん　曙眠、ねおきをたしむ病人などが只眠りたがるをいふ。

しし〔名〕猪、ゐのしし、野猪、動物。

しし〔名〕肉、にく、み動物ので、私生兒。

しし〔名〕私子、ないしよ、あとつぎ。

しし〔名〕嗣子、あとより、あとつぎ。

しし　子息、孔子の孫にて中庸を作り聖學を孟子に傳へしと云ふなり。

しし　私史、野史の類をいふ、稗史。

しし〔名〕制史、支那の官名、我朝の守にあたる、知事。

しし〔副〕教教、つとめはげむ貌。

しし　四肢、てあし、両手両足をいふ、また四體に同じ。

しし〔名〕獅、獅子（獣王と呼ばるるもの）にして印度及び亜非利加に産す）動物。

しし〔名〕鹿、しか、かのしし動物。

しし〔名〕〔する〕〔他〕賜、たまはる。

ししあ〔名〕死戸、しにかた、死屍、しかばね。

ししあ〔する〕〔他〕指示、さししめす。

ししあ〔名〕道士請嗣より受る學職ある士。

しし　四時、よつのとき、四序、四節、暑末、夏火、熱念、冬水。

しし〔名〕皇耳、をなもみ、みみなぐさ植物。

しし〔名〕侍史、かきやく、いうひつ、側に侍る書史といふ義なり、人に書をかくる時などには某先生あるひは某殿侍史と書く、是れ其人に直接に達するを不敬として侍史に換達を請ふの意なり。

しし〔名〕兒齒、かはりば、ちごば、小兒の時の齒をいふ。

しし　貳思、ふたごころ、武心。

しし　慈氏、彌勒佛をいふ、慈尊。

しし　時時、より〳〵ときどき。

ししじし　時事、其時起る世のことがら。

ししじし〔副〕琴琴、つとめはげむ貌。

ししじし〔名〕侍兒、そばづかひ、侍女。

ししいでん〔名〕紫宸殿、ししんでん、清殿。

ししど　宍戸氏。

ししどまち　宍戸町、常陸國西茨城郡の町名。

ししぢ　宍道氏。

ししわうのけん〔名〕獅子王劍、近衛院が源頼政に賜ひたる備前助平の名劍。

ししわき〔名〕腰、きめ、肌理。

ししがり〔名〕鹿狩、しかがり。

ししがたに　鹿谷、山城國愛宕郡に在る有名の地。

ししかまる〔自〕鏡、ちぢまる、しにおぢる。

ししがき〔名〕磯、鹿垣、柴垣、鹿角柵、さかもぎ。

ししがしら〔名〕獅子頭、ししのあたま、神楽の用具。

ししよ　四書大學、中庸、論語、孟子。
ししよ（名）矢書、やぶみ。
ししよ　士庶、さむらひとひらびと、しもじも。
ししよ（名）支度、めかばらのこ、わきばらのこ。
ししよ（すると）（自）趨趙、たちもとほる。
ししよ（名）資助、たすけ、すけ。
ししよ（名）齒序、ならぶこと、よはひをくること。
ししよ（名）辭書、字書言語文字を集めて解釋したる書、ことばき。
ししよ（名）自序、自敍（じぶんのはしがき自分の言行錄をいふ）。
ししよ（名）次屋、ついで、次第。
ししよ（名）自助、みづからたすくること。
ししよ（副）自如（物事に動ぜざること）、自若。
ししよう（名）痴騃、くじごと、うつたへごと。
ししよう（形）惑縻、わびまき。
ししよう（すると）（他）到街、はげます、つく。
ししよう（名）史乘、れきし。
ししよう（名）貳乘、そへのりぐるま。
ししよう（名）自乘、あひかけ算の法。
ししよく（名）姿色、みめかたち。
ししよく　辭職、やくめをじする。
ししよく（名）耳食、きゝかじり、きゝかぢりもん、みゝにきくこと。
ししよく　辭色、ことばづかひとかほいろ。
ししそんそん　子子孫孫、まごこのする。
ししつ（名）資質、たち、うまれつき。
ししつ（名）至日、冬時（廿四節の一）。
ししつ（名）時疾、はやりやまひ、ときのけ。
ししつ　時日、ときひ。
ししつ（名）事實、ことがら、まことのこと、實事。

ししね（名）繁縷、しゞきれ（木の）。
ししら（名）繩墨、繩、しじおり、織。
ししむ（俗）（自）銹爛、にじむ墨などに用ふ）。
ししむら（名）肉、宍、にく、獸肉、にくき。
ししむし（名）蛇鰒、行衆（動物）。
ししろ（名）刺繍、ほりもの（體上の一）。
ししろ　始終、はじめをはり、始末、顚末、十又たゞふだん。
ししろ（名）點頭佐渡の方言、あゆさめ（動物）。
ししろ　四獸朱雀、玄武、青龍、白虎をいふ、四神。
ししろぐ（名）傳活（植物）。
ししろでん　仁壽殿、じじいでん。
ししの　十六野氏。
ししのくびき（名）琴廬（植物）。
ししく　獅子吼、獅子の吼ゆる聲が衆獸に優れたるを佛の音敎にたとへていふ。
ししくはず（名）饌、あはあは（植物）。
ししくはず（名）豬不食、やぶかうと（植物）。
ししくはず（名）鵝豆（土佐の方言、えんどう（植物）。
ししやう（名）疫神、さはり、こしやう。
ししやう　四生（胎生、人獸の類、卵生、禽鳥の類、濕生（魚蛙の類、化生（蠶蛾の類、佛敎にいふ所。
ししやう（名）史生、ふびと、ものかき。
ししやう（名）祠祭、かんぬし。
ししやう（名）祇匠、かみすき、かみや。
ししやう　四象（日、月、星、辰、十干の少陽、春陽中の陰、太陽、夏陽中の陽、少陰秋陰中の陽、太陰、多陰中の陰）をいふ、太極の下を見よ。
ししやう（名）至情、まこと、まごころ。
ししやう（名）自性、まことのたち（佛敎の語）。
ししやう（名）辭讓、ゆづること、じたい。
ししやう（名）事情、わけあひ、ことがら。
ししやうに　自生尼（享保の頃江戸吉原若松屋の禪川郎を出し、後遂に草庵を結び自生尼と號す。
ししやく　子癇（五零腎の第四）。
ししやく（すると）（他）詞曉、ねりかむ、かみくちふ。
ししやく（名）磁石、はりすひいし、十字針、羅針盤、羅經盤。
ししやく（副）自若（物事に動ぜざること、自如。
ししやくばり（名）磁石針、羅盤針、ししやくのはり。
ししやくわい（名）試車會、もちかのいはひ、くひそめのいはひ。
ししやぶぎやう　寺社奉行（德川時代に神社佛寺の事を司りし官吏。
ししまる（自）憂退、縮小、退讓、萎縮、憂退、ちゞまる。
ししまのあそび（名）緩遊、ゆかくしあそび、めんないちどり。

ししまひ（名）獅子舞、かぐらまひ。
ししふ（名）詩集（詩を集めたる本）。
ししふ（名）柿葺、こけらぶき。
ししふ（名）四十、卅二十を二つ合せたる數。
ししふから（名）四十雀、自鳴鳥（動物）。
ししふえ（名）鹿笛（四十雀の圖）
ししぎ（名）師子座（佛を呼ぶ笛。
ししゆ（名）貢酒、うまきさけ。
ししゆ（名）官建、もちひき、わけ、むね。
ししゆ（名）雛手、めて右の手。
ししゆ（名）紫珠、むらさきしき、みむらさき、やぶむらさき（植物）。
ししゆ（名形）死守、いのちがけにてまもる。
ししゆ（すると）錙銖（極めて小量なるものにいふ）。
ししゆ（すると）自貧、みづからまうしぞる（己の謙遜を）。
ししゆ（名形）自主（一己獨立にして人の奴僕ならざるをいふ）。
ししゆ（名）耳掻、みみたぶ耳朶。
ししゆ（名）獻手、あぶうて。
ししゆ（名）兒手柏、このてがしは（植物）。
ししゆかう（名）十種香（梅檀、沈木、鬱金、薫陸、鬱金、白膠、青木、零陵、甘松、鷄舌の十種の香料）。
ししゆつ（すると）（他）支出、はらひだす、十しはちふ。
ししゆう　時宗（後宇多天皇の諱字に一遍上人の創めし宗門）。

ししん（名）侍從、そばづかへ、もそば（帝王の近侍の臣、曉の拾遺補闕に同じ）。
ししん（名）至人（聖人の如く道德の極致に造詣したる人、いたれるひと。
ししん（名）二心、ふたごころ、貳心。
ししん（名）慈心、いつくしみごころ。
ししん（名）侍臣、そばづかへ。
ししん（名）自身、わがみ、おのれのみ。
ししん（名）自健（自ら僭ずること、自ら己れの技倆を信ずるこゝろ。
ししん（名）慈仁、いつくしみ、あはれみ。
ししん（すると）自盡（自殺するをいふ）。
ししん（すると）自刃（自殺するをいふ）。
ししんばん　自身番（町家に設くる次番の番人、ひのばん。
しじんけい（名）觀神經（物を觀る神經）。
しじんでん（名）紫宸殿（皇居の南殿、ししいでん。
ししんさいばんしよ　檢察裁判所（舊初に裁判する法廷）。
ししんぎ（名）時辰儀、とけい（時計）。
しえ（名）繪衣、すみぞめのころも（僧の服）。
しえつ　私調、ないえつ、內見、ないないにまみゆることゝ。
しえう（形）至要、いたつてたいせつ、至極肝要。
しえふ　枝葉、えだは。
しえふ（名）子葉、めばえのふたば（草木の）。
しえき（名）私役、わたくしのえき、私役。
しえき（すると）（他）使役、もちひるつかふ。
しえき（名）斷役、いやしきこもの。
しえき　時疫、ときのけ、はやりやまひ。
しえん（名）祇園、たゞいかのぼり。

しじん（名）市人、いちびと、すあひ。
しじん（名）矢人、やはぎ。

しえん（名）鹿鹿、さかもり。
しおん　私怨、わたくしのうらみ。
しえんきん（名）資錢金、よめいりがね。
しか（名）雙めしひ、ゆくち。
しか（名）椎、しひのき植物。
しか　私賀、じぶんのにふひ、自賀。
しか（名）修膳、あごり、鰓骨。
しか（名）支柱、つか（柄の）。
しか（名）鮪、鰤、鰹魚、しび　まぐろ動物。
じか　自賀、じぶんのひよう。[餘]
じか（名）慈悲、なさけ、あのはれみ。
じか（名）侍婢、こしもと。[圖]
しかさばな（名）石蕗花、すてばな、ひがんばな、扇
　蕨、水院、一枝箭植物。
しかる（他）強、おしてす
　すむる、十おしつける、むりおしする。
しかる或しふる（他）誣、強誣、罔誣、告誣、誣
　罔、おしてする、こじつく。
しかる（自）痺、痿、しびれる、體のきかなくなるをいふ。
しかがたり（名）強談、がうだん（無理に說きくどくをいふ。
しかたぐる（他）壓し（たぐる、せたぐる、なやどが。
しかれる（自）痺、麻痺、きかなくなること、手足など

しびれぐすり（名）麻醉、ねむりぐすり。
しびれえい（名）電氣鰩、木勺鰩動物。
しびつ（名）試筮、かきそめ、試験、試卷。
しびね（名）瘤、こぶ。
しびな（名）椎名氏。
しびな（名）糀、みのちぬみ稻麥の。
しびら（名）上裳、ろはら、昔の宮女が裳の上にさとひし腰き綱の帶はのもの。
しひのをのたき　雄尾瀧北城縣川—の瀧、—の里など和歌に見ゆ。
しひのき　椎、柯樹植物。
しひや　椎谷氏。
しひやう（する）（自）　特亮、たのむ、よりたのむ。
しひやくしびやう　四百四病、百一風、百一黃、百一癈、百一癡、百一漏。
しひやまち　椎谷町　越後國刈羽郡の町名。
しひごと（名）謎言、いひかけごと、いひがかり。
しひて（副）強、おして、むりに。
しひき（名）字引、字書、もじひくふみ。
しひん（名）貧窮、うまれつき。
しひん　四品（小六歲以上）、少（十以上）、壯（五十以上）、老（五十以上）。
しひん（名）禰宜、しゆびん、ゆばりつぼ、便所。
しひん（名）下、した、十いやしきもの、ひくきひと。
しも（名）霜露のふりたるもの。
しもばしら（名）霜柱、冰笋、ゆきよせさう　溝地に柱のごとくなりて氷れるもの。
しもつまち　下妻町　常陸國眞壁郡の町名。
しもづけ　下野、東山道中の一國。
しもつけ（名）下津花、繡線菊、薔薇科植物。
しもべ（名）僕、傭隷、奉頭人につかへて使役せらるるもの、めしつかひ、幹人。

しもざ（名）管杖、笠、傘笠、棒籠　往昔の刑具、むち竹條を以つて作り罰人を撻つに用ひし杖。
しもざ（名）細枝、小枝、こえだ、笞　ほそえだ、末の小枝をいふ。
しもざはら（名）林木原（木の生ひ殘りたる原をいふ。
しもざしば（名）蕨葉、そだ、柴　もやきえだ薪などにする。
しもれほつまち　下大津町　常陸國新治郡の町名。
しもをこ（名）下僧、しもべ、下男。
しもをんな（名）下婢、はしため、下女。
しもかた　下方氏。
しもがれ（名）霜枯　冬草木の枯れること、十きた世間の商賣などの不振盛になること。
しもかぶべ　下部邊氏。
しもかぜ（名）前氣病の名。
しもよ　霜夜、しもふるよ。
しもだ　下田氏。
しもだ　下田伊豆國の有名の落にて安政三年米國使節ハルリス始めて此地に來る。
しもたかなはまち　下高輪町　東京市芝區の町。
しもたてまち　下館町　常陸國眞壁郡の町名。
しもそね　下曾根氏。
しもつかへ（名）下仕、しもべ、はしたもの。
しもつかた　以下、しもべのかた。
しもつまちまち　下妻町　常陸國眞壁郡の町名。
しもづけ　下野、東山道中の一國。
しもつけ（名）下津花、繡線菊、薔薇科植物。
しもつけごほり　下毛郡　豐前國の郡の名。

しもつは（名）霜月（太陰曆十一月をいふ。
しもつひげ（名）鰭、したひげ。
しものさをか　下旬、下浣、下澣　月の廿一日より三十日迄の間をいふ。
しものゆみはり　下弦、しもはんつき　太陰曆の月の下半。
しものせき　下關　長門國の有名の地。
しもくち（名）　寒氣に由りて手足の皸龜するをいふ。
しもくづれ（名）霜崩　霜にて土の崩るるをいふ。
しもくづふ（名）　霜木槿、かせづふ（「しゆもくづふ」に同じ。
しもやま　下山氏。
しもやけ（名）凍瘡、寒瘡、瘃皮膚病。
しもやしき（名）下屋敷、別邸、わたくしのやしき、十別莊。
しもげる（自）凍萎、しもにしぼむ、こほりくさる　辛大根などが。
しもふり（名）霜降（赤貝鮭などを輕く茹でて醬油にて食するをいふ。
しもふさ　下總東海道に屬する一國。
しもとし（名）胞脂蛻、ぬけげ（植物）。
しもごえ（名）下糞、下肥、こやし。
しもざま（名）下樣、しもじものひとびと、下賤、下等人民。
しもゆ（名）　座浴、こしゆ　腰以下を湯に入れて溫もるをいふ、孕婦病癒などの多く爲す所。
しもせたかまち　下瀨高町　筑後國山門郡の町名。
しもすは　下諏訪　信州諏訪郡の地名。
しもん（する）（自）　諮問、たづぬる、とふ、質問、訊問（「しじゅん」に同じ。

しもん（名）私門、業門、なもなきいへ、ひとにしられぬいへ、いやしきいへ。
じもん　自問、みづからとふ。
じもん（名）　耳門、くぐり。
じもんくわい（名）諮問會　とりて諮問を目的とする會。
じもんじたふ　自問自答　自身で疑を起し自身で答ふるをいふ。
しもんしんか（名）　四門觀察、またえんじゃ。
しもんせん　四文錢、なみかたぜに　四隅圓穿の平上去入。
しやい　四姓源、平、藤、橘。
しやい（名）資性、うまれつき、たち。
しやい（名）至誠、まこと、まごころ。
しやい（名）市政、まちかたのとりしまり。
しやい（名）史生、かきやく。
しやい（名）市井、まちいちまち。
しやい（名）市間、まちのきめ、まちのおきて。
しやい（名）姉精、あねむこ。
しやい（形）　煩惱、さかん、いきはひよき。
しやい（名）死生、しにいき。
しやい（名）時世、ときよいまとぎ、いまのよ。
じやい（名）時勢、ときのいきはひ、ときのありさま、時代、形勢。
じやい（形）自生、ひとりでにはえる、自然生。
じやい（形）自製、てせいてづくり。
じやい（形）辭世、よちおること、死亡、死去。
じやいはく（名）　始生魄、設生魄、歌生魄に同じ。
じやいのうた　辭世之歌、臨終の作歌。
じやいさう（名）　辭世、たうせいふうのなり。
しやん（形動）　自然、ものづからなる、ものづと、ひとりでに。
じやん（名）　慧養、めぐみ、あはれみ、感應。
しやんぎう　自然銅、遊離して自然に存する銅。
しやんか（名）　子錢家、かねかし、十質屋、しちや。

しもん（名）　紋、紋章。
しもんじ（名）　紫門、紫門、なもなきいへ、ひとにしられぬいへ、いやしきいへ。
しもんじ　自問、みづからとふ。
しもんじ（名）　耳門、くぐり。
しもんじくわい（名）諮問會　とりて諮問を目的とする會。
しもんじたふ　自問自答　自身で疑を起し自身で答ふるをいふ。
しもんしんか（名）　四門觀察、またえんじゃ。
しもんせん　四文錢、なみかたぜに　四隅圓穿の平上去入。
しやい　四姓源、平、藤、橘。
しやい（名）資性、うまれつき、たち。
しやい（名）至誠、まこと、まごころ。
しやい（名）市政、まちかたのとりしまり。
しやい（名）史生、かきやく。
しやい（名）市井、まちいちまち。
しやい（名）市間、まちのきめ、まちのおきて。
しやい（名）姉精、あねむこ。
しやい（形）　煩惱、さかん、いきはひよき。
しやい（名）死生、しにいき。
しやい（名）時世、ときよいまとぎ、いまのよ。
じやい（名）時勢、ときのいきはひ、ときのありさま、時代、形勢。
じやい（形）自生、ひとりでにはえる、自然生。
じやい（形）自製、てせいてづくり。
じやい（形）辭世、よちおること、死亡、死去。
じやいはく（名）　始生魄、設生魄に同じ。
じやいのうた　辭世之歌、臨終の作歌。
じやいさう（名）　辭世、たうせいふうのなり。
しやん（形動）　自然、ものづからなる、ものづと、ひとりでに。
じやん（名）　慧養、めぐみ、あはれみ、感應。
しやんぎう　自然銅、遊離して自然に存する銅。
しやんか（名）　子錢家、かねかし、十質屋、しちや。

しやん（名）　慧養、めぐみ、あはれみ、感應。
しやんぎう　自然銅、遊離して自然に存する銅。
しやんか（名）　子錢家、かねかし、十質屋、しちや。

じぜんか（名）慈善家、めぐみて、救恤家、なさけあるひと。

しぜんたろた　自然淘汰、あめづちかえりわけちるること、進化論の説にて優れるもの適するものは自然に盛んに成り劣れるものは自然に亡ぶるをいふ。

じす（他）辞、ことわる、じじよくする。

しする（名）四肢、はしばし、よも。

しする（名）枝水、えだがは。

しする（名）死水、しにみづ、ながれぬみづ、活水に対す。

しする（名）止水、ながれぬみづ、たまりみづ。

しずる（名）鐵漿、めしべ花の中心の蘤の雌たるもの。

じする（自）自放、みづからかしく、みづからにたきする。

じする（名）耳垂、耳朶、みみたぶ。

じする（他）辞「じす」の下を見よ。

しす逸す（他）仕損、しとげる、十ときをりをえる。

しん　進氏。

しん（名）臣、おみ、けらい、しもべ。

しん（名形）新、にひ、あたらし、あらた。

しん（名）屋體の類にして口より櫻臺城郭の形を吐く、之を屋櫓といふ）動物。

しん（形名）眞、まこと、十ほんもの、十又かいしよ、楷書。

しん（名）心二十八宿の一にして東方に位す、またこれを火火と呼ぶ、なかご。

[圖「心」の]

しん（名）翰二十八宿の一にして南方に位す、みづうち。

[圖の翰]

しん（名）參二十八宿の一にして西方に位す、からすき。

[圖の參]

じん（名）人、ひと、にん（此字を以て始まる語にして此部に見えざるものは「にん」の下を見るべし。

じん（名）仁、博愛を仁と謂ふ、仁は五常の第一なるもの。

じん（名）仁、ひと、此仁彼仁などいふ、人に同じ。

じん（名）腎、むらと五臓の一にて生殖のことに關係す。

じん（名）蜃、ふか動物。

しんい（名）辛夷、こぶし植物。

しんい（名）廣衣、ねまき、かひまき。

しんい（名）褶衣、はだぎ、じゅばん。

しんい（名）深衣儒者の服。

しんい　寢處、ふかきこころ、十ふかきいみ。

しんい　寢意、天子のおぼしめし。

しんい（名）瞳志、はらたち、いかり。

しんい（名）津頭、よだれ、よだり、涎。

しんい（名）針體、はりさし、はりするくすし。

しんる（形）神慮、あやしき。

しんる　寢威、みかどのごいきほひ。

しんる　神威、かみのいきほひ。

じんる（名形）人倫、ひとわざ、ひとのなしたる。

しんいづみちやう　新和泉町、東京市日本橋區の町。

しんいう　寢憂天子の御心配。

しんいう（名）神遊、かみあそび魂が彙外に遊ぶをいふ。

しんいう（名）親友、したしきとも。

しんいうりよく（形名）深遠綾、もんどもや。

しんいん（名）晨飲、あさざけ、あさのみ。

しんいん（名）審院、さいばんしよ。

じんゐん（名）人員、ひとかず。

しんいんさう（名）邃廻廊、ゆくて、すすむみち。

しんろう（名）廣櫓、かひやぐら、しんきろう。

しんろくかせん　新六歌仙（後京極、慈圓、俊成、定家、家隆、西行）。

しんはい（俗）（名）心配、こころづかひ、きくばり、きがかり。

しんばりぼう（名）支柱、ねさへ、とめぎ。

しんはかせ（名）議會典職寮の一官、所名主計頭といふ。

しんはたまち　新畑町（東京市淺草區の町）。

しんはたごちやう　新旅籠町（東京市淺草區の町）。

しんばつ（する）（自）祓禊、すすみゆく出發するをいふ。

しんばつ（名）髪梳、もつれがみ。

しんばつ（名）假役、せめうつこと。

しんばつ（名）神罰、かみのとがめ。

しんはなちやう　新花町（東京市本郷區湯島の町）。

しんぱん（名）新聞、くひつみ。

しんによ（形）眞知、まこと、究竟實。

しんによ　信女（佛法信心の女。寺と呼ぶ。

んんによだう　信如堂（洛東黒谷の北に在り極樂

しんにふ（する）（自）假入、をしこむ、をかしいる。

しんにふ（する）（自）導入、しみこむ。

しんにん（する）（他）信任、しんじまかす。

しんにんくわん（名）親任官（天子の親ら任じたまふ官、即ち大臣顧問官などをいふ。

しんにんじやう（名）親任狀（帝王が其代表者たる大使、公使などに與へて信任を表はす書。

しんぽ（する）（自）進歩、すすむ、文化が進歩するなどいふ。

しんぼ（名）親母、ははや、おふくろ、阿母。

しんぼ（名）針鍼、はりさし、はりするくすし。

しんぼち（名）新墾意、いまだうしん。

しんぼりちやう　新堀町（東京市麻布區及び芝區の町。

しんぼう（名）針鍼、はりのさき、鍼劑。

しんぼう　深謀、ふかきはかりごと、神策。

しんぼう（名）心棒、まんなかのぼう、車などの、軸。

しんぼく　神木、かみのやどりぎ、あやしきき。

しんぼく（名）（する）（自）親睦、むつまじき、したしみのよりあひ。

しんぼくくわい（名）親睦會、むつまじき、したしみのよりあひ。

じんぼんしや（名）人奔車、大八車をいふ。

しんぺいみん（名）親兵、天子の親手勢、近衛兵。

しんへいみん（名）新平民、舊時の穢多非人が平民と成りたるもの。

しんへいそめんちやう　新平右衛門町、東京市淺草區の町。

しんへう（名）微則、はりのさき、針鍼。

しんべうに（副）神妙（しんめう）、もとなしく、まさりて、にうわに。

しんぺん（名）神髪、ふしぎ、あやしきわざ、奇蹟。

しんぺん（する）（他）申喩、まうしひらく、まふ官、即ち大臣顧問官などをいふ。

しんぽ—**しんさ**　　**しんぼ**—**しんさ**　　一〇六三

しんぽう（名）神賀、かんだから。

しんぽう（名）申報、つげしらせ。

しんぽう（名）信砲、あひづのてつぽう。

しんぽう（名）（一する）（自）辛抱、こらへ、こらへる、がまんする。

じんぼう（名）人肪、えな、胞衣。

じんぼう（名）人望、ひとのすくること、ひとにすかるること。

じんぼう　神保氏。

しんぼうにん（名）辛抱人、こらへづよきひと。

しんぼはまちやう　新濱町、東京市芝區金杉の町。

しんぼしら（名）心柱、まんなかのはしら。

しんぼん　親藩（徳川の近親にて大名たりしもの一例（ば越前藩松平忠昌藩の如きを親藩といふ、又支那にては清朝旌と同族の藩屏をいへり）。

しんぱん　新版、新製、あたらしきはん。

しんぱん（する）（他）假把、をかす。

しんぱん（名）（一する）審判、さばき、さばく、訴訟を。

しんぱん（名）新聞、くひつみ。

しんによ（形）眞知、まこと、究竟實。

しんによ　信女（佛法信心の女。

んんによだう　信如堂（洛東黒谷の北に在り極樂寺と呼ぶ。

しんにふ（する）（自）假入、をしこむ、をかしいる。

しんにふ（する）（自）導入、しみこむ。

しんにん（する）（他）信任、しんじまかす。

しんにんくわん（名）親任官（天子の親ら任じたまふ官、即ち大臣顧問官などをいふ。

しんにんじやう（名）親任狀（帝王が其代表者たる大使、公使などに與へて信任を表はす書。

しんぽ（する）（自）進歩、すすむ、文化が進歩するなどいふ。

しんぼ（名）親母、ははや、おふくろ、阿母。

しんぼ（名）針鍼、はりさし、はりするくすし。

しんぼち（名）新墾意、いまだうしん。

しんぼりちやう　新堀町、東京市麻布區及び芝區の町。

しんぼう（名）針鍼、はりのさき、鍼劑。

しんぼう　深謀、ふかきはかりごと、神策。

しんぼう（名）心棒、まんなかのぼう、車などの、軸。

しんぼく　神木、かみのやどりぎ、あやしきき。

しんぼく（名）（する）（自）親睦、むつまじき、したしみのよりあひ。

しんぼくくわい（名）親睦會、むつまじき、したしみのよりあひ。

じんぼんしや（名）人奔車、大八車をいふ。

しんぺいみん（名）親兵、天子の親手勢、近衛兵。

しんへいみん（名）新平民、舊時の穢多非人が平民と成りたるもの。

しんへいそめんちやう　新平右衛門町、東京市淺草區の町。

しんへう（名）微則、はりのさき、針鍼。

しんべうに（副）神妙（しんめう）、もとなしく、まさりて、にうわに。

しんぺん（名）神髪、ふしぎ、あやしきわざ、奇蹟。

しんぺん（する）（他）申喩、まうしひらく、まふ官、即ち大臣顧問官などをいふ。

しんぽう（名）神賀、かんだから。

しんぽう（名）申報、つげしらせ。

しんぽう（名）信砲、あひづのてつぽう。

しんぽう（名）（一する）（自）辛抱、こらへ、こらへる、がまんする。

じんぼう（名）人肪、えな、胞衣。

じんぼう（名）人望、ひとのすくること、ひとにすかるること。

じんぼう　神保氏。

しんぼうにん（名）辛抱人、こらへづよきひと。

しんぼはまちやう　新濱町、東京市芝區金杉の町。

しんぼしら（名）心柱、まんなかのはしら。

しんぼん　親藩（徳川の近親にて大名たりしもの一例（ば越前藩松平忠昌藩の如きを親藩といふ、又支那にては清朝旌と同族の藩屏をいへり）。

しんぱん　新版、新製、あたらしきはん。

しんぱん（する）（他）假把、をかす。

しんぱん（名）（一する）審判、さばき、さばく、訴訟を。

しんぱん（名）新聞、くひつみ。

しんによ（形）眞知、まこと、究竟實。

しんによ　信女（佛法信心の女。

んんによだう　信如堂（洛東黒谷の北に在り極樂寺と呼ぶ。

しんにふ（する）（自）假入、をしこむ、をかしいる。

しんにふ（する）（自）導入、しみこむ。

しんにん（する）（他）信任、しんじまかす。

しんにんくわん（名）親任官（天子の親ら任じたまふ官、即ち大臣顧問官などをいふ。

しんにんじやう（名）親任狀（帝王が其代表者たる大使、公使などに與へて信任を表はす書。

しんぽ（する）（自）進歩、すすむ、文化が進歩するなどいふ。

しんぼ（名）親母、ははや、おふくろ、阿母。

しんぼ（名）針鍼、はりさし、はりするくすし。

しんぼち（名）新墾意、いまだうしん。

しんぼりちやう　新堀町、東京市麻布區及び芝區の町。

しんぼう（名）針鍼、はりのさき、鍼劑。

しんぼう　深謀、ふかきはかりごと、神策。

しんぼう（名）心棒、まんなかのぼう、車などの、軸。

しんぼく　神木、かみのやどりぎ、あやしきき。

しんぼく（名）（する）（自）親睦、むつまじき、したしみのよりあひ。

しんぼくくわい（名）親睦會、むつまじき、したしみのよりあひ。

じんぼんしや（名）人奔車、大八車をいふ。

しんぺいみん（名）親兵、天子の親手勢、近衛兵。

しんへいみん（名）新平民、舊時の穢多非人が平民と成りたるもの。

しんへいそめんちやう　新平右衛門町、東京市淺草區の町。

しんへう（名）微則、はりのさき、針鍼。

しんべうに（副）神妙（しんめう）、もとなしく、まさりて、にうわに。

しんぺん（名）神髪、ふしぎ、あやしきわざ、奇蹟。

しんぺん（する）（他）申喩、まうしひらく、まふ官、即ち大臣顧問官などをいふ。

しんぺん（する）（名）新築、あらたにきづく。

しんちや　新茶、はつちや。

しんちやう　寢廳、天子の御いき。

しんぼ—**しんさ**　　**しんぼ**—**しんさ**　　一〇六三

しんちやう〔する〕(名)　過張、すすむる、のぶる、(利益福利などを)。
しんちん　新陳、あたらしきとふるきと。
しんちん(形)　深沈、もちつきたる、ことばすくなき。
しんり(名)　眞理、まことのことわり、正理、天理、至理。
しんり〔する〕(他)　審理、しらべる訴訟を。
しんり(名)　神經、かみがき、ひもろき。
しんりがく(名)　心理學、こころのかくもん精神作用を研究する學。
しんりよ　震慮(天子の御思慮。
しんりよ(名)　心慮、おもんばかり。
しんりよ　振旅(軍隊するをいふ。
しんりよ　神慮、かみのおもはく、冥慮。
しんりよのひざ　心育之人腹心の人をいふ。
しんりよく　神力、かんわざ、かみのちから。
しんりよく　新緑、わかみどり草木の。
じんりよく　人力、ひとのちから。
じんりよく　勤力、ちからをつくす。
しんりつ〔する〕(自)　震慄、ぞつとする、ふるふる。
しんりつ〔する〕(自)　森立、たつ、そびえる。
しんりやう〔する〕(他)　斟量、くみはかる。
しんりやう(名)　神領、みやつきぢめん、かんぺ。
しんりやく〔する〕(他)　經略、かすめとる、侵略。
しんりやく(名)　心略、こころのはかりごと。
しんりき(名)　信力、しんずるちから、信仰力。
しんりきいね(名)　神力稻、あくてのたぐひ晩稻の一種。
じんりきしや(名)　人力車、腕車人を乗せて人の挽き走る車。
しんりん〔する〕(名)　親臨、みづからのぞむ天子の、みづからきたる。
しんりん(名)　森林、はやし。
しんりん(名)　麒麟、りゆう、たつ(動物)。
じんりん(名)　人倫、君臣父子などの關係。
じんりん　親臨(貧人のその場に臨まるること。
しんぬ(名)　喃哺、嘲笑、いきどほり、いかり。
しんぬり(名)　光輪、はんぬり漆器の。
しんるゐ(名)　親類、みより、つづき、縁家、姻戚。
じんるゐ(名)　人類、ひと、にんげん萬物の靈長。
しんれいはし　新大橋武藏隅田川に架する橋にして、東京六大橋の一なり。
しんれう(形)　深奥、もくふかき。
じんれん　仁恩、めぐみ。
しんわ(名)　神話、神代のころのいひつたへ。
しんわり(名)　親王、天子の御一族をいふ。
しんかん(名)　瞬眼、いとまごひ、辭家にて用ふ。
しんよ　讖緯、まことうそと、眞贋。
しんよ(名)　親類、姻婭。
しんよ(名)　臣下、けらい、しもべ、王侯の臣僕、
しんが　新芽、わかめ、しんめ、草木の新生の萌芽をいふ。
じんか(名)　人家、ひとずまひ、いへ。
しんかい(名)　感觸、いましめ。
しんかい〔する〕(他)　申解、いひとく、いひひらく。
しんかい　新開、新墾、あらたにひらくこと、田畑をつくりにはひり。
しんがい〔する〕(自)　震駭、もどろきふるふ、いたくおそる。
しんがり(名)　殿、しつぱらひ、後殿、後軍。
しんかん　心目、こころかた。
しんかん(名)　信仰、信心歸依の義、しんじん。
しんかん(名)　親交、むつまじきなじみ。
しんかん(名)　深更、よふけ。
しんがん(名)　信眼、あいづ、しらせ。
しんがん(名)　神眼、かみのめ。
しんがく(名)　震鑿、もはまぐり動物。
しんがく(名)　神學、神のことを研究する學。
しんがく(名)　心學、心善學の類。
しんかふ〔する〕(自)　親狎、なじむ、なれしたしむ。
しんかん(名)　眞書、楷書を用ふる繕寫。
しんかん(名)　震聲、震雷天子の御自筆。
しんかん(名)　震讐、いけん、いさめ。
しんかん〔する〕(他)　震撼、うごかす。
しんかん(名)　深閑、もくゆかしき。
しんかん(名)　心坎、みぞおち、みづおち。
しんよ(名)　神輿、かみのみこし。
しんよ(名)　震輿、みこし天子の御のりもの。
しんよう(名)　信用、信任、しんじもちふること、十又しんずることを人を。
じんよう〔する〕(他)　任用、うちまかせもちひる。
しんようがし　信用貸、あひたいがし無當なしの貸金。
じんよく(名)　人慾、ひとのよく。
しんよしはら　新吉原東京市淺草區の遊女町の總名「吉原、北郷、なか。
しんよしちやう　新吉町東京市日本橋區の町。
じんだ(名)　糞尿、もどろきふるふ、いたくくそもる。

しんたい(名)　身體、からだ、み。
しんたい(名)　乘輿、かがみたて、鎗鑓。
しんたい〔する〕(他)　賑貧、すくひほどこす(貧人に)。
しんたい　進退、すすむしりぞく、進止、十動作、動靜、十かけひき。
しんだい〔俗〕(名)　身代、私產、產業、家產、もちもの、財產。
じんたい(名)　人退、かみのもち、ぬけげ。
じんたい　神代、かみよ太古の世を然かいふ。
〔じんだい〕　神代、くまじろ、かじろ、かしこ、かくし名氏、さた地名。
しんだいかぎり〔俗〕(名)　身代限、分散、倒產、破產、しんしやうさしだし。
しんだいよし〔俗〕(名)　財產家、富豪家、かねもち。
しんたいつきやま　資髓築山庭造法にて式法を一も誤せずに造るを然かいふ、又行體草體あり皆其詳略を眞行草の文字に取りて名づけしなり。
じんだいじま(名)　神代綱、わかしま。
じんだいすぎ(名)　神代杉、溪黒色にして木理の美なる理木を然かいふ、佐渡の山川などより出づ。
しんたにまち　新谷町、東京市淺草區の町。
しんたつ〔する〕(他)　申達、まうしたつする。
しんたつ〔する〕(他)　巡達、とどけいだす、たてまつる。
しんたつ〔する〕(他)　假奏、をかしうばふ。
しんたう　新刀、あらみ、あちがたな。
しんたう　神稻、くましろ、かむしろ氏。
しんたう(名)　神道、かみのみち、十また、氏數日本の神の數。
しんたい〔する〕(他)　振後、ふるひうごかす。
しんたい〔する〕(自)　浸透裏面に「しみとほるなど。
しんたい　進退、十しんかいみち、十しんかいみち。
しんだい〔俗〕(名)　身代、私產、產業、家產、もちもの、財產。
じんたい(名)　人退、かみのもち、ぬけげ。
じんたい　神代、かみよ太古の世を然かいふ。
〔じんだい〕　神代、くまじろ、かじろ、かしこ、かくし名氏、さた地名。
しんだいかぎり〔俗〕(名)　身代限、分散、倒產、破產、しんしやうさしだし。
しんだいよし〔俗〕(名)　財產家、富豪家、かねもち。
しんたいつきやま　資髓築山庭造法にて式法を一も誤せずに造るを然かいふ、又行體草體あり皆其詳略を眞行草の文字に取りて名づけしなり。
じんだいじま(名)　神代綱、わかしま。
じんだいすぎ(名)　神代杉、溪黒色にして木理の美なる理木を然かいふ、佐渡の山川などより出づ。
しんたにまち　新谷町、東京市淺草區の町。
しんたつ〔する〕(他)　申達、まうしたつする。
しんたつ〔する〕(他)　巡達、とどけいだす、たてまつる。
しんたつ〔する〕(他)　假奏、をかしうばふ。
しんたう　新刀、あらみ、あちがたな。
しんたう　神稻、くましろ、かむしろ氏。
しんたう(名)　神道、かみのみち、十また、氏數日本の神の數。

しんたい(名)　心底、こころそこ。
しんそん　神孫、かみのみすま、かみのしそん。
しんつう(名)　心痛、こころがひ、こころのいたみ。
じんづう(名)　神通、ふしぎのちから。
しんねん(名)　悲念、あはれみこころ。
しんねんえんくわい　新年宴會新年を賀する酒宴。
しんねふ(名)　冒叢、じやうぶくる。
しんねふ〔する〕(他)　進納、をさめる、たてまつる。
しんれい(名)　神靈、かみ、十みたま。
しんれい(名)　医禪、けもの、しもべ。
しんれい(名)　愛禮耶蘇教の愛禮派の洗禮、バプチズム。
しんれいいけうくわい　愛禮教會、バプテイスト教會。
しんれう(名)　診療診察して治療をなり。
しんれき　新曆、太陽曆をいふ。
しんそ(名)　辛苦、かなしき、十うきめ、つらき。
しんそ　親疎、したしきとうときと。
しんそ〔する〕(他)　讒訴、いつはりうつたふ。
しんそつ〔形〕　質素、かざりなき、ありのまま、眞率、まごころなる。
しんそく　伸促、のびちぢみ、伸縮。
〔しんそく〕　神足、かうたり氏。
しんぞく(名)　親屬、みより、親族、しんるゐ。
じんそく(形)　迅速、すみやか、神速、俊速。
しんそこ(名)　心底、こころそこ。
しんたう〔する〕(自)　(流動物また動物などが)。
じんだう　新道、あたらしきみち、十しんかいみち。
じんだう(名)　人道、車馬道の左右の小路。
しんたうりう　神流流、劍術の鹿島の一流。
しんたく(名)　神託、かみのつげ、たくせん。
しんたく　新宅、あたらしきいへ。
じんたみそ(名)　糀麹味噌、ぬかみそ。
しんたん　震旦、からくに、支那。
しんたん(名)〔する〕(他)　診斷、みわける病氣を。

しんのりものちやう　新築物町（東京市日本橋區の町）。
しんのうし　神農氏（支那古代の王にして農商の事業を天下に教へ且つ百草を嘗めて醫藥を示せし人なり）。
しんく〔すする〕〔自〕　震慴、ふるひおそれる、おづる。
しんく〔形〕　深紅、こきくれなゐ紅色の濃きをいふ、十きた緋紅其義同じ。
しんくわ〔名〕〔一する〕〔自〕　遊化、ひらけすすむこと形等が、十すすみゆく。
しんくわ〔する〕〔自〕　親和、やはらぐ、したしむ、もつむ。
しんくわ〔名〕　心竅、みづあち。
しんくわ〔する〕〔自〕　診遇、こしとはる、しみとる水がく。
しんぐわ〔する〕〔自〕　廂訊、ねみす。
じんくわ　人和（人人の和合）。
しんくわい〔俗〕形〕　心外、にがにがしき、くやしき。
じんくわう〔名〕　人皇（にんわう）、すめらぎ、人王（天子をいふ）。
〔しんくわん〕　神館（かんだち氏）。
しんくわん〔名〕　神官、かんづかさ、かんぬし、戸祝、神職、祭司、神宮司、もし。
しんぐわん〔する〕〔他〕　浣濯、そそぐ水を。
しんぐわん〔名〕　心願、こころのねがひ、ねぎごと（神等への）。
じんくわん〔名〕　人寰、人間、よのなか。
しんぐう　新宮。
しんぐうし　新宮氏。
しんぐうまち　新宮町（紀伊國東牟婁郡の町名）。

じんぐうし〔名〕　神宮司、かんぬし、もし。
しんぐん　進取、いくさをすすむる。
じんくん　仁君、なさけあるきみ、めぐみふかききみ。
しんや　深夜、よふけ、よなか。
しんやくしよ〔名〕　聖藥精を精み藥。
しんやくしよ　新約書（耶蘇教の經文）。
しんやま〔名〕　甚麻、いらくさ、なつはぜ植物。
しんやまい〔名〕　新米、にひよね、あたらしきこめ。
しんやまく〔俗〕形〕　信厚、つつしむ。
しんやく〔する〕　神經身體中の各種の筋。
しんやけい〔名〕　深閨、ふかきねや（富貴の人の女子ある居室をかくいふ）。
しんやけい〔名〕　心計、むなづもり。
しんやけい〔名〕　經綸、いばち、やぶ。
しんやけい〔する〕〔他〕　經營、こころづける、いとなむる。
しんやけつ〔名〕　腎藥精を精み藥。
しんやくしよ　新約書（耶蘇教の經文）。
しんやま〔名〕　甚麻、いらくさ、なつはぜ植物。
しんやまい〔名〕　新米、にひよね、あたらしきこめ。
しんやまく〔俗〕形〕　信厚、つつしむ。
しんやく〔する〕　神經身體中の各種の筋。
しんやけい〔名〕　深閨、ふかきねや（富貴の人の女子ある居室をかくいふ）。
しんやけい〔名〕　心計、むなづもり。
しんやけい〔名〕　經綸、いばち、やぶ。
しんやけい〔する〕〔他〕　經營、こころづける、いとなむる。
じんやく〔名〕　人臭（にんわう）、すめらぎ、人王（天子をいふ）。
〔しんやん〕　神館（かんだち氏）。
しんやん〔名〕　神官、かんづかさ、かんぬし、戸祝、神職、祭司、神宮司、もし。
しんやん〔する〕〔他〕　浣濯、そそぐ水を。
しんやん〔名〕　心願、こころのねがひ、ねぎごと（神等への）。
じんやん〔名〕　人寰、人間、よのなか。
しんやう　新宮。
しんやうし　新宮氏。
しんやうまち　新宮町（紀伊國東牟婁郡の町名）。

じんけつ〔する〕〔自〕　鐵縄、つきる、なくなる。
しんけう〔名〕　新教、耶蘇教の正派、プロテスタント教。
しんけうじや〔名〕　進教者、をしへにいるひと。
しんげふ　身體、みのわざ、おこなひ。
しんげき〔する〕　進擊、すすみうつ、すすみせめる。
〔しんけん〕　新見（にひのみ氏）。
しんけん〔名〕　親權、みより、しんぞく。
しんけん〔名〕　讃頌、ことのつるぎ（木刀に非ず）。
しんけん〔する〕〔他〕　進獻、たてまつる、さゝげる。
しんけん　仲穴、のばくぴ。
しんげん〔名〕　綸言、ねごと。
しんげん〔名〕　贈言、しるしごとば、金言。
しんげん〔名〕　神符、まもりふだ。
しんぶ〔名〕　親父、ちちおや。
しんぶ〔名〕　新鰒、はなよめ、にひよめ。
じんぶつ〔名〕　人物、ひとがら、一ひと。
じんぶつさい〔名〕　神祠業、あまのり（植物）。
じんぶなまつちやう　新舊松町（東京市京橋區の町）。
しんぶう〔名〕　震諷、いましめ、十おみとすり。
しんぶう〔名〕　泰風、西風、にしかぜ。
じんぶう　仁風、めぐみ。
じんぶう〔名〕　仁風、扇、あふぎ。
じんぶう〔名〕　逸風、つよきかぜ、疾風。
しんぶく〔する〕〔自〕　臣伏、したがふてけらいになる、まつろふ。

しんぷく〔する〕〔自〕　心服、こころよりしたがふ。
しんぷやう　秦舞陽（秦の太子丹の爲めに荊軻の副となりて咸陽に使したる少年時に十三歳なりきといふ）。
しんぷん〔する〕〔自〕　曠盪、はらだつ、いかる。
しんぶん〔名〕　讖文、みらいき未來記）。
しんぶん〔名〕　新聞、あたらしききこみごと、あたらしきはなし。
しんぶんし〔名〕　新聞紙（世上の新聞を報ずる發行物）新紙。
しんこ〔名〕　神廚、はこら、かみぐち。
しんこ〔名〕　振古、あはむかし。
しんこ〔名〕　賣物類料理店にて客に出す各種の賣物を取あはせたるもの、しんこ一枚二枚などいふ。
しんこ〔名〕　糠粉糠米の粉を以て造り種種の色を施したる餅の類。
じんご　識則、つきるとき、をはり、かぎり。
しんごつ〔名〕　顱骨、あたまのほね。
しんこう　深紅（しんく）、こきくれなゐ。
しんこう　神功、くすしきてがら。
しんこう〔する〕〔他〕　振興、ふるひおこす。
じんこう〔名〕　人工、ひとてのしごと、ひとわざ。
じんこう〔名〕　人口、ひとかず。
じんこうくわうとう　神功皇后（仲哀天皇の皇后、紀元前八百六十一年（西洋紀元前二百〇一年）より九百二十九年に至る、垂仁六十九年（御書一百歳）。
しんこつ〔名〕　顱骨、あたまのほね。
しんこう　深紅（しんく）、こきくれなゐ。
しんこう　神功、くすしきてがら。
じんこう〔名〕　人工、ひとてのしごと、ひとわざ。
じんこう〔名〕　人口、ひとかず。
じんこうめまち　新小梅町（東京市本所區の町）。
しんこく　神國、かみのくに。
しんこく　新刻、しんぱん（新板に彫る）。
しんこく　深黒、まつくろ。

しんこく〔する〕〔他〕　申告、つげまうす。
しんこくちやう　新石町（東京市神田區の町）。
しんこけいりん　神護慶雲（日本自一千四百二十七年至一千四百二十九年、西洋自七百六十七年至七百六十九年）年號。
しんこん〔名〕　神魂、たましひ、心魂。
しんこん　新婚、よめいり、或むことり。
しんこん〔名〕　晨昏、あけくれ、あさばん。
しんこん〔名〕　身根（男子の生殖器をいふ）根。
しんこん〔名〕　新聞、にひばり、新聞。
しんごん〔名〕　眞言（陀羅尼を云ふ、また眞言宗の略言。
じんこん〔名〕　人魂、ひとだま、ひとのたましひ。
しんごん　眞言宗（宗派の名、平城帝の御宇〔同年間に僧空海の創設せしもの〕）。
しんこん〔名〕　心眼、そこい、したごころ。
しんこん〔する〕　審定、とりさばく、しらべさだむる。
しんこん〔する〕〔他〕　進呈、まゐらする。
しんこん　眞魂、まがひ（動物）。
しんこん　人定（昔の時制にて午後の亥の刻より丑の下を見よ）、ひとさだまりどき。
じんこん〔名〕　人丁、ひと、人口、ひとかず。
しんこん　晨朝、あした、あさ。
しんこん〔する〕　新調、あらたにこしらへる。
じんこん〔名〕　訛謬、はがかはる。
しんこん　釈樣、たづねさがき、くちがき。
しんこん〔する〕〔自〕　履悠、おそれる、おそれふるふ。
しんこん〔する〕　親展、てづからひらく（書簡を）。

しんこく〔する〕〔他〕　廂轄、ねがへる。
しんこくちやう　新石町（東京市神田區の町）。
しんこけいりん　神護慶雲（日本自一千四百二十七年至一千四百二十九年、西洋自七百六十七年至七百六十九年）年號。
しんこん〔名〕　神魂、たましひ、心魂。
しんこん　新婚、よめいり、或むことり。
しんこん〔名〕　晨昏、あけくれ、あさばん。
しんこん〔名〕　身根（男子の生殖器をいふ）根。
しんこん〔名〕　新聞、にひばり、新聞。
しんごん〔名〕　眞言（陀羅尼を云ふ、また眞言宗の略言。
じんこん〔名〕　人魂、ひとだま、ひとのたましひ。
しんこん　眞言宗（宗派の名、平城帝の御宇〔同年間に僧空海の創設せしもの〕）。
しんこん〔名〕　心眼、そこい、したごころ。
しんこん〔する〕　審定、とりさばく、しらべさだむる。
しんこん〔する〕〔他〕　進呈、まゐらする。
しんこん　眞魂、まがひ（動物）。
しんこん　人定（昔の時制にて午後の亥の刻より丑の下を見よ）、ひとさだまりどき。
じんこん〔名〕　人丁、ひと、人口、ひとかず。
しんこん　晨朝、あした、あさ。
しんこん〔する〕　新調、あらたにこしらへる。
じんこん〔名〕　訛謬、はがかはる。
しんこん　釈樣、たづねさがき、くちがき。
しんこん〔する〕〔自〕　履悠、おそれる、おそれふるふ。
しんこん〔する〕　親展、てづからひらく（書簡を）。

しんてん〔する〕　廂轄、ねがへる。
しんてん〔する〕〔自〕　遷轉、うるほふ、めぐれる。
しんでん　新田、あらた、あらたにひらきた。
しんでん　神田、かみのみとしろ（神社に附屬する田地）。
しんでん〔名〕　廂殿、手安朝時代貴族の表座敷。
しんでん　深殿、おくふかきごてん。
しんでんれう〔名〕　信天翁、ばかどり（あほうどりを見よ）（動物）。
しんてんふ〔名〕　振天府（日清戰爭後宮城内に據てられたるものにて戰利品を陳列せらる）。
しんてう〔する〕〔他〕　親覺、めづる、かはゆがる。
じんとん〔名〕　新婚、よめいり、むことり。
しんとんしゆう　眞言宗（宗派の名、平城帝の御宇〔同年間に僧空海の創設せしもの〕）。
しんあみちやう　新網町（東京市麻布區及び芝區の町名）。
しんあん〔名〕　審案、しらべかき。
しんさ〔する〕〔他〕　審覈、しらべる、さんみする、かんがへる事物の良否巧拙などをしらべるをいふ）調査。
しんさい〔名〕　震災、しんのわざはひ。
しんさい　親裁（上裁、震裁天子の裁判）。
しんさい〔名〕　親裁、ふりだし。
じんさい〔名〕　人才、ちえあるひと。
じんさいばし　心齋橋（大阪市南區長堀に架したる橋の名）。
しんさいはびちやう　新泰町（東京市芝區の町）。
じんざいこ　神西湖（出雲國に在る湖水、周回一里十三町四十五間）。

しんざいもくちやう 新材木町(東京市日本橋區の町)。
しんさかなちやう 新肴町(東京市京橋區の町)。
しんさつ(名)、―する(他) 診察、みやくをみる、うかがふ。
しんさう(名) 深窓、ふかきまど、奥まりたる室の窓と云ふ義にして富家貴紳などの女子の室を常に然か呼ぶ、是れ襲して奥まりたる處に在りて往來出入の人の容易に近づくこと能はざるに因てなり、例へば深窓に養はれ、深窓の下に人となりなどいふ、深閨。
しんさう(名) 心想、おもはく。
しんさう(名) 寢相、ねがほ。
しんさう(名) 心操、こころばへ。
しんざう(名) 心臓、しんのざう。
しんざう(名) 新艘、新造、あたらしきふね。
しんざう(名) 新艘、京都島原にて雛娼を新船に擬して新艘といふ、つきだしのたぐひ、又東京吉原にては娼妓の遣ふ婢を然か呼ぶ、かむろ成長すれば新造となるべき是れ徳川時代の風習なり。
しんざうおろし(名) 新造下(新造船の進水式をいふ)、ふなおろしのぎしき。
じんざう(名形) 人造、人作、ひとのつくれるもの。
しんさく 神策、くすしきはかりごと。
しんさく[する](他) 振作、ふるひおこす、ふるはす、さかんにする。
しんさくわん 審査官(審査を主る官吏)。
しんさん(名) 心算、むなづもり、むなざん。
しんさん(名) 辛酸、つらき、くるしき、なやみ。

しんざん 深山、みやま、おくやま。
しんき(名) 心氣、むねのうち。
しんき 晨起、あさおき、はやおき。
しんき(名) 心機、こころのはたらき。
しんき(形) 新規、しんぎき、あたらしき。
しんき 心鬼、こころのおに。
しんき(名) 神氣、こころもち、こころ、心氣。
しんき 神龜(禹の洪水を治めし時洛水より出でたる龜をいふ)。
しんき[する](他) 振揮、ふるふ、ふるはす。
しんき[する](他) 振起、ふるひおこす。
じんき 神龜(日本自一千三百八十四年至一千三百八十八年、西洋自七百二十四年至七百二十八年)(年號)。
しんぎ(名) 信義、まこと。
しんぎ 眞僞、まこととうそ、僞眞。
しんぎ[する](他) 審擬、つみをきめる、さばく。
しんぎ[する] 審議、しらべる、ぎんみする。
しんぎ(名) 心木、しんぼう、心棒。
じんぎ(名) 綿質(綿をとる爲めに綿を筒の如く作りたるもの)。
じんぎ 仁義(仁愛と正義)。
じんぎ(名) 神祇、かみ(天神地祇)。
じんぎはく 神祇伯(古昔神祇官の長官)。
しんきり(名) 蕊剪、しんきりばさみ、截燭剪。
しんきよ(名) 寢居(皇居をいふ)。
しんきよ(名) 針魚、鱵魚、さより(動物)。
じんきよ(名) 腎虚(腎臓の衰弱して交合しえざること)。
しんきよく(名) 宸極、みかどのくらゐ(天子の位)。

しんきよく(名) 心曲、こころ、こころね、心事。
[**しんきつ**] 神吉、かみぎ(氏)。
しんきつれう(名) 秦吉了、さるか(動物)。
しんきう[する](他) 審糺 審糾、しらべただす、審究、ぎんみする。
じんきう[する](他) 尋究、たづねきはむる。
じんきく[する](他) 訊鞠、つみをしらべる。
じんきくわん 神祇官(古昔神事祭祀を司りし官、唐の大常寺に當る)、かんつかさ。
しんきやう(名) 神鏡、みかがみ(神前の鏡)。
しんきやう(名) 信經(信仰の箇條)、信條。
しんきやう(名) 寢覺、ねざめ。
しんきふ[する](他) 賑給、めぐむ、ほどこす。
しんきめうさん 神機妙算、くすしきはかりごと(神妙の策略をいふ)。
しんきん(名) 宸襟、天子の御心、えいりよ。
しんきん[する](自) 親近、ちかづく、ちかよる、十また(名) ちかしきひと、したしきひと。
しんぎん[する](自) 呻吟、うなる、うめく。
しんめ 新芽、あたらしきめ。
しんめ或じんめ 神馬(神社へ獻ぜし馬)。
しんめい(名) 神明、かみ。
しんめい(名) 晨明、あけぼの、よあけ。
じんめいろく 人名録、ひとなびか(へ十なまへちやう。
しんめいちやう 神明町(東京市芝區の町)。
しんめう(形) 神妙、たへなる、神化十神妙、靈性、あやしき、くすしき。
しんめうに(副) 神妙、やさしく、すなほに。
しんめん(名) 執勘、やばがき。
じんめん(名) 仁免、めぐみてゆるすこと(人の

官職を賜ふ時などに用ふ)。
しんめんぼく 眞面目、かざりなきこと、まじめ。
しんめんちく(名) 人面竹、ほていちく(植物)。
しんみ(名) 辛味、からみ、からさ。
しんみち 新道、いまみち、あたらしきみち。
しんみつ(形) 親密、むつまじき、したしき、なかよき。
しんみつ(形) 緻密、こまかくぬけめなき、こまかき。
しんみなとちやう 新湊町(東京市京橋區の町)。
じんみらいさい 盡未來際(未來永刧をいふ)。
しんみざう(名) 浸淫瘡(熱病の時皮膚に發するちひさき腫物)。
じんみん(名) 人民、たみ、萬民、蒼生。
しんし 宸旨(天子の御心)。
しんし(名) 心志、こころざし。
[**しんし**] 神子、かみのこ(重に基督をいふ)。
しんし(名) 神祠、やしろ、かみやしろ。
しんし(名) 進士(唐代に士を取るに詩賦を以て取りたるをいふ)。
しんし(形) 參差、ゆきちがひ、たがひちがひ、ふぞろひ、十いりまじる、十はやきおそきある、十おなじからぬ。
しんし(形名) 眞摯、まごころよりなる、くちさきのみならぬ、かざりなきこと。
しんし(名) 進止、かけひき、進退。
しんし(名) 信使(外國に使する者)、使節。
しんし(名) 紳士、れきれきのひと、みがらよきひと、ゼントルマン。
しんし(名) 侲子、わらべ、うまかひわらべ。
しんし 深紫、えびむらさき。

しんし(名) 審司、ぎんみやく、さばきびと。
しんし(名) 殉死(冒瀆にふれて死ぬること)。
しんし[する] 診視、さぐりみる(病氣を)。
しんし[する](自) 親炙、くちをすふ、接吻。
しんじ(名) 神璽(三種神器の一)。
しんじ(名) 心事、こころもち、おもひ、十心腹。
しんじ 神事、かみわざ、かみごと。
しんじ 心耳、こころとみみと、十又心臓の一部。
じんじ(名) 人事、よのなかのこと、十にんげわざ、十又おくりもの。
じんじ(名) 仁慈、いつくしみ。
しんしろかねちやう 新銀町(東京市神田區の町名)。
しんしろまち 新城町(三河國南設樂郡の町名)。
しんしよ(名) 心緒、こころばせ。
しんしよ(名) 讖書、みらいき(未來記)。
しんじよ(名) 寢所、ねどこ、臥房、寢牀。
じんじよ(名) 仁恕、おもひやり。
しんしよう(名) 晨鐘、よあけのかね、あけのかね、あさつげわたるかねのね。
しんしよう(名) 心證、こころのあかし(心中に審くたる證據をいふ、於裁判官の心證にたがふなどいふ)。
しんしよく(名) 神色、かほいろ(神色自若と云ふは疾難などに臨みて毫も動せぬをいふなり)。
しんしよく(名) 神職、かんぬし(神官及び神宮司を見よ)。
しんしよく 寢食、ねるとくふと。
しんしつ(名) 寢室、ねどころ、ねま。
しんじつ(形) 信實、いつはりなき、りちぎ。
しんじつ(形) 眞實、まこと、誠實。

じんじつ 人日(太陰暦正月七日を云ふ、東方朔の古書に元日を雞に、二日を犬に、三日を豬(ゐのこ)に、四日を羊に、五日を牛に、六日を馬に、七日を人にあてたるに因りて此名あるなり)、ひとのひ。
しんしや(名) 辰砂(礦品)。
しんしや[する](自) 親炙、したしくつかへる、十したしくまじはる。
じんしや(名) 仁者、なさけあるひと。
じんじや(名) 神社、かみやしろ。
しんしやう(名) 心匠、むなづもり、意匠。
しんしやう[する](他) 審詳、つまびらかにする。
しんしやう 深祥、いたつて、ふかく、おもき。
しんしやう(名) 鍼匠、はりや、はりつくるひと。
しんしやう(名) 紳商、ものもちのあきうど、かねもちあきうど。
しんしやう(俗)(名) 身上、しんだい、資産、もちもの。
しんじやう(名) 身上、みのうへ、十とりえ。
しんじやう 新莊(氏)。
しんじやう[する](他) 進上、まゐらせる、獻上。
しんじやう 眞情、まごころ。
じんじやう(形) 尋常、よのつね、なみの。
しんじやうまち 新庄町(大和國北葛城郡、紀伊國西牟婁郡、攝津國西成郡、周防國玖珂郡、安藝國山縣郡、丹波國船井郡、美作國眞庭郡、備中國淺口郡及び羽前國最上郡の町名)。
しんじやうさい 新嘗祭、にひなめまつり(十一月廿三日)。
じんじやうさい(名) 神嘗祭、かんなめまつり(十月十七日)。
しんしやく[する](他) 斟酌、くみとる、十みは

かうふ。

じんじふせい　人事不省（昏睡して無感覺なるをいふ。

しんしき（名）　神識（精神の知覺、感識。

しんしぎょ（名）　針魚、さより（動物。

しんしゅ（名）　神主、かんぬし。

しんしゅ（名）　神酒、みき（神に獻ずる酒。

しんしゅ　新酒、あたらしきさけ、わかさ。

しんしゅ（する）〈他〉　穫取、をかしとる。

しんじゅ（名）　神樹（元亞細亞の喬木なり其生長遲速にして容易に良材となり其葉は藥餌と爲す一種の天竺を倒ふべし）。

しんじゅ　新櫚（若葉の芽を出したる木。

しんじゅ（名）　眞珠、かひのたま、珍珠、あはびだま、水が。

しんじゅ（名）　櫻櫚、はしばみ（植物。

〔じんしゅ〕　人首、わす（氏。

じんしゅ　人主、ひとのかさ、ひとのきみ、王。

しんじゅぼ（名）　眞珠母、そがひ（動物。

しんじゅがひ（名）　眞珠貝、あこやがひ（動物。

しんじゅ（形）　眞率、まことなる、まごころなる、かざりなき、しんそつ。

しんしゅつ（する）〈自〉　滲出、しみでる、しみいだす（水が）。

しんしゅつ（名）　心痔、こころだて、こころもち。

じんじゅつ（名）　讖緯、はりのわざ、はりのわざ。

しんじゅつ（する）〈他〉　仁術、なさけわざ（醫術をいふ）。

じんじゅつきほう　神出鬼沒（忽ち見え忽ちかくるることが鬼神のごとく自在なるをいふ。

しんしゅう（名）　眞宗（順德帝の御宇建暦年間に親鸞聖人の開きし教法、淨土眞宗、門徒宗、一向宗、一名にして南方に位す。

しんしゅく（名）　輪廻（みつうちほし二十八宿の一にして西方に位す。

しんしゅく（名）　參宿（からすき二十八宿の一にして東方に位す。

しんしゅく　伸縮（のびちぢみ。

しんじゅせき（名）　眞珠石、たまいし。

しんしゅん　新春、あらたまのはる、はつはる。

しんじゅん（する）〈自〉　浸潤、しみる、ぬれる、うるはふ。

しんじゅん（形）　眞淳、まごころ、生ひ茂れる親。

しんじゅん（副形）　蓁蓁（すすみゆく貌。

しんしん（副）　諄諄（れきれき、眞人當貴の人をいふ。

しんしん（名）　心神、こころ、精神、心神惱亂するなどいふ。

しんじん（名）　神人（幽顯の際事に通ぜし人、十かみとひと、十又せんにん。

しんじん　神人（神人の如きもの、至人。

しんじん（する）〈他〉　審訊、しらべる、ただす。

しんじんしゃ　人臣六邪（具臣、諛臣、姦臣、讒臣、亡國臣。

じんじんばしより（俗）　揭示、しりをはしよること、裾をまくりあげて中程よりかかぐることにて田舍人のなす所といふ。

じんえい　人影、ひとかげ。

しんえき（名）　津液、つばき、つば。

しんえんもんちやう　新右衛門町（東京市日本橋區の町。

しんえん（名）　神苑（神社の境内にある園。

しんえん（名）　深淵、ふかきふち。

しんえん（形）　深遠、ふかくとほき、十おくゆかしき。

じんえん（名）　人烟、ひとやのけふり（人家の炊烟）、十人口。

しんぴ（名）　藥皮、とねりこ、石榴、盆栓、柊皮、葉機（植物。

しんぴつ（名）　震筆（天子の御自筆。

じんぴん（名）　人品、ひとがら、十ひとたること。

しんぴん〔する〕〈自〉　森茂、しげる（樹木が）。

しんぴりたちやう　新森田町（東京市淺草區の町。

しんもつ（名）　遺物、おくりもの、形物。

じんもく　人目、ひとめ。

しんもん（名）　神文（誓約文なり神文をしたためるなどいふ。

しんもん（名）　綿門、ひとめき。

じんもん（する）〈他〉　訊問、とひただす、十又とふ人の健闕などを。

しんもんぜんちやう　新門前町（東京市芝區の町。

しんせい（形名）　神聖、きよき、あやまちなき、十をかすべからざる、十かみ。

しんせい（名）　親切、ねんごろ。

しんせつ（形名）　深雪、みゆき、ふかゆき。

しんせう（名）　秦椒、さんせう、たうがらし（植物）。

しんせふ（する）〈自〉　臣妾、けらいとはしためと。

しんせき（名）　眞跡、にくひつ、直筆、ぢきひつ、かきあと。

しんせき（名）　親戚、ちつづきびと、みうち、兄弟伯叔の如きをいふ。

じんせき（副）　晝夕、よもすがら、終夜。

じんせき　人迹、ひとあと、ひとのとほれるあと。

じんせきこほり　神石郡（備後國の郡の名）。

しんせん（名）　神饌、かみへのそなへもの。

しんせん　神仙、せんにん。

しんせん　深淺、ふかきあさき。

しんせん（形）　新鮮、あざやか、十あたらしき。

しんせん（名）　針線、はりがね。

しんぜん　神前、かみのまへ。

しんせい（名）　心性、こころ、きが、十うまれつき。

しんせい（名）　震星、はし（恒星をいふ。

しんせい　親政（天子が自ら政を親らせらるるをいふ。

しんせい（形）　親征（天子が自ら征伐せらるるをいふ。

しんせい　眞誠、まこと、眞正、眞摯。

しんせい〔する〕〈他〉　新製、いまづくり、あたらしくつくり。

じんせい　振整、ととのふる、をさむる。

じんせい（名）　腎精、せいき。

じんせい（名）　人生、ひとのいのち、十よのなか、このよ。

じんせい　人世、よのなか、人間。

しんせつ（形名）　親切、ねんごろ。

しんせつ　深雪、みゆき、ふかゆき。

しんせう（名）　秦椒、さんせう、たうがらし（植物）。

しんせふ（する）〈自〉　臣妾、けらいとはしためと。

しんせき（名）　震蹟、おそれをののく。

しんせき（名）　親戚、ちつづきびと、みうち、兄弟伯叔の如きをいふ。

じんせき（副）　晝夕、よもすがら、終夜。

じんせき　人迹、ひとあと、ひとのとほれるあと。

じんせきこほり　神石郡（備後國の郡の名）。

しんせん（名）　神饌、かみへのそなへもの。

しんせん　神仙、せんにん。

しんせん　深淺、ふかきあさき。

しんせん（形）　新鮮、あざやか、十あたらしき。

しんせん（名）　針線、はりがね。

しんぜん　神前、かみのまへ。

じんぜん（副）　荏苒、のびのびに、ぐづぐづ。

しんせんえ　鍼線女、あはり。

しんせんきょく　神仙殿、しりきりがうな動物。

しんせんぎまち　新錢座町（東京市芝區の町）。

しんせんしやう（名）　神仙草、さぼてん（蘭）〔王樹の一種にして其花は協めて美麗なり〕。

しんせんふん　神泉苑（京都二條の離大宮の西に在り晉時天子の遊覽の場所。

しんせん〔する〕〈自〉　心酔、あこがれる、ほれこむ、まどふ。

しんせん（形）　深遠、ふかき、深遠。

じんそく（名）　進水式（新船を水におろして祝ぶる式、ふなおろしのしき。

しんすはちやう　新須賀町（東京市小石川區の町）。

しんすがちやう　新須賀町（東京市淺草區の町）。

じんすう　人數、にんずう、ひとかず、人員。

え

エ、衣、江　是は五母韻の一にして五十音中には第一行第四段に位して、けせてねへめえれろの九音を生ずしむ。

エ、惠、會　是は五母韻の一にして五十音合して成れる音にして五十音の中にては第一行卽ち末行の第四段に位す。

え（名）　兄、あに。

え（名）　荏、えごま、亞麻（植物）。

え（名）　綫きのえだ。

え（名）　柄、かち、柯、もつところ。

え（名）　江、みはかは（河の海に據するもの）。

え（名）　錢（えにし（十六夜日記に「如何なるえにかありけん」と見ゆ）。

え（名）　箠、さかもり。

え（名）　繪畫、かきすがた、かきたるけしき、うつせるかたち、圖。

え（名）　食（くわい、あつまり、集會。

え（名）　繰（けがれ、きたなき。

え（名）　餌（貪獸を飼ふ食物）。

え（名）、—ずる（他）　馴、つくれるうた、又ながうる歌を、よむうたみ。

えい（形）　永、ながき。

えい（名）　髮（かげ物體が日光を遮りて扇はすところの現象。

えい（名）　榮、さかえ、十はまれ。

えい（名形）　英、はなぶさ、十すぐれたる、雅南子に「管萬人に勝れたるを英といふ」と見ゆ。

えい（形）　銳、するどき、鋭利。

えい（名）　纓（冠の紐、かむりのを、十簪尾冠の後に垂るるもの。

えい（形）　穎、さとき、かしこき。

えい　曳（力を出す時の叫び聲なり。

えいし　穎姓氏。

えいえい　銳意、こころをこむる、こころをはげます。

えいいつ（する）〈自〉　邁進、ゆきあふれる。

えいいく（名）　寮廣、くろぶだう、やまぶだう、えびかづら（植物）。

えいろく　永祿（日本自二千二百十八年至二千二百二十九年、西洋自一千五百五十八年至一千五百六十九年）年號。

えいはう 永保(日本自一千七百四十一年至一千七百四十三年、西洋自、千〇八十一年至一千〇八十三年)(年號)。
ゑいばう(名) 衛矛、にしきぎ、ひひらぎ(植物)。
えいにん 永仁(日本自一千九百五十三年至一千九百五十八年、西洋自一千二百九十三年至一千二百九十八年)(年號)。
えいへい[する](自) 殪斃、たふれる。
えいへい[する] 翳屏、おほひかくす、翳蔽。
えいざう(名) 影幀、まはりどうろう、走馬燈。
えいち(名形) 叡智、賢聖、聰明(天子にいふ)。
えいち 永治(日本一千八百一年、西洋一千百四十一年、一年にて終る)(年號)。
えいちよう(名) 榮寵、あつきめぐみ(君王の)。
えいちく[する](他) 營築、たてる、きづく、ふしんする、いとなむ。
えいちやう(名) 叡聽(天子の御きき)。
えいちやう 永長(日本一千七百五十六年、西洋一千九十六年、一年にて終る)(年號)。
えいぢゆう[する] 永住、ながくすむ、しぬるまでをる。
えいり(名) 榮利、名利、えのり(名聞利達をいふ)。
えいり(形) 鋭利、するどき。
えいり(名) 贏利、かねまうけ、くぼき。
えいりよ 叡慮(天子のみこころ)、聖旨、聖慮。
えいりやく 永曆(日本紀元一千八百二十年、西洋紀元一千百六十年、一年にて終る)(年號)。
えいわ 英和(英國と日本)。
えいか(名) 詠歌、よみうた、うた。
えいがい(名) 嬰孩、ちのみご。
えいかう(名) 永巷、つぼね(宮中にて妃嬪の居るところ)。

えいかく 鋭角、するどきかど。
えいかん(形) 英悍、たけくつよき。
えいかん 叡感(天子の御感)。
えいよ(名) 榮譽、ほまれ、めいよ。
えいよ(名) 贏餘、あまり、のこり、よぶん。
えいたいばし 永代橋(東京市隅田川の河口に架したる橋)。
えいだう(名) 影堂、みかげだう、みはいだう。
えいたく(名) 永宅、はか、墳墓。
えいだん 叡斷(天子の御さばき)、宸斷。
えいだん(名)、—する(他) 英斷、かしこきとりきはめ、明斷すみやかに決斷する)。
えいれいしゆんまい(形) 英靈俊邁、ひいですぐれる。
えいそ 永祚(日本一千六百四十九年、西洋九百八十九年、一年にて終る)(年號)。
えいそく 盈仄、みつるとかくると(月等の)。
えいぞく[する] 永續、ながくつづく。
えいら(名) 榮螺、さざえ(動物)。
えいらくちやう 永樂町(東京市麴町區の町)。
えいらん(名) 叡覽(天子の御覽)。
えいく(名) 影供(神佛又は古人の肖像などにものを供ふること)。
えいぐわ(名) 榮華、さかえ、はなやかさ。
えいぐわ(名) 映畫(「ヒルム」を見よ)。
えいくわい(形) 翳薈、樹木のおひしげる貌、こんもり、こぐらく。
えいくわう(名) 榮光、榮耀、ほまれ、十てがら。
えいくわん 永觀(日本自一千六百四十三年至一千六百四十四年、西洋自九百八十三年至九百八十四年)(年號)。

えいやう(名) 永陽、はるなが。
えいやう(名) 營養(身體の經營滋養)、榮養。
えいま[する](他) 瑩磨、みがく、とぐ。
えいまい(形) 英邁、すぐれぬきんでたる。
えいまん[する](自) 盈滿、みつる、いつぱいになる。
えいまん 永萬(日本一千八百二十五年、西洋一千百六十五年、一年にて終る)(年號)。
えいけつ(名) 英傑、すぐれたるひと、俊傑。
えいけつ(名) 永訣、ながきわかれ(一生の別れ)。
えいけつ(名) 塋穴、つかあな、はかあな。
えいげふ 英業、すぐれたるわざ、偉業、鴻業、おほいなるいさをし。
えいげふ(名) 營業、すぎはひ、なりはひ、しやうばい。
えいげふぜい 營業稅、しやうばいうんじやう(營業に課する稅金)。
えいけん[する](自) 榮顯、さかえあらはるる。
えいげん(名) 英彥、英俊、すぐれたるひと、ぬきんでたるひと。
[**えいげん**](名) 蠑螈、ゐもり(動物)。
えいふ[する](自) 殪仆、たふれる、十しぬる。
えいぶ(形) 英武、すぐれてつよき(軍事に)。
えいふつ 英佛(イギリスとフランス)。
えいぶつ(名) 詠物(物を詩に作るをいふ)。
えいぶん(名) 叡聞(天子の御耳に入ること)。
えいこ 榮枯、さかゆるかるる、榮衰、浮沈、升降。
えいご(名) 英語、イギリスことば。
えいご(形) 穎悟、さとき、さとりはやき。
えいてつ(形) 英哲、かしこき、さとき。

えいてん[する](自) 殪殄、ほろびたゆる。
えいでん(名) 影殿、おたまや、影堂、みかげだう。
えいさい 叡裁(天子の御裁許)、勅裁。
えいさい 英才、すぐれたるちゑ、穎才。
えいさう(名) 影相、しやしん、肖像。
えいさう[する](他) 塋葬、はうむる、埋葬。
えいさう(名) 詠草、よみうたのしたがき。
えいさん(名) 叡算(帝王の御齡をいふ)、寶算、聖壽。
えいさん(名) 營產、なりはひ、しやうばい。
えいざんとう(名) 映山紅、きりしまつつじ(植物)。
えいざんごけ(名) 叡山苔(植物)。
えいき(名) 鋭氣、するどきこころ、するどきいきほひ。
えいき 盈虧、みちかけ。
えいきよ 盈虛、みちかけ(月の出入及び潮の干滿などに多く用ふ)。
えいきよく 郢曲(今樣風のうたひもの)。
えいきう(副形) 永久、ながく、とこしへに、いつまでも、十とこしながき。
えいきう 永久(日本自一千七百七十三年至一千七百七十七年、西洋自一千百十三年至一千百十七年)(年號)。
えいきう[する](自) 縈糾、まつはる、まとひつく。
えいきやう(名) 影響、さしひびき、十かんくわ。
えいきやう 永享(日本自二千〇八十九年至二千百〇〇年、西洋自一千四百二十九年至一千四百四十年)(年號)。
えいきうちやう 榮久町(東京市淺草區の町)。

えいぎん[する](他) 詠吟、うたふ、ながむる、十くちずさむ。
えいゆ(名) 贏輸、かちまけ、勝負。
えいゆう(名) 英雄、ますらを、すぐれびと。
えいゆう(形) 鋭勇、するどき、いさましき。
えいめい(名) 英名、ほまれ、よきな、美名。
えいし(名) 鋭士、つよきさむらひ。
えいし(名) 叡旨(天子の思召)、叡慮。
えいし(名) 詠史(歷代の事跡を詩に作り歌によむをいふ)。
えいじ(名) 嬰兒、みどりご、ちのみご。
えいしよ(名) 影書、ふごうつし、影寫。
えいしよう 永承(日本自一千七百〇六年至一千七百十二年、西洋自一千〇四十六年至一千〇五十二年)(年號)。
えいじよく 榮辱、ほまれとはぢ。
えいじつ 永日、ながきひ、ながくつづくひ。
えいしや(名) 影寫、かげうつし、影書。
えいしやう 永正(日本自二千百六十四年至二千百八十年、西洋自一千五百〇四年至一千五百二十年)(年號)。
えいしやう(名) 翳障、おほひ、さはり。
えいしゆく 贏縮、のびちぢみ、屈伸。
えいしゆん 永春、はるなが、永陽。
えいしゆん(形) 英俊、英傑、ぬきんですぐれたる。
えいしん 詠進(歌をよみて朝廷などに上ること)。
えいじん(名) 英人、イギリスのひと。
えいえい 曳曳、かけごゑ、さけびごゑ。
えいえい(副形) 英英(白雲の天に横はる貌)。
えいえい(副形) 營營、いそがしく、せくせく。

ゑいゑい[する](他) 營衞、まもる。
えいえう(名) 榮耀、ほまれ、十(俗)おごり。
えいえん 永延(日本自一千六百四十七年至一千六百四十八年、西洋自九百八十七年至九百八十八年)(年號)。
えいゑん(形副) 永遠、とこしなへ、十いやとほながく。
えいびん(形) 鋭敏、はつめい、さとき、敏穎。
えいせい(形) 叡聖、明聖(天子の御德を形容していふ詞)。
えいせい(名) 營生、すぎはひ、なりはひ、生計、活計。
えいせい(副) 永世、いつまでも、ながらく。
えいせい 永生、かぎりなきいのち(天國の人の得る如きもの、耶蘇教にいふところ)。
えいせい(名) 衞星、つきそひぼし、陪星。
えいせい(名) 衞生(身體を養生するをいふ)、攝生、養生、攝養、攝養。
ゑいせい(名) 衞星(遊星に附屬してその周圍を回轉する星)、陪星。
えいせう[する](自) 縈繞、めぐる、まつはる。
えいせん[する](自) 縈旋、とりまく、めぐりまとふ。
えいせん(名) 霙霰、みぞれ。
えいせん(名) 翳扇、かざしあふぎ。
えいせん[する](他) 營繕、つくろふ、ふしんする。
えいせんやく 營繕役、ふしんがかり。
えいする 榮衰、さかゆるとおとろふると、榮枯、盛衰。
えいずる(他) 詠、ながむる、よむ、うたふ(歌を)。

えいずる（自）　映、うつる、てりうつる光が。
ふいん（名）　會陰、陰部と肛門との間。
ふえ（名）　餌、ふさ、ふじき。
えはち　衣鉢、佛徒が其師より傳へらるる佛教の奥義。
ふぼりつけ（名）　畫壁、壁に繪畫を貼り附けたるをいふ。
えはれ（名）　時節、時候あたりの顧慮。
えばら　花原、氏。
えばらごほり　花原郡、武蔵國の郡の名。
ふばむ（自）　喋、ろをついばむ鳥が餌を食ふをいふ。
えはう（名）　吉方、あきのかた、歳徳神の居る方角をいふ、親ひて鬼方と書く。
えはうまゐり（名）　吉方參、正月の初に吉き方角の堂へ往きて神を拜するをいふ。
ふぼし（名）　鳥帽子「えぼし」をみよ。
ふばけ（名）　畫刷毛、畫をかくに用ふる刷毛。
えに（名）　縁、えんこ、ちなみ。
ふにち（名）　會日、佛寺の縁日をいふ。
えにし（名）　縁、ゆかり、えん。
ふにしだ（名）　金雀花、雷爪案、畜の食料及び染料に供す、其花は大に雅致あるものなり、植物。
ふぼし（名）　烏帽子、かぶりもの、古昔貴人は冠袍ならざる時に用ひ、賤者は常に冠冠とせり、位階により形と塗とを異にし種類多し。

［烏帽子の圖］

ふぼしおれや（名）　烏帽子親、ひさいれ、實親、成人の祝をする時に其式を執り行ふ人、加冠者。
えぼしご　烏帽子子、烏帽子親より烏帽子を被らせて貰ふ子。
ふぼん（名）　繪本、畫本、畫冊、畫帖、雑畫、畫いりの本、また畫を集めたる冊子。
ふべさい（名）　食土、北海道渡島の産、小麥粉に似たる白土。
えへん　喨、せきばらいのこゑ。
えぞ　甲乙、きのえきのと、十干、枝幹、天干地支、十日辰、ひのえと、いふ、十支干、枝幹、天干地支、十日辰、ひのえと、東都、東京、江都。
ふぞ　織土、けがれつもり土砂、禁ぜしもの、現去。
えぞはさんばば（名）　姥捨、棄老。
えぞぢころ（名）　薑黄、植物。
えぞぢや（名）　薑黄植物。

［烏帽子の圖］

ふぼしご　烏帽子子、烏帽子親より烏帽子を被らせて貰ふ子。
えぼしご　烏帽子子、烏帽子親より烏帽子を被らせて貰ふ子。
ふぼん（名）　繪本、畫本、畫冊、畫帖、雑畫、畫いりの本、また畫を集めたる冊子。
ふべさい（名）　食土、北海道渡島の産、小麥粉に似たる白土。
えへん　喨、せきばらいのこゑ。
えぞ　甲乙、きのえきのと、十干、枝幹、天干地支、十日辰、ひのえと、いふ、十支干、枝幹、天干地支、十日辰、ひのえと、東都、東京、江都。
ふぞ　織土、けがれつもり土砂、禁ぜしもの、現去。
えぞはさんばば（名）　姥捨、棄老。
えぞぢころ（名）　薑黄、植物。
えぞぢや（名）　薑黄植物。

ふぼしれや（名）　烏帽子親、ひさいれ、實親、成人の祝をする時に其式を執り行ふ人、加冠者。
えぼしご　烏帽子子、烏帽子親より烏帽子を被らせて貰ふ子。
ふぼん（名）　繪本、畫本、畫冊、畫帖、雑畫、畫いりの本、また畫を集めたる冊子。
ふべさい（名）　食土、北海道渡島の産、小麥粉に似たる白土。
えへん　喨、せきばらいのこゑ。
えぞ　甲乙、きのえきのと、十干、枝幹、天干地支、十日辰、ひのえと、いふ、十支干、枝幹、天干地支、十日辰、ひのえと、東都、東京、江都。
ふぞ　織土、けがれつもり土砂、禁ぜしもの、現去。
えぞはさんばば（名）　姥捨、棄老。
えぞぢころ（名）　薑黄、植物。
えぞぢや（名）　薑黄植物。

ふざり（名）　縫取、また、屑児、旗多羅。
ふざりちやう　御鳥町、東京市神田區神田の町。
えぞる（名）　紫、紫色、いろどる、丹青。
えぞがは　江戸川、神田上水の支流にて東京小石川關口町に至りて上水と分派し小日向を過ぎ牛込區と小石川區との間を經て終に神田川に注ぐ。
えぞがはちやう　江戸川町、東京市小石川區の町。
えぞむらさき（名）　江戸紫、東都産、深紫染色にいふ。
ふざく〔する〕（他）　會得、がてんする、さとる。
えぞぶし（名）　江戸節、俗曲の一種にして江戸半太夫に創る、半太夫節。
ふぞろ（名）　雷所、昔し禁中にありて繪の事を掌りしつかさ。
ふぞき（名）　繪戒、あのときあかし。
えち　愛知、氏。
ふちご　越後、北陸道の國名。
えちごちぢみ　愛知郡、近江國の郡の名。
ふちごほり　越後縮、越後國古志郡小千谷またはは十日町邊より産に織り出だす苧布をいふ、縮といふ（ども其實は麻も綿みをちず、夏日の單物を作るに用ひらる）。
ふちぜん　越前、北陸道の國名。
ふちぜんぼり　越前堀、東京市京橋區の地名、表領、ころものくび、衿、襟。
えり（名）　魚籃、釣海中に竹を連ねて魚を捕る仕掛をいふ。
ふりいた（名）　版木、はんぎ、梓。
えりぬく（他）　選拔、えらびぬく。
えりわける（他）　選分、えらびわかつ。

えりかぎり（名）　領飾、えりにはどとすかざりもの、ネクタイ。
えりがみ（名）　襟頸、えりもと。
えりだす（他）　選出、えらみいだす。
えりくづ（名）　襤屑、のこりくづ。
えりくび（名）　領、領首、くびすぢ、ぼんのくぼ。
えりまき（名）　襟巻、領巻、風領、領巾、えりをあたたむるもの。
えりあし（名）　襟足、えりくびのかみのけ。
えりもと（名）　襟元、えりのさき、えりがみ。
えぬまごほり　江沼郡、加賀國の郡の名。
える（他）　得、てきる、うる、十てにいれる、とる、うけける、十まうける。
える（他）　撰、えらぶ、選、擇、揀、「えらむ」を見よ、よる。
ふる（他）　彫、鐫、ほる、もりばめる、きざむ、きざみつける。
えをぢ（名）　伯父、をぢ父の兄。
ふが（名）　垣下、酒宴の席にて主人を助け客を饗應する人。
えがはちやう　江川町、東京市神田區の町。
えかほら（名）　痘小兒の膿の瘡。
ふかほ（名）　笑顔、笑面、わらひがほ、にこにこと笑ひたる顔、につこりしたるかほ。
ふがた（名）　繪形、えすがた、肖像。
えがたき　繼得、うることむづかしき。
えがら　荏柄、氏。
ふから〔する〕《他自》　回向、たむける、さまげる、十をがみをあげる。
ふかりれう（名）　回向料、をがみしろ。
ふかく（他）　畫、描、摸、えにかく、圖、づする。

ふかき（名）　畫家、畫工、畫師、畫匠、えし。
ふかきがひ（名）　履貝、動物。
ふかきずみ（名）　黒石脂、石筆、今いふ鉛筆これなり。
ふた（名）　織多、屑児、屑戸、屑者、おんぼう、十かはは。
えだ　江田、氏。
えだ（名）　枝、朶、條、樹木の傍生、きのえだ。
えだ（名）　肢手足を四の肢といふ。
みたち（名）　役、課役、公役、官府の爲にする使役。
えたがは（名）　枝河、支流、かわのかはれ、ちひさきかは。
えだのはま　枝濱、摂津國の海邊の地。
えだやしろ（名）　支社、まつしや、本社より分れたる社。
えだまめ（名）　枝豆、莢につけるままの豆を醤を入れて煮たるもの）食物。
えださき（名）　朶頭、枝頭、梢頭、こずゑ。
えだじま　江田島、安藝國安藝郡にあり、海軍兵學校の所在地。
えだしんるゐ　支族類、旁系、旁親、支族、とはしがるる、わかれすぢ。
エレキ（名）　電氣、いなびかりのき。
エレキきかい　電氣器械。
ええ（名）　鯛、鰷、物毎魚、動物。
ええ（名）　感現、えみ、笑ひ、にこにこ。
ふそらごと（名）　蓋空言、蓋は實をおほかぶしめて嘲弄の義、空言といふなり。
ふつくわ（名）　越瓜、あきうり、しろうり、植物。
えつげつ　閏月、つきをけみする、つきをとよ、一月

ふづ（名）　韓國國地等の圖をいふ。
えついん〔する〕（自）　嗜飲、むせる、むせぶ。
えつぼ（名）　臍窩、はかまのくぼ。
ふつぼにいる　笑靨入、わらひたのしむ。
えつぼく〔する〕《他》　閲讀、よみあぢはふ。
ふつちう　越中、北陸道の國名。
ふつちうふんぞし（名）　越中褌、みじかきふんどし。
ふつちうじまはち　越中島、東京深川區の西南に當れる島。
ふつちうじまはち　越中島町、東京市深川區の町。
えつり（名）　機、わら屋根の上に編き竹を並べ繩にて結びて其上を葺くもの、又壁の下地をもいふ。
えづるだけ（名）　機竹、えつりのたけ。
ふつわうちく（名）　越王竹、ほそき植物。
ふつた（俗）形）　繊多、屑児、屑者、えた。
ふつたう（名）　越桃、くちなし植物。
えつれう〔する〕　閲了、よみしをはる、よみをはりる。
えつれき（名）　閲歴、けいれき。
ふつらかに（副）　嘲、あざけりわらひながら。
えつらく（名）　悦樂、よろこび。
えつらん〔する〕（他）　閲覧、よみしみる。
ふづく（自）　冥、むかつく、はきたくなる。
ふづく（自）　餅付島獣に云ふ所にて餌を食ひはじめて嗣盛わる義。
えつげつ　閏月、つきをけみする、つきをとよ、一月

をすごすなり。

えつけん〔する〕(他)　閲見、けみしみる。

えつけん(名)—する(自)　閲見、まみゆること。十まみゆる。

えつけん(名形)　越権権限を踰るをいふ、越権の處分など云ふ、をつけん。

えつぶく〔する〕(自)　悦服、よろこびしたがふ。

えつてう(名)　越鳥、越雉、鷦鷯、しぞこ動物。

えつさい(名)　悦説、こだか雀鷹すめたかの雄にして形小なり、雀鷂、善捕鳥、兒誑動物。

えづき(名)　嘔、嘔吐、噦、吐逆、はきけ。

えつきつ(名)　越橘、こけもも、いはもも植物。

エツキスくわうせん(名)　X光線偏透人レンドケンが偶然に發明せし荷光線にして金屬の外は皆透過せしむ。

えつし〔する〕(他)　閲視、けみしみる。

えつし(名)　謁刺、てふだ、なふだ、名刺。

えつしう　越州、越前越中越後をいふ。

えつしや(名)　謁者、對面のとりづきにん。

えづひき(名)　繪圖引、えづかくひと、又えづかくこと。

えつする(自)　謁、まみゆる。

えね(名)　人鹿、鹿衣、胎衣、棉襖袋、仙人衣、混衣母、源池衣、常河東胎兒の顳に蒙れるもの。

えねが(名)　穀雀動物。

えならぬ(形)　艶、殊勝、こころよき、たへなる。

えならず(副)　不言得、えもいはれぬ。

えなん(名)　椎南、とうみ。

えら(名)　鰓、あぎと魚類の呼吸器、顋。

えらむ(他)　擇、選、簡、揀、銓、簡擇、選擇、選校、撰出、擇選、推選、えらぶ、える、よる、えりぬく、えりとる。

えらむけん　選擧權せんきよけん。

えらまれるけん　被選擧權ひせんきよけん。

えらふ(名)　蓋蠅蓋をかける蠅燭。

えらぶ(他)　選、えらむに同じ。

えらぶうねき(名)　蛇婆、うみくちなは、永良部島邊に産す動物。

えらみだす(他)　選出、えりだす。

えらん(名)　風箱、鳳兜花植物。

えらむ(自)　笑、咲、わらふ。

えらむしろ(名)　蓋席、花席、はなござ。

えり(名形)　幼、いとけけき、十をさなご。

えり(名形)　要、かなめ、十だいじなる。

えり(名形)　妖、ばけもの、あやしき。

えり〔する〕(自)　夭、わかじにする。

えりぢ(名)　要路、かなめのみち、重に政府の重職をいふ。

えりばし(名)　衝馬、陽馬、しゆくつぎうま。

えりはい〔する〕(他)　揖拜、うごかす。

えりはい〔する〕(他)　揖拜、はるかにをがむ。

えりばう〔する〕　遙望、はるかにのぞむ。

えりはん(名)　旗板、ふれのわたりいた、あゆみいた。

えりはん(名)　勝祥、こしおひ。

えりべう(副形)　吉祥、はるか、十と訓き。

えりどう(名)　幼童、こども、をさなご。

えりどせい(名)　難産症、かはたれぼし。

えりぢ(名)　要地、かなめのばしよ。

えりぢ(形)　幼稚、をさなき、いとけなき、幼稚。

えりぢよ(名)　幼女、いとけなきむすめ。

えりぢう(形)　幼沖、いとけなき、をさなき帝王などに用ふ。

えりぢう(名)　幼蟲昆蟲類のいまだ十分に成長せざる子蟲。

えりぢえん(名)　幼稚園幼兒を教育する場所。

えりぢやう(名)　要領、要目、かなめのところ、たいせつのぶぶん。

えりぢやく(名)　要略、概要、梗概、えりぬきがき。

えりか〔する〕(他)　謠歌、うたふ。

えりがい(名)　幼孩、をさなきこども。

えりがい(名)　要害、ぜつしよ、險所、堅固之地。

えりかう(名)　要港鎭軍を以て守備する地を要港と名づく、鎭守府條例を見よ。

えりかう(名)　窯窨、やきがま陶器などの。

えりがう(名)　影向、神佛にいふ、出現。

えりがく(名)　幼學、兒童の學問。

えりかみ(名)　腰帋、こしのまはり。

えりかん(名)　腰間、こしのあたり。

えりがん(名)　腰眼、いのめ、巻の穴をいふ。

えりよ(名)　腰輿、こしごし。

えりよう　要用、たいせつのようじ。

えりたい　妖態、なまめかしきすがた。

えりたい(名)　腰帶、こしおび、さいふ。

えりたう(名)　腰刀、こしがたな。

えりたう(名)　要道、かなめのみち。

えりつう(名)　腰痛、こしのいたみ。

えりねん　幼年、いとけなきとしごろ。

えりらく(名)　遷移、くびわ、くびまわり。

えりむ　要務、だいじのつとめ。

えりくわい(名)　妖怪、あやしきもの、ばけもの。

えりくん　幼君、をさなききみ。

えりや(形)　妖冶、うるはしき、うつくしき、なまめかしき。

えりやう〔する〕(自)　綾陽、まひあがる天上に。

えりま　么麼、ちいさき、孱微。

えりま(名)　妖魔、魅魔、まもの。

えりうま(名)　繪馬、神前へ奉納する額をいふ、えま。

えりけつ(名)　要訣、かなめ、おくのて、奥義。

えりけつ(名)　妖孽、わざはひ、もののけ、災禍。

えりげき〔する〕(他)　要撃、さちぶせしてうつ。

えりけん　要件緊要の事件。

えりげん　妖言、つくりごと、ねなしごと。

えりふ(名)　腰布、ふたの、ゆもじ、こしまき。

えりふ(名)　揉夫、にんそく、ぶやくびと。

えりふ(名)　要部肝要の部分。

えりふん(名)　妖氣、まがごと、あやしきいきひと魂氣。

えりぶん　要文、かなめのかきもの。

えりど(名)　窖戸、やきものの、すゑものし。

えりと(名)　搖鼓、ふりつづみ。

えりと(名)　腰鼓、腰前にさしはさむつづみ。

えりごと　要語、たいせつのことば。

えりごふ(名副)　永劫、とこしへ、十いつまでも、永代、永遠。

えりてい　幼帝、をさなきみかど。

えりてう(形)　窕窈、うるはしき、あくゆかしき、たをやかしなやか。

えりてん　要點、かなめのところ、要處。

えりさい(名)　搖祭、猶太の祭物の名、ふりてささげるもの。

えりさつ(名)　天札、わかじにに、はやじにに、夭死、夭折、短命。

えりさつ〔する〕(他)　要殺、まちぶせしてころす。

えりさ(名)　幼氣、いたいけ、をさなきこと。

えりさよ〔する〕(他)　搖籃、ゆりあぐ。

えりさよく(名)　諸曲、うたひ。

えりさう〔する〕(他)　要求、請求、一要むる。

えりさやく(名)　要圖、もおし錢の異名。

えりさふ(形)　要急、緊急、だいじなる。

えりめい(名)　古賀、かすみわたれるそら。

えりめい　幼名、えうみやう、をさなな。

えりみ(名)　妖魅、ばけもの。

えりし　要官、要領、かなめのわね。

えりしよう(名)　要衝、かなめのところ、扼要などの。

えりしう(名)　要舟、およぶふくべ。

えりしや(名)　幼者、幼年者、いとけなきもの。

えりしやう　要慎、つぐのひをもとむる、損害の。

えりしやう(名)　天窮、わかじにに、早世、夭折。

えりしやく(形)　幼弱、としわかき、をさなき。

えりしゆつ　幼主、をさなききみ。

えりしゆつ　妖術、幻術、あやしきはふ、まはふ魔法。

えりえい〔する〕(自)　揺曳、ゆすぶれる、うごく影などが。

えりえう(副形)　夭夭、としわかくみめよき。

えりえう(副)　遙遙、はるばる。

えりえう(副)　杳杳、はるばる。

えりえき(名)　徭役、ぶやく、公使。

えりえん(形)　嬌、あくのつよき食味にいふ所にて妖艶、みやびやか、うつくしき。

えりえ(名)　女裝、婦裳、えご植物。

えりえい(形)　嬌、あくのつよき食味にいふ所にて

芋莖のあく強きが如き味を指す。
ゑぐいも(名) 蘞芋、青芋(植物)。
ゑくぼ(名) 靨、靨輔、微渦、風留 笑ふ時面にあらはるる窪。
ゑぐる(他) 剜、刳、くじる、ほる。
ゑぐすり(名) 畫焼、泑藥、琺瑯(陶器につくる藥)。
ゑやう(名) 繪様、ゑがきぶり。
えやみ(名) 疫病、瘟疫、疫癘、やくびやう。
えやみのかみ 疫神、瘟鬼、疫癘、やくびやうがみ。
えやみぐさ(名) 龍膽、りんどう、陵遊草(植物)。
えま 江馬、江間(氏)。
ゑま(名) 繪馬、うまのがく、がく(神佛に願ほどきのために奉る額をいふ、馬の繪を畫けるもの多きよりして此名あり)、ゑうま。
ゑまだう(名) 繪馬堂(神社に奉納の繪馬即ち額を掛くる爲に設けたる堂)。
ゑまきもの 畫巻物、畫軸、畫巻、ゑのまきもの(繪を畫きたる巻物)。
ゑまふ(自) 笑、わらふ。
ゑまひ(名) 咲、ゑみ、わらひ。
ゑふ(名) 衛府(古昔天子の宮門を守りし武官の屯營をいふ。
ゑふ(自) 醉、さけにうかさるる、よふ、酩酊。
えぶ(名) 閻浮、塵世、浮世、うきよ、このよ。
えぶり(名) 杈(竿の先に板をつけて物を掻きまたは土を割るに便するもの、またぶり、十榔(齒のなき馬鍬。
えぶりこ(名) 落葉松茸、てれめんていこ(植物)。
ゑぶな(名) 撥尾魚、うをのな(動物)。
ゑぶくろ(名) 餌袋(鷹の具。
ゑぶくろ(名) 嗉(魚に云ふ)、ゑぶくろ、十膸(鳥に云ふ)、ものはみ。

ゑふで(名) 畫筆、描筆、ゑかきふで。
ゑふえき(名) 葉腋(葉と莖との間)。
えこ(名) 依怙、かたひいき。
ゑごま(名) 荏子、白蘇草(植物)。
えこじ(俗)(形) 依怙地、かたいぢ。
えこひいき(名) 依怙贔負、偏頗、かたひいき、かたおとし。
えて(名) 得手、すぐれたるところ(己の巧みなる所、長所。
ゑあはせ(名) 繪合(繪の片われを左右に別けて是を合せて其優劣を試むる遊戲)。
えあららぎ(名) 經勅、香菜、蘭香、せやかうさう、かをりぐさ(植物)。
ゑあく(形) 穢惡、けがらはしき。
ゑさ(名) 餌、ゑば(鳥獸蟲魚の食物)。
ゑさがし(名) 畫探、ゑのなぞ(畫を以て物を判じしむるもの、はんじゑ。
ゑざう(名) 繪像、ゑすがた、ゑがけるすがた。
ゑさし(名) 餌差、餌刺、とりさし、竿鎗戸。
えさし 江差(渡島國檜山郡に在る町)。
ゑさしちやう 餌差町(東京市小石川區小石川の町名)。
えさしごほり 江刺郡(陸中國の郡の名)。
えさしごほり 枝幸郡(北見國の郡の名)。
ゑさしざを(名) 黏竿、もちざを(餌刺などのつかふ竿)、竿鎗。
えき(名) 易、うらなひ(支那の占法)、十易經の略。
えき(名) 疫、はやりやみ、流行病。
えき(名) 役、ぶやく、えだち、徭夫。
えき(名) 液、しる、十つゆ。

えき(名) 驛、しゆくまち、宿驛。
えき(名)、-する(他) 益、りかた、ため、十又まうけ、えきをあたへる。
えきいう 益友、ためになるともだち、良朋。
えきろ(名) 驛路、はいまぢ、うまやぢ、おほどほりみち。
えきろのすず 驛路鈴(古昔官用の飛脚が鳴らして通りしもの、驛鈴。
えきば(名) 驛馬、はいま、しゆくつぎうま、傳馬、遞馬。
えきぼさう(名) 益母草、めはじき(植物)。
えきちう(名) 益蟲(人類に利益を與ふる昆蟲)。
えきちやう 驛長、しゆくのをさ、驛傳の長、十停車驛の長。
えきり(名) 疫痢、やくびやうとりびやうと。
えきり 易理(周易の理)。
ゑきぬ(名) 畫絹(畫を書くに用ふる生絹)、生綾。
えきか(名) 驛家、やどや、はたごや。
えきか 腋下、わきのした。
えきれい(名) 疫癘、えやみ、やくびやう。
えきれい(名) 驛鈴、えきろのすず(この圖は讃岐國北村官兵衛所藏)。
えきそつ(名) 役卒、こづかひ、しもべ、よほろ。

【驛鈴の圖】

えきなき 無益、むえき、むやく。
えきう(名) 液雨、しぐれあめ。
えきうん(名) 液雲、しぐれぐも。
えきのき(名) 醫書木、扶桑枝(植物)。

えきくわい(する)(自) 咽噎、むせぶ。
えきくわん(名) 驛館、はたごや、やどや。
えきふ(名) 驛夫(驛に使ふにんぷ)。
えきてい(名) 驛亭、しゆくば、十はたごや。
えきてい(名) 驛程、しゆくのみちのり。
えきてい(名) 驛遞、しゆくつぎ、郵傳。
えきてい(名) 掖庭(支那王宮の兩傍に設けたる室にて便殿に充つ)。
えきさく 易簀 死亡するをいふなり、曾子の故事にもとづく)。
えきき(名) 腋氣、わきが、狐臭。
えきき(名) 疫鬼、えやみのかみ、やくしん(疫神)。
えきぎ(名) 驛妓、めしもり(女郎の類)。
えきし(名) 役使、つかひ、つかはるるもの。
えきしう(名) 腋臭、わきが、わきくさ、狐臭。
えきしう(名) 役囚、あがりもの、めしうど。
えきしや(名) 役車(大八車をいふ)、にぐるま。
えきしや(名) 役者、つかへはたらくもの、十又(牧師を然か名づく)。
えきしや(名) 驛舍、たびはたごや。
えきしや(名) 易者、うらなひしや、卜者。
えきじん(名) 疫神、えやみのかみ、やくびやうがみ、疫鬼。
えきえふ 奕葉、代代(だいだい)、奕世、累代、よよ。
えきひき(名) 卜筮者、うらなひしや。
えきせい 奕世、だいだい、奕葉。
ゑみをふくむ 含笑、わらひをふくむ。
ゑみわれる(自) 罅發、罅坼、坼裂、さける。
ゑみがほ(名) 笑顏、わらひがほ。
ゑみぐり(名) 罅栗、われぐり。
ゑみぐさ(名) 黄精、あまどころ(植物)。

ゑみどゑ(名) 笑聲、わらひごゑ。
えみし 蝦夷(蘇我入鹿の父にして豐浦大臣と稱す)。
えみし(名) 蝦夷、毛人、えぞびと。
ゑし(名) 畫師、彩客、色匠、ゑかき、丹青家。
ゑじ(名) 衛士(左右衛門府の人)。
えじりがは 江尻川(駿河國庵原郡の川)。
えじりまち 江尻町(駿河國庵原郡の町名)。
ゑしやく(俗)(名) 會釋、じぎ、あいさつ、十ひかへめ。
えしま 江島、荏島(氏)。
エジプト 埃及(亞非利加中の國名)。
ゑしき(名) 會式(日蓮宗祖師の法會をいふ、御命講(おめいかう)に同じ。
ゑじき(俗)(名) 餌食、くひもの。
えしもの(名) 姦人、佞人、ねじけもの、かたましきひと。
ええう(名) 榮耀、とみさかえ、はんえい。
えひ(名) 鱝、鯆(動物)。
ゑひ(名) 醉、さけによふこと、よひ。
えび(名) 鑰、鎖、篠籥、えびじやう(門戸の鎖をいふ)。
えび(名) 鰕、蝦、海老(動物)。
えび(名) 葡萄、ぶだう、馬乳(古語)。
えびいろ(名) 葡萄色、ぶだういろ、薄紫。
えびかづら(名) 紫葛、くろぶだう、蘡薁、山葡萄、木綿藤、のぶだう(植物)。
えひから(名) 衣被香、香嚢、にほひぶくろ。
ゑひたふれる(自) 醉倒、さけにゑひてころぶ、ゑひふす。
えびぞめ(名) 葡萄染(薄紫に染めたるをいふ)。

えひついばら(名) 金剛樹、鐵刷、王瓜草、さるとり(植物)。
えびづる(名) 蘡薁、野葡萄(植物)。
ゑひつぶれる(自) 酩酊、ゑひふす。
えびね(名) 偕老根、化偸草(植物)。
えびな 海老名(氏)。
えびら(名) 箙、箶、鞴、歩叉、矢房、胡簶、やなぐひ、やづつ(其形一ならず、此圖なるは出雲の大社の所藏に係る)。

【箙の圖】

えびら(名) 箔、蠶卷(蠶の具、蠶を承けて繭を造らしむるもの)、蠶簿。
えびらはぎ(名) 箙萩(草零陵香の一種)、しなかはぎ(植物)。
えびむし(名) 水蚤、蟠蚓(動物)。
えびのか(名) 裛衣香(衣服にたき籠めたる香の薫りをいふ)。
ゑひくるふ(自) 醉狂、酗、ゑひあばれる、ゑひくるふ。
ゑひふす(自) 醉臥、ゑひたふれる。
えびごし(名) 腰折、まがりごし、まがれるこし。
えびあし(名) 鰕脚、まがりあし、わにあし。
ゑひさまだれる 沈湎、酩酊、爛醉、泥醉、おほいにゑふ。
えびざこ(名) 氷蝦、銀蝦(動物)。
ゑひざめ(名) 醉醒(さけさむること)。
えひめ(名) 兄比賣、兄姫、あねひめ、姉。
えひめけんちやう 愛媛縣廳 伊豫國松山市に設

えひしれる（自）　酔態、ふひてもろかになる、よひてばかになる酒に。

えびじやり（名）　魚鱗、えびがたのじやうま（へ）。

えびも（名）　馬鍬の一種、ものたゝひ（植物）。

えびす（名）　東夷、十豊南方、浪光西方、十欽朔北方、錬馬、番人、やばんじん。

えびす（名）　蔦美須、姫子、福神の名。

えびすかう　恵比須講、太陰暦十月の廿日に商家にて行ふ祭儀。

えびすがみ（名）　奥紙、姫子紙、閃刀紙、たちもれがみ（ふくがみを見よ。

えびすうた（名）　奥曲、ひなぶり、ひなうた。

えびすごに　蕃、奥國、野蛮國。

えびすごさ（名）　洪明（ひつめい）植物。

えびすごすり（名）　奥鍬、しやくやく（植物）。

えびすごころ（名）　奥心、あらあらしきこころ。

えびすごろれ（名）　奥布片、呉服店にて反物の切れ餘れるもの。

えもいはれぬ　不得言、いはんとしてもいふことできぬ。

えもり（名）　柄鏡傘の柄に雨のつたはりもること。

えもの（名）　獲物、得物、獲などしてえたる鳥獣。

えもん（名）　衣文、衣紋、きもの、いしやう。

えもんかけ（名）　衣物掛、きものかけ、衣桁。

えもんごらう（名）　右衛門五郎、青菜を適宜にきりて混じたる味噌汁料理の名。

えんすたれ（名）　畫題、畫をかきたる圖。

えんすけう（名）　耶蘇教、やそけう、基督教。

えん（名）　宴、饗、醼、さかもり。

えん（名）　藪、つばめ（動物）。

えん（名）　様、ふち、えんがは。

えん（する）（他）　嬉のぶる、十おこなふ遊戯の類を。

えん（形）　艶、うつくしきつやつやしき艶麗色など云ふ、十又いろごとの、こひの（男女の色にいふ、例へば艶福、艶名などの如し。

えん（する）　艶、したふ、のぞむ、うらやむ、競義。

えん（名形）　術、あまり、よけい。

えん（名）　窓、むじつのつみ。

えん（形名）　圓、まるき、十又貨幣の名にて、一百錢一兩に當る。

ふん（名）　園、その苑、には。

えんい（名）　裾衣、ふだれかけ。

えんるゐ（名）　炎威、はげしきあつさ。

ふんい（名）　垣衣、しのぶ（植物）。

えんいつ（する）（自）　術退、あふるる、わけ、わけがら。

ふんいつ（名）　綸由、ゆゑよし、わけ、わけがら。

ふんいう（名）　苑園、その、には草花を植ゑる鳥獣を飼ふ所。

えんいう（名）　樂蜀、なぐさむ動物。

えんいうくわい（名）　園遊會、客を招き園内にて遊ぶ會。

えんいん（する）（自）　延引、遅引、のびのびになる、もちくなる。

ふんろ（名）　圓圖、まるき坊主あたま。

ふんろ（名）　遠路、とはきみち、はるばるきみち。

ふんろ　驚驚、しめのとり及さぎ（鷺）の總稱。

ふんろ　天子の歯齒などにいふ、又鵞鑾班ともいふ、即ち行列なり。

えんろう（名）　烟樓、けむりだし。

えんろしふ（名）　醼會汁、にがしは。

えんぱ（名）　蜻蛉、とんぼ、あきつむし、動物。

えんばい（名）　盤皿、きせる盤草をのせ具を盛皿と名づく。

えんばい（名）　醼梅、白梅、うめぼし、うめづけ、十又あんばい。

えんばい（名）　烟煤、ゆえん、とぼしびのすゝ。

えんばい（名）　薔薇、小梅（植物）。

えんばね（名）　縁端、えんさき、えんがはのさき。

えんばう　慶應日本自二千三百三十三年至二千三百四十年、西洋自一千六百七十三年至一千六百八十年（年號。

ふんばう　遠方、とはきところ。

ふんばう　遠邦、とはきくに。

ふんぼう（名）ーする（自）　遠望、みはらし、みはるかす。

ふんばう（名）ーする（他）　盟望、うらみ、うらむ（心に憤るありて恐むるをいふ。

えんはく（する）（他）　薄縛、おはひうつ、せめよする。

ふんはく（名）　圓柏、びやくしん、いぶき（植物）。

えんばく（名）　蕎麥、ちやひきでき、からすむぎ（植物）。

えんばん（形）　厭煩、やさしき、ものやはらか、十たをやか。

ふんばん（名）　喧嘩、くれがた、ひくれ。

ふんばん（名）　煩盤、たばこばん。

えんばん（名）　鉛板、なまりいた活版を紙型に取りてこれに鉛を流しこみて醼版す、これを鉛版といふ、ステロ。

えんにち（俗）（名）　終日、香期、神社佛閣の祭日をいふ。

ふんぼ（名）　園圃、はたけ。

えんぼ（する）（他）　墾墓、したふ、うらやむ、のぞむ。

えんぼう（名）　綾縐、へりぬひ、ふちぬひ。

えんぼり（名）　延褒、ひろき土地などの（。

えんぺい（する）（他）　掩蔽、おはひかくす、掩蔽。

ふんぺい（名）　援兵、たすけのへい、かせい。

えんべん（俗）（名）　綾邊、つづきがら、みより。

えんべんほい（俗）（形）　綾遠、よめいりくちのことはい。

えんさつ（名）　烟突、けむりだし、烟筒。

えんさう（名）　盤簡、けむりだし。

ふんざう（名）　豌豆、のらまめ（植物）。

ふんざうさう（名）　豌豆瘡、まめがさ、ふきでやまひのな、はうさう。

えんさく　延徳日本自二千百四十九年至二千百五十一年、西洋自一千四百八十九年至一千四百九十一年（年號。

ふんさく（する）（他）　忿激、うらみそしる。

えんざく（名）　鉛毒、なまりのどく粉白などに含有せる。

ふんさん　圓頓佛道の大悟を形容する語、すゝながくする時日にも物憶にもいふ。

ふんち（名）　園池、泉水、せんすゐ。

ふんちやう（する）（他）　延長、のばす、ひきのばす。

えんちやう　延長、日本自一千五百八十三年至一千五百九十年、西洋自九百一十三年至九百三十年（年號。

ふんちやうとくい　圓頂黒衣、まるきあたまにすみぞめのころも（僧體をいふ）。

えんり（する）（自他）　厭離、いとひはなるる。

ふんり（する）（名）　遠離、とはくはなす、とほざくる、しりぞくる。

ふんりよ（名）　遠慮、とほきもんばかり、ふかきかんが（、十又（俗）ひかへめ。

えんりつ（名）　蕎梨、ささぐり（植物）。

えんりづ（名）　沿離豆、あぢまめ、種豆（植物）。

えんりう（する）（自）　後留、ひきとめ、留置、逗留。

えんりやく　延暦、日本自一千四百四十二年至一千八百六十五年、西洋自七百八十二年至八百五年（年號。

ふんりん（名）　園林、その、はやし、うえごみ。

えんるゐ（名）　綾類、みより、えんさき。

ふんるゐ　遠類、とほきつづき、うすきしんるゐ。

えんれう　延慶日本一千八百九十九年、西洋一千二百三十九年、一年にて終る（年號。

えんを（する）（他）　厭嫌、いやにもふ、きらひにくむ。

えんをきる　離婚、離縁、離別、夫婦相別るるをいふ。

ふんわう（名）　寃枉、むじつのつみ。

えんわうきう　瑛王宮、冥府をいふ。

えんか（する）（他）　嚥下、のみこむ、のみくだす。

えんか（名）　燈籠、けしき山水の景色。

ふんだい（形）　遠大、とほくおほいなる目的などの。

えんだい（名）　演題、演説の題。

ふんたらうばしや（名）　圓太郎馬車、昔し東京市内を往復せる下等乗合馬車を俗に然か呼べり、蓋し落語家圓太郎が此馬車の御者の講似を露すに巧なるより斯く呼びなせるものならんなどいふ。

えんたう（名）　鉛簞、鉛製品。

ふんち—**えんか**　一〇八

えんか—**えんた**　一〇七

えんたう（名）遠島、配流、遷謫、しまながし。
えんたう（名）鉛刀、たよりのかたな。
えんだう（名）鑓道、むしろをしきたるみち。
ふんだう　沿道、みちぞひの、みちすがら。
えんたく（名）簀具、ふうりん。
えんたん（名）醒醐、にがり、にがしほ。
えんたん（名）檐端、のきば、のきのはな。
えんだん（俗）（名）縁談、縁組の相談。
えんれい（名）薩鈴、ふうりん、簷馬。
えんれい（形）艱難、うるはしき、うつくしき。
えんれい（名）苑囿、延命、延壽、いのちをのばす。
ふんれん（名）練磨、うつくしき、たをやか。
ふんれん（形）戀慕、きらめく小波の。
えんそ（名）鼷鼠、うごろもち動物。
えんそ（名）蓁蕗、つばめのすてき、蓁蕗菜植物。
えんそう（名）檐窓、けむりだし。
ふんそう（名）漏巢、あつまりどころ、よりつどふところ。
えんそく（する）（自）　聖足、あきたる。
えんそく（する）（自）優息、やすむ、休息。
えんそく（する）（他）堰塞、せきとむる、ふさぐ。
ふんそくぞめ（名）遷足留遠方へ旅するを官府より禁ずるをいふ、封足。
ふんつう（する）　圓通、まったくさとりぬく。
えんつう（名）檐頭、けむりだし。
えんづく（俗）（自）鉄付、かたづく、よめいる。
えんねつ（名）炎熱、あつき夏日などの。
えんねん　延年、よはひをのぶる。
えんねん（名）延年菊の異名。

えんら（名）問羅、えんま。
ふんらい（する）　遠来、はるばるきたる、とほくきたる。
えんう（名）檐宇、のき屋の。
えんう　檐雨、きりあめ、きりさめ。
えんのぎやうじや（名）役行者和泉の人にして後小角と稱し葛城山に入りて孔雀明王の法を行ひ後に母を鉢に入れて入唐す。
えんくわ（名）檐穴、はなひ、十のあし。
えんくわ（名）鉛鍋、あしがい。
えんぐわ（する）（自）優臥、ふす、ねころぶ。
ふんくわい（名）宴賀、さかもり。
ふんくわい（名形）圓滑、なめらか、すらすら、をりあひ「ふんこつ」を見よ。
えんくわのち　煙花の地遊女の居る土地などをいふ。
えんくわん（名）檐官、きせる。
えんくわん（名）陽官、寺人じん、宦官。
えんくわん　捐館人の死するをいふ。
えんくわんちく（名）煙管竹、らうたけ植物。
えんぐみ（俗）（名）接組、結親、夫婦の約束。
えんぐん（名）援軍、援兵、すけひの「い、かせいかせ」。

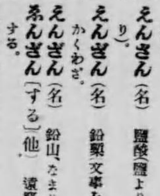
えんまん（する）（自）延蔓、はびこる、前漫、はえひろがる。
ふんまん（形）圓滿、みちみちたる、みちたれる、かけなき。
えんけい　延慶日本自一千九百六十八年至一千九百七十年、西洋自一千三百八年至一千三百十年（年號）。
えんけい（名）蓋京北京ペキンの古稱。
ふんけい（名）遠景、とほくのけしき。
ふんけい（名）圓形、まるきかたち。
ふんげい（名）圓藝、にはつくりのわざ、にはをこしらへるわざ、うえきやのわざ。
ふんげいじゆつ　圓藝術　庭園を造り又は花草木を培養する術をいふ。
えんけふ（名）艶劇、支那芸者の一。
えんげき（名）演劇、しばゐ、演劇。
ふんげき（名）懲撃、なかあしきこと、ひき。
えんけん（名）檐軒、のきば。
えんけん（する）（自）優寒、ふるる、たかぶる、わがままなる。
ふんけん　遠見、とほみ、みはらし。
えんけん（する）　延見、呼びよせて對面する。
えんげん（名）艶言、やさしきことば、愛情をこめたる言語。
えんげん　延元日本自一千九百九十六年至一千九百九十九年、西洋自一千三百三十六年至一千三百三十九年（年號）。
ふんげん（名）圓源、みなもと、もと。
ふんげんたう（名）袁玄道博奕をいふ、ばくち。

えんあい（形）嘔噦、こぐちき、うすぐらき。
えんあい（名）優厭、もや、かすみ。
ふんあい（名）翳薈、をしどり動物。
ふんありばい（名）翳薈梅、ざんばい植物。
ふんありのちぎり　翳薈髪　夫婦間のかたきちぎりてふかきちぎり。
ふんありのふすまく（名）翳薈被、合歓被、夫婦のともねする夜着をいふ。
ふんあう（する）（自）翳薈遊、とりかぶと、いぶすこと。
ふんさ（植物）
えんざ（する）（自）懲嗟、うらみなげく。
えんざ（名）綾坐、まきざ（になる。
ふんざ（名）圓座、わらふだ、圓褥、蒲輪、蒲團、まるきすわりぶとん。
えんさい（名）醃菜、なづけ、つけな。
ふんさい（名）鹽鼈、ねじつのつぶ。
ふんざいが（名）圓座川讃岐圓稜野山中より發する川。
ふんざいがき（名）蓋柿、蓍蓋柿、ゆうたん、かきのたぐひ植物。
えんさつ（する）　掩殺、おほひころす、おそひころす。
ふんざむし（名）馬蚊、馬陸動物。
ふんさう（名）檐草、たばこ植物。
えんさう　掩蔽、よそほひをかくす、猟人の死をいふ。
ふんさう　圓相圓満の相。
えんざう（する）（他）掩蔵、おほひかくす。
えんざう（名）檐蔵、おほひかくす。
えんさうぼん（名）檐草盆、たばこぼん。
えんさうしや（名）艶妓者、だてしや、はでずき、

しやれもの、みなりをかざるひと。
ゑんさくはうぜい　圓製方柄、まるきのみとかくのはぞと物の相合はさる譬に用ふ。
えんさん（名）　旅膳、むさき、むさくるしき、きたなき。
えんさん（名）　鹽酸鹽より取れる酸にて劇薬なり。
えんざん（名）　鉛製文事を譬へて然かいふ、ものかくわざ。
ゑんざん（名）　鉛山、なまりやま、鉛の産する山。
ゑんざん（名）（する）他）　遠竄、遠流、しまながしにする。
ゑんざん　遠山、とはやま、とはきやま遠山の緑とは美人の眉に喩へていふなり。
えんさんとけ（名）　鳥葩植物。
ゑんき（名）　圓規、まるきにやうぎ、ぶんまはし。
ゑんき（名）　冤鬼無實の罪にて死にたる人の靈魂。
えんき（名）　炎氣、はげ、十はとぼり。
えんき（名）　延期、ひのべ。
えんき（名）　鹽基アルカリ酸と合してなれる體。
えんき　緣起、由來、おこり。
えんき　延喜日本自一千五百六十一年至一千五百八十二年（後陽成天皇）。
えんき（俗）（名）　延喜、しらせ（善惡幸不幸の徴）。
えんき（名）　術義、ときあかし、講義、註解。
えんき（名）　演義、實録を敷衍して小説となせるものなどをいふ。
えんきり（俗）（名）　緣切、えんをたつこと　親類及び夫婦の關係きたは男女の交をやむること。
えんきよ（する）（自）　燕居、やすみをる、閑居。

えんきう（形）　延久、ひさしき。
えんきう　延久日本自一千七百二十九年至一千七百三十三年、西洋自一千〇六十九年至一千〇七十三年（後冷泉天皇）。
ゑんきう（名）　怨仇、あたかたき。
えんきやく　延享日本自二千四百〇四年至二千四百七年、西洋自一千七百四十四年至一千七百四十七年（桃園天皇）。
ゑんきやう（名）　遠境、とはきところ、遠鄉。
ゑんきん（名）　捐金、寄附金、喜捨金。
ゑんきん　遠近、とはきちかき、をちこち、あちこち、遠邇を見よ。
ゑんきんはふ（名）　遠近法　繪畫に物象の遠近を寫し出す法をいふ、ペルスペクチヴ、照影法。
ゑんゆう（する）　圓融、まるくとはる圓滑に萬事の行くをいふ。
ゑんゆうてんわう　圓融天皇　人皇第六十四代の帝　紀元一千六百三十年（西洋紀元九百七十年）より一千六百四十年御夢三十三歳にて崩ず。
えんめい　延命、いのちをのぶる、延齡、延壽。
ゑんめい（名）　冤名、なきな、むじつのな。
ゑんめいさう　延命草、ひきおこし（植物）。
えんし（名）　鉛子、たま（鐵砲の）。
えんし（名）　髮子、ほくろ、黑子。
えんし　艷姿、やさすがた、みやびすがた。
えんし（名）　鹽跌、なつとう、納豆。
えんし（する）（自）　旅死、もとぼれじにする、溺死。
えんし（名）　膿脂、經粉、經紋、胭脂　舊支、べに赤く染むる繪具。
ゑんじ（名）　槐、ゑんじゅ、鬼木（植物）。

えんじ（名）　術字　語句の中にあやまり入りたる不用の文字。
ゑんじ（副）　宛爾、さながら、あたかも、現然。
ゑんじ　遠邇、遠近、遠邇、とはきちかき、あちこち、をちこち、遠邇を見よ。
えんじちう（名）　膽脂鳥（紅染料に用ふる鳥）（動物）。
えんじよ（名）　蟲書、けさうぶみいろぶみ、ちぶみ、こひぶみ。



えんしよ（名）　袋着、あつさ、はげしきあつさ。
ゑんしよ　遠處、遠方、とはきところ。
ゑんじよ（名）　援助、すけだち、十たすけ、てつだひ、すけて。
えんじよく（名）　緑痴、ふちかざり。
ゑんじよく（名）　圓轉、まるざぶとん。
えんじつ　炎日、あつきひ、暑日。
えんしり（名）　盤磬、かまどはき、すすはき。
ゑんしり（名）　恩讐、恩怨、うらみ、かたき。
ゑんしりけんばく（名）　寛州磐梶、かたひば、ひめひば（植物）。
えんしくわ（名）　蔴子花、かきつばた（植物）。
えんしや（俗）（名）　錬者、領袖、えんるゐ。
えんしやう（名）　圍繞、したゞ。
えんしやう（名）　掩障、ついたて。
ゑんしやう（名）　讀衆、あほぢ（大空）。
えんじやう（する）（自）　炎上、回祿、やける火事にて堂屋などが。
ゑんじやうじ　圓城寺氏。

えんしやうじゆ（名）　闊生樹（植物）。
えんじやく（名）　燕雀　共に小鳥なり、小人にたとへて用ふ。
えんしふ（する）他）　演習、ならす、けいこする。
えんしふ（する）他）　沿襲、うけつぐ、したがふ、よる、あらためぬ。
えんしふ（する）他）　施藥、おもふ、せめる。
えんじふ（名）　醫汁、にがしはにがり。
えんしふちう（名）　演習地、けいこば。
えんしさい（名）　燕脂菜、つるむらさき（植物）。
えんじゆ　延壽、いのちをのばす、延命。
ゑんじゆ（名）　槐、書聖樹、玉樹（植物）。
ゑんじゆたけ（名）　槐茸、きのこのな（植物）。
えんしゆく　縮縮、のびちぢみ、伸縮。
えんしん（名）　膵脂漿、べにたけ（植物）。
えんしん（する）他）　滲浸、ひたしつける。
えんじん（名）　隣人、隣官、寺人、じじん。
ゑんしんりよく　遠心力、とびはなるるちから（遠轉物の）。
えんえん（副）　煙焰、火焰のさかんなる體。
えんえん（名）　炎焰、ほのほ、火焰。
ゑんゑん（形）　綿綿、やさしき、うるはしき。
ゑんえんくわ　蔦鷹花、たにわたり（植物）。
えんび（名）　蔦尾、冠の後に垂るるものをいふ。
えんび（形）　艷美、はでやか、うつくしき。
えんびか（名）　鳶尾、しやが、いちはつ、胡蝶花（植物）。
えんびつ（名）　蔦尾香、ふぢばかま（植物）。
えんびつぐわ　鉛筆畫　鉛筆にて書きたる畫。

えんびやじり　蔦尾鉄矢の根の一種。
えんびふく（名）　蔦尾服　西洋禮服の名、蔦尾の如く後に長く垂るるにより此名あり。
えんびさう（名）　蘆尾草、こやすぐさ（植物）。
えんびひば（名）　蔦尾杜松、垂柏（植物）。
えんびせい（名）　蔦尾青、こんぎやう、染色の名。
えんびせん（名）　蔦尾箭、かりまたのやじり。
ゑんびもん（名）　轅門、軍門　大將の陣營の門をいふ。
ゑんせい（名）（一する（自）　遠征、とはくゆくこと、十とはくゆく。
ゑんせい（俗）（名）　援勢、かせい、たすけのつはもの。
えんせつくわい（名）　演説會　人を集めて演説すること。
えんせつし（名）　演説士、辯士、えんぜつするひと。
えんせう（名）　焰硝、硝石火藥を製する原料。
えんせき（名）　宴席　酒肴の席をいふ、さかもりの座。
ゑんせん（副）　宛然、さながら、あたかも。
えんす（名）　蔦鳧　雛なり、露清にして、また料理にも用ふ。
えんする（名）　鹽水、しほみづ。
ゑんすゐたい　圓錐體　下圓く廣くして上錐の如く尖れる形。
ゑんずる（自）　怨、うらむる、うちかこつ、十つぶやく。

ひ　と、飛、比、非、十ぴ、備、微、美　是は「ふ」の父音と「い」の母韻と合して成れる音にして五十音の中にては第六行第二段に位す。
ひ（名）　日　太陽をいふ、金扁、陽扁、火輪、陽鳥、燧鳥、朱光、太明、義輿、白駒、赤烏、光生、陽宗、扶光、飛輪、朱明、頭陽、日輪、日天子、唱。㊟此最後の一は唐の武后の製にて則天文字といふ、十また雲間、につちう。
ひ（名）　屁、王門、つぴ。
ひ（名）　火物を焚燒する熱く鰯ゆるもの。
ひ（名）　炊、冰、こほり。
ひ（名）　燬、ともしび、あかり。
ひ（名）　髭、うわ、ろれ。
ひ（名）　樋、かけひ、かけどひ。
ひ　非、あらず、十あしき、十よこしま（語の上に添加する詞、非人、非道の類。
ひ（名形）　緋、あかいろ、十あか　染色の名。
ひ（形）　飛、とぶ。
ひ（代名詞）　彼、かれ、十かの、あの。
ひ（名）　秤、授權繩の具。
ひ（名）　婢、はしため、下女。
ひ（形）　皇、ひくき、十いやしき。
ひ（名形）　鄙、みなか、ひな、みなかの。
ひ（形）　非、うすき、薄。
ひ（名）　貲、つひえ、費用。
ひ（名）　碑、いしぶみ、十石碑。
ひ（名）　碑、ぢぐいし、砥石、砥石。
ひ（とする）（他）　否、ゐなしとする、十いやとする。
ひ（名）（一する（他）　祕、ひみつ　緻密、奥義、十かくす。

くす、ひそかにする。
ひ（名）—する（他）　比、たぐひ、十くちぶる。
ひ（名）　脾　五臓の一、よこし。
ひ（名）　羆（羆獣にして熊に似たり）動物。
ひ（形）　肥、こえたる、ふとりたる。
ひ（する）（他）　批、ひやうする、よしあしをいふ。
ひ（名）　血清　刀創の溝をいふ。
ひ（形）　微、ちひさき、十わづか、かすか。
ひ（形名）　美、うるはしき、うつしき。
ひ（する）（他）　美、はむる、よくいふ、歎美、うるはしくふ。
び（名）　眉、まゆ。
び（する）（自）　娟、びる　尾　る、へつらふ。
び（名）　尾　二十八宿の一　にして東方に在りてあし［図］たれ。
び（名）　鼻、はな。
びい（名）　狻衣、かつぎ。
びい（名）　狩衣、はだごろも。
びい（名）　緋　猩「ひめ」の略轉にて華族大名などの少女を下より呼ぶ稱に用ひたり、「びいさま」。
びい（名）　桿、ひ　機織の用具にして錦絲の絲巻を其中に入れ經絲に透して織るもの。
びる　脾胃、ひとのと。
びる（名）　皮、かはめしがは。
びる（名）　肥蟻、ふたつみつ、むつあし、ひ、よつばね（び動物。
びは（名）　琵　琵琶、胡琴、よつ音のもの（此國なるは黒田家蔵圖　帝室博物館用。

びはい（する）（自）　萎靡、つかれる、よわる。
びはは（名）　脊祖母、ひうば　祖父母の母親。
びはほそに（副）　微弱、よわりはそりて。
びはほふし（名）　琵琶法師、びはひき。
びはぼん（名）　日葡　口にて吹き鳴らす一種の笛。
ひばち（名）　火鉢、火鉢火をいれる鉢。
ひばり（名）　蒿雀、告天子、雲雀、天鵞動物。
ひばりげ（うま）（名）　雲雀毛、黄色の馬。
ひばりし（名）　雲雀鷸動物。
ひばり（名）　鳩尾蛇、（びのたぐひ動視。
ひばら（名）　檜皮、ひのきのかは。
ひばらぶき（形名）　檜皮葺　檜の木の皮にて葺けるをいふ。
ひはつ　被髪、かみをかぶる、ざんぎり。
ひはづ或**ひわづ**（形）　怯弱、臆懦、よわよわしき、なるべかよわき。
ひはづびと（名）　碓人　愚鈍にして白癡なるもの。
ひはな（名）　火花、閃光、燃きたる銃などを打つ時飛び散る閃光。
ひはら（名）　脇腹、わきばら、よこつばら、肚。
ひはら（名）　檜扇氏、琵琶蟷、うつぼがひ動物。
ひはら（する）（他）　俳諧、そしり、そしる。
ひはら（名）　杜松、雞婁　植物。
ひはら（名）　乾婁、ほしば　薬の乾したる葉。
ひはら（名）　枇杷　植物。
ひはら（名）　琵　琵琶、胡琴、よつ音のもの（此國なるは黒田家蔵圖　帝室博物館用。
ひはら（名）　骨祖母、ひうば　祖父母の母親。
ひはら（名）　微弱、よわりはそりて。
ひはら（名）　琵琶法師、びはひき。
ひはら（名）　日葡　口にて吹き鳴らす一種の笛。
ひはら（名）—する（他）　琵琶打　琵琶を彈く人。
ひはら（名）　来亡人（かばうじんを見よ。
ひはら（名）　非望、わはん、あしきくはだて、叛逆。
ひはら（形）　逸薄、うすき、あつからぬ。
ひはら（形）　琵琶法師、びはひき。
ひはら（する）（他）　批駁、ひをうつ。
ひはら（名）　飛鼯、ぶと動物。
ひはら（名）　非望、わはん、あしきくはだて、叛逆。
ひはら（形）　逸薄、やせたる土地にいふ。
ひはら（する）（他）　批駁、ひをうつ。
ひはく（名）　飛白　後漢の蔡邕の創めし書體の一、
ひはく（名）　被髪、かみをかぶる、ざんぎり。
ひはく（名）　被髪、そで　鎧にいふ。
ひはく（形）　非法　無法に同じ。
ひはこ（名）　火焼、ひをいれるはこ。
ひはこ（名）　琵琶湖　近江國に在り一名鳰湖ともいふ、流れて淀川に落つ、周廻七十三里三十一町三十四間の大湖。
ひはごと（名）　口琴、びはぼん。
ひはさみ（名）　火挟、竈頭、鐘鋳の口火を挟む具。
ひはし（名）　火箸、火箸、鋳鉄、降紅、扶提、撥火杖　火を挟む具。
ひはしら（名）　火柱　野に時ありて見ゆる柱の如き火光。
ひはじまのまち　枇杷島町　尾張國西春日井郡の町名。
ひはん（形）　肥胖、こえふとれる。
ひはん（する）（他）　批判、よしあしをいひわかつ、批評。
ひばん（形）　非番　宮廷に當番に非ざる時をいふ。
ひにく（名）　皮肉、かは及にく。
ひにく（名）　贅肉、ものにく。
ひにけに（副）　毎日、日日、ひごとに、ひびに。
ひにん（名）　非人　濫途に彷徨して錢食を人に乞ふもの、こじき、十ゑた、罪人、つみびと。
ひほ（する）（他）　稗補、おぎなふ、たすくる。
ひほ（名）　鋪、ひも、くみいと。
ひほう（する）（他）　繙譯、とりつくろふ、あぎなふ、あらをかくす、かざる。
ひぼく　碑僕、下女下男。

ひいろ（名）　緋色、あかいろ。
ひいば（名）　曾祖母　祖母の母。
ひいどろ（名）　硝子、海水晶、がらす、鉱石。
ひいどろいし（名）　硝子石　越前の産物。
ひいぢぢ（名）　曾祖父　祖父の父。
ひいる（名）　蛾、蠶蛾、かひこのてふ　動物。
ビイル（名）　蒙酒　大麥を主要の原料として醗造したる酒。
ひいれほぢ（名）　火入、火盆、火鉢煙草の火を入れおくもの。
ひいづ（自）　秀、まもる、ぬきんづる。
ひいね（名）　雛　ひひなを見よ。
ひいり（名）　肥潤、かなしみうれへ。
ひいまご（名）　曾孫、ひこ孫の子「しそん」を見よ。
ひいふ　置き、みなか、ひなのまち。
ひいでる（自）　傑出、越出、抜出、ぬきんづる。
ひいでる（形）　秀、英、秀抜、俊秀、秀絶、抜出、ぬきんでたる。
ひいさだぶし　晶負、ちからぞ（助力、愛顧。
ひいさのびきだぶし　晶負引御、晶負して反つて害を與ふるをいふ。
ひいん（名）—する（他）　廃立、ゆるす、允准、許可。
ひいん（する）（自）　避隠、さけかくれる　帝雨手を伸べてはかりし長き。
ひいん（する）（他）　祓隠、ひしがくしにする。
ひいん（名）　廃墟、ひろきには、十又地名、斎明天皇の都したまひし地にして筑前國に在り。
ひろをまち　廣尾町　東京市麻布區の町名。
ひろがる（自）　廣、ひろくなる、十葛地、はびこる。
ひろたか　廣高　仁賢天皇の都したまひし地にして大和國に在り。
ひろらかに（副）　廣大、ひろく、ゆはきく。
ひろう（する）（他）　披露、告白、いひひろめる。
ひろう（名）　飛檀、やとり。
ひろう（形）　早晩、いやしき。
ひろう（俗）（形）　尾籠、みぐるしき、失禮。
ピロウド（名）　天鵞絨、綿毛布　織物の名。
ひろの（名）　廣野、曠野、あらの、原野。
ひろま（名）　廣間、廣室、ひろきざしき。
ひろまへ（名）　廣前、神前、かみのまへ。
ひろまち　廣町　東京市芝區西久保の町名。
ひろげる（他）　繙、披、ひらく、ひもとく　書を、十攤手を、十攤、ふしひろめる、皇張。
ひろふ（他）　拾、捃摭、拾取、拾、采繰、つまみとる、十とりあげる。
ひろぶた（名）　廣蓋　大盆の類。
ひろこうぢまち　麹小路町　東京市下谷區上野の町。
ひろさ（名）　廣袤、廣表、ひろきこと、はば。
ひろさはのいけ　廣澤池　山城國葛野郡に在り。

ひぼけ（名）　鎖埋海栗、貼幹海栗、きのこ（花の紅なる木（植物）。

ひぼし（形）　暴乾、さらしぼし。

ひぼん（する）（自）　飛翻、ひらひらと舞ひとぶこと。

ひぼん（形）　非凡、なみなみ（並）ひととおりならぬこと。

ひへい（名）　皮幣、おくりもの（つかひもの）。

ひへい（する）（自）　披敬、まげてくだること。

ひべつ（名）　皮鞭、かはたび。

ひへき（名）　比壁、となり、比隣、合壁。

ひと（名）　人、人類をいふ。亜是は唐武后が製せし字也、十仁、にんげん。

ひと　費途、ものいり、つひえ、十つかひみち（費用の途即ち金銭を支出すべき目的）。

ひと（名）　夫、妻の夫を呼ぶ詞（古語）。

ひと（名）　他、たにん、ほかのひと。

ひど（名）　肥土、こえつち。

ひどい（俗）（形）　飛廻、いつぱと動物。

ひどい（形）　酷、はなはだしい、十きびしい。

ひといだき（名）　一圓、ひとかかへ。

ひとは　一羽、一翼鳥ひとつをいふ。

ひとはば　一幅布帛に云ふ、二尺二寸を一幅とす。

ひとはり　一弾、ひとつ唯幕八帳または提燈などにいふ。

ひとはだならず　不仁、なへたる癰疽したるをいふ。

ひとばなれ（名）　人嫌、人衆に離れ遠ざかれる所。

ひとばらひ（名）　人払、密事を談ずる為めなどに人を遠く（禁ふこと）。

ひとはり　一張、一列、ひとくみ。

ひとたび（副）　一度、一回。

ひとつ（名）（形）　一、二箇、単一。

ひとつば（名）　石楽、飛刀剣、いはがしは、いはごけ（植物）。

ひとつばし（名）　一本橋、孤橋、独木橋、まるきばし、略して橋。

ひとつばしぞほりまち　一ッ橋通町（東京市神田區の町）。

ひとつばしぐち（名）　一抓、一撮、ひとにぎり。

ひとつがみ　一番鳥の一對。

ひとつがひ　一行、ひとつちなり、一列（雁などの）、一聯、一連一對をいふ。

ひとつき　一炷香を一度たくこと。

ひとつぎ（副）　一度、一回。

ひとつぎ（名）（形）　一、二箇、単一。

ひとつくさ（名）　一本草花などにいふ詞。

ひとつぎぬ　一襲衣服の一揃をいふ。

ひとつがき（名）　人垣、帝王などの墓の周囲に列べて儀衛にあつる人形。

ひとつかしら（名）　髑髏、どくろ。

ひとつかしら　一顕、いつとう猪鹿などを数ふるに用ふる詞。

ひとつかひ（名）　揚帯者、かどわかし。

ひとつかず　人数、人口、口数。

ひとつづま（名）　遊女、うかれめ、いうぢよ。

ひとつざけ（名）　饒酒、こざけ、あまざけ。

ひとつぎり（名）　一面痕、一面切（其形凡八に似て短し唯一面なる故斯く名づく）。

ひとよめぐり　太白神、九魔王神、方伯神（神の名）。

ひとよみ　一升機織の詞。

ひとよしまち　人吉町（肥後國球磨郡の町名）。

ひとよばね　一束、いつそく（紙或は柴にいふ）。

ひとよかり（名）　人狩、ひとかり。

ひとよがひ（名）　人猟、ひとまがひ、ひとちがひ。

ひとよだね（名）　人種、ひとのたね。

ひとよだのみ（名）　人頼、ひとまかせ。

ひとよだま（名）　人魂焼火の現はれたるを死人の魂と誤認していふもの。

ひとよたまひ（名）　副題、そへぐるま。

［一面の鉄］

ひとよたち（名）　座禅（動物）。

ひとよだち（名）　孤松、いつぽんまつ。

ひとよだかり（名）　一掴、ひとつかみ。

ひとよだがひ（名）　人狩、ひとかり。

ひとよだち（名）　人猟、ひとまちがひ、ひとちがひ。

ひとよだち　一ッ木町（東京市赤坂區の町）。

ひとよだち　一片火（一片の木に火を點ずることにて凶兆として忌む、其起りは神代に在り）。

ひとよだち　衆中、人人のなか、一人中。

ひとよだち　一流、ひとつのかは、十一流、ひとつなり、一類、一統、尋常。

ひとよだち（形）　通常、上のつね、尋常。

ひとよだま（名）　人数、ひとのごとき、ひとにかなふ。

ひとよだまひ（名）　副題、そへぐるま。

ひとよたまへ（名）　人前、ひとのまへ、衆前。

ひとよたまへ　一昔十年又は十七年をいふ。

ひとよたむれ　一隊、一列、ひとくみ。

ひとよたむろに（副）　一面、一向、ひたすら。

ひとよだち　鞦韆、うごかさるる。

ひとよだち（する）（自）　影憚、かなしみなげく、いたむ。

ひとよだち（名）　一本、略して橋。

ひとよだちばしぞほりまち　一ッ橋通町（東京市神田區の町）。

ひとよだつかみ　一抓、一撮、ひとにぎり。

ひとよだがひ　一番鳥の一對。

ひとよだつれ　一行、ひとつちなり、一列（雁などの）、一聯、一連一對をいふ。

ひとよだくたり　一行、いちどやう文章にいふ。

ひとよだくさ（名）　人草、蒼生、人民、たみ。

ひとよだくさ　一種、ひとしな、いつぴん、一品。

ひとよだくひいぬ（名）　狂犬、きちがひいぬ、ひとかむいぬ（動物）。

ひとよだや（名）　人家、ひとのいへ、ひとのすまひ、へ。

ひとよだや（名）　園園（囚獄、牢獄、牢舎、獄汗、圄圄、海晏、ちうや。

ひとよだやぎり（名）　逆旅、旅店、はたごや。

ひとよだやづかさ（名）　囚獄司、ちうもりのかしち。

ひとよだやもり（名）　典獄、ちうもり。

ひとよだろ　人扈（居石り國の人にて氏は紺木といひ即ち和歌の聖にして三神の一にあおめらる）。

ひとよなはり　一週間、一七日。

ひとよなはり　一紀、十二年をいふ。

ひとよなへ（名）　人前、ひとのまへ、衆前。

ひとよなへごころ　一間所、一室、ひとつのへや（中古以来の語に離々見ゆ、一間歳（晴ず、一間歳に入るなどいふ）。

ひとよむかし　一昔十年又は十七年をいふ。

ひとはみ　一鎖、一口（鎌にいふ）。

ひとばしら（名）　人柱（橋などを作る時活る人を杭の下に埋むること、足は旋陣などを除くためなりといふ）。

ひとばらひ（名）　一掴、ひとつかみ。

ひとばしごころ　点燈時、あかりつけどき。

ひとへ　一重、ひとかさね、単。

ひとへに（副）　単、偏、ひたすらに。

ひとへぎぬ（名）　単衣、ひとへもの、単衫。

ひとへみ（名）　単身、ひとりみ。

ひとへぼり　一廉いちかう、ひとしきり。

ひとびと（名）　猟人、そだち、おひたち、十又うまれつき、たち、さが、天性、賦性、情性、稟賦、天稟、天賀、稟性。

ひとびとなる（自）　成人、せいじんする、せいちやうする。

ひとびとせ　一年、一歳、終期、終歳、卒歳、旬歳、四歳、春秋。

ひとり　隻、一人、一員、ものれひとり、十独身、孤独、ひとりもの。

ひとり（名）　寡儔、香儔、かうろ。

ひとり（名）　日取、親日、撰日、ひをえらぶこと。

ひとり（形名）　独立、特立、ひとによらぬこと、ただひとりなること。

ひとり　一弾、ひとつ唯幕八帳または提燈などにいふ。

ひとり（名）　鷲儔、香儔、かうろ。

ひとり（名）　日取、親日、撰日、ひをえらぶこと。

ひとり（形名）　独立、特立、ひとによらぬこと、ただひとりなること。

ひとりあんま（名）　独身、単丁妻なき身。

ひとりみかん（名）　火取蜜柑（蜜柑を小口より稍く輪切にし、桜にならべ一日干し、助炭にて炙りたるものにて掛物かけものに用ふ）。

ひとりもの（名）　孤独、父母も妻子もなきもの。

ひとりずまひ　独居、ひとりをること。

ひとる（他）　焙、あぶる、火焙、ひにてやく（料理割烹にいふ、魚をひとるなどいふ）。

ひとを　一尾魚一つを云ふ。

ひとをり　一帖、いちでふ（紙の）。

ひとをめ（する）（自）　人塩面人を見て媚づるをいふ。

ひとわたり（副）　一度、いちど、いつぺん。

ひとわらひ（名）　人笑、ものわらひ（人に笑はるること、わらひぐさ。

ひとかかへ（名）　一圍一抱、ひとまはり（掛手の、ひとだき、一抱。

ひとがた（名）　人形、偶、かたしろ、偶人、にんぎやう、でく。

ひとかたならず（副）　非常、これなみなみならず。

ひとがら（名）　人品、人柄、ひとのやうす、ひととなり。

ひとかけ（名）　人駆、駆走を俗に然かいふ。

ひとかげ（名）　人陰、人影、ひとのかげ。

ひとりごと（名）　獨語、亡語、ひとりにてものをいふこと、ひとりごつこと。

ひとりごつ（自）　獨語、ひとりごとをいふ、亡語上を見よ。

ひとりごろも　独寝、ひとりつまなき身。

ひとりずまひ　孤独、父母も妻子もなきもの。

ひとりぼし（名）　寡儔、香儔、かうろ。

ひとりむし（名）　火蛍、蛍火、蛍光、燐火蟲（動物）。

ひとりぶし（名）　独子、独児、ただひとりのこ、独生子只一人にして他に兄弟なき子なり。

ひさまり（名）　始陬、寅正の第一月をいふ。
ひさまづ（副）　一先、まづもつて。
ひさまね　人真似、他人、ひとをまねること。
ひさます（名）　人升、ますがた。
ひさめけい　日時計、日晷儀、日晷表、日の暮をはかる器。
ひさめなき　無人訣、ひとりしかぬ。
ひさめふり　一振、ひとつ（刀剣一つをいふ、一口。
ひさめふさ　一英、いちりん花の。
ひさめこ（名）　火所、火をたく所。
ひさめころし（名）　人殺、兇犯、兇殺、兇殺人、人を殺すこと又其人。
ひさめこえ（名）　猛聲、かげごと、ろはさ。
ひさめごと（名）　人言、ひとのことば。
ひさめごとに　毎人、おのおのひと。
ひさめごり　一箇、いつこ、ひとつ。
ひさめごみ（名）　人込、雑沓、おしあひ。
ひさめこし　一腰、太刀一對をいふ。
ひさめて　一隊、ひとくみ。
ひさめて　一手、ひとりのて。
ひさめてらふ（自）　俯、はこる、みせびちかす。
ひさめあな　人穴、富士山の三里外に人穴村てふありて其中に怪げなる人穴と呼ばるるものあり。
ひさめあし（名）　人行、ひとのゆきかよひ。
ひさめあひ（名）　人合、ひとつきあひ。
ひさめさわがし（名）　人騒、騒動、さわぎ。
ひさめざま（名）　人品、ひとがら、やうだい、やうす。
ひさめさしゆび（名）　食指、頭指手の第二の指。
ひさめさ　一寸馬の四尺より四尺七寸までのもの。
ひさめさ（名）　檀、檀、ひつぎ、くわんをけ。
ひさめさは（副）　一際、一層、ひとしほ、ひとしかさ。
ひさめさばし（名）　獨木橋、掘梁、まるきばし。
ひさめさり（名）　剣子、殺子、くびきり、死刑に處せられたるものを斬る人。
ひさめさり　一段、ひとぶんしやう。
ひさめさり　一裁、肉にいふ、十一片。
ひさめされ（名）　人間、ひとだま、とぎれ。
ひさめさき（名）　他眼、人目、外見、ひとのきくこと、外聞。
ひさめめぐり（名）　一周、ひとまはり、二周間、十ま た一周年、わかはりどし。
ひさめみ（名）　瞳孔、こまなこ、時眼中の黒珠。
ひさめみち　一逢、皇道、十ひとすぢみち、よみぢ。
ひさめみごくう（名）　人身御供、人牲、人を犠牲にして獣でること。
ひさめじに（名）　人死、ひとのしぬこと。
ひさめしほ（副）　一入、ひときは、一際。
ひさめじち（名）　人質、質子（敵手に質として抑留せらるる人）。
ひさめもさ　一本草木にいふ詞。
ひさめもじ（名）　蔥、ねぎ、和事草、植物。
ひさめもしどき（名）　點燈時、黄昏、薄暮、くれがた。
ひさめせ　一畝（地坪の三十歩を云ふ）。
ひさめすぢに（副）　一筋、ひたすぢに。
ひさめすぎ　仁杉、氏。
ひさめん（する）（自）　避遁、さけのがる、にげかくる。
ひさん（形）　肥膩、こえふとれる。
ひち（名）　泥、どろ、ひぢりど。
ひち（名）　肱、臂、ただむき、かひな。
ひち（名）　鼻持、鼻に生ずる腫物の類。
ひちはり（名）　強項、強梁、がうにやう。
ひちひち（名）　曾祖父、ひまはご、祖父の父。
ひちりこ（名）　海、どろ。
ひちりき（名）　篳篥、管樂、樂器（此圖は倉の津軽人小室庄助藏平重衡卿の愛玩せし物といふ）。
ひちりめん　緋四綸、緋縮緬、あかきちりめん。
ひちかた　土方、氏。
ひちがね（名）　肘金、膝守、開き戸のくるの金具。
ひちかけいす（名）　交椅、脇手椅。
ひちかさ（名）　肘笠（肘を頭上に置して笠の如くにして雨を防ぐこと）。
ひちかさあめ（名）　肘笠雨、驟雨、にはかあめ。
ひちよ　人八、おはくのひと。
ひちよ　美女、うつくしきをんな。
ひちより（名）　比重、物體各箇特有の重量。
ひちた　土田氏。
ひちたまき　銅、くしろ、うでわ。
ひちつぼ　脛鐘、鉄、ひぢがね及つぼ口の。

ひちつき（名）　肘托子、よりかかりだい。
ひちつながざる（名）　緩猴、てながざる動物。
ひちう　微波、すこしのまこと（雑誌の語）。
ひちのたまき（名）　鎖、うでわ。
ひちく（名）　水閘、水門、みづのと、せき。
ひちやちばう　貴長房、後漢の代の人なり仙術をまなび得て白鶴に乗りて空中を飛行し遊びたりといふ。
ひちこ　土子、氏。
ひちき（名）　臂木、臂形の木、杵、櫂、艫、舷木。
ひちゆう（名）　真柱、はなばしら。
ひちしや（名）　狭治者、をさめらるるもの、人民、民。
ひちびち（副）　鼈變魚のはねる聲。
ひり（名形）　非理、無理、みちならぬ、非道。
ひり（形）　鄙俚、いやしき、下なかにみたる。
ひり（する）（自）　疲羸、わかれる。
ひり（名形）　下等、をはり、しり。
ひりよ（名）　比閭、おちざと。
ひりよ（名）　泥濘、尾閭、かはぢち、いりえ、いりうみ字典に曰く潮汐海鳴也、又曰く泄海水出外者也。
ひりよう　飛躍、とぶたつ。
ひりよく（形）　微力、非力、ちからなき、かねなき。
ひりつく（自）　銭痛、ひりひりする、十疼、ちくちくいたむ。
ひりつく（自）　搐搦、ちぢかむ筋が。
ひりつける（他）　散付、うみつける卵などを。
ひりう（名）　龍蜂、みごは。
ひりう（名）　癆瘵、わざはひ。
ひりう（形）　麤留病のもものをいふ、大難、危篤、あぶない。
ひりやう（名）　比量、めかた。
ひりやう（名）　鼻梁、はなすぢ、はなばしら、はなのたかきところ。
びりやう　微涼、すこしくすずし。
ひりしよにん（名）　被裏費人（かはせてがたの下を見よ）、ひらうがきにん。
ひりひり（副）　辛辣はてりひり、比隣、となりつづき、となり。
ひりん（形）　鄙吝、しわい、ものをしみする、けち。
ひりん（する）（他）　漏綸、まつりごとをおこなふ、をさむる、經綸。
ひる（名）　晝、白晝、日夜の反對、十また正午、午時、日中、亭午、ひるのまんなか、むること。
ひる（自）　干、晞、乾、かわく。
ひる（他）　蒸米などを筥にて動かして糠を去るをいふ。
ひる（名）　蛭、蛭、蛭動物。
ひる（名）　蛭蠶の轉の中に居りて足なく兩目ありて茶褐色なるもの（動物）。
ひる（名）　蛾、ひる（蠶の蝶）動物。
ひる（名）　蒜、ひる、にんにく、葫蔞植物。
ひる（他）　放、はなつ、十もちす。
ひるる（名）　乗風、いぼいぼ、いぼ。
ひるいし（名）　晝飯、午餉、ひるめし。
ひるいひ　正午、うまどき晝の十二時。
ひるぎき　晝處、ひるめすひと、ちょつこ、ちもち、ひるがんだう。
ひるぬま　製沼、常陸國茨城郡に在る有名の沼。
ひるぬすびと（名）　晝賊、白盗、ひるとんび、ひるがんだう白盗人のものを盗むもの。
ひるがほ（名）　鼓子花、かつはう、はやひとでき、鹿蔥、美草、旋花、旋腸草、破帰根、天鼠草、植物。
ひるがへる（自）　翻、翻、飄、飄、翩翻、飄飄、飄颻、ひらひらとぶ、なびきまふ、十ひるがへる。
ひるかき（名）　蛭鉤、蛭鉤茶鑵に用ふる具。
ひるがしま　蛭島、豆州田方郡に在り。
ひるがんだう（名）　白晝賊、晝盗、ひるぬすびと、ひるとんび。
ひるつかた　午時、まひるごろ。
ひるぬ（名）　午睡、午眠、晝眠、黒睡、晝寝、ひるね。
ひるなか　亭午、まひる、正午、日中、うまどき晝の十二時。
ひるむ（自）　退縮、あとしさる、十よわる。
ヒルム或フキルム（名）　膏賁をうつすに乾版の代りに用ふる透明の紙狀物、十また映畫、活動寫眞などの盤の撮されたる同上の薄物、英語。
ひるむしろ（名）　蛇床子、蛇床菜、蛇米、蛇粟、やぶじらみ、鳥脚植物。
ひるのれまし（名）　晝間産天鼠の晝の糞産所。
ひるま（名）　晝間、ひるのうち、まひる。
ひるま　猫甸亞細亞洲中の國名。
ひるまへ　晝前、午前、上午、正午に近き正午前の時刻をいふ。
ひるまき（名）　蛭蝋、鋳鐘などの金壊。
ひるげ（名）　午餉、午餉、晝餉、ひるめし。
ひるさがり（名）　下午、ひるすぎ、午後二時頃。

ひるめし（名）　昼飯、ひるげ十二時頃食ふ食物。
ひるるしやなぶつ　毘盧遮那佛、大日如來をいふ。
ひるすぎ（名）　晝過、下午、午後、ひるののち。
ひを（名）　氷魚、こはりうを「ひうを」に同じ。
ひをく（名）　比屋、いへならび、となりつづき。
ひをけ（名）　火桶、ひいれをけ、ひばち。
ひをそん（形）　微遲、まぬるい、なまあつたかい。
ひをんたう（名）　微遲湯、ぬるまゆ。
ひわり（名）　日割、日を割りあてること。
ひわりご（名）　檜破子、檜の木にて作りたる辨當箱。
ひわれる（自）　干破、干尼、乾破、かわきてわれる。
ひか（名）　飛翔、はやふね。
ひか（名）　戀歌、戀慕戀懷して歌ふ歌をいふ。
ひが（名）　飛蛾、ひとりむし動物。
ひが　被我、われわれ、自他。
ひか　微現、すこしのきず。
ひかい（名）　蒸餅、えとどころ植物。
ひがい（名）　被害、損害又は損害を被れる。
ひがいしや（名）　被害者、そこなはれたるひと損害をかは蒙害を被ちされたる人。

ひかはちやう　氷川町、東京市赤坂區の町。
ひかはじんじや　氷川神社、舊國幣北足立郡大宮町に在る官幣大社、又東京市赤坂區に在る府社。
ひかへ（名）　記錄、もと証文、覺書、備忘錄。
ひかへばしら（名）　支柱、つっかひばしら。
ひかへちやう（名）　扣帳、簿記、おぼえちやう。
ひかへる（自）　日額北日の中に歸ること。
ひかへる（他）　控、扣、停、とどむる、十とめおく。
ひかへや（名）　控家、おぼえおき。
ひかへやぐら（名）　控屋別莊の類をいふ。
ひかり（名）　光明、晃、曜、光線、かがやき。
ひかりかげ（名）　光陰、くわういん、ひま、とき、時間。
ひかりもの（名）　流光、流火、夜中光を發つ物。
ひがりほえ（名）　俳聲、おぼえちがひ、誤記、錯誤。
ひがら（名）　俳事、まがりたること、まちがひごと。
ひがらかさ（名）　日傘、大阪新町の大夫囲ち道女お道中の時さしかける傘をいふ。
ひがらめ（名）　醜貌、やぶにらみ。
ひからびる（自）　枯乾、晒乾、乾固、晒乾、かわきはしみ。
ひがむ（自）　偏僻、頗僻、かたよる、まがる。
ひかう（名）　謙退己の卑屈を謙遜していふ。
ひかう〔する〕（自）　比行、ならびあるく。
ひかう〔する〕（他）　披露、披露なとをひらきて聞みあらはすこと。
ひかう〔する〕（他）　賢託、つひやし、ちらす。
ひかう〔する〕（自）　配境、こえたるとやせたると土地が。
ひがう〔する〕（自）　配鯨、かなしみさけぶ。
ひかう（形）　美好、うるはしき、十よき。
ひかう（名）—〔する〕（自）　微行、しのびあるき、しのびてゆく。
ひかう　美設、うるはきさかな、うるはくひもの。
ひかう（名）　備考、かんがへにそなふること。
ひかうき（名）　飛行機、空中を飛行する器械。
ひかうてい（名）　飛行艇、空中を飛行する艇。
ひかうせん（名）　飛行船、空中を飛行する船。
ひがのこ（名）　鉢魔子、あかきし胚。
ひかく〔する〕（他）　比較、くらぶる、たくらぶ（ひかう）に同じ。
ひかく（名）　皮革、かは獣の。
ひがく　貴顯、つひえだか。
ひがくぼちやう　日ケ窪町、東京市麻布區の町。

ひがくし（名）　避陽、日覆、ひよけ。
ひかげ（名）　景、日影、白晷、ひのひかり（白晷紙窓を射る、景が移るなどいふ、日光。
ひかげ（名）　日陰、ひのてらさぬところ、ひのあたらぬかげ日陰に臥ふなどいふ。
ひがげ（名）　日蔭、ひなし（借金などを日延に換ふること。
ひかげちやう　日陰町、東京市芝區の町。
ひかげのかづら（名）　蘿蔓、ひかげくさ、松蘿、松石、女蘿（植物。
ひがこと（名）　僻事、あやまり、十まちがひごと。
ひがごころ（名）　僻心、ひがみごころ、ねぢけごころ。
ひがさ（名）　日傘、涼傘（日光をふせぐ爲めにさすかさ。
ひがさ（名）　檜笠、ひのきのかさ。
ひかさねる　被引、ひかれる、被從。
ひがさねもん（名）　鄙人左衛門（大阪島の内遊郭にて里謡ぬ田舍客を嫌かいふ。
ひかさ（名）　火把、火繩、火矢、火遞火をかく器。
ひがき（名）　檜垣、ひのきのかきね（檜の板を組みて作れる垣。
ひがき　檜垣氏。
ひがめ（名）　僻目、まちがひめ、十ひがやまり。
ひかみみ（名）　僻耳、ききあやまり。
ひがし（名）　東、東方（日の出づる方、うのかた、ひむがし。
ひがしいはせまち　東岩瀬町、越中國上新川郡の町名。

ひがしほうじやう　東坊城氏。
ひがしほんぐわんじ　東本願寺、京都市に在る。
ひがしかぜ（名）　東風、こち、谷風。
ひがしぞの　東園氏。
ひがしなりごほり　東成郡、攝津國の郡の名。
ひがしくぜ　東久世氏。
ひがしやまてんわう　東山天皇、人皇第十三代の帝、紀元二千三百四十七年（西洋紀元一千六百八十七年）より二千三百六十九年迄在位二十三年御して崩ず。
ひがしまち　東町、東京市麻布區、淺草區、及び深川區の町名。
ひがしあふぎばしちやう　東扇橋町、東京市深川區の町。
ひがしもの（名）　歸者、わるもの、心のねぢけもの。
ひがん（名）　脾疳、小兒の病。
ひがん（名）　赤雁、がんのたぐひ動物。
ひがん（名）　彼岸仲春と仲秋に七日宛あり。
ひがん　眉間、まゆのあひだ。
ひがんばな（名）　彼岸花、石蒜植物。
ひがんざくら（名）　彼岸櫻植物。
ひがんする。
ひよろひよろ〔俗〕（副）　片亂片亂、よろよろ。
ひよどり（名）　鵯、ひえどり、白鳥頭、鵯渦動物。
ひよどりじやうご（名）　蜀羊鏡、白英、はろし、馬下紅、蔓草植物。
ひより（名）　日和、はれたるてんき、晴天。

ひよりみ（名）　隨時者勢のよき方に附く人。
ひよわき〔形〕　怎弱、かよわき、よわよわしき。
ひよつこ〔俗〕（副）　偶然、もし。
ひよつこのめん（名）　突口面（馬鹿踊などに用ふる口の尖りて曲れる假面。
ひより（名）　賢見、ものいり、つひえ。
ひより（名）　日雇、日屬、傭員、客作、雇奴、傭工、ひやとひ。
ひよりざり〔俗〕　日屬屋、ひやとひびと。
ひよりざり〔する〕（自）　氷凝、こほる、水が。
ひよりちよ（名）　氷著、つらら、氷柱。
ひよりちゆう（名）　氷柱、つらら。
ひよりりん（名）　氷輪月をいふ。
ひよりかい〔する〕（自）　氷解、こほりのごとくくるゝ、すつぱりとける發聞などがう。
ひよりたん　氷炭、こほりとすみびと「互に相反るの喩にいふ。
ひよりう（名）　冰雨、ひさめ、霰、へう。
ひよりのやま　氷山、但馬國美方郡に在る山、豹山とも又四箇山「しかのせん」ともいふ。
ひよりくわい（名）　氷塊、こほりのかたまり。
ひよりけつ〔する〕　氷結、こほる、水が。
ひよりでう（名）　氷條、つらら、たるひ。
ひよりざん（名）　氷山、こほりのやま。
ひよろつく（俗）（自）　跼蹐、よろぬく、よろよろする。
ひよろひよろ〔俗〕（副）　氷筋、つらら、たるひ。
ひよどり（名）　鵯、ひえどり。
ひよどりきん（名）　氷鏡月の異名。
ひよりめんきやう　氷面鏡、ひもかがみ。
ひようしごと　日屬工、日工、やとはれしごと。

ひよく（形）肥沃。こえたる地味などが。
ひよくどざ（名）比翼座（夏時布團の上に布く蓙の一種。
ひよくてう（名）比翼鳥。南越、けん動物。
ひよけ（名）日除。遮陽。ひあはひ。
ひよけ（名）火除。ひふせぎ。
ひよけがさ（名）日遮笠。夏の日などに被りて日をよける笠。
ひよこ（名）雛。鳧、ひな鳥の子の初めて生れしもの。
ひよめき（名）〔醫〕小兒の頭上の柔かき處。
ひよみ（名）井柄（雄井、北井の一部。
ひよしちやう　日吉町。東京市京橋區の町。
ひよんのき（名）樗蘇子、棄豆、實子木、蚊母樹、蠟樹、いす植物。
ひた（名）引板田案にて引きて鳥をおどす板、なるこ。
ひだ　肥田氏。
ひだ（名）襞。褶衣の重疊せし所、をりたたみ、褶、摺襴。
ひだ　飛騨。東山道の國名。
びた（名）鐚。なべに、鐚錢。
ひたい　否。よしあし。
ひたい（形）非體、失體、ぶしつけ。
ひたい（形）肥大。こえふとれる。
びたい（形）無體。なまめくさま、こぶるさま。
びたい（形）尾大。木よりは末の大なること。
ひたと（副）常陸、東海道の國名。
ひたち（名）肥立。病人の日日に快くなること、また小兒の次第に成長すること。

ひたちれひ（名）常陸帶。往古常陸の國に於て男女の結合を占ふ爲めに鹿島の神前に靡の帶を掛けて祈願せしといふ故に此名あり。
ひだり（名形）左右の反對。
ひだりねは　左縄。ひだりよりのなは。
ひだりまへ　左前。左の衽を下に重ぬること、十又不如意、まづしき、十又あちめ、衰運。
ひだりきき（形）左利。右手よりも左の手のよく利くをいふ。
ひだりもじ　左文字。ひだりがきのもじ。
ひたる（自）襞。つかる水に、ぬれる。
ひだるい（形）肚饑、空腹、ひもじい。
ひたれもむきに（副）一向、ひたすらに、いちづに、ひとむき。
ひだか　日高氏。
ひだか　日高北海道の國名。
ひたたれ（名）直垂（もとは庶人の常服なりしが德川時代には特旨以上の武家の禮服となり、袴は通常長袴を用ふ。

［圖の垂直］

ひだれ（名）廂、しりをのにく鳥の、ひつたれ。
ひだつ（自）肥立。ひびによくなる病人が。
ひたつち（名）直土。ぢべた地の上に籠を敷かざる所をいふ。

びだつてんわう　敏達天皇。人皇第三十代の帝、紀元一千二百三十二年（西洋紀元五百七十二年）より一千二百四十五年迄、在位十四年、正殖紀に御齢六十歳といふ、一說に四十八歳。
ひだら（名）乾大口鳥、ほしだら、ほしたるたち。
ひたり（名）絲糸植物。
ひたり（名）比翼、くみ、連翼、ともがら。
ひだり（形）非道、無道、非理、みちならぬ。
ひだりぐ　火道具、ひうちだうぐ、ひをうつうつは。
ひだく　否哉、いやおうなし、いやかおうか。
ひたくる（自）嘆息、日吁、日曇、ひがおそくなること。
ひたやごもり（名）常室居家にばかり籠りをる。
ひだま（名）火玉、ひのたま、火塊、ひのかたまり。
ひだふ（名）尾鰭、うをのを。
ひだふるに（自）一向、ひたすらに、ひとあもひに、ひとへ（に）しきりに、ひたふるに屬るなどいふ。
ひたてりて（副）常照、てりつづきて、つねにふりて。
ひたき（名）鶲、鶺、とりのな動物。
ひたき（名）火夫、炊夫、炊婦、煽者、火鴛、ひをたくもの。
ひたきに（副）皆黃、みなきいろに。
ひたきぼう（名）燧火棒、ひをかく棒。
ひたきどころ（名）火鴛、ひをたくところ。
ひたきや（名）炬火屋、炬舍、かがりびたくい（へ）に於て往古は燈火の代りに燃火をたきし故に然か名づく。
ひため（名）大雨、もはあめ、甚雨。

ひたみちに（副）一途、一向、ひとすぢに、ひとむきに。
ひたし（名）冷盆紡績の具。
ひたしろ（形）混白、みなしろ、厩幕にいふ。
ひたしもの（名）浸物、藥等をうすて醬油に浸したるもの。
ひたひ（名）額面の上部をいふ。
ひたひがみ（名）額髮、ぬかがみ、まへがみ。
ひたひたと（副）混混、くつつきて、十まぢかく。
ひたひづつみ（名）鎚、鉾、鎚きつかう、かしらづつみ。
ひたひぎは（名）髮際、はえぎは、けのはえたるきは額上の髮の生えたる際をいふ。
ひたひじろ（名）白額馬、鸐屋馬、白頭鳥、ほしつきげ、つきびたひ。
ひたもの（副）混物、もつぱら。
ひたす（他）浸漬、漬、被醂、薄漬、湿、漬、つける（水に）。
ひだす（名）難出、あふいだす。
ひたすら（副）只管、一向、ひたふるに、ひとすぢにもつぱら。
ひたん（する）（他）悲歎、かなしむ、なげく。
びだん（名）美談、よきはなし。
ひれ（名）鰭。はた魚の背の上の鰭、魚鰭、魚鰭。
ひれ（名）領巾。上古婦人が肩上につけたる物をいふ。
ひれい（形）非體、無體、失體、みやなき。
ひれい（名）醜醜、くまばち（動物。
ひれい（名）比例、わりあひ、算術にも比例といふあり。
びれい（形）美麗、うつくしき、うるはしき、みごとなる、きらびやか。
ひれつ（形）卑劣、劣悪、いやしき。
ひれう（名）肥料、こやし。
ひれふす（自）平伏、俯伏、したにふす。
ひれき（名）飛礫、つぶて。
ひれん（名）飛廉、あにのまはき、やはずあさみ、ひれあざみ植物。
ひれんぞく（名）飛廉族、あぶちむし動物。
ひれんじやく（名）被練雀、十二紅、とりのな動物。
ひそ（名）硫素、硫石の元素。
ひそ（名）肥其、こやし。
ひそ（名）鼻祖、元祖、しはじめたるひと。
ひそぞる（自）乾反、かわきそる。
ひそかに（副）密、祕、潜、十部密、隠密、私竊、しのびやかに、かくれて。
ひそむ（自）潜、潜蔵、潜伏、潜匿。
ひそり　肥痩、こえたるとやせたると。
ひそう（名）眉墨、まゆがき。
ひそく（する）（自）吝嗇、ふさがる、うんつたなくある。
ひぞく（名）皁隷、めした、でした。
ひぞくぼんげ（形）皁俗凡下、くだりていやしき、十ぜず。
ひそめに（副）潜、こつそりと、しのびやかに。
ひそめる（他）嘯口を、十墾眉を、ちぢめる。
ひそめる（他）潜、ひくくする、密、ひそひそかたる。
ひそめく（自）綽綽、あかぞめく。
ひそめこ（名）密、ひそひそかたること。
ひそひそ（副）密密、こそこそ、しのびかに。

ひつ（名）暑二十八宿の一にして西方に位す。
ひつ（名）筆、ふで。
ひつ（名）櫃、はこ、棺、匱、匣。

ひづ（名）氷頭、魚膾をいふ、酷鹹などの頭に在る肉の如く骨の細き部分にて鱠なまに入るるに用ふ。
ひつい　筆蕊、ふでのさま、ふでづかひ、ふでのあもむきものを書く看匠などをいふ。
ひついう（する）（自）西遊、ならびあそぶ。
ひつは　西馬、いつぴきのうま、西馬東風に嘶くなどいふ。
ひつばる（他）挙、ひく、ひきあふ。
ひつはつ（名）筆接、筆妾、植物。
ひつばつ（名）必罰、かならずつみする。
ひつばく（名）筆幅、ふでのさや。
ひつばく（する）（自）逼塞、せまる。
ひつばふ（名）筆法、かきかた、ふでづかひ。
ひつさらへる（他）捉捕、拿捕、拿獲、つかまへる。
ひつさう（名）筆筒、ふでたて。
ひつさうさい（名）筆頭菜、つくし植物。
ひつち（名）稽列つたえに自生する蘭。
ひつちく　筆軸、ふでのさく。
ひつちやう（副）必定、かならず。
ひつちゆう　筆跡、筆蹟、筆跡師翁をかきたてて之をせむること。
ひつりよく　筆力、ふでのちから。

ひつり（名）算木、ひちりき。
ひつりき（名）筆軸、ふでや。
ひつりつか（名）筆架、ふでかけ、筆床、筆格、筆架、筆屏。
ひつりつかがみ（名）鳳、ひかがみ。
ひつりつかつぐ（他）引摺、になふ、かふ。
ひつりつかげる（他）收束、ひつくくる。
ひつりつかう（名）筆耕、寫字人、やとはれてものかくひと又そのこと。
ひつりつかく（名）筆格、ふでかけ。
ひつりつがくし（名）筆學師、てならひにしやう。
ひつりつかける（他）引掛、かける。
ひつりつかふ（名）筆匣、ふでばこ。
ひつりつたれ（名）膍、としり、をしし、あぶらしり（鳥の尾の上の肉。
ひつりつたくる（他）奪取、掏、うばひとる。
ひつりつたん（名）筆端、ふでのはし。
ひつりつだん（名）筆談、ふでばなし（互に意思を文字に書きあらはして談話すること。
ひつりつそり（形）密、こっそり、十しづか。
ひつりつそく〔する〕〔自〕遅鈍、ふさがる、さしつまる、十あちぶれてなる。
ひづつ（名）鎧通、鉄、てっぱう。
ひつりつつかむ（他）引攫、引摑、にぎる、とらへる。
ひつりつかまへる（他）引抓、ひっとらへる。
ひづつなます（名）氷頭膾、鮭の頭を用分し「ひづつのみ」を取りて薄くきり大根、うど」などを混ぜたる食物。
ひつらう（名）筆勞、ものかくはねをり、筆勞。

［種一の筆］

ひづむ（自）斜、歪、ゆがむ、まがる、邪、餘仄。
ひつう〔する〕〔自〕悲痛、かなしがいたむ。
ひつぎ（名）未通女、をとめ、きむすめ。
ひつぎ〔自〕乾著、かわきつく。
ひつくり〔俗〕〔副〕喫驚、愕然、ぎゃうてんする顔。
ひつくりかへす〔俗〕〔他〕顛覆、顛倒、くつがへす。
ひつくわく（名）筆畫（字畫に同じ）。
ひつくわん（名）筆管、ふでのつか、ふでさく。
ひつぐら（名）西嗚、つれあひ、十ならび。
ひつけ（名）火付、放火人、ひをはなつひと。
ひづけ（名）日附、日子、月日附。
ひづけ（名）日著（旅行に其日の中に目的の地に達すること。
ひつぶひつぶ　匹夫匹婦、身分のいやしきをとことをんなを。
ひつこ〔俗〕〔形〕跋行、ちんば、十又かたちんば。
ひつこう（名）筆工、ふでや、十ふでつくり。
ひつこし〔俗〕〔名〕移轉、やうつり、わたまし。
ひつてう（名）匹鳥、をしどり動物。
ひつてき〔する〕〔他〕匹敵、ひとしくある。
ひつさらふ（他）抓撈、ひきつかみさる。
ひつさく〔する〕〔他〕筆削（筆前筆前に同じ）。
ひつさげる（他）提挈、提起、提携、たづさへる。
ひつさん（名）筆算、數字を記して運算する算法。
ひつさん（名）筆規、ぶんまはし。
ひつさん〔する〕〔他〕筆記、かきうつし、十かきとる。
ひつし（名）日縫、皇統天子の朝相續をいふ。
ひつし（名）貢、租稅、みつぎもの。

ひつぎ（名）棺、くわん、綿、もはとも、柩。
ひつぎかき（名）柩夫、くわんをひかつぎ。
ひつぎのきみ　儲君、儲后、太子、みつぎのみこ。
ひつぎのみこ　東宮、春宮、まうけのきみ、皇子、皇女、儲貳、天子のよつぎ。
ひつぎぐるま（名）轜車、轜、轜柳車に用ふるくるま。
ひつきやう〔副〕畢竟、つまり、いたるところ。
ひつきめ（名）玉門、陰門、をんなのかくしどころ、つぼ。
ひつめい　畢命、經命、いのちをはる。
ひつめつ　必滅、かならずしぬる。
ひつげみ（名）逝、ゆがみ、まがり。
ひつし　必死、決死、しぬるときはむる。
ひつし（名）未十二支の一。
ひつじいね（名）稻科植物。
ひつしたん（名）嘯支鞭、ちせいた。
ひつじのたけり（名）鬱賁、はまさげ（植物）。
ひつじのあゆみ　羊歩（屠所に曳かるる羊の如く忍れてそろそろ歩むこと。
ひつじぐさ（名）白鮮菜、睡蓮、子午蓮、白鮮皮、地羊鮮（植物）。
ひつしや（名）筆者、かきて、筆作者、つくりて書などの。
ひつしやう（名）筆匠、ふでや、ふでつくり。
ひつじとや（名）羊圏、ひつじのをり。
ひつじさる　未申、坤、西南、方角にいふ。
ひつしゆ（形）必須、必要、なくてならぬ。

ひつじゅ〔する〕〔他〕筆授、かきてさづける。
ひつじゅん（形）必順、なくてならぬ、必要。
ひつじゅつ〔する〕〔他〕筆述、ふでにてかきのぶる（人の卷または書などを筆記して述ぶるをいふ）。
ひつえう（形）必要、なくてならぬ。
ひつせい　畢生、いっしょう、生涯。
ひつせい　畢世、生涯、一生、いのちのかぎり。
ひつせい（名）筆省、ふでたて。
ひつせい（名）筆生、かきやく、かきて、書記、十いうひつ。
ひつせい（名）筆勢、ふでのいきほひ。
ひつせき（名）筆跡、ふでのあと、かきあと、かきもの。
ひつせん（名）筆船、ふでいれ。
ひつぜん（形）必然、かならずしかり。
ひつするめ　必衰、かならずおとろふ。
ひつすり（名）畢婚（僧侶をいふ、比丘梵語。
ひねもす（形）古、老、ふるびたる（ひね米、ひね松などいふ）。
ひねり（名）捻、ねぢり、拈。
ひねりふみ（名）拈文、とうにやうがき、十又ひねりふうじのふみ。
ひねりとま（名）捻獨樂、獨樂の類、ひねりまはすこま。
ひねる（名）拈、撚、捻、捏指にて回はす、摑。
ひねの　日根野氏。
ひねくる〔俗〕〔他〕撚、捻、ひねる。
ひねまつ　古松、怪松、とし（たるまつ。
ひねこめ　老米、陳米、ふるごめ、古米。
ひねもす（副）終日、ひめもそ、一日。
ひねずみ（名）火鼠、動物。

ひねずみのかはごろも（名）火浣布、石綿きたる織の衣。
ひねん　比年、としごと、毎年、としつづき、連年。
ひね（名）鄙、田舍、ゐなか、僻陬。
ひね（名）雛（鳥の子、「ひよこ」を看よ、十ひいな。
ひねは（名）火繩（火をつける繩）。
ひねはづつ（名）火常銃、火繩筒、古風の小銃。
ひねにん雪やう（名）雛人形、三月三日にかざるをいふ。
ひなどり（名）雛鳥、ことり、ひな。
ひなが（名）雛形、横形、圖形、みせほん。
ひなた（名）日向、日南、暗日の光に向ふ處。
ひなた　日向氏。
ひなたぼこり或**ひなたぼこ**（名）負暄（日に向ひて背を煖むるをいふ）、俚諺。
ひなたぐさき（形）日向臭、帶日臭布などを日に乾したる後に噴げば一種特別の臭氣あるを愛ゆるをいふ）。
ひなつ　日夏氏。
ひなづし（名）發酵鮓（ひいわくせい）、火屋。
ひなづた（名）雑錢、つるのこ（動物）。
ひなうた（名）夷曲、ひなぶり、えびすうた。
ひなのうすつぼ（名）山玄參（植物）。
ひなくもり　日之曇（うすひの枕詞）。
ひなげし（名）罌粟花、罌粟人英（植物）。
ひなぶり（名）夷曲、えびすうた、十又ひなかの人形をかざりて遊ぶ式）。
ひなあそび（名）雛遊（三月三日に人形をかざりて遊ぶ式）。

ひなみ（名）日次、日數、ひごと。
ひなし（名）極月晦、みそか。
ひなし〔俗〕〔名〕日猜（借日を等日返すこと）。
ひなしかし（名）日猜貸、ひざにかし。
ひなびと（名）鄙人、ゐなかびと。
ひなびる（自）鄙、ゐなかめく。
ひなびやうぶ（名）雛屏風、雛遊に用ふる屏風。
ひなぜつく（名）讃節句（太陰暦三月の節句すなはち上巳をいふ）。
ひなん〔する〕〔他〕非難、とがめる、なじる。
ひなん　美男、よきをとこ、うるはしきをとこ。
ひなんかづら（名）南五味子、さねかづら、きなかづら植物。
ひなんせき（名）南五味子伊勢、伊豫の方言、さねかづら植物。
ひなた（名）平、たひら。
ひなた（名）枚（すべて薄くひらたきものを數ふるにいふ）。
ひなた（名）鮃、ひうを、氷魚、こはりうを動物。
ひなた（名）鮒魚、ひらこのしろ動物。
ひなた　比良近江國に在る有名の地。
ひなた（名）貸牌、かれ。
ひなた（名）浮帖、招帖、はりふだ。
ひなたる　平井氏。
ひないは　平岩氏。
ひないちん（名）避雷礎、かみなりふせぎ。
ひないそまち　平濱町、常陸國那珂郡の町名。
ひないし（名）平石、ひらたきいし。
ひないし（名）盤石、ひらたきいし。
ひないしん（名）避雷針、かみなりよけ、避雷針。

ひらば（名）平場、平地、ひちち。
ひらばち（名）平鉢、ひらたきはち。
ひらばり（名）平針、外科針の名。
ひらばり（名）平張、假屋、かりや。
ひらに（副）平、ひたすらに。
ひらには（名）平庭、山水の形または築地などを設けず樹木も省きて專ら石組をなして潮溜島嶼の趣を寫せる庭をいふ。
ひらぜまち　平戸町、肥前國北松浦郡の町名。
ひらさみちやう　平富町、東京市深川區の町。
ひらち（名）平地、たひらち。
ひらちりのけん　平塵劍、堂上家の帶ぶる所の劍にて護劍ともいふ。
ひらりと（副）飜然、飛ぶ貌。
ひらりしやらり（俗）（副）　建築、東來西來、右行左行、ぶらぶら、ぶちついて。
ひらを（名）平緒、昔時東帶の時腰より袴の上に垂るる平組の緒、太刀の附屬具。
ひらを　平尾氏。
ひらをか　平岡氏。
ひられしに（副）平推、おしつけて、十むりやりに。
ひらか（名）盤、缶、はとぎ。
ひらが　平賀氏。
ひらかはちやう　平河町、東京市神田區及び麹町區の町。
ひらがはら（名）平瓦、めがはら、牝瓦、下に並べ數く屋根瓦をいい、陰瓦、仰瓦。
ひらかた　枚方、氏。
ひらかたまち　牧方町、河內國北河內郡の町名。
ひらかたまち　平潟町、常陸國多賀郡の町名。

ひらがな（名）平假名、草體の假名、さうがな。
ひらがなへ（名）鐙、あぶみなるなべ。
ひらがま　平釜、ひらたきかま。
ひらかごほり　平鹿郡、羽後國の郡の名。
ひらかべ（名）壁蝨、壁錢、壁錢動物。
ひらたけ（名）蒐蕈、肉蕈植物。
ひらたぶね（名）繪底平くして長き舟、平田舟、淺底舟、ひらたきふね。
ひらたき（形）平坦、區、ひくくたひらか。
ひらつか　平塚、氏、また相模國の地名
ひらつたい（俗）（形）　區、ひらたき、たひらかにひくき。
ひらづつみ（名）　帙、褓、衣襖、ころもづつみ、風呂敷をいふ。
ひらなかちやう　平永町、東京市神田區の町。
ひらなら（すること）（自）　疲勞、つかれるをきばねをなす。
ひらなり（名）　鼻良、かぎたばこ。
ひらぬひ　平打紐、區帳、ひらぐみのさなだ。
ひらのくるま（名）　稻藁の莖を裂きて垂れたる牛車。
ひらの　平野、氏、また山城國の地名。
ひらく（名）　開、太陰曆中段十二直の一にて從來世俗は之に依りて萬事の吉凶を判ぜり開とは斗柄の前に居るなり天の使者險を拒き後を通ず故に開と云ふ。
ひらく（他）（自）　開、開く、あける、十露、披露を、十露盤を、ひらく、登花が、ひらく、開戸零が。

ひらやね　平屋根、平屋造、ひらたきやね。
ひらやなぐひ（名）　平胡簶　此圖は鎌神國住吉社所藏。
ひらまつ　平松、氏。
ひらまつちやう　平松町（東京市日本橋區の町。
ひらまめ（名）　蠶豆（ソラマメ）、あぢまめ植物。
ひらみけなびく（自）　旌旗、まけしりぞく戰に。
ひらめで（名）　葉蘭、石蕗の葉を以て作りたる皿。
ひらめでうち（名）　柏打、拍手、手をひらめて打つこと。
ひらめさは　平澤氏。
ひらめざら（名）　平皿、ひらたきさら。
ひらめざむらひ（名）　平侍、なみのさむらひ。
ひらさん（名）　比良山、近江國滋賀郡琵琶湖の西岸に在る山。
ひらき（名）　衝撞、撞鐘、撞木、ひらぎ、植物。
ひらきはしらら（名）　蕙蓼、ぎぼうしゅ、擬寶珠などの兩方に設くる手摺の柱。
ひらきぞ（名）　開戸、觀にて開閉する戸。
ひらきた（名）　鼈甲、新田、開田、にひはりた、新に開ける田。
ひらきみち（名）　墾道、はりみち、新道をいふ。
ひらめ（名）　比目魚、板魚、鮭魚、王餘魚、竹莢魚（動物。

ひらめ（名）　枚帶、ひろきおび、はばひろきおびやうのもの。
ひらめる（他）　扁、區、ひらたくする。
ひらめかす（他）　閃耀、ふりひらめかす刀劍などを。
ひらめく（自）　閃、ふるひひかる、十髪閃雷電にいふ、十露露雨雪にいふ、十紛披衣袖にいふ、十掲翻に。
ひらしや　紅蓮醜、あかきけぬの。
ひらひ（名）　檜扇の上著。
ひらびと（名）　平人、ただのひと、なみのひと。
ひらひら（副形）　閃閃、ぴかぴか、ひらめく貌。
ひらひら（副）　片片、ひるがへりとぶ貌。
ひらひら　鉋、片海き小片をいふ。
ひらひらさちやう　平久町、東京市深川區の町。
ひらん（する）　披覽、ひらきみる、手紙などを、披見、披閲。
ひらん（する）（自）　靡爛、ただれる、十くさる、腐朽、骸體などが。
ひらん（名）　昆蟲、浮塵風、もはあらし。
ひむろ（名）　氷室、氷院、凌陰、凌室、氷をたくはふる處。
ひむろ（名）　檜柏、松と檜とに似たる樹、檜榲植物。
ひむろぐさ（名）　氷室草、菜の異稱、植物。
ひむろぐら（名）　火蔵、蟄蟆、夏の夜に燈の中に飛び入りて死ぬる蟲、ひとりむし、なつむし、なついづるわし（なつむしの下を見よ。
ひむ　微雨、こさめ。
ひら（名）　眉字、まゆ、まみ、まゆのけ眉字を開くとは喜ぶをいふ。
ひらち（名）　燧、火燧、火を打ち出す具。
ひらちいし（名）　打火石、燧石、火を打ち出す石。
ひらちばこ（名）　燧箱、火を打ち出す具をいるるはこ。
ひうちかど（名）　打火角、ひうちいし。
ひうちがね（名）　火打刀、ひうちがね。
ひうちだうぐ　火打道具、燧具、ひをうちだすもの（火繊及び火打刀など。
ひうちぶくろ（名）　火打嚢、動物。
ひうちぶくろ（名）　燧袋、火を打つ具を入るるふくろ。
ひを（名）　乾魚、干魚、枯魚、ひもの。
ひうが　日向、西海道の國名、また氏。
ひうれい（形）　謠侯、あやまりもとる。
ひうげん（名）　謬言、あやまれることば。
ひうご（名）　謬誤、まちがひ、あやまり。
ひうでん　謬傳、あやまりのつたへ。
ひうぎ（名）　謬偽、まちがひ、あやまり。
ひうきよ　謬擧、まちがひしごと、失擧。
ひうん　微運、薄命、ふしあはせ。
ひの　日野氏、また近江國蒲生郡の地名。
ひの　日野菜を產出す。
ひのいり　火野、山城の地名。
ひのいり　日入、日沒、黄昏、日沒の時刻。
ひのいるいけ　日入、日沒、黄昏、日沒の時刻。
ひのいるたに　咸池、扶桑、日の沒して入る池。
ひのいん　谷、咸池、扶桑、日の沒して入る谷。
ひのえ　火印、火を圖し或は用ふる法。

ひのはかま　縑袴、あかきはかま。
ひのにし　日野西、氏。
ひのべ（名）　延期、延日、期限を延ばすこと。
ひのえ（名）　丁、十干の一、強剛。
ひのれまし（名）　靈御座、ひのござ、天子の御居室をいふ。
ひのかは　葛川、出雲國に在る川、大川ともいふ。
ひのかさ　日暈、ひのかぶるかさ。
ひのかみ　日神、大日靈貴、天照大神。
ひのつじ（名）　日中、ひる、まひる。
ひのねずみ（名）　日鼠、光陰、つきひ。
ひのくち（名）　樋口、閘、水門、河の水をせきとめ或はながしもとす門口、井門。
ひのくるま（名）　火車、火のもゆる車にて死にたる罪人の冥魂を乘せ去るといふもの、世俗之を猶國にたとふ。
ひのくま　日隈、にちぐま、日前神社は紀伊國那賀郡にある官幣大社。
ひのまち　日野町、近江國蒲生郡の町名。
ひのまる（名）　日丸、太陽の形をいふ。
ひのまるのはた　日光旗章、日本の國旗。
ひのこ（名）　火粉、火星、ひのとぶもの。
ひのごろも　綵衣、あかきころも。
ひのて（名）　火手、ひのいきほひ、火事などにいふ。
ひので（名）　日出、日の出づる時刻、十又あさひ、旭、杲、暾、暘。
ひのき（名）　檜、扁柏、植物。
ひのきちやう　檜町、東京市赤坂區の町。
ひのめ（名）　日目、日に見ゆる日の光を云ふ。
ひのみばん（名）　望火夫、ひのみをするひと。

ひのみかぜ（名）皇居（天子の御住所）。
ひのみやぐら（名）望火櫓（火事などを望見する高き建物）。火櫓。
ひのみやびと（名）大官人、ちほうちびと（古昔公卿などを云ふ）。
ひのし（名）火熨斗、鉛鉛、腹斗（火炭（火を入れて衣服等の皺を伸ばす具用ふるもの）。
ひのえ（名）西十干の一、丙兆。
ひのひかり　日光、曦、暉、陽光、春景、陽艶、晴曦、晃。
ひのもと　日本（我國をいふ、やまと、日東、はぬこと）。
ひのものたち（名）火物絹（火にかけたる物を食
ひく（他）引、ひっぱる、十隅、彎弓を、十弾琴話を、十挽、末等を、十捉、摸、曰を、十綾、引裁、製、曳、抽、遅。
ひく（他）銀、きりはなす（鋸にて）。
ひく（名）比丘（梵語にて僧の義、乞士、ひっすう）。
ひく（名）土類、つちなどをもるかご。
ひく（名）養土を盛る具。
ひく〔する〕（自）備具、そなはる。
ひくに（名）比丘尼、あま、女僧、尼、蓮尼。
ひくにごほり　美濃郡（後志國の郡の名）。
ひぐち　樋口（氏）。
ひぐち（名）火口、火門（鐘砲の口をいふ、十また（しちりん）などの下口にて火をあふぐ處。
ひくるる　日暮（日晩、ひがいる、日沒）。
ひくわ（名）飛礫、ふいのわざはひ、不慮の災。
ひくわ（名）飛花、とぶはな、ちるはな。
ひくわい〔する〕（自）避廻、さけめぐる、よける、遁避。

ひくわい（名）批廻（官等より出だす書狀）。
ひくわつ（名）蹶鼈（きなぐる（動物）。
ひくわう　闘荒凶年の用意をすること）。
ひぐわし（名）乾菓子、かわきたるくわし。
ひくわん（名）稗官、したやく、微官。
ひくわん　皐官、ひくきやく、微官。
ひぐわん（名）美觀、みごとのみえ、うるはしきみえ。
ひぐわん（名）微闇人、れがはれにん（闇人に訴へられたる人なり）でわんにんを見よ）。
ひぐわんにん（名）
ひぐれ（名）暖、迫暖、薄暮、晩景、曛黒、ひのいり、たそがれ、暖昧、ゆふぐれ。
ひくつ（形）皐屈、皐劣、皐怯、いやしき、十わくちのない。
ひくづ（名）醫腑（醫者を云ふ、藪で出したる屑物）。
ひくらうど（名）非藏人（藏人首六位の人の中にて良家の子の選ばれて殿上に伺候せしもの）。
ひぐらし　日夜（氏）。
ひぐらし（名）蜩、茅蜩、暖蜩、寒蟬、樂羣動（蝉物）。

ひぐらしのさと　日暮里（東京上野の後なる名勝の地即ち日暮里村（につぽりむら）の所在地）。
ひやう（する）（自）飛颺、ひるがへりとぶ、揚、とびあがる。
ひやう（する）（自）飛
ひやう（する）（自）兵卒（將棋の駒の歩）。
ひやう（名）誹、しなさだめ。
ひやう（名）鋲（平頭釘（頭の平かなる釘）。
ひやう（名）微塵、すこしのきわ。
ひやういん（名）病因（病氣の源因）。
ひやういん（名）病院（病人を治療する爲めに設

ひやうえ（名）兵略（いりやく）、軍策、いくさのはかりごと。
ひやうおれこし（名）平起（詩作の體格にいふ所にて起句の第二字目に平聲の字を用ふるをいふ、仄起に對す）。
ひやうか（名）〔する〕　病家（患者のある家）。
ひやうかにん（名）　醫僧人、ねづもり（ねずみを
ひやうかん　病間、やまひのみもと、病因。
ひやうがん（名）病眼、やみめ、やむめ。
ひやうたい（名）病體、やまひのからだ、十又やまひのあるさま。
ひやうそく　平仄（漢字を平上去入の四聲に分ち平聲を平とし上去入聲を仄とす）。
ひやうそく（名）乘燭（かんてう、柄燭）。
ひやうなり（名）病像、やみわづらひ、やまひのなやみ。
ひやうなん（名）病難、やまひのなやみ、病苦。
ひやうらう（名）兵粮、兵粮、軍中の糧米をいふ）。
ひやうらう（名）病勞、やみつかれ。
ひやうらうばん（名）兵糧飯（堅く焼きたる長方形のパン、ビスケットのたぐひ）。
ひやうらうまい（名）兵糧米、兵粮として貯へもく米。
ひやうらうめし（名）兵糧攻（敵の糧道を絶ちて兵糧を盡きさせる攻め方）。
ひやうらん（名）兵亂、いくさのみだれ、（いちん。

ひやうりやく（名）　兵略（いりやく）、軍策、いくさのはかりごと。
ひやうれつ（名）　病苦、やまひのくるしみ。
ひやうろくわん（名）　病患、やまひ、わづらひ。
ひやうろくわんなき（名）　未央柳、金絲桃、美容柳（植物）。
ひやうろくやく（名）　病厄、やまひのわざはひ、わづらひなやみ。
ひやうろけつ〔する〕　醫決、はかりさだむる（醫師して決定するをいふ。
ひやうろげん（名）　病源、やまひのみなもと、病因。
ひやうろふ（名）　兵部（軍事を掌る官署。
ひやうろふ（名）　醫癒、やみをんな。
ひやうろふたらげ　屏風（醫師診察の圖と鍼灸圖とに跨れる山）。
ひやうろふしやう　兵部省（八省の一にして軍務を統轄やし官署、唐の「いぶ」に當る）。
ひやうろこ（名）　醫佐（ねづもり、ひやうか。
ひやうろこ（名）　病後、やみあがり、やまひのち。
ひやうろこまげ（名）　兵頭醫婦人の結髪の一、（記設置す）。
ひやうろこんちやう　兵庫寮（攝津國神戸市）。
ひやうろてん（名）　病根、やまひのもと。
ひやうろてん（名）　醫點（鍼灸を行ふ要點、また醫と點と。
ひやうろさく（名）　兵策、軍謀、いくさのはかりごと。
ひやうろき（名）　病氣、やまひ、疾病。
ひやうろきよ（名）　平鳥、ひらめ（動物）。
ひやうろし（名）　病死、やみじに（病氣にて死ぬること）。

ひやうしや（名）評者、よしあしをいふひと、批評者、十ひやうばんするひと。
ひやうしや（名）病者、病人、やむひと。
ひやうしやう（名）病症、やまひのたち、やまひのありさま。
ひやうしやう（名）病床、やまひのとこ、病人の臥す牀、病褥。
ひやうじやう（名）病狀、やうだい、やまひのありさま。
ひやうじやうきよにふ　平上去入四聲の一。
ひやうじん（名）兵刃、いくさのうつは、兵器。
ひやうしん　病身、よわきからだ、やまひのあるみ。
ひやうせん（名）兵船、いくさぶね、軍艦。
ひやうすかぶら　兵主蕪　近江國野洲郡より産出する蕪菁、植物。
ひやうすじま　兵主縞布　近江國野洲郡より出づる織物。
ピヤノホルテ（名）大洋琴（英語）。
ひやく（名形）百、もも、十を十よせたる數。
ひやく（名）非役非職に同じ、やくなし。
ひやく（名）粉藥、かくしぐすり、粉方。
ひやくろくじ（名）百祿兒、くひそめ、ももか、ももかのいはひ。
ひやくばう　百方、いろいろ、てをかへしなをかへ（百方設謀する或は百方讒を構へるなどいふ。
ひやくばん　百般、諸般、もろもろ、いろいろ、さまざま。
ひやくにちせき（名）百日欸（小兒などが多くわづらふ病、ながぜき。
ひやくほつ（名）白樺、はつす、樺子。
ひやくどまわり（名）百度參、ももたびまわり（百たび往來して神佛に祈ること、おひやくど。
ひやくりやうざう（名）百機藏、にふだうかづち（植物。
ひやくりやうきん（名）百兩金、からたちばな、はなたちばな（植物。
ひやくかにち（名）百箇日、人の死後の百日目をいふ。
ひやくがう（名）白毫（佛の眉間の光明をいふ。
ひやくがふくわ（名）百合花、ゆり（植物。
ひやくたい　百體、全身をいふ、からだぜう。
ひやくたん（名）白檀、香檀、左旋柏、白栴檀（印度などに生ずる香木の名）植物。
ひやくまん　百萬、一萬を一百あはせたる數。
ひやくまんべん（名）百萬遍、念佛をあまたたびとなへ（唱ふる會。
ひやくけい　百計、もろもろのはかりごと。
ひやくふ（名）百敷、ももしき、朝廷堂上百官の坐席をいふ。
ひやくぶとん（名）百圓根、野天門冬、くさかづち、はどづち、きにかくし（植物。
ひやくぶし（名）白附子（植物。
ひやくぶつ（名）白狐、しろぎつね（動物。
ひやくぶつこたい　白虎隊、戊辰會津征討の時會津藩の少年を組織したる隊の名なり、此中戰場に打死せざりし十六人の者は飯盛山に登りて自刃をなしたりといふ。
ひやくぶん（名）百般、もろもろのたなつもの。
ひやくさう（名）百草、もろもろのくさ。
ひやくさう（名）百姓、たみ、のうみん。
ひやくざう（名）白魚、しろきざう（動物）。
ひやくさんしゆ（名）百散酒、諸の藥に藏ひ飲む屠蘇。
ひやくき　百官、百僚百官をいふ、ものつかさ。
ひやくきやぎやう　百鬼夜行、夜間諸の妖魔が出で歩くこと。
ひやくみ　百味、いろいろのあぢはひ。
ひやくみのおんじき　百味飲食、數多き飲食物をいふ。
ひやくみやくとん（名）百眼根、みやこぐさ、えびしぐさ、こがねばな（植物。
ひやくめ　百事、もろもろのこと。
ひやくじつこう（名）百日紅、柏葉楸、雲薊花、さるすべり（植物。
ひやくし（名）百姓、たみくさ、十農夫。
ひやくしやう（名）百官、もものつかさ、百僚。
ひやくしゆう（名）百萬遍、念佛をあまたたびとなへ（唱ふる會。

ひやくしん（名）柏槙、檜柏、いぶき（植物。
ひやくしん（名）百會（ゐたまの中央部。
ひやくえ（名）白衣、しろごろも、きながし天子の御常服の類にもいふ。
ひやくえふ（名）百葉、ひやくひろ（腹内の腸胃。はちわた。
〔ひやくひやく〕（名）百百、もと（氏。
ひやくせつてう（名）百舌鳥、もず（動物。
ひやくや　檜山氏。
ひやくやか（形）冷、寒冷、つめたき。
ひやくまきち　檜山町　羽後國山本郡の町名。
ひやくあせ（名）冷汗、つめたきあせ。
ひやくざけ　冷酒、つめたいさけ。
ひやくめし（名）冷飯、つめたくなりたるめし、ちやづけ。
ひやしもの（名）冷物　夏の料理に出す素麺豆腐の如き冷きものをいふ。
ひやす（他）冷、つめたくする。
ひま（名）間暇、間隙、餘暇、ひのはし、十すきま。
ひま（名）蓖麻、たうごま、からえ（植物。
ひまいる（自）隙入、ひまどる。
ひまはり（名）向日葵、西番葵、丈菊、ひぐるま、うがあふひ（植物。
ひまどる（自）隙取、間取、てまどる、費時。
ひまち（名）日待（日祭（旭日を拜むこと）、俟間、俟暇、ひまをもちふ。
ひまつぶす　出暇、免職、いとまをやる。
ひまつ（名）飛沫、とびもるあわ、とばしり（水の細かになりて飛ぶもの、とばちり。
ひまらやさん　喜馬拉山　世界第一の高山ともいふべき印度北方の山、雪山。
ひまわり　向日葵（植物）、丈菊、ひぐるま。
ひまん（名）隙慢、はびこる（大水などが、ふせき印度北方の山、雪山。
ひまん（形）蔓延、うるはしき、麗麗。
ひまん（する）（自）瀰漫、はびこること。
ひまんご（名）智識、ひまご、ひこ。
ひまんこ（名）智識、ひまご、ひこ。
ひけ（俗）（名）引氣、まけ、まけること。
ひけ（名）減價錢などに幾分の減損を來たすをいふ、十又わりびけ。
ひげ（名）髭口の上にある毛をいふ、十鬚頤にある毛。
ひげ（する）（自）卑下、（へりくだる、謙遜、辭讓、辭退。
ひけいたべ　引田部氏。
ひけつ（する）（自）祕結、とづる、かたまる、大便が、けつしも。
ひけつ（名）祕訣、口訣、おくぎ、くでん。
ひけつ（する）（他自）否決、可とせぬをいふ、いけないときまる、排斥。
ひけらかして（名）誇示者、みせびらかすもの。
ひけらかす（他）誇耀、誇示、みせびらかす、十てちふ。
ひけう（する）（他）比較、くらべかんがへる。
ひげのちりをはらふ　揣鬚遜侯（權面從しで容悅を求むるをいふ、おべつかつかふ。
ひけふ（形）卑法、憶劇にして賤病なるをいふ。
ひげふ　卑劣、いやしきわざ、賤業。
ひげと或**ひげかご**（名）鬚籠　鬚をいだして編める籠をいふ。
ひげき（名）悲劇（悲哀慘歎の演劇、かなしきしばゐ、十悲哀の出來ごと、十話劇。
ひげき（名）飛檄、いそぎのつけぶみ、飛報。
ひげき（する）（他）馳檄、おひうつ（敵兵の逃走するを、
ひけし（名）火消、消防夫　火事に戰くひと、敢火夫。
ひけしつぼ（名）消火壺、ひをけすつぼ。
ひけもの（名）披物、ながれもの（貰などの）。
ひけすぎる（自）引過、ねしづまる（夜深けて）。
ひけん　比肩、かたをならぶる。
ひけん（する）（他）披見、ひらきみる（人の書狀などを）披閲。
ひけん　卑見、愚見、陋見、管見、鄙見（自分の意見を謙辭する詞。

ひけん〔する〕(自)　疲倦、つかれうむ。
ひけん〔する〕(他)　遮蔽、いみさけること。きちひさけること。
ひげん(名)　批言批判に同じ。
ひげん(名)　鄙諺、いやしきことわざ。
ひげんかうはん　非現行犯　現行犯にあらざる犯罪をいふ。
ひふ〔する〕他)　庇護、かばふ、十あはふ。
ひふ〔する〕(他自)　被覆、もはふ、十かぶさる。
ひふ(名)　卑夫、いやしきもの、賤人。
ひふ(名)　皮膚、はだ、はだへ。
ひふ(名)　鞣布、ふすま、よぎ。
ひふ(名)　披風、長き羽織の類。
ひふ(名)　蚘蟉、くまあり(動物)。
ひふ(名)　日歩、一日の利息をいふ。
ひふ(名)　日賦、借金などを日毎に返しゆくこと、ひなし。
びふた(名)　美麗、みめよきをんな、うつくしきをんな。
ひふね(名)　火船、火輪船、蒸氣船(じようきせん)。
びふう(名)　微風、なよかぜ、そよかぜ、軟風、軽風、細風。
ひふく(名)　肥腹、はてはら、こえたるはら。
ひふく(名)　被服、きもの、きるもの。
びふく(名)　微服、しのびいでたち、かくれすがた、白銀虎服。
びふく　美服、よきもの、みごとなるきもの。
ひふくれ(名)　火脹、火に焼けて脹れたるところ。
ひふき(名)　火吹、ひふき。
ひふきたけ(名)　火吹竹、吹筒、火管、ひをふくたけ、吹火筒。
ひふせ(名)　火防、ひをふせぐこと。
ひふん〔する〕(自)　記憤、かなしみいかる。
ひふん(形副)　悲憤、雪冤の亂れて降る誤)。
ひふん(形副)　非分、不相應、ふにあひ、ふさはぬ、十あたはぬ、あたはぬ。
ひぶん(名)　碑文、いしぶみに記せる文。
びぶん(名)　微分數學の一科。
ひこ或へいこ(名)　鞴鼓、皮製の喉笛、つづみ。
ひこ(名)　喉嚨、鰓條垂喉の上より垂れたる一物、のどのひこ。
ひこ(名)　飛炬、城に附て攻むる敵を燒撃する具。
ひこ(名)　篦竹を細く削りたるもの、骨篠、ひご、篠の子なり、「しのこ」の下を見よ。
ひこ(名)　藤椅州の方言、つばめ(動物)。
ひこ(名)　賀語、れなしごと、飛語。
ひこ　庇後、西海道の國名。
ひこ〔する〕(他)　庇護、かばふ、もはふ、ひこ(名)　緑語、ねごと、寝言。
ひころ(副)　曩日、向日、日來、ひさしく。
ひこばえ(名)　櫱、伐木の後再び根株より生ずる小木。朝芽、わかはえ。
ひこほほでみのみこさ　彦火火出見尊(瓊瓊杵尊の第二の御子にして地神五代の第四の神なり)。
ひことほし(名)　壽牛皇、黄姑、三歳、天闕、いぬかひぼし、をなばた。
ひことさ(名)　失火、火災、くわじ。
ひことさ(名)　夙旦、まいにち、ひび。
ひこぢ(名)　夫婦人が夫を呼ぶ辭(古語)。
ひこを(名)　飛期絡、小組紐屬の用具、ひごのを。
ひこたへ(名)　炊塡、ひもち、十ひにつよきこと。
ひこつ(名)　膊骨、こぶらはぎ。
ひこね　彦根、近江國犬上郡の都會。
ひこねさきさたけうがやふきあへずのみこと　彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊、地神五代の終の神にして彦火火出見尊の御子なり。
ひこう(名)　飛鴻、雁の別名。
びこう(名)　微功、すこしのてがら、寸功。
びこう〔する〕(自)　翡耳、わたる、ゆきわたる。
びこうたい(名)　鼯鼠條、こぐみ、さるなし、しらくちづる(植物)。
ひごのを(名)　飛期絡、小組紐屬の具、ひごを。
ひこく(名)　被告、うつた(られたるひと、被告人。
ひこく〔する〕(自)　誹謗、そしりなげく。
ひこくにん(名)　被告人、被告に同じ。
ひこぶ(形)　非業、天然又は天命ならぬ死にいふ。
ひこさか　彦坂氏。
ひこさん　彦山、英彦山ともいふ、豊前國田川郡にある山。
ひこみこと(名)　皇子、天子の御子。
ひこじろふ(他)　糾問、ただす、ひく。
ひごろ(名)　緑語、ねごと、寝言。
ひごろ(副)　曩日、向日、日來、ひさしく。
ひこばえ(名)　櫱、伐木の後再び根株より生ずる小木。朝芽、わかはえ。
ひこほほでみのみこさ　彦火火出見尊の御子にして地神五代の第四の神なり。
ひことほし(名)　壽牛皇、黄姑、三歳、天闕、いぬかひぼし、をなばた。
ひことさ(名)　失火、火災、くわじ。
ひことさ(名)　夙旦、まいにち、ひび。

ひこぢ(名)　夫婦人が夫を呼ぶ辭(古語)。
ひこを(名)　飛期絡、小組紐屬の用具、ひごのを。
ひこたへ(名)　炊塡、ひもち、十ひにつよきこと。
ひこつ(名)　膊骨、こぶらはぎ。
ひこね　彦根、近江國犬上郡の都會。
ひこねさきさたけうがやふきあへずのみこと　彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊、地神五代の終の神にして彦火火出見尊の御子なり。
ひこう(名)　飛鴻、雁の別名。
びこう(名)　微功、すこしのてがら、寸功。
びこう〔する〕(自)　翡耳、わたる、ゆきわたる。
びこうたい(名)　鼯鼠條、こぐみ、さるなし、しらくちづる(植物)。
ひごのを(名)　飛期絡、小組紐屬の具、ひごを。
ひこく(名)　被告、うつた(られたるひと、被告人。
ひこく〔する〕(自)　誹謗、そしりなげく。
ひこくにん(名)　被告人、被告に同じ。
ひこぶ(形)　非業、天然又は天命ならぬ死にいふ。
ひこさか　彦坂氏。
ひこさん　彦山、英彦山ともいふ、豊前國田川郡にある山。

ひてい(名)　飛遞、はやびきやく、急便。
びていこつ(名)　尾骶骨、かめのを。
ひでり(名)　旱、炎旱、旱魃、あめふらぬこと。
ひでりのかみ　旱魃、旱神、ひでりさするかみ。
ひでりぐも(名)　旱雲、火雲、旱の時などに現はるる雲をいふ。
ひでりあめ(名)　天泣、てんきあめ。
ひでりさう(名)　旱草、植物。
ひでただ　秀忠、徳川二代將軍にして家康の三男なり天正七年に生れ寛永九年に薨ず享年五十四諡して台徳院殿といふ。
ひてり　飛鳥、とぶとり、十あすか。
ひてん〔する〕(他)　批點、評點、批鑒、詩歌などを批評して點をつくるをいふ。
ひてん〔する〕(他)　披展、ひらきのべる。
ひてん(名)　祕傳、祕訣、おくぎ。
ひでんるん(名)　悲田院、貧困疾病無告の人を撫ふ爲めに設けたるもの。
ひあい(名)　悲哀、かなしみ、なげき。
ひあはひ〔俗〕(名)　庇間、家屋と家屋とのあひだをいふ。
ひあがる(自)　乾上、干上、乾涸、かわきあがる、ひる、かわく。
ひあがらす(名)　令乾、かわかす。
ひあり(名)　痣機、ひざくち(植物)。
ひあく　美麗、よしあし、十かはよきとみにくきと。
ひあやふし(名)　夜行箭、ひのばん(夜中に巡行して火を警むるもの、火危の義)。
ひあぶり(名)　火刑、火罪、ひにてやくこと(罪人を刑する爲めに)。

ひあふぎ(名)　檜扇、ひのきのあふぎ(檜の薄板を以て作れるものにて禮式裏帯の時に用ふ)。
ひあふぎ(名)　射干、ぬばたまのき(植物)。
ひあし(名)　脚、ひのすすみ。
ひあひ(名)　日間、ひのあひだ。
ひさ〔する〕(自)　憔悴、かなしみなげく。
ひざ(名)　膝頭の上の關節の所。
びさい(形)　尾張、きたにまうきさえ、きりんさう(植物)。
びさい(名)　貧薬、きたにまうきさえ、きりんさう(植物)。
びさい(名)　貧財、つひやすかね。
びさい(形)　微細、こまかき。
ひさいちう(名)　避債島、みのむし(動物)。
ひさかに(副)　久居町伊勢國一志郡の町名)。
ひさぎ(名)　梓、ひさぎ。
ひさぎぼね(名)　臗、ひさぎち。
ひさぎをく(名)　梢杖、かるか、こみや(鎗砲の用具。
ひさぎがはら(名)　支膝結跏、あぐらかく。
ひさぎかり(名)　胡牀、膝蓋、ひざさら、ひざばね。
ひさう(形)　悲愴、かのあをきもの天をいふ。
ひさう(名)　非常、ふいのてきごと、おもひがけぬこと、ひじやう。
ひさう〔する〕(他)　祕藏、だいじにたくはへおく。
ひさう　美談、うるはしきよそほひ。
ひさう(名)　藁草、ふなばらさう、白微植物。
ひさかたのまち　久堅町(東京市小石川區の町。
ひさかたのしぐれ　久方の(ふへのあめ)「あまぐもつき」「あめのかく山」「みやこ」などの枕詞。

ひさうせき（名）　礎羅石、大磁石、ねずみころし、よせき、ひせき。

ひざのほね（名）　膕、膝蓋骨、ひざさち。

ひざのさら（名）　膝骨、膝の前部にある皿の如きほね。

ひさく（名）　柄杓、ひしゃく（水を汲む器、枡、桷杓、柄杓。

ひさく（他）　引裂、ひきやぶる、つんざく。

ひさぐ（他）　賣、うる、販、賣、賣買、販賣。

ひざくりげ　膝栗毛、長の道中を徒歩すること。

ひさくがた　氷圖、火珠（塔の九輪の上に置く寶珠をいふ。

ひざくら（名）　緋櫻、櫻の一種（植物）。

ひざくむ（自）　跼、あぐらかく。

ひさまつ　久松氏。

ひさまつちやう　久松町（東京市日本橋區の町）。

ひざまづく（自）　跪、跪坐、跪踞、ひざをかがめる、つくばふ。

ひさげ（名）　銅提、酒をいるる器、提子、てうし。

ひさげる（他）　火酒燒酎をいふ。

ひざぶとん（名）　提、提子。

ひさご（名）　膝褥、ひざにかくるふとん。

ひさご（名）　胡蘆、瓠瓜、なりひさご、夕顏瓜、ふくべ、瓢、うたん（植物）。

ひさごどうり（名）　玉瓜、からすうり、土瓜（植物）。

ひさあきらしんわう　久明親王（鎌倉十將軍の下を見よ）。

ひざさら（名）　膕、膕關、ひざのほね、ひざがはち。

ひざさらがひ（名）　膝蓋貝、かひのなき動物。

ひさき（名）　楸、きのえ（植物）。

ひざきる（他）　膕人の膝をきる刑。

ひさぎを（形）　殿夫、ものうるをとこ。

ひさきめ（名）　殿女、ものうるをんな。

ひさめ（名）　冰雨、氷霓、みぞれ（雹などのまじりて降る雨。

ひさめ（名）　大雨、おほあめ、ひたあめ。

ひさめく（自）　私語、ささやく、ひそめく。

ひさし（名）　廡、簷、庇底、屋楷、のきのやね十やねのはしのさしいでたるところ。

ひさし（形）　非發、不發量、ちえなき、ちからなき。

ひざる（名）　日蝕、日指、日晉、ひかけ、ひあし。

ひさしく（副）　久、長、ながく（ひさしきをみよ）。

ひさしぶり（俗）（名）　久振、永く過ぎずに日を經たる後といふ義。

ひさしき（形）　久、經久、彌久、とこしへ。

ひざびやうし（副）　膝拍子、膝を叩きて拍子を取るをいふ。

ひさびさ（副）　久久、ながながく、なかなか、なかく、永永。

ひさぶさと（名）　膝下、あしもと、てまへ。

ひさまき　比企氏。

ひさん（形）　慘憺、かなしき、いたましき。

ひさんき　非發職（發職の非職、三位以上にて未だ發職とならざる人、また發職になるべき四位の人をいふ。

ひさん（名）、—する（他）　誹謗、そしり、ののしる。

ひき（形）　非發、不發量、ちえなき、ちからなき。

ひき（名）　蟇、ひきがへる（動物。

ひき（名）　匹、獸類を數ふる詞、十疋布帛二反をいふ。

ひき（名）　引、綾、たすけ、ひきあげ。

ひき（する）（他）　比較、たくらべる、比較、くらべる。

ひき（形名）　非發、みちならぬ、不義。

ひき（名）　飛蝗、はり（動物）。

ひき（名）　氷太家のわれの上に打ち堰へたる木をいふ。

ひき（名）　備器、戰爭に用ふる旗幕鎧冑などの器械をいふ。

ひきいろ（名）　引色、まけいろ、敗色。

ひきおる（他）　薬ぬしつれる、ひきつれる、兵士などを、將、引率。

ひきいた（名）　引板、ひた、なるこ。

ひきいれ（名）　加冠者、えぼしおや（昔し元服の式に元服する人に冠をかぶらしむる其尊をひきいれしものを然かいへり）。

ひきいれる（他）　引入、ひきこむ。

ひきはへる（自）　蔓延、ながくのびる、はびこる（草などが）。

ひきはる（他）　引張、ひきのばす、十たかる。

ひきはだ（名）　膚肌、かはのさや。

ひきはだ（名）　緞文、波文、しわ。

ひきはなす（他）　引放、ひきてわかつ、ひきてとる。

ひきはぐ（他）　引剝、ひきむく（皮などを）、十ぬがせる（賊が人の衣服等を）。

ひきはさ（名）　追剝、ものひはぎ盜賊。

ひきど（名）　引戸、ひきてだてたるど。

ひきとる（他）　引取、わがかたにとる。

ひきとむる（他）　引留、おさへとどむる。

ひきちぢめる（他）　收縮、つめる、みじかくする。

ひきちがへる（他自）　引違、ちがはする骨を、ふしてひきつけるなどして、ちがはせる。

ひきかぶる（他）　引被、あたまからかぶる。

ひきかぜ（名）　引風、冒風、かぜひき、風邪、寒貫、かぜ、風邪。

ひきよ（する）（名）　避去、よけさる、さけてまる。

ひきよ（名）　緋魚、せみはうぼう（動物）。

ひきよせる（他）　引寄、ひきちかづける。

ひきた（名）　引板、ひきいた、なるこ、ひた。

ひきたふす（他）　西傾、西田、定田氏。

ひきたてる（他）　引倒、ひきころばす。

ひきたてる（他）　引立、たすくる、せわする、のぼらせる（地位に）。

ひきだし（名）　抽匣、抽斗、簞笥箱などの。

ひきだす（他）　引出、ひきていだす。

ひきれ（名）　合子、くりものの蓋。

ひきつる（自）　拘攣、痙攣、發癇、つる、ちぢまる（筋が）。

ひきつれる（他）　引連、めしつれる、たづさへる。

ひきづな（名）　引綱、締繩、たえづながる。

ひきづく（自）　騎犬を逐く繩。

ひきつくろふ（他）　引繕、かざりつくろふ。

ひきつけ（名）　拘攣、抽搦、癲癇、癲狂風などの死人の如くなりしめたる有樣をいふ。

ひきつけ（名）　紹介、見知らぬ人人をして相知らしむる爲めに其間に周旋すること、また此の如き人々をして相知らしむること、紹介の手紙は證書の類なり、又ひきつけの主といふものもあり、ひきあはせ、十推薦。

ひきつける（自他）　拘攣、すぢひきつらする、すぢひきつらする拘攣の狀を發し或は發せしむるをいふ。「ひきつけ」の下を見よ、めをきはす、きをうしなふ。

ひきつける（他）　紹介、ひきつけをする、ひきあはせをする「ひきつけ（紹介）」の下を見よ。

ひきつける（他）　引寄、ひきよせる、自分の傍へ引き近づかするをいふ。

ひきつめる（他）　引詰、弓を十分に彎くをいふ。

ひきなほし（名）　鍼灸、ふねのひきなほし。

ひきなほす（他）　引直、衣冠の平生の椀服、禮服、ひきてあとをだす三絃などを。

ひきならす（他）　平均、たひらにする。

ひきむすび（名）　活結、とくる わすびかた。

ひきう（する）（他）　庇廕、おほふ。

ひきう（名）　雜戰「ひきうのし」を見よ。

ひきうのし　雜戰、乞、つよきつはもの二兩兵を結かいふ。

ひきうける（他）　引受、わがみにとる。

ひきうけて（名）　受托者、うけとりて、十媒妁人、あとうけつぐひと。

ひきうす（名）　挽磨、手磨、腰磨、手にてまはす日。

ひきのばす（他）　引延、拉拌、ひきてながくする。

ひきのける（他）　引退、ひきてしりぞく。

ひきのこり（名）　殘滓、殘餘、殘額、のこりだか。

ひきのひたひ（名）　細辛、さいしん（藥物）。

ひきくはふ（他）　加、かてくはへる、とりそへる。

ひきくらべる（他）　引比、比較、比量、ならべみる、くらべみる。

ひきくむ（自）　拘攣、すぢひきつらする、すぢひきつらする拘攣の狀を發し或は發せしむるをいふ。

ひきくくる（他）引括、ひきまとめる。
ひきぐす（他）引具、ひきつれゆく、ひきてゆく。
ひきやる（他）遣除、ひきさる、とりのぞく。
ひきやう　愁況、かなしきありさま。
ひきやう（名）—する（自）飛行、とびゆくこと（仙人などの如く空中を飛びてあるくこと、とびゆくことわたる空中を）。
ひきやう（名）真菜、はなばしち、真菜。
ひきやうのひれ（名）飛行機の翼に擬したる右のひれをいふ「ふなこしのひれに對す」。
ひきやく（名）飛脚、はやばしり、急脚子、馳歩、はしりづかひ、驛傳夫。
ひきやくせん（俗）（名）飛脚船（郵便船に同じ）、郵船。
ひきやま（名）低山、ひくきやま。
ひきやぶる（他）引破、ひきさく、野。
ひきやはし（名）引廻つれまはり（罪人を市中を引きまはるをいふ、十ひきてあるかすること。
ひきやはしのきり（名）挽廻鋸鋸の一種。
ひきやはす（他）引廻、ひきてあるかする（ひきまはしを見よ。
ひきやまど（名）遠窓、天窓、そらのまど、あかりまど、けむりだしまど。
ひきやめる（他）引歸、引退、引金、ひとつにきとめる。
ひきやく（名）引幕（劇場などにて幕間に垂るる幕。
ひきやまゆげ（名）霊眉（眉をそりたるあとに墨にてえがきたる眉。
ひきふ（する）愁泣、かなしみなく。
ひきふだ（名）引札、廣告札、くばりふだ。

ひきふね（名）引舟、挽舟、ひきてすすむるふね（河などの淺き處を船を曳きて遡ること、また他の船を牽きて奔る船。
ひきふね（名）引船京都島原の遊郭にて大夫になる小婢の類をいふ。
ひきごほり　比企郡（武蔵國の郡の名）。
ひきごと（名）引事、引證（古語などを引きて論ずること。
ひきこむ（他）引込、ひきいれる。
ひきこもる（他）引籠、いへにこもる、蟄居。
ひきとす（自）引越、移轉、やうつりする。
ひきて（名）儀鉤、鎖鑰戸を開ける爲めの具、十鍵（鉤）

の一種。
ひきて（名）引手、ひくもの一般に遊客などを。
ひきて（名）引手、めて、右手。
ひきでもの（名）引出物、たまもの、かづけもの。
ひきあはせ（名）引合、高禮紙、たかだんし。
ひきあはせ（名）引合、くらべあはせ、十また紹介、ちかづきさする。
ひきあけ（名）黎明、昧爽、よあけ、あかつき。
ひきあげる（他）引上、擢用、う（へ（ひきのぼす。
ひきあて（名）抵當、保證品借金などの。
ひきあみ（名）曳網、引網、漁具、ひきてうををとるあみ。
ひきさがる（自）引下、したにくだる、十まかりいづる、しりぞく。
ひきさかね（名）引倉（料理に云ふ所にて鰹節の第二重の中（入れる）。
ひきさく（他）引裂、劈、擘、つんざく、手劈、手劃、手碎。
ひきさげる（他）引下、したにさげる。
ひきさ（形）低、低つくきをみよ。
ひきさ（名）早、低、ひくき、いやしき。
ひきさり（副）最遠、いやいて、せいきふに。
ひきめ（名）暮目射法の名。
ひきめたたき（名）暮目射弓の擲りの下に籠を巻たるをいふ。
ひきみる（他）引見、まみえさする、めどほりをかるす。
ひきしほ（名）引汐、引潮、へるしは退潮。
ひきしほる（他）引絞、相場上にて其價を推し進めんとするをいふ。
ひきしぼる（他）引絞、肝、弩弓を十分にたわるをいふ。
ひきじろふ（他）引合、ひきあふ、ひきあつてあらそふ。
ひきしりぞく（自）引退、あとにしりぞく。
ひきしのぶ（自）忍、たへしのぶ、ひかへこらへる。
ひきしやう（名）火起請、火を踏みて罪の有無を明かすこと即ち神あるひは身を火にて傷つけられたるものを有罪と決す、此風古代各國に行はれたり。
ひきしまる（自）引締、相場上にて價の少しく高向きなるをいふ。

ひきしめる（他）引緊、ひきてかたくする、收緊。
ひきもどす（他）引戻、ひきかへす、引還、挽回、ひきてもとにかへす。
ひきもの（名）引物、食膳に供して其儘ひきさげる物（十又ひくものゝ。
ひきもの（名）雛物琴、碁、雀、碁等の類をいふ。
ひきものざいく（名）挽物細工、ろくろざいくもの。
ひきものし（名）旋匠、ろくろし、ろくろざいくし、轆轤師。
ひきずりこむ（他）引摺込、ひきこむ、十あのれにとる。
ひきずる（他）引摺地の上などを曳きてあるくをいふ。
ひきずみ（名）引墨、書面の封じ目に墨をひくをいふ。
ひきん（名）（する）愁吟、かなしみうたふ。
ひぎん（名）（する）愁吟、かなしみうたふ。
ひゆ（名）莧、植物。
ひゆ（名）譬喩、たとへ、たとへばなし。
ひゆ（名）備由、事由に同じ。
ピユリタン（名）彫刀祭耶蘇教の一宗、清教。
ひめ（名）姫、姫、たふときをんな（嫉美女の稱）。
ひめ（名）　非命、非業、天命にあらずして死ぬるをいふ。
ひめい（する）愁鳴、かなしみなく（鳥などが）。
ひめい（名）碑銘、石碑の文をいふ、詩銘。
ひめい　美名、佳聲、佳名、よきな。
ひめい　未明（みめい）、あさまだき、あかつきに。

ひめはこべ（名）蓼科植物。
ひめはぎ（名）姫萩、遠志、こぎき、ものしりぐさ（植物）。
ひめはしら（名）楠、つかばしら、たちりがた。
ひめはじめ（名）飛馬始、踏首の初儀をいふ。
ひめばせを（名）美人蕉、ばせをのたぐひ（植物）。
ひめぢし　姫路市（播磨國の都會）。
ひめる（他）祕、かくす（祕密にする）。
ひめかがみ（名）姫鏡（婦女の模範たるべきもの）。
ひめかうぞ（名）楮（峡山中に自生多くして高さ丈許（植物）。
ひめかがみ（名）短堤、こがき、城壕の（女壕、雉堞。
ひめよし（名）比賣神、女神、をんながみ。
ひめよもぎ（名）蓽撥植物。
ひめたちばな（名）野芙蓉（植物）。
ひめづばき（名）姫萬植物。
ひめうた（名）美妙、ひめごとにたへなる。
ひめう（形）微妙（隠微にして高妙なるをいふ）。
ひめのり（名）金鵝瓜、姫瓜（植物）。
ひめぐるみ（名）米櫚、椶櫚（植物）。
ひめまつ（名）姫松、ひめこまつ、ちひさきまつ、十東雲可、あづまわらは（禁中の女官）。
ひめごと（名）祕事、かくしごと、密事。
ひめこまつ（名）姫小松、ひめまつ、十又ごえふのまつ（植物）。

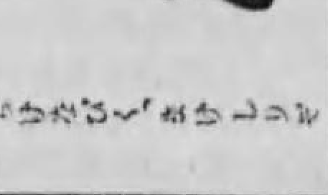
ひめこぶし（名）重峯辛夷、千萬歳、ひでこぶし（植物）。
ひめあぎみ（名）姫朝、かはあざみ（植物）。
ひめさかづき（名）金盞花、管蒼花、杏葉草、きんせんくわ（植物）。
ひめさみ（名）姫君、公主王候の女子。
ひめゆり（名）山丹、紅百合、紅花葉、鳥跡（植物）。
ひめみや（名）姫宮、皇女、内親王、天子の女子。
ひめみこ（名）皇女（みめみや、鳥居（くさのえ（植物）。
ひめしば（名）女萎（植物）。
ひめしをん（名）姫島（土佐國の西南に位する小島）。
ひめもそ（副）終日、晨日、ひねもす、いちにち。
ひめん（する）（他）覗見、ぬすみする官職を）。
ひめん（名）（他）（糞（ひびに同じ）。
ひみ（名）美味、うまきもの、厚味、珍膳。
ひみつ（形名）祕密、ひそか、十ひそかごと。
ひみづをけ（名）火水桶（酒造家にて用ふる桶の名）。
ひみまち　氷見町（越中國射水郡の町名）。
ひみず（形）日不見、ひのめもみぬ。
ひし（する）（他）皐覗、みさげる、賤視。
ひし（名）菱、沙角、水菓、麥（植物）。
ひし（名）飛矢、それや、なかれや、流矢。
ひし（名）　蜜蠟、鑞にて造り菱形にて戰場に散布して人馬の足を刺すもの（鏃苔、乳鐵。
ひし　鉄蒺、かれこれ、あちこち、たがひに。
ひし（する）（他）諺噂、そしる、ののしる。

ひし（名）　菱、菱實、はまびし（植物）。

［圖の菱］
ひじ（名）　祕事、かくしごと、密事。
ひじ（名）　非時、わとき（僧家のふるまひめしを云ふ）、齋飯。
びし　微志、微衷、寸志、すこしのこころざし（謙遜していふ詞）。
びじ　美事、よきこと、ほむべきこと。
ひじに（名）　餓死、うゑじに。
ひしほ（名）　醬（菜類の）、十醢（肉の）、しほから。
ひしほ（名）　干汐、乾潮、ひきしほ。
ひしほす（名）　醬酢（「ひしほ」に同じ）（古語）。
ひじさう（名）　扁児豆、いんげんまめ（植物）。
ひじり（名）　聖、仙（諸智識また聖人をいふ）。
ひじりだけ（名）　靈芝、さいはひだけ、まんねんだけ（植物）。
ひしぬひ（名）　菱縫、ひしがたのぬひ。
ひじをかかげる　攘臂、振腕、うでをまくる。
ひしかは　菱川（氏）。
ひしがた（名）　菱形、三角形、ひしのかたち。
ひしがくし［俗］（名）　祕隱、ふかくかくすこと。
ひしよ　避暑、あつさをさくる。
ひしよ　祕書、だいじのかきもの。
ひしよく（名）　緋色、あかいろ、緋色。
ひしよく（形名）　非職、つとめなし、非役。
ひじよく（名）　皮褥、しきがは、かはのしきもの。
びしよく　美食、うまきくひもの、十うまいものくひ。

びしよく　美色、うつくしきいろ、美顏。
ひしよくわん　祕書官（大臣などに隷し樞密事務を扱ふ官）。
ひしそでがき（名）　菱袖垣（菱の如くに結目を見せたる袖垣）。
ひしつ（形）　卑濕、ひくくしてしめれる。
ひじつ　比日、連日、まいにち、ひなみ。
ひしづめまつり（名）　鎭火祭（火神の祭）。
ひしう　肥州（肥前肥後をいふ）。
ひしう　飛州（飛驒國をいふ）。
ひしう　悲愁、ものがなしきあき、あはれをそふるあき。
ひしう［する］（自）　比周、したしむ、むつむ、十又朋黨、ともうそくむ（論語に君子周而不比とあるより轉じ來る）。
ひしう［する］（自）　悲愁、かなしみうれふ。
びしう　尾州（尾張國をいふ）。
びしう　備州（備前備中備後をいふ）。
ひしぐ（他）　拉、とりひしぐ、挫折、くじく、十挫敗、折辱。
ひしくひ（名）　鴻（動物）。
ひしや（名）　飛車（將棊の駒の名）。
ひじや　日出山（氏）。
ひしやう［する］（自）　悲傷、かなしみいたむ。
ひしやう［する］（自）　飛翔、とびかける、まひかける（鳥が）。
ひしやう（名）　裨將、そひだいしやう、副將。
ひしやう（名）　皮匠、かはなめし、かはし、かはざいくにん。
ひじやう　肥壤、よきとち、こえたるつち。
ひじやう（形）　非常、つねならぬ、なみならぬ、十なみはづれの、異常。
ひじやう（形）　非情、こころなき（情性を有せざる義にして草木の如きをいふ）。
びしやう　微傷、あさで、輕傷、うすで、うすきず。
ひじやうじやうこく　非常上告（罪名の定まりし後に特別に其罪人の爲めに上告すること）。
ひしやく［する］　飛躍、とびあがりする（魚が）、行興、遊行。
ひしやく（名）　痞癪、つかへ、しやくのやまひ。
ひしやく（名）　柄杓、ひさく、すくふうつは、しやくふうつは。
びじやく（形）　微弱、よわき、よわよわしき、纖弱、軟弱。
ひしやくにん（名）　飛錫人、あんぎやそう（行脚僧）。
びしやもんだうげ　毘沙門峠（美濃國郡上郡に在る山）。
びしやもんてん（名）　毘沙門天、多聞天（四天王の一）。
ひしけ（名）　天陰、あめふり、しけ。
ひしげばな（名）　凹鼻、つぶればな、ひらたきはな。
ひしふ（形）　卑濕、ひくくしてしめれる。
ひしこ（名）　鯷、鯷魚、ごまめ、田作（動物）。
ひしごと（名）　日仕事、日事（一日一日の受取り仕事）。
ひじき（名）　鹿角菜、鹿尾菜（植物）。
ひしゆ（名）　匕首、ひらがたな、あひくち、こわきざし、よろひどほし。
ひしゆ（名）　臂手（臂從の手）。
ひじゆ（名）　祕呪、まじなひ。

ひじゆ（名）　襦袢、じゆばん、あせとり。
びしゆ　美酒、よきさけ、金漿、松醪、碧泉、蘭芳、歡日、玉液、流霞、うまきさけ。
びしゆ（名）　細珠、はうしゆのたま（狐がもつといふ寶玉、室町小笠原家にて其一を秘藏すといひ傳ふ）。
びじゆ（名）　眉壽、ながきいのち、長壽。
ひじゆつ（名）　祕術、おくのて、かくしわざ。
びじゆつ（名）　美術（繪畫彫刻建築等美を表現するを目的とする技術又は製作をいふ）。
びじゆつくわん（名）　美術館（美術品を陳列する館）。
びじゆう［する］（自）　尾從（あとにしたがふ）。
ひじゆん［する］（他）　批准、ゆるす（國王等が他邦との條約などを）。
ひじゆん［する］（他）　比準、なぞらへる。
びじゆん　彌旬（一旬を彌る即ち十日を經過するをいふ）。
ひしめく（名）　喧鬧、さわぎたつ。
ひしひしと（副）　犇犇（敵などが押し寄する貌）。
ひしもち（名）　菱餅（菱形の三角餅にして三月雛の節句の式物）、ひしのもち。
ひしん（名）　飛信、急使、いそぎのしらせ。
ひじん（名）　鄙人、ゐなかもの、ひなびと。
びしん　微身、いやしきみぶん、小身。
びしん　微臣、いやしきけらい。
びじん（名）　美人、うつくしきをんな。
びじんさう（名）　美人草、はなげし、麗春花、錦被花（植物）。
ひえ（名）　疝氣。
ひえ（名）　稗（穀物の類）（植物）。

ひえいる（自）　冷、ひえこごえる、ひえこほる。
ひえいざん　比叡山（山城國愛宕郡に在る山にして近江國滋賀郡に跨る）。
ひえどり（名）　鵯、ひよどり（動物）。
ひえぬきごほり　稗貫郡（陸中國の郡の名）。
ひえる（名）　冷、つめたくなる。
ひえつ［する］　披閱、披覽、披見、ひらきみる。
ひえう（名）　祕要、祕訣、おくぎ、かなめ。
ひえうろ（名）　稗糧、稗說、みながしきのはなし。
ひえのやま　比叡山（「ひえいざん」に同じ）。
ひえのじんじや　日枝神社（近江國滋賀郡に在る有名の官幣大社）。
ひえあたり（名）　冷病、さむけあたり。
ひえざけ（名）　稗酒、ひえにてつくれるさけ。
ひえき（名）―する（他）　裨益、えき、ため、十ためをなす。
ひえん（名）　飛檐、のき。
びえん（名）　鼻烟、かぎたばこ。
ひひ（形副）　霏霏、ひらめく（雪などが）、十ひらひら。
ひひ（副）　靡靡、なびく貌、動搖する貌。
ひひ（副）　比比、みなみな、ならべて。
ひひ（名）　狒、やまわらは（大猿の一種にして面長く鼻高く尾短し其大なるものは身長五尺に及ぶ多く阿弗利加に產す）（動物）。

［圖の狒］
ひひ［する］（自）　披靡、ひらけなびく、まけしりぞく（軍勢が）。

ひび（名）　皸、胼瘃、くちひび。
ひび（名）　璺、われすぢ、ひびり、十きず。
ひび（名）　胼、皸龜、皸、ひびわれ、われ（皮の）、十あかぎり、皸。
ひび（副）　日日、ひにひに、毎日。
びび（形副）　娓娓、亹亹、うまぬ、あきず（事體に從ひて倦まざるをいふ）。
びび（形）　微微、かすか、わづか。
びび（名）　眉尾、まゆじり。
ひひとひ（副）　日一日、終日、ひねもす。
ひひる（自）　沖天（鳥の高く飛ぶ貌）。
ひひる（名）　蜚蠊（動物）。
びびる（自）　縮、すくむ、ちぢまる。
ひびかす（他）　令響、ひびきをおよぼす、十ならす。
ひびそ（名）　粗生絲、あらきいと。
ひひつ　飛筆、ふでをふるふ、揮毫。
ひひつたう（名）　批筆刀、ふでとりがたな。
ひひな（名）　雛、ひなにんぎやう（三月三日に飾る人形）。
ひひなきぬ（名）　雛衣、ひひなのきもの。
ひびらく（自）　疼、ひりつく、いたむ。
ひひらぎ（名）　冬青、ひらぎ、柊（植物）。
ひびう（名）　紕謬、あやまり、まちがひ。
ひびく（自）　響、きこえわたる。
ひひやう（名）―する（他）　批評（文章或は行狀などの價値善惡を評定するをいふ）。
ひびやうゐん（名）　避病院（傳染病患者を收容する病院）。
ひひやうか（名）　批評家（巧拙善惡などを判斷する人）。

ひひやうじや（名）　枇杷者、ひひやうするひと（枇杷家に同じ）。

ひびやまち　日比谷町（東京市麹町區の町。

ひびやこうふん（名）　日比谷公園（元日比谷の原にて練兵場なりしを今は之を大公園となせり）。

ひびやき（名）　堅燒（陶器の燒方に硏窯又烈燒ともいふ其見る所に一面にひびあるをいふ）。

ひひこ（名）　曾孫、このまご、ひまご。

ひひあかぎれ　皸瘃手足等の皮が寒氣に破れたるをいふ。

ひびき（名）　響、なり、ねと、十ゐん音。

ひびきいし（名）　響石、物音人語などに反響する石、こうむせき。

ひびきわたる（自）　響渡、なりわたる。

ひびきなだ　響灘、長門の西豐前筑前の北方にある灘。

びびしき（形）　鈍、ひぼ、くみいと。

ひもろぎ（名）　膳宗廟の祭因の養飼したるもの、又肥その生なるもの。

ひもろぎ（名）　神籬、かみがき、みづがき、たまがき。

ひもざ（名）　火主、火事の起りし際、火穴、人、くわにをだしたるひと。

ひもざ（名）　火元、火を焚きなどする場をいふ、竈。

ひもざく（他）　縫、ひちく（着物などを）。

ひもざき（名）　紐解、女兒の七歳になりし時衣のつけひもを解きてひもなき衣服となして着すること。

ひもち（名）　火持、火にこたへたる事、十また火が長く消えずにあること。

ひもかはあはび（名）　紐皮鰒、料理にて鰒を紐皮様の大きに切りたるものをいふ。

ひもかがみ　水面鏡（のどかの山の枕詞。

ひもかがみな（名）　比喩、あひくち、短刀。

ひもつ（名）　物、かづけもの、たまもの、紐直（ひもときに同じ。

ひもときの　紐解の枕詞、ひもとき王神佛への（日參記

ひもとく（他）　武州花園郡の地名。

ひもとく（名）　神職、かみがき、みづがき、たまがき。

ひもとく（名）　火主、火事の起りし際、火穴、人、くわにをだしたるひと。

ひもとく（名）　火元、火を焚きなどする場をいふ、竈。

ひもとく（他）　縫、ひちく（着物などを）。

ひもとき（名）　紐解、女兒の七歳になりし時衣のつけひもを解きてひもなき衣服となして着すること。

ひもち（名）　火持、火にこたへたる事、十また火が長く消えずにあること。

ひもく（名）　眉目、みめ、十かほかたち。

ひもく（名）　比目魚、ひらめ（動物）。

ひもくきよ（名）　比照、てらしあはすること。

ひもじい（形）　空腹、はらのすきたる、うえたる。

ひもの（名）　魚類、はらの文詞、十まじなひ。

ひもん（名）　紋、はなつまりのやまひ、十又かさぶた。

ひもんや　碑文谷（武州花園郡の地名）。

ひもんや　痢、はなつまりのやまひ、十又かさぶた。

ひせい（名）　飛星、ながれぼし、流星。

ひせい（名）　飛政、よからぬまつりごと。

ひせい（形）　飛生鳥、かぶとむし（動物）。

ひせいちう（名）　飛生鳥、むさび（動物）。

ひせいてう（名）　飛生鳥、むさび（動物）。

ひせいにかし（名）　日錢貸、行錢、ひなしかし金を貸して毎日取りあぐるもの。

ひせう（名）　緋紗、緋帛の紗。

ひせう（する）（他）　比照、てらしあはすること。

ひぜう（形）　微少、すこし、わづか。

ひぜう（する）（自）　微笑、はほゑむ、にこにこわらふ、莞爾笑。

ひぜふ（名）　標緻、はしためしつかひ、こしもと、そばめ。

ひぜき　肥瘠、こえたるとやせたると。

ひぜき（名）　礫石、ねずみころしいし、よせき、ひさう。

ひぜめ（名）　火攻、やきうち。

ひぜん（名）　肥泉（田圃にそそぐ水、ようすゐ用水）。

ひぜん（名）　飛泉、とびいづみ（噴の水などの如く飛び下る水をいふ、たき、瀑布、飛瀧。

ひぜん（形名）　非戰、いくさをあしとする、いくさをこのまぬ（非戰家非戰主戰などともいふ）。

ひぜん　罷戰、いくさをやめる。

ひぜん（形）　卑賤、いやしき。

ひぜん（副）　貴然、はなやかに、びびし（貴顯來臨と古詩に見ゆ、これより今日の貴臨（ひりん）の語出でたる也）。

ひぜん　肥前（西海道の國名）。

ひぜん（する）（自）　疲倦、つかれよわる。

ひぜん（名）　皮癬、疥癬、しつ病名。

ひぜん（形）　微賤、いやしき。

ひぜん　備前（山陽道の國名）。

ひぜんにん（名）　撰選人、えらばれるひと、えらばるべきひと（職員などに選ばるべき資格ある人をいふ）。

ひぜんちやう　備前町（東京市芝區櫻田の町）。

ひぜんたち（名）　眉尖刀、なぎなた、薙刀をいふ。

ひぜんたち（名）　備前刀、をさふねのつるぎ（をさ

ふねの下を見よ）。

ひする（名）　鰾、かはせみ、せうびん、魚尾、魚鳥（動物）。

ひする（名）　發酵、ほろあひ。

ひする（名）（一する）（自）　微睡、うたたね、まどろむ、とろりとする。

びずる（する）（自）　尾隨、あとにつく、跟隨、あとにしたがふ。

ピストル（名）　拳銃（小さき鐵砲）、短銃。

ひする（他）　比、くらぶる、ならぶる。

ひずがわざ（名）　新奇作、よこしまのしわざ。

ひすかましき（形）　賢、もろかかたくな。

ひすまし（名）　雜洗、昔し禁中などにて厠の掃除を司りし賤女。

ビスケツト（名）　乾蒸餅（英語）、十くわしばんのたぐひ。

ひずみ（名）　歪、たるみ、ゆがみ。

ひん（名）　品、しな、品質、十くらゐ、きぐらゐ。

ひん（名形）　貧、まづしきこと、貧乏、十まづしき。

びん（名形）　便べん、たより、たよりよき。

びん（名）　鬢、頭の兩方の上の髮。

びん（名）　瓶、硝子壜、みちそ、ぎやまんどくり、びいどろどくり。

ひんる（名）　品位、しな、くらゐ、等級。

びんろ（名）　便路、ついでのみち。

びんろう或**びんる**（形）　貧窶、まづしくやつつしき、貧困。

びんば（名）　牝馬、めうま、をんなうま（動物）。

びんばふ（形）　便之、まづしき、とぼしき。

びんばふかづら（名）　扁蔥莖、やぶがらし、五爪龍（植物）。

びんばふがみ　貧之神、黒暗天女、鶺鴒。

びんばん（形）　顏繁、しげき、おほき、しきりなる（事務などの）。

びんによ　貧女、ひんぢよ、まづしきをんな。

びんぼ　牝牡、めすをす（獸の）。

びんぺん（する）（自）　匾鬼、はげむ、つとむ。

びんさう（名）　品等、しな、くらゐ、物の）。

びんちつ（名）　品秩、しな、等級、差別。

びんりやう（名）　品質、めかた、しなのめかた。

びんりやう（する）（他）　銅鍛、あはれむ。

びんるる（名）　鍛頭、しなたぐひ、もの。

びんわん（名）　鬢髮、まづしきいへ（びんぼふや。

びんかう（名）　品行、おこなひ、みもち、行終、十よきおこなひ。

びんかく（名）　賓客、まらうど、きやく、客人。

びんかく（名）　品格、しながら、十ひんぴん、十ゆだかきありさま。

びんがてう（名）　頻伽鳥、妙聲鳥、逸音鳥、太平雀（極樂國に棲むといふ鳥）。

びんたい（名）　品胎、みつご（三子）。

びんだう　貧道、わたくし（僧侶が自己を謙稱する詞）。

びんそく（形）　敏速、すばやき。

びんそく（する）（他）　稟告、まうしあぐる、つげまうす（長上に）。

びんてん（名）　旻天、あきのそら（四天の一、十てん、そら）。

びんでん（名）　便殿（天子の御休息所）。

びんさう（名）　貧相、まづしげのすがた。

びんざさら（名）　拍板、柏子、びやくし（樂器、此國角頭上に角の如く結びたる髮の毛。

びんつけ（名）　鬢附（髮油、かみあぶら。

びんらうじ（名）　檳榔子、賓門、洗瘧丹（藥物）。

びんらうじま　檳榔島（日向國の南方の海中に在る島。

ひんのぬすみ　貧盜、貧に迫りて物を盜むこと。

ひんく（名）　貧苦、まづしくくるしみ。

ひんくわ（名）　品科、しな。

びんくき（名）　鬢莖、びんのけ。

びんぐし（名）　鬢櫛、笄、小櫛兒、びんかきぐし。

びんやう（名）　牝羊、ひつじのめす（動物）。

びんけい（名）　牝雞、にはとりのめす（動物）。

びんけい（名）　品階、品位をいふ。

びんけい（形）　敏慧、かしこき、すばやき。

びんけつ（名）　貧血、血の足らぬ病。

びんぷ　貧窮、まづしきことをいふ。

びんぷ（名）　稟賦、うまれつき、稟質、賦性。

びんぷく（する）（自）　賓服、きたりしたがふ、外國がら。

びんぷん（副形）　紛紛、いりみだれて、いりまじる（花の散る樣等にいふ）。

びんご　備後（山陽道の國名）。

びんごれもて（名）　備後表、びんごのみむしろ、びんごのみだみ（上等のたたみおもてこの名）。

びんとく（する）（他）　稟告、まうしあぐる、つげまうす（長上に）。

びんとん（名）　貧困、貧窮、まづしきこと。

びんとん（名）　關損（孔子の弟子にして至孝の人）。

びんとん　貧頭盧（白頭長眉の羅漢にして寺院の前におきて人に摩でさするもの、十六羅漢の一）。

びんづら（名）　髮、みづら、つのがみ、あげまき、了角頭上に角の如く結びたる髮の毛。

なるは持明院家所藏敎實親王の
繪物なりといふ。

びんさし（名）　髮挿　髮の毛を張る具。

びんざんやう（名）　牝山羊、めやぎ　動物。

びんき（する）（他）　擯棄、しりぞけすてる、排斥。

びんき（する）（自）　票疑、まうしあぐる　長上に。

びんぎ（名）　便宜、よきたより、ついで、つがふ。

びんきよ　貧居、まづしきくらし。

びんきう（名）　殯宮　君主などの假葬してあるところ、かりもがりのみや。

びんきう（名）　貧窮、まづしき、貧困。

びんぎう（名）　牝牛、めうし　動物。

びんみん（名）　品味、いろいろのさかな。

びんみん（名）　貧民、まづしきたみ。

びんし（名）　品詞　單語を性質によりて分類したるもの。

びんじるゐ（名）　敏捷、あやゆび。

びんじばい（名）　賓字梅、やつぶさのうめ、ざろんばい　植物。

びんしつ　賓室、きやくざしき。

びんしや（名）　貧者、びんばふにん、まづしきもの。

びんしや（名）　貧舍、まづしきいへ。

びんしや（名）　儐者、さきだち、あんない。

びんしゆ（名）　蠙珠、かひのたま、夜光。

びんしゆ（名）　賓主　客と主人と、まらうどとあるじと。

びんしゆつ（する）（他）　擯出、しりぞけいだす。

びんしゆく（する）　繫蹙、かはをしかむる。

びんび　繫眉、まゆをひそめる。

びんびやう（する）（他）　品評、ものの巧拙善惡などを批評するをいふ。ひさだむる、よしあしをあげつらふ、しなさだめする。

びんびやうくわい　品評會　ものの品評を爲すために設けたる會。

びんびん（副）　繽繽　衆多の貌。

びんびん（副形）　彬彬　文章などの燦然美觀なるをいふ、文質彬々　質朴なるなかば、文飾なかば、など見ゆ。

びんもく（名）　品目、しながら、もくく。

びんせい（名）　稟性、賦性、うまれつきのさが。

びんせい（する）（他）　票請、こふ、こひまうす、ねがふ。

びんせふ（形）　敏捷、すばやき、はしっこい。

びんせき（する）（他）　擯斥、しりぞけ、排斥。

びんせき（する）（他）　貧瘠、まづしくやせき。

びんせん（名）　便船、たよりぶね、ふねだより。

びんぜん（形）　憫然、あはれなる、あはれむべき。

も

も（名）　藻、うきくさ　海河に生ずる植物。

も（名）　文章にたとふ　植物。

も（名）　喪、裙腰より下の方の衣をいふ、十又もすそ。

も（名）　喪人の死して忌服ある中をいふ。

も（副）　亦、また、かつ　且、そのうへに。

もう　毛岩　氏。

もろ（に）（副）　共、ともに、あなじく。

もろ（形）　諸、もろもろ、いろいろ、十すべての。

もろは　兩刃　劒の左右につきたる刃。

もろはだぬぎ　兩袒、兩裼、りやうはだぬぎ。

もろはく（名）　諸白、醇酎、醇酒、醇醪、すみざけ、よきさけ。

もろはぐさ（名）　兩葉草、細辛、くはぢさう、ひきのひたひ　植物。

もろばし　諸星　氏。

もろびも（形）　諸共、いつしよ、つれだちて。

もろをか　諸岡、師岡　氏。

もろおや　雙親、兩親、ふたおや　父母をいふ。

もろがへり（名）　諸回、兩回、白撰、白癩癩の三歲なるをいふ　動物。

もろかたかへり（名）　兩片回　癩の四歲なるをふ　動物。

もろかたごほり　諸縣郡　日向國の郡の名、東西に分る。

もろかたぶね（名）　諸手船　數多の舟子の乘り組みたる船。

もろかね（名）　同衾、ともね、ひとつね、十又さとね。

もろかり（名）　胡簶子、ぐみ　植物。

もろからんごほり　室屋郡　讃岐國の郡の名。

もろくちごほり　諸口、葦北　もろくの人の口又辭、す一種の訛。

もろくちがみ（名）　諸口紙　安藝國より漉き出だす一種の紙。

もろや（名）　兩矢、にはんのや。

もろこし（名）　中華、支那、唐土　亞細亞洲中の國名、から。

もろこしはうき（名）　蜀黍箒、もろこしにてつくれるはうき。

もろこしうた（名）　唐土歌、漢詩。

もろこしぶね　唐船、からふね、支那船。

もろこしきび（名）　蜀黍、黍、もろこし、たうきび　植物。

もろこしびと（名）　唐人、からびと、支那人。

もろこしもじ（名）　唐土文字、漢字。

もろて　兩手、雙手　左右の手、りやうて。

もろあぢ（名）　窒鰺、竹夾魚、むろあぢ　動物。

もろあし　兩脚、雙脚　左右の足、りやうあし。

もろあしなへ（形）　兩跛、りやうちんば、蹩、いざり。

もろき（形）　脆、よわき、やぶれやすき　陶器のごとく。

もろぎぬ（名）　絲、錦、刀布　絹の類。

もろみ（名）　醪、醪、醴酒、醪醪、にごりざけ、どぶろく、なかくみ、もろみざけ。

もろしらが（名）　偕老、ともしらが。

もろびと　諸人、もはくのひと。

もろひざ（名）　諸膝、兩膝、雙膝、りやうひざ。

もろもろ（副）　諸、すべて、よろづ。

もはら　葉原　氏。

もはら（副）　專、もつぱら、せんいちに、まつたく。

もはらまち　茂原町　上總國長生郡の町名。

もはり（する）（自）　模倣、うつしまねる、ならふ。

もはや（副）　最早、すでに、はやくすでに、十これよりのちは、復。

モハメツト（名）　回敎の始祖、マホメツト。

もはん（名）　模範、ほん、てほん、かた、ひながた。

もほう（形）　厖豐、しげれる、さかんなる。

もぼ（名）　酵母、酒母　酒を醸すに入るる品。

もと（名）　元、原、本、根、基、素、根本、はじめ、ね、もと、十許人のもと、十下、した。

もと（副）　本、元、素、舊、むかし、さきに。

もとゐ（名）　基、址、基礎、基址、根基、根礎、基本、ぬ、物體。

もといはるちやう　元岩井町　東京市神田區の町。

もどろ（名）　斑、まだら、十又しどろもどろにみだれたるさま。

もとはまち（名）　舊蓆、もとのは、ふるば。

もとはず（名）　本筈　弓の絃をいふ。

もとはら（名）　施子　鹿の足の緒に附けたる金具。

もとほる（自）　徘徊、めぐる、まはりゆく、彷徨。

もとざり（名）　髮、たぶさ、頭髮、まげのね。

もとざちやう（名）　元帳、だいちやう　簿記。

もとざり（名）　逆釣、さかばり、ひつかけ釣鉤などの。

もとざりばし　戾橋　西京一條に在り。

もとさる（自）　悖、悖戾、さからふ。

もとさき（名）　末、末先、末端、もとさき、ものの。

もとさを　本居　氏。

もとかた（名）　本方、もとのところ、十はんもと。

もとがね（名）　本銀、もとでのかね、もとで、資本。

もとがしき（形）　建艘、のろい、はがゆい、十迂遠、まはりどほき。

もとより（副）　雅素、從來、本來、はじめより、十固、まことに、斷然。

もとよし　本吉　氏。

もとよしはらむら　元吉原村　駿河國富士郡の村名。

もとよしごほり　本吉郡　陸前國の郡の名。

もとだ　元田　氏。

もとだね（名）　原料、たね、たねのしろもの。

もとぞのちやう　元園町　東京市麹町區の町。

もとづく（自）　原、基、本、もとめする、よる。

もとづくり（名）　釀酒の元をいふ。

もとね（名）　元價、原價、しいれね　商品の。

もとらす（他）　給、ねぎあげる。

もとの　本野　氏。

もとのいへ　故宅、舊宅、さきにすみたるいへ。

もとのもくあみ　本木阿彌　以前の通りに貧賤をするをいふ。

もとめく（自）　積、もとる、そむく。

もとめく（他）　解、ほどく。

もとまち　元町　東京市本所區及び中の郷、また本郷區の町。

もとこ（名）　左右、もと、かたはら。

もとこめづつ（名）　綾錦、錢　元祿錢、鐚錢の類。

もとで（名）　資本、資金、資財、もとがね。

もとき　木木　氏。

もとをり　本居　氏。

もとゆひ（名）　髷、まげ、かうより、かうひれり、髮髷帶、元結、髻結、髮をしばる紐。

もとめる（他）　求、覓、覺、干、索、徵、要求、要請、需要、需求、求索、えんとねがふ、えんとする、ほつする、ねがふ、せいきうする、あたへよとせまる。

もとめもうしねぶ（他）　稽不能謀せどもさがしえぬをいふ。

もとみやまち　本宮町　岩代國安達郡の町名。

もさじめ（名）元締、もとのとりしまりやく。
もさせに（名）本錢、もとでのぜに。
もさず（他）返、か（す）歸。
もさすこほり　本巢郡美濃國の郡の名。
もさすゑ　本末、本支、もとはし。
もち（名）餅　糯米を以て搗き成したる食品、餈、餻（くさもち）、糕（しとぎ）、糍（むしもち）。
もち（名）持　たもつこと、たもち（自ら長く保存して腐敗壞變せざることをいふ、例ば此絹は持が善いなどいふが如し）、爲もつ（自の下を登着す可し）。
もち（形）持　所有、もちてをる、もてる現在所有し居るに云ふ、例へば「持株」、「持地」、「持山」などの如し、是即ち所有株、所有地、所有山の義なり）。
もち（名）持　わけ（圖番にいふ持番（ばんごと）なり、又歌合にて雙方勝負なきをいふ）。
もち（名）望月、もちづき　太陰曆十五日の滿月をいふ、十五日。
もち（名）糯、黏　とりもち、ねばるもの。
もぢ（名）觸、觸字　練、方空穀、よつめがたのきぬおりもの、方目紗。
もちろん（副）勿論、いふまでもなく、あきらかに、もとより、ろなう。
もちば（名）持場　つかさどるところ。
もちはこび（名）運搬、運輸、運送、おくりはこび。
もちにげ（名）擔逃、もちてにげさること。
もちぬり（名）鞘鳥、もちさしどり。
もぢり（名）狼牙棒、鍛錬、そだおちみ。
もぢり（名）換、大鎚丁字形の柄の附きたるもの。
もぢる（他）換、ねぢる、十まげる。
もちかゆ（名）望粥　正月十五日に食ふ粥。
もちよね（名）糯、もちごめ。
もちだて（名）歩戰、持楯、てだて手に持つ小楯。
もちつつじ（名）羊躑躅、羊不食、驚羊花、老虎花　開羊花、きれんげ、みやまつつじ、貫杜鵑、いはつつじ（植物）。
もちづき（名）望月　太陰曆の十五日の月、また信州の地名。
もちなは（名）黏繩、黏繩索、もちつけなは　鳥を捕まる具。
もちのかた　餅形　新奇の發明などいふ）陳套。
もちのき（名）糯　もちごめ。
もちのき（名）冬青樹、凍霄、移精（植物）。
もちのひ　望日　太陰曆の十五日。
もちぐち（名）持口、かためぐち　持越、前より持ちをりて今に至るをいふなり、去年より今年に持越すなど用ふ）。
もちぐし（名）餅菓子、むしやわし（干菓子に對す）。
もちぐさ（名）望月　太陰曆の十五日の月、また信州の地名。
もちぐさ（名）持草　玩物、翫器、翫具、もちもや。
もちつつじ（名）羊躑躅、羊不食、驚羊花、老虎花　開羊花、きれんげ、みやまつつじ、貫杜鵑、いはつつじ（植物）。
もちづき（名）望月　太陰曆の十五日の月、また信州の地名。
もちなは（名）黏繩、黏繩索、もちつけなは　鳥を捕まる具。
もちあみ（名）坐薈　坐薈浪具の名にして、よつでこの類の大なるもの。
もちあひ（名）保合、にらみあひ（相場上にて賣方と買方と相關ちずして聳りひかへ買ひすすまぬをいふ。
もちざを（名）鏘琴、とりもちざを。
もちきたる（他）持來、將來、提致、賫來、たづきたる。
もちきび（名）粘黍、ねばるきび　植物。
もちぐし（名）望潮、太陰曆十五日の潮。
もちぐし（名）姿餅、食品、もち。
もちひる（他）用　廉、使用、つかふ、十任用、登用、あげもちひる（官人などを、十採用、とりもちひる（文語にては、もちふる又、もちゐるを正とす。
もちひかがみ（名）餅鏡、かがみもち、もちな（へ、そわり。
もちもの（名）持物、もつもの、てにもつ。
もちやぶり（名）撰擢　奥州信夫郡より出だす所の絹物なり、「しのぶ」の下を見よ。
もちすりさう（名）殺草、鼈甲蒼、しのぶぐさ（しのぶぐさを見よ、よめれさう（植物）。
もちごめ（名）糯米、杜樹木のしげりたる所。
もり（名）僧綱、もりをんな、十保姆、うば、傳母。
もり（名）守、まもるもの、まもりて。

もちあは（名）糯粟、林、貫衆（植物）。
もちあはせる（自）持合、もつてをる。
もちあそび（名）玩物、翫器、翫具、もちもや。
もちあつかふ（他）持扱　とりあつかふ、十又もてあます。
もちあぐむ（自）持倦、もちくたびる、もちあきる。
もちあげる（他）持上、うへ（あげる。
もちあみ（名）坐薈浪具の名にして、よつでこの類の大なるもの。
もちあひ（名）保合、にらみあひ（相場上にて賣方と買方と相關ちずして聳りひかへ買ひすすまぬをいふ。
もちざを（名）鏘琴、とりもちざを。
もちきたる（他）持來、將來、提致、賫來、たづきたる。
もちきび（名）粘黍、ねばるきび　植物。
もちぐし（名）姿餅、食品、もち。
もちひる（他）用　廉、使用、つかふ、十任用、登用、あげもちひる（官人などを、十採用、とりもちひる（文語にては、もちふる又、もちゐるを正とす。
もちひかがみ（名）餅鏡、かがみもち、もちな（へ、そわり。
もちもの（名）持物、もつもの、てにもつ。
もちやぶり（名）撰擢　奥州信夫郡より出だす所の絹物なり、「しのぶ」の下を見よ。
もちすりさう（名）殺草、鼈甲蒼、しのぶぐさ（しのぶぐさを見よ、よめれさう（植物）。
もちごめ（名）糯米、杜樹木のしげりたる所。
もり（名）僧綱、もりをんな、十保姆、うば、傳母。
もり（名）守、まもるもの、まもりて。

もり（名）魚叉、魚銛、魚又　魚鎗、鰾などにの而ひて投げ擲く短鎗、やす。

もり（名）森　森岡、氏。
もりをかちやう　森岡町東京市麻布區の町。
もりをかし　森岡市（陸中國岩手郡に在る都會にて岩手縣廳の所在地。
もりかは　森川町（東京市本鄉區の町）。
もりよう（形）穢悪、あやふや、曖昧、どちともわからぬ（是非曲直の判然せぬをいふ）、糢糊。
もりた　森田、守田氏。
もりたてる（他）守立、守育、そだてやしなふ（君王の遺子などを）。
もりくにしんわう　守邦親王　鎌倉十將軍の下を見よ。
もりやく（名）守役、傅相、かしづきびと（王侯の家に仕ふる）。
もりころす（他）殺殺、誅殺、誅害、どくにてころす（醫者などが）。
もりもさちやう　森元町東京市麻布區の町。
もりもの（名）盛物　神佛に供する食味をいふ、訂菓。
もりずな（名）盛砂　（儀式又は貴人を迎ふる時などに門の左右にもる砂）。
もぬけ（名）蛻、蟬蛻、せみのぬけがら。
もぬける（自）蛻、ぬける　繩などのごとくて、束帶、こえる、まさる、凌越、づぬける。

もる（自）漏、泄、洩、漾、流動物にいふ）。
もる（他）盛　食物を器にいるるをいふ）。
モルヒネ（名）　眞麻痺劑藥の名。
もるは　門河、氏。
もるり（名）　鸚鵡、くじし、うつた（をもとまさる ひと。
もるり（名）　猟、かりもがり、かりばうむり。
もるり（名）　狼牙棒、狼牙棒、鎖鎌　隅守又は番人などが人を傷けずして捕ふる爲めに用ひし［圖の棒］。

もるり（名）　虎落、城守陣營の要害に云ふ、やらひ、檜垣、行馬、竹虎、柵。
もるか（名）　楯額　楯の綫、また國のかざり。
もるく（他自）　跳、蹦躍、あがく、くるしむ。
もるさ（名）　拉撒、痙攣、跚豆瘡、いもがさ、まめがさ、胞瘡、いも（病名）。
もるみ　最上氏。
もるみがは　最上川　陸前より發し羽前の國を經て羽後の酒田にて海に注ぐ。
もるみどほり　最上通　羽前國の郡の名。
もよほす（他自）　催、促、うながす、十まうけ、十あめふらんとする。
もより　最寄、ちかほとり、近傍。
もよいろ（名）　萌黄色、もえぎいろ（染色）。
もだ（名）　默、無言にてをるを云ふ。
もだいなし（形）　無物體、ありがたし。
もだへる（自）　悶、もだえる、煩悶、煩惱、くるしむもふ。
もたれる（自）　停滯、食滯、とどこほる、食物が不消化にてある）。
もたれる（自）　當、凭、よりかかる。
もたらす（他）　齎、もちきたる、たづさへる。
もたく（する）（他）　慕拓、はる、きざむ　印を。
もたぐ（他）　擡、もちあぐる、あぐる。
もたま（名）　橋蘭子（植物）。
もたげる（他）　擡、扛、もちあげる。
もたひ（名）　器、瓶の總名、甕、いつべ、甕、みづがめ、かめ。
もたせる（他）　凭、よりかからせる。
もたす（自）　默止、だまる。
もれる（自）　洩、もる、十あらはれる、しれる。
もれそろもそろ（副）　徐徐、しづかに、しづしづと、ゆるゆる。
もそこ（名）　饒、うすきさけ。
もつ（他）　持　てにもつ、たもつ（手に取りてをるをいふ、十たづさふ（岡次の語を參看せよ）。
もつ（自）　持　たもつ（自ら保存するをいふ例へば此魚は明日まで持つかなどいふが如し、最れ際ちずして明日に至るや否やを問ふなり、十又好地位或は名聲などを保ち得るをいふ例へば伊勢は淳で持つ、支那は季鴻章で持つなどいふが如し、是れ伊勢或は支那は一は津のために繁榮を保ち、一は季氏のために體面を保ち得るをいふなり）。
もつ（名）　物奠音なり、醫音は「ぶつ」なり。
もつぱら（副）　專、純、一、單一、單純、一向、ひたすら、ひと（に）。
もつにふ（する）（自）　沒入、もちいる。
もつとも（副）　最、尤、いと、いたつて、いちばん、十（俗）しかしながら。
もつたいない（俗）（形）　勿體、ばちがあたる、

十又をしき。
もつたてる〔俗〕(他)　持起、擡起、もちあげる〔頭をもつたてるなどいふ〕。
もつれ(名)　髙髷、紛議、紛爭、紛擾、あちそひ。
もつれる(自)　縺、縒、こごる、みだれる〔絲が〕。
もつれがみ(名)　髪髪、みだれがみ。
もづく(名)　海藻、もぞく、海雲海草の一種にて料理に用ふ〔植物〕。
もつやく(名)　没藥〔植物〕。
もつけ(名)　物怪、ものの け。
もつけ(形)　没計、おもひよらぬ〔もつけの幸などいふ〕。
もつこ〔する〕(自)　物故、死亡、しぬる。
もつこ　没後、みまかりしのち、死後。
もつこう(名)　貨、奇、持籠、つちかご。
もつこく(名)　木橲、厚皮香、ねずみもち〔植物〕。
もつて(接續詞)　以、將、もつて、ゐて。
もつてのほか　以外、おもひのほか。
もつさうめし(名)　慶髪餻、もりたるめし〔草中などにて與ふる〕。
もつきやく〔する〕(他)　没却、とりあげる、没收〔官に〕。
もづめ　物集、物集女氏、また山城國乙訓郡の地名。
もつしよくし(名)　没食子、没食子蟲が樹の葉の上に作る黑子狀の球をいふ〔圖の子食没〕。
もつしよくしちう(名)　没食子蟲、わしのな上を見よ。

もつしゆ〔する〕(他)　没收、官没、とりあげる〔官府に〕。
もなか(名)　最中、ただなか、まんなか、十中央、圓のもなか杯いふ。
もなき(形)　無事、平安、安全、安会、無難、やすかなる。
もらふ(他)　貰、受領、うける。
もらひ(名)　貰物、もらひもの。
もらひなき(名)　貰泣、啼涙、隨喜之涙、かんじてなくこと。
もらひぐひ(名)　貰食、乞食、處々乞ひ歩きて生活すること。
もらす(他)　洩、漏、漏泄、漏洩、もれしむる。
もむ(他)　揉、摩、揉よぢる。
もう(副)　最、もはや。
もうい(名)　蒙衣、かつぎ衣服の名。
もうろう(形)　朦朧、もほろ、ぼんやり。
もうへい〔する〕(他)　朦蔽、かくしおほふ、くらます。
もうぞう(名)　雜穢、いくさぶね、軍艦。
もうちく(形)　蒙稚、いとけなき、いとけなき。
もうちう(名)　朦中〔家に喪事ありてこもり居る間をいふ〕。
もうぜん〔する〕　蒙塵、天子國王等が敗北して他地に引退き居るをいふ〕。
モウル(名)　回回、モゴル、蒙古より起りし古代の一民族をいふ。
モウルおり(名)　回回織、織物の名。
もうむ(名)　朦霧、ふかぎり、くらきり。
もうう(名)　濛雨、こまめ、きりあめ。
もううつ(形)　蒙雲、朦雲、ふさぐ氣が、十又こんもりしたる〔樹木が〕、十うつたうしい、をぐらき。
もうぐ(形)　蒙昧、もろかち、ちえなき。
もうまい(形)　朦昧、なぐらき、くらき、ちえひらけぬ、未開、不文、ひらけぬ。
もうこ　蒙古、支那の北方の胡國。
もうこう(形)　濛昏、天地いまだ開けざりし時の樣などをいふ、混沌。
もうこん(名)　蒙昏、かはかぶり〔陰氣の〕。
もうさ(名)　蒙昏、いみ、朦中、昏中、喪中。
もうさ(名)　蒙貴、ねこ猫の異名〔動物〕。
もうさ(名)　朦氣、くもるけしき、くもり。
もうさ〔する〕(他)　蒙歎、あざむく、だます。
もうし(名)　濛沱、ひのいたに〔日の經する程〕。
もうもう(形副)　濛濛、うすぐらき、十うつたうしき、はれやかならぬ。
もうす(名)　帽、帽子、僧徒の用ふる帽子。
もの(名)　者、人の代名詞。
もの(名)　物、五官にて識別し得る有形無形の概稱、十こと、事。

ものいはぬはね(名)　不言之花、桃、櫻の花の總か呼ぶ。
ものいはひ(名)　物祝、いはひ、いはひごと。
ものいり(名)　費用、費銭、費途、失費、散財、かかり、つひえ。
ものいふ(自)　言、謂、曰、云、語、ことばをいだす。
ものいふはな(形)　解語之花、美人、うつくしきをんな、十又うかれめ。

ものいみ(名)　齋、潔、きよめごと、精進、齋戒、潔齋肉類など食はぬことなどをいふ〕。
ものはみ(名)　噉、えぶくろ、膳鳥の胃。
ものほし(名)　物干、曬竿、ものほすところ。
ものほしざを(名)　曬衣竿、ほしものざををあげし〔またおろし〕、さんまたなどを見よ。
ものざほき(形)　物遠、疎遠、疎闊、うとき。
ものざがめ(名)　物咎、くちとがめ、ことばとがめ、言咎。
ものぬひ(名)　執針、ぬひものし、したてや、仕立屋、おはり。
ものおぼえ(名)　記憶、おぼゆること、おぼえ。
ものおき(名)　物置、神什屋、なや、こや。
ものおもしみ(名)　斉齋、慇懃、貪吝、しわき、けち。
ものおもしろき(形)　快樂、愉快、こころおもしろき。
ものおもひ(名)　心配、煩惱、こころがかり。
ものわらひ(名)　物笑、あざけり。
ものわびしき(形)　物詫、こころぼそき。
ものわすれ(名)　遺忘、健忘、おぼえをちぬこと、十わすればやきこと。
ものがたり(名)　物語、話、說話、談話、話說、はなし、十又物語を記したる草紙。
ものがたき(形)　難澁、護嚴、嚴格、嚴正。
ものがなしき(形)　物悲、あはれをもよほす。
ものがましき(形)　物間敷、いかめしき、ものものしき、たかぶる。
ものかき(名)　物書、史、ふでとり、執筆、書手、筆書記、筆耕、筆記。
ものがしら(名)　物頭、武頭、隊長官人の役名。
ものかず(名)　物數、もののかず。
ものいみ(名)　齋、潔、きよめごと、精進、齋戒、潔齋肉類など食はぬことなどをいふ〕。
ものはみ(名)　噉、えぶくろ、膳鳥の胃。
ものほし(名)　物干、曬竿、ものほすところ。
ものほしざを(名)　曬衣竿、ほしものざををあげし〔またおろし〕、さんまたなどを見よ。
ものざほき(形)　物遠、疎遠、疎闊、うとき。
ものざがめ(名)　物咎、くちとがめ、ことばとがめ、言咎。
ものぬひ(名)　執針、ぬひものし、したてや、仕立屋、おはり。
ものおぼえ(名)　記憶、おぼゆること、おぼえ。
ものおき(名)　物置、神什屋、なや、こや。
ものおもしみ(名)　斉齋、慇懃、貪吝、しわき、けち。
ものおもしろき(形)　快樂、愉快、こころおもしろき。
ものおもひ(名)　心配、煩惱、こころがかり。
ものわらひ(名)　物笑、あざけり。
ものわびしき(形)　物詫、こころぼそき。
ものわすれ(名)　遺忘、健忘、おぼえをちぬこと、十わすればやきこと。
ものがたり(名)　物語、話、說話、談話、話說、はなし、十又物語を記したる草紙。
ものがたき(形)　難澁、護嚴、嚴格、嚴正。
ものがなしき(形)　物悲、あはれをもよほす。
ものがましき(形)　物間敷、いかめしき、ものものしき、たかぶる。
ものかき(名)　物書、史、ふでとり、執筆、書手、筆書記、筆耕、筆記。
ものがしら(名)　物頭、武頭、隊長官人の役名。
ものかず(名)　物數、もののかず。

もののふ　武士之〔いはせのとり、宇治川、ことを宇治川、ほんよむこと。
「八十の心の枕詞」、「八十ともを」、「八十のをとめ」、「八十の心の枕詞」。
もののし(名)　師、先生、ししやう、せんせい。
ものぐるひ(名)　發狂、狂亂、癲狂、狂人、狂物、きちがひ。
ものくふ(自)　食、ものくらふ。
ものぐさき(形)　疎懶、懶惰、なまける、ぶしやうものうき。
ものやみ(名)　病、やみわづらひ。
ものまるり(名)　參詣、さんけい〔神社佛閣に、十飲食、のみくひ。
ものまへ(名)　物前、何かことのある日の前、重に十二月の終りをいふ。
ものまね(名)　物眞似、口技、くちまねごと、ひとまね。
ものまねし(名)　物眞似師、百舌鳥人、百鳥鳴人、ものまねのたくみなるひと。
ものまなび(名)　物學、習學、學問、はんよみ。
ものまうで(名)　物詣、てらまゐり、みやまゐり、參詣。
ものごのみ(名)　物好、ものずき、ものめで。
ものごころ(名)　物心、世上百般の物事に關する智識、十人情。
ものごし(名)　擧止、擧動、たちふるまひ。
ものごしに(副)　物越、もののう〳〵より、ものをこえて。
ものあらがひ(名)　談柔輭、談委屈、かなのな動物。
もののけ(名)　物怪、邪鬼、つきもの。
もののふ(名)　武士、武夫、さむらひ、いくさびと、武人。

ものあらそひ(名) 口論、口爭、言論、あらそひ、けんくわ、ものあらがひ。
ものあげば(名) 物揚場(積荷を船より陸揚げする所)。
ものあざやかに(副) 物鮮、きれいに、うつくしく、りつぱに。
ものさわがしき(形) 物騒、ぶつさうなる、おだやかならぬ。
ものざね(名) 物實、ものだね、もののみ。
ものさし(名) 尺度、ものをはかるうつは、十曲尺、かねざし、十鯨尺、くぢらじやく。
ものさびしき(形) 寂寞、寂寥、凄愴、しづかなる、にぎやかならぬ。
ものきれ(名) 斧(刀劍の燐刄をいふ)。
ものめで(名) 愛、好、ものずき、ものごのみ。
ものみ(名) 物見、看臺、看樓、觀臺、やぐら、十ひのみ。
ものみ(名) 物見、けんぶつ(名所、舊跡、祭禮杯の一、十又ものをみること(物見高いなどいふ)。
ものみ(名) 斥候、哨兵、とほみのつはもの、十みはりづはもの。
ものみぶね(名) 哨船、斥候船、とほみぶね、みはりぶね。
ものしり(名) 物識、明哲、知識、がくしや。
ものしりぐさ(名) 遠志、をんじこぐさ、要繞(植物)。
ものしりびと(名) 博士、ものしり。
ものしたのたふさぎ 褌、犢鼻褌、したおび、ふんどし。
ものしづか(形) 物靜、幽靜、幽閑、閑靜、寂寥、凄涼、寂寞、さびしき、おとなき。

ものび(名) 物日、いはひび(祭禮などの日をいふ)、もんび。
ものもらひ(名) 物貰、乞丐人、乞兒、かたゐ、こじき。
ものもらひ(名) 偸針眼(眼疾の名)。
ものものしき(形) 物物敷、をこがましき、こしやくな。
ものす(他) 爲、行、する、なす、つくる。
ものすごき(形) 物凄、凄愴、凌兢、ものすさまじき、うすきみわるき。
ものずき(名) 物好、物數奇、好事、ものめで、ものごのみ。
もく(名) 木、き(此字と合して成る語にして此になきものは「ぼく」の下に就いて見る可し)。
もく(名) 木工、木理、きめ。
もく(名) 木工、たくみ、だいく。
もく(名) 目(碁にいふ詞)。
もぐ(他) 扱、もぎとる。
もくいう(名) 默祐、かみのたすけ、天祐。
もくろむ(自) 目論見、估計、かんがへる、はかる。
もくろく(名) 目錄、かでうがき、しながき、掲貼、十又金子、しなものしろ。
もくろみ(名) 工夫、くふう、くわだて(「もくろむ」を見よ)。
もくは(名) 木把、こまざらひ。
もくば 木馬(木にてつくれる馬)。
もくはい 木盃、きのさかづき。
もくぼじ 木母寺(東京向島の梅若寺を云ふ)。
もくべつし(名) 木鼈子、木鼈(植物)。
もくへう(名) 目標、めじるし、めあて、目的。
もくさ(名) 目途、めあて、あてど。
もくざ(名) 木蠹、みのむし(動物)。

もくざ(名) 木兎、づく、みみづく(動物)。
もぐり(名) 蒙古(もうこ)(國の名)。
もぐり[俗](名) 私商、密商(稅を出さずして業を營むもの)。
もぐる(自) 潛、くぐる、ひそむ(木などの下に)、十しのぶ。
もくか(副) 目下、まのあたり、いま、ただいま。
もくか(名) 木瓜(紋の名)。
もくかう(名) 木香、きのな(植物)。
もくかく(名) 木核、このみのさね、たね。
もくよく[する] 沐浴、かみあらひゆあみする、十あびる。
もくよくい(名) 沐浴衣、ゆかた。
もくだい(名) 目代(昔時國守の赴任せざるとき代理となりて其國に赴きしもの)。
もくたう(名) 木桃、くさぼけ(植物)。
もくたう[する] 默禱(心の中に神にいのるをいふ)、だまりていのる。
もくたん(名) 木炭(木をやきて造りたる炭)、十また泥炭。
もくれい(名) 木靈、こだま(樹の靈たる神物)。
もくれい(副) 默禮(言葉を出ださずして唯禮をすること)。
もくれい(名) 目禮、ゑしやく、あいさつ(挨拶の一)。
もくれいろ(名) 木藜蘆、はなひりのき、うじけし(此枝葉を糞桶中に投ずれば蛆は遂に死滅し且つ臭氣を止む)(植物)。

[木藜蘆の圖]

もくれん 目蓮(釋迦十大弟子の一にして神通第一なるもの)。
もくれん(名) 木蘭、木蓮華、木蘭、もくらん、むくらん(植物)。
もくれんじ(名) 木槵子、もくげんじ、むくろじ(植物)。
もくそう[する](他) 目送、みおくる、あとをながめる。
もくそう(名) 木藏、かりぎ(植物)。
もくづ(名) 藻屑、水中のごみ。
もくづがに(名) 螃蟹、づがに(動物)。
もくつう(名) 木通、あけび、萬年藤、あけびかつら(植物)。
もくねん(形副) 默然、だまりて、ものいはぬ。
もくら(名) 木螺、みのむし(動物)。
もぐら(名) 鼴鼠、うぐろもち、をぐらもち、うぐら、鼹鼠、土龍(動物)。
もぐら(名) 葎、むぐら、ホツプ(植物)。
もくらん(名) 木蘭、いたち、しちくれんげ、さられんげ、杜蘭、木蓮、林蘭、黃心、もくれんげ、もくらに(植物)。
もくらんいろ 木蘭色、黃橡色(染色)。
もくくわ(名) 木瓜、ぼけ、しどみ(植物)。
もくくわ[する](自他) 默過、だまりてとほる、十とがめずにおく。
もくくわい[する](他) 默會、いはずしてさとる、こころにさとる。
もくくわいきん(名) 目潰菌、めつぶしたけ(「ぼつこ」を見よ)(植物)。
もくくわせき(名) 木化石(石に化したる木)、きのくわせき。

もくぐう(名) 木偶、にんぎやう、木像。
もくまんぢう(名) 木饅頭、まさきのかづら(植物)。
もくげ(名) 槿花、木槿、はちすむくげ(植物)。
もくけい[する](自) 默契、よくあひしる、投合。
もくげき[する](他) 目擊、めにみる、目睹。
もくげんじ(名) 木槵子(木欒子に同じ)。
もんげんじゆ(名) 木槵樹(植物)。
もくふよう(名) 木芙蓉、きばちす、地芙蓉、木蓮、拒霜(植物)。
もくぶつ(名) 木佛、きぼとけ、木像。
もくご(名) 目語(目づかひにて互に意志を通ずること)。
もくこう(名) 沐猴、さる(動物)(人の衣冠を着くるも其心の人にあらざるものを稱して沐猴にして冠すといふ)。
もつとく(名) 木斛、厚皮香(植物)。
もくこん(副) 目今、ただいま、さしあたり、目下。
もくてき(名) 目的、めあて、めじるし、まと。
もくてんれう(名) 木天蓼、またたび(植物)。
もくざ[する] 默坐、だまりてすわる、兀坐。
もぐさ(名) 艾、よもぎ、さしもぐさ、醫草、艾蒿、十また燈炎、きうぐさ(植物)。
もくざい(名) 木材、ざいもく(築造に用ふる爲めに山林より伐り出したる木)、きぐち。
もくさつ[する](他) 默殺、相手にせずして無言の中にはうむり込む。
もくざう(名) 木像、きのかたち、きのぐうざう、でくのぼう。
もくきくに(副) 孜孜、しげりきかえて(樹が)。
もくさん(名) 目算、默算、めぶんりやう、みつもり、心算、胸算。

もくきよ(名他) 默許(其ことを知つて許めざるをいふ)、いはずしてゆるすこと。
もくぎよ(名) 木魚、魚鼓(讀經念佛の時佛前にてたたく木器其形に取りて俗に赤鱏の頭を木魚頭などと綽名す)。
もくきん(名) 木錦、はんや(植物)。
もくきん(名) 木琴(清樂音曲の器にて許多の狹板より成る)。
もくめん(名) 木綿(「ゆふ」を見よ)。
もくめんくわ(名) 木綿花、ゆふばな(植物)。
[もくめんふてう](名) 木綿附鳥、ゆふつけどり、鷄(動物)。
もくみ(名) 木魅、こだま、木靈。
もくし(名) 目眥、まなじり、めじり。
もくし(名) 目指、めくばせ。
もくし(名)、—する(他) 默示(天の啓示をいふ)。
もくし(名) 木子、きのみ、このみ。
もくじつ(名) 木實、このみ、きのみ。
もくしやう(名) 目影、かんばん。
もくしやう(名) 木匠、だいく、たくみ、こだくみ。
もくしやく(名) 木芍藥、ぼたん、なとりぐさ(植物)。
もくしゆく(名) 苜蓿、牧畜の飼料に供し又は田畑の肥料となすによき草、うまごやし(植物)。
もくじき(名) 木食、仙人などの如く木の果のみを食ふこと。

[苜蓿の圖]

もくじきそう（名）木食僧　穀物を絶ちたる僧、休糧僧。
もくえうじつ（名）木曜日　七曜日の一つ。
もくえふ　木葉、このは、きのは。
もくえふせき（名）木葉石　このはいし　樹の葉の化石。
もくひつ（名）太筆、こぶし、辛夷（植物）。
もくもく（形）曖曖、むくむく、默默、いはず、だまりて。
もくせい（名）木犀、九里香、桂樹、かつら、銀桂（植物）。
もくせい（する）（自）目成、めくばせする。
もくせい（名）木星（太陽系の星の一）。
もくせい（形名）木精、メチルアルコル。
もくせう（名）目笑　目もとに笑ふ意のあちはるること。
もくせん　目前、めのまへ。
もくする（自）默、だまる、無言、ものいはぬ。
もや（名）母屋、おもや、身屋、身舎、また家ののより内をいふ。
もや（名）蒸騰気、霧、霧、きり。
もやう（名）模様、文彩、花模、花文、かた、十又ありさま、やうす。
もやし（名）豌豆、めだし　野菜の一、十種、黄巻、銅錢米麥大豆の。
もやしむぎ（名）麥牙、めだしむぎ。
もやしまめ（名）萌豆、まめのもやし。
もやひ（形）舫　両つの船を並べてしばること。
もやひぶね（名）舫舩、ふたつならべたるふね。
もやもや（形副）靄靄、昏昏、きふさぎて、むしやくしや。
もやす（名）燃、焚、やく、やきうしなふ。
もけい（名）模型、いがた、かた。
もぶね（名）喪舩　棺を積み柴せたる船。
もふく（名）喪服　忌中に着る衣。
もこ（名）許、ところ、もと。
もこ（形）粗糲、わからぬ、あやふや、曖昧、あきらかならぬ。
もころも（名）稍貴夫人の裙。
もころ（名）真胡兒　蕃國の名、もうる、蒙古。
もことよふ（自）蝟蝟　はふ、うごめく。
もてはやす（他）持囃、はめたてる。
もてなやむ（自）懊、くるしむ、あつかひなやむ（如何せんと惑ふ。
もてなし（名）接待、ちそう、あしらひ、接遇、待遇、歓接、饗應、待遇、接待、ちそう。
もてなす（他）歓待、歓接、饗應、待遇、接待、ちそう。
もてくる（他）持来、携来、もちくる。
もてあがむ（他）崇、たうとむ、うやまふ。
もてあそぶ（他）玩、翫、弄、玩弄、按弄、もちてなぐさむ、もちてたのしむ。
もてあそびもの（名）玩物、弄物、翫巻、戯具、もちもや。
もてあます（他）持餘、てにあまる。
もてぎ　茂木、もぎ氏。
もてぎまち　茂木町　下野國芳賀郡の町名。
もてなす（他）款待、歓接、饗應、待遇、接待、ちそう。
もてなし（名）接待、ちそう、あしらひ、接遇、待遇、歓接、饗應、待遇、接待、ちそう。
もてなす（他）款待、歓接、饗應、待遇、接待、ちそう。
もてくる（他）持来、携来、もちくる。
もてあがむ（他）崇、たうとむ、うやまふ。
もてあそぶ（他）玩、翫、弄、玩弄、按弄、もちてなぐさむ、もちてたのしむ。
もてあそびもの（名）玩物、弄物、翫巻、戯具、もちもや。
もてあます（他）持餘、てにあまる。
もてぎ　茂木、もぎ氏。
もてぎまち　茂木町　下野國芳賀郡の町名。
もさく（する）（他）掻爬、かきまぜる、たびねさがす　暗中摸索などいふ。
もさぐち（名）案内者、あんないにん　旅店などより出す。
もさ　茂木、もてぎ氏。
もさ（名）喪葬　喪中に用ふる衣をいふ。
もさ（名）緻蓑　蝦人の始めて蓑を着ること又其ときの祝。
もさり（する）（自）攫攫、にせる、まねる、かたどる。
もさる（他）（俗）（形）無縫道、非道、むりなる、みちならぬ。
もさだち（名）孤えだをもさとりたる木、荒木。
もゆるつち（名）鰡土、泥滓、石灰。
もゆるみづ（名）鰡水、石灰曲、石灰油。
もめん（名）木綿、きわた、わた。
もめんいと（名）木綿糸、綿織、わたいと。
もめんはちぢやう　木綿八丈（織物の名）。
もめんおりもの　木綿織物、もめんもの。
もめんだな（名）木綿店、布店、ふとものや。
もめんづる（名）木賃民、くさの一種の植物。
もめんもの（名）木綿布、もめんもの、もめんのぬの、ふともの。
もみ（名）籾、きのな（植物）。
もみ（形名）絳紅、緋、あか、十紳用、緋絹、あかぎぬ。
もみ（名）籾、穀（外皮を去らぬ米、もみよね。
もみはごす（名）機械、もみはどく、もみとく。
もみぶるひ（名）籾篩、もみふるひ（器名）。
もみぢ（名）楓、かへで、かへる（植物）。

もみぢ（名）紅葉、楓蘭、丹葉、賞葉、あかきは木また千葉子の名。
もみぢばの　紅葉之ごと移りいぬれば、すぎにし君、すぎがてぬことなどの枕詞。
もみぢさり（名）紅葉鳥（動物）。
もみぢわた（名）蝦手綿　木綿の名にして其形かへでの葉の如し。
もみぢがり（名）紅葉狩　もみぢを見に行くこと、もみぢけんぶつ。
もみぢがさ（名）鬼見傘、もみぢさう（植物）。
もみぢたけ（名）樅蕨、きのこの一種。
もみぢぐさ（名）源来紅、はげいとう（植物）。
もみぢやま　紅葉山　江城の吹上築苑の東に在る山をいふ。
もみぬか（名）籾糠、籾米の外皮。
もみかは（名）揉革、やはらかなるかは。
もみがら（名）籾殻　穀物の外皮。
もみよね（名）籾、もみごめ。
もみだね（名）籾種、いねのたね、穀種。
もみれうじ（名）揉療治、あんまとり。
もみやぐら（名）穀蔵、籾蔵、もみいれるくら。
もみやはらげる（名）揉軟、揉和、もみはぐす。
もみけす（他）揉消、もみてきえしむる　火を。
もみふるひ（名）篩、篩頭、もみひるうちは。
もみこむ（他）揉込、もみいれる。
もみあげ（名）耳前毛、みみのまへのけ。
もみすりうす（名）碾穀磨、碾碓、もみひくうす。
もし（副詞）若、如、儻、倘、設、ひよつとして、あるひは、もしくは。
もし　申、もうし、人の注意をよぶ辞（もしもしを見よ）。
もし（名）親子貝底（からむしの皮にて織れる織物にて夏日の羽織地などに用ふ）。
もじ（名）文字、もんじ、ふでのあと。
もじほ（名）蘆蘆蔵　蘆蘆を列ねあつめて之に幾度もそそぎかけたる潮を云ふ、昔しは蘆をたくには斯くして此蘇を焼きて鹽を得たりといふ、歌に多く蘆鹽やくといふ句見ゆ。
もしほぐさ（名）蘆蘆草、蘆草（和歌に用ふる詞、藻草なる蘇を列ねあつめて之に潮水を幾度も注ぎかけて乾したるもの、昔しは蘆をたくにこれを用ひたりと云ふ、世にこれを文學の稱に用ふ、是れ蘆の義には美しき文あるに因る、支那にても詞藻天蘇藻采文藻など云くものあり）。
もしほさし（名）蘆蘆木　蘆蘆をかけて乾す木をいふ、十六日夜日記に箱根山の麓なる早川にて、木の多く流るるを如何にと問へばあまの蘆蘆木を諸へ出さんとて流すなりと云ふと見ゆ、或は云ふ蘆蘆をたく薪なりと。
もじかう　門司港、文司港、豊前國企救郡の海港にして長門の赤間ケ關と相對す、九州鐵道の起點。
もしくは（接續詞）若、儻、或、あるひは。
もじぐさり（名）文字鎖　もとじ、もとじとり、枯頭鎖尾（前の句の終りの文字を直に次の句の初に加へ斯くして長く續くるをいふ）。
もしや（副）若哉、ひよつとして、あるひは。
もしや（する）（他）幕窺、うつす、しきうつしにする、醫者。
もしもし　申申（まうしまうしの略語にて人の注意を呼ぶに用ふ。
もじもじ（する）（俗）翅擧體や手を取ちひたるなどに動かすをいふ。
もじすり（名）門司親　豊前國企救郡門司關より田ブゝ迄の親、また文字摺親と書く。
もじる（自）萌、萌生、きざす、めざす、めぐむ。
もえたつ（自）燃、焼、やける。
もえたつ（自）燃立　やける、やけたつ。
もえつく（自）燃着、もえあよぶ。
もえくさ（名）燃草、燃草、やきぐさ、もゆるしなもの、もゆるたね。
もえくひ（名）燼、もえさし、やけぼくひ。
もえあがる（自）燃上、もえたつ、さかんにもゆる。
もえさし（名）餘燼　燃片、もえくひ、やけぼくひ。
もえぎ（名）萌木、わかばのでたるき、萌黄、緑色　染色に云ふ、青色と黄色との間色。
もひざり（名）水、みづ　古語。
もひざり（名）水取、水主、主水、もんど。
もも（名）桃、仙冢花（植物）。
もも（形名）百　十を十合せたる數、十ひやく、十又大數の意に用ふ。
もも（名）股、脾、腿部の上の太き處、また腿の花の如き色をいふ。
ももいろ（名）桃色、桃紅、粉紅　染色の名にて桃
ももるがわ　百井川　山城國大悲山に發し近江國船木川に入る。
ももはがき（名）百羽掻、はうつこと（ももはくの鳥が一時に）。
ももほほづき（名）沙蟲（動物）。
ももどり　百鳥、もろもろのとり。
ももざり　百儀百味の飲食をいふ。

ももさせ　百年、百歳、百世、百代、もも上。
ももちどり（名）　百千鳥、もはくのちどり。
ももぬき（名）　股貫、ももひき。
ももか（名）　百箇日、くひそめ（生れて百日目或は百廿日目若くは百廿日目に小児にものを食はするの祝をいふ）、ももかのいはひ。
ももが（名）　蚤虱、わさはひ、けものの名。動物。
ももかのいはひ（名）　百日祝、くひそめのいはひ、ももか、くひそめ、百歳見。
ももたち（名）　股立、袴を高く上にたくりあぐるをいふ。
ももたらず　不足百（いつき、「いかだ」「やそくまで」「やそまのき」「山田の道守の枕詞。
ももぞのてんわう　桃園天皇、人皇第百十六代の帝、紀元二千四百〇七年、西洋紀元一千七百四十七年）より二千四百二十二年迄、在位十六年（御薨二十二歳にして崩ず。
ももつたふ　百傳（いはれ「つぬか」「ぬて」「やそのしまわ」「わたらひあがたなどの枕詞。
ももね（名）　股根、ももの つけね。
ももねがに（副）　桃井氏、。
ももの　桃に、桃奴、ももの たね。
ももやま（名）　桃山（山城國紀伊郡に在る山、伏見山又は城山とも稱す。
ももよ　百代、百歳、百世、百代、もも上。
ももちどり（名）　百千鳥、もはくのちどり。
ももぬき（名）　股貫、ももひき。
ももか（名）　百箇日、くひそめ（生れて百日目或は百廿日目若くは百廿日目に小児にものを食はするの祝をいふ、ももかのいはひ。
ももが（名）　蚤虱、わさはひ、けものの名。動物。
ももかのいはひ（名）　百日祝、くひそめのいはひ、ももか、くひそめ、百歳見。
ももたち（名）　股立、袴を高く上にたくりあぐるをいふ。
ももたらず　不足百（いつき、「いかだ」「やそくまで」「やそまのき」「山田の道守の枕詞。
ももぞのてんわう　桃園天皇、人皇第百十六代の帝、紀元二千四百〇七年、西洋紀元一千七百四十七年）より二千四百二十二年迄、在位十六年（御薨二十二歳にして崩ず。
ももつたふ　百傳（いはれ「つぬか」「ぬて」「やそのしまわ」「わたらひあがたなどの枕詞。
ももね（名）　股根、ももの つけね。
ももねがに（副）　桃井氏、。
ももの　桃に、桃奴、ももの たね。
ももやま（名）　桃山（山城國紀伊郡に在る山、伏見山又は城山とも稱す。

ももげ（名）　膕、膕筋、脚の膕胃をいふ、
ももよろひ（名）　腿甲、ももよろひ。
ももき（名）　楊梅木、植物。
ももじり（名）　桃尻、馬上にて能くすわらぬ者。
ももしき（名）　百敷、百磯城、禁裏をいふ、また大宮人の枕詞。
ももひき（名）　股引、あしふくめ。
ももんぢい（俗）（名）　妖怪、妖物、ばけもの。
ももす（俗）（他）　燃、もやす、火を、焚、
もず（名）　鵙、鶫、百舌鳥、伯労、鵙、ささきをとど、
もず　方代氏、
もすそ（名）　裳、裙、裲、つま、すそ。
もん（名）　門、かど（大礒を數ふるにも用る語、大礒一門などいふ。

もんん（名）　紋、いへしるし。
もんるん（名）　門閥（天子の御生母の尊稱）。
もんろ（名）　紋綾（織物の名、
もんば（名）　紋羽（厚き織物にして表に毛狀の物を出す、足袋、腰巻などを作るに用ふ、
もんば（名）　門扇（諸邸宅等の門の扉、
もんばつ（名）　門閥、いへがら、門閥、門地、門柄。
もんばう（名）　門牓、かどふだ。
もんばり（名）　門張、いへすぢ、いへのはまれ。
もんばん（名）　門番、かどもり（門を守る人、門人、守門。
もんにん（名）　文人（ぶんじん、文章家、文章を能くする人）。
もんべつこぼり　紋別郡（北見國の郡の名）。
もんべう（名）　門徒、でし。
もんさ（名）　生水、もひとり。
もんどり（名）　竹籠（魚とる具）。
もんどり（名）　鬱、とんぼが へり、觔斗。
もんどづかさ　主水司（官名、唐にて上林署といふ、或は膳部署といふ、もりのつかさ。
もんどう（名）　門道（古の門の開き口をいふ、
もんどのつかさ　主人司（古の宮内省の被官。
もんどくてんわう　文德天皇、人皇第五十六代の帝、紀元一千五百十一年（西洋紀元八百五十一年）より一千五百十八年迄、在位八年（御薨三十二歳）。
もんどころ（名）　紋所、服紗、いへのもん。
もんち（名）　門地、いへがら、もんばつ。
もんち　聞知、たづねしる、とひしる。
もんちりめん（名）　紋縮緬（紋のある縮物ちりめんを見よ。
もんちう（名）　門胃、いへがら、よきいへすぢ、門閥。
もんちやう（名）　紋帳（各種の紋の形を記したる帳面。
もんちやく（名）　聞着、紛爭、ごたつき、もめ。
もんちゆう（名）　聞注（公事訴訟を聞くをいふ、
もんちゆうしよ（名）　聞注所（昔しの裁判所、
もんりう（名）　門流、いへがらのしそん。
もんか　門下（師或は若の家をいふ、
もんれり（名）　紋織（紋を浮織にしてあらはし出したるもの。

もんかく（名）　門客（食客をいふ、
もんがまち（名）　門構、門槇、もんのわく、
もんかん（名）　門鑑、でいりあらためふだ、門符、
もんだい（名）　聞題、とひ、たづねきことがら、疑問、
もんたちはね（名）　猜手、みやましきみ（植物）、
もんたく（名）　門鐸、あんないすず、
もんだふ（名）　聞答、とひとこたへと、
もんだん（名）　文段、ふみのことばと、文句、
もんもう（名）　門網、門構、かどび、
もんぞく（名）　門族、いちもん、いちるい、つづきがら、しんるい、
もんつきごもの　童服、ずやうもんつきのきもの、袖無、
もんね　門奈氏、
もんない　門内、もんのうち、
もんむてんわう　文武天皇、人皇第四十二代の帝、紀元一千三百五十七年（西洋紀元六百九十七年）より一千三百六十七年迄、在位十一年（御薨二十五歳）、
もんう（する）　聞覚、もだへふさぐ、
もんのかぶら　聞冠、門冠、もんのうへのよろひ、
もんのしきみ　門閫、ふみ、
もんく（名）　文句、ことば（文章の言句、
もんく（する）　聞苦、もだへくるしむ、
もんぐわいかん（名）　門外、かどのそと、
もんぐわいかん（名）　門外漢（何にても其道に入ざる人をいふ、
もんぜう（名形）　文實、もじよめず、あきめくら、無學、
もんげん（名）　門限、けはなし、もんのしきゐ、

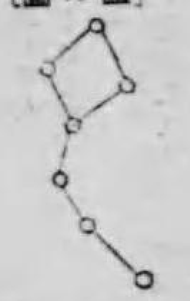
もんげん（俗）（名）　門限（夜中門を閉づる時刻の隔りをいふ、
もんふだ（名）　門牓、もんのでいりのふだ、もんにかくるふだ、
もんぶたいじん　文部大臣（文部省の長官、
もんぶしやう　文部省（文事教育を監督する官省、
もんこ（名）　門戸、かどぐち、
もんこかいはう　門戸開放（一國の富源や貨物を得く天下の人の濟りとるに任すること、
もんてい（名）　門庭、でし、門生、
もんさい（名）　文才（悟賀文章に才氣あるをいふ、ぶんさい、
もんざいのし　聞蘖之地（つみをただすいくさ、
もんさう（名）　文草、したがき、
もんさう（する）（自）　聞綴、もだへ、もだえ、
もんさん（名）　門産、もんのかんぬき、
もんさんきりがた（名）　紋切形、もんのかたち、さだまり、もきまり、常套、
もんさよ（名）　文魚（動物、
もんさよくせい　文曲星（ぶんきよくせい）（北斗の第四星、
もんめ（名）　匁（重數の名、
もんし（名）　聞死、もだへじに、
もんし（名）　文字、もじ、鳥跡、
もんしよ（名）　紋紗（薄地紗織物の名、
もんじや（名）　問者、とふもの、
もんじやうはかせ　文章博士（大學寮の官名、相當從五位下、唐の翰林主人、翰林學士に同じ、

もんじやく（名）　文雀（しよう、舊稱、
もんしゆ（名）　門守、かどまもり、かどぐちばん、
もんしゆ（名）　門主（親王皇族にて寺に入られたるをいふ、門跡、
もんじゆがび（名）　文殊尻（ひるくび動物、
もんじゆらん（名）　文殊蘭（はまゆふ、はまをもと（植物、
もんじん（名）　門人、でし、をしへご、
もんえふ（名）　門葉、いへわかれの すえ、
もんび（名）　紋目、いはゆる紗目として衣服を等かくなどする日、四ち四の市馬美麗等などの遊里に於けるが如きをいふ、ものび、
もんび（名）　門扉（諸邸門上の構造、かどぐち、
もんびき（名）　桃花匠、かざりひき、
もんせい（名）　門生、でし、門人、
もんせつ（する）（自）　聞絕、たえいる、きをうしなふ、もだへ、なだえる、
もんぜき　門跡（皇族にて僧と成られしものの稱）、
もんせき（名）　門蹟、もんのあと、
もんせん（名）　門前、もんのまへ、
もんぜん　是（ぜの父音とえ）、是は、ぜの父音とえ）の母韻と合して生ずる音にして五十音の中には第三行第五段に位す、

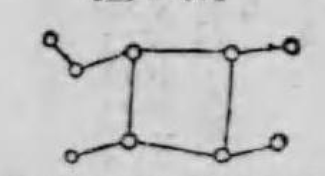
せ

せ（名）　兄、あに（古語）、
せ（名）　夫、をのこ（古語）、をとこ、十をつと、
せ（名）　背、そびら、せなか、
せ（名）　曙、きぬれ（古語）、
せ（名）　紘（三十歩をいふ、
せ（名）　綱、はやせ河の瀧の綱なる歟、
せ（名）　是、とし、

せい（形名） 正、ただしき、十まむき、ただむき、十本正副の正（、十ただしきこと（「しやう」を見よ）。
せい（形名） 聖、かしこき、よのつねならぬ、十きよき、十又ひじり、聖人。
せい（名） 星（二十八宿の一にして南方に位す）、ほとほり。


［星の圖］

せい（形名） 生、いける、十又いきもの。
せい（名） 背、ひと又もののたけ、せたけ。
せい（名） 性、たち、さが、性質。
せい（名） 姓、めうじ（苗氏）、うぢ。
せい（名） 井（二十八宿の一にして南方に在り）、ちちり。


［井の圖］

せい（する）（他） 征、うつ、せめうつ、征伐。
せい（形） 青、あをき。
せい（名） 聲、こゑ、十おと。
せい（形） 清、きよき、すがすがしき。
せい（名） 勢、男陰、へのこ、睾丸。
せい（名） 勢、いきほひ、十ありさま。
せい（形） 精、くはしき。
せい（名） 制、さだめ、きそく、おきて、制度。
せい（する）（他） 制、つくる、たてる（法度などを）、十又おさへる、とどめる、しづめる、鎭（人心騷亂などを）、十とる、うる（勝を制するなどいふ）。
せい（名）、—する（他） 製、つくり、こしらへ、作、十又つくる、こしらふ、製造（御製とは天子の御作をいふなり）。
せい（名） 正（算術にて加（プラス）を正と名づく、負に對するなり）、よせざんのしるし。

せい（名） 旌、はた、はたじるし（此に掲げたるは漢土のものなり）。

［旌の圖］

せゐ（俗）（名） 所爲、しわざ、なすこと。
せい（名） 税、ねんぐ、みつぎ。
せい（形）、—する（他） 贅、むだ、いらぬ、無用、むだをいふ、よけいなことをいふ。
せいい 聖意、みこころ、叡慮（天皇の御意）。
せいい（名） 誠意、まごころ。
せいい 征夷、えびすをうつ。
せいいたいしやうぐん 征夷大將軍 上古蝦夷を征する爲めに發遣せられし軍の大將、また武家時代の主宰者の職名。
せいいつ（形） 精一、ひとすぢなる、まじりなき。
せいいく（する）（自） 生育、うまれそだつ。
せいゐき 西域（天竺をいふ）、印度。
せいいん 晴陰、はれくもり。
せいゐん 正院（しやうゐん）（太政官に在りし官局の名）。
せいろ 正路、おほみち、おほぢ、十ただしきみち。
せいろ 世路、よのみち、よのならひ。
せいろ（名） 精廬、がくもんじよ。
せいろう（名） 井樓、樓櫓、やぐら。
せいろう（名） 青樓、ぢよろや、あげや、妓樓。
せいろう（名） 蒸籠、井樓（飯などを蒸す器）。
せいろく 世祿、よよのとりだか（世襲の食祿）。
せいろん 世論、よのひとのあげつらひ、せけんのひやうばん。
せいろん 錫蘭（印度國の南の島の名）。
せいはい（名） 旌旆、はた。

せいはい 成敗、できるできぬ、なるならぬ、成不成、十又（俗）せいばい（、さばき、裁判、刑罰。
せいばい（名） 成敗（政事を行ふこと）、十こらしめ、しおき、十斬りすつること。
せいばいば（俗）（名） 成敗場、刑場、法場、ひときりば、しおきば。
せいばつ（する）（他） 征伐、せめうつ、うつ、せむる、征討。
せいはう 西方、にしのかた、兌。
せいばう（名） 聲望、ほまれ、よきな。
せいばう（名） 齊房、うゑきぐら（植木を養ひ育つる温き房室）、養樹園、十むろ。
せいばく（する）（他） 生縛、いけどる、しばる、からめとる。
せいばく（名）、—（する）（他） 制縛、しばること、しばる（人身を）。
せいはふ（名） 政法、まつりごと。
せいはふ（名） 性法（天然法を云ふ）、自然法、天法。
せいはふ（名） 正法、ただしきのり。
せいはふ（名） 製法、こしらへかた。
せいはふ（名） 成法、さだまれるおきて。
せいはふ（名） 税法、ねんぐとりたてかた。
せいはん（名） 正犯、はつたうにん、ちやうはん。
せいばん 西蕃、にしのえびすぐに。
せいばん（名） 生蕃（未だ王化に歸服せざる野蠻をいふ）。
せいにく 生肉、なまのにく、なましし。
せいにく（名） 贅肉、いぼ、あましし。
せいほ（する）（他） 生捕、いけどる、いかしてとらへる、生擒。
せいぼ（名） 生母、うみのはは、まことのはは。

せいばう（名） 星芒、ほしのひかり。
せいばう（名） 菁茅、かりやす（植物）。
せいぼ（名） 歳暮、としのくれ、年末、歳晩、年底、十また（俗）くれのおくりもの。
せいぼう（名） 睛眸、ひとみ、くろめ。
せいほんや（名） 製本屋（書籍を造る家また其人）、釘書工、装釘師。
せいほんし（名） 製本師、釘書工、ほんつくり、ほんとぢや。
せいへい（副） 生平、つねづね、平生。
せいへい（名） 精兵、すぐれるつはもの。
せいへい（名） 生兵、あらて、あたらしきつはもの、十しんざんのへい（未だ訓練せざる兵）。
せいへいきう（名） 世平弓、かざりゆみ。
せいへう 世表、よのほか、世外。
せいへう（名） 青瓢、ゆふがほ（植物）。
せいへう（する）（他） 旌表、あらはす、しめす（德行などを世に公けに）。
せいへうし（名） 生瓢子、なりひさご（植物）。
せいへき（名） 青壁、あをかべ（山の側面の青青と高く聳えたるを壁になぞらへたるなり、青壁萬仞などいふ）。
せいへん（名） 世變、よのうつりかはり。
せいと（名） 生徒、でし、まなびて、書生。
せいと（名） 聖徒（耶蘇教にて其宗門中の達德なる人をいふ）。
せいど（名） 制度、おきて、のり、さだめ。
せいとう（名形） 正統（しやうとう）、ただしきちすぢ（王家などにいふ）、ただしきすぢめ。
せいとう（名） 井筒、ゐづつ、ゐどがは、ゐどのつつ。

せいどう（名） 成童（童子の十五才なるをいふ）。
せいどう（名） 青銅、からかね、十青錢。
せいとうやじん 齊東野人（物を知らぬ田夫野人、孟子に見ゆ）。
せいとうけう 正統教、ただしきすぢめのおしへ（異端に對す）。
せいとうきん（名） 青頭菌、はつだけ（植物）。
せいとうし（名） 青銅子、ぜに、おあし。
せいとく 聖德（天子の御德などを美稱する詞）。
せいとく 盛德、さかんなるとく。
せいとく（形） 生得（しやうとく）、うまれつき。
せいとん（する）（他自） 整頓、ととのふ、そろふ。
せいち（形） 精緻、めんみつなる、こまごましき。
せいち（名） 聖知、さとり、かしこさ。
せいち 棲遲（官につかへずして田舍にすむこと）、ゆつたりとあそぶ。
せいぢ（名） 政治、まつりごと、政事。
せいぢか（名） 政治家（政治に志す人、政治に長じたる人）。
せいぢがく（名） 政治學（政治の理を研究する學）。
せいちよ（名） 齊女、せみ（動物）。
せいちよう 盛寵（大に寵愛せらるるをいふ）。
せいちよく（名） 聖勅、みことのり（天子の御命）。
せいちよく（形） 正直（しやうぢき）、なほき、ただしき。
せいちう（名） 正中、ただなか、まんなか。
せいちう（名） 誠忠、ちうぎ、まめやかなること。
せいちう（名） 精衷、まことのこころ、まごころ。
せいちう（名） 正晝、まひる、日中。
せいちう（名） 成蟲（既に育ちて本當の形をなせる昆蟲）。

せいちう（名） 青紬、綢、りゆうもん、精紋（織物の名）。
せいちう（名） 精蟲（精液の中に在る細蟲）。
せいちう（する） 掣肘（自由にさせぬ）。
せいちく（名） 筮竹、めどぎ、うらなひだけ（卜者が用ふる細竹）。
せいちく（名） 成竹（かねての計畫）、せいさん。
せいちや 製茶、ちやをこしらふる。
せいちやう（名） 正廳、しようゐん（王公貴人の客座敷をいふ）。
せいちやう（する）（自） 成長、ひととなる、そだつ、おとなとなる。
せいちゆう（する）（他） 征誅、うつ、つみする。
せいちん（する）（自） 靜鎭、しづまる。
せいり（名） 生理（動物の生活する道理）、十又すぎはひ、なりはひ（支那の通俗語）。
せいり（名） 性理（天理人道をいふ）、形而上學。
せいり 正理、ただしきすぢ。
せいり（する）（他） 整理、ととのふ、をさむる。
せいり（名） 税吏（税關の官吏）。
せいりがく 生理學（生理を究むる學）。
せいりよ 聖慮、おぼしめし（天子の）。
せいりよく（名） 精力、ちから、いきほひ（身體の）氣力、元氣。
せいりよく（名） 勢力、いきほひ、ちから。
せいりつ（する）（自） 成立、なりたつ、できる。
せいりつ（名） 税率、ぜいきんのわやす。
せいりう 清流、きよきながれ。
せいりく（する） 征戮、うちほろぼす（賊などを）。
せいりやう（形） 清涼、すずしき、すがすがしき。
せいりやう（形） 淒涼、ものしづか、さびしき、さ

なれたる。

せいりやうざい（名）清涼剤（涼しくする飲物。

せいりやく（する）〔他〕省略、はぶく、りやくす。しやうりやく。

せいりゆう（名）青龍、くるまつ（動物）。

せいりん（名）井輪、ものだがは。

せいりん　生鱗、いけるうを。

せいれる（名）生猟、いけるもの、いきもの。

せいれん　聖恩、天子の御めぐみ。

せいれん（形）精清、ものどりなきこと、よきこと。

せいろん（名）青岡楡、なら（植物）。

せいわうぼ（名）西王母、仙女なり、前漢の時武帝に桃を奉りしが味甚だ美なり帝其核を植えんと宣ひしに王母の曰く此桃三千年に一度花咲き實のるのみ、一つ食すれば三千年の齢を保つと、東方朔此の桃を三つ盗み食せりとぞ。

せいわてんわう　清和天皇、人皇第五十六代の帝、紀元一千五百十九年（西洋紀元八百五十九年）より二千五百三十六年迄、在位十八年、御齢三十一歳にして崩ず。

せいわ（名）盛衰、なつざかり、なつのもなか。

せいわ（名）聖儀、ひやうばん、ほまれ。

せいわ（名）星河、あまのがは、銀漢。

せいわ（名）勢家、いきほひあるいへ、權門。

せいわ　正儀、まことのあたひ、はんねだん、實價。

せいわ（する）〔他〕青蝦、しばえび（動物）。

せいわ（する）〔他〕制可、ゆるす、裁可（帝王が）。

せいわかいは（名）青海波、雅樂の曲名、また青海波の舞樂に用ふる服の織模様。

せいわから（形）精巧、たくみなる、てきはよき。

せいわう（名）井椀、ものだがは、井欄。

せいわかん（形）清閑、しづか、ものしづか、もだやか、かんせい。

せいわん　聖顔、天子の御顔をいふ、龍顔。

せいわん（する）〔自〕征行、ゆく、十又せいゆく。

せいわん　精好、くはしき、たくみなる。

せいわん　よきさかな、鰯等。

せいわん　政綱、政策のおほもと。

せいわん（名）精好、ものどりのなき動物。

せいわん（名）精好、ものどりのなき（絹の類にて織地陸前羽前及び越後等より織り出だす。

せいわんじゆ（名）青岡櫟、なら（植物）。

せいわん（形）正確、たしか、かたき、あやまりなきただしき。

せいわん　精審、よきさかな、皆同の謂現意をいふ。

せいわん（形）正大、もつてはれてただしき、もはやけにてゆだかりなき。

せいわん（形）雄大、きかんなる。

せいわい　聖代、當時の帝王の徳を譽めて其時代を美稱する語。

せいわい（名）世代、よ、ときよ。

せいわか（俗）（形）身代、身のたけの高さをいふ。

せいわう（名）政治、一定の主義を政治上に主張する政黨。

せいわう（形）正當、ただしくあたれる正義の當然をいふ。

せいわう（する）〔他〕征討、うつ、せうつ、賊などを。

せいわかじ　栖巖寺、山城の嵯峨清涼寺の東に在る阿彌陀堂。

せいわかん（名）井檻、ものだがは。

せいわかん（名）弊陋、もとしなき、醜穢。

せいわかん（形）精悍、すぐれたる、かひがひしき。

せいわかん（形）清閑、しづか、ものしづか、もだやか、かんせい。

せいわん　聖顔、天子の御顔をいふ、龍顔。

せいわん（する）〔自〕征行、ゆく、十又せいゆく。

せいわん　精好、くはしき、たくみなる。

せいわん　よきさかな、鰯等。

せいわん　政綱、政策のおほもと。

せいわん（名）精好、ものどりのなき動物。

せいわん（名）精好、ものどりのなき（絹の類にて織地陸前羽前及び越後等より織り出だす。

せいわんじゆ（名）青岡櫟、なら（植物）。

せいわん（形）正確、たしか、かたき、あやまりなきただしき。

せいわん　精審、よきさかな、皆同の謂現意をいふ。

せいわん（形）正大、もつてはれてただしき、もはやけにてゆだかりなき。

せいわん（形）雄大、きかんなる。

せいわい　聖代、當時の帝王の徳を譽めて其時代を美稱する語。

せいわい（名）世代、よ、ときよ。

せいわか（俗）（形）身代、身のたけの高さをいふ。

せいわう（名）政治、一定の主義を政治上に主張する政黨。

せいわう（形）正當、ただしくあたれる正義の當然をいふ。

せいわう（する）〔他〕征討、うつ、せうつ、賊などを。

せいわかじ　栖巖寺、山城の嵯峨清涼寺の東に在る阿彌陀堂。

せいわかん（名）井檻、ものだがは。

せいわかん（名）弊陋、もとしなき、醜穢。

せいわかん（形）精悍、すぐれたる、かひがひしき。

せいわかん　生肝、いきもも。

せいわう（名）青蝦、草蝦、方語、蓉蝦、くさよも、かはらえびとん（動物）。

せいわう（名）青竜、よみな（植物）。

せいわう（する）〔自〕征行、ゆく、十又せいゆく。

せいわう（形）精好、くはしき、たくみなる。

せいわう　精審、よきさかな、皆同の謂現意をいふ。

せいわう（名）政綱、政策のおほもと。

せいわう（名）精好、ものどりのなき（絹の類にて織地陸前羽前及び越後等より織り出だす。

せいわうじゆ（名）青岡櫟、なら（植物）。

せいわう（形）正確、たしか、かたき、あやまりなきただしき。

せいわう　精審、よきさかな、皆同の謂現意をいふ。

せいわう（形）正大、もつてはれてただしき、もはやけにてゆだかりなき。

せいわう（形）雄大、きかんなる。

せいわう　聖代、當時の帝王の徳を譽めて其時代を美稱する語。

せいわう（名）世代、よ、ときよ。

せいわう（俗）（形）身代、身のたけの高さをいふ。

せいわう（名）政治、一定の主義を政治上に主張する政黨。

せいわう（形）正當、ただしくあたれる正義の當然をいふ。

せいわう（する）〔他〕征討、うつ、せうつ、賊などを。

せいわう（名）正義、まさみち、ゆはやけみち。

せいわう（名）政道、まつりごと、政治之術。

せいわう（名）聖愚孔子を譽れる當。

せいわうばう　正當防衛、當然の自衛的防禦、正當防禦。

せいわん（形）清閑、しづか、ものしづか、もだやか、かんせい。

せいわん　聖顔、天子の御顔をいふ、龍顔。

せいわん（する）〔自〕征行、ゆく、十又せいゆく。

せいわん（形）精好、くはしき、たくみなる。

せいわん　精審、よきさかな、皆同の謂現意をいふ。

せいわん　政綱、政策のおほもと。

せいわん（名）精好、ものどりのなき動物。

せいわん（名）精好、ものどりのなき（絹の類にて織地陸前羽前及び越後等より織り出だす。

せいわんじゆ（名）青岡櫟、なら（植物）。

せいわん（形）正確、たしか、かたき、あやまりなきただしき。

せいわん　精審、よきさかな、皆同の謂現意をいふ。

せいわん（形）正大、もつてはれてただしき、もはやけにてゆだかりなき。

せいわん（形）雄大、きかんなる。

せいわい　聖代、當時の帝王の徳を譽めて其時代を美稱する語。

せいわい（名）世代、よ、ときよ。

せいわか（俗）（形）身代、身のたけの高さをいふ。

せいわう（名）政治、一定の主義を政治上に主張する政黨。

せいわう（形）正當、ただしくあたれる正義の當然をいふ。

せいわう（する）〔他〕征討、うつ、せうつ、賊などを。

せいわかじ　栖巖寺、山城の嵯峨清涼寺の東に在る阿彌陀堂。

せいわかん（名）井檻、ものだがは。

せいわかん（名）弊陋、もとしなき、醜穢。

せいわかん（形）精悍、すぐれたる、かひがひしき。

せいわかん　生肝、いきもも。

せいたく　清濁、すみにごり、きよききたなき。

せいたく　税宅、かりたるいへ、賃居、しやくや。

せいたく（俗）（名）祭祀、もてごり、祭典。

せいたもく（名）聖多默、きんとめ、一本は耶蘇の弟子セーントマスより出でたる名にて其後國號となり終に又其譯より來る植物の名となれり、所謂唐橘たうきつ）是なり。

せいたす（俗）出精、勉勵、はげむ、努力、つとめる。

せいたん　正旦、むつきのついたち、正月元日をいふ、元旦。

せいたん（名）正旦、たてをやま且の正なるものなり、なんなりたのもなるもの。

せいたん　聖斷、天子の御決斷をいふ。

せいたん（名）政談、せいぢばなし、政治上の議論などをいふ、政事談。

せいたん（名）清談、老莊の道德を談ずること、支那の晉代に流行せしもの。

せいたん（名）殷雄、帝王に戰を宥れしむるの雄きをいふ。

せいたんき（名）生丹砂、ぬれごとしばろ、いろごとのしばろ、支那にて男方を生といひ、女方を丹といふ、因りて此名あり。

せいたい（名）生態、いきもの、いけるもの、合體。

せいたい（名）生業、たみ人民金儲をいふ。

せいたい（名）生體、生物の生命。

せいたい（名）精體、たましひ、れいこん、十いうれい。

せいたい（名）聖體、みたま造化神の體をいふ。

せいたい（名）食令（政府より出だす布告法律の類をいふ。

せいたい（する）精勵、つとめはげむ、はねをる。

せいねい（名）舞踊、諸神樂、雅樂、よめがはぎ、あまぎぎやう、みのはぎ三種物。

せいねいてんはう　清寧天皇、人皇第二十二代の帝、紀元一千百四十年（西洋紀元四百八十年）より一千百四十四年迄、在位五年御歳四十二歳。

せいねん（名）青年、としわかきひと、わかもの、少年。

せいねんくわい（名）青年會、わかきものの集りあひ。

せいらい（副形）生來、うまれつき、生得。

せいらう（形）清朗、きよきほがらか、天氣などにいふ。

せいらん（名）晴嵐、ゆふやけ。

せいらん（名）井欄、ものだがは、ものどがは。

せいらん（名）生卵、ざぼん、むしやりんだう（植物）。

せいむ（名）政務、まつりごと、政事。

せいむてんわう　成務天皇、人皇第十三代の帝、紀元七百九十年（西洋紀元前百三十年）より八百五十年に至る、在位六十年御齢百七歳。

せいう（名）青雲、さといき（植物）。

せいう　晴雨、はれとあめと、ひよりよきとあめふると。

せいう　霽雨、はれたりふつたり、ひらしぐれ。

せいう　凌雨、あきさめ、あきのあめ。

せいうけい（名）晴雨計、晴雨儀、天氣を見る器。

せいうきう（名）世界曰、たうは植物。

せいうしゆ（名）晴農業、くろだま、くろめ。

せいうん（名）青雲、あをくも、そらのくも、すべて高地位を譬へて然かいふ。

せいうんのこころざし　青雲の志、功名心をいふ、大望。

せいくわ(形) 靖和、むだやか、やすき、やすらか。
せいくわ(名) 歳華、としつき、年華、とし。
せいくわ(形) 清華、うつくしき、けつこう。
せいくわ(名) 精華、きつすゐ、もつともよきところ、はな。
せいくわ(名) 生果、みづぐわし、なまくだもの。
せいくわ(名) 西瓜、すゐくわ(瓜の名)(植物)。
せいくわ(名) 青瓜、あをうり、蓮瓜、つけうり(植物)。
せいくわい 盛會、きよきあつまり(耶蘇教の事に關はる集會)。
せいくわい 盛會、盛會盛大なる集會。
せいぐわい 世外、よのほか、出世間。
せいくわつ(名)—する(自) 生活、いくること、十すぎはひ、なりはひ、くらしすぎ、いきる、よわたりする。
せいくわう(形) 晶光、はしのひかり。
せいくわく(他) 生擒、いけどる、生捕。
せいくわく 西籍(氏を非難と云ふ難波の俳諧師にて浮世草子の作者なり天和貞享の頃の人)。
せいくわきよ(名) 青花魚、さば(動物)。
せいくわん(名) 誠款、まこと、まごころ。
せいくわん(する)(他) 精選、ほりすます、みなはふ(借金或は物品の懇などと)。
せいくわん(する)(自) 生還、いきてかへる。
せいぐわん(名)—する(他) 請願、ねがひ政府(神に對して)願ふ。
せいぐわん(名) 誓願、ぐわんがけ、ちかひ(神に對して)願ふ。
せいくわん(名) 稅關、うんじやうしよ、內外へ出入する貨物より稅を取る官署。
せいくわんきよ(名) 青田魚、さんま(動物)。
せいくわんじ 誓願寺(山城國愛宕郡に在り)。
せいくう 青空、あをぞら、穹蒼、晴空。
せいくん 聖君、ひじりのきみ(帝王を崇めて呼ぶ詞)、聖主。
せいけう 正閏、太陰暦正月の異名。
せいけう 青陽春をいふ。
せいけう(名) 青楊、水楊、移楊、江楊、かはやなぎ(植物)。
せいけう 西洋歐米諸國をいふ。
せいけう(名) 靜養、身心を安閑にして養生するをいふ。
せいけう 西洋形、西洋の物の形に同じきをいふ。
せいけう 西洋紙、西洋にて作れる紙。
せいけう(名) 西洋酒、西洋にて作れる酒。
せいけう(名) 警約、ちかひ、やくそく。
せいけう(名) 製藥、くすりをあはするひと、調劑士、くすりをあはすること、調劑所、製藥道に精しき人。
せいけう(名) 青眸、あきめくら(眼あきてあるも物を見る能はざる眼病)。
せいけい(名) 生計、すぎはひ、くらし、生活。
せいけい(名) 世兄、よよのけいづ、いへのもちぬし。
せいけい(名) 生魚、いきもの、なまもの。
せいけい(形) 清潔、きよく、潔白、むだかまりなき心の。
せいげつ 霽月、はれたるつき光風霽月などいふ。
せいけう 政教、まつりごと及をしへ(政治宗教の二をいふ。
せいけう 聖教、きよきをしへ(孔子のをしへ又耶蘇教を然か名づく。
せいげふ 聖藥天子の事蹟を讀して然か呼ぶ。
せいげふ(名) 生藥、なりはひ、生活之道、すぎはひ、くらすぎ、生理。
せいげふ 成藥、卒藥に同じ。
せいげふえふ(名) 青洋藥、はないかだ(植物)。
せいけん 聖賢、孔子孟子の如き人を云ふ、十また清酒濁酒をも然か名づく。
せいけん 政權、政治を爲すの權力。
せいけん(名) 生絹、きぎぬ、ねりきぬ。
せいけん(形) 精健、すこやか、たつしや、つよき。
せいけん(名) 制禁、おきて、のり、さだめ。
せいけん(名) 世諺、よのことわざ、よのいひならはし。
せいげん(名) 誓言、ちかひごと、ちかひ。
せいげん(名)—する(他) 制限、かぎり、きまりかぎる。
せいげん(する)(他) 誓言、いひあらはす。
せいげん 誓言、わだごと、無用之論、いらぬことば。
せいふ(名) 政府(二國の主權者が掌握する政令の府、官府。
せいふ(する)(他) 生俘、いけどる、とりこにする、生擒。
せいふ(名) 青雘、あをじとど(動物)。
せいふ(名) 青鳧、あをけり(動物)。

せいふ(名) 世父、伯叔父、をぢ。
せいぶつ(名) 資物、よけいのもの、いらぬもの、無用之物、長物。
せいぶつがく(名) 生物學、すべて生物に就きて研究する學。
せいふう 西風、にしかぜ、十あきかぜ。
せいふう 清風、きよきかぜ、すがすがしきかぜ。
せいふく 盛服、なまぐさきかぜ。
せいふく 盛服、うるはしきころも、みごとなるよそはひ(官人などの)。
せいふん(する)(他) 製粉、うちくだく、こなにする、みぢんにする。
せいぶん(名) 聖聞、ひやうばん、きこえ、十はまれ、十又さしやうもんを見よ。
せいぶん(俗)(名) 精分、いきはひ、ちから(身體上の)、十滋養分。
せいぶん(名) 成分物の成立つ分子。
せいぶん(名) 誓文、ちかひぶみ、ちかひがき。
せいこ 西湖、支那の杭州の地にして十景を備ふる勝地。
せいこ 正誤、あやまりをただす文章記錄などの。
せいご(名) 小鱸魚、鱸子、鱚(動物)。
せいご(する)(他) 省悟、さとる、しりぬく。
せいご(名) 製造、むだことば、製言。
せいこう(名) 省治油、みつばうつぎ(植物)。
せいこつ(名) 整骨、ほねつぎ、くじになほし。
せいこう(名) 正鵠、的の眞中にあるくろぼし、十ゆゑて、目的、主點。
せいこう(する) 成功、てきあがる、成就。
せいこうへんさう(名) 井口螈草、おのもとさう(植物)。
せいこく(名) 聖哭、天子の崩御。
せいこく 清穀、きよきたなつもの、米麥。
せいこく 生穀、いけどる、生擒。
せいこく 西國、西海道の諸國。
せいこく 西國、西洋諸國。
せいこく 西國、西洋諸國の學問をいふ。
せいこく(名) 西國、西洋諸國(植物)。
せいこく(名) 西國、西洋布、かなきん(織物の名)。
せいこく 西國、西洋風の衣服。
せいこく 西洋紙、西洋にて作れる紙。
せいこしゆ 西洋酒、西洋にて作れる酒。
せいこく(名) 警約、ちかひ、やくそく。
せいこく(名) 製藥、くすりをあはするひと、調劑士、くすりをあはすること、調劑所、製藥道に精しき人。
せいこく(名) 青眸、あきめくら(眼あきてあるも物を見る能はざる眼病)。
せいこく(名) 生計、すぎはひ、くらし、生活。
せいこく(名) 世兄、よよのけいづ、いへのもちぬし。
せいこく(名) 生魚、いきもの、なまもの。
せいこく(形) 清潔、きよく、潔白、むだかまりなき心の。
せいこつ 霽月、はれたるつき光風霽月などいふ。
せいこう 政教、まつりごと及をしへ(政治宗教の二をいふ。
せいこう 聖教、きよきをしへ(孔子のをしへ又耶蘇教を然か名づく。
せいこう 聖藥天子の事蹟を讀して然か呼ぶ。
せいこう(名) 生藥、なりはひ、生活之道、すぎはひ、くらすぎ、生理。
せいこう 成藥、卒藥に同じ。
せいこうえふ(名) 青洋藥、はないかだ(植物)。
せいこう 聖賢、孔子孟子の如き人を云ふ、十また清酒濁酒をも然か名づく。
せいこう 政權、政治を爲すの權力。
せいこう(名) 生絹、きぎぬ、ねりきぬ。
せいこう(形) 精健、すこやか、たつしや、つよき。
せいこう(名) 制禁、おきて、のり、さだめ。
せいこう(名) 世諺、よのことわざ、よのいひならはし。
せいこう(名) 誓言、ちかひごと、ちかひ。
せいこう(名)—する(他) 制限、かぎり、きまりかぎる。
せいこう(する)(他) 誓言、いひあらはす。
せいこう 誓言、わだごと、無用之論、いらぬことば。
せいこう(名) 政府(二國の主權者が掌握する政令の府、官府。
せいこう(する)(他) 生俘、いけどる、とりこにする、生擒。
せいこう(名) 青雘、あをじとど(動物)。
せいこう(名) 青鳧、あをけり(動物)。
せいこうくわ(名) 青紅花、あをばな(植物)。
せいこうくわい 聖公會(監督宗にては教會を然か呼ぶ)。
せいこのじふけい 西湖十景(平湖の秋月、蘇堤の春曉、斷橋の殘雪、雷峯の落照、南屏の晩鐘、翁院の風荷、花港の觀魚、柳浪の聞鶯、三潭の印月、兩峯の揮霞。
せいこん(名) 精魂、たましひ、精神。
せいこん(名) 精根、きこん、根氣。
せいさ(名) 誓言、ちかひごと、ちかひことば。
せいさい(名) 成丁、をとな人となれるもの。
せいさい(名) 蜻蛉、とんぼ、あきつ(しま)(動物)。
せいさい(する)(他) 制定、まうけさだむ、つくりさだむ。
せいさい 精細、こまかく、くはしき、つぶさ。
せいさい(形) 精彩、いろどり、光彩、ひかり。
せいさい 生財、かれをふやす、殖財。
せいさい 聖詩、つみをいひあらす、つみをならす(罪を聖言す)。
せいさつ(名) 制札、たかふだ、高札、榜示、榜文、掲示。
せいさつ(する)(他) 省察、かんがへる、かへりみる。
せいさつばし(名) 制札場、ふだのつじ、制札を立てたる處、申明亭、高札場。
せいさつのけん 生殺之權、いかしたりころしたりするちから。
せいさう(形) 栖爽、さはやか、さつぱり。
せいさう(形) 精壯、すこやか、たつしや。
せいさう 清操、きよきみさを。
せいさう(名) 晒布、さらし、さらし。
せいさう(名) 製造、こしらへ、こしらへ。
せいさう(形) 星晨、としつき、歳時。
せいさく(名) 青田、あをた、あをた。
せいさく 非田(田地を井の字の形に區畫して其九分の一を官に取ること)。
せいさく(名) 製作、はしらてんき。
せいさく 正朔、としのはじめ、元日。
せいさく 聖作、天子の御製。
せいさく 聖策、天子の御製。
せいさく 聖朝、當代の朝廷を崇め呼ぶ語。
せいさく 青鳥、西王母が使ひし所の三足の鳥、使者の異名。
せいさく 鯨鳥、ねどり、ねぐらにあるとり。
せいさく(名) 制度、おきて、さだめ。
せいさく 清適、無事閑逸なるをいふ。
せいさく 青天、あをぞら、蒼天、蒼穹、青霄。
せいさく 正殿(しやうでん)、おもなるみや、おもてごてん。
せいさく 青田、あをた、あをたをしたるた。
せいさく 非田(田地を井の字の形に區畫して其九分の一を官に取ること)。
せいさく(名) 製駕、はしるてんき。
せいさく 星霜、としつき、歳月。

せいさう（名）清早、ひきあけ、昧爽。
せいさい（形）慥悦、いたましき、かなしき。
せいさい（名）繁縟、すくもおし動物。
せいさい（名）—する（自）盛装十分うつくしくよそほふこと。
せいざう　聖像、神佛の像をいふ、特に孔子の像をいふ。
せいざう（名）正誤、ぬすみものどろぼうもの。
せいざう（名）—する（他）製造、つくり、こしらへ、十こしらへる、つくる、製作。
せいざうしよ　製造所、こしらへどころ、製作場、工場。
せいさく（名）正朔、正月と日の始と、十ことよみ。
せいさく　井泉、つるべなは、ものとは。
せいさく　納製調きものと方なるものと、よりて巫に相寄れざるにいふ。
せいさん（名）生産、なりはひ、生業、十又うまるること、誕生。
せいさん（名）清算、かんぢやうしるし、かんぢやうづまし。
せいさん（名）成算事に先ちて立てたる考案をいふ、かんがへ、もくもひつき。
せいさん（名）—する（他）製産、つくりいだす物品などを製造。
せいさんりよく　製産力品物を製出する力。
せいき（名）世紀、じだい、とき西洋年代にては一百年を総かね名づく。
せいき（名）精氣、げんき、いきはひ精神の、十また精魄、十また精鬼下を見よ。
せいき（名）精魄鬼魂の切きものをいふ。
せいき（名）星紀、太陰歴十一月の異名。

せいき（名）生氣、いけるき、いくるちから。
せいき（名）成規、きまり、さだめ、例規。
せいき（名）旗旒、はた、旌旆、はたじるし。
せいきよ（名）—する（自）逝去、まかる、しぬる、物故。
せいきよ　生魚、いきうを、十なまざかな、鮮魚、なまうを、なまさかな。
せいきよ（名）—する（他）製興、製駆、ひきまはす、をさむむ、しはいする。
せいきよ（名）青魚、にしん動物。
せいきよ（名）鯨魚、えそうな、たちがうを動物。
せいきよ（名）税歴、たなかり、借歴、しやくやずまひ。
せいきよこ（名）青魚胴、めなだ動物。
せいきよじ（名）青魚醤、にしんのこ、かづのこ。
せいきう　聖躬天子の御身。
せいきう（名）青宮、わかみや、春宮、皇太子、東宮、御君。
せいきう（名）—する（他）請求、もとめ、もとむ、要求。
せいきやう（名）生業、生産、はじかみ、なましやうが細物。
せいきやう（名）織業太陰暦十二月の異名。
せいきやう　性急、きみじか、短氣。
せいきん（形）制禁、ごはつと、きつて、さだめ。
せいきん（名）—する（他）精勤、つとめはげむ、よくつとめる。
せいきん（する）生擒、いけどる、とりにする、生獲。
せいきん（名）晋衿、詩歌の句に本づきて晋生を

せいさん（名）頭金、なしぜ。
せいさん（名）税金、ねんぐのかね。
せいしゆ　聖躬天子の御さとし。
せいしゆ（名）生徒、いのち。
せいしゆ（名）聖哲、ひやうばん、聖賢、聖聞。
せいしゆ　生魚、なまうを、十なまざかな、鮮魚、なまうを、なまさかな。
せいしゆ（する）（他）制御、制駆、ひきまはす、をさむむ、しはいする。
せいしゆ（名）青魚、にしん動物。
せいしゆ（名）鯨魚、えそうな、たちがうを動物。
せいしゆ（名）税歴、たなかり、借歴、しやくやずまひ。
せいしゆ（名）生面、まあたらしきみえ、初対面。
せいしゆ（名）生面人、しらぬひと、ちかづきにあらぬひと。
せいしゆがく（名）舎密學今の化學をいふ。
せいしゆつ（形）精密、くわしき、こまかき、つまびらか。
せいしゆやく（名）劇毒心臓（もどり來る血液の臓で、じやうみやく。
せいしゆん　生民、たみ、衆生、あをひとぐさ、ひやくしやう、人民。
せいし（名）聖哲、ものしめし天子の御意をいふ。
せいし（名）生白、うまるるひと、十人口、生籍、街などに云ふ。
せいし（名）—する（他）制止、とどむるなと、禁止、さしとめ、十とどむる、きんずる、ゆるさぬ。
せいし　製糸、いとをつくる、勧業。
せいし（名）晋史記錄又は歴史。
せいし（名）清室太陰暦閏月の異名。

せいし（名）姓氏、うぢ、うぢな。
せいし（名）清銭鉄の一種、琉球の産物。
せいし（名）誓詞、ちかひごと、ちかひ。
せいし（名）世子、よつぎ太子をいふ。
せいし（名）生殖、きいいと、ねちぬきぬいと。
せいし　西籍支那古代の美人の名、我が衣通姫小町の類なり、西施の顰に倣ふと云ふは、西施が面を顰めて大に美しかりしとて天下の婦女がこれに倣ひて面を顰め却つて其美を損じ醜を増したる故事に本づきて見て及びもせぬに人真似することをそしる語なりとす、但し讃語の褒め、あるひは諷刺の為めにこれを貝人に倣ふといふ意味に用ふるもの多し。
せいじ　聖時、聖帝の時代といふ義。
せいじ（名）政事、まつりごと、政治。
せいじ（名）世事、よのこと、よのなかのわざ、十又よごと、交食、をとこをんなのまじはり。
せいじ（名）青磁、をするもの（青色に焼きたる陶器にして支那の越川より出でしもの大いに珍重せらる、舶来などに多し。
せいし（名）納子、ぶと、あぶ動物。
せいしば（名）製絲場、いとをとりいとをとる所。
せいしよ（名）清書、きよがき、浄書。
せいしよ（名）聖書、バイブル、耶蘇教の経典をいふ、聖経。
せいしよ（名）警察、ちかひばみ。
（せいしよ）（名）政所、まんどころ、まつりごとどころ、十又ゐくがた。
せいしよ（名）聖所、きよきところ神宮内の。
せいしよ（名）都鄙、すみどころ、すみか。

せいしよ（名）盛粧、なつかり、あつさかり。
せいしよく（名）整色、こわいめ。
せいしよく（する）（自）整備（せいそく、いたかかなしむ。
せいしつ（名）性質、うまれつき、脱性。
せいしつ（名）正室、はんさい、正妻。
せいしつ　青漆、あをうるしぬり。
せいしつ　正質、まこと、眞質。
せいしつ（形）誠實、まこと、眞實、孚信。
せいしつ　聖主、日曜日、きよきひ、耶蘇教にて安息日などを聖主日、日曜日。
せいしつ（名）生日、うまれひ、いりひ、ゆみひ。
せいしらん（名）青嵐、わらきあをもと植物。
せいしう（名）清秋、太陰暦八月の異名。
せいしう　正秋、仲秋をいふ即ち太陰暦八月の異名。
せいじう　西戎、にしのえびす。
せいしや（名）生写、いきうつし。
せいしや（名）精舎、しやうじや、せいしゃする。
せいしや（名）清貧風雅の遊貧をいふ。
せいしや（名）齊唱、つれぶし、同唱、合唱。
せいしや（名）井匠、ゐどはり。
せいしや（形）整恰、せいさうてものまびしき、かなしき。
せいじやう　聖上天皇の尊称。
せいじやう（名）性情、こころもち、こころ。
せいじやう（形）精浄、きよき、十いさぎよき。
せいじやう（名）西浄雪隠をいふ、かはや。
せいじやう（名）税銭、みつぎ、ぜい。

せいじやく（形）閑静、もろき、よわき。
せいじやく　世壌、よようけつぐ、だいだいの、十みだい。
せいじゃこふ（名）精汁、せいまき。
せいじゃこふ（名）御饗、聖躰之壓、王候の通行する時に路人を制より制ましむるために設する壓。
せいじき　正式、はんしき。
せいじゅ　聖主、帝王を尊称していふ詞。
せいじゅ（名）清酒、すみざけ、こしたるさけ、清酒、佳醸。
せいじゅく（名）星宿、ほしぼしのやどり二十八個の始きもの。
せいじゅく（名）醇熟、ものしづかにしんとしたること。
せいじゅく（形）齊整、ただしくそろふ、つつしむ、みだりならぬ。
せいじゅく（する）（自）精熟、たくみになる、じやうずになる。
せいじゅくきい（名）星精業、ぬきんでたものを星宿業、こくせいさう植物。
せいじゅん（名）青鷹、はやぶさ。
せいじゅん　西瓜舌、みるがひ動物。
せいじゅん（名）精粋、ときよきもののちから、はたらき。
せいしん（名）誠心、まごころ、誠意。
せいしん（名）誠信、まこと、眞實。
せいしん（名）生辰、ちまれび、誕辰。
せいしん（する）（自）星辰、ほし。
せいしん（名）精神、こころ、たましひ、つつしむ。
せいしん（名）精巌しやうがん（ではぶみすすむことも、十又、なまでさきものを食せざること。

せいしん(名)　世臣、ふだいのけらい、よよのしん。
せいじん(名)　聖人、ひじり(人の最も勝れたるものにて孔子のごときをいふ、十また酒の淸めるものをいふ)。
せいじん　正人、ただしきひと。
せいじん(名)　成人、をとな、丁壯、十又まつたきひと(完人)。
せいじん(名)　征人、いくさびと、十ゆくひと(戰爭又は遠地などに)。
せいえい(名)　西影(太陰曆八月の異名)。
せいゑつ(形)　淸越、きよらか、うるはしき(歌聲などにいふ)。
せいゑん(名)　聲援、かせい、たすけ、ちからぞへ(戰爭などの時における)、又こゑのたすけ(競技などの時に味方が大聲を發して應援するをいふ)。
せいゑん(形)　正圓、まんまる、まつたくまるき。
せいゑん(名)　井垣、ゐげた。
せいゑん(名)　靑菀、むにのしこぐさ、紫菀、しをん(植物)。
せいび[する](自)　整備、ととのひそなはる。
せいび　西備、西藏(備後國をいふ)。
せいび(形)　精微、こまやか、くはしき。
せいひ　贅費、むだのひよう。
せいひつ(形)　靜謐、しづか、おだやか。
せいひく(名)　短人、せびく、ちさご、せごま、矮人、一寸法師。
せいひん　淸貧、きよきまづしさ(貧にして潔白なるをいふ)。
せいびん(形)　精敏、ものにすばやい。
せいびんせん(名)　靑緡錢、あをざしぜに。

せいもく[する]　靜默、くちかずをきかぬ、だまりがちなる、沈默。
せいもく(名)　井目、聖目(圍碁にいふ所謂弱き方が九石を預め盤上に置くをいふ、九曜に象るとぞ、ハンヂカゾの類なり)。
せいもん(名)　誓文、ちかひぶみ、盟書、盟文。
せいもん(名)　聲聞、おとづれ、たより、消息。
せいもん　聖門(聖人孔子等の學をいふ)。
せいもんばらひ　誓文拂(太陰曆十月二十日に京都洛東(かはひがし)に行はるる祭禮、此日吳服屋にて特に廉賣を行ひたり)。
せいもんのしくわ　聖門四科(德行、言行、政事、文學)。
せいもんのしけう　聖門四教(文、行、忠、信)。
せいせい　聖世(當代を美稱する詞)。
せいせい　盛世、さかんなるよ。
せいせい(形)　正精、くはしき。
せいせい(名)　齊聲、つれぶし、齊唱。
せいせい[する](他)　整齊、ととのへそろふ。
せいせい[する](自)　齊整、そろふ、ととのふ。
せいせい　精製、よきこしらへ、上製。
せいせい　濟世(世の中をすくふ)。
せいせい(名)　誠精、まこと、まめやかなること。
せいせい(形副)　菁菁、あをあを。
せいせい(形副)　萋萋(草の茂げれる貌)。
せいせい(形副)　井井、つらなれる、そろへる。
せいせい(形副)　栖栖、いとまなき、いそがはしき。
せいせい(形副)　悽悽、かなしき、なげく、ものさびしくおもふ。
せいせい(形副)　淒淸、ものさびしげにきよらかなる(秋色などにいふ)。

せいせい　征西、にしをたひらげる。
せいせい　噬臍、ほぞをかむ(後悔すること)。
せいせい[副形]　精精、おこたらず、できるだけ、ちからのかぎり。
せいぜい(名)　征稅、うんじやう、ぜい、みつぎ。
せいせい(名)　贅婿、贅壻、いりむこ。
せいせい(名副)　嘒嘒(喘息ある人の呼吸の聲などにいふ)。
せいせいだうだう(副)　正正堂堂(威儀さかんにして正しき貌)。
せいせつくわ(名)　旌節花、まめふぢ、きぶぢ(植物)。
せいせう(形副)　悽愴、ものさびしき。
せいせう[する](他)　請招、こひまねく、よぶ、しやうだいする。
せいせき(名)　星夕、たなばた、ほしまつりのよ(太陰曆七月七日の夜)。
せいせき(形副)　悽戚、かなしき、なげかはしき。
せいせき(名)　成績、できばえ、できあがれり、結果。
せいせき(名)　砌石、きりいし、いしだたみ。
せいせきくわい(名)　生石灰、きいしばい。
せいせん[する](他)　精選、よくえらむ、えらみぬく。
せいせん[する](他)　洒洗、あらふ、すすぐ。
せいせん(形)　生鮮、なま、とりたて(肉類などに云ふ)。
せいせん(名)　腥羶、なまぐさみ。
せいせん(形副)　悽然、かなしき、なげかはしき。
せいせん(形副)　淒然、さびしき。
せいせん　生前、いきてをるうち、いのちのうち、在世、生存中。

せいせんぎよ(名)　靑箭魚、わらさ(動物)。
せいす(他)　制、とめる、とどめる。
せいず(他)　製、つくる、こしらへる。
せいすゐ　盛衰、さかえおとろへ、浮沈。
せいすゐ　西陲、にしのはて。
せいすゐ　淸水、きよきみづ、すめるみづ、十淸泉淸洌、しみづ。
せば　洗馬氏、また信州の地名。
せばぢ(名)　陿路、ほそみち、せまきみち。
せばまる(自)　狹、せばまる、せまくなる。
せばき(形)　狹、窄、狹小、窄隘、褊小、すぼき、ひろからぬ。
せばめる(他)　狹、せまくする。
せはしき(形)　忙敷、繁忙、多忙、いそがはしき、ひまなき。
せはしき(形)　急、約、偏急、促迫、閙急、切迫、頻煩、いそぐ、せく(辭せはしく宣ふなどをいふ)。
ぜに(名)　錢、貨泉、通寶、鵝錢、鵞目、鳥目、孔方、靑銅子、かね。
ぜにいれ(名)　錢入、かねいれ、きんちやく。
ぜにばこ(名)　錢匣、ぜにいればこ。
ぜにばす(名)　錢蓮(植物)。
ぜにがた(名)　紙錢、紙幣、きんさつ。
ぜにかね(名)　錢金、きんせん。
ぜにがさ(名)　癬瘡、たむし、輪癬。
ぜにかき(名)　錢把、ぜにをかきよするもの。
ぜにがめ(名)　錢瓶(錢を蓄ふる爲めの土器にして入る口ありて出る口なし滿れば則ち毀ちて出す、又其形にとりて寶珠の玉とも呼ぶ)。
ぜにがめ(名)　錢龜、朱鼈(動物)。
ぜにがめちやう　錢瓶町(東京市麴町區の町)。

ぜにがみ(名)　錢神(俗に蛇を指して錢神といふ、足なくして能く走るの義にとれるならん)(動物)。
ぜにづら(名)　錢(錢を索子に連ね貫きたるをいふ)、さしぜに。
ぜにねは(名)　錢緡、ぜにさし、錢貫、錢串、錢索、ぜにさすなは。
ぜにのははむし(名)　靑蚨、蚨蟬(此蟲の脂を子母錢に塗るといふ故に此名あるなり)(動物)。
せにふ[する]　施入、ほどこしいるる(寺などへ)。
ぜにごけ(名)　錢苔、地錢(植物)。
ぜにあふひ(名)　錢葵、錦葵、くさのな(植物)。
ぜにざ(名)　錢座(錢を鑄る所をいふ)。
ぜにん(名)　是認、よしとみとむ、ゆるす。
せぼね(名)　脊骨、脊梁、背、せなかのほね。
せと(名)　瀨戶、迫渡、湍門、狹門、海潮、海峽、海門(海水の狹き流れ)。
せど(名)　背戶、背門、背庭、うち(家の後をいふ)。
せとがひ(名)　瀨戶貝(動物)。
せとだまち　瀨戶田町(安藝國豐田郡の町名)。
せどうか(名)　旋頭歌(上の句下の句共に五七七の三句より成る和歌の一體)。
せとやき(名)　瀨戶燒(尾張國春日井郡瀨戶村より製出する陶器をいふ、此地陶器を製すること盛んなるを以て凡て陶器は瀨戶物と稱せらるるに至れり)。
せともの(名)　瀨戶物、陶器、磁器、瓷器、すゑもの、やきもの。
せとものちやう(名)　瀨戶物町(東京市日本橋區の町)。
せとものつち　陶土、高陵石、すゑものつち。
せとものし(名)　陶器工、すゑものづくり。

せち(名)　世智、せさい、よのなかのちゑ。
せちに(副)　切、しきりに、せつに。
せちにち(名)　節日、いはひび。
せちがましき(形)　巧黠、すばやい。
せちがしこい(俗)(形)　狡猾、こざかしい。
せちたう(名)　節刀(征討の命を蒙りて出陣する時天子より賜はる刀)。
せちぶ　節分(春夏秋冬の四季の節に入るをいふ)、十せつぶん。
せちどめ(名)　節日(每月の齋みの定日をいふ)。
せちみ(名)　稻、稴、いね、とみくさ。
せちゑ(名)　節會(昔し朝廷にて規定の公事ある日の集會をいふ、靑馬の節會、踏歌の節會など即ち是なり)。
せり(名)　芹、水英、楚葵(植物)。
せり(名)　競賣(公賣して最高の價金を拂ふものに取らする法)。
せりにんじん(名)　胡蘿蔔、にんじん(植物)。
せりだす(他)　迫出、せりていだす。
せりうり(名)　競賣、糶賣、公賣、投賣、せりにてうる、せりてうる。
せりふ(名)　臺詞(役者が舞臺にて述ぶる詞)、臺詞、十又ありふれたるいひぐさ。
せりあげる(他)　競上、せりてたかくする(價を)。
せりあふ　鬩、あひせめぐ、相爭。
せりあきんど(名)　競賣人、糶商人、せりてうるひと。
せりあひ(名)　競爭、きそひあひ。
せぬひ(名)　脊縫(背の縫目)。
せる(他)　糶、競、競賣、せりてうる(最も多くの價を出す人に賣る)。

せれふ（他） 背負、せなかにおふ。
せわ（名） 世話、よのはなし、俗談、十よのなかのできごと。
せわ［俗］（名） 世話人の爲めに周旋するを云ふ。
せわにようばう（名） 世話女房（世帶じみたる妻、家の爲めに眞面目に働く妻）。
せわにん（名） 世話人、せわするひと。
せわり（名） 脊割、せなかをわること（魚などの）。
せわれう（名） 世話料、牙錢、ほねをりちん、こうせん。
せわやく（名） 世話役（職として世話をする人）。
せわやき（名） 首導者、主唱、せわするひと。
せわきやうげん（名） 世話狂言（當世の出來事をしくみたる狂言をいふ、時代物に反す）。
せわじ（名） 世話字（通俗に使用する變則の文字）。
せわずき（形名） 世話好、ものずき。
せかい（名） 世界、よのなか、あめがした。
せかゐのみづ 清加井水（山城國乙訓郡の屛野に在り）。
せがは 瀬川（氏、また攝津國に在る川の名）。
せかがまる 跼蹐、せなかまがる、せぐくまる。
せがれ（名） 賤息、愚息、むすこ、倅。
せがむ（自） 強請、わづらはす（子が親にものをねだりなどして煩らはすをいふ）。
せがき（名） 施餓鬼（佛家の行ふ所の一式）。
せかせる（他） 令急、いそがする。
せかせか（副） 急急、せくせく、せついて。
せたい 世態、よのありさま。
せたい［俗］（名） 世帶、しよたい、しんしやう。
せたがは 勢田川（近江國栗太郡に在る有名の川、瀬田川とも云ふ、勢田の長橋此に架す）。

せたかがひ（名） 半邊蚶、かひのな（動物）。
せたらうま（名） 背矮馬（佝脊の馬）。
せたむ（他） 責、せめこらす、せめる。
せたのながはし 勢田長橋（近江國勢田川に架する有名の長橋）。
せたぐる（他） 虐ぐ（したぐるに同じ）。
せたけ（名） 背丈、ながさ、せい。
せたどほり 勢多郡（上野國の郡の名）。
せれう（名） 施療、ほどこしれうぢ。
せぞく（名） 世俗、よのひと、世人。
せそん（名） 世尊（釋迦牟尼佛の尊稱）。
せつ（名） 說、はなし、ことば、十かんがへ。
せつ（名） 節、ふし、十又みさを、十又いはひ、十又とき。
せつ（形） 拙、つたなき。
せつ（名） 舌、した。
せつ［する］（自） 絶、たゆる、なくなる、十とぎれる、十また（形副） きはめて、ならびなく、いたって、もつとも、しごく（例へば絶景、絶麗、猜絶、奇絶などのごとし）。
せつい（名） 褻衣、つねぎ、ふだんぎ。
せつゐき（名） 絶域、きはめてとほきくに、異域。
せついん（名） 雪隱、圊、かはや（厠）。
せつろう（形） 拙陋、つたなき、いやしき。
せつろく（名） 攝籙、くわんぱく（國政を統括する官名）。
せつろん（名） 舌論、口論、くちあらそひ。
せつぱ（名） 切羽（刀劍の口に卷きて鍔の表裏をはさむ鐵）。
せつぱ［する］（他） 說破、ときやぶる、いひやぶる（人の說などを）。

せつぱい（名） 折簀、こうり。
せつぱい（名） 接買、なかがひ、まいとり。
せつぱつ 截髮、ざんぎり、きりかみ。
せつぱう（名）、―する（他） 切望、せつなるねがひ、しきりにねがふ。
せつぱう（名） 絶望、のぞみのたゆること、大失望。
せつぱく［する］（自） 切迫、おしつまる、せまる。
せつぱふ（名） 說法、みちのはなし、說教（佛道にていふ所）。
せつぱん（名） 紲絆、きづな、つなぎ、しばり。
せつぱん［する］（他） 折半、なかばにわかつ、はんぶんにわかつ。
せつぱん（名） 絶版（書物の出版を廢するをいふ、はんをやめる）。
せつに或せちに（副） 切、ねんごろに、しきりに。
せつぼく（名） 接木、つぎき。
せつぺき（名） 絶壁、きりぎし、がけ、斷岸、斷崖。
せつさう（名） 茗箒（茶盌を拂ふ具）。
せつどう（名） 雪洞、ぼんぼり（燭をともす具）。
せつとう（名） 舌頭、くちさき、したのさき。
せつとく［する］（他） 說得、いひきかす、ときさとす。
せつどし 節度使（支那の唐時代に天子の命を奉じて地方に行く使者）。
せつち［する］（他） 設置、まうける、こしらへる。
せつちう［する］（他） 折衷、なかをとる（多く較べて其善きところを取るをいふ）。
せつちう（名） 蠕蟲、あをむし（動物）。
せつちやう（名） 絶頂、いただき、絶巓、頂上、嶺上、てつぺん。
せつちやく［する］（自） 接着、つく、つづく。

せつちんむし（名） 糞蛆、くそむし（動物）。
せつり（名） 雪梨、こがなし（植物）。
せつり（名） 刹利（國君又は高位高官の人）。
せつり（名）、―する（他） 攝理、すべをさむること、すべくくる。
せつり［する］（自） 泄痢、くだる、げりする（腹が）。
せつりつ（他） 設立、まうくる、たてる、こしらふ。
せつりふ（名） 雪粒、霰、あられ。
せつりふ 絶粒（米粒を食はぬをいふ）。
せつりこう（名） 雪裏紅、てんのうめ（植物）。
せつりん（形） 絶倫、もぬける、絶秀、絶類、拔粹、たぐひまれなる。
せつわ（名） 說話、はなし、ことば、談。
せつか（名） 脊架、背梁（馬背の高き所をいふ）。
せつか 折價、ねをまかす、まけさする、ねぎる。
せつか（形） 拙下、つたなき、へた。
せつかい［する］（他） 切開、きりひらく。
せつかい［する］（他） 切解、きりわる。
せつがい［する］（他） 殺害、殘害、きりころす。
せつがい（名） 絶崖、きりぎし、斷崖、がけ。
せつかち［俗］（形） 性急、こころせはしき。
せつかう（名）、―する 絶交、なかたがひ、まじはりをたつ。
せつかう（名） 舌耕、くちさきかせぎ。
せつかく（名） 折角、精勵、勞動、ほねをり。
せつかく［俗］（副） 折角、わざわざ。
せつかく（名） 雪客、さぎ（動物）。
せつがふ［する］（他） 接合、あはする、つらぬる。
せつかこう（名） 雪下紅、ひよどりじやうご、白英（植物）。
せつかん（名）、―する（他） 折檻、いましめ、きびしきこらしめ、きびしくいましむる。

せつがん（名） 截岸、きりぎし、がけ。
せつがん（名） 舌癌（舌の上に發する瘤をいふ）。
せつよう（形名） 節用、つづまやか、けんやく（手數を省くの義に用ふ）、十字典、じびき。
せつた（名） 雪駄、かはのうらのざうり。
［**せつだ**］（名） 雪打、ゆた、あまど。
せつたい（名）、―する（他） 接待、もてなし、あしらひ、あしらふ（客を）。
せつたい［する］（名） 接待、ほどこし、せぎやう。
せつたい（名） 舌苔（病氣の爲めに舌の上の白くなれるもの）。
せつたい（形） 絶對、つゐなき、ならぶものなき、十ただひとりだちなる。
せつたい（名） 絶頂、みのつまり、みのをはり。
せつだい（形） 絶大、きはめておほいなる。
せつだい（名） 絶代、よにまれなる、奇代、絶世。
せつたいゐん（名） 接待員、もてなしやく。
せつたいぜつめい 絶體絶命（至極の困難に臨める貌）。
せつたう 節刀（天子より將軍に賜はる刀）。
せつたう（名） 竊盜、ぬすみ、こそこそぬすみ。
せつだう 說道、いふならく。
せつだう 雪堂（蘇東坡（名は軾）の黄州に謫居する時住ひし家）。
せつたう（名） 絶島、はなれじま。
せつたう［する］（自） 絶倒、たふる（大笑などして）。
せつたく 拙宅、わがいへ、私宅。
せつだん（名）、―する（他） 切斷、たちきる、きりはなす、截斷。

せつたん 舌端、したのさき。
［**せつれい**］（副） 設令、たとひ。
せつれい（名） 雪鶴、つる（動物）。
せつれい（形） 絶麗、きはめてうるはしき、絶美。
せつれつ（形） 拙劣、つたなき。
せつそ（名） 舌疽（舌の上の腫物）。
せつそう 拙僧（僧の自ら稱する謙辭）。
せつそく［する］（自） 接觸（せつしよく）、ふれる、さはる。
せつぞく［する］（自他） 接續、つづく（此と彼とが）、つづける。
せつそく 絶息、いきたえる。
せつそくどうぶつ 節足動物（昆蟲類蜘蛛類多足類甲殼類などを總稱す）。
せつぞくさう（名） 接續草、すぎな（植物）。
せつぞくし（名） 接續詞、つづけことば（文法の語にて「もし」「しからば」などの類をいふ）。
せつつ 攝津（五畿內の國名）。
せつねん［する］ 絶念、あきらめる、斷念。
せつな（名） 刹那（極めて短き時間をいふ）、瞬間。
せつない［俗］（形） 切無、くるしき、じゆつない。
せつなふ［する］（他） 接納、うけいれる。
せつらうば（名） 拙老婆、うそ、獺（動物）。
せつむ（形） 絶無、すこしもなき、たえてなき。
せつうん（名） 雪雲、ゆきぐも、ゆきをふらすくも。
せつく（名） 節供、節會の當日の供物。
せつく（名） 節句（太陰暦の正月七日（人日）、三月三日（上巳）、五月五日（端午）、七月七日（七夕）、九月九日（重陽）を五節句と呼べり、是は四季に節ありて其節を祝ふに因りて然か名づけたる也、句といふは其節の變り目を表する詞なり、傳へいふ、四季とも節

のかはりめには時氣未だ定まらずして邪氣横行す
る故に此の如く式事をなして之を攘ひ且つことぶ
くなりと。

せつく（他）急、せかす、いそがす、うながす多く
は俗語に用ふ。

せつく（名）絕句漢詩の體にいふ、七言絕句（二十
八字で、五言絕句（二十字）などあり。

せつくわ（名）雪花、ゆきのはなの雪のひらひらと
飛んで降るを花と見なしたるなり、雪花裏に入るな
どいふ、もつのはな。

せつくわ（名）螻花、こごめばな、ゆきやなぎ植
物。

せつくわい　石灰、いしばひ。

せつくわう（名）蠟黄、うすぎいろ。

せつくわさい（名）雪花菜、とうふのかち、きら
ずのから、うのはな。

せつくわさい（名）石花菜、かんてん植物。

せつくわん　攝關、攝政關白をいふ。

せつぐら〔する〕〔他〕　接遇、あしらふ、もてなす。

せつくん（名）雪君　梅の異稱。

せつせう〔する〕〔他〕　攝養、みをいたはる、養生。

せつせく（形）　節約、つづまやか、けんやく。

せつせつ（名）　攝家　攝政家をいふ即ち近衛、九條、二
條、鷹司なり。

せつつけい　絕景、きはめてうるはしきけしき。

せつつけう（名）ーする　說教、をしへをとくこと、
說法、をしへをとく、法談。

せつつけう〔する〕〔自〕　絕叫、いたくさけぶ聲を
絞めて叫ぶをいふ。

せつつけうだいふ（名）　說教太夫　門說教をする太
夫をいふ、かどせつけうし（乞丐の類なり）。

せつけうし（名）　說教師、をしへをとくひと。

せつけん（名）　節儉、つづまやかなること、節約、
儉約、節用。

せつげん〔する〕〔他〕　節減、つづめ（ちす、
せつする）〔他〕　節減、つづめ（ちす、ぴく。

せつけん（形）　絕險、きはめてけはしき。

せつふ（名）　節符、わりふ。

せつぶ（名）　節夫、ったなきをとこ。

せつぶ（名）　節婦　みさを正しき女。

せつぶつ（名）　節物　時節時節のもの。

せつふく（名）　喪服、つねぎ、ふだんぎ。

せつふく（名）ーする　接吻、くちをすふ、親嘴、キ
ツス。

せつぶん（名）　節分　春の立ちそむる日にて此夜追
儺（おにやらひ）を行ふ。

せつぶんさう（名）　節分會　節分の儀式を執行する
會。

せつぶんそ（名）　蔓英、植物。

せつこ　絕妙、この後再びなきこと。

せつこつ（名）　接骨、はねつぎ。

せつこつぼく（名）　接骨木、にはとこ、わうじつ
にはとこ　植物。

せつこう　拙工、つたなきわざ、へたのてぎは。

せつこう（名）　舌口、くちさき。

せつこん（名）　折痕、をりめ。

せつてい（名）　舌根、したのね、した。

せつてきかく（名）　攝摘格（十二支の一なる寅の
字を攝呼いたくさけぶ聲を絞めて呼ぶをいふ。

せつてふ（俗）（名）　折帖、をりほん。

せつてん〔する〕〔他〕　攝養、みをいたはる、みを
やしなふ、養生。

せつぬん（名）　雪案、書案、つくゑ。

せつぬき〔する〕〔他〕　切繰、きりみだく。

せつぬき〔する〕〔他〕　折拔、をりくじく。

せつぬきよくほ　切磋琢磨、きりとぎすりみがく（玉
を（はげみつとむるをいふ。

せつぬさう（名）　兩操、みさを男女に通じて用ふ。

せつぬさう（名）　節操、みさを、志行、かはらぬこころ。

せつぬき（名）　舌音、ことばあらそひ、舌戰。

せつぬき（名）　節季、としのすゑ、しはす（十二月をい
ふ。

せつぬき　雪肌、ゆきのはだ、しろきはだ（。

せつぬき（名）　雪隱、かはばゆばりつぼ、かまや。

せつぬき（名）　刹鬼、ちせつ、ゐた。

せつぬき（名）　節義、みさを、忠節信義を重んずる、
節義のために死するといふ。

せつぬきよ（名）　雪魚、たら　動物。

せつぬきう（名）　鱈場、えびすめ　動物。

せつぬきう（名）　雪花菜、ゆきのたま。

せつぬきやくふ（名）　雪花花、こてまり　植物。

せつぬゆ〔する〕〔他〕　說諭、とまさとす、いひきか
す、說得。

せつぬい（名）ーする（他）　說明、ときあかし、と
きあかす。

せつめい　絕命、しぬる、いきたゆる。

せつめいし（名）　絕命詞　辭世の詩歌をいふ。

せつめつ〔する〕〔自〕　絕滅、たえる、なくなる。

せつめう（形）　絕妙、きはめてへなる。

せつし　切腹、はらきり、自殺。

はらだち）。

せつし（名）　節士、ただしきひと、義をもんず
るひと。

せつし（名）　劇子、はけ。

せつし（名）　折死、わかじに、夭折、短折。

せつし（名）　摂政、つぎえだ。

せつじ（名）　節次、ついで、じゅん。

せつしよ（名）　切所、難所、要害、けはしきところ。

せつしよう〔する〕〔他〕　折衝、つきやぶる、うち
やぶる敵などを。

せつしよう　接踵、くびすをつぐ、あひつづく。

せつしよく（名）　設色、いろどり。

せつじよく〔する〕〔他〕　折辱、はづかしむる。

せつしよく　雪辱、はぢをすすぐ。

せつしよく　絕色、きはめてうつくしきこと、絕
美、殊色。

せつしよく　絕食、斷絕、くひものをたつ。

せつしつ　雪舟　防州山口雲谷寺の住僧にして畫に
妙を得たり。

せつしつ〔形〕　絕秀、きはめて、ひいづる、絕倫。

せつしや（代名詞）　拙者、われ、わたくし。

せつしや〔する〕〔自〕　泄瀉、くだる（腹が）。

せつしやう〔する〕〔他〕　折傷、くじく、いためる。

せつしやう（名）　攝政、執政、輔佐、攝籙、家宰、ま
つりごとをかねゐひと、阿衡　帝王の後見人。

せつしやう（名）　殺生、いきものをころすこと、
いのちとること。

せつじやう　接壤、ちかんつづき、となりつづき
（國と國との）。

せつしやういん（名）　折傷醫、はねつぎいしや。

せつしやうせき　殺生石　下野那須野原に在りし
といふ譚石の名。

せつしやくわん　切齒扼腕、甚だしく殘念がるを
いふ。

せつしゆ〔する〕〔他〕　接取、攝取、うけとる、てに
うけいれる、うけをさめる（佛は死人の靈魂を攝取
して徐てゞ、又他人の長處を我が詩の中に攝取す
るなどいふ）。

せつしゆ〔する〕〔他〕　竊取、ぬすみとる、ひそか
にぬすむ。

せつしゆ〔する〕〔他〕　接受、うけとる。

せつしゆ（形）　絕殊、きはめてすぐれたる。

せつしゆふしや　接取不捨、たすけあげてすてぬ
ふ。

せつしゆん〔する〕〔他〕　折准、ひきあてす、（ち
す、せつする）〔他〕

せつじゆん（名）　舜人、いろ、こびと。

せつじん（名）　舌人通辯をいふ。

せつじん〔する〕〔自〕　設營、たえつきる。

せつじん（名）ーする（他）　設備、こしらへ、そな
へ、ととのへる必要具などを設置し整備するを
いふ。

せつじん（俗）（副）　是非（ぜひに同じ）。

せつじん（名）　絕塵、かきをはり、かきにまひ風
塵（もの）。

せつしん　絕品、きはめてよきしな。

せつせい（名）　節目、ふしめ、十かてう。

せつせい（名）　攝生、みをいたはる、養生。

せつせい（名）　節制、つつしみ、儉節。

せつせい（名）　雪精、ゆきをんな、ゆきのばけも
の（雪中に出づといふ怪物）。

せつせい〔する〕〔他〕　節省、はぶく、りやくする。

せつせい（形）　細世、上にすぐれたる、絕代。

せつせつ　節節、ときどき、をりをり。

せつせつと（副）　切切、しきりに、たびたび。

せつせつざう（名）　節節草、いぬどくさ　植物。

せつせう〔する〕　寡笑、くつくつわらふ、ゑすゆ
わらふ。

せつせき（名）　截石、きりいし。

せつせき〔する〕〔自〕　接腐、いりまじりてたたか
ふ、ちかよりてたたかふ。

せつせん〔する〕〔他〕　雪洗、きよむる、すすぐ。

せつせん（副形）　截然突然として來る貌。

せつせん（名）　舌戰、くちあらそひ、口論。

せつする（自）　縊、たゆる。

せつな（名）　背、脊、せなか、うしろ、からだのうしろ。

せつな（名）　夫男、をつと、つま、夫君。

せつな　瀾名氏。

せつなか（名）　背、うしろ、せぼねのうへのところ、
十脊後。

せつなかあはせ（名）　背合、背合、すれあひ睦ま
しからぬ據をいふ。

せつなごひ　兄嫁　夫をこひしたふこと。

せつなこ（名）　夫妻、めをと、夫婦、いもせ。

せつなら　世良氏。

せつならごほり　世良田郡　備後國の郡の名。

せつむ（他）　攻、責、強、せむる、せめこす、しふる。

せつむる（他）　小心を、ちひさくする小心即ち謹
愼をいふ。

せつむし（名形）　能背、能背、寢、癪、傷病、傷病にて
背の高くなれるをいふ、くぐせ。

せつ（形）　小、ちひさき、十少、すくなき。

せう（名）　抄、鈔、ぬきがき、抄錄、拔萃。
せう〔する〕（他自）　消、けす、きゆる。
せう（名）　鞭、せうのふ
え、鞭聲。
せう（名）　兒、廢疾、癡、
いふ。（動物）。
せういん〔する〕（他）　照
使、てらしあはせる。
せうえん（名）　椒園、後宮、
きさきのみや、皇后宮。
せうゐん（他）　少尉（陸海軍人の官名にして中尉の下
に位す）。
せういう（名）　少輔（大輔に次ぐ官名にして唐の少
卿又は侍郎に同じ）。
せういう　消憂、うさをはらす、きばらしする。
せうろう　小路、こみち、こうぢ。
せうろく〔する〕（他）　抄錄、ぬきがきする、かき
ぬく（せう抄を見よ）。
せうろきよ（名）　小鹽魚、せいご（動物）。
せうはい（名）　招牌、かんばん（看板）。
せうばい（名）　消梅、こうめ、薬種（植物）。
せうばい（名）　焦煤（燃焦して燃質的外物の混和
したるを去りたる石炭にて電に汽車などに用ふ）。
煤煙、コーク。
せうばう（名）　消防、ひけしわざ、消火。
せうばう〔する〕（自）　燒亡、やけうせる、やけつ
きるやけもちる家などが）。
せうばう（名）　椒房、皇妃の居室を然かいふ。
せうばう（名）　小蚌、あげまき（動物）。
せうばうねつ（名）　消亡熱（病名）。
せうばうふ（名）　消防夫、ひけし、消防方、消火
夫、消防手。
せうはん（形副）　小半、こはん、こなかち（こなか
ちを見よ）。
せうに（名）　小兒、こども、ちご、をさなご。
せうに（名）　小兒胎毒、かにくそ、かにば
ば。
せうにくわ　小兒科、小兒病を治する醫術。
せうほ〔する〕（他）　召募、めしつのる、人夫又は兵
士等を。
せうぼたん（名）　小牡丹、やへざき植物。
せうぼつ〔する〕（他）　抄沒、もつしゆる、官沒。
せうへい（名）　暗兵、ものみのつはもの、斥兵。
せうへい〔する〕（他）　招聘、まねく、たのむ（數師
などを、いふ）。
せうへき（名）　綉壁、けばしきかべ、きつたちたる
かべ、がけ（險厓斷岸の類をいふ）。
せうべん（名）　小便、屎、ゆばり、人屎、人糞（前陰
より出づる水、とう）。
せうべん（名）　少辨（古の官名、左右に分る、唐の司
郎に同じ）。
せうべつ（名）　兄弟、きやうだい、あにおもと。
せうぼく（名）　小奴、てつち、こもの、こぞう。
せうぼう（名）　小僧、わらべ、童子、十こもの、わ
かもの。
せうぼう　小貧、こわらべ。
せうぼう　髮殿、舞曲に云ふ（消魂、どくけしの
せうぼうくるんでん　照徳院殿（徳川十四代將軍
家茂の諡號）。
せうぼくぐわん（名）　消毒丸、どくけしのぐわん
やく。
せうぼくやく　消毒藥、どくけしくすり。
せうぼしま　小豆島（讃岐國の東北の海中にある
島の名）。
せうち〔する〕（他）　召致、めす、めしだす。
せうち〔する〕（他自）　小女、こむすめ、ちひさきをんな。
せうちよ〔する〕（他自）　消除、けしのける、のぞ
く、のぞかる、きゆる（醫藥などが）。
せうちう（名）　燒酎、火酒、アルコオル。
せうちやう（名）　燒長、のびちぢみ、十露盤。
せうちやう（名）　小腸、ほそわた（十二指腸に始ま
りて大腸に通ずる消化管）。
せうり　小吏、こやくにん。
せうり〔する〕　煎煉、きをもむ、しんぱいする、
おもひをこがす。
せうりよう（名）　小陵鳥、こばう（動物）
せうりう（名）　消流、みづはき（下水などの）。
せうりやく〔する〕（他）　鈔掠、かすめとる、鈔略。
せうるゐ　噴類、いきのこれるもの。
せうわ（名）　笑話、おどけばなし、笑談。
せうか（名）　樵歌、きこりうた。
せうか〔する〕（他）　認可、天子が認して許さるる
をいふ。
せうかい〔する〕（他）　紹介、ひきあはせ、ひ
きあはせる、ちかづきにする、とりもつ、すすめる
（此人を彼人に近づきにする或は推薦するをいふ）。
せうかち（名）　消渴、小水閉（のど渇して流動物を
ほしがり小便の通ぜざる病、十又歸人の癖病）。

せうかつ（名）　消滑（「せうかち」に同じ）。
せうかう　小康（世が少しく治まるをいふ、すこし
くやすき。
せうかう（名）　小巧（太陰暦五月の異名）。
せうかう（名）　宵更、よふけ。
せうかう（名）　燒香、かうをたく、焚香（佛前にて）。
せうかう〔する〕（自他）　消耗、へる、なくなる、つ
きる、十つひやす、つかふ。
せうがう〔する〕　笑噱、わらひのしる、わらひ
てうちかたる。
せうかうじ（名）　小柑子、かうじ（植物）。
せうがくかう（名）　小學校（學齡兒童に普通學科
を授くるところ）。
せうかん（名）　哨廠（本營陣をはなれて監視の任に
當る軍艦）。
せうかん（名）　綃絹、きびしききぬ。
せうかん（名）　小寒（廿四節の一）。
せうかん（名）　宵寒、よほぞら、そら寒氣を歷す
とは其だ高きをいふ）。
せうかん　消閑、てなぐさみする、ひまけし。
せうかん（名）　少間、すこしのひま。
せうかん（名副）　少間、すこしのあひだ。
せうかん（名）ーする（他）　照鑑、てらしみるこ
と、かんがみる、てらしみる。
せうかん〔する〕（他）　銷鑠、とかす金などを。
せうかん（形）　饒多、おほき、あまた、おびただしき。
許多。
せうだい（名）　招提（寺をいふ）。
せうだい　昭代（治れる世をいふ、太平之世。
せうだい（名）ーする（他）　招待、まねくこと、ま
ねき、まねく。

せうたう　小刀、こがたな、十又こがたな。
せうたん　小膽、小胆、きもふとからぬこと、きも
ちひさきこと。
せうだん（名）　笑談、戲言、たはむれごと。
せうだんよう（名）　小男鹿、このり（動物）。
せうれい（名）　詔令、みことのり、あはせごと。
せうれう（名）　椒料、からみ、やくみ（料理の）。
せうれう（名）　鷦鷯、さざき、みそさざい（動物）。
せうれんげう（名）　小蓮蕉、おとぎりさう（植物）。
せうそ（形）　蕭疎、まばら、扶疎、ばらばら。
せうそく（名）　消息、たより、おとづれ、通信、しら
せ。
せうそく〔する〕（自）　銷鴈、きゆる（煙火が）。
せうそくし（名）　猜慮子、みみはらひ、空耳、みみ
かき。
せうそこ（名）　消息、文通、たより、ぶんつう。
せうそこがる（自）　消息音信したく思ふをい
ふ。
せうづ（名）　小豆、あづき植物。
せうづこく（名）　燃熟地獄（佛家の詞、地獄
の一）。
せうねつぎい　消熱劑、ねつさましぐすり。
せうねん（名）　少年、わかきとし、若年、としわか
きもの。
せうなう（名）　小腦（大腦に對す、後部に位す）。
せうなごん　小納言（古官名、唐にて給事中とい
ふにすこしいものまうし）。
せうなんろく（名）　小男鹿、さをしか動物。
せうらい〔する〕（他）　招徠、まねく、まねきた
ぐ。

せうらう（名）　小郎、こじうど、夫の兄をいふ。
せうらん〔する〕（自）　照覽、ごらんになる、みそ
なはす（天子の）。
せうらん〔する〕（自）　燒爛、やけただれる。
せうらう　消閑、あきまめ、しめやかなるあそ
び。
せうのれもて（名）　髮面（假面にいふ所にて老人
の顏）。
せうのふえ（名）　簫、せう（簫管）。
せうく〔する〕（自）　憔悴、やせおとろへる。
せうくわ（名）ーする（自他）　消化、とかれ、とか
れる、こなす。
せうくわい　小會、こよりあひ、こあつまり、十ま
た長老執事會（教會の）。
せうくわい（名）ーする（自）　照會、かけあひ、と
ひあはせ、とひあはする。
せうくわだん（名）　消火頭、ひけしだき（出火の
際に役じて破却せしむれば能く火を滅すといふもの）。
せうくわう　消光、ひをくらす。
せうくわん〔する〕（他）　召還、めしかへす。
せうくわん〔する〕（他）　召喚、めしだす、よびだ
す。
せうくわんじやう（名）　召喚狀、めしぶみ、よび
がみ、よびだしじやう。
せうやう（名）　小具鴨、ふくだみ（食物の名）。
せうやう（名）　韶陽鳥、ごまめ動物。
せうやく（名）　消藥、ぬきうつす甲の醫師
を乙の醫師に、ぬきてはんやくする。
せうやく（名）　燒藥、えんせう、たまぐすり。

せうまう（名）小網、さであみ、とあみ。
せうまん（名）小満（二十四節の一）。
せうけい（名）小慶、こやすみ。
せうけい（名）小計、こじめ（總計又は合計の一部分）。
せうけい（名）小閨、のあざみ（組物）。
せうけい（名）小徑、こみち。
せうけい〔する〕（自）紹繼、ひきつぐ、あとをつぐ。
せうげつ（形）宵月、よひづき。
せうげう（形）繊細、けはしき、さかしき、たかき。
せうけん（名）椒鵬（天竺の一種にして其餌養法風記支那に行はれ其緑にて織りたるものを絹緞と稱す）。
せうけん〔する〕（他）召見（よびよせて面會する）、招見。
せうげん（名）小言、そそろごと。
せうげん（名）詔言、のりごと、みことのり。
せうふ（名）樵夫、きこり（山にて樹を伐るもの）、そま。
せうふく（名）小腹、（そのした、とはら。
せうふん〔する〕（他）傾粉、いでたつ、みこしらへする（役者が）。
せうぶん〔する〕（他）小分、こわけする、したわけする。
せうこ（名）招撰、ぬまいけ。
せうこ（名）小姑、こじうと（夫の妹をいふ）。
せうこ（名）笑顔、わらひばなし。
せうこう（名）小功（遠土五服の第四にして再從伯叔父母姑兄姉のために服する五ヶ月の喪なり、やや粗き麻布を用ふ）。
せうこん（名）招魂、たまよばひ（死者の靈魂を招くをいふ）、たまつり。
せうこんさい（名）招魂祭、たまよばひまつり、たまつり。
せうこんしや（名）招魂社（戰死者の靈魂を祭れる社）。
せうてい　小綱、はしけ、こぶね。
せうてい（名）椒庭（皇后の居所）、後宮。
せうでう（形）蕭條、ものしづか、ものさびしき。
せうてん〔する〕（自）繊纖、まきつく、まとひつく。
せうてんち（名）小天地（人は小天地（マイクロコズム）なりといふ、大天地（マクロコズム）即ち宇宙を此の五尺の身を以て代表するをいふなり）。
せうさい（名）小要、めかけ、妾。
せうさつ〔する〕（他）燒殺、やきころす。
せうさつ〔する〕（他）笑殺、わらひころす、わらひなやます美人の如く）。
せうさつ（形副）蕭條、そよそよと風ふく音にいふ）。
せうさつ〔する〕（他）抄撮、抄掇、つまみとる、ぬきかうつす。
せうさう（形）少壯、わかき、としわかき、さかんなる。
せうさう（名）小痩、ふきでもの。
せうさう〔する〕（他）抄搶、かすめとる、うばふ。
せうざう（名）肖像、にがたち（人の容顏をうつしたるもの）。
せうさきう（名）招魂、たまよばひ（死者の靈魂を招くをいふ）、たまつり。
せうさん（名）硝酸、硝石の酸化）。
せうさん（名）小産、はんさん（臨月前に子を産むをいふ）。
せうさん〔する〕（自）銷散、さらさら、なくなる。
せうさん（名）蕭散、ばせをなどもの（山間僻地の人などが著るもの）。
せうさんなん（名）小氣心の狹きをいふ。
せうさく（名）照燭、てりかがやき、ひかり。
せうさく（名）笞罵、いかき、さる。
せうさく（名）小息、なみ。
せうさく〔する〕（他）燒燬、やきすてる。
せうさく〔する〕（他）抄記、かきぬく、ぬきしるす。
せうさい（名）小息衣、なみごろも。
せうさよ（名）鯖魚、さばたぐひ（動物）。
せうさよく（名）消極電氣の性質なるもの、陽極に對す）。
せうさらん（名）鐘色菊の一種（植物）。
せうさう（名）小男、こどうと（僕の前なり、「こどうとを見よ」。
せうさやく〔する〕（他）消却、きゆる、きえうする、けす。
せうさはふ（名）小企業（企業試自身が勞働者兼ぬる企業）。
せうさん（名）小酒、とどり。
せうさんざい（名）清凉劑（ひやしぐすり（煩悶の藥）。
せうゆふ（名）小輔（古官名にて一省の卿を輔佐する者）。
せうめい（名）詔命、みことのり、おほせごと（帝王の）、詔宣。
せうめい（形）照明、あきらか、昌明、晶明。
せうめい（名）蟭螟（かまきりの乙（動物。
せうめつ〔する〕（自）消滅、きえうする、きえてなくなる。
せうもん（名形）笑止、はづかしさ、はぢ、十をかしき、十はづかしき。
せうし（名）抄紙、かみすき（漉紙、かみつくり）。
せうし（名）銷子、びいどろ、がらすざやまん。
せうし（名）少子、こども、をさなご。
せうし（名）照子、かがみ、鏡。
せうし　無思（無慮、憂慮、きをもむ、おもひなやむ、おもひをこがす、おもひなやむ）。
せうし（名）無絲芭蕉より取りたる絲）。
せうし（名）詔詞、みことのり、おほせごと）。
せうし（名）小姪、こゆび（季指）。
せうし（名）小鯽、こもの、こづかい。
せうじ　少時、わかきとき。
せうじ　小事、ちひさきこと。
せうじ〔する〕（自）肖似、あやかる、ほる、による。
せうじ　東海林氏。
せうしはい（名）硝子牌、まひごふだ。
せうしぜん（名）硝子蟾、なんぎやまんびん、ふちそこ。
せうしぢやう（名）燒戸場、やきば。
せうしるゐ　鞘翅類（前翅角質にして閒づれば背面にて相合する昆蟲の總稱）。
せうしよ（名）詔書、おほせがき、みことのりがき（勅書）。
せうしよ（名）抄書、ぬきがき。
せうしよ（名）小暑（二十四節の一）。
せうしよ（名）燒校、たいまつ、松明、炬火、ついまつ。
せうじよ（名）少丞（古官名、曹の中尋舍人に當る）。
せうじよく〔する〕（他）召集、よびあつむる、よびあつめる。
せうしよく（名）宵燭、ほたる、蟲（動物）。
せうしつ〔する〕（自）燒失、やけうせる、やけてなくなる。
せうしつ（形）蕭瑟（秋風の寒き貌、十また月名（太陰曆八月の異名）。
せうしつ〔する〕（自）消售、はける、うれる。
せうじつ（名）小舍、こや、ちひさきいへ。
せうしや（形）蕭灑、しやれたる、ふうりうなる、すつぱりしたる。
せうしや〔する〕（他）抄寫、ぬきがきする、ぬきかく。
せうしや〔する〕照射（五月頃獵師が山に火をたきて鹿を呼び寄せ射殺するをいふ）。
せうしやう（名）少將（武官の名にして中將の下に位す）。
せうしやう　誓壞（天地、相異なるの甚だしきに云ふ）。
せうじやう（名）招訴、まねきぶみ、まねきじやう。
せうじやう〔する〕（他）誅戮、せむる、とがめる、譴責、せむる、そしる、譏。
せうしやうのはつけい　潮湘八景（山市晴嵐、漁村落照、江天暮雪、煙寺晩鐘、平沙落雁、遠浦歸帆、瀟湘夜雨、洞庭秋月）。
せうしやく（名）小酌、こざかもり。
せうしやく〔する〕（他自）銷鑠、とかす（金を）、とける、十けす（異厄を）。
せうしふ〔する〕（他）召集、めしあつむる、よびあつむる。
せうしふ〔する〕（他）喚集、よびあつむる（一般などを）。
せうしふ〔する〕（自）招聘、ひきつぐ、あとをつぐ、つぐ。
せうしふ〔する〕抄襲、ぬきとる（他人の書より）、十ぬすみとる。
せうしゆ（名）椒酒（元旦に飲む酒）、屠蘇酒。
せうしゆ〔する〕（他）抄奪、ぬきあつむる。
せうじゆ（名）小豎、こづつ、こぞう。
せうしゆつ〔する〕（他）抄出、ぬきいだす、ぬきがきする。
せうしゆく（名）小叔、こうと（夫の弟なり、叔また月名（太陰曆十月の異名）。
せうしゆん（名）小春、こはる（二十四節の一、十月頃）。
せうしゆん　小心、こころをちひさくすむ、注意、愼慮、つつしむ（放膽に對す）。
せうしん（形）蕭殺、ものさびしき、ものしづか、さびしき。
せうしん（名）小身、いやしきみ、十ちひさきからだ。
せうしん（名）蕭辰（太陰曆七月の異名）。

せうしん（名）　燭針、火鍼、やきがね。
せうしん（する）　焦心、きをもむ、こころをこがす。
せうしん（名）　小人、いやしきひと、眞に心術の卑野なるをいふ。
せうしん（名）　樵人、そまびと、きこり。
せうしん（する）〈自〉　消遣、きをつきる、きえてなくなる。
せうそう（する）〈自〉　逍遥、ぶらつきあるく、あそびあるく、遊歩。
せうそう（する）〈自〉　照曜、かがやく、てりかがやく。
えうそうくわ（名）　笑靨花、えくぼなる植物。
せうそえん（名）　硝煙、火薬のけむり。
せうそえん（名）　宵宴、よざかもり。
せうそえん（副）　少時、しばらく、暫時。
せうそえんざい（名）　消炎劑、ねつさまし。
せうひ（する）〈他〉　消費、つひやす、つかひなくす。
せうび（名）　鬍鬚、かはせび（動物）。
せうび（名）　然眉、まゆをこがす（危急の迫るをいふ、然眉の急など書く、然眉、まゆをやく。
せうび（名）　焦尾琴の一名。
せうひつ（名）　少弼、顯正爵の次官、唐名柳史中丞。
せうもん（名）　邇門、もんのうへのやぐち。
せうもん　蓼門、芭蕉翁の門下をいふ、北角、巽巽、丈草、去來、許六、支考、北枝、曾良、越人、野坡、之を蓼門の十哲と呼ぶ。
せうせい（代名詞）　小生、わたくし自己の謙稱。
せうせい　小成、すこしばかりできること（未だ大成に至らぬをいふ）。
せうせい（名）　小星、細君、つま。

せうせい（名）　照星、見當、すりわり鐵砲に設けたるもの（ねらひぼし。
せうせい（する）〈他〉　招請、こひまねく。
せうせいこ　小西湖、不忍池を支那の西湖に擬してつけたる名。
せうせつ（名）　小說、つくりばなし、稗史、くさざうし。
せうせつ（名）　小譽、二十四節の一。
せうせつ（名）　饒舌、くちまめなること、くちもはきこと、しやべり。
せうせつか（名）　小說家、稗史小說を作る人（くさざうしのさくしや。
せうせう（詞形）　少小、わかき、としすくなき。
せうせう（する）〈他〉　招喚、まねきよぶ。
せうせう（形）〈副〉　蕭蕭、瀟灑、さびしき、ものしづかに、十しめやか、しつぽり（秋雨などの靜かに降るにいふ。
せうそく（名）　蟭螟、あしたかぐも、動物。
せうそく（名）　兄弟夫兄弟姉妹。
せうそく（名）　稍石、まんせうつち（火藥を製するに用ふるもの。
せうそく（する）〈他〉　請賈、せむる、とがむる。
せうそん（名）　小孫、こびあひ。
せうそん（名）　小船、こぶね、小艇。
せうそん（名）　晴船、はれりのふね。
せうそん（する）〈他〉　鈔選、ぬきえらむ、えりぬく。
せうそん（名）　詔貴、せうしきの一、詔命。
せうぜん（副形）　照然、あきらかに、あらはいちじるしき。

せうぜん（副形）　蕭然、ものしづか、さびしき、しめやか。
せうする（する）〈自〉　憔悴、やつれる、やせおとろへる。
せうすう（名）　小數（一以下の數をいふ、二（十分を一となす）、分（十釐を分となす）、釐、毫、絲、忽、微、纖、沙、塵、埃をいふなり、大數に對す。
せうすう　少數、すくなき數、多數に對す。
せうすう　蛸尾、鯛尾氏。
せうせき　急、いそぐ、促。
せうく（自）　簫供、簫會の供物また其日、せつく。
せうく（名）　堰、せきとめる河水を、ふさぐ、塞。
せうぐ（名）　超旬、ぜつく（四旬より成れる諷詩）。
せうぐるま（自）　瞬、かがまる、ちぢまる、世を憚りて伸びて歩けぬをいふ。
せうやく　施藥、くすりをほどこす。
せうまい　捷來、ほどこしごめ、こめをほどこす。
せうまる（自）　逍遥、遨遊、追遥、ちかくよりつく、十骨迫、喊迫、促迫、あとしせまる。
せうまき（形）　狹、隘、褊、賤、ひろからぬ。
せうまきところ　小量、小器、小體、ちひさきこころ。
せうげん（名）　女衒、誘口、ひといれ、くつわ（吉原にて勤筆公人即ち女郎の口入をする人にて上方の肝入例人といふに同じ）。
せうけんおず（形）　狹邪子、よのなかしらず、あほだら。
せうふ（名）　饒、ゆがけ。
せうふ（名）　簞、笥、飼、あふぎ。

せうふ（名）　妾、おもひもの、めかけ、倭妻、側室、そばめ、てかけ、十又總人自ら稱する謙詞。
せうふ（名）　叙爵田畠の廣狹長短の數。
せうふはう　捷報、かちいくさのしらせ、勝報。
せうふほ　捷歩、はやあし、はやあゆみ。
せうふり〔する〕〈自〉　興風、ふむ、踐詣。
せうふり〔する〕〈他〉　經理、やはらげととのふ、調和（陰陽などを。
せうふかふ（形）　淡泊、あまねき、しみわたる、ゆきわたる。
せうふれふ〔する〕　帶穢、廣く書物をよむをいふ。
せうふく〔する〕〈自〉　悩懼、おそるる、もづる。
せうまう（名）　睫毛、まつげ、目の上の毛。
せうふけい（名）　捷徑、ちかみち、はやみち。
せうふけい〔する〕〈自〉　惕怯、おづる、おそれる。
せうふふく〔する〕〈自〉　悩悔、おそるる。
せうふふく（名）　妾腹、めかけばら妾の腹より生れたるをいふ。
せうふく〔する〕〈自〉　驚服、おそれふくする。
せうふふく〔する〕〈自〉　悩伏、おそれいる、おそれまつろふ。
せうふき〔する〕〈自〉　悩疑、もののきおそる。
せうふきん（名）　捕禽猟や千鳥などのごとく水中を長脚にて歩ひわたる鳥。
せうふみ（名）　瀬踏川の淺深を歩ひ試むること。
せうふし（名）　燧子、くぎぬき。
せうふし（名）　春節骨のかつをぶし）。
せうふしよう〔する〕〈自〉　驕慢、あとをふむ。
せうふしつ　淡旦一旬即ち十日間をいふ。
せうふしふ〔する〕〈自〉　驕惜、おそるる、おづる。

せうふじゆ（名）　驕嗤（昔ひかけてくちをつぐむこと。
せうふしん〔する〕〈自〉　驕談、さまやく。
せうふもく〔する〕〈自〉　驕默、どもりてすすまぬ言葉が。
せうふせん（名）　摺扇、おふぎ、たたみおうぎ。
せうふするでう（名）　捕水鳥（水の淺きところを歩みて餌を拾ふ鳥。
せうこ（名）　夫子、女より男を親んで呼ぶ稱（古語。
せうこ（名）　勢子、列卒、かりこ、かり人。
せうこなは（名）　俠鰭、燒子、せひくきひとにに同じ。
せうごま（名）　俠鰭、燒子、せひくきひとにに同じ。
せうこと（名形）　癡、せむしに同じ。
せうこと（名）　列卒駐狩場にて獸類を驅り出す呼び聲。
せうさい　世才、處事に長じたる才。
せうさき（名）　關、せきし上國境要所などに設けて通行人をとりしらぶところ、十又（組織の長、十又國事にて白黑共に否を下すも益なきより其儘うちすてゐくべきところ。
せうき　關氏。
せうき（名）　箭、にんべつ戸籍。
せうき（名）　廚、むしろ、すわりどころ。
せうき（名）　褥、ゆふべ、よひ。
せうき（名）　堰、堤防河に設けて水流をふさぎ止むるもの。
せうき（名）　暖暖、暖、しばふき、十又（せきの顰に出づる呼吸器病。
せうきはん（名）　石帆、いはとがしは植物。
せうきはん（名）　夕飯、ゆふげ、ゆふめし。

せきはん（名）赤飯、こはめし。
せきばん（名）石版、石盤、いしいた。
せきばんぐわ　石版畫、せきばんゑ。
せきばんてき（名）石斑魚、いしぶし、うぐひ、あひめ（動物）。
せきばんせき（名）石鹽石、石鹼を作る石。
せきにん（名）責任、せめ、義務。
せきぼく（名）グ裝、ゆみぶくれ、ひくれ。
〔せきぼく〕（名）グト、ゆふうち、ゆふけ。
せきぼん（名）石墨今の石筆なり、鉛金石。
せきへい〔する〕石本、いしずり。
せきべつ（名）石鼈もいがひ、ひざさちがひ（動物）。
せきへうど　赤熛怒、太乙丑帝の一にして赤帝と云ふ、「ごていを見よ。
せきへうし（名）赤雲子、たまづさ（植物）。
せきへき（名）石壁、いしがき。
せきへきざん　赤壁山、宋の蘇東坡、揚世昌の二人舟遊をなし赤壁賦を作りし所なり、今の支那湖北省武昌府嘉魚縣。
せきど（名）赤土、あかつち。
せきど（名）尺度、しやくど、ものさし。
せきど（名）關門、くわんもん、せきしよのもん。
せきど（名）石弩、いしゆみ。
せきどり（名）關取、最手ほど、すまふがしら、十また力士の美稱。
せきとり（名）石鷄、いはやはちあな。

せきとり（名）石蝨、いしだん。
せきとり（名）赤鷄、あかがね。
せきどり（名）關鍋鼓鼗鼓、石〔圖〕此圖なるは大和國法隆寺の所藏といふ。
せきとり（名）尺鷹、てがみ、あみ。
せきとく　祇園、おはいなるとく（大徳）。
せきとくさん　赤兎山、あかはげやま。
せきとめる（他）堰止、よきとめる、水を。
せきとち　磧地、やせち、破關地、もしきち。
せきとち（名）石地、いしぢ、いしつち。
せきとち　尺地、すこしのとち、わづかのとち。
せきとり（名）赤地利、つるそば（植物）。
せきとり（名）積貯、つみたくはへ。
せきとり（名）石女、うまずめ、こなし、はちまぬ（植物）。
せきとりよりたん（名）石鏡、つるりんどう（植物）。
せきとりよく（名）石鏡孔雀石をいふ。
せきとりうひ（名）石榴皮、ざくろのかは（藥品）。
せきとりやう（名）夕凌、ゆふすずみ。
せきとりゆうざう（名）石龍蒭、てんかかづら（植物）。
せきとりゆうさう（名）石龍草、ゐ（植物）。
せきとりゆうし（名）石龍子、とかげ（動物）。
せきとりゆうせい（名）石龍芮、たがらし、たたらひ、うしせり（植物）。
せきとりゆうすう（名）石龍芻、こひぢ、ねぐさのたいひ、はそきねぐさ（植物）。
せきとりん（名）石林、小便の通ずるに痛みを綴ずる病。
せきとりん（名）赤燐、ボスポル、フヌスフヲル。
せきとりん（名）石鱗、いしごひ（ひものの一）（動物）。
せきとりん　隼鞆、くるまのかたわ。
せきとる〔する〕（他自）精巧、つみかさねる、つむ、つもる、かさなる。
せきとわり（名）石賃、いわう、ゆわう。
せきとか（名）石荷、ゆきのした（植物）。
せきとかい（名）石階、いしだん。
せきとかい〔する〕（他）舞踊、ゆるす、とく。
せきとかいそくきよ（名）赤鯽魚、たひ（動物）。
せきとがは　關川氏。
せきとがはら　關ヶ原、美濃國不破郡に在る地名、家康が大に石田を破りし古戰場、それより轉じて俗に事の成否の決する肝要なる點にいふ。
せきとかへす（他）堰反、ふきかへす水を。
せきとかわ（名）石賁、あぶらいし、硫酸石灰。

せきとかく或しかく（名）刺客、あんさつにん、やみうちするひと。
せきとがく　碩學、鴻儒、大學者をいふ。
せきとかくざう（名）赤角豆、あかさゝげ（植物）。
せきとかふ（名）赤蛤、あかがひ（動物）。
せきとかん（形）寂閑、しづかなるさま、もとなき。
せきとがん（名）石龕、いしのひつき、十せきたん。
せきとがん　隻眼、ひとつめ、かため。
せきとかんたう（名）石敢當、支那または九州邊方にて巷陌衝道の衝に當る正門または只の巷衢の端又は曲目に一小石を立てて其上に刻する所の文字なり、惡れ向ふ所敵なきの意にして疫除のためにせるものなりと云ふ。
せきとがんぎよ（形）赤眼鳥、ます（動物）。
せきとく　隻眞、たかはね、片羽。
せきとたい（名）石苔、しらごけ（植物）。
せきとたい（名）石帶、いしおび。
せきとたい（名）赤鯛、ながち。
せきとだい（形）碩大、おほいなる。
せきとだい（名）石菱、花盆、うえきばち、はんど。
せきとだう（名）赤道、地球の中央に地軸と九十度の角度を以て回らしたる想像の線。
せきとたうはく（名）石刀柏、まつばうど（植物）。
せきとたうちよくか　赤道直下、せきだうのきした「せきだう」を參看せよ。
せきとたうちよくさい（名）赤道祭、軍艦などが赤道直下を航海する時に行ふ一種奇異なる風習にして赤道の神を祭るものなりといふ。
せきとたく〔する〕（他）稍託、かこつける、ことよせる。

せきとたふ（名）石塔、はかいし。
せきとたてる（他）促迫、せかす、うながす。
せきとたん（名）石炭、太古の植物の地中に埋れて自然に變化したるもの、燃料に供す。
せきとだん（名）石壇、いしだん。
せきとたんいう（名）石炭油「せきたんあぶら」に同じ。
せきとたんかつき（名）擔夫、石炭を船に出し入れする人夫。
せきとたんあぶら（名）石炭油、石油。
せきとたんさん（名）石炭酸、劇藥の名。
せきとち（名）石鍼、まんじゆしやけ（植物）。
せきとち（名）關鍋、いしたたき、にはたたき、とつぎをし〔ざり、むぎまきとり、にはくなぶり（動物）。
せきとち（形）寂寞、さびしき、しづか、十さびれたる。
せきとち（名）赤鍋、あかはち。
せきとち　磧地、やせち、磧地。
せきとぢり（名）關取、最手ほど、すまふがしら、十また力士の美稱。
せきとり（名）石蝨、いしだん。
せきとり（名）赤鷄、あかがね。
せきとり　石版、石盤、いしいた。
せきとり　石版畫、せきばんゑ。
せきとり（名）石斑魚、いしぶし、うぐひ、あひめ（動物）。

せきとり（名）石鱗、つるりんどう（植物）。
せきとり（名）赤鷄、あかがね。
せきとり　關鍋鼓鼗鼓、石〔圖〕此圖なるは大和國法隆寺の所藏といふ。
せきとり（名）尺鷹、てがみ、あみ。
せきとく　祇園、おはいなるとく（大徳）。
せきとくさん　赤兎山、あかはげやま。
せきとめる（他）堰止、よきとめる、水を。
せきとち　磧地、やせち、破關地、もしきち。
せきとち（名）石地、いしぢ、いしつち。
せきとち　尺地、すこしのとち、わづかのとち。
せきとり（名）赤地利、つるそば（植物）。
せきとり（名）積貯、つみたくはへ。
せきとり（名）石女、うまずめ、こなし、はちまぬ（植物）。
せきとりよりたん（名）石鏡、つるりんどう（植物）。
せきとりよく（名）石鏡孔雀石をいふ。
せきとりうひ（名）石榴皮、ざくろのかは（藥品）。
せきとりやう（名）夕凌、ゆふすずみ。
せきとりゆうざう（名）石龍蒭、てんかかづら（植物）。
せきとりゆうさう（名）石龍草、ゐ（植物）。
せきとりゆうし（名）石龍子、とかげ（動物）。
せきとりゆうせい（名）石龍芮、たがらし、たたらひ、うしせり（植物）。
せきとりゆうすう（名）石龍芻、こひぢ、ねぐさのたいひ、はそきねぐさ（植物）。
せきとりん（名）石林、小便の通ずるに痛みを綴ずる病。
せきとりん（名）赤燐、ボスポル、フヌスフヲル。
せきとりん（名）石鱗、いしごひ（ひものの一）（動物）。
せきとりん　隼鞆、くるまのかたわ。
せきとる〔する〕（他自）精巧、つみかさねる、つむ、つもる、かさなる。
せきとわり（名）石賃、いわう、ゆわう。
せきとか（名）石荷、ゆきのした（植物）。
せきとかい（名）石階、いしだん。
せきとかい〔する〕（他）舞踊、ゆるす、とく。
せきとかいそくきよ（名）赤鯽魚、たひ（動物）。
せきとがは　關川氏。
せきとがはら　關ヶ原、美濃國不破郡に在る地名、家康が大に石田を破りし古戰場、それより轉じて俗に事の成否の決する肝要なる點にいふ。
せきとかへす（他）堰反、ふきかへす水を。
せきとかわ（名）石賁、あぶらいし、硫酸石灰。

せきとなりいう（名）石蘭油、未だ精製せざる石炭油。
せきとなん（名）石南、とべら、しやくなげ、ほそばしやくなげ（植物）。
せきとら（名）石蝮、いしはなり（一名蛇石と稱す蝮の石に化したるもの）。〔石〕
せきとら（形）赤裸、まるはだか、あかはだか。〔圖〕
せきとらふ（名）鍋蟹、びやくふ。
せきとらん（する）〔自〕赤爛、あかくただれる。
せきとむ（名）責務、責任と義務と。
せきとむ（名）ク鬱、ゆふぎり。
せきとむかへ（名）關迎、昔時最より歸著する人を京都より逢阪關まで出迎へしたるをいふ。
せきとうつ　積鬱、むすぼれる氣が。
せきとぐち　關口氏、また東京市小石川區内の地名。
せきとぐちちやう　關口町、東京市神田區神田及び小石川區の町。
せきとくわ（名）石花、かき（動物）。
せきとくわ（名）石灰、石より出づる火。
せきとくわ（名）夕和、ゆふなぎ。
せきとそつ（名）石灰、いしばひ。
せきとくわいせき（名）石灰石、いしばいし。
せきとくわいする　石灰水、いしばひみづ。
せきとくわく（名）石槨、いしのからうと、いしのくわんをけ、十石棺。
せきとくわく（名）尺蠖、はかりむし、しやくとりむし（動物）。
せきとくわさい（名）石花菜、ところてん（植物）。

せきくわん（名）石棺、いしびつき、いしのくわんをけ。
せきくわん（名）籍貫、にんべつ自分の屬する府縣。
せきくわん或せきけん（する）（他）膚卷膚をまく如き勢にて他を征服すること。
せきくつ（名）石窟、いはや。
せきくん（名）夕曛、ゆふぐれ、ひぐれ。
せきやどまち　關東町（下總國東葛飾郡の町名）。
せきやう（名）夕陽、いりひ、にしび。
せきやう（名）赤楊はんのき、はりのき、あかやなぎ、かはやなぎ植物。
せきやう（名）旅行、ほどこし、めぐみ、十ほどこしおこなふ、しかう。
せきやうぼく（名）夕陽木庭園の傍の平地にて上座石などの間に植ゑたる華美なる樹をいふ。
せきやま　關山（磐城國白川郡に在る山、有名なる白川の關の在りし地。
せきやま（名）石屋、いしうち。
せきやまち　關町（伊勢國鈴鹿郡及び美濃國武儀郡の町名）。
せきやり（名）石毛蟲、いはじかみ植物。
せきやい（名）石雞、かじか（動物）。
せきやい　夕長、ゆふげしき、十ゆふぐれ。
せきやいぎよ（名）石桂魚、きけ（動物）。
せきやけつめい（名）石決明、あはびがひ（動物）。
せきやけう　石橋、いしばし。
せきやけん（名）石鹸、しやぼん。
せきやけん（名）石茸、いはふやなぎ（植物）。
せきやけん（名）赤茸、あかひゆ（植物）。

せきふ　試驗、なの、まさかり。
せきふ　石斧、いしのをの。
せきふ（名）石蠶、うまびめ、はちまめをんな、石女。
せきふ（名）貴付、あづけ（罪人を親類預けに爲る府縣）。
せきふた（名）膚札、ふだ、下田。
せきふつ　石佛、いしぼとけ。
せきふん（名）石糞、けもののたま（走獸の屢中に在る石）。
せきふん（名）積分數學の一分科の名）。
せきへ（形）痞結、やせがれ、やつれたる。
せきへ（名）石戸、をしど氏。
せきへつ（名）齊肘、せぼね。
せきへむ（自）急込、いそぐ、せく。
せきへむ（他）堰込水をせきて入るる。
せきへう（名）石工、いしや、いしきり。
せきへう（名）芹候、ものみ。
せきへく（名）石蜈、いはぐすり、いはしのね植物。
せきほく（名）石刻、いしざり。
せきほこ（名）石鳩、かめのこ動物。
せきほこすゐ（名）石萌蒿、はなひりぐさ、ときんさうぐいはぎぐさ植物。
せきほこんこう（名）赤鯉公魚の異名、六六鯖、六六魚動物。
せきほこんさい（名）赤根菜、はうれんさう、かんな、しとぴな植物。
せきほさ　夕長、ゆふひかげ。
せきほさ（名）赤蟻、あかあり（動物）。
せきほさよく（名）積極電氣の陽性なるもの、消極に對す、しやくきよく。
せきほさよく　赤闕、すあし、はだし。
せきほさやく　集闕、かたあし。
せきほさやく　赤闕、あかがは、はぢたるかは。
せきほめん（名）石綿（白色または灰色の纖物にして其地合緻密にして柔軟なり、火に入るるも變化せず、因りて之を以て布を織し或は燈心を製する等種々の用に供す、西洋支那ともに古は之を火鼠（サラマンダル）の毛と爲したり、之を以て作れる布を火浣布と稱す、又ひれずみのかはごろも（火鼠裘）と呼ぶ、火浣布を參看せよ）、石綿、いしわた。
せきほし（名）石子、たけり（獸の外腎をいふ）。
せきほし（名）赤子、あかご、ちのみご。
せきほし（副）藉使、たとひ、よしや。
せきほじ　集學、いちじ。
せきほじ　昔時、そのかみ、むかし。
せきほしよ（名）石橋、いしばし植物。
せきほしよ（名）關所昔し諸國に設けたる關門にして往來人を取しらべしところ。
せきほしよう（名）石松、ひかげのかづら、さるをがせ、きつねをがせ植物。
せきほしよう（名）赤松、めまつ、あかまつ、陰松植物。
せきほしようにゆう（名）石鍾乳、いしのち、つらゐいし。
せきほしよく　赤色、あかいろ。
せきほしよく　夕食、ゆふげ、ゆふめし、晩餐。
せきほしよく　赤埴、あかねば、あかきねばつち。
せきほしよふだ（名）關所札關所を通行する時の手形。
せきほしつ（名）石室、いはや、いしのいへ。
せきほじつ　昔日、そのむかし、いにしへ。
せきほじつ（名）夕日、ゆふひ。
せきほじつ（名）石綫、いしわた石綿（せきめんの下に詳解あり、能いて見るべし）。
せきほしやう（名）赤瑞南方火の色にかたどり中

せきほしん　圖本町（常陸國眞壁郡の町名）。
せきほもり（名）關吏、關守、きの名（植物）。
せきほもり（名）關吏、防人（關所の番人）。
せきほもく　隻目、かため。
せきほもん（する）（自）責問　せめとふ、せめなじる、詰問。

せきほやく　圖征關所を通過する代に出すもの）。
せきほやく　關底、あしのうら。
せきほやく　赤面、あかがは、はぢたるかは。
せきほめん（名）石綿（白色または灰色の纖物にして其地合緻密にして柔軟なり、火に入るるも變化せず、因りて之を以て布を織し或は燈心を製する等種々の用に供す、西洋支那ともに古は之を火鼠（サラマンダル）の毛と爲したり、之を以て作れる布を火浣布と稱す、又ひれずみのかはごろも（火鼠裘）と呼ぶ、火浣布を參看せよ）、石綿、いしわた。
せきほし（名）石子、たけり（獸の外腎をいふ）。
せきほし（名）赤子、あかご、ちのみご。
せきほし（副）藉使、たとひ、よしや。
せきほじ　集學、いちじ。
せきほじ　昔時、そのかみ、むかし。
せきほしよ（名）石橋、いしばし植物。
せきほしよ（名）關所昔し諸國に設けたる關門にして往來人を取しらべしところ。
せきほしよう（名）石松、ひかげのかづら、さるをがせ、きつねをがせ植物。
せきほしよう（名）赤松、めまつ、あかまつ、陰松植物。
せきほしようにゆう（名）石鍾乳、いしのち、つらゐいし。
せきほしよく　赤色、あかいろ。
せきほしよく　夕食、ゆふげ、ゆふめし、晩餐。
せきほしよく　赤埴、あかねば、あかきねばつち。
せきほしよふだ（名）關所札關所を通行する時の手形。
せきほしつ（名）石室、いはや、いしのいへ。
せきほじつ　昔日、そのむかし、いにしへ。
せきほじつ（名）夕日、ゆふひ。
せきほしやう（名）赤瑞南方火の色にかたどり中

づく、ごていを見よ。
せきてん（名）齋賞二月及び八月の上の丁、ひのとの日に大學にて行ひし孔子の祭。
せきてん（名）石磯、もみすりうす。
せきでん　齋田、やせた、下田。
せきあ（名）積雪、たかやまひ、雪洞。
せきあく　積惡、つもれるあしきわざ。
せきあげる（自）敎逆、しやくりあげる、わせぎ。
せきさい（名）齋藥齋賞に同じ、孔子の祭なり。
せきさい　頑才、おほいなるちゑ。
せきさい　積財、たくはへ、おね。
せきさつ（する）（他）撃殺、うちころす。
せきさつ（する）（他）撃殺、さしころす。
せきざう　石造、いしのかたち、いしぼとけ。
せきさん（名）石算、だいこくむし動物。
せきさん（名）石蠶、まんじゆしやけ、ひがんばな、しとぴな植物。
せきざん（名）石蠶、いしきりのみ。
せきざんりよう（名）石山寢、をさすげ植物。
せきざんくわ（名）石蠶花、まんじゆしやけ、ひがんばな、しとぴな植物。
せきさき　夕長、ゆふひかげ。
せきさき（名）赤蟻、あかあり動物。
せきさよく（名）積極電氣の陽性なるもの、消極に對す、しやくきよく。
せきさよく　赤闕、すあし、はだし。
せきさやく　集闕、かたあし。
せきさやく　赤面、あかがは、はぢたるかは。
せきさめん（名）石綿（白色または灰色の纖物にして其地合緻密にして柔軟なり、火に入るるも變化

せめさる（他）攻取、せめうばふ。
せめさふ　責問、拷問、くるしめとふ、なやましたじる。
せめぬく（他）攻抜戦つて城を奪ふをいふ。
せめる（他）攻、責、譴、譴、譴、詰責、譴譲、責問、詰問、とがめる、なじる、十攻撃、おそひうつ、十しかりこらす。
せめおさす（他）攻落城をほろぼすをいふ。
せめよせる（自）攻寄、せめちかづく。
せめだうぐ　貫道具、せめるだうぐ。
せめうつ（他）攻撃、せめなやます。
せめのぼる　攻上、せめあがる、十せめくる（都へ）。
せめぐるま（名）貫之國弦、細綫を以て巻き漆にて塗りたる弦。
せめぐ（自）問、あちそふ、せりあふ、いさかひする。
せめくは（名）貫柔（後冦法にて傷際の前墓兒に少しく導く姿を縄ふるを然かいふ）。
せめぐち（名）攻口、せめどころ。
せめふせる（他）攻伏、せめてまかす。
せめて（副）切、せちに、せまりて。
せめあぐむ　攻倦、せめあく。
せめぎ（名）貫木、尖木、くさび。
セメンシイナ（名）施歸矢箭、むしくだしぐすり（藥品）。
せみ（名）蝉、蝉、脊女動物。
せみ（名）滑車の一。
せみはらぼら（名）鮮魚動物。
せみたけ（名）蝉茸蝉の未だ土中にある中に菌類の胞子が附着してそれより発生したる菌をいふ。
せみね（名）脊梁馬背の鞍の下になるところ。
せみのはごろも（名）蝉羽衣、ひと（へのすゞし堂上家の服。
せみのぬけがら　蝉蛻、枯蝉、せみのから、せみのうまれたるから、蛻殻。
せみのをがは　禰見小河、山城の賀茂川の本名。
せし（名）世子諸侯の嫡子を然かいふ、せいし。
せじ（名）世事、よのこと世間の俗事をいふ、世務、俗務。
せじ　世事また世態（俗に世渡りをいふとは心にも無き表面きの挨拶をし諂諛の言をなすをいふ）。
せじ（名）禅師、僧侶の師。
せじるし（名）引船標、浅水標、みをじるし。
せじやう　世上、よのなか、世間。
せしゆ（名）施主、ほどこしぬし、くやうぬし、檀那、檀越。
せしめる（俗）（他）含、とるべきかすめるべきの金をせしめるなど云ふ。
せしめうるし（名）石漆漆の一類。
せじん（名）青岡、せなかのにく。
せじん（名）世人、よのひと。
せひ　是非、よしあし、正否、十又かならず。
せひる（他）強請、せがむ、わづらはす。
せひれ（名）脊鰭、せなかのひれ（魚の）。
せひなし（形）無是非、せんかたなし、しかたなし。
せひらき（名）是正、ただす、ことはす。
せひせひ（副）是非是非、きつと、かならず、なんでもかんでも。
せもつ（名）施物、ほどこしもの。
せぜ（俗）（名）錢、ぜに、おあし。
せせいう（する）（他）是正、ただす、ことはす。
せせる（他）揉、つつく。
せせなぎ（名）遠祖、遠水、遠人家にて水を流し出す溝、どぶ十げすな。
せせらわらひ（名）嘲笑、あざわらひ。
せせらぎ（名）磯礫河水の瀬にて現はれたる砂石をいふ、十また國流、小流。
せせむら　勝所村、近江國蒲生郡に在る有名の地。
せせぐまる　蹲、せかがむ、せなかまがる。
せすぢ（名）背筋、せなかのすぢ。
せん（形名）千百を十合せたるをいふ。
せん（名）銭、ぜに。
せん（名）栓、機関、栗子、くち、コルップ。
せん（名）線、すぢ、いと。
せん（形）悪、もつぱら。
せん（名）膳、膳、膳料理にて揃く刻みたるもの、（鯖膳、茶子膳などいふ）。
せん（名）銭、けわしき、花綫、毛綫。
せん（形名）善、よきこと、十よき、よろしき。
せん（名）箭、矢、さき。
せん（名）膳、食卓、食膳（伏膳の義、テーブル。
せん（名）銭衣、けごぬ、けおりのきもの。
せんる（名）膳織、ほそきいとすぢ、ほそすぢ草木人綫などの。
せんい（名）禅衣、もひづる。
せんる　禅位、くらゐをゆづる、天子が、譲位。
せんいちに（副）悪一、ひとひきに、ひたすらに、いちづに。
せんいう（する）（他）占有、しめる、とる、ひぎる（占領して所有す）。
せんいん（する）　薦引、すすめる、すゝきよする。

せんぶん（名）仙院、太上天皇の御所、仙洞。
せんぶん　全員、人数の揃儀。
せんろ（名）船路、ふなぢ、航路。
せんろ（名）船艦、ふなとも、ふねのしりへ。
せんろ（名）線路、みちすぢ、鐵道などにいふ。
せんろう（形）賤陋、いやしき、十ひろう。
せんろう（する）（他）鎖鐵、ゑりきむ、ほりつけも。
せんろふ（名）艦護艦、きりぼしだいこん。
せんばい　先駆、としうへのひと。
せんばい（名）喜資、ひとりうり（一人にて事ら資りも我先に物を買ひ取り得る権利）。
せんばいけん（名）先買権（他の人又は他の國よる）。
せんばぬま　仙波沼、常陸國茨城郡に在る大沼、千波とも書く。
せんばつ（する）（他）剪伐、きる、きりはらふ（樹木などを）。
せんばつ（する）（他）選抜、えりぬく、えらぶ。
せんばづる（名）千羽鶴紙にて折りたる鶴にて夏日家の天井に懸け置きて蠅の糞を除ける。
せんはら（名）戦方、さきかた。
せんばう（名）戦袍、よろひ、いくさよろひ。
せんぼう（する）（他）瞻望、みわたす、ながめる。
せんぼう（する）（他）羨望、うらやむ。
せんぼく（名）仙柏、羅漢松、まき植物。
せんぼく（形）淺薄、あさき、あさはか。
せんぼく　阡陌、道の東西を阡と云ひ南北を陌といふ、たみち、はたけみち、十とほり。
せんぱく（名）船舶、ふね、舟。

せんぶん　歌法、いくさのしかた、軍法、陣法。
せんぶん（形）恭々、とばしき、すくなき。
せんぱふ　扇法、さとりのみち（佛法の語）。
せんぱん（名）斑斑、きりふ。
せんぱん（副）先般、さきごろ、過般。
せんぱん（名）箭鍬、やきず（矢を射られたるきず）。
せんぱん　先晩、さきの夜、前夜。
せんぱん　千萬、いろいろ、十はなはだおほく。
せんぱん　先番、さきて。
せんぱう（名）先鋒、先陣、先驅。
せんぽう（名）仙茅、きんばい（さう植物）。
せんぽく（名）前晩、まへの夜、きのふのばん。
せんぽく（名）尊稱、あま、女人の僧となりしものの尊稱。
せんぽくごほり　仙北郡羽後國の郡の名。
せんぼん　千本氏。
せんぼん（名）洗盥、たらひ。
せんぼんやり（名）大千草、むちさきたんぽ（植物。
せんべい（名）煎餅、仙貝、瑞龍餅、錢餅、せんべ千葉の名。
せんべつ（名）餞別、はなむけ、かれをおくること、後餞、送別、贈送、十又はなむけのかね。
せんべう（名）前髪、きさし前髪、ま（じる）。
せんべん（名）仙人、羽客、やまびと深山などに栖み長生を保つといふもの。
せんにん　専任、もつぱら事務を擔當すること）。
せんにん　善人、よきひと。
せんにんい（名）仙人衣、鹿衣、えな。
せんにんばり（名）仙人箱、きぬがさう（植物）。
せんにんがしら　千夫長、千總千人の兵卒を率ゐる人）。

せんぶん　仙人嶺陸中國閉伊郡（いごほりに在る山）。
せんにんさう（名）仙人草、大蓼、はこべ、ふてくさ（植物）。
せんにんしやう（名）仙人掌、さぼてん、さぼてんずつぼう（植物）。
せんにんしゆ（名）仙人酒、乳、ちち。
せんぽ　跣歩、はだしあるき、跣足。
せんぽ（する）（自）義裳、うらやむ。
せんぽう（する）　戦没、うちにする。
せんぽう（名）先鋒、さきて、先陣、先驅。
せんぽく（名）前晩、まへの夜、きのふのばん。
せんぽく　千萬、いろいろ、十はなはだおほく。
せんぽん　先番、さきて。
せんぽん　前晩、まへの夜、きのふのばん。
せんぽん（名）前尾、あま、女人の僧となりしものの尊稱。
せんにちまつり　千日參、太陰暦七月十日京都六波羅の祭禮また同二十四日愛宕山の祭を然かいふ。
せんにちさう（名）千日紅、千日草、日んにちこう（植物）。
せんにふ（名）先の入、さきにまなべる（園こと。

せんにん　仙人、羽客、やまびと深山などに栖み長生を保つといふもの。
せんにん　専任、もつぱら事務を擔當すること）。
せんにん　善人、よきひと。
せんにんい（名）仙人衣、鹿衣、えな。
せんにんばり（名）仙人箱、きぬがさう（植物）。
せんにんがしら　千夫長、千總千人の兵卒を率ゐる人）。
せんにんたちげ　仙人嶺陸中國閉伊郡（いごほりに在る山）。
せんにんさう（名）仙人草、大蓼、はこべ、ふてくさ（植物）。
せんにんしやう（名）仙人掌、さぼてん、さぼてんずつぼう（植物）。
せんにんしゆ（名）仙人酒、乳、ちち。
せんぽ　跣歩、はだしあるき、跣足。
せんぽ（する）（自）義裳、うらやむ。
せんぽう（する）　戦没、うちにする。
せんぽう（名）先鋒、さきて、先陣、先驅。
せんぽく（名）仙茅、きんばい（さう植物）。
せんぽくごほり　仙北郡羽後國の郡の名。
せんぽん　千本氏。
せんぽん（名）洗盥、たらひ。
せんぽんやり（名）大千草、むちさきたんぽ（植物。
せんべい（名）煎餅、仙貝、瑞龍餅、錢餅、せんべ千葉の名。
せんべつ（名）餞別、はなむけ、かれをおくること、後餞、送別、贈送、十又はなむけのかね。
せんべう（名）前髪、きさし前髪、ま（じる）。
せんべん（名）仙人、羽客、やまびと深山などに栖み長生を保つといふもの。
せんべん　千遍、ちたび、千回。
せんべん　先鞭、さきがけ。
せんべん　前髪、髪飾の前の部、後髪に對す。
せんべん　全髪、全部、毒藥の始より終りまでをいふ。
せんべんばんくわ　千變萬化、いろいろさまざまにかはる。
せんぼ　遍補、みやこがへ。

せんざ　先途　ゆくさき、なりゆきのありさま。
せんざ（名）　先度　まへのたび、このまへ。
せんざ（名）　船奴　ふなかた、せんどう。
せんざ（名）　賤奴　やつこ、いやしきしもべ
せんざ　前途　ゆくさき、前程。
せんざう（名）　仙洞、太上皇の御居處又は太上皇をいふ、仙院、院殿、虚舟、上皇、射山、姑射、汾陽、孝閑、紫府、丹墅。
せんさう（名）　錢鏐　こふぢ　植物。
せんさう（名）—する（自）　戰鬪、いくさ、たたかひ、戰爭、合戰、たたかふ。
せんざう〔する〕（自）　先登、いちばんのり（眞先に敵城に攻入るをいふ。
せんざう（名）　川蟬、たうせんだん、くろせんだん　植物。
せんざう（名）　船頭、舟師、篙子、ふなびと、ふねこぢひと。
せんざう（名）〔する〕（他）　川蒐、かつぱ、河童、水虎（動物）。
せんざう〔する〕（他）　鏟動、はやしたてる、もだてる。
せんざうはく（名）　千頭柏、せんしゅ　植物。
せんざうぼく（名）　仙動木、なぎ　植物。
せんざうぢやう（名）　戰鬪場、いくさば、合戰場、戰場。
〔せんざうか〕（名）　旋頭歌　せどうかを見よ。
せんざうかん（名）　戰鬪艦　軍艦の最大最強なるものにしてもつぱら戰鬪用に供す。
せんざうだい（名）　船燈臺　海上に船を置き燈を點して航海に便するもの。
せんざうごしよ（名）　仙洞御所　太上天皇の御居處、院廳。

せんざうさう（名）　竹葉　くさにんにん（植物）。
せんざうさう（名）　箭頭草　つぼすみれ、菫花地丁（植物）。
せんざうせん　戰鬪線　戰鬪における敵と身方との界線。
せんざうじゆんび（名）　戰鬪準備、たたかふしたくいくさするよう軍に軍艦にいふ。
せんざく（する）（他）　占得、しめる、うる、とる。
せんざく（する）（自）　潛匿、ひそむ、かくれる。
セントピイトルスブルグ　聖彼得斯堡　露西亞の都府。
せんち（名）　專治、專制、二人の丁簡にてことを統ぶるをいふ、擅制、十歷制。
せんち（名）　戰地、いくさば、戰場。
せんち　淺瀆、あさちふ。
せんち（形）　全知、まつたくしる、のたちずしる、無所不知天帝にいふ。
せんち〔する〕（他）　統治、つくろふ、おさなふ。
せんち　全治、全癒、まつたくなほる病が。
せんちよ（名）　箭路、はりねずみ（動物）。
せんちよ（名）　淵女、あま、かつきめ。
せんちよ（名）—する（他）　仙女、女の仙人、やまひめ。
せんちよ〔する〕（他）　芟除、かりのぞく。
せんちつ〔する〕（他）　潛匿、かくれひそむ、みをかくす。

せんぢやう（名）　戰場、いくさば。
せんぢやう（名）　禪定　佛法六度中の一、千丈原　秋後の加佐郡に在る山、二名大江山と云ふ、國ほゝえやまの下に靜かなり、就て見るべし。
せんぢし（名）　前置詞　西洋文法にて名詞及び代名詞と他の品詞との關係を指す語。
せんぢしき　善知識　佛の勝れたるもの。
せんぢん　先陣、さきぢん（さきがけ）軍旅の一。
せんぢん（名）　戰陣、いくさのばしよ、たたかひの陣列。
せんり（名）　戰利、ぶんどり、鹵獲。
せんりぼ　千里馬　名馬をいふ、驊騮。
せんりちく（名）　千里竹、ねざさ、しの、めだけ、をんなだけ　植物。
せんりよ（名）　禪宿、しゅつけ、僧。
せんりよう　溫凊、ひをめるたつ。
せんりつ〔する〕（自）　戰慄、みぶるひする、もものもそる、戰慓、戰戰競競。
せんりう（名）　川柳、姓は柄井名は八右衛門、俳諧の一派を開きし人、十文字人の詠み始めたる雜句の一種。
せんりうくわ（名）　千里光、あはびかひ　動物。
せんりやう（名）　菜蘆蹏　植物。
せんりやう〔する〕（他）　占領、しめとる、うばふ、とる。
せんりやう（形）　善良、よき、よろしき。
せんりやく（名）　戰略、いくさのはかりごと。
せんりきやう（名）　千里鏡、とほめがね。
せんりひん（名）　戰利品、ぶんどりもの、鹵獲品。
せんぬ　賤奴、やつこ、いやしきしもべ。

せんぬき（名）　栓抜、くちぬき　瓶の。
せんね〔する〕（他）　練習、よごす、けがす。
せんねたう（名）　淺頭、はうろく、土鎭、瓦盆。
せんねわ（名）　禪話　禪學の話、禪談。
せんねわう（名）　專橫、きまま、わがまま。
せんねわう　先王、さきのきみ。
せんねわく〔する〕（他）　鏟盧、まどはす、あふりたてる、そそのかす。
せんの（名）　仙薬、せんにんのすまひ、仙壘。
せんか（名）　泉下、よみぢ、あのよ、貴下、三泉、黄泉、こけのした。
せんか（名）　線眼、あみ、ちひさきえび　動物。
せんか（名）　船歌、ふなうた。
せんか　賤價、やすね、やすきあたひ。
せんが　千賀氏。
せんかい（名）　蟬衣、いぜう、蟬衣。
せんかいぎよ（名）　泉海魚、うなぎ　動物。
せんかた　陰方、寫方、しかた、せんすべ。
せんかたなき　無陰方、無寫方、せんすべなき、しかたなき。
せんかつ（名）　全蝎　動物。
せんから（名）　剪夏羅、ふしぐろ、がんぴ、くるまばんび　植物。
せんかう（名）　先考、なきちち、亡父、しにたるちち。
せんかう〔する〕（他）　踐行、ふみおこなふ、とげる、履行。
せんかう　踐行、すあし、はだし、かちはだし。

せんがん（名）　眞龍、あふぎのかなめ。
せんがん（名）　箭眼、やざま。
せんがん　川巖、かはぎし、かし。
せんがん　善願　よき願ひ。
せんよ（名）　善譽、よきほまれ、よけい、餘餘。
せんよう〔する〕（他）　僝儠、やとふ、かかへる。
せんだ（名）　蜿蛇、にしき、へび　動物。
せんたい　千態、いろいろのかたち、萬狀。
せんたい（名）　禪苔、とけ　植物。
せんたい（名）　先代、さきのよ、前代。
せんたい（名）　闡提　梵語、佛法に縁なきものをいふ。
せんたい　全體、そうたい、まるで。
せんたい（名）　前代、まへのよ、前世。
せんたいはき（名）　仙蓼秩、野決明、くさのを　植物。
せんたいみもん　前代未聞、まへのよにはきゝもよばぬ、いまだきゝたることなき。
せんたいし　仙釜頂　陸前國の靈會。
せんたいひら（名）　仙臺平　陸前より出だす精好の袴地。
せんだつ（名）　先達　宗教信者等の先覺者。
せんだつ（する）（他）　占奪、しめとる、うばふ。
せんだつて（俗）（副）　先達、さきごろ、まへに。
せんだら（名）　旃陀羅、もものだな。
せんたら　旃陀羅、えた　梵語、應にて譯して屠兒といふ。
せんたら（名）　剪刀、はさみ、ものたち。
せんたら　機刀、こがたな　小刀。
せんたう（名）　洗濯、ゆや、ふるぼ。

せんたう(する)　踐倒、ふみたふす。
せんたう　先導、さきだち、あんないしや。
せんだう(名)　仙道仙人の道。
せんだう(名)　普通、よきみち。
せんたうと(名)　剪刀股、はまにがな、はまなれんつるにがな、ぎしばり、そてつな植物)
せんたうさう(名)　剪刀草、しろくわゐ植物。
せんたうし(名)　剪刀紙、えびすがみ。
せんたく(する)(他)　選擇、さすらふ。
せんたく(する)(他)　選擇、揀擇、えらぶ、える、えりぬく。
せんたく(名)—する(他)　洗濯、あらひそそぎ衣服等の、あらふ、そそぐ。
せんたく(名)　然能、うけひくこと、うけがひ、しかりといふこと。
せんたくだらひ(名)　洗濯盤、すすぎだらひ。
せんたくや(名)　洗濯屋、寢衣者、寢衣商、あらひものし。
せんたくシヤボン(名)　洗濯石鹸、きものあらひシヤボン。
せんだま(名)　善玉(徳川時代の草雙子に此名をつけたるものあり、玉を以て善を表する戲作本なり)、善人。
せんたふ(する)(他)　踐踏、ふむ。
せんだきはやしちやう　千駄木林町(東京市本郷區駒込の町)。
せんだぎちやう　千駄木町東京市本郷區駒込の町)。
せんだきかしたちやう　千駄木阪下町(東京市本郷區駒込の町)。
せんたん(形)　淺短、あさはか。

せんたん(する)(他)　剪斷、はさみきる、きりたつ。
せんたん(する)(他)　占斷、うらなふ、うちなひする。
せんたん(名)　栴檀、栴株、山檀、檀香、苦楝、だんかう香木にて紫白赤の種類あり)(植物)
せんたんいた(名)　千槲板、栴檀板、千旦板(鎗の胸當の第二の板、此圖なるは武藏國西多摩郡柚澤現槲社藏。

[圖の槲板]

せんたんぐさ(名)　鳥針草(植物)
せんだんくさ(名)　先例、まへのしきたり、先規、古格。
せんだんこう(名)　栴檀香、白檀香、香木、洗濯耶蘇教の聖式、バプテズム、假禮、聖洗。
せんだんだい(名)　仙靈皮、とちものかは。
せんだんつ(形)　勝劣、つたなき、讃劣。
せんだんばさみ(名)　剪鋏、きんちやくきり。
せんだんぼう(名)　跋扈、即位、くらゐにつくこと。
せんだんむし(名)　船蜈蚣、ふなむし(動物)。
せんだんもの(名)　箪笥、やざま。
せんだんや(名)　髪梳、まつ(松の異名)。
せんだんゆう(名)　醜僧、しゆつけ、僧侶。
せんだんをがみ(名)　千槲供養(僧侶を多く招きて)。
せんだんをしちやう　千駄木町東京市本郷區駒込の町)。
せんだんをしたちやう　千駄木阪下町(東京市本郷區駒込の町)。
せんたん(形)　淺短、あさはか。

せんねん　先年、いにしとし、さきつとし、往年。
せんねんぼく(名)　朱蕉(植物)。
せんねんかい(名)　千年艾、いぬよもぎ、しほかぜぎく、しはぎく(植物)。
せんねんしよう(名)　千年蘇、かうやまんねん、されまつ(植物)。
せんねんほほづき(名)　千生酸漿、くさのな(植物)。
せんねりへうたん(名)　千生瓢、天生一寸小胡蘆、せんなりふくべ(植物)。
せんねりねすび(名)　鵞掌(植物)。
せんねるき(形)　無錠、まさなき、つつましき。
せんらふく(名)　機羅紗、きりぼし。
せんむ　先務、さきのつとめ、第一の務。
せんむ(名)　專務、もつぱらのつとめ。
せんむ(名)　占夢、ゆめはんじ、夢合、ゆめあはせ。
せんもう(名)　草芋(甸叙の音妓の稱)。
せんもうづ(略)　川萬頭(植物)。
せんもうん(名)　船量、ふねのよひ、ふなよひ。
せんのつな(名)　纏綿縄、ひつぎなは(柩の車を引く綱)。
せんのう(名)　剪枝羅(植物)。
せんのう　金能十金の能力、かくるところなきちから、萬能、あたはざるところなき。
せんく(名)　船胸、へさき船の前頭、
せんそ(名)　先鳥、先祖、さきのり、前鳥。
せんぞ(形)　臆病、ものおそろか、かしこかちぬ。
せんぞりに(副)　先後、じゆんぐりに。
せんくわ(名)　旋花、はまひるがほ(植物)。
せんくわ　善業、よきわざい。

せんげん　詮言、よきことば。
せんけんとうし(名)　金槲公使、(金槲を帶びて外國に使するもの稱。
せんふ(名)　錢府、ぜにかね。
せんふ(名)　戰斧、いくさの戰爭に用ふる斧。
せんぶ(する)(他)　宣布、ふれしめす、のべつたへる。
せんぶ(名)　基胡麻、つぶて(植物)。
せんぶ(名)　勝夫、かしはで、十れうにん。
せんぶ　前夫、したを、きのをつと。
せんぶ(名)　金部、金冒(海鰻の首尾物體をいふ)
せんぶ(名)　膳部、くひもの、れうり。
せんぶにん(名)　膳部人、料理三職の一にて古實を心得饗賓の祭事などに膳立を司るもの)。
せんぶり(名)　初實遠(植物)。
せんぶり(名)　旋風、きひかぜ、つむじかぜ。
せんぶく(形)　詳覆、いさぎよき。
せんぶく(名)　先月、さきのつき、前月。
せんぶく(名)　船橋、ふなばし、ふねをつなぎてつくれるはし。
せんぶくし(名)　宣教師耶蘇教を傳へ弘むるものの稱)。
せんぶくげ(名)　旋覆花、をぐるま、ほそばをぐるま、かまのつぼ、てんがいばな(植物)。
せんぶくし(名)　膳部州、膳部州(佛教にて此世界を熱か輪す、是れ須彌山の南方に位するとて又之を南贍部州といふ、國部州、原名ジャンドウヰパ)。
せんぶん　船渠、ふなぐら。
せんこ(名)　船頭、ふなのり。
せんこ(名)　詳戸、うをうり、さかなや。
せんこ(名)　譫語、うはごと、そぞろごと(譫病人などの)。
せんこ(名)　淺戸、かうや、そめものや。

せんくわい(する)　全快、まつたくいゆる、全癒、治癒、なほる(病が)。
せんくわうじ　善光寺(信州長野市に在る大なる古寺)
せんくわてんわう　宣化天皇(人皇二十八代の帝、紀元一千百九十六年(西洋紀元五百三十六年)より一千百九十九年迄、在位四年御齢七十三歳。
せんくわし(名)　仙花紙、かみのな。
せんくわもの　前科者(嘗て刑せられしことのあるもの)。
せんぐわん(名)　頑頑、わけわからずのもの。
せんくつ(名)　仙窟、せんにんのすみか。
せんくづ(名)　鑢屑、やすりくづ。
せんぐつさい(名)　選宮、みやうつし(神を新宮に遷すこと)。
せんくん　先君、さきのきみ。
せんや　先夜、さきのよ、まへのよる。
せんや　前夜、まへのよ、ゆふべ。
せんやうじまち　善養寺町東京市下谷區の町。
せんやく(名)　洗燥、あらひぐすり。
せんやく(名)　煎藥、せんじぐすり、湯藥。
せんやく(名)　先約、まへのやくそく、前約。
せんやく(形)　譯約、たをやめ、あでやか。
せんまい(名)　籌米、洗米、神に供ふる米をいふ。
せんまい(名)　疫條器械の中のはねあがる具、ばね。
せんまいぶき(名)　薇、紫蕨、狗脊、強肯、扶筋植物)
せんまいぼほし(名)　千枚通(書綴または帳簿を綴づる時に孔をあくる錐)。
せんまいづけ(名)　千枚漬、紫蕨の葉を漬けたるもの)。

せんまう(名)　譫妄、うはごと、譫語。
せんまうちう(名)　旋毛蟲(動物の肉の中に住み居る蟲(動物)。
せんまうるゐ　鰓毛類(原始動物の一にして纖毛を有するもの)。
せんめ(名)　宣下定期の外に宣旨の下ること。
せんめ(名)　遷化(僧侶の死を云ふ、涅槃、圓寂、圓眞、圓寂、遷座。
せんめい(名)　剪莖佛教の譯語、煩惱を斷ち盡すこと。
せんめい(名)　剪遞、きりどり(強賊の所斷をいふ、「きりどり」を見よ。
せんめいいどうぶつ　蠕形動物ごかい、蚯蚓、蛔虫の如き下等動物の總稱、重に環面よりなれるもの)。
せんめつ(名)　尖形動物、ぼうざたう。
せんめつ(名)　鮮血、なまち、いきち。
せんめつ(形)　鮮潔、いさぎよき。
せんめつ(名)　先月、さきのつき、前月。
せんめつ(名)　船橋、ふなばし、ふねをつなぎてつくれるはし。
せんめつし(名)　宣教師耶蘇教を傳へ弘むるものの稱)。
せんめふ(名)　專讓、もつぱらゆづりはひ。
せんめん(名)　先見、さきのみこみ、みこし。
せんめん(名)　洗面、あらひかほ、かへ。
せんめん(形)　淺見、あさきかんがへ。
せんめん(名)　譫語、うはごと、たはごと、譫語。
せんめん(名)(する)(他)　宣言、いひのべる。
せんめん　全權十分の權力、一切の權限)。
せんめん　前言、まへにいへることば。

せんげん　詮言、よきことば。
せんけんとうし(名)　全權公使、(全權を帶びて外國に使するもの稱。
せんふ(名)　錢府、ぜにかね。
せんふ(名)　戰斧、いくさの戰爭に用ふる斧。
せんぶ(する)(他)　宣布、ふれしめす、のべつたへる。
せんぶ(名)　基胡麻、つぶて(植物)。
せんぶ(名)　勝夫、かしはで、十れうにん。
せんぶ　前夫、したを、きのをつと。
せんぶ(名)　金部、金冒(海鰻の首尾物體をいふ)
せんぶ(名)　膳部、くひもの、れうり。
せんぶにん(名)　膳部人、料理三職の一にて古實を心得饗賓の祭事などに膳立を司るもの)。
せんぶり(名)　初實遠(植物)。
せんぶう(名)　旋風、きひかぜ、つむじかぜ。
せんぶく(形)　詳覆、いさぎよき。
せんぶく(名)　先月、さきのつき、前月。
せんぶく(する)(自)　潛伏、かくれふすこと、ひそむ。
せんぶくし(名)　宣教師耶蘇教を傳へ弘むるものの稱)。
せんぶくげ(名)　旋覆花、をぐるま、ほそばをぐるま、かまのつぼ、てんがいばな(植物)。
せんぶくし(名)　贍部州、贍部州(佛教にて此世界を熱か輪す、是れ須彌山の南方に位するとて又之を南贍部州といふ、閻部州、原名ジャンドウヰパ)。
せんぶん　船渠、ふなぐら。
せんこ(名)　船頭、ふなのり。
せんこ(名)　詳戸、うをうり、さかなや。
せんこ(名)　譫語、うはごと、そぞろごと(譫病人などの)。
せんこ(名)　淺戸、かうや、そめものや。

せんこ　全円、いへざう。
せんこ(名)　前胡、うたな、みつばぐさ、のだけ、たにぜり(植物)。
せんご(名)　前後、まへうしろ、あとさき。
せんご(名)　善後、のちをよくする(後日の爲めを圖るをいふ)。
せんごろ[俗]　先頃、このあひだ、さきごろ。
せんごばう(名)　線牛蒡、きざみごばう(牛蒡を細く線に刻みたるものにて肉類などに和して煮るなり)。
[せんこつ](名)　川骨、かうほね、かはほね(植物)。
せんこつ(名)　扇骨、あふぎのほね。
せんこう　先公、さきのきみ、先主
せんこう(名)　川后、かはのかみ、河伯。
せんこう　淺紅、うすくれなゐ、うすあか。
せんこう(名)　戰功、いくさのてがら。
せんこう(名)　錢工、いんばんし、はんぼり。
せんこう　先後、あとさき、先后、ぜんご。
せんこう[する]　專攻、せんもんにけんきうする。
せんこく　先刻、さきに、まへかた。
せんこく(名)、─する(他)　宣告、きげき、まうしわたし、十いひわたす(罪案などを)。
せんごく　戰國、いくさあるくに、みだれたるくに、亂國。
せんごく　仙石(氏)。
せんこく　全國、くにぢう。
せんごくどほし(名)　千石通、鵾鳳飛、千斛篩、たうみ。
せんごくのしちゆう　戰國七雄(支那古代の秦、楚、燕、齊、趙、魏、韓をいふ、秦の昭襄王五十二年周滅びて是等の七國起りしが後皆秦の始皇帝に幷吞せられたり)。
せんごくまめ(名)　千斛豆、鵲豆(植物)。
せんごくぶね(名)　千斛船、互船、おほぶね(和船の大なるものをいふ)。
せんこくぶん(名)　宣告文、いひわたしぶみ(刑の)。
せんごふ　善業、よきわざ(佛教の語)。
せんごん　善根、よきわざ、善事。
せんて(名)　先手、さきがけ。
せんてい　先帝、さきのみかど。
せんてい　船底、ふねのそこ。
せんてい　筌蹄、やな及わな、十文(名)　てびき、あんない、初步。
せんてい[する](他)　撰定、えらびさだむる。
せんてい　前程、ゆくさき(旅路の)、十ゆくすゑ。
せんてい　前庭、まへのには、前除。
せんていぎよ(名)　船釘魚、いかりうを(動物)。
せんてつ　先哲、さきのものしり、むかしのがくしや、前賢。
せんてう　前兆、きざし、まへじるし、しらせ、前表。
せんでき[する](他)　洗滌、あらひそゝぐ、すゝぐ。
せんてん(形)　先天、うまれつける(病患にいふ、十就理上、經驗以上(哲學の語、共に後天に對す)。
せんてん[する](自)　旋轉、めぐる、ぐるぐるまはる。
せんでん(名)　閃電、いなびかり。
せんでん　前殿、おもてごてん。
せんてんどく　先天毒(生れつける病毒)。
せんてんびやう　先天病、うまれつけるやまひ。
せんあい(名)　纖埃、ちりほこり。
せんあく(名)　善惡、よしあし。
せんさ[する]　選差、えらびつかはす。
せんざ(名)　遷座(神を他の宮に遷すをいふ)、せんぐう。
せんさい　先妻、まへのつま、前妻。
せんさい(形)　纖細、こまかき、ほそき。
せんさい　淺才、あさきちゑ。
せんさい(名)　錢債、おひめ、しやくきん、かり。
せんさい(名)　剪綵、つくりばな。
せんざい　千歳、千載、ちとせ、千年。
せんざい(名)　前栽、には、その、十文はたけ。
せんざい[俗](名)　善哉、しるこ、汁粉。
せんざいちや　千歳茶(綠色にいふ所)。
せんざいゐる(名)　千歳藟、あまちや(植物)。
せんさう(名)、─する(自)　戰爭、いくさ、たたかひ、たたかふ。
せんさう(名)　茜草、つくばさう、あかね、金線草(植物)。
せんさう(名)　癬瘡、ぜにがさ、たむし(皮膚病)。
せんさう(名)　洗淘、さらふ(ものを洗ふ)。
せんさう(名)　船粧、ふなよそほひ、ふねかざり。
せんさう[する]　潜藏、かくまふ、かくす(人を)。
せんさうたう(名)　芟草刀、くさきりがたな。
せんさく(名)、─する(他)　穿鑿、うがつこと、さがすこと、うがつ、さがす。
せんさく(名)　舛錯、あやまり、まちがひ、たがひ。
せんざんかふ(名)　穿山甲、鯪鯉、いしごひ(全身堅鱗を被りて蟻に會へば鱗甲状

【穿山甲の圖】

を爲して之に當る際に蟻を食して生活す(動物)。
せんき(名)　先規、さきのれい、先例。
せんき(名)　錢葵、ぜにあふひ(植物)。
せんき(名)　疝氣、ふぐりかぜ、しもかぜ(病の名)。
せんき　戰機、いくさのはずみ。
せんき　戰記、ぐんしよ、いくさぶみ。
せんぎ(名)　僉議、とりしらべ、しらべ。
せんぎ(名)、─する(他)　詮議、とりしらべ、ぎんみする。
せんぎ[する](他)　撰擬、えらむ、えらびさだむる(徽號などを)。
せんきよ(名)、─する(他)　選擧、えらむこと、えらむ(代議士などを)。
せんきよ[する](他)　薦擧、めしだす、すゝめる。
せんきよ[する]　潜居、かくれゐる、ひそみゐる。
せんきよ(名)　船渠、ふねをつくるところ、ドック。
せんぎよ　鮮魚、なまうを、なまざかな。
せんぎよ(名)　鱣魚、うつぼ、やなぎばえ(動物)。
せんぎよ(名)　鱏魚、ふか(動物)。
せんきよけん　選擧權、えらむけんり(代議士などを)。
せんきう(名)　仙宮、せん人のをるところ。
せんきう(名)　川芎、をんなぐさ、ひぐ(植物)。
せんきうぞく(名)　剪綹賊、きんちやくきり。
せんきやう(名)　仙境、せんにんのをるところ。
せんきふ[する](他)　贍給、にぎはす、めぐみあたふる。
せんきふ(形)　喘急、いきせはしき。
せんきん(名)　線金、はりがね。
せんきん　前金、まへきん、さきがね。
せんきんくわ(名)　剪金瓜、わうふるぎやう(植物)。
せんゆ[する](自)　僭踰、てすぎる、ほしいまゝにする、かみををかす、僭越。
せんゆ[する](自)　全癒、まつたくなほる(病が)。
せんゆうじ　泉涌寺、山城國愛宕郡東山に在る有名の古寺。
せんめい(形)　鮮明、あざやか、はつきり。
せんめい[する](他)　闡明、あきらかにする。
せんめん(名)　扇面、あふぎのおもて、あふぎ。
せんめん(名)　線麪、そうめん。
せんめん　前面、まへ、おもて。
せんみつ(形)　纖密、こまかくはしき。
せんみやう(名)　宣命、みことのりがき(天子の御命を記せる書)。
せんし(名)　撰絲(織物の名、はぶたへの類)。
せんし(名)　船子、かこ、ふなこ。
せんし(名)　戰士、つはもの、いくさびと。
せんし(名)　戰師、いくさびと、兵隊。
せんし(名)　戰死、うちじに、陣亡。
せんし[する](自)　僭侈、のりをこす、おごる、たかぶる。
せんし(形)　專恣、ほしいまゝ、わがまゝ、きまゝ。
せんし(形)　專擅、きまゝ、ほしいまゝ、專恣。
せんし　淺紫、うすむらさき。
せんし[する](自)　遷徙、うつる。
せんし(名)　蛅蟖、けむし(動物)。
せんじ(名)　宣旨(古昔任官の勅を、頭辨よりうけたまはりたる上卿が更に外記に下知せしこと)。
せんじ(名)　宣旨(仙洞御所の女房第一の上臈をいふ)。
せんじ　戰時、たゝかひのあること。
せんじ　前司、まへのつかさ。
せんじ(名)　禪師(禪宗の僧の尊號)。
せんじ　前次、まへのとき、前回。
せんじ(副)　漸次、だんだん、やうやう、しだいに。
せんじ　善事、よきこと。
せんじる(他)　煎、につめる(藥などを)。
せんじから(名)　煎滓、にかす、にだしがら。
せんじがき(名)　宣旨書、おほせがき、せじがき。
せんしよ(名)　薦書、すすめがき、紹介書、てんしよ、添書。
せんじよ(名)　[illegible]、まきはだ、まいはだ。
せんじよ或せんぢよ(名)　蟾蜍、ひきがへる(動物)、十文(月の異稱)。
せんしよう　先蹤、まへのあと(前人のなしおける事柄など)。
せんしよう　旋踵、くびすをめぐらす。
せんじよう　前乘、さきのり。
せんしたう(名)　剪枝刀、かりこみばさみ。
せんじたう(名)　洗兒湯、うぶゆ。
せんじだす　煎出、にだす(藥などを)。
せんしつ(名)　箭室、やなぐひ、えびら。
せんしつ[する](自)　霑濕、しめる、ぬれる。
せんしつ(形)　疝疾、しもかぜ。
せんじつ　先日、さきのひ。
せんじつ　前日、まへのひ。
せんじつめる(他)　煎詰、につめる(藥などを)。
せんしう　千秋(千年に同じ、長久の義に用ふ)。
[せんしう]　千秋、ちあき(氏)。
せんしう(名)　洗帚、たはし。
せんしう(名)　川狩、かはがり。
せんしう　薦羞、そなへものをすゝめる(神明などに)。

せんしり〔する〕 裏移、もつばらをさむる意一に學ぶ。
せんじり（名） 剪紙、ピロウド。
せんじる〔する〕（他） 蹂躙、ふみにじる、蹂躙。
ぜんしろら（名） 剪秋羅、をぐらせんのう（植物）。
せんしろらく 千秋樂、謡物調の樂の名、又俗に物事の終りを然いふ。
せんしや（副） 先者、さきに、まへかた。
せんしや（名） 線沙、いさご、こまかきすな。
せんしや（名） 旋車、ろくろ細工の具。
せんしや（名） 撰者、さくしや、つくりて、かきて、（書などの）。
せんじや（名） 選者、えらびて。
せんじや（名） 蚺蛇、おはへび、にしきへび（動物）。
ぜんしや（名） 善者、よきひと。
ぜんしや〔する〕（他） 撰寫、うつす、かきうつす。
ぜんじやがいけ 千蛇池、越中國中新川郡立山に在り、俗にこゝを血の池といふ。
せんしやう（名） 旋匠、ひきもの し、ろくろし。
せんしやう 洗車雨、太陰曆七月七日に降る雨を然か呼ぶ。
せんしやう（名） 船檣、ほばしら。
せんしやう（名） 船將、ふなをさ、ふねのかしら。
せんしやう（名） 選商、ばはんあきうど、むぐりあきうど。
せんしやう（名） 磚塲、ついぢ、ねりべい。
せんじやう 僧上、かみをなでゝ、かみをないがしろにする。
せんじやう 戰狀、いくさのありさま。
ぜんじやう（名） 禪讓、ゆづること、ゆづり（帝位を他の人に與ふると）。
せんじやうべい（名） 千字文（國製刷の作れる千字文の書）。
せんじやく（名） 扇子仙、はせを（植物）。
せんじやく（形） 遲弱、たをやか、かよわき、かぼそい（女にいふ）。
せんしやくまんべつ 千差萬別、いろいろにちがふ、あのあのたとなる。
せんしやく（名） 先主、まへのあるじ、十さきのきみ。
（せんしやく）（名） 先手、さきて、さきだち。
せんしやく（名） 船首、ふねのへさき、みよしさき、（さき）。
せんしやく〔する〕 選取、えらみとる、えりぬく。
せんしやく〔する〕 穿山、ほりだす、うがちだす。
せんしやく〔する〕（他） 選出、えりだす、えらみいだす。
せんじやつ（名） 戰術、いくさのてだて。
せんじやつ（名） 仙術、仙人の行ふ術をいふ。
せんじやつ〔する〕（他） 撰述、つくる、あみだす（文書などを）。
せんじやう（名） 禪宗後鳥羽帝の御宇文治年間に傳來したる一宗派にして佛心宗と稱す。
せんしやうのごは 禪宗五派（臨濟、雲門、曹洞、潙仰、法眼）。
せんしやうのしちけ 禪宗七家五派、楊岐、黃龍。
せんしやく（名） 船貨、ふなやど。
せんしやく（名） 磚塲、ついぢ、ねりべい。
せんじやく 僧上、かみをなでゝ、かみをないがしろにする。
せんじやく 戰狀、いくさのありさま。
ぜんじやく（名） 禪讓、ゆづること、ゆづり（帝位を他の人に與ふると）。
せんじゆつ（名） 戰術、いくさのてだて。
せんじゆつ（名） 仙術、仙人の行ふ術をいふ。
せんじゆつ〔する〕（他） 撰述、つくる、あみだす（文書などを）。
せんじゆう（名） 禪宗後鳥羽帝の御宇文治年間に傳來したる一宗派にして佛心宗と稱す。
せんしゆうのごは 禪宗五派（臨濟、雲門、曹洞、潙仰、法眼）。
せんしゆうのしちけ 禪宗七家五派、楊岐、黃龍。
せんしゆく（名） 船貨、ふなやど。
せんしゆく（名） 千葉、ちば氏。
（せんえふ） 千葉、ちば氏。
せんえふじゆ（名） 千葉樹、ひめこぶし（植物）。
せんえき（名） 撰枚、いくさ、たたかひ。
ぜんえもんちやう 善右衛門町（東京市芝區櫻田つもとせんのう植物）。
せんじもん（名） 扇子仙、はせを（植物）。
せんしやく（名） 淺深、あさきふかき水の。
せんしやく〔する〕（他） 僧侵、かみをなでゝ、かみをないがしろにする。
せんじん 先人、まへのひと。
せんじん 船人、ふなびと、ふなのり。
せんじん〔する〕 前進、すすむ、まへにゆく。
せんじん 戰塵、やうやうすすむ、だんだんすすむ（雨を以て塵をなづ）。
せんしん 金身、かねだざう。
せんじん 善心、善心あるひと。
せんじん 淺身衣、ゆかた、浴衣。
せんしんはいしやう（名） 穿心敗醬、かのこさう（植物）。
せんしんばん（名） 淺身袋、ゆあみだらひ、きやうだらひ。
せんしんばんく 千辛萬苦（非常の辛苦をいふ）。
せんじんさう（名） 仙人草、ふつくさ（植物）。
せんじんさう（名） 千壽草、たけ（植物）。
せんじんきつ（名） 穿心醬（苗柑の類にて皮を去れば中心に穴あるもの）（植物）。
せんすつ（名） 僧綴、みぶんをこゆることゝ、ですぎること。
せんそう（名） 寒聲、かなめ、緊要。
せんせい（名） 先生、學者師匠等を尊稱する詞。
せんせい（名） 宣旨、ちかひ、誓詞、誓文。
せんせい（形） 突飽、もろき、よわき。
せんせい〔する〕（自） 蟬蛻、もぬけでること、蟬のごとく。
せんせい（形） 全盛、さかり、さかん、隆盛、滿盛。
せんせい 前世、まへの よ、さきの よ。
せんせいしよ 善政、よきまつりごと。
ぜんせかい 宣旨書、ちかひぶみ。
せんせつ〔する〕（他） 全世界、せかいぢう。
せんせん（副） 戰戰、おそれ、ぶるぶる、ふるふるさま。
ぜんぜん（副形） 蟬蛻、うつそみをぬぎてうざうざ、むざむざ。
せんせんげつ 先先月、まへのまへのつき。
せんせんきやうきやう 戰戰兢兢（懼れふるへる貌）。
せんず（名） 扇子、雅扇、あふぎ、あふぐもの。
せんずい（名） 泉水、いづみ、むきみづ、十園池、前水。
せんすいかい 泉水、いづみ、むきみづ、十園池、前水。
せんすいしよ 宣旨書、ちかひぶみ。
せんすいせつ〔する〕（他） 撰水盤、みづくぼのうつは、もぐる。
せんすう（形） 鮮少、すくなき、わづか。
せんせう（名） 前宵、まへのよひ、ゆふべ、よんべ。
せんせう 金銚、まるやけ、みなやける。
せんせふ（名） 戰捷、かちいくさ、かち。
せんせふ〔する〕（自） 咕嗹、ささやく。
せんせき（名） 霰石、あられいし、（うつ）。
せんせき（名） 薄暮、しきもの、とも。
せんせき（形） 前夕、まへのよ、よんべ。
せんせん（形） 鮮淺、あさはかちゐあさき、つたなきさま。
せんせん（形詞） 閃閃、ひらひら、きらきら、ひらめきて。
せんせん（形） 戰戰、おそれ、ぶるぶる、ふるへる。
せんせん（副形） 潺潺、さらさら、水の流るる音にいふ）。
せんせい（名） 前晨、太子、ひつぎのみと。
せんえん〔する〕（自） 遲延、のびのびになる。
せんえん（名） 船綱、ふなばた、ふなべり。
ぜんえん（副仙） 潺湲、さはさは水の流るる音にいふ）。
せんぶん（名） 尖圓、圓錐、すぎなり形體にいふ）。
せんひ（名） 先祖、なきはは、亡母。
せんび（名） 賤卑、いやしき、ひくき。
せんび〔する〕（名） 戰備、たたかひのそなへ、十兵備、いくさのそなへ。
せんび（形） 賤微、いやしき、ひくき地位が。
せんび（名） 船尾、ともふねのうしろのかた。
せんび（形） 鮮美、あざやか、はつきり。
せんび（形） 纖眉、まゆをやく目前にせまれる大事をいふ、纖眉の慈などに用ふ、然眉に同じ）。
せんび 前非、まへのあしきこと、先非。
せんび〔する〕（自） 全備、まつたくそなはる、まつたくととのふ。
せんび 薦美、よきうるはしき。
せんひつ（名） 仙蹕、みゆき、行幸。
せんぴつ 染渠、ふでをそむる、ものかく。
せんぴやう（名） 腺病、もゝに遺傳する性質たる小兒の結核性病。
せんもん（名） 專門、一事を專ら研究すること。
せんもん（名） 前門、おもてもん。
ぜんもん（名） 禪門、禪學をいふ。
せんもんか（名） 專門家、何にてもそのことを專攻する人、くろうと。
せんせい（形） 鮮明、よくはれわたる。
せんせい 戰世、みだれよ、亂世。

せんせい（名） 前晨、太子、ひつぎのみと。
せんえん〔する〕（自） 遲延、のびのびになる。
せんえん（名） 船綱、ふなばた、ふなべり。
ぜんえん（副仙） 潺湲、さはさは水の流るる音にいふ）。
せんぶん（名） 尖圓、圓錐、すぎなり形體にいふ）。
せんひ（名） 先祖、なきはは、亡母。
せんび（名） 賤卑、いやしき、ひくき。
せんび〔する〕（名） 戰備、たたかひのそなへ、十兵備、いくさのそなへ。
せんび（形） 賤微、いやしき、ひくき地位が。
せんび（名） 船尾、ともふねのうしろのかた。
せんび（形） 鮮美、あざやか、はつきり。
せんび 纖眉、まゆをやく目前にせまれる大事をいふ、纖眉の慈などに用ふ、然眉に同じ）。
せんび 前非、まへのあしきこと、先非。
せんび〔する〕（自） 全備、まつたくそなはる、まつたくととのふ。
せんび 薦美、よきうるはしき。
せんひつ（名） 仙蹕、みゆき、行幸。
せんぴつ 染渠、ふでをそむる、ものかく。
せんぴやう（名） 腺病、もゝに遺傳する性質たる小兒の結核性病。
せんもん（名） 專門、一事を專ら研究すること。
せんもん（名） 前門、おもてもん。
ぜんもん（名） 禪門、禪學をいふ。
せんもんか（名） 專門家、何にてもそのことを專攻する人、くろうと。
せんせい（形） 鮮明、よくはれわたる。
せんせい 戰世、みだれよ、亂世。
せんせい（名） 前世、まへの よ、さきの よ。
せんせいしよ 善政、よきまつりごと。
ぜんせかい 宣旨書、ちかひぶみ。
せんせつ〔する〕（他） 全世界、せかいぢう。
せんぜん（副） 戰戰、おそれ、ぶるぶる、ふるへる。
ぜんぜん（副形） 蟬蛻、うつそみをぬぎてうざうざ、むざむざ。
せんせんげつ 先先月、まへのまへのつき。
せんせんきやうきやう 戰戰兢兢（懼れふるへる貌）。
せんず（名） 扇子、雅扇、あふぎ、あふぐもの。
せんずい（名） 泉水、いづみ、むきみづ、十園池、前水。
せんすいかい 泉水、いづみ、むきみづ、十園池、前水。
せんすいしよ 宣旨書、ちかひぶみ。
せんすいせつ〔する〕（他） 撰水盤、みづくぼのうつは、もぐる。
せんすべ（名） 無作、しかた（爲すべき手段）。
せんすべなし 「無術術、しかたなし、せひなし、ス、須ル、ズ、受、當」の父音とうの中に在りては第三行第三段に位す。
す（名） 洲、海河の中の淺くして土のあらはれ出でたるところ）。
す（名） 酢、醋、醋、すきのものゝ、十酸、酸味。
す（名） 簀、すのこ、竹を編みて作れる蓋）。
す（形） 素、ありのまま、かざりなき、十なにもなき十ていれぬ十むなしき、十ただの。
す（形） 孔、あな、ほそあなすかいる）。
す（名） 巢、窩、鳥巢のて、巢穴、十巢、きのうへ。
す（形詞） 閃閃、ひらひら、きらきら、ひらめきて。
す（形） 數、ふう、そこばく。
す（副形） 潺潺、さらさら、水の流るる音にいふ）。
せんせい（名） 扇子、雅扇、あふぎ、あふぐもの。
せんせい（名） 泉水、いづみ、むきみづ、十園池、前水。
せんせいしよ 善政、よきまつりごと。
ぜんせかい 宣旨書、ちかひぶみ。
せんせつ〔する〕（他） 撰水盤、みづくぼのうつは、もぐる。
せんぜん（副） 戰戰、おそれ、ぶるぶる、ふるへる。
ぜんぜん（副形） 蟬蛻、うつそみをぬぎてうざうざ、むざむざ。
せんせんげつ 先先月、まへのまへのつき。
せんせんきやうきやう 戰戰兢兢（懼れふるへる貌）。
せんず（名） 扇子、雅扇、あふぎ、あふぐもの。
せんずい（名） 泉水、いづみ、むきみづ、十園池、前水。
せんすいかい 泉水、いづみ、むきみづ、十園池、前水。
せんすいしよ 宣旨書、ちかひぶみ。
せんすいせつ〔する〕（他） 撰水盤、みづくぼのうつは、もぐる。
せんすべ（名） 無作、しかた（爲すべき手段）。
せんすべなし 「無術術、しかたなし、せひなし、ス、須ル、ズ、受、當」の父音とうの中に在りては第三行第三段に位す。

す

す（名） 洲、海河の中の淺くして土のあらはれ出でたるところ）。
す（名） 酢、醋、醋、すきのものゝ、十酸、酸味。
す（名） 簀、すのこ、竹を編みて作れる蓋）。
す（形） 素、ありのまま、かざりなき、十なにもなき十ていれぬ十むなしき、十ただの。
す（名） 孔、あな、ほそあなすかいる）。
す（形） 數、ふう、そこばく。
す（名） 巢、窩、鳥巢のて、巢穴、十巢、きのうへ。
す（形詞） 閃閃、ひらひら、きらきら、ひらめきて。
す（副形） 潺潺、さらさら、水の流るる音にいふ）。
す〔のす、十蜘蛛、くものす。
する〔する〕（他） 推、もしはかる、推察、十おす。

すゐ（名形）粋、よきところ、ひいでたるところ。＋（俗に通人なるをいふ）やぼならぬ。
すゐ（名）水、みづ。
ずゐ（名）葛、しべ、はなしべ（花の蘂中の鬚）。
ずゐ（名）瑞、よきしるし、辭瑞、よきさが、吉兆。＋
ずゐ（形）めでたき。
ずゐ（名）髓骨中の肉をいふ、また木の心をも然かいふ。
すゐい（名）垂衣、擺政、せつしやう。
すゐい（名）（自他）推移、おしうつる、おしうつす。
すゐゐ（名）（自）推譲するゝし、いひわけする、いひのがるゝ。
ずゐい　隨意、きまま、こころのまま、こころまかせ、勝手。
ずゐいに（副）隨意、きまに、かつてに、ところのまゝに。
すゐいち（形）粋一、純一、まじりなき。
ずゐいち（形）隨一、第一、このうへもなき。
ずゐいもの（名）隨意者、わがまゝもの。
ずゐいんさう（名）水陰草、みづかげぐさ（植物）。
すゐろ（名）水路、ふなぢ、十みづみち。
すゐろう（名）水裡、みづたまり、たまりみづ。
すゐろう（名）水櫓、かはざしき（河に臨める二階）。
ずいろう（名）隧壁、ふさ、ふさいと。
すゐろく（名）水漏、みづこし（器具）。
すゐろく（名）水路局（水のことを司る官署。
すゐろん（名）（他）推論、おしあげつちふ、おしてろんずる。
すゐろん（名）水論、みづあらそひ、みづげんくわ（田にひく水につきて）。

すゐは（名）水波、なみ、浪。
すゐは（名）水巴、うづまき、渦。
すゐは（名）酸模、すかんぽ（植物）。
すゐは（名）（他）辞職、しりぞき、辞退、しりぞくこと。
すゐは（名）水馬、かつ［圖の馬水］をむし（動物）
すゐはい（名）（他）推拝、おしひらく。
すゐはい（名）（自）衰廃、もとろへすたる。
すゐはい（形）水腴、みづにてあれすたれたる、みづにやぶれたる。
すゐはい（名）水杯、みづのみ、みづのみかづき。
すゐはいざう（名）梁梅草、るりさう（植物）。
すゐはちう（名）水爬蟲、げんごろうむし（動物）。
すゐはつ　垂髪、さげがみ、たれがみ。
すゐばら　杉原、すぎはら氏。
すゐばらまち　水原町（越後國北蒲原郡の町名）。
すゐはう（名）水泡、みづのあわ、みなわ。
すゐはう（名）（自）衰亡、衰廃、もとろへほろぶ。
すゐほ（名）（圖の章瑞等二動）
すゐばう（名）瑞寶章（勳一等より勳八等までありて、勳勞あるものに賜はるもの）。
すゐはうしやう
すゐはく（名）垂柏、えんびひば（植物）。
すゐはく（名）水伯、みづのかみ、水神。
すゐばしけん（名）水馬圏耳、みづはこべ（植物）。

すゐはん　水畔、みづぎは、みぎは。
すゐはん（名）水鶴、みづこぼし。
すゐはん（名）（他）辞職、しりぞき、辞退、しりぞくこと。
すゐはん（名）（自）衰廃、もとろへすたる。
すゐはん（名）（他）推任、すすめにんずる（官職に）。
すゐはんてんわう　垂仁天皇（人皇第十一代の帝、紀元六百三十二年［西洋紀元前二十九年］より七百三十年迄、在位九十九年［御宇百四十歳］）。
すゐほ（名）（他）推歩、かぞへはかる。
すゐほ（名）水母、くらげ（動物）。
すゐほんせき（名）水盤石（鑑定法にて扣石の傍に組合はする平石）。
すゐへい（名）衰弊、もとろへよわること。
すゐへい（名）水平、みづのたひらかなるもの、みづもり、みづばかり。
すゐへい（名）水平、みづがめ。
すゐへい（名）水兵、海軍の兵士、みなと、水師。
ずゐへい（名）隨兵、たがふはもの。
すゐべつ（名）水鼈、すっぽん（爬虫動物）。
すゐへう（名）水豹、あざらし（海獣の名）（動物）。
すゐへん（名）水邊、みづのほとり。
すゐほ（名）水乳、みづくみ、ひしやく。
すゐほ（名）炊釜、めしたき。
すゐほつ（名）水突、竈大窮の前に在り人迎の下氣舎の上に在る穴。
すゐほう（名）吹筒、ふきづつ、十ひふきだけ。
すゐほう（名）水筒、水をいれて携帯する筒。
すゐほう（名）水蜂、みづいもやぶいも（病の名）。
すゐほう（名）水簑、みづごけ、十ごけ。みがし。

すゐほん（名）水盆、水鉢、水圖（繊維物を經てきりて裏たる圖。
すゐぼん（名）水脈、江脈、いるか（動物）。
すゐぼち（すゐる）（他）推知、おしてしる。
すゐぼちよう（名）水漲、まひまひむし（動物）。
すゐぼちよく　垂直、まつすぐにたるなること。
すゐぼちう　酔中、ゑひてをるうち。
ずゐぼちく（すゐる）（自）隨逐、あとをおひゆく。
すゐぼちくさい（名）水竹菜、いはぐさ（植物）。
すゐぼちやう（名）水膜、みづぶくれ。
すゐぼちやうとらけい　梁幟紅闘、みどりのとばりくれなゐのねや、美麗の室をいふ。
すゐぼちゆう（名）水注、みづつぎ、みづいれ。
すゐぼちゆうし（名）水注子、みづつぎ、みづさし。
すゐり（名）酔醤（酢にていりたるもの、また其料理法の名。
すゐり（名）集入（多鳥が集にこもること）。
すゐり（名）素入、みづいり、潤水、もぐり。
すゐり　水利、水の便不便をいふ。
［ずゐり］（名）瑞禽、みづがき、いがき。
すゐりつ（名）水梨、ひし（植物）。
すゐりつ（すゐる）（自）惴梨、おそれわなゝく。
すゐりう（名）垂膕、さがりみすべ、さがりこぶ。
すゐりう（名）垂枸、しだれやなぎ（植物）。
すゐりう（名）水流、みづのながれ。
すゐりう（名）水榴、みづたまり、十塘池、みづため。
すゐりやう（名）—する（他）推量、揣量、おしはかる、推察。
すゐりやう（名）水漁、はし、機綾。

すゐりき　水力、水勢、みづのちから。
すゐれう或**すゐあう**（名）膿瘍、よるのもの、よざ、ふねきふすま。
すゐれう（名）水寮、みづがめ。
すゐわん（名）水灣、かはくま（河曲）、かはのいりえ。
すゐか（すゐる）（自）垂下、たれさがる。
すゐか（すゐる）（他）誰何、たれぞとたづぬる、とがめる番兵などが。
すゐか（名）水苛、ながなすび（植物）。
すいがい（名）透垣、すきがき、洗垣（向うの見ゆる機にあらくゆひたる垣根）。
すゐがい（名）乗除、かけ、きりぎし、斷崖。
すゐがい（名）水貴、みづのはとり、かはぎし、河岸。
すゐかう（すゐる）（自）衰耗、おとろふ。
すゐかう（すゐる）（他）推敲、おしたたく（詩文を作る時などに種々に考をめぐらすをいふ也。賈島の故事より出づ）。
すゐかう（名）—する（自）隨行、ともびと、したがひゆく。
ずゐかう（名）瑞香、沈丁花、ぢんちやうげ、七里香（植物）。
すゐかうろう（名）水香炉、かやつりぐさ、まるすげ（植物）。
すゐかうしや（名）水交社（海軍將校の集會所）。
すゐかく（名）酔客、さけにゑひたるひと、よつぱらひ。

すゐかく（すゐる）（他）推敲、おしきはかりきはむる。
すゐかくしゆ（名）水雷、みなと、水手、ふなのり。
すいがき（名）吹鳥手、ちつばふき、喇叭手。
すいがき（名）透垣、すきがき（木をあらくゆひて作れる垣）。
すゐかん（名）酔漢、よつぱらひ、さけにゑひたるもの。
すゐかん
すゐかん　水草、ゐはみづとひでりと。
（名）水干（精好の綱を用ひて作れるひたたれの類にて色は多く白なり）。

［水干］

すゐがん　衰眼、老眼、もとろへめ。
すゐがん（名）水鴈、あぶ（動物）。
すゐがん（名）水澄、みづあぶ。
すゐがん（すゐる）（自）衰類、もとろへやぶるゝ。
すゐがん（すゐる）（他）推敲、おしいただく。
すゐがん（名）水磯、みづうす。
すゐがん（名）水黽、えびむし（動物）。
すゐがん（名）水苞、あをみどり、みづごけ。
ずゐかん（名）—する（自）がひゆくひと、十したがひゆくひと。
ずゐかん（名）瑞香、沈丁花（植物）。
すゐかんしや（名）水交社（海軍將校の集會所）。
すゐかく（名）酔客、さけにゑひたるひと、よつぱらひ。

すいたどうし　好同士、このむどし、十あひぼれ。
すゐたう（名）炊鍋、おねば、めしのとりゆ。
すゐたう（名）水塘、みづため、いけ。

すゐだう（名）水道、みづみち、みづひきとひ。
すゐたう（名）（自）酔倒、よひたふれる。
すゐだう（名）隧道、ほりぬきみち、トンネル 地下の路。
すゐだうばたちやう 水道端町 東京市小石川區小日向の町。
すゐだうちやう 水道町 東京市牛込區牛込の町、また小石川區小日向、關口及び小石川に同名の町あり。
すゐだうひ 水道樋、みづひきどひ、水管。
すゐたく（名）（他）推托、かこつける、いひまにする。
すゐたくしや（名）水澤瀉、うもゐもだか、さじもだか 植物。
すゐたふ 出納、だいり、だしいれ 金錢の。
すゐたい（名）水漬、みを。
すゐたう（名）水藻、もはたで、かはたで、みつたで 植物。
すゐたん 翠蓋、みどりのすだれ 美麗なる竹簾にして殿堂などに垂るるものをいふ。
すゐたん（名）睡蓮、ひつじやさ、子午蓮、どうがめばす、こはちす 植物。
すゐたん 垂涎、あはれみをたれる。
すゐたん 垂簾、みすをたれる（幼主に代つて太后が政を聽くにいひ又女王女帝の政をもいふ）。
すゐたん（名）水嚥、みづのみどころ。
すゐたんば（名）水練場、游泳場、もよぎば。
すゐたんのまつり 垂簾之政 皇太后または女帝王の政治をいふ。
すゐたんぐつ（名）水鞋靴、もよぎくつ。
すゐたんそ（名）水蛆、ぼうふりむし 動物。

すゐそ（名）水鼠、りゆうなうぐさ、龍腦薄荷、芥菜（植物）。
すゐそ（名）水素、元素の名。
すゐそ（名）水蘇、みそぎは 植物。
すゐそく（名）睡息、ねいき、いびき。
すゐそく（名）—する（他）推測、もしはかる、おしかんがみる。
すゐぞく 水族 水産動物。
すゐそくしき 推測式 三段推論法。
すゐそん（名）（する）（他）推尊、おしたつとぶ、あがむる。
すゐそん 水損 洪水により生ずる損害。
すゐそん 水村 水邊の村をいふ。
すゐねん（ずゐ）】 垂念、おもひをたれる、かへりみる、俯念。
すゐなう（名）次簷 篩状の器に細き網を張りたるもので、米麥、銅水銀等の別あり、又或る地方に於ては釜の中などより餅餌などをすくひあぐる爪を然かいふ。
すゐなん 水難 洪水により生ずる禍。
すゐらう（名）水罌 魚形水雷敷設水雷浮流水雷などを供給する工船。
すゐらいぼかん（名）水雷母艦 水雷艇に必要品を積む。
すゐらいてい（名）水雷艇、水雷即ちトルピードーを載せて敵艦に近づく船。
すゐらいくちくかん（名）水雷驅逐艦（水雷艇を驅逐し排ふ艦、今は單に驅逐艦といふ）。
すゐらう（名）（する）（自）衰老、老衰、もいぼれる。

すゐらうえふはいしやう 水昌蒲取體、きんくわ 植物。
すゐらく（名）（する）（自）乘落、たれおつる。
すゐらくれい（名）水落鏃、かはらあかざ 植物。
すゐらふく（名）水蘿蔔、はだのだいこんばりねだいこん 植物。
すゐらふしゆ（名）酔亂、酔狂、よひくるひ、よひへみだれ。
すゐらん（名）衰亂、うすはないろ。
すゐらん（名）衰覽、かはぎり、みづきり。
すゐむ（名）珊瑚、ときゆめ、吉祥。
すゐむのやしろ 水無月飛鳥圓大野郡に在り。
すゐらん（名）衰遜、ふしあはせ、もとろへゆ、もちめ、ひだりまへ。
すゐらん（名）水蘊、水雲、もづく 植物。
すゐらん（名）瑞雲、めでたきくも、祥雲。
すゐらんさう（名）衆雲草、あふひぐげ 植物。
すゐのう（名）水腦、みづうみ。
すゐらく（名）水胸、かはをそ、鰕 動物。
すゐらくわ（名）水瓜、西瓜、寒瓜 植物。
すゐらくわ（名）水蘭、かはすき 植物。
すゐらくわ 水華、うきくさ 浮草、萍。
すゐらくわ（する）酔臥、よひふす、えひれる。
すゐらくわけん 西瓜餡 美人のかほいろをいふ。
すゐらくわん（名）水罐 洪水により生ずる患害。
すゐらくわん（名）水甕、みづがめ 十かめひ。
すゐらくわんけい（名）推丸、くゑもし 動物。
すゐらくわんけい（名）不等系 或る動物の體中にもける水管の組織。

すゐくん（名）垂訓、をしへ、さとし、敎訓。
すゐぐん（名）水軍、ふないくさ、海軍。
すゐぐんさ（名）隨軍茶、はぜ、胡枝花 植物。
すゐやう（名）水楊、かはやなぎ、あかやなぎ、さるやなぎ 植物。
すゐやうばい（名）水楊梅、地榆、たがらし、だいこんさう 植物。
すゐやうさん（名）水楊酸（楊桐より製したる藥品にして之を腎臟としてキニーネに代用す）。
すゐやうひ（名）酔楊妃菊の一種 植物。
すゐよ（名）（する）（他）撫摩、しまへ、あしはがる、すゐりやうする。
すゐよ（名）水屋、みづうす。
すゐよう（名）水虫、あぶ 動物。
すゐようくわ（名）水毛花、かんがれい、さんかくろ 植物。
すゐよんせい（名）水蘘荷、鬼兒居百、ゐりとりの を 植物。
すゐらい（名）垂髮、たれもどり、さげがみ。
すゐらい（名）水刑、みづのしおき、みづぜめ。
すゐらい（名）水雞、くひな 動物。
すゐらげつ（名）水月、水母、くらげ 動物。
すゐらけつ（名）（する）（他）樓擊、うつ、たたく。
すゐらけん（名）水槻、みづばかり。
すゐらげん 水源、みづのみなもと。
すゐらふ（名）炊夫、めしたきをとこ。
すゐらふ（名）炊婦、めしたきをんな。
すゐらふ（名）水夫、ふなこ、水手、かこ。
すゐらふ（名）（する）（他）經濟、なでやんづる、やすんづる、をさめる 國家人民などを。

すゐてう（名）水鳥、みづとり 動物。
すゐてう（名）瑞兆、めでたきしるし。
すゐてき（名）水滴、みづいれ、すみつぼのしたたり。
すゐでん 水田、みづた
すゐてんぐう 水天宮 筑後國久留米、及び東京日本橋區蠣殼町に祀れり。
すゐあふ（名）水鴛、みづくも 動物。
すゐあふ（名）水閘、水門、水戸、せき。
すゐさい（名）睡菜、ういきう、みつがしは 植物 科に屬す。植物。
すゐさい（名）水鳧、水鴨、みづとり。
すゐさい（名）水菜、みづな、きやうな、いせな、はたけな 植物。
すゐさい（名）水齋衣、をぎのつめ 植物。
すゐさい（名）水隙、みづきけ。
ずゐざいずゐ【ずゐ】 隨在隨處、すべてのところにてあらゆるところにて。
すゐさつ（する）（他）推察、もしはかる、察知。
すゐさつ（名）水鯖、みづくさ、みづぐき。
すゐさつ（名）水都 死人を水中に葬ること。
すゐさつ（名）水草、みづぐさ。
すゐさつ（名）水雪、みづぶね、十みづをたくはふうつは。
すゐさう（名）水瘡、みづくさ。
ずゐさう（名）瑞相、めでたききざし、吉兆、佳兆。
すゐさく（名）（する）（他）籌策、もちうつ。
すゐさく（名）水機、いせき。
すゐさん（する）（他）推算、おしてまわる。

すゐさん〔すると〕(自)　炊爨、めしたき。
すゐさん〔すると〕(自)　衰殘、もとろへやぶるる。
すゐざん〔すると〕(自)　木靈子(樂器の名)。
すゐさんし(名)　衰亡、衰世、すゑのよくだれるよ。
すゐさ(名)　水鬼、ふゐひ、なぎ(植物)。
すゐさ(名)　水藻、かめ(動物)。
すゐさ〔する〕(他)　吹毀、ふきこはす。
ずゐさ(名)　羊音、いものくさ、いもがら。
ずゐさ(形)　醜氣、わがまま、きまま。
すゐさよ(名)、—する(他)　吹擊、推斷、推斷、はめすすむる。
すゐさよ〔する〕(他)　吹噓、ふく、いきふく。
すゐさよ(名)　酵魚酒にて釀したる魚肉。
すゐさよ〔する〕　水魚、みづとうをと(親密の交にたとふ。
すゐさよ〔する〕　乘拱手をこまぬき衣袖をたれたる義にて無爲にをさまる世の中にいふ。
すゐさよさう(名)　酵魚草、ふゐうつぎ、てうじざくら(植物)。
すゐさう〔する〕(他)　推究、おしきはむる。
すゐさう〔する〕(他)　推斜、おしただす。
すゐさう(名)　水牛、沈牛(動物)。
ずゐさのなみだ　固害涙、もろともによろこぶなみだ。
すゐさく(名)　菜荀、えぞぎく、さつまぎく(植物)。
すゐさやう(名)　醉狂、えひぐるひ、十えひしれ。
すゐさやく(名)　粋客、すゐなるきやく(通客の類をいふ。
すゐさやく(名)　水腿、ふなあし、吃水。
すゐさふ〔する〕　推及、おしもよぼす。
すゐさじやく(名)　水蓼蟲、しだれやなぎ、糠蝿、絲のはなど植物。

すゐし(名)　出師、出兵、いくさをいだす。
すゐし(名)　垂死、しにかけ。
すゐし(名)　衰死、よわりてしぬること。
すゐし(名)　水芝、蓮岡、れんにく、はすのみ。
すゐし(名)　帥師、いくさおさ、大將。
すゐし(名)　水浮、みづかす、をり、をどみかす。
すゐし(名)　水鯽、ふないくさびと、水軍。
すゐし(名)　水死、溺死、おぼれじに。
すゐし(名)　炊事、かしぐこと、めしごしらへ。
すゐし〔する〕(他)　垂示、告示、たれしめす、をしふる。
すゐし〔する〕(自)　推辭、いなむ、ことわる。
すゐし〔する〕(自)　衰頽、やせおとろへたること、おとろへよわる。
すゐしふ〔する〕(他)　衰巢、あつむる、よせあつむる。
すゐしよう(一)　水松、海松、みる(植物)。
すゐしよう(名)　水衡、みづさき、みづのつきあたるところ。
すゐしよく　褪色、みどりのいろ。
すゐしら　水面かはのす河中の高きところ)
すゐしや〔すゐ〕(他)　推卸、おしおろす。
すゐしや(名)　水澤、はらくだり、下痢。
すゐしや(名)　水車、みづぐるま。
すゐしやう(名)　水晶、石英、水石、水精、しろきたま、みづとりだま
すゐじやう〔すゐ〕(他自)　推讓、おしゆづる、讓退。
すゐじやう　水土、みづのうへ。
ずゐしやう(名)　嗣祥、きざし、しるし、前表、吉兆。
すゐしやうこんぶ(名)　水晶昆布、昌布の外面を削り昧噌にて煮たるもの。
すゐしやく(名)　水尺、みづばかり。
すゐしやく(名)　衆雀ゐり動物。
すゐしやく(名)　垂跡天竺の佛が我國の神と生れかはりて跡をのこしたること。
すゐしやく(名)、—する(自)　衰頽、やせおとろへたること、おとろへよわる。
すゐしやく〔する〕(他)　衰巢、あつむる、よせあつむる。
すゐしやく(名)　垂綫、みみだま、耳玉。
すゐしゆ(名)　水取、もひとり。
すゐしゆ(名)　水鼠、みづねずみ、はれやまひ、むくみすゐき。

すゐしゆ(名)　水手、かこ、ふなこ、まとりす、船宇。
ずゐしゆ(名)　隋珠、名玉の名。
すゐしゆつ〔すると〕(他)　推出、おしいだす。
すゐしゆつ〔すると〕(自)　推薦、あはれむ、おもひかる。
ずゐじゆう〔すると自〕　隨從、つきしたがふ。
すゐじゆう(名)　垂簾、さげみ、工匠の用具。
すゐじゆん(名)　水練、みづもり物體の高低を量るに用ふる器。
ずゐじゆん〔すると〕(自)　隨順、したがふ。
すゐじゆんき(名)　水鏡器、みづもりだうぐ。
すゐじん(名)　隨身、古昔皇子三公大將が召め具したる弓矢を持てる從者をいふ。
ずゐじん(名)　隨神、隨神門に在る二神の像。
ずゐじんもん(名)　隨神門、神社の前に矢大臣左大臣を左右に安置せる門。
すゐえい(名)　水英、せり(植物)。
すゐえき(名)　水曜(七曜の一)。
すゐえきび(名)　水曜日(一週間の第中の日)。
すゐえき(名)　水驛、ふなで。
すゐえん(名)　炊煙、かしぐけむり。
すゐえん(名)　炊竈、みづくりむり。
すゐえん(名)　水烟、みづけむり。
すゐえん(名)　水鷺、みすず、すげ(植物)。
すゐえんせん(名)　垂鉛線、さげおもり、鉛直線。
すゐひ〔する〕(自)　衰敝、おとろへつかれ。
すゐひ〔する〕(他)　水飛、あらひきよむる。
すゐび(名)、—する(自)　衰微、おとろへ、衰類、衰頽、衰弊、式微、衰殘、十おとろへる。
すゐび(形)　衰微、かすかにあをき山色の遠く青みたるをいふ。
すゐせん〔する〕(他)　推薦、すすめる、推擧。
すゐせん(名)　水仙、水仙花を見よ(植物)。十きたること何となく青きたること。
すゐせん(名)　水筅、はまぐり。
すゐせんなべ(名)　水仙鍋、料理に用ふる薄き平たき鉄つき燒鍋。
すゐせんくわ(名)　水仙花、黄玉花、玉蘭花、金盞銀盞(植物)。
すゐせんもち(名)　水物、料理の名、葛粉砂糖蜜などにて作れる甘きもの。
ずゐせんじ　瑞泉寺、鶴中國鎌波郡に在る石石の古寺。
すゐせんじのり(名)　水韓寺海苔、肥後國に産する海苔の一種にて料理に用ふ。
すゐせい(名)　彗星、はははぼし、ほうきぼし。
すゐせい(名)　水精、みづとりだま、水晶。
すゐせい(名)　水星、遊星の一。
すゐせい　水勢、みづのいきほひ。
ずゐせい(名)　瑞星、めでたきほし、景星。
すゐせい(名)　酔生夢死、ゑひどうまれゆめにて一生を送るをいふ。
すゐせいてんわう　諡號天皇(人皇第二代の帝、紀元前五百八十一年)より百十二年乾、在位三十二年、甲寅八十四歳にして崩ず。
すゐせいさい(名)　水菁菜、みづな、きやうな(植物)。
すゐせいむし　瑞蟲、めでたきむし、景蟲。
すゐせき(名)　水積、みづもり。
すゐせき(名)　水石、みづいし。
すゐせつ(名)　吹雪、ふぶき、ゆきかぜ。
すゐせつ(名)　水屑、みづくづ、もくづ。
すゐせき(名)　水積、みづもり。
すゐせん〔する〕(自)　推選、おしうつる、うつり
すゐせん　乘線、たれいと、さがりいと。
すゐせん(名)　水松、海松、みる(植物)。
すゐせん(名)　水銀、みづかね、汞。
すゐせんなんかう(名)　水銀軟膏(膏藥の名)。
すゐせい〔する〕(自)　酔迷、ゑひまよふ、ゑひくるふ。
すゐめつ〔する〕(他)　吹滅、ふきけす。
すゐめつ〔する〕(自)　衰滅、おとろへほろぶ。
すゐめん(名)　水綿、のり(海苔)。
すゐめん(名)　水面、みづのおも、みづもて。
すゐみやく(名)　水脈、みづすぢ、みづみち。
すゐみん(名)、—する(自)　睡眠、ねむり、ねむる。
すゐし(名)　出師、出兵、いくさをいだす。
すゐし(名)　垂死、しにかけ。
すゐし(名)　衰死、よわりてしぬること。
すゐし(名)　水芝、蓮岡、れんにく、はすのみ。
すゐし(名)　帥師、いくさおさ、大將。
すゐし(名)　水浮、みづかす、をり、をどみかす。
すゐし(名)　水鯽、ふないくさびと、水軍。
すゐし(名)　水死、溺死、おぼれじに。
すゐし(名)　炊事、かしぐこと、めしごしらへ。
すゐし〔する〕(他)　垂示、告示、たれしめす、をしふる。
すゐし〔する〕(自)　推辭、いなむ、ことわる。
すゐし〔する〕(自)　衰頽、やせおとろへたること、おとろへよわる。
すゐしふ〔する〕(他)　衰巢、あつむる、よせあつむる。
すゐしよう(一)　水松、海松、みる(植物)。
すゐしよう(名)　水衡、みづさき、みづのつきあたるところ。
すゐしよく　褪色、みどりのいろ。
すゐしら　水面かはのす河中の高きところ)
すゐしや〔すゐ〕(他)　推卸、おしおろす。
すゐしや(名)　水澤、はらくだり、下痢。
すゐしや(名)　水車、みづぐるま。
すゐしやう(名)　水晶、石英、水石、水精、しろきたま、みづとりだま
すゐじやう〔すゐ〕(他自)　推讓、おしゆづる、讓退。
すゐじやう　水土、みづのうへ。
ずゐしやう(名)　嗣祥、きざし、しるし、前表、吉兆。
すゐしやうこんぶ(名)　水晶昆布、昌布の外面を削り昧噌にて煮たるもの。
すゐしやく(名)　水尺、みづばかり。
すゐしやく(名)　衆雀ゐり動物。
すゐしやく(名)　垂跡天竺の佛が我國の神と生れかはりて跡をのこしたること。
すゐしやく(名)、—する(自)　衰頽、やせおとろへたること、おとろへよわる。
すゐしやく〔する〕(他)　衰巢、あつむる、よせあつむる。
すゐしやく(名)　垂綫、みみだま、耳玉。
すゐしゆ(名)　水取、もひとり。
すゐしゆ(名)　水鼠、みづねずみ、はれやまひ、むくみすゐき。
すゐしゆ(名)　水手、かこ、ふなこ、まとりす、船宇。
ずゐしゆ(名)　隋珠、名玉の名。
すゐしゆつ〔すると〕(他)　推出、おしいだす。
すゐしゆつ〔すると〕(自)　推薦、あはれむ、おもひかる。
ずゐじゆう〔すると自〕　隨從、つきしたがふ。
すゐじゆう(名)　垂簾、さげみ、工匠の用具。
すゐじゆん(名)　水練、みづもり物體の高低を量るに用ふる器。
ずゐじゆん〔すると〕(自)　隨順、したがふ。
すゐじゆんき(名)　水鏡器、みづもりだうぐ。
すゐじん(名)　隨身、古昔皇子三公大將が召め具したる弓矢を持てる從者をいふ。
ずゐじん(名)　隨神、隨神門に在る二神の像。
ずゐじんもん(名)　隨神門、神社の前に矢大臣左大臣を左右に安置せる門。
すゐえい(名)　水英、せり(植物)。
すゐえき(名)　水曜(七曜の一)。
すゐえきび(名)　水曜日(一週間の第中の日)。
すゐえき(名)　水驛、ふなで。
すゐえん(名)　炊煙、かしぐけむり。
すゐえん(名)　炊竈、みづくりむり。
すゐえん(名)　水烟、みづけむり。
すゐえん(名)　水鷺、みすず、すげ(植物)。
すゐえんせん(名)　垂鉛線、さげおもり、鉛直線。
すゐひ〔する〕(自)　衰敝、おとろへつかれ。
すゐひ〔する〕(他)　水飛、あらひきよむる。
すゐび(名)、—する(自)　衰微、おとろへ、衰類、衰頽、衰弊、式微、衰殘、十おとろへる。
すゐび(形)　衰微、かすかにあをき山色の遠く青みたるをいふ。
すゐせん〔する〕(他)　推薦、すすめる、推擧。
すゐせん(名)　水仙、水仙花を見よ(植物)。十きたること何となく青きたること。
すゐせん(名)　水筅、はまぐり。
すゐせんなべ(名)　水仙鍋、料理に用ふる薄き平たき鉄つき燒鍋。
すゐせんくわ(名)　水仙花、黄玉花、玉蘭花、金盞銀盞(植物)。
すゐせんもち(名)　水物、料理の名、葛粉砂糖蜜などにて作れる甘きもの。
ずゐせんじ　瑞泉寺、鶴中國鎌波郡に在る石石の古寺。
すゐせんじのり(名)　水韓寺海苔、肥後國に産する海苔の一種にて料理に用ふ。
すゐせい(名)　彗星、はははぼし、ほうきぼし。
すゐせい(名)　水精、みづとりだま、水晶。
すゐせい(名)　水星、遊星の一。
すゐせい　水勢、みづのいきほひ。
ずゐせい(名)　瑞星、めでたきほし、景星。
すゐせい(名)　酔生夢死、ゑひどうまれゆめにて一生を送るをいふ。
すゐせいてんわう　諡號天皇(人皇第二代の帝、紀元前五百八十一年)より百十二年乾、在位三十二年、甲寅八十四歳にして崩ず。
すゐせいさい(名)　水菁菜、みづな、きやうな(植物)。
すゐせいむし　瑞蟲、めでたきむし、景蟲。
すゐせき(名)　水積、みづもり。
すゐせき(名)　水石、みづいし。
すゐせつ(名)　吹雪、ふぶき、ゆきかぜ。
すゐせつ(名)　水屑、みづくづ、もくづ。
すゐせき(名)　水積、みづもり。
すゐせん〔する〕(自)　推選、おしうつる、うつり
すゐせん　乘線、たれいと、さがりいと。
すゐせん(名)　水松、海松、みる(植物)。
すゐせん(名)　水銀、みづかね、汞。
すゐせんなんかう(名)　水銀軟膏(膏藥の名)。
すゐせい〔する〕(自)　酔迷、ゑひまよふ、ゑひくるふ。
すゐめつ〔する〕(他)　吹滅、ふきけす。
すゐめつ〔する〕(自)　衰滅、おとろへほろぶ。
すゐめん(名)　水綿、のり(海苔)。
すゐめん(名)　水面、みづのおも、みづもて。
すゐみやく(名)　水脈、みづすぢ、みづみち。
すゐみん(名)、—する(自)　睡眠、ねむり、ねむる。

すゐせん　乘線、たれいと、さがりいと。
すゐせん(名)　水松、海松、みる(植物)。
すゐせん(名)　水銀、みづかね、汞。
すゐせんなんかう(名)　水銀軟膏(膏藥の名)。
すゐせい〔する〕(自)　酔迷、ゑひまよふ、ゑひくるふ。
すゐめつ〔する〕(他)　吹滅、ふきけす。
すゐめつ〔する〕(自)　衰滅、おとろへほろぶ。
すゐめん(名)　水綿、のり(海苔)。
すゐめん(名)　水面、みづのおも、みづもて。
すゐみやく(名)　水脈、みづすぢ、みづみち。
すゐみん(名)、—する(自)　睡眠、ねむり、ねむる。
すゐし(名)　出師、出兵、いくさをいだす。
すゐし(名)　垂死、しにかけ。
すゐし(名)　衰死、よわりてしぬること。
すゐし(名)　水芝、蓮岡、れんにく、はすのみ。
すゐし(名)　帥師、いくさおさ、大將。
すゐし(名)　水浮、みづかす、をり、をどみかす。
すゐし(名)　水鯽、ふないくさびと、水軍。
すゐし(名)　水死、溺死、おぼれじに。
すゐし(名)　炊事、かしぐこと、めしごしらへ。
すゐし〔する〕(他)　垂示、告示、たれしめす、をしふる。
すゐし〔する〕(自)　推辭、いなむ、ことわる。
すゐし〔する〕(自)　衰頽、やせおとろへたること、おとろへよわる。
すゐしふ〔する〕(他)　衰巢、あつむる、よせあつむる。
すゐしよう(一)　水松、海松、みる(植物)。
すゐしよう(名)　水衡、みづさき、みづのつきあたるところ。
すゐしよく　褪色、みどりのいろ。
すゐしら　水面かはのす河中の高きところ)
すゐしや〔すゐ〕(他)　推卸、おしおろす。
すゐしや(名)　水澤、はらくだり、下痢。
すゐしや(名)　水車、みづぐるま。
すゐしやう(名)　水晶、石英、水石、水精、しろきたま、みづとりだま
すゐじやう〔すゐ〕(他自)　推讓、おしゆづる、讓退。
すゐじやう　水土、みづのうへ。
ずゐしやう(名)　嗣祥、きざし、しるし、前表、吉兆。
すゐしやうこんぶ(名)　水晶昆布、昌布の外面を削り昧噌にて煮たるもの。
すゐしやく(名)　水尺、みづばかり。
すゐしやく(名)　衆雀ゐり動物。
すゐしやく(名)　垂跡天竺の佛が我國の神と生れかはりて跡をのこしたること。
すゐしやく(名)、—する(自)　衰頽、やせおとろへたること、おとろへよわる。
すゐしやく〔する〕(他)　衰巢、あつむる、よせあつむる。
すゐしやく(名)　垂綫、みみだま、耳玉。
すゐしゆ(名)　水取、もひとり。
すゐしゆ(名)　水鼠、みづねずみ、はれやまひ、むくみすゐき。
すゐしゆ(名)　水手、かこ、ふなこ、まとりす、船宇。
ずゐしゆ(名)　隋珠、名玉の名。
すゐしゆつ〔すると〕(他)　推出、おしいだす。
すゐしゆつ〔すると〕(自)　推薦、あはれむ、おもひかる。
ずゐじゆう〔すると自〕　隨從、つきしたがふ。
すゐじゆう(名)　垂簾、さげみ、工匠の用具。
すゐじゆん(名)　水練、みづもり物體の高低を量るに用ふる器。
ずゐじゆん〔すると〕(自)　隨順、したがふ。
すゐじゆんき(名)　水鏡器、みづもりだうぐ。
すゐじん(名)　隨身、古昔皇子三公大將が召め具したる弓矢を持てる從者をいふ。
ずゐじん(名)　隨神、隨神門に在る二神の像。
ずゐじんもん(名)　隨神門、神社の前に矢大臣左大臣を左右に安置せる門。
すゐえい(名)　水英、せり(植物)。
すゐえき(名)　水曜(七曜の一)。
すゐえきび(名)　水曜日(一週間の第中の日)。
すゐえき(名)　水驛、ふなで。
すゐえん(名)　炊煙、かしぐけむり。
すゐえん(名)　炊竈、みづくりむり。
すゐえん(名)　水烟、みづけむり。
すゐえん(名)　水鷺、みすず、すげ(植物)。
すゐえんせん(名)　垂鉛線、さげおもり、鉛直線。
すゐひ〔する〕(自)　衰敝、おとろへつかれ。
すゐひ〔する〕(他)　水飛、あらひきよむる。
すゐび(名)、—する(自)　衰微、おとろへ、衰類、衰頽、衰弊、式微、衰殘、十おとろへる。
すゐび(形)　衰微、かすかにあをき山色の遠く青みたるをいふ。
すゐせん〔する〕(他)　推薦、すすめる、推擧。
すゐせん(名)　水仙、水仙花を見よ(植物)。十きたること何となく青きたること。
すゐせん(名)　水筅、はまぐり。
すゐせんなべ(名)　水仙鍋、料理に用ふる薄き平たき鉄つき燒鍋。
すゐせんくわ(名)　水仙花、黄玉花、玉蘭花、金盞銀盞(植物)。
すゐせんもち(名)　水物、料理の名、葛粉砂糖蜜などにて作れる甘きもの。
ずゐせんじ　瑞泉寺、鶴中國鎌波郡に在る石石の古寺。
すゐせんじのり(名)　水韓寺海苔、肥後國に産する海苔の一種にて料理に用ふ。
すゐせい(名)　彗星、はははぼし、ほうきぼし。
すゐせい(名)　水精、みづとりだま、水晶。
すゐせい(名)　水星、遊星の一。
すゐせい　水勢、みづのいきほひ。
ずゐせい(名)　瑞星、めでたきほし、景星。
すゐせい(名)　酔生夢死、ゑひどうまれゆめにて一生を送るをいふ。
すゐせいてんわう　諡號天皇(人皇第二代の帝、紀元前五百八十一年)より百十二年乾、在位三十二年、甲寅八十四歳にして崩ず。
すゐせいさい(名)　水菁菜、みづな、きやうな(植物)。
すゐせいむし　瑞蟲、めでたきむし、景蟲。
すゐせき(名)　水積、みづもり。
すゐせき(名)　水石、みづいし。
すゐせつ(名)　吹雪、ふぶき、ゆきかぜ。
すゐせつ(名)　水屑、みづくづ、もくづ。
すゐせき(名)　水積、みづもり。
すゐせん〔する〕(自)　推選、おしうつる、うつり
すゐせん　乘線、たれいと、さがりいと。

すはた(名)　"徒爲、素餐、生産、はだかのはだ。
すばなし(名)　素談、雲話、酒肴なしの談話。
すはら(名)　素館、さなし、無字、無館。
すはら(名)　周防山陽道の國名。
すはらいろ(名)　蘇枋、あかいろ蘇枋を煎り染料となして染めたる色をいふ。

すはうなだ　周防灘周防、豊前の間の海をいふ。
すはうのき（名）　酢方木、酢坊（植物）。
すはうのうみ　諏訪湖信濃國諏訪郡に在る有名の大湖、方一里半。
すばく（名）　寸白、すばと、縦人の腹の病。
すばくちう（名）　寸白蟲、縦蟲、さなだむし（動物）。
すはや（感）　驚破驚き出だす歎辞。
すはやり（名）　魚條魚を細く切りたるもの（さしみ、ぬたゝわり。
すばやき（形）　素早、てばやき、敏捷、神速。
すはま（名）　洲濱、すとはま、十また島憂。
すはまさいしん（名）　猿耳細辛、ゆきわりさう（植物）。
すばと（名）　寸白婦人の腰の病、すばく。
すばし（名）　賃樫、すのこばし九木杯を並べて架したる橋。
すばしり（名）　擬屋鳥、破浪鳥、いな（動物）
すばしこき（形）　敏捷、すばやき。
すはじんじや　諏訪神社信州諏訪郡に在る官幣中社。
ずはえ（名）　抄、條、氣候、樣、こえだ、えだうち。
すに（名）　醋煮醋にて煮たるとと或は其物いふ。
すにん　歌人歌僧人、あまたびと（但し十人以下にいふ。
すぼる（自）　狹窄、收縮、はそる、はそくなる。
すほだい　須菩提釋迦十大弟子の一にして解空第一なるもの。
すぼき（名）　腥肚、こむち、ふくらはぎ。
すぼし（形）　窄、やせはそりたる、せまき。
すぼし（名）　角量二十八宿の一「ふくを見よ。
すべ（名）　方、方便、てだて、方法、術。

スペイン　西班牙、イスパニア（歐羅巴洲の國名）。
すべり（名）　滑、矢脚、滑法、すべること。
すべりこむ（自）　滑入、すべりいる。
すべりみち　滑道、なめらかなるみち。
すべりひゆ（名）　馬齒莧、馬莧、五行草、五方草、長命菜植物。
すべる（自）　滑、滑、なめらかにしてはしりすぎる、又しりぞく位をう。
すべからく（副）　須、まさに、ぜひ、適、當。
すべかみ（名）　皇神、神を尊敬して稱する詞。
すべた（俗）（名）　傾城婦、ひきうす（娼女を誹謗する語。
すべつこい（俗）（形）　滑滑、なめらか、十音轉、つるつるし。
すべなき（形）　無方、せんかたなき、しかたなき、無術。
すべらかに（副）　滑、圓滑、すらすらと、なめらかに、つるつるに。
すべらがみ（名）　皇神、神を尊崇して稱ふる詞。
すべらかす（他）　滑、圓滑、すべりはしらす。
すべらぎ或すめらぎ（名）　皇、天皇、すめらみこと、天子。
すべらくる（他）　總括、總綜、つかさどる。
すべて（副）　凡、都、總、無慮、渾、およそ、なべて、一切、みなの。
すべての（形）　總、一切、みなの。
すべすべ（俗）（形）　滑滑、なめらか。
すべ　歌度、あまたたび、しばしば、數回。
すど（名）　簀戸、あみど、すのと。
すどほり（名）　素通、なにもせずにとほること。
すどり（名）　巢取、すのなかよりとること。
すどりかへ（名）　素取易物品と物品と錢を用ひずして交換するをいふ。
ストツクホルム　土瑞恒、斯篤哥爾摩瑞典國の都府。
すどう　數頭、いくひき牛馬などを數ふるにいふ。
すどう　須藤、皆藤氏。
ストウブ（名）　健鰲、まぬくめ、英語。
すとくてんくう　崇徳天皇、人皇第七十五代の帝、紀元一千七百八十四年（西洋紀元一千百二十四年）より一千八百〇一年迄、在位十八年、御壽四十六歳にして崩ず。
すち（名）　筋、身體の一、十文字、すぢ、十條、十條いすぢ。
すちいりづつ（名）　蘿蔔燈、すぢつけたるてつぱう。
すちぼね　筋骨、すぢとほね、にくつき、にくあひ。
すちちがひ（名）　轉筋、すぢのいりちがひ、身體の一、十またた不道理、みちちがひ。
すちちやう度（名）　縫界尺、すぢひくぢやうぎ。
すちがき（名）　記書、かけがき、あらましがき。
すちかひ（形）　傾斜、斜疎、疏遠、すぢちがひ、なな め。
すちかひみち　斜徑、なゝめのみち。
すちよ　須女、いやしきをんな。
すちむかひ　筋向、斜對、なゝめにむかひあふこと。
すちこ（名）　筋子、魚の腹にある諸の卵くゝりとなりてなる子をいふ。
すちごほり　周智郡遠江國の郡の名。
すちあひ（名）　筋合、わけあひ、わりあひ、條理。
すぢめ（名）　筋目、家系、ちすぢ、十又すぢ。
すぢみち（名）　條理、わけあひ、義理、道理、ことわり、十手續、てつづき。

すり（名）　掏摸、擺徒、根徒、きんちやくきり、ちぼ。
すりばち（名）　擂盆、しのばち、研盤。
すりばちむし（名）　砂捲子、動物。
すりはりたらび　磨針峠近江國阪田郡に在る山。
すりばかま（名）　摺袴花鳥柄の形を青染めにしたる袴。
すりはがす（他）　擦剝、摺剝、すりむく。
すりほん（名）　摺本、刻本、印本、板本印刷したる本、寫本に對す。
すりぞ（名）　細纒、めのこまきといし。
すりちがふ（自）　摺違、すれてゆきちがふ。
すりぬか（名）　粹、あらぬか穀皮、もみがら。
すりねずみ（他）　摺衾、擦衾、とすりとる。
すりわり（名）　後照屋、屏門、後屋鏡磨の上に施して但ひを定むる屋にて手許の方に位して頂に溝あるものをいふ、けんたう。
すりかりきぬ（名）　摺狩衣、花鳥の形を青く染めなせる狩衣。
すりだんご（名）　摺團子、餅米にてつくりたる食物。
すりつづみ（名）　指鼓、小鼓をいふ。
すりつける（他）　擦付、指擦、こすりつける。
すりつけぎ（名）　摺付木、マッチ、燐枝。
すりつぶす（他）　擦潰、擂爛、こすりつぶす。
すりむく（他）　擦剝、擦破、摺剝、すりはがす、こすりはぐ。
すりうす（名）　磑臼、すりてひくうす（もみがち）を去る具。
すりくづ（名）　擦屑、すりてもとせるくづ（鑞類を鉋等にて削り落せる屑、せんくづ、鑞落。
ずりやう（名）　受領古昔の諸國の領主をいふ。

すりやぶる（他）　擺破、擦破、こすりこはす。
すりぶくろ（名）　[illegible]
すりこ　米磨研麥の名。
すりごろも　摺衣、そめぎもの。
すりこぼち（名）　擂粉盆、すりばち。
すりこぎ（名）　擦等、すりたてること。
すりこむ（他）　擦込、擦込、こすりいれる。
すりこむ（自）　擦込、すべりこむ。
すりこき（名）　擦木、研槌、擂槌、擂粉木、ものするきれんぎ。
すりて（名）　研者、するもの、摩擦者。
すりあふ（自）　擦合、こすれあふ。
すりきる（他）　擦切、擦切、こすりたつ。
すりきれる（他）　擦破、こすれてへる。
すりきず（名）　擦傷、こすりきず。
すりみ（名）　摩身魚肉をすりつぶしたるもの。
すりみがく（他）　擦磨、擦屋、こすりとぐ。
すりもの（名）　摺物列木にて摺りたるもの。
する（他）　寫、なす、作、做、いたす。
するどき（形）　尖、鋭、利、峻、とがれる。
するりと（副）　無遠慮、ぐかぐかと、臭へするりと入るなどいふ、遠慮なく入るなり。
するが　駿河、東海道の國名。
するがに（名）　駿河煮、東京市神田區内の高名の料理にて煮たるもの、また蛸を同じ仕方に調理したるを黒煮といふ。
するがちやう　駿河町、東京市日本橋區の町。
するがだい　駿河臺、東京市神田區の高臺の名。
するめ（名）　鯣、脯、乾、はしいか、脯乾動物。

するめいか（名）　鯣烏賊、柔烏、槍烏、どういか、あふりいか（動物）。
ずるずる（俗）（副）　滑澀、すべりすべる。
するすみ（名）　匹如一物も無きものをいふ。
するすみ　層巒疊嶂放雀が雛朝より暮はりし名馬の稱。
すれろし（名）　巢蛻、すだち、すをたちさる鳥の子おの。
すれう或すあう（名）　素襖、素襖袴、素袍、青襖（古昔の禮服にして上下二つありて一具をなす。
すれくび（名）　喉醜、呑酸、すきあくび。
すわりしとど（名）　坐工、すわりてするしごと。
すわる（自）　坐、ざする。
すわる（自）　緩、いすわる、艇舟が沙につきあげて進まざるをいふ、膠。
すわかれ（名）　巢別、すだちすはなれ（鳥の雛の）。
すわうがひ（名）　主賓貝（動物）。
すが（形）　清、きよき、いさぎよき。
すがる　菅井氏。
すがいと（名）　絹絲、きぬいと。
すがはら　菅原氏。
すかほ（名）　酸模、葯蘿、山羊蹄、山大黄、蕎、やまのね（植物）。
すがほ（名）　素面、すめん、かざらぬかほ、素顔、素顔。
すがちやう　駿河臺、東京市淺草區、本郡區根津、及

すかり（副）透誤、はつきりと、十さつぱり。
すかりつく（自）親付、とりつく、たのみいる。
すがぬま　菅招氏。
すがぬき（名）菅貫（茅の輪又茅の輪をくぐり通ることにて祓除の爲めに行ふもの）。
すがる（自）縋、縄等に、とりつく、十たのみこむ。
すがる（名）鹿、しか（動物）。
すがる（名）蜻蛉、するがばち、こしぼそばち（動物）。
すがるをとめ（名）美人細腰の美女をいふ。
すがをく（他）彈琴、ことを彈ずるをいふ。
すがき（名）清掃、清潔、きよくかきならすこと（琴などを）。
すがた　菅田氏。
すがた（名）姿、體、容貌、素形、かたち、みなり。
すがたり（名）素語、すばなし（酒肴なしの）。
すがたたみ（名）菅疊、すげのたたみ。
すがたつき（名）容儀（美作國にありし驛の名）。
すがたのはし　姿見、照身鏡、おほかがみ。
すがたみ（名）肖像、かたちえ、ごえい。
すがたる（形）末枯、すえになる、おとろへる。
すがそ（名）菅麻、すげあさ（種に麻等を蒸れ神事に用ひて撚る物を然かいふ）。
すがね（名）素錢、あらがね。
すがねみ　菅波、菅渡氏。
すがねし（形）無情、なさけなし。
すかうべ（名）科頭、すあたま、はげあたま。
すがのねの　菅根之（つながき）「ねもころ」「おもひみだれて」などの枕詞。
すかのやま　須加山（すかなくの枕詞）。

すがまくら（名）菅枕、すげのまくら。
すがみ（名）雁鬘（錦にいふ、直垂。
すがふ　菅生氏。
すがこも（名）菅薦、すがのこも。
すがき（名）菅道、よしずがきね。
すがき（名）菅貫（茅の輪又茅の輪をくぐり通ることにて祓除の爲めに行ふもの）。
すがめ（名）詐謀、すをいれるかめ。
すがめ（名）眇眼、藐眇、やぶにらみ、よこめ。
すがし（名）透光線を取る爲に構造したるところ）。
すかしぼり（名）透彫、殺綾、彌空織すかしてはりたるもの。
すかしもん（名）透門、すきでみゆるもん
すがひ（名）醋貝（貝類の肉を切りて醋につけたるもの。
すがひ（名）部君子、相思子、鹿雄石（かちくもがひの實をいふ、種實。
すがもまち　巢鴨町（武藏國北豐島郡の町名）。
すかす（他）曉、だます、騙、瞞。
すかんぴん（名）素寒貧、いちもんなし。
すた（形）數多、あまた。
すた　須田、隅田氏。
すだ（名）首院（天竺四姓の一）。
すだい　數代、數世、累世、よよ。
すだち（名）栖立、巢起（鳥が巢より飛び去ること。
すだち（名）素覺、ひとりだち、獨立。
すだちやう　須田町（東京市神田區の町）。
すたりもの（名）廢物、廢料、無用物、やくにたたぬもの。
すたる（自）廢、衰、廢頽、壞疲、壞潰、もちひられずなる、十老廢、もいぼれすたる。

すたか（名）巢隱（一說の窩をいふ、種實。
すだれ（名）簾、宿、隔、すだれかけ。
すだれかけ（名）簾掛。
すだれがひ（名）簾貝（動物）。
すだれし（名）簾匠、すだれつくり。
すだれびやうぶ（名）簾屏風、すびやうぶ。
すだれもの（名）廢料、すたりもの。
すだつある（名）漫歩、をぶらるき。
すだく（自）喚、なく（草蟲が）、十あつまる、集。
すだく（自）噪、あへぐ、せわしくいきつく。
すだま（名）魑魅魍魎（山水の異氣より生ずといふ人面鬼身のばけもの）。
すだけ（名）律管（十二律の調子を調ぶる管、でうしぶえ。
すだすだ（副）すすきされぎれ。
すれる（自）擦、摺、摩、研、磨、こすれる、ふれる。
すれあふ（自）摺合、相磨、擦磨、こすれあふ。
すれめ（名）磨痕、擦跡、こすれあと。
すそ（名）裾、裳、裙、ころものすそ。
すそ（名）兜鉢のろひ、いのり。
すそわ（名）下回、したまはり、あもと。
すそわけ（名）下配、居分、配分、わけくばり。
すそだらひ（名）馬盥、うまあらひをけ。
すその（名）裾野、ふもと、やました。
すそと（形）下回、末潤、いろどきすも。
すそどり（名）蓉索丞に殘れる冷酒をいふ）。
すそする（他）洗四足（馬の足を洗ふこと）。
すつば（名）光種、すり、掏人。
すつば（名）水破、透渡、しのび、かんじや、間諜者、反間。

すつばい（俗）（形）酸味、すき、すみある。
すつぱり（副）清爽、すくやか、さつぱり、十すつかり。
すつぱぬき（名）水破抜（刀劍等を妄りに抜くこと）、十わるくち。
すつぱだか（俗）裸裎、まるはだか。
すつぽかん（名）阿呆、ゆとにたみ。
すつぽん（名）阿呆、ゆとり、あかくみ。
すつぽん（名）泥龜、鼈、どうがめ（動物）。
すつる（他）棄、捨、指、拋棄、去、弃、廢、拋擲、棄指、うちやる、なげうつ。
すつかり（俗）（副）清、すがすが、透徹、せいせい、十きれいに。
すつつどほり　畿都郡（後志國の郡の名）。
すづけ（名）酢漬（醋にひたしつけたるもの、また其こと）。
すづけ（名）醋漬すにつけたるもの。
すつすみ（名）四知、するすみ。
すね（名）脛、骸、はぎ、胴、むかうずね、膕、踹。
すね（名）髑（ずの骨の中心に在る油髓のもの）。
すねる（自）拗強、拗戻、わがままいふ。
すねくさ（名）脛蟲、はばきがさ、がんがさ。
すねあて（名）脛當、臑當、臑當、脛甲、楯、はいだて（本圖なるは加賀の國江沼郡須釜間多太社所藏寶庫所用にて長一尺二寸五分）。

すねもの（名）強者、拗者、わがままいふもの。
すねん　歳年、あまたとし。
すね（名）砂、沙、石の礫たまかきもの「いさご」。
スナイドルじり（名）施條銃、すぢいりづつ。

すなこし（名）砂漉、すなにてこすこと、水を。
すなぢち（名）砂鉢（粗き鉢）。
すなはら（名）砂原、平沙、沙漠、いさごはら。
すなはま（名）砂濱、すなおはまべ。
すなほ（形）質直、淳朴、質朴、樸、素、かざりなく、ありのままなる、十從順、遵良、遵厚、篤實、やさしくなはき。
すなほに（副）質直、遵和、かざりなく、やさしく。
すなほり（名）吹沙魚、鯊、動物。
すなどり（名）漁、いさり、漁捕、うをとり、十漁父。
すなどりびと（名）漁師、れふし、漁夫。
すなどる（他）漁、れうをする、うををとる。
すなどけい（名）砂時計、沙漏（沙をもりて時を計むらきみ、漁師、漁子、あま、れふし。
すなぢ（名）砂地、すなおはきとち。
すながに（名）沙蟹、はさ、蛸、むかうずね、膕踹。
すながね（名）沙金、しやきん（生金金の沙にまじりたるもの）。
すなつば（名）沙場、すなば、すなはち。
すなくさ（名）海金沙、竹園菜、たたきくさ、つるしのぶ植物。
すなやま（名）砂阜、砂山（沙ばかりの山）。
すなふり（名）烟膈、沙煙、すなはこり。
すなご（名）細沙、砂石、砂礫、こまかきこな金銀などの。
すなごいし（名）砂礫、こいし、じやり。
すなたひ（名）砂彈、つぶて、ききご。
すなどがみ（名）金沙紙（金銀などの粉を吹き付けたる紙。

すなはち（接續詞）則、廼、便、載、乃、されば、いまし、十即、とりもなはさず、やはり。
すなはち（名）砂鉢（粗き鉢）。
すなはら（名）砂原、平沙、沙漠、いさごはら。
すなはま（名）砂濱、すなおはまべ。
すなほ（形）質直、淳朴、質朴、樸、素、かざりなく、ありのままなる、十從順、遵良、遵厚、篤實、やさしくなはき。
すなほに（副）質直、遵和、かざりなく、やさしく。
すなほり（名）吹沙魚、鯊、動物。
すなどり（名）漁、いさり、漁捕、うをとり、十漁父。
すなどりびと（名）漁師、れふし、漁夫。
すなどる（他）漁、れうをする、うををとる。
すなどけい（名）砂時計、沙漏（沙をもりて時を計むらきみ、漁師、漁子、あま、れふし。
すなぢ（名）砂地、すなおはきとち。
すながに（名）沙蟹、はさ、蛸、むかうずね、膕踹。
すながね（名）沙金、しやきん（生金金の沙にまじりたるもの）。
すなつば（名）沙場、すなば、すなはち。
すなくさ（名）海金沙、竹園菜、たたきくさ、つるしのぶ植物。
すなやま（名）砂阜、砂山（沙ばかりの山）。
すなふり（名）烟膈、沙煙、すなはこり。
すなご（名）細沙、砂石、砂礫、こまかきこな金銀などの。
すなごいし（名）砂礫、こいし、じやり。
すなたひ（名）砂彈、つぶて、ききご。
すなどがみ（名）金沙紙（金銀などの粉を吹き付けたる紙。

スナイドルじり（名）施條銃、すぢいりづつ。

すなごし（名）砂漉、すなにてこすこと、水を。
すなぢち（接續詞）則、廼、便、載、乃、されば、いまし、十即、とりもなはさず、やはり。
すなはち（名）砂鉢（粗き鉢）。
すなはら（名）砂原、平沙、沙漠、いさごはら。
すなはま（名）砂濱、すなおはまべ。
すなほ（形）質直、淳朴、質朴、樸、素、かざりなく、ありのままなる、十從順、遵良、遵厚、篤實、やさしくなはき。
すなほに（副）質直、遵和、かざりなく、やさしく。
すなほり（名）吹沙魚、鯊、動物。
すなどり（名）漁、いさり、漁捕、うをとり、十漁父。
すなどりびと（名）漁師、れふし、漁夫。
すなどる（他）漁、れうをする、うををとる。
すなどけい（名）砂時計、沙漏（沙をもりて時を計むらきみ、漁師、漁子、あま、れふし。
すなぢ（名）砂地、すなおはきとち。
すながに（名）沙蟹、はさ、蛸、むかうずね、膕踹。
すながね（名）沙金、しやきん（生金金の沙にまじりたるもの）。
すなつば（名）沙場、すなば、すなはち。
すなくさ（名）海金沙、竹園菜、たたきくさ、つるしのぶ植物。
すなやま（名）砂阜、砂山（沙ばかりの山）。
すなふり（名）烟膈、沙煙、すなはこり。
すなご（名）細沙、砂石、砂礫、こまかきこな金銀などの。
すなごいし（名）砂礫、こいし、じやり。
すなたひ（名）砂彈、つぶて、ききご。
すなどがみ（名）金沙紙（金銀などの粉を吹き付けたる紙。

すなむぢ　住濕氏。
すり（名形）數、かず、十天命、十いくつか二三以上十以下をいふ。
すり（代）居、すうる（坐せしむるをいふ）。
（すりいり）（名）雜遊、ひなあそび。
スウヰデン　瑞典（歐羅巴洲中の國名）。
すりはい（「する」）（自）徘徊、まかりでる。
すりばん　數簀、いくたびか、あまたたび。
すりどど　數度、數回、幾回、幾度、いくたびか。
すりざら（名）番豆、わらまめ（牛馬を飼ふ）。
すりち（名）數地、繪地をいふ。
すりち（名）調絨、ちぢみかたびら。
すりりやうばん（名）數盞盤、そろばん。
すりる（他）置、居、据、おく、十整置にいふ）。
すりかう（名）猫柔、うまのかひわら。
すりがら（名）數鏡、かずもり、かず。
すりがく（名）數學算術の學。
すりた（形）數多、あまた。
すりたひ　素論、かうたひ（番謡なくての。
すりれい（名）猫鹽、くさにんぎやう（草人形）。
すりそう（名）雜使、こぞう。

すらそう〔する〕(自)　趨走、はしる、奔走。
すらくわい　歌回、歌座、あまたたび。
すらげい〔する〕(他)　趨迎、むかふ。
すらけん(名)　祭饗、年馬羊豚等をいふ。
すらふ〔する〕(自)　趨赴、おもむく。
すらてい(名)　捌蹄(人馬の足を刷す具、うまふせぎ。
すらさい(名)　蒜菜、おほばかちし、おほがちし、たかな植物。
すらさう(名)　蒜草、かひば、まぐさ。
すらき(名)　機機、くるる、十叉かなめのところ肝要の事機、機密。
すらき(名)　雑伎、こげいしや、おしやくげいしや、小伎、下地子、はんげいしや「はんぎよくを見よ。
すらきよう〔する〕(自)　足蹉、つつしむ。
すらみつ(名)　機密、政府の機密をいふ。
すらみつゐん(名)　機密院(重要の政治を諮詢したまふ官府をいふ。
すらじ　数字　数を記すに用ふる文字、十いくつかのもじ但し十字以下の。
すらしやう(名)　機相、機密院議長をいふ。
すらえう(名)　機要、くるる、かなめ、肝要大切なることをいふ、機機。
すらもく(名)　数目、しかず、目録。
すらせい(名)　趨勢、なりゆき、おかひおもむくいきほひ。
すらせい　歌世、歌代、あまたよ。
すらぜう(名)　蒜蒻、くさかりときこりと、いやしきもの。
すのいつた〔俗〕形　通心、中空、なかのからなる。
すのはた(名)　洲端、洲の水中に突出したる所。
すのり(名)　洲苔、水雲、藻、もくづ種別。
すのまたがは　墨陀川、美濃國に在る有名の川。
すのこ(名)　簀子、たけとこ。
すのもの(名)　酢物、酢にひたしたる食物をいふ。
すく(自)　疎、すきかへす田圃を、十、くさぎる。
すく(他)　鋤、くしけづる髪を。
すく(他)　漉、こしらふる紙を。
すく(他)　救、助、たすく。
すく(自)　透、すきとほる。
すく(他)　結、こしらふる鯛を。
すく(他)　好、このむ。
すぐ(形)副　直、まつすぐ、十ただちに。
すぐろく(形)　墨縄、まつくる、焼野などにいふ。
すぐろく或すごろく(名)　雙六、六采、擲采、擲采、采、ちぢめる、すくませる。
すぐみち(名)　直路、すぐきみち、まがちぬみち、十便道、ちかみち。
すくえうし(名)　宿曜師、二十八宿九曜星などを題して人の運命を占ふ人、しゅくえうし。
すくひ(名)　比、きに。
すくひぬし(名)　救主、救世主。
すくひたま(名)　援助、かひたま。
すくひあみ(名)　掬網、撈網、たも(すくひて魚をとるあみ)。
すくも(名)　稗、もみがら、もみぬか。
すくも(名)　屑、屑繭、太蚕などの水中に化して製糸になれるものにて近江國堅田郡に産す(植物)。
すくもいし(名)　石炭、いしずみ。
すくもむし(名)　蠐螬、地蠶、動物。

すぐれ(名)　逸世、寡世、創世、さきのよ。
すくすくと(副)　無恙、つつがなく、さはりなく。
すくり(名)　直銭、素木銭、一本の直き銭。
すくつ(代名詞)　其奴、そやつ、きやつ、人を賤んで呼ぶ詞。
すくなし　陶山氏。
すくき或すくきもの(名)　坏様子、瓶瓷、くすりかけぬせともの。
すくすや(副)　清爽、ところよげに、よく。
すくす(名)　隅すみ。
すくのうら　須磨浦(須磨酒とも云ふ、攝津國武庫郡の海濱なる勝地の名)。
すくのうらのじつけい　須磨浦十景若木櫻花、上野原草、閑屋閑月、武峯晴雪、須磨寺鐘、兵庫歸帆、一谷古城、鹽屋暮煙、磯馴松風、後山觀楓。
すくふ(名)　角觝、ちからくらべ、角力、相撲。
すくふ(他)　角觝、ちからくらべをする、すまふとゐ。
すくふとり(名)　相撲取、力士、角力者、角觝人、すまふとるひと。
すくふとりぐさ(名)　杜槿、ふみれ植物、相撲年寄相撲の親方株のもの。
すくき(名)　賞巻、すのこまき。
すくし(名)　褌、せんだくをんな。
すくし(名)　洗濯、すすぎあらひ、せんだく。
すくし(名)　洗手、てをあらふこと、てうづ。
すくし(名)　醇汁、清汁、醤汁、味噌を煮て漉して清ませたるもの。
すくび(名)　住居、邸第、邸宅、住所、住宅、やしき、すみか。
すくひ(名)　相撲(すまふに同じ)。

すくせ(名)　逸世、寡世、創世、さきのよ。
すくすくと(副)　無恙、つつがなく、さはりなく。
すくり(名)　直銭、素木銭、一本の直き銭。
すくつ(代名詞)　其奴、そやつ、きやつ、人を賤んで呼ぶ詞。
すくなし　陶山氏。
すくき或すくきもの(名)　坏様子、瓶瓷、くすりかけぬせともの。
すくすや(副)　清爽、ところよげに、よく。
すくす(名)　隅すみ。
すくのうら　須磨浦(須磨酒とも云ふ、攝津國武庫郡の海濱なる勝地の名)。
すくのうらのじつけい　須磨浦十景若木櫻花、上野原草、閑屋閑月、武峯晴雪、須磨寺鐘、兵庫歸帆、一谷古城、鹽屋暮煙、磯馴松風、後山觀楓。
すくふ(名)　角觝、ちからくらべ、角力、相撲。
すくふ(他)　角觝、ちからくらべをする、すまふとゐ。
すくふとり(名)　相撲取、力士、角力者、角觝人、すまふとるひと。
すくふとりぐさ(名)　杜槿、ふみれ植物、相撲年寄相撲の親方株のもの。
すくき(名)　賞巻、すのこまき。
すくし(名)　褌、せんだくをんな。
すくし(名)　洗濯、すすぎあらひ、せんだく。
すくし(名)　洗手、てをあらふこと、てうづ。
すくし(名)　醇汁、清汁、醤汁、味噌を煮て漉して清ませたるもの。
すくび(名)　住居、邸第、邸宅、住所、住宅、やしき、すみか。
すくひ(名)　相撲(すまふに同じ)。

すくふとりぐさ(名)　相撲取(すまふとりに同じ)。
すくへる　精宅、精居、精住、移精、移住、移宅、精住。
すくもぐさ(名)　蒜草、くきのない植物。
すくよか　はるる、勤足を、清数、清く、すくやかに、たしかに。
すくよかに(副)　健、すこやかに、たしかに。
すくよかごころ(名)　壮心、たしかにつよきこころ。
すぐれる(自形)　卓、傑、こえすぐる、もぬける、妙絶、雄優、特、勝、卓越、傑勝、超越、抜群、擢世、傑軼、逸、
すぐれ(名)　逸世、寡世、創世、さきのよ。
すぐせ(名)　逸世、寡世、創世、さきのよ。

すまひざり(名)　相撲取(すまふとりに同じ)。
すまひをかへる　精宅、精居、精住、移精、移宅、移住。
すまひぐさ(名)　自然草、くさの名、北朝第三代の帝、紀元二千〇九年(西洋紀元一千三百四十九年)より二千〇十一年(同六十五歳にして崩ず。
すまず(他)　算、数。
すます(他)　澄水を、きよくすむやうにする。
すまし(名)　助、砥石、たすけ。
すまし(名)　介(櫛介あり、笠かみ)長史、別駕皆之にあたる。
すまし(名)　助、佐、発、允、官、調官、属官、補官をいふ。
すまし(名)　出簀、僧侶、はふし。
すまし(名)　楊枝、つつかひぼう、屋の傾きを支ふる柱。
すまし(名)　管、ますげ、十竿、かやすげ笠をつくる草(植物)。
すまし(名)　助倍、いろごのみ。
すまし(名)　鰈(俗)、鰈大口魚、たらの類にしてやや小さき魚の名、佐渡の海に産す(動物)。
すまし(他)　助、加功、補助、幇助、助力、助勢、勢力、幅力、介、援、たすくる。
すまし(他)　著、はるる、十挿、矢の根を、筈、とにを正しとす、すげ及びすげのをがさ、管にて編みたる笠、蓑と書くなどを助くること。
すまし(形)　疎、まばら、まばらなる、ものすごき。
すまし(形)　些少、些細、細微、瑣少、微少、わづか。
すましも(副)　少、いささかも、つゆばかも。
すまし(名)　巣籠鳥の巣に居るもの、ひな、十又すにもるること。
すまもる(自)　巣籠鳥が、十繁殖が、すにはいる。
すまひつ　歌月、あまたつき。
すまひく(副)　無煮染、あいそなく、なさけなく、つれなく。
すまひど(副)　凄凄寂寥、そこそこ、いきはいなく。
すまひをがさ(名)　蓑笠、すげのかさ蓑にて作れる笠なり、二人の組人蓑笠に面を匿しるといふ。
すげのや　管谷氏。
すげて(名)　助手、加手、てつだひ。
すげて(名)　助手、副脇、相撲の一、せきわき。
すげせい(名)　趨勢、加勢、援兵、たすけのつはもの。
すげん(名)　素見、ひやかし、十ただみること。
すふ　周布氏。
すふ(他)　吸、吸息を引きて口に入るる。
すふる(他)　既、尽、くくる、すべをきわる、既括。
すごろく(名)　雙六、博奕の類。
すごろくばん(名)　雙六盤、すごろくするだい、雙六枰。
スコツトランド　蘇格蘭、英吉利國の北部。
すこう　数口、数人をいふ。
すこく(他)　援、しごく。
すこやか(形)　健、健剛、健勝、たつしや、ずゐぶん、おほいに。
すこぶる(副)　頗、すこぶる、おほいに、すこぶる、すて、皆悉、すべて、雑手をつけざるて。
すこき(形)　凄、ものすごきありさま、ものすごき。
すこし(形)　些少、些細、細微、瑣少、微少、わづか。
すこしも(副)　少、いささかも、つゆばかも。
すこもり(名)　巣籠鳥の巣に居るもの、ひな、十又すにもるること。
すこもる(自)　巣籠鳥が、十繁殖が、すにはいる。
すこす(他)　過、あまりおほくする。
すこすど(副)　凄凄寂寥、そこそこ、いきはいなく。
すげぬ(名)　蓑笠、すげのかさ蓑にて作れる笠なり、二人の組人蓑笠に面を匿しるといふ。
すげのや　管谷氏。
すげて(名)　助手、加手、てつだひ。
すげて(名)　助手、副脇、相撲の一、せきわき。
すげせい(名)　趨勢、加勢、援兵、たすけのつはもの。

すこん　歎息、歎嘆、あまたさかづき。
すで（名）空手、白手、徒手、素手、からて、てぶら。
ステイシヨン（名）停車場、汽車の發着所、「十たてば」。
すてに（副）既、已、業已、もはや、もう。
すてぬく（他）捨置、放置、放擲、放念、うちすてゐく、かまはずあく。
すてをぶね　捨小舟、ただよふふね。
すてがね（名）捨鐘、時の鐘をつく時に人に注意を與ふる爲めに三つ餘分に撞く鐘の聲。
すてがな（名）捨假名、轉聲、副學漢文の傍の下に附くる平訓。
すてがき（名）捨書、むだがき、偶寫、かきずて。
すてつづみ（名）捨鼓、一定まりの數の外に預め擊つ鼓の音。
すてね（名）賤僧、すてねだんごくやすね。
すてねにうる　賤價賣、やすくうりはらふ。
すてむち（名）捨鞭、はしるときにあつるむち。
すてうり（名）斥賣、代價の高下に係はらず賣るをいふ。
すてのこさ（俗）（副）既業、はとんど。
すてぶち（名）捨扶持、扶助料、風給金、養老金。
すてふだ（名）捨札、默辭標、記由牌、捨榜、罪狀實刑數人の。
すてご（名）棄兒、捨子、すてられたるこ。
すてごろも（名）捨衣、けさ、僧侶の服。
すてごばな（名）石蕗花、しびとばな、ひがんばな（植物）。
すてことば（名）捨詞、斷りがけに言ひ放して行く詞。
すてもの（名）棄物、廢物、いちぬもの、やくにたたぬもの。
すあへ（名）酢和、すにてあへたるくひもの。
すあたま　料頭、すかうべ（料理を被ふ頭。
すあう（名）素饅、すあうを見よ。
すあま（名）甘餅、菓子の名。
すあし（名）徒跣、はだし、徒足、素足、生足。
すあひ（名）市價、なかひ、さいとり、十また半値、とりもちなんど、とりもちばし。
すず（名）鉄鐶、鉄砲の腹の部分を然かいふ。
すず（名）寸法單土に混和する毫屑、つた、煉瓦屑。
すず（名）從者、ともびと。
すさい（名）秀才の人にもぬけたるもの。
すさい（名）酢菜、すあへ。
すさかまち　須坂町、信濃國上高井郡の町名。
すさむ（自）荒、無、あれる。
すさむら　須佐村、長門國阿武郡の村名。
すさのをのみこと　素盞嗚尊、天照大神の弟。
すさまじき（形）凄然、もをき、すごき、ものすさまじき、荒冷。
すさき（名）洲崎、洲尾、沙嘴、すのてはな。
すさきべんてんちやう　洲崎辨天町（東京市深川區の町。
すさきちやう　洲崎町、東京市深川區の町。
すさきちやう　須崎町、土佐國高岡郡の町名。
すさき（名）遊女、獻、なぐさみ、十敬、荒、ふけり。
すさき（名）透、あひだ、すき、十間隙、ひま、てすき。
すさき（名）鑢地をはりあこ之農具。
すさき（名）歌奇、ちやのゆ、十ふしあはせ。
すさき（名）好事、ものずき、十好色、いろごのみ。
すさき（名）鐘、つちすきか（すくは、十鑢、鑢、鋸、鑿、たぬもの。
すさき（形）酸、すっぱい。
すさき（名）好、嗜、このみ。
すさき（名）杉、沙木、楼木、椙、いそぎ、植物。
すさきる（名）杉井氏。
すさきいた（名）杉板、すぎのきのいた。
すさきはら（名）空腹、ひもじさ。
すさきはら　杉原氏。
すさきはらかみ　杉原紙、播磨國杉原村より出だす紙の一種にて大杉原小杉原の別あり。
すさきひ（名）話計、なりはひ、生計、生理、生活、活業、餌口、養口、營謀、くらし。
すさきにかは（名）透膠、黄明膠、さらしにかは、水膠、牛皮膠。
すさきにし（形）過、ふりにし、わかしの。
すさきにしかた　既往、こしかた、さきつかた、以前。
すさきにほる（自）透過、透明、澄明、透徹。
すさきさとち　杉戸町、武藏國北葛飾郡の町名。
すさきる（自）過、こえる、軼、十とほりこす、經過。
すさきわか　杉若氏。
すさきがへし（名）漉反、反魂紙、古紙をすきかへしたる粗紙。
すさきがらし　鉢柄氏。
すさきがましき（形）好色（好色家の如く見ゆるをいふ。
すさきかげ（名）透影、すいてみゆるかげ。
すさきがき（名）透垣、すいがきこすいがきをみよ。
すさきかぜ　隙風、すきまもるかぜ。
すさきた　杉田氏。
すさきたに　杉谷氏。
すさきやき　杉板燒、いたを剝身に作り杉の板の裏に醬をあつくぬり火鉢にかけ剝身に醬油をつけて其上にてやく料理。
すさきだす（他）渡出、こしらへだす紙を。
すさきな（名）杉菜、天花菜、問荊、つくづくし、擦銹草植物。
すさきなり（名）杉形、上細く下濶き形、やさなり。
すさきうつし（名）臨書、臨摸、影寫、透寫、紙を上にあててうつすこと。
すさきうら　杉浦氏。
すさきの　杉野氏、十又越中の地名、椙野。
すさきぐし（名）密櫛、こまかきくし、まびし、篦櫛。
すさきや（名）歌客屋、茶寮、茶室、ちやのゆのざしきちやじよ。
すさきやに（名）杉煎、すぎのきのやに。
すさきやちやう　歌客屋町（東京市日本橋區の町またド谷區に同名の町あり。
すさきやりど（名）杉遣戸、すぎのくりだしど。
すさきやう（名）修行、しゆうぎやう。
すさきやう（名）誦經、經を讀むをいふ。
すさきやま（名）杉山氏。
すさきま（名）隙、空隙、入風、空間、讐隙、あひだ、あはひ。
すさきま（名）透間、あひだ、すき。
すさきごほり　周吉郡隱岐國の郡の名。
すさきごさ（名）色事、好色、いろごと。
すさきごころ（名）好色心、いろごのこころ。
すさきて（名）結手、網をあむひと。
すさきあぶら（名）機油、滑油、かみすくあぶら。
すさきさる（自）過去、すぎゆく。
すさきされ（名）過切、紙を漉く時に紙の面に生じたる切目をいふ。
すさきゆく（自）過行、すぎさる。
すさめ（名）隲、かたすみ、隅、嶋、維、邊隲、疆隲、四隲、十角、かど。
すさみ（名）漠、すさるすみ、松濱侯、玄堂、玄香、陳玄、烏玉玦、烏金、狩鑑、玄圃、龜硯、麝墨、玄侯。
すさみ（名）鉄大を蒸し熬にして作れるもの。
すさみ　鷲見、角氏。
ずさみ（名）野蔓、ひめかいだう、植物。
すさみいろ（名）墨色、くろきいろ、墨にて畫きたるものを見て古圖を判ずるを墨色を見るといふ。
すさみいけ（名）墨池、すずり。
すさみいし（名）硯石、硯の一名。
すさみぼうし（名）角帽子、かくばうし。
すさみばさみ（名）墨挾、すみつかい墨果。
すさみにど　清鑑、きよきときよからぬと。
すさみより（名）漉牙、紙漉簀、漉桶、漉槽、漉紙、すみいれ。
すさみより（形）隲取、彙隲、すみきり、物の隲を切りたる。
すさみとりふくべ（名）瓠瓜、合頭瓠、なりひさご、ふくべ植物。
すさみどころ（名）住所、住居、すまひ、みどころ。
すさみちがひ（名）角違、隲違、角より角に直ぐに挿るをいふ。
すさみちやう　角町、東京市淺草區東吉原の町。
すさみか（名）住家、住所、すむところ、十栖、ねぐら（禽鳥の、棲處。
すさみがね（名）墨金、曲尺工匠の用ふる器、さしがねきがりがね。
すさみがなもの（名）包鐘箱などの角に設ける金物をいふ。
すさみがま（名）漉鐵、すみやきがま。

すみがさ(名)　墨傘、くろばりのさしがさ。
すみかき(名)　炭鉤、おきかき。
すみがき(名)　墨書(墨でかきたる畫)。
すみがしら(名)　炭頭(十分に燒けず火に入るればいぶる炭)。
すみよし　住吉(攝津國武庫郡の名地、住吉の浦、住吉の岸、住吉の岸田など和歌に名高し)。
すみよしのおたうゑ　住吉御田植(太陰曆五月廿八日攝津の住吉神社にて田植を行はれし神事)。
すみよしじんじや　住吉神社(攝津國東成郡に在る官幣大社)。
すみだはら(名)　炭俵、すみいれだはら。
すみだがは　隅田川(水源は信濃甲斐上野の三國にあり武藏國秩父郡の諸溪流を合せて中津川となり隅田村にて綾瀨川と合し南に流れて永代橋を過ぎ東京灣に入る荒川は其上流にて淺草川宮戶川大川等は其下流の名稱なり、また古隅田川は昔し古利根川の下流にて長右衞門新田といふ處に至り中川と分れ西流して荒川と合したるものなるが其遺流僅に小菅村邊に在りといふ)。
すみれ(名)　菫、苦菫、旱芹、早葵、紫花地丁、一夜草、すまふぐさ、手向草(植物)。
すみれいろ　菫花色、むらさきいろ(染色に云ふ)。
すみぞめ(名)　墨染、ねずみごろも(僧侶の服)。
すみぞめざくら　墨染櫻(山城國深草にありといふ)(植物)。
すみつぼ(名)　墨斗、墨壺、墨汁器、すみいれ。
すみつぼ(名)　墨斗(墨繩を入れる物(大工の用具))。
すみつか(名)　墨束、すみはさみ。
すみつく(名)　住着(其土地に少しく住み馴れたるをいふ)。

すみつき(名)　墨着(すみのつきかた紙に)。
すみつき(名)　墨附(將軍の花名ある文書をいふ)。
すみなは(名)　墨繩、すぢうちなは(大工の)。
すみながし(名)　墨流(墨を流したる如くに彩れる紙等をいふ、又「かまぼこ」の料理法の名)。
すみなれる(自)　住馴、なれる、ゐつける。
すみうち(名)　墨打、すみひき、緋、すみさし。
すみのやま　須彌山、しゆみせん。
すみのころも　墨衣、緇衣、くろごろも、僧服。
すみや(名)　炭店、すみをうるいへ、賣炭家。
すみやか(名)　速、遠、頓、亟、迅、迅速、急速、早速、遄急、神速、疾速、歇急、最急、火急、はやき。
すみやかに(名)　速、急速、はやく、ただちに。
すみやく(自)　急、せく、いそぐ。
すみやぐら(名)　角櫓、かどのものみやぐら。
すみやき(名)　炭燒、燒炭者、すみやくひと、十すみやくこと。
すみやきだひ(名)　烏頰魚(動物)。
すみけし(名)　墨消、すみにてけすこと。
すみけし(名)　炭消、焠缸、ひけしつぼ。
すみどゑ(名)　清音、きよらかなるこゑ、はれやかなるこゑ。
すみあらす(他)　住荒、棲老、住損、すみをりてあらす(家屋を)。
すみざけ　清酒、こしざけ、濟酷。
すみさし(名)　墨刺、すみひくふで(大工が)。
すみぎ(名)　炭木(燒きて炭とすべき木)。
すみき(名)　桷(屋根の隅隅に置く大なる木)。
すみゑ(名)　墨畫、玄畫、水墨畫、白描畫、墨繪(墨ばかりにて書きたる畫)。
すみび(名)　炭火、おき、十又すみのひ。

すみすり(名)　硯、すずりいし。
すし(名)　鮨、すづけめし、鮓、飯に鹽をかけて魚類などをあはせて漬ふ食物。
すし(形)　酸、すゆき、すゆし。
すじ　數次、たびたび、數回、數度、あまたたび。
すじ(名)　蒔種、まくべきいなだね(水にひたして田に播くべき稻の種)。
すじつ　數日、いくそのひ、あまたのひ(但し十日以下にいふ)。
すじやう(名)　素性、うまれ、すだち、人の素性などを云ふ、うまれつき、十種姓、いへがら。
すしゆんてんわう　崇峻天皇(人皇第三十二代の帝、紀元一千二百四十八年(西洋紀元五百八十八年)より一千二百五十二年迄、在位五年御壽七十二歲)。
すじんてんわう　崇神天皇(人皇第十代の帝、紀元五百六十四年(西洋紀元前九十七年)より六百三十一年迄、在位六十八年御壽百六十八歲)。
すゑ　陶、陶器所、陶器氏。
すゑ(名形)　末、季、をはり、十杪、うら(木の)。
すゑる(自)　饐、すゆ、くさる(食物の)。
すゑる(他)　居、置、据、安置、おく。
すゑをけ(名)　坐桶、すゑたるふろをけ。
すゑがま(名)　窯、せとものをやくかま。
すゑつかた　末方、終頭、をはりのかた。
すゑつむはな(名)　末摘花、紅花、べにばな(植物)。
すゑつぐ　末次氏。
すゑつくり(名)　陶工、すゑものづくり。
すゑなり(名)　末締、をはりなり(果實の)。
すゑらつはもの(名)　陶器、せともの、やきもの。
すゑのよ　季世、末世、末代、澆季。
すゑのむすめ　末女、をはりのむすめなど。

すゑのまつやま　末松山(陸前國宮城郡に在る山)。
すゑのこ　末子、ばつし、季子、おとご。
すえくさる(自)　餒、餲、餕、餧、くさる(飯また魚などが)。
すゑふろ(名)　据風呂、もきぶろ(家の内に設くる浴桶)。
すゑしげとう(名)　末重籐(弓にいふ)。
すゑひろ(名)　末廣、中啓、折腰扇、折扇、さきのひろきあふぎ、あふぎ(扇)。
すゑひろちやう　末廣町(東京市神田區の町)。
すゑびと(名)　陶工、せとものし。
すゑもの(名)　陶器、せともの、やきもの、磁器。
すゑもの(名)　据物(昔時土壇に罪人の死體をすゑ置きて其利鈍を試みしこと、又密に賣淫する女)。
すゑものつくり(名)　陶器師、陶家、陶人、陶工(陶器を燒き造る人)、せとものし。
すゑものくるま(名)　旋盤、せとものろくろ。
すゑものし(名)　陶器師、せとものつくり。
すゑぜん(名)　供膳、すゑそなへたるぜん。
すゑずゑ　末末、ゆくすゑ。
すひさりかみ(名)　吸墨紙、すみすひがみ。
すひさる(他)　吸取(口にて息をひきて取る)。
すひぢにのみかみ　沙土煮神(天神七代の第四の陰神、「うひぢにのかみ」と共に生れましし神)。
すひかつら(名)　忍冬(にんどう)、左纏藤、金銀花、金銀藤、鴛鴦藤、金釵股、通靈草(植物)。
すひがら(名)　吸殼、ふきがら、吹灰(たばこの、烟草、吸枯)。
すひよする(他)　吸寄、すひてひきよする。
すひだす(他)　吸出(口にてすひていだす)。
すびつ(名)　炭櫃、地爐、火爐、ゐろりつぼ(地にいけたる爐)。

すひづつ(名)　吸筒、酒竹筒、瓠樽(酒を容るる筒)。
すひつく(自)　吸着、すひてくつつく(蛭吸角子等すひつく、べしなどが)。
すびな(名)　巢雛、巢の中に在る鳥の子、すごもり。
すひくち(名)　吸口、吸嘴(管等の口に入れて吸ふべきところ)。
すひふくべ(名)　吸角子(血を取る具)。
すひこむ(他)　吸込、すひいれる。
すひこみ(名)　素込(手水鉢の側に設けて手水を地中に吸ひこます穴)。
すひあげる(他)　吸上、すひてのぼらしむる。
すびき(名)　素引、素彎、徒彎(弓に矢をつがへずしてただ彎くこと)、空張、空引。
すひもの(名)　吸物、あつもの、すひてくらふもの(料理の名)。
すひものわん(名)　吸物椀(吸物もる具)。
すひものぜん(名)　吸物膳(吸物のする臺)。
すもどり(名)　素戾、素還、素反、いたづらにかへること、むなしくかへること。
すもとまち　洲本町(淡路國津名郡の町名)。
すもり(名)　毈(卵の孵化せずして巢に殘るものを云ふ)。
すもり(名)　巢守、すをまもるとり。
すもりご(名)　毈「すもり」に同じ。
スモタラ　蘇門答剌(亞細亞海中の一島)。
すもの(名)　醋、すのもの。
すもじ(名)　鮨、すし(婦人の詞)。
すもも(名)　李、黃舌(植物)。
すす(名)　煤、炱煤、燧煤(煙より生ずる黑き粉)。
すす(名)　篠、しのだけ、ささ。

すず(名)　鈴、圓鈴、玉鈴、和鸞、ふりならすかね、鑾、鐸(甲圖は大和國法隆寺の所藏、乙圖は紀伊國高野山觀光院の所藏弘法大師の所持といふ)。

〔鈴の圖〕

すず(名)　錫(鉛に似たる如き金屬)。
ずす(他)　誦、よむ。
ずず(名)　數珠、念珠、信徒のつまぐる具。
すずゐ　酒酒井氏、また下總國印旛郡の地名。
すずろ(形)　不覺、坐、そぞろ。
すずろに(副)　漫、おもはずしらず、われしらず。
すすろふ(他)　啜、すすりこむ。
すずろあるき(名)　漫行、あそびあるき、散歩、ぶらぶらあるき。
すすばな(名)　洟、すすりばな、みづはな、はなしる、はなみづ。
すすはらひ(名)　煤拂、すすはき。
すすばむ(自)　染煤、すすじむ、すすけづく。
すすはき(名)　煤掃、煤拂、すすはらひ、十除煤(十二月の)。
すすぼる(自)　煤黔、煤黑、くすぼる、すすける。
すずさり(名)　隼、ちん(動物)。
すずとり(名)　弄鈴、遊戲の名にて多くの鈴をなげ上げて落ちくる所を競ひ取るをいふ。
すすどき(名)　鋭、峻刻、活潑、するどい。
すずり(名)　硯、研、即墨侯、筆海、石虛中、鳳咮、陶泓、遺源、端璧、張芝、石兒、陳玄、稽淵、端溪、蟾眼、研墨池、松煤利、墨海、褐色先生、いしのつかひ。
すずりいし(名)　硯石、すみするいし、馬肝石。

すずりばこ（名）硯匣、硯箱、すずりいるるはこ。
すずりだい（名）硯案、すずりをはむるだい。
すずりなき（名）喉泣、秋泣、くしくしたき、しやくりかき。
すずりのうみ　硯池、紫石硯、すずりのくぼきところ硯甲水を湛ふる處。
すずりぐすり（名）喉藥、すずりにむくすり。
すずりぶた（名）硯蓋、太盆の大なる物、また料理の名。
すずりぎり（名）硯工、すずりいしをきるもの、＋また銅硯藻。
すずりみづ（名）書滴、硯滴、すずりのすみ。
すする（他）喉咽、すすりこむ。
すずかやま　鈴鹿山（伊勢の山にして近江に接す。古昔盜賊の巢窟たりしところ）。
すずかけ（名）鈴掛、修驗者の服、やまぶしのころも。
すずかこほり　鈴鹿郡（伊勢國の郡の名）。
すずがき（名）鈴柿、さるがき（植物）。
すずかも（名）刁鴨、たかべ、小鴨（動物）。
すずかぜ　冷風、涼風、すずしきかぜ。
すずたる（自）煤垂、すすけるる。
すずたま（名）薏苡、草珠兒、川穀（よくいを見よ）（植物）。
すすたけ（名）煤竹、舊などの上に置き煤にて染めたる竹。
すすたけちや　煤竹茶（染色の名）。
すずな（名）蕪、たうな春の七草の一（植物）。
すずなり（名）鈴成、果實が多くかたまり結ぶをいふ、蜜結。

すずなり（名）鈴形、すずがた。
すずなぎり（名）自殺、ひやくらふ。
すずらん（名）鈴蘭、小菖合笑、きみかげさう、いちやくさう（植物）。
すずむ（自）逍、前、前遥、まへつづる。
すずむし（名）鈴蟲、金鐘蟲、月鈴兒、金琵琶、金鐘子（動物）。
すずのえ　鈴縄、すずなはひ。
すずのそう（名）鈴奏、行幸の時、御道筋を掃ふ鷺め鈴を受け取り又還幸の後に返上するをいふ。
すずのや　鈴屋（本居宣長の家號）。
すずぐ（他）濯衣を、十漱口を、十雪恥を、あらひそそぐ。
すずくち（名）鈴口、鐘口、すずのくち、十銃口。
すずやか（形）朗清、すがすがしき。
すずめ（名）雀、雅、五雀、賓雀、王母使臣、いなおほせどり（動物）。
すずめる（他）進、まへいだす、十奏、たてまつる、十動、動告、こころそへする、いさむる、十晉、騰、驤、動機、はげます。
すずめがた（名）雀形（襖障子の貼附紙などに雀を形に置きたるをいふ。
すずめがく（名）雀隠（筆草が雀のかくれる程に長く延びたる時をいふ。
すずめうり（名）雀瓜、馬齒見（植物）。
すずめのを（名）海牛鳥、うをのな（動物）。
すずめのをごけ（名）雀苧桶、あまはさ、びやくせん（植物）。
すずめのたまご（名）竹墓、皮竹、雲明竹等の根より二三尺の間に生ずる菌にして「きくらげ」の形に似たり（植物）。
すずめのたご（名）雀髪「すずめのつぼに同じ」。
すずめのつぼ（名）雀髪、すずめのたご、鳥筥房、鷹舍、いもむしのさなぎがら。
すずめのやり（名）地錦梅（植物）。
すずめのまくら（名）雀枕、「すずめのつぼ」に同じ。
すずめのまくら（名）雀茅蘭、雀麥、すずめのちやひきぐさ（植物）。
すずきちやう　鈴木町（東京市神田區駿河臺の町、また京橋區に同名の町あり）。
すずきだ　薄田氏。
すずきだ　鈴木田氏。
すずきのはな　芒花、をばな。
すずきあらふ　鑽灑、あらひきよむる（「すすぐ」を見よ）。
すずき　鈴木、須須木氏。
すずき（名）鱸「ろぎ」を見よ（動物）。
すずきがは　濯川（伊勢國にありて和歌に詠み人れられたる名所の川）。

和漢雅俗　**いろは辭典**　終

すずめのふん　雀糞、白丁香、すずめのくそ。
すずめのこ　黄雀、こすずめ（動物）。
すずめのあは（名）雀粟、九黙草、扁禾（植物）。
すずめのふんどう（名）雀豌豆、八巣菜、豆科に屬する草（植物）。
すずめやき（名）雀燒（鮒を串に刺して燒きたるもの、料理の名）。
すずめふぐ（名）鮸魚、うみすずめ（動物）。
すずめこゆみ（名）雀小弓、雀的、ちひさきゆみ。
すずめあるき（名）雀歩行（雀が朝晴を出づる頃の歩行）。
すすめさだす（他）勧論、勧解、勧誡、勧告、つげしらす、十勧諭。
すずめゆみ（名）雀弓、すずめのこゆみ。
すずみ（名）涼、納涼、すずむこと。
すずみいろ（名）涼色（京都祇園町遊郭の女郎藝子が六月の頃男と共に涼手に河原を歩くをいふ）。
すすみいづる（自）進出、まへへいづる。
すずみどころ（名）清室、涼室、すずむところのだい、涼榻。
すずみだい（名）涼臺、すずむところのだい、涼榻。
すずみそろひ（名）涼襦、太陰暦六月納涼の時京都祇園町の藝子等が同樣の帷巾を着る例あり之を涼襦といふ。
すずみや（名）涼亭、納涼亭、涼榭、すずむちん。
すすみぶね（名）納涼舟、夏さを凌ぐ爲めに造ふる小船。

すずし（名）生絹練らざる生絲の織物。
すずしろ（名）髻、小兒の頭上に髪を剪みあましたるもの。
すずしろ（名）蘿蔔春の七草の一（植物）。
すずしき（形）涼、清涼、爽涼、あつくあらぬ。
すずしきぬ（名）生絹「すずし」を見よ。
すず（名）煤物のすすみてできたなくなれるもの。
すず（名）寸一尺の十分の一、十発、ひときだ。
すんいん（名）寸陰、すこしのひま。
すんぱく（名）寸馬、寸尺、おはきき、十ながさ、豆人寸馬など用ふ。
すんぱく（名）寸白「すばく」に同じ。
すんぷ（名）寸法、寸尺、おはきき、十ながさ、尺、十てにゆん、てだて。
すんど（名）寸土、寸地、すこしのち。
ずんど（俗）（副）寸刻、すぐれて、ぬきんでて。
ずんどうごほり　厳東郡（厳河國の郡の名）。
すんちよ（名）寸楮、みじかきてがみ。
すんちり（名）寸思、すこしのまごころ君王などに對しての。
すんか（名）寸暇、わづかのひま、寸隙。
すんがう（副）寸毫、わづか。
すんかん（名）寸閑、わづかのひま、寸暇。
すんだん（名）（する）（他）寸断、きれぎれにきざむ、ずたずたにきる。

ずんながる（自）隧流、家屋にて材の腐朽になるをいふ。
すんげき（名）寸隙、すこしのひま。
すんぶん（副）寸分、すこし、わづか。
すんとう（名）寸功、すこしのてがら。
すんてつ（名）寸鉄、わづかのくさりかね、すこしのはもの（「寸鉄人を殺す」などいふ。
すんでのこと（副）飯事、おはかた、ほとんど。
すんさ（名）寸蹉、つた、すき、歪工に入る表層。
ずんぎり（名）従者、とものひと、すき。
ずんぎり（名）直切（竹などを横にたちきること、つつぎり。
すんし（名）寸紙、こぎれのかみ。
すんし（名）寸志、すこしのこころざし謙遜の語、寸情、微意。
すんしよ（名）寸書、みじかきてがみ。
すんじやう（名）寸情、すこしのこころざし、寸志。
すんしやく（名）寸尺、ものさし、十あはきさ。
すんしん（名）寸心、いささかなるもの。
すんしん（名）寸儀、みじかきおとづれ。
すんせつ（名）寸雪（僅かばかり降りし雪、しきこと多きをいふ。
すんぜんしやくま　寸善尺魔（よきこと少なく惡きこと多きをいふ。
すんぜん（副）（俗）（副）寸々、きれぎれ、ずたずた。
ずんずん（副）（俗）（副）驟駛、ぐんぐん（速に進む貌）。

菅公遺誡

凡國學所レ要、雖レ欲下不レ論二其涉一レ古今一究中天人上、其自レ非二和魂漢才一、不レ能レ闚二其圖奥一矣、

著作顚末

余嚢ニ苦心敢任シ我邦創業ニ屬スル國語大字書ノ著作ヲ計畫シ、卽チ漢英對照いろは辭典ニ關スル一切ノ事務ヲ總轄完成シ、幸ニ幾分カ文學社會ニ稗補ヲ與フルヲ得タリ、然レドモ此書タル英語ノ對照有ルガ爲メ用途多少狹隘ニシテ未ダ徧ク世ニ行ハルルニ至ラザランコトヲ恐レ、玆ニ體裁ヲ一變シ英語對照ヲ省キ、更ニ遺漏ニ係レル有用ノ和漢語ヲ補充セシメテ斯ク和漢雅俗ノ部ヲ完成スルニ至ル、而シテ出版回數前後八回一日モ其期限ヲ誤リテ信ヲ江湖ニ失フニ至ラズ、是レ偏ニ著作者校正者印刷者諸氏ノ勉強注意ト金原氏ノ厚意トニ由レリ、就中今回此校正ヲ擔任シタルハ外島信氏ニシテ日夜孜々一字ノ誤脫ナカラシメンヲ期セリ、余諸氏ニ對シテ深ク之レヲ謝ス、今本書完成ニ際シ猶左ニ漢英ノ部ニ記シタル一篇ヲ揭ゲテ著作ノ顚末ト其微志トヲ明カニス、明治二十二年二月十一日、

指折リ數フレバ既ニ四年ノ昔明治十八年ノ秋余偶〻西洋字書ヲ繙閱シテ慨然感ズル所アリ、謂ヘラク彼ヤ萬事ニ精巧ニシテ爲ス所トシテ輕便利用ヲ極メザル無シ、彼ノ字書タル浩瀚ナラザルニ非ズト雖モ其文字ヲ搜索スルニ至テハ恰モ嚢中ノ物ヲ搜ルガ如クニシテ其得易キコト掌ヲ反スニ似タリ、是ヲ以テ我國從來ノいろは引節用集ニ比スルニ其便否果シテ如何ンゾヤ、今ハ是一刻千金ノ世ナリ、日夜孜々文明ノ途ニ奔馳シテ尙日ノ足ラザルヲ歎ズルノ時ナリ、此貴重時間ニ在テ焉ンゾ此迂遠遲緩ヲ極ムルノ器械ヲ艱ム可ンヤ、今コノ一大要務ハ此文學ノ媒介者タル日本辭典ヲ改良シテ西洋辭書ト同一ノ地位ニ立タシムルニ在リ、此ノ如クニシテ始メテ文學ノ隆盛希フ可ク、長足ノ進步期ス可シト、

爾來此思想余ガ心裏ニ纏綿シテ去ル能ハズ、如何ニモシテ此思望ヲ貫徹實行セント夙夜苦慮シテ措ク能ハズ、然リト雖モ此事業タル時學金ノ三者ヲ具有スルニ非ザレバ決シテ行フ能ハズ、然ルニ余ハ身劇務ニ從事シテ此事業ヲ爲スノ時間ヲ有セズ、又余ハ志學ノ頃國難ニ遭遇シテ充分ノ教育ヲ受クル能ハザリシ故

ニ之レヲ親ラスルノ學力ヲ有セズ、加之其際兵燹ニ罹リテ家資祿ヲ鳥有ニ歸セシメタルヲ以テ之レヲ完成スルノ資力ヲ有セズ、余ヤ既ニ此必要ナル時學金ノ三者ヲ有セズ空シク望ヲ懷イテ著手スルヲ得ズ、越テ明治十九年ニ至レリ、此年ノ四月十五日余粟屋某氏ト面晤スルノ際偶然氏ノ一言大ニ余ガ宿志ニ非常ノ刺撃ヲ與ヘ最早片時モ躊躇スル能ハズ、自ラ力ヲ謀ラズ斷然此創業ニ屬スル至難ノ辭典ヲ著作セント決心シ、則チ分業ノ便法ニ準據シ、第一時間ヲ要スル材料蒐集排列校合等ニ於テハ漢學ノ力アリ且ツ正實勉勵ナル橫地正邦渡邊精次郎大谷木忠醇小野里平橫地寬三郎武田貞雄安川孝吾外島信ノ諸氏ニ托シテ充分之レガ下調ヲ爲サシメタリ、第二學力ヲ要スル和漢語又ハ假名遣ノ訂正取捨及ビ英語ノ對照等ハ學和漢洋ヲ兼ネ蚤ニ博覽強記ノ聲高ク雷名遠ク歐米ニマデ聞エタル高橋五郎君ニ托シタリ、第三資金ハ余ガ僅カニ有スル所ヲ擧ゲテ之ニ投シ原稿粗ゝ成リ將ニ印刷ニ付セントス、而シテ資金既ニ竭ク、是ニ於テ小野田元熙氏ノ紹介ト小池太代二氏ノ斡旋トニヨリテ金原明善氏ニ謀レリ、氏ハ熱心ノ愛國士ニシテ公益ノ爲ニハ一身ノ利害ヲ顧ミズ、曾テ私財ヲ投ジテ天龍河ノ改浚ヲ成功シ、今又巨萬ノ資財ヲ擲チテ山林培養ニ盡力シ、其生育ヲ待テ將ニ之レヲ公益ノ爲ニ獻ゼントス、是ニ由テ其公益ヲ計ルノ一端ヲ窺フ可シ、

金原氏余ノ素志ヲ聞クヤ、深ク其世間ニ有益ナル可キヲ嘉シ抵當ノ多寡有無ヲ論ゼズシテ巨資ヲ投與セラルルニ至ル、余ハ常ニ寢遊ノ時間ヲ省減シテ此事業ヲ總轄セリ、蓋シ一事業ヲ爲スニ當リテハ巨多ノ困難前路ニ橫ハルガ如キハ數ノ免レザル所ナルガ故ニ此事業ニ於テモ思ヒ設ケザル三舟渡邊氏ヨリ訴求ヲ受ケシガ如キ數多ノ障碍有リシト雖モ悉ク之レヲ排除シテ遂ニ今日此大事業ヲ完成スルニ至レリ、是レ皆以上諸氏ノ誠實勉勵ナルニ由ル者ニシテ余ガ欣喜シテ止ム能ハザル所ナリ、本書幸ニシテ我邦文學上ニ裨益ヲ與フルニ至ラバ余ガ宿志ノ一分ハ既ニ成レリト謂フ可シ、今本書完成ニ臨ミテ此事業ノ顚末ヲ略敍ス、于時明治二十一年四月十五日、丹羽五郎謹識

大正二年六月八日增訂改版印刷
大正二年六月十一日增訂改版發行

著作權所有

著作者　高橋五郎
補訂者　濱野知三郎
發行者　林平次郎　東京市日本橋區數寄屋町九番地
印刷者　平井登　東京市本所區番場町四番地
印刷所　凸版印刷株式會社本所分工場　東京市本所區番場町四番地

定價金　貳圓五拾錢

發行所
大阪市東區備後町四丁目　合資會社寶文館　振替口座大阪一一五五
東京市日本橋區數寄屋町九番地　六合館　振替口座東京二三七一

覽天賜

文學博士
大槻文彥先生
著

縮刷 言海

總布綴製金文字箱入全壹册
紙數 壹千貳百餘頁
第三百貳拾版出來

中形 定價 金壹圓八拾錢
特價 金壹圓參拾錢
郵稅 金拾貳錢

小形 定價 金壹圓五十錢
特價 金壹 圓
郵稅 金八 錢

國語界の木鐸として最威嚴ある本書は年所を經るに隨て需用益々增加し今や滿天下を風靡するに至れり

トエ1E-2

賜天覽台覽

▲全國各中等學校指定辭書!!

本書は畫引漢字書として便益なる外、故事熟語辭典としても慥に一頭地を抜けるもの也、されば學生界は勿論、學校官衙會社及び一般家庭等あらゆる方面より偉大の歡迎を受け、新聞雜誌の讃辭は實に滿天下を聳動せり、本書の眞價は又喋喋を要せずして明かなりと謂ふべし、

新譯漢和大辭典

文學博士 三島毅先生 監修　濱野知三郎 先生著

文學博士 大槻文彥先生

紙數二千頁
舶來紙印刷

内容一斑

特價 總布上製——金壹圓八拾錢
　　脊革特製——金貳圓 拾錢　——定價金貳圓五拾錢
　　——市外送料金拾六錢

漢字壹萬六千餘、古書に用例ある文字は悉く收む◉語數五萬五千餘、普通の故事成語熟語佛經語學術語及び中等教科書に見えたる語は總て之を採錄し一一出典用例を擧ぐ◉最新文字俗字、國字、國訓を網羅す◉漢音吳音及び慣用音を擧ぐ◉字義の誤り易きものを辨明す◉字形の混じ易きものを例證す

五色 大特

解釋は叮嚀懇切
出典は精確明正
索引は簡便無比
校訂は最正詳密
體裁は優美完備